夏だ、G1だ! 新日本プロレス大特集第2弾!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

enterbrain MOOK

2008
125
880yen







メガ注目の青木戦! プリンスには勝たなければならない理由がある!!
宇野 薫

夢を持て、バカになれ! 格闘天才バカボン対談を読めぇぇぇ!!
青木真也 ×ジェイソン・ミラー

正念場のクラッシャー! アルバレス破壊に自信満々!!
川尻達也

格闘技とお笑いの"友情タッグ"!! 知る人ぞ知る親友対談が実現!
所 英男×日村勇紀(バナナマン)

魔王が"悪夢"を見せるのか!?
秋山成勲vs柴田勝頼とは何か?

"マイクの鬼"が金網に殴り込み! アメリカ視察を独占密着!!
三崎和雄

日本に、UFCが戻って……きたー!? WOWOW中継再開前夜祭!
郷野聡寛 岡見勇信×曙

あの"リアルな現実"を強く深く考えろ!!
職業・桜庭和志とは何か?

あっちの"佐藤ちゃん"が新日本プロレスを語る!!
佐藤正行(元『週刊プロレス』編集長)

7.21 DREAM.5がマット界に快晴を呼び込む!!
灼熱のDREAM! ライト級GP 夢の梅雨明け

kamipro 125 新日本プロレス大特集第2弾!!

印刷・製本／図書印刷株式会社 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)

enterbrain

うわ〜ん、うわ〜ん、蜂じゃなくてバッタだよ〜。

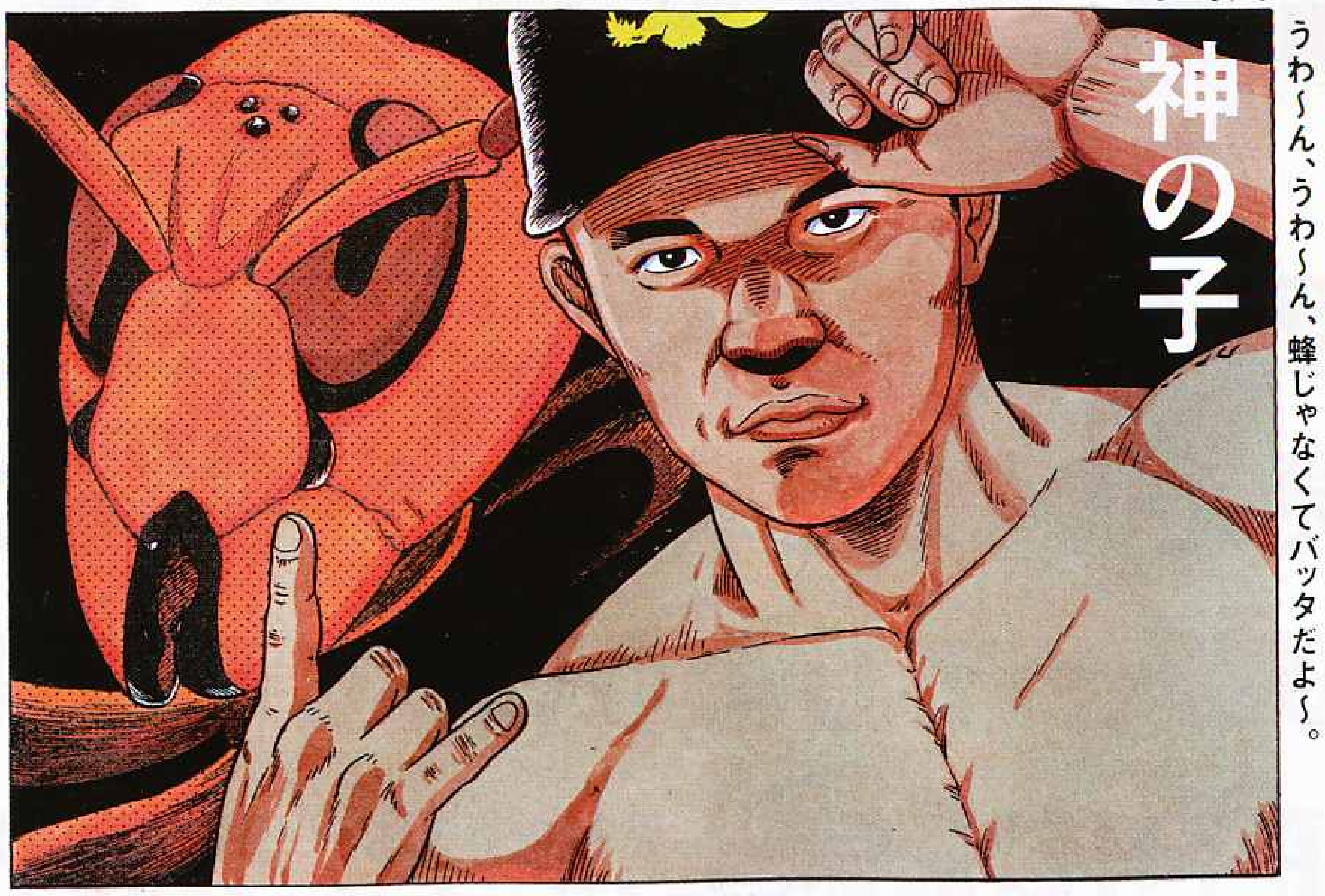
契約体重も決まらないのも超ヤベエ!!

KID級、超ヤベエ!

MMA

kamipro Special

©みのもけんじ



うわ～ん、うわ～ん、蜂じゃなくてバッタだよ～。

PRO-WRESTLING

MMA WOLRDWIDE

Columns

2008 No.125 CONTENTS
kamipro

表紙写真／©DREAM

DREAM.5

互いの存在をかけ合わせることで、答えが丸
見えの“足し算”とは一桁も二桁も違う興奮と
見入ってしまうのは、そういった“かけ算”の
のPRIDE武士道”と、その先行きを揶揄され
指の注目イベントになりつつある。ところで、
ことは、非常に勇気のある行為なんだろう。
う転がるか見当もつかないという恐怖感も
珍しい雄叫びは、“かけ算”という過酷な闘
れない。また、青木真也の存在が膨れあがっ
て封印したからだ。そして、“かけ算”によっ
たびれ“足し算”の世界に遠ざかっていくこ
ファイターのことを、ファンはすっかり忘れてし
瞬間はなんとも尊いものなんだ。DREAMラ
感情を揺れ動かすことはできるのか——?

×××バカ

という名のかけ算。

緊張感を作り出す。このDREAMライト級GPに
世界だからに違いない。当初は"五味隆典不在の
たが、それぞれの存在をかけ合うことで、今年屈
ファイターからすれば、相手の価値観とかけ合う
己の存在を投じることで、価値やポジションがど
ある。石田光洋を絞め落とした宇野薫が見せた
いを終えた安堵感から生まれたものなのかもし
たのは、呪われたカルバン戦を己の存在をかけ
て輝いてきたファイターが、いずれその試練にく
とも多々ある。"かけ算"で自分を見失なったファ
まうことがある。——残酷だ。だからこそ、あの瞬
イト級GPの"かけ算"は、時代と、そして我々の

編集部から宇野薫vs青木真也戦の見どころを書いてくれと依頼され、パソコンに向かったまではいいのだが、そこで考え込んでしまった。

いや、もちろん見たいのである。めちゃくちゃ楽しみにしている、この試合は。ただ、バシッと〝この試合はココを見ろ!〟と言いきることができない感じなのだ。見出しのつけにくい試合、というか。

もちろん、この一戦を『HERO'S』vsPRIDE(『やれんのか!』)の構図で見る人は多いだろう。それは間違いじゃない。宇野vs青木は、DREAMのスタートと同時に浮かび上がったこのテーマの最終局面と言える闘いだ。青木はPRIDE活動休止後も他団体に動こうとせず、大晦日には〝ミスターやれんのか!〟を名乗った。宇野は2回戦で石田光洋に挑発されるも試合でキッチリ結果を出し、マイクで『『HERO'S』代表の宇野薫です』と言ってのけた。そういう二人が闘うわけだから、当然のように対抗意識が色濃く出る試合になるだろう。

ただ、それが宇野vs青木戦のすべてかというと、そうじゃない気がする。青木はJZカルバン戦、宇野は石田戦で、それぞれ〝『HERO'S』vsPRIDE〟の闘いを乗り越えてファイナル進出をはたしている。その興奮と緊張感は凄まじいものだったが、今回は〝その続き〟というだけじゃないはずなのだ。そこに収まらない何かがあるんじゃないか。

もう一つ考えられるのは、日本総合格闘技界の新旧世代闘争だ。30代の宇野と20代前半の青木、旧世代の生き残りと新世代トップランナーの対決。この試合にはそういう面もある。だけどここでも〝それだけじゃないよな〟という思いが拭えない。青木が新世代の代表選手なのは確かなのだが、宇野を〝旧世代〟と括ってしまうことに抵抗があるのだ。

前号の宇野薫インタビューでも書いたことだが、宇野薫という選手は多くを語りはしないものの、行動のベクトルはいつだって〝前〟である。常にその時代の最前線で闘ってきた。簡単に言うと、貯金で食ってる感じが全然しないのだ。だから、たとえこの試合で宇野が勝ったとしても〝時代が変わらなかった〟ってことにはならないんじゃないか。

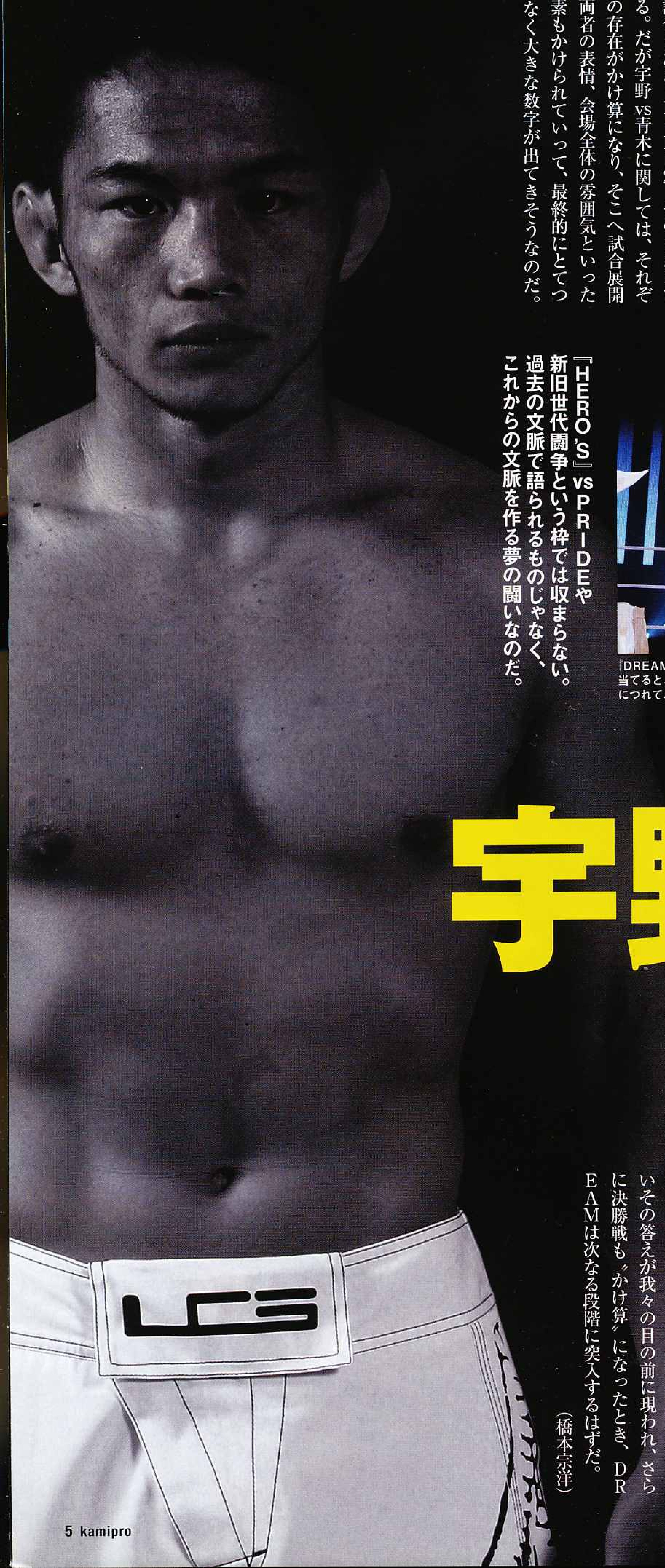
ト級P決勝ラウンド1回戦

s青木真也
の賭け算!!



この試合を語りにくい理由は、つまり語るだけの材料が少ないってことでもあると思う。お互い修斗出身だが、活躍した時代は重なっていない。PRIDE武士道でブレイクした青木に対し、宇野はUFC→『HERO'S』。DREAMが始まってからも、宇野には石田、青木にはカルバンという大きな敵がいて、〝宇野と青木〟という組み合わせで何かが語られたことはなかった。

宇野vs青木は、これまでの文脈では語れない試合なのだ。これまでの二人の歴史を振り返っても接点があまりに少なく、テーマを導き出そうにも考えがバラついて〝あれだけじゃない、これだけでもない〟となってしまう。〝これ〟という手がかり



がない。
　逆に言うと、この試合は過去の文脈で語られるものじゃなく、これからの文脈を作るものなのだ。積み重ねてきた過去、その結果としてこの試合があるのではなく、この試合から新しい歴史、いままでにない文脈が作られる。だから宇野vs青木がどんな試合になるか、そこから何が生まれるか、いまはまだ見えてこない。
　じゃあ、そんなどうなるかわからない試合が、なぜ楽しみなんだろうか。たぶん、この試合が〝かけ算〟になることを予感しているからだ。宇野と青木が闘ったとき、いったいどんな化学反応が起きるのか。それが楽しみで仕方がないのである。
　格闘技の世界には、足し算にしかならない試合もある。10＋10＝20。そのまんまである。だが宇野vs青木に関しては、それぞれの存在がかけ算になり、そこへ試合展開や両者の表情、会場全体の雰囲気といった要素もかけられていって、最終的にとてつもなく大きな数字が出てきそうなのだ。

『HERO'S』vsPRIDEや新旧世代闘争という枠では収まらない。過去の文脈で語られるものじゃなく、これからの文脈を作る夢の闘いなのだ。



『DREAM.4』のリング上で行なわれたライト級GP組み合わせ抽選。宇野が青木戦を引き当てると、因縁の川尻戦を望む多くのファンからため息がもれた。しかし、試合が近づくにつれて、この一戦の奥深さはますます深まっているように思える。

7.21 DREAMライト級GP

宇野薫vs青
新世界の

ちょっと暗算とかするのは無理。だからどうなるかわからなくて、それが楽しみだってことだ。
　〝かけ算〟は同時に〝賭け算〟でもある。ゴロ合わせみたいだが、じつは大事なことだ。言うまでもなくDREAMは新しいステージであり、そこでは価値観や選手の序列も新しいものになる。GPは、それを生み出すためのものだと言えるわけだ。そういう闘いに、宇野も青木も敢然と身を投じた。これまでに得た人気や立ち位置を顧みることなく、新しい価値観と序列を作り上げるバクチ場に有り金全部、いや自分自身の存在をベットしたのだ。
　DREAMという舞台に己自身を賭けた宇野と青木だから、試合は〝かけ算〟になる。いまは何ケタになるかもわからないその答えが我々の目の前に現われ、さらに決勝戦も〝かけ算〟になったとき、DREAMは次なる段階に突入するはずだ。
（橋本宗洋）


一緒に狂って狂って狂って狂って
狂って狂って
MAYHEM
TRIUMPH
MMA


BAKASURVIVOR
狂って!!
NIPPON TOP TEAM



狂乱のサイコスター
ジェイソン・“メイヘム”・ミラー

バカサバイバー
青木真也

発動する“リアル”バカ!!

格闘天才バカボン対談

強くて凄くてバカすぎる! いまやDREAMの大黒柱へと成長しているワオ木さんと、人気急上昇中のメイヘムの対談が実現! 日本が誇るバカと、アメリカ屈指のバカの顔合わせが実現してしまったのである。細かいことは気にするな。バカになれ、夢を持て、とりあえず読めぇぇぇぇ!!

聞き手/ジャン斉藤　撮影/タイコウクニヨシ

――♪西からのぼったおひさまが、東へ沈む～！　本日は〝格闘天才バカボン〟対談が実現しました!!

メイヘム　カワイイ、オンナノコ!!　ギャハハハハ！（サムアップポーズで）。

青木　メイヘムはホントにバカですねぇ。ククククク。

――いやあ、この狂った顔合わせには、世界中が大注目してますよ。

青木　まあね、ボクも〝世界のワオ木〟と呼ばれてますからねぇ……（目を細めて○○○○のモノマネ）。

――う～ん、お二人とも噂に違わぬバカっぷりです（笑）。さっそく話を進めますけど、お二人が出会ったのは、じつはハワイなんですよね？

メイヘム　そうさ！　あれは夕焼けが目に染みる浜辺の出来事だったなあ……（うっとり）。

――アチャー！　それじゃターザン山本&夢香inグアムなエピソードですよ！

メイヘム　ホントはアオキサンのセミナーがあると聞いて、わざわざ自分で申請して参加したのさ！（自慢げに）。

青木　そうそう。あのときからメイヘムはこんな感じで狂ってましたけどね。

メイヘム　ガハハハハハ！　イエス！　オレの人生はすべて狂ってる!!

青木　あのセミナーって、ボクが修斗のチャンピオンになったときのことですから、2年前のことですかね～。「な～んか、へんなヤツがいる。UFCでGSPとやったヤツだよなあ」ってビックリして（笑）。

――しかし、顔を見ただけでわかるなんて、青木さんも相当のマニアですね。

青木　だって、ずっと笑いながらあのGSPと試合をしてるんですよ？

メイヘム　ギャハハハハ!!

初めて会ったのは2年前。オレがアオキサンのセミナーに参加したのさ！



あのときからメイヘムはこんな感じで狂ってましたけどね（笑）



BAKASURVIVOR×MAYHEM

――ああ、そりゃイヤでも覚えますね（笑）。メイヘムさんは、またどうして青木さんのセミナーに自主参加したんですか？

メイヘム　ベンキョーデス！　ベンキョー!!　アオキサンのことはもちろん知っていた。インターネットやビデオでチェックしていたし、彼のスタイルはスペシャルだから熱烈なファンだったんだ。

青木　でも、あのときのボクを知ってるアメリカ人って、凄いオタクですよ（笑）。

メイヘム　ハイッ！（即答）。ワタシハ、オタクデスッ!!

――逆に青木さんのメイヘムの印象はどんなものでしたか？

青木　いや、バカだなあって（笑）。

メイヘム　（自分の頭を指して）ハイッ、オカシイデス！

青木　でも、強いなあって。やっぱりGSPと笑いながら闘えないですって。

メイヘム　あのときは、体重をウェルター級に合わせるために3ヵ月前から減量を始めたんだ。77キロまで落とすのは、メチャクチャ大変だったよ！

青木　いまは84キロで闘ってるでしょ？

メイヘム　ソウデス！　イマハ、ハチジュウヨンキロ！

青木　聞くところによると、一日に6キロぐらい平気で落とすんですよね？

メイヘム　もっとたくさん落とすときもあるよ。シバタサン（柴田勝頼）との試合では、二日で10キロも落としたよ。

青木　二日で！　凄いなあ。どうやってそんなに減量するの？

メイヘム　水断ちするんだよ。

青木　いやあ、水だけじゃ無理でしょ？

メイヘム　あとプラスチックスーツを着て、サウナに行って、あとはジョギング！　ランニング！　ランニング!!

青木　それでも、10キロって凄いですねぇ。当日は何キロになってるの？

メイヘム　たぶん……7キロぐらい戻るから、90か91キロかな。今回は92キロぐらいまで戻ってたよ。でも、ジャカレイに勝てなかったなあ。オレノバカ！

青木　あのジャカレイ戦は……荒い！　もっとていねいに闘ってたら、メイヘムは勝ててたんじゃないかな。

メイヘム　そうだね。あの試合は自分がバカだったよ。ちょっと散漫だった。トテモ、バカッ！　もちろんファイトプランはあったんだけど、リングに上がったらすっかり忘れちゃったよ。

青木　入場で疲れたんじゃないの？　もの凄く勢いのある入場だったし。

メイヘム　ノー!!（即答）、それはない！　試合の中では力が入りすぎて少し疲れてしまったけどね。体調もベストに持っていけなかったし、今回は本当に自分に腹が立っているんだ。次はきっちりレベルを上げて闘うよ。そして勝つ!!

――逆にメイヘムさんは青木さんの試合をどう観ましたか？

メイヘム　すべての面で試合を支配していたね。相手の選手（永田克彦）が優れたレスラーだってことは知ってたけど、それなのにテイクダウンのテクニックも見せたし、グラウンドでしっかりコントロールしてた。それから何より凄いのは、最後に極めたあのサブミッション！　あれは非常に型破りでじつに素晴らしかった。キミョウ、キミョウデスヨー!!

青木　奇妙って、へんな日本語知ってるなあ。でも、ありがとうございます!!

メイヘム　マウントからのゴゴプラッタ（フットチョーク）なんて、いままで観たこともないよ！　スゴーイ！　スゴイ



ッ！　カッコイイ！

青木　いやいや、メイヘムも凄いグラップラーだし、なんて言うのかな。それでいて総合格闘技がうまいですよね。

メイヘム　アリガトー！　オレが目指しているのはトータルファイターだからね。そのために毎日、何か新しいものを求めて旅しているような感じさ。

青木　旅かあ。ボクもこのGPが終わったら、アメリカに行ってみたいなあ。

メイヘム　よし、ぜひチーム・クエストに来てくれ!!

青木　それはいいなあ、アメリカに行きたいなあ……。

――そういえば、青木さんもアメリカで大注目されてるみたいですしね。

メイヘム　ただ……アメリカのMMAファンには、もう少しグラウンドを学ぶ時間が必要だろうね。なぜならグラウンドでの闘いについて彼らはまるで理解していない。自分の試合でもまだ理解されていないからね。自分もファンにもっと技術をわかってもらおうと思って闘っているし、いつかは彼らも理解するんだろうけど、アオキサンの試合を理解するにはもう少し時間がかかるかもしれないね。

青木　そうなんですか〜。



二人の魅力といえば、奇想天外な寝技!!　寝技イコール地味でマニアックというイメージをぶっ飛ばすおもしろさを持っている。メイヘムはジャカレイに敗れたが、盟友の長南亮から言わせれば、「メイヘムの寝技はあんなもんじゃない」とのこと。詳しくは長南が出演しているmimipro（ポッドキャスト）へGO!!　本領発揮するメイヘムが観たい！

――そんなにアメリカのMMAファンはグラウンドを理解してないんですか？

メイヘム　バカヤロウ！　トテモ!!

――アメリカのバカヤロー!!（笑）。

メイヘム　トテモ、バカヤロー！　イッパイ、イッパイ、バカヤロウ！　だから、グラウンドのおもしろさを知っている日本のファンの前で闘うのが夢だったんだ。

青木　今度はいつ日本で試合をするんですか？　メイヘムがどんな相手と絡んでいくのか単純に楽しみですよね。

メイヘム　逆に聞くけど、アオキサンは誰と闘うのを観たい？

青木　うーん。ミノワマンさんとかおもしろいかも！

メイヘム　オー！　ホントネー!!　オカシイマッチ！

――オカシイマッチ（笑）。魔王（秋山成勲）はどうでしょう？

メイヘム　マオー？

――すいません、秋山成勲という悪者です。

メイヘム　アキヤマ？　シラナイ……日本人の名前はムズカシイ！

――デニス・カーンやメルヴィン・マヌーフにも勝っているファイターですよ。

メイヘム　……あ、誰かわかったよ！　あの人ね。はいはい。

青木　うーん、もしやったらメイヘムが勝つんじゃないかなあ。やっぱり総合力が違うと思いますよ。

メイヘム　オー、ホントネー？　アリガットーゴザイマース！　オレは誰が相手でも全力で勝ちにいくし、誰が相手でも敬意を抱きすぎて委縮することもないし、一生懸命闘って勝つだけだよ。

――で、青木さんは宇野（薫）さんと闘うんですよ。

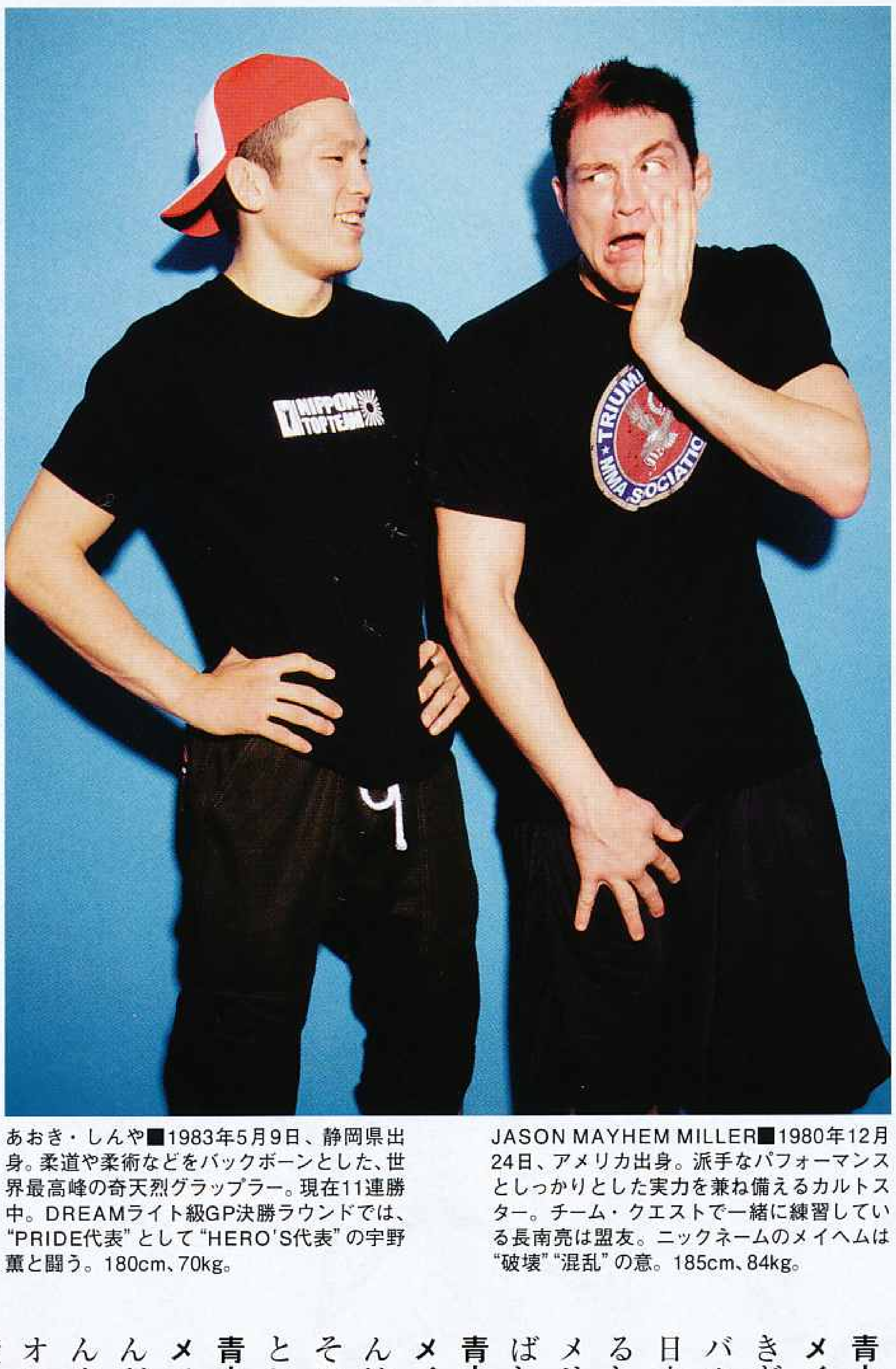
メイヘム　知ってるよ。キャオル・ウノだ

ろ?
——ええ、キャオルさんです(笑)。
メイヘム たぶん、この試合はアオキサンにとって凄く有利だと思う。アオキサンはキャオルよりも身体のサイズが大きいし、試合が長引けばアオキサンにグラウンドのチャンスがやってくる。その身体のサイズ、手足の長さがあればキャオルを極められると思う。だから、この試合はスタイル的にもアオキサンにとって有利なマッチアップじゃないかな。キャオルの戦術の中で闘わず、スマートに自分の試合をすれば、簡単にとは言えないけど、キッチリ勝てると思うよ。
青木 ありがとう! よ~し、ガンバリ○○○!
メイヘム オー、○○○⁉
青木 そう! これ、やる気、勃起な日本の挨拶‼
メイヘム アリガトウゴザイマース! さっそく使うぜ‼
——コラコラ、へんな日本語を教えないで‼(笑)。メイヘムさん、そんなこと言ってたらモテませんよ。
メイヘム オー、ゴメンナサイ。オレハバカ! モット、バカ!
青木 ククククク。ところで、メイヘムは彼女はいるの?
メイヘム ふぅー(ため息をついて)。ノー! いないんだよ。
青木 たぶん、付き合うっていう制度を導入してないが気がするな。
メイヘム オー、ソウネー。かわいい子を見つけたら、キープしておくんだよ。
青木 一夫多妻ってやつだ。好きなタイプはどんな子?
メイヘム オモシロイ!
青木 いや、たぶん、なんでもいいんじゃないですか?
メイヘム ゼンブゥー? イエス! ギャハハハハ! バカッ! 正直言うと、もうクレイジーガールはいらない! クレイジーな女が多すぎる!
——前に付き合ってた彼女は、クレイジーでしたか(笑)。
メイヘム (黙ってうなずく)。そこでアオキサン、大事な相談があるんだ……。
青木 何?
メイヘム もし女の子が携帯の番号を教えてくれたら、その日に電話するべきか、次の日にするべきか、それとも二日後ぐらいにするべきか、どれがいいと思いますか?(真剣な表情で)。
——ちょっと、何をかしこまって聞いているんですか(笑)。
青木 その日ですよ!
メイヘム オー、ナンデェ~⁉
青木 試合と同じくアグレッシブファイトです!
メイヘム チョット、コワ~イネ~! でも、やってみるよ。ただ、オレは日本の女の子が大好きだけど、むこうはオレのことを好きかわからないな。たぶん、みんなオレのことを怖がるんじゃないかな。
青木 そうかもね~。
メイヘム でも、オレは日本のことが大好きだし、すぐアメリカに帰ったって、毎日バカみたいに同じことの繰り返しだろ? 日本にいればいろんな新しい人と出会えるし、いろんな新しいものを見れるし、アメリカより楽しいからね。だから滞在を延ばしたんだよ。
青木 今日はこれからどうするの?
メイヘム 友だちと遊ぶ予定だけど、たぶん渋谷でメシでも食うんじゃないかな。その友だちはオンナノコ! と、言いたいところだけど、男と一緒だよ。ガックリ。
青木 ククククク。
メイヘム オレはちょっとムカついてるんだよォォ‼ 東京にはあんなにたくさんカワイイオンナノコがいるのに、みんなオレを避けていくんだぜ? オレの前に壁でもあるみたいに、誰も話しかけてくれないんだ! すべてのジャパニーズガールとのあいだに壁を感じるよ! なぜなんだあぁぁ! ウギャー‼
青木 そんなときこそ、ガンバリ○○○ですよ‼
メイヘム オー、アリガトー‼ それじゃその精神で渋谷にイッテキマス‼ ギャハハハハ‼

【08年6月19日/DEEPジムにてデタラメ収録】

もし女の子が携帯の番号を教えてくれたら、その日に電話するべきかな?

BAKASURVIVOR×MAYHEM



あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道や柔術などをバックボーンとした、世界最高峰の奇天烈グラップラー。現在11連勝中。DREAMライト級GP決勝ラウンドでは、"PRIDE代表"として"HERO'S代表"の宇野薫と闘う。180cm、70kg。

JASON MAYHEM MILLER■1980年12月24日、アメリカ出身。派手なパフォーマンスとしっかりとした実力を兼ね備えるカルトスター。チーム・クエストで一緒に練習している長南亮は盟友。ニックネームのメイヘムは"破壊""混乱"の意。185cm、84kg。

その日に連絡ですよ! 試合と同じくアグレッシブファイトです!

恩師の死を乗り越え、宇野薫、青木との大一番へ、いざ!!



「青木戦は不利だと思うけど、『よくやった』と守山に言われるような試合をしてもらいたいね」



GCMコミュニケーション代表
久保豊喜

聞き手/阿修羅チョロ　撮影/菊池茂夫　試合写真/乾晋也

主催者推薦枠でのGP出場に否定的な見方もあったものの、『DREAM.3』の石田戦での激勝で、雑音を一気に吹き飛ばした宇野。その後、川尻からの対戦要求、さらには恩師・守山竜介氏の訃報と、一寸先はハプニング状態が続いた宇野の周辺だったが、公開抽選によりGP準決勝の相手は青木真也に決定。運命の一戦を控えた宇野の近況をGCM代表の久保豊喜氏に聞いてきました!

宇野が青木くんに勝つにはスタンドで闘い続けなければいけない

久保　今日はどうしましたか？

——いよいよ注目のDREAMライト級GPが近づいてきたこともあって、勝ち上がっている宇野薫選手をよく知る久保代表に、いろいろと宇野選手について聞かせてもらえればと思っています！

久保　なるほど。わかりました。

——いま宇野選手のファンとかが一番心配してるのが、これまで宇野選手のセコンドに長いあいだつかれてきた守山（竜介）さんが亡くなったことだと思うんですよ。次の青木戦が、亡くなってから初めての試合になりますよね。

久保　そうなりますね。これはどっかでも話しましたが、人はいつか必ず死ぬわけで。それで別れがあるわけでしょ。

——まあ、そうですね。

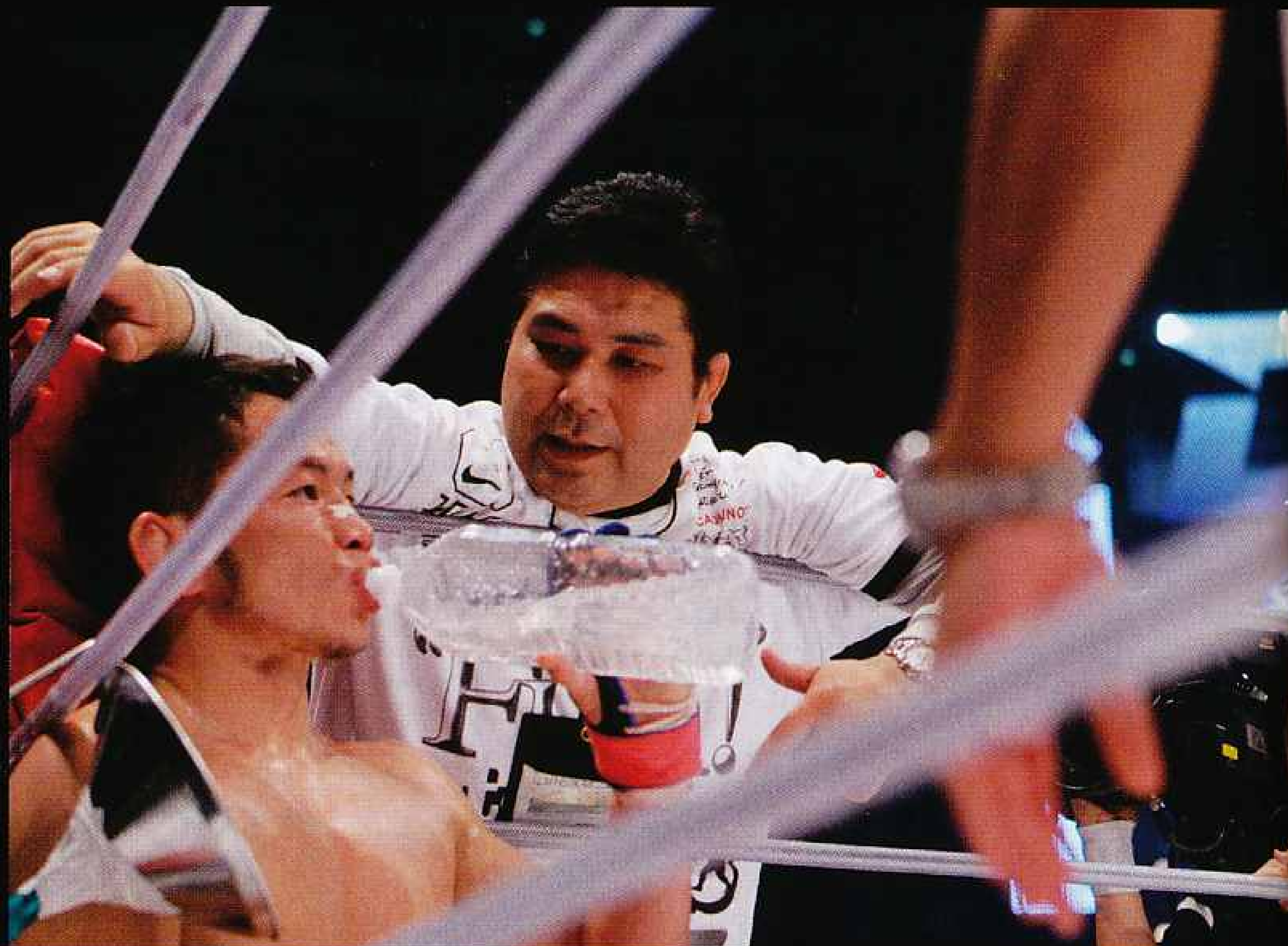
久保　守山が生きていた証を、宇野薫っていう選手が、いかに自立して試合に臨んで、しっかり闘えるかどうかっていうのが人間として大事なことです。「彼が亡くなったから僕も一緒にダメになりました」となれば、それこそ宇野薫だってあと何十年かすれば死ぬわけですから、そのときにあの世っていうものがあるんであれば、「おまえ、何やってんの？」と守山に言われます。そういう意味で、「しっかりしなきゃいけないね」ってことですよ。

——天国の守山さんのためにも、それこそ恥ずかしい試合は見せられない、と。

久保　そうですね。もちろん、彼が急に亡くなってしまって、ご家族の意思により、アッという間に遺体も故郷の熊本に行ってしまった。僕らも亡くなった遺体を見た翌日にはもう熊本へ旅立っていきました。だから、宇野に限らずだけど、これからどうすればいいかっていうと、とにかくみんなが立ち直ってしっかり前を向いて歩いて進む、と。それだけでしょ。

——そうですね。守山さんが亡くなったこともあって、久保代表はこれまで以上に道場に顔を出す機会が増えたと耳にしたのですが。

久保　もちろん、頑張って行ってますよ。だから、彼が亡くなってから、いまのところ休みがゼロっていう状態で。必ず毎日どこかの道場に顔を出してます。



デビュー当時から宇野薫のセコンドを務めてきたのが、今年6月7日、不慮の事故で亡くなった守山竜介氏だ。宇野は天国から見守る恩師・守山さんに勝利の報告をできるか？

——最近の宇野選手の練習を見ていて、どうですか？

久保　今回、準決勝で対戦する相手が青木（真也）くんですよね。彼はしっかり勝ちパターンを持っていますね。引き込むにしても上になるにしても、「こうなったら俺は勝てるんだ」っていうものを持っているんで、あいかわらず非常に不利というか、勝つのは難しいんじゃないですか。

——状況的には宇野選手は不利だ、と？

久保　実際難しいのは確かです。昔の総合格闘技の選手ではスタンドをある意味捨てて寝技だけで闘うような人たちがいましたよね。

——それこそヒクソン・グレイシー選手なんか、そういうタイプでしたよね。

久保　ヒクソンは別にしても、だいたい、そういう選手たちのタックル、スタンドで倒すという技術はレスリングなんですよね。でも、青木くんはスタンドで倒すことについては柔道の技術なんですよ。

——先日の永田克彦選手との試合でも、レスリングのメダリスト相手に何度かテイクダウンを奪っていましたよね。あれなんかも柔道の技術ですか？

久保　そう。彼の倒すっていうことについては柔道なんですよ。宇野が柔道の技に適応できるかといったら、もしかしたら難しいかもしれないですね。倒されてしまっても彼のペースにハマってしまう。引き込まれてしまっても彼のペースにハマってしまう。ということは、宇野が勝つためには明らかにスタンドで闘い続けなければいけない。スタンドで闘うことについては青木くんっていう選手はほとんどを捨てている状態ですからね。

——打撃の練習もかなりしているみたいですけど、やはり一番力を発揮できるのは寝技に持ち込んでからでしょうね。

久保　そうですよね。だからお互いに闘う舞台っていうのが立ち技と寝技って分かれちゃうわけです。そうなってくるとテイクダウンする能力とテイクダウンされない能力、どっちが高いかっていうところにターニングポイントがあるんですね。そうなってくると青木くんの倒す技っていうのは何度も言うように柔道の技になっているんですね。それを宇野がさばけるかどうかってなると、凄く慣れてない技が多いんですよ。そう考えると、まあ難しいでしょ。

——そのへんはキャリアがものをいうっていうところもあるんじゃないですかね。

久保　どうでしょうね。ただね、いろいろ検証した結果、青木くんのロングスパッツ。あれは、もの凄く彼にとって大きな武器ですよね。

——よく道衣とかは武器になるといわれますけど、あのロングスパッツも武器になっていると？

久保　そう。滑らないですから。でもルールで許されていますから反則ではありません。あれを穿くことによって滑りにくくなるけど、つかんじゃいけない難しさがある。同じようなロングスパッツを穿かせて練習したり、いろいろやらせてみると、滑らないので、わりとブレーキがかけやすいというかね。

——慧舟會系でロングスパッツを穿いた選手っていうのは……。

久保　ゼロ。ウチに限らず、ロングスパッツ自体ほとんどいないでしょ。

——まあ、確かに。青木選手はあれがキャラクターになってる部分もありますけど、ちゃんと有利な面があるわけですね。

久保　と僕は思いますけどね。でも彼はいまになって穿き始めたわけじゃなくて、最初から穿いてるわけだし、ルールでも許されてるんで、クレームを言うつもりもないし。僕らはただ単純にスパッツを穿いてるからこうなんじゃないかってシミュレーションしながら練習するだけです。

――今回の試合に限らず、宇野選手はそういったシミュレーションっていうのは……。

久保　毎回やるように心がけてはいます。

――青木選手に勝ったら、川尻達也選手とエディ・アルバレス選手の勝者と闘うことになるわけですけど、そこのシミュレーションもしているわけですか？

久保　それはしない。たぶん、ほかの選手もしないですよ。次のことを考えるっていうのは、正直驕りですよね。驕った選手が王者に君臨するってことはありえないと思いますよ。

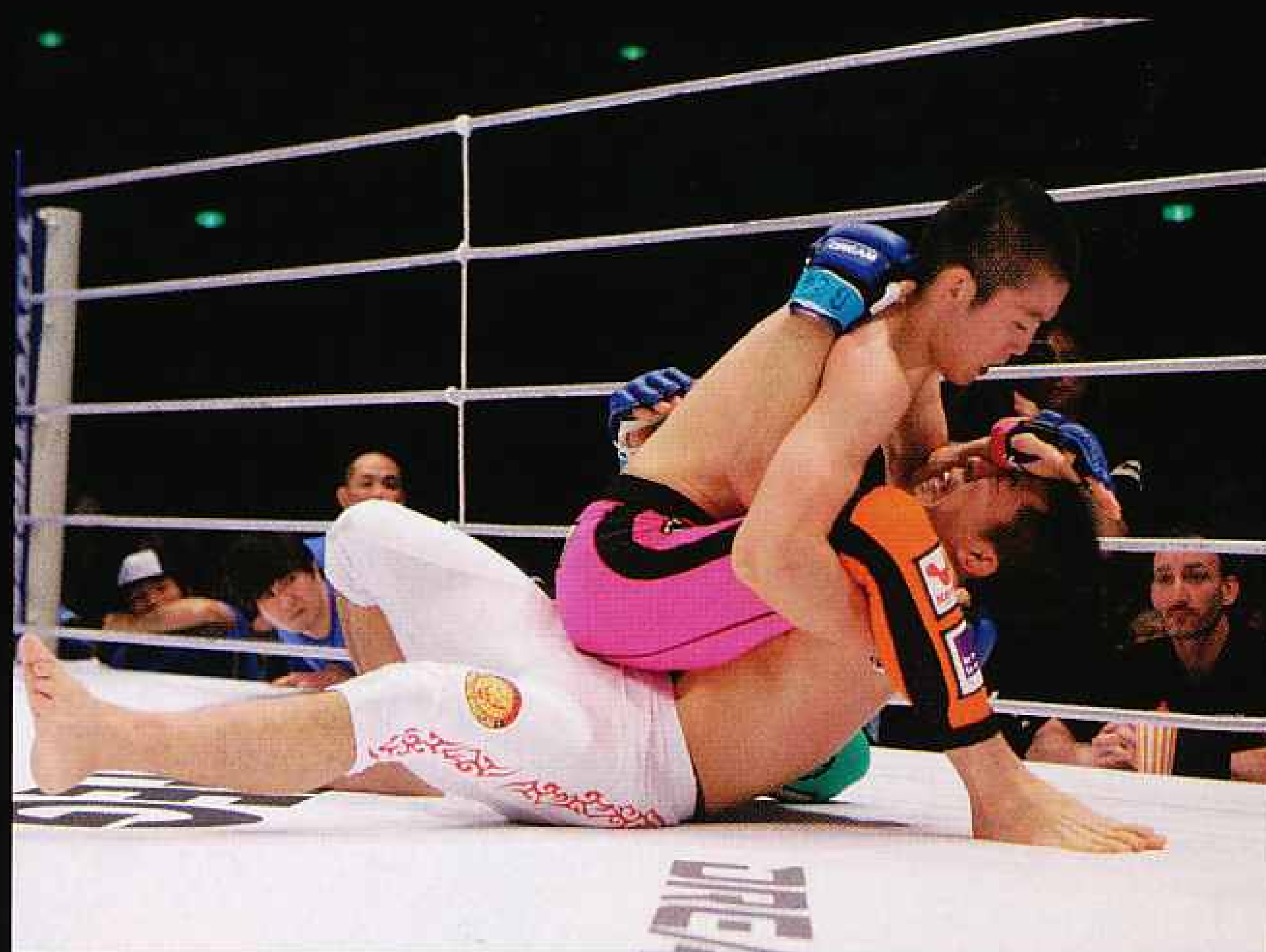
――そういうものですか。

久保　それは宇野だけじゃなく、川尻くんもそうだし、アルバレスはガイジンだからよくわかんないけど、たぶんそんなに驕った選手じゃないと思いますよ。みんな目の前のこと……目の前の試合に勝たなきゃ次が始まらないということでは同じです。ただ、しっかり勝って優勝したいというふうにはみんな思ってるでしょう。

――リップサービスかもしれないですけど、川尻選手や青木選手は優勝宣言をしてますが、宇野さんって、あまり大きなことは言わない選手じゃないですか。

久保　そうですね。でも、それはほかの選手もそうじゃないのかな。だって、ホントに優勝できると確信があるんだったら、優勝賞金がいくらか僕はよく知らないけど、買い物の予約はもうお済みですか？　とお聞きしたい。そこまでしてる人はいないと思いますが。

――さすがに、そこまでしてる人はいないでしょうね（笑）。久保代表から見て、青木戦は不利と思ってるっていうことですけど、そこを少しでも有利にするべく、いま宇野さんは必死に練習しているって感じなんですかね。



久保代表が警戒するのは青木真也の代名詞にもなっているロングスパッツ。フットチョークをはじめ複雑怪奇な関節技を操る青木だがロングスパッツを穿くことで、その威力はさらに倍!?

青木くんのロングスパッツは彼にとって大きな武器ですね

久保　いや、そうじゃないですよ。なんていうか、自分の思いどおりに全力を出して闘えるための練習をしてるわけであって。どちらかというと後悔しないために練習してるんだと思いますよ。全力を出せない状態で負けてしまうようなことがないように、しっかり練習をして試合に臨むということが一番大事なわけで。素晴らしい闘いができたときっていうのは、試合後、勝っても負けてもいい笑顔で選手同士が握手したり抱き合ったり、話ができるわけじゃないですか。

――闘い終わってノーサイドというか。

久保　そうそう。日本の武道でいうならば、礼に始まって礼に終わるっていうのが大事でしょ。そのノーサイドの気持ちになれる、ちゃんと相手に礼ができるかどうかっていうのは自分が全力で闘えたかどうかです。じつは勝つか負けるかなんて、もちろん大事なことなんだけど、相手が強けりゃ負けるんですよ。それよりも自分の持ってる力をすべて出しきれるかどうかですよね。

――宇野さんはこれまで修斗のチャンピオンにはなりましたけど、UFCや『HERO'S』では、いいところまでいきながらもチャンピオンには手が届かなかったっていうのもあって、もちろん優勝したいという気持ちは凄く強いでしょうけどね。

久保　それはあるでしょうね。

――そんな宇野さんですが、若いっていうイメージがありましたけど、気がつけばベテランの部類に入るんですよね（笑）。

久保　いま、32歳でしたか？

――今年の5月で33歳になりましたね。宇野選手は昔から練習の虫っていうイメージがありますけど、やっぱり体調と年齢とかを考えて練習量とかは変わってきたりしてるんですか？

久保　いや、さほど変わらないですよ。よ

『DREAM.5』を前に 宇野はTKに一本勝ち!? 所英男はKIDに挑戦表明!!





FEGとDREAMが6月30日から7月6日に無料ファンイベント『akasaka FIGHT FESTIVAL』を開催！　このイベントは、赤坂Sacas広場の特設リングにて大会を間近に控えるK-1 MAXとDREAMの中心選手がトークショーなどを行ないながら大会を盛り上げていこうというもの。初日の山本"KID"徳郁を皮切りに、魔裟斗、青木真也、秋山成勲といった豪華な面々が次々に登場！　3日目に登場した宇野薫は、なんと公開練習で髙阪剛とガチスパー（？）を敢行するなど、ファン感涙のサプライズを演出！　同日には所英男も登場し、チームZST勢とのタッグマッチを披露し、最後はあらためて山本KIDへの挑戦を表明するなど、観客から大きな拍手を浴びた。



『戦極』に参戦中の光岡映二との公開練習を披露した宇野は、この日ゲストとして登場した髙阪剛にスパーリング勝負を志願。ひさびさに肌を合わせた両者は目まぐるしい攻防を見せるも、最後は宇野が腕十字で見事一本勝ち!

大会当日、宇野の試合のときは会場の中にはいないつもりです

く言うんですが、ある程度の年齢になってから「体力が落ちてきました、身体もガタがきてます、だから昔みたいに練習しません」っていったら、昔より強くならないし、強くなろうと努力もしてませんってことになりませんか？　普通に考えて、おかしいですよね、それ。

——あ〜、そうですよね。

久保　格闘技って始めた頃が一番ツラくて、だんだん楽になってくる。だんだん楽になってくるんだけど、続けていて上にいけば、まただんだんキツくなってくるんですよ。なんでかっていうと、闘う相手がドンドン強くなってくる。ということは、一番最初に始めたときの気持ちに戻れるかどうかが一番大事なことで。

——初心忘れるべからずってことですね。

久保　そういうことですね。歳を取ったからって練習しなくなったら、それはもう怠けてるとしか言いようがないです。たとえば、ケガしてスパーリングができなかったとしても、ほかにできることが山ほどあるじゃないですか？

——たとえばどんなことですか？

久保　身体が動かないほどケガしてたらビデオを観るとか、逆に言うと目をつぶって妄想するだけでも練習になるんだし、思いを巡らせることが闘いだから。決してヒーヒー言って汗を流して身体を酷使することだけが練習じゃないからね。もちろん、やらなきゃいけないときはやらなきゃいけないんだけどね。歳を取ったから1万メートル走らない1万メートルの選手はいないでしょ？

——いたら引退するしかないですね（笑）。

久保　で、『DREAM』は1ラウンド10分、2ラウンド5分の15分だけど、15分闘い続けるスタミナっていうのは、やっぱり150分スパーリングができるスタミナがないとできないと思います。

——10倍は闘えるスタミナがないと厳しい、と。現在の宇野選手は久保代表が長年見てきた中で一番の状態なんですか？



ここ最近は、それまでのイメージとは一転、リング上で感情をむき出しにすることが多くなった宇野。7.21『DREAM.5』では石田戦後のような、とびっきりの笑顔が見られるか？ そして久保代表のゲン担ぎの行方は？ とにかく注目！

久保　宇野は出来不出来が凄く激しい。その試合の日によって全然違うんで。だからどうなんだろうね？　今回もフタを開けないとわからない。もちろんいいときと同じような状況にするために、みんなで努力してやるんだけど、うまくいかないことはいくらでもありますよ。

——「守山さんが亡くなったから慧舟會が弱くなった」と思われないようにっていうのもあるでしょうし。

久保　ホントにそのとおりですね。それでダメになって、あの世から「先輩、何やってんですか⁉」って言われたくない。試合後に「ヤバかったけど頑張りましたね」って言われるように、みんなで協力しないといけない。それは勝敗じゃなく、心の問題だからね。

——試合当日まで、久保社長もいろんな意味でのサポートをしていくわけですね。

久保　僕には僕のジンクスっていうのがあるんですよ。試合の日には決まったパンツ穿いて、決まった靴下履いて、決まった靴を履いてね。で、朝からお風呂に入って、つま先からキレイに身体を洗って、髪の毛を丸める。それで家を出たら神社にお参りしてっていうのが僕のルール。で、この選手のときにはこう、この選手のときはこうって決まりがあるんですよ。

——選手によって、いろんなジンクスがあるわけですね。

久保　そうですね。時間が経てば経つほど、だんだん増えてくるわけ。「あのときは、こうやってて負けたけど、今回こうやってみようかな」ってやってみて、よかったら増えていくし。

——キャリアの長い宇野さんなんてジンクスがたくさんあるんでしょうね。

久保　いっぱいあるよ！　僕は宇野の試合のときには会場にいないっていうジンクスがあるから。『HERO'S』でヨアキム・ハンセンとやって、3ラウンドの残り16秒のところでヒザ蹴りをパコーンって食らって負けたときがあったでしょ。あのとき僕は目の前で観てたの。

——勝ってるときは、近くで観ていないんですか？

久保　（佐藤）ルミナくんとの試合とかも僕は会場行ってないから。だから、会場とかに行っても、「宇野の試合が始まりますよ」って聞いたら、小走りして会場から一回出たりしてるから（笑）。

——そんなことをしてましたか（笑）。

久保　そうそう（笑）。でも会場の中からワーッて歓声が聞こえたりすると「どうなってんだろう？」ってもうドッキドキなんだけどね。だから今回も会場の中にはいないつもり。

——大阪までは行かれるんですか？

久保　それはわかんない。でも、当日になったら、やれることはゲン担ぎしかないからね（笑）。

——では、大会当日は久保社長とお会いすることはないかもしれないですけど、素晴らしい試合になるよう期待してます！

久保　そうだね。宇野は宇野薫っていう人生を歩んできて、今回優勝したいのであれば、やっぱり全力で闘っていくってことでしょ。その結果、相手も全力で来てくれて、結局は強いほうが勝つんですよ。それはもうイジりようがない。ただ、打撃戦の部分なり、もちろん寝技もそうだけども、運が左右する部分っていうことだって多いじゃない？　そういう意味では、ツイてるといいなと願うだけです。

【08年7月3日／都内・GCMコミュニケーション事務所にて収録】



アルバレスvs川尻戦を100倍おもしろく観るコラム

7.21『DREAM.5ライト級GP決勝ラウンド』!!
川尻達也と激突する**エディ・アルバレス**とは何者か!?

凶悪都市から飛び出したナックルスターのステゴロ半生記!!

文／大川義之　撮影／菊池茂夫　試合撮影／乾晋也　引用／CBSsports.com、sherdog.com、MMAjunkie.com

アメリカ合衆国ペンシルバニア州の南東部に位置する全米4番目の大都市フィラデルフィアに、現在DREAMで活躍するエディ・アルバレスは生まれた。彼の言葉を借りれば「フィラデルフィアは現在、この国の殺人発生率ナンバーワンの都市なんだ。あの特定のエリアでは毎日、罪のない人たちが銃で撃たれている」という、全米で最も危険な地域での一つだ。

市の人口の4分の1は、最低限の収入もままならない極貧の生活。そしてアルバレスの生まれたフィラデルフィア郊外のケンジントンは、ドラッグの売買が横行し、多国籍な人種の集まる最貧区だ。そんな危険な町での生活をアルバレスはこう振り返る。

「自分が成長していく段階において、ケンジントンがそんなにひどい場所だとは思わなかった。自分の近所の人たちはいい人たちばかりだったからね。だけど、自分が大きくなるにつれて、ケンジントンはさらにひどくなっていった。でも、俺はそこで生まれ育ったから順応することができたんだ」

暴力が日常茶飯事の町に〝順応〟する助けとなったのが、幼い頃から父が教えてきたボクシングであり、高校で学んだレスリングだった。「俺は闘うために生まれてきた」と言いきるアルバレスは、高校レスリングのオールアメリカンに二度も選抜されるほどの才能を見せる。

優れた成績を残しながらも、減量の苦しさを味わいたくないために大学進学の道を選ばなかったアルバレスは、地元でストリートファイトに明け暮れる毎日を送る。しかし、やが

て自分の近い友人が警察に逮捕されたり、殺されるような事件が起こる。

「ケンカばかりしていた俺は、気づいたらいろんなトラブルに巻き込まれていた。あるとき、そんな自分の状況を真剣に考え直して、本当に闘う方法を学ぶことにしたんだ。ジムに通い始めてからは、MMAにやみつきになったよ」

こうして身体の中にほとばしる闘争心を、ようやくリングに向けたアルバレスは、わずか8ヵ月のMMAトレーニングを積んだだけで、プロデビューをはたす。だが、アルバレスはまったく緊張しなかった。

「俺は数えきれないぐらい街でケンカをしてきたから、初めてのリングでも非常に落ち着いていた。居心地がいいとさえ感じたよ。だって、リングの上でも結局、自分がいままでしてきたことをするだけだからね」

アルバレスは地元に隣接したニュージャージーでのMMA大会に出場し続け、すぐにメインを張るようになり、地元のスターとなる。さらにMARSやボードッグでの試合を含め、アルバレスはデビューから怒濤の10連勝を飾る。すべてKO&一本勝ちという完璧な内容で、リアリティ・ファイティング、MFC、ボードッグと3団体のベルトを総ナメにした。

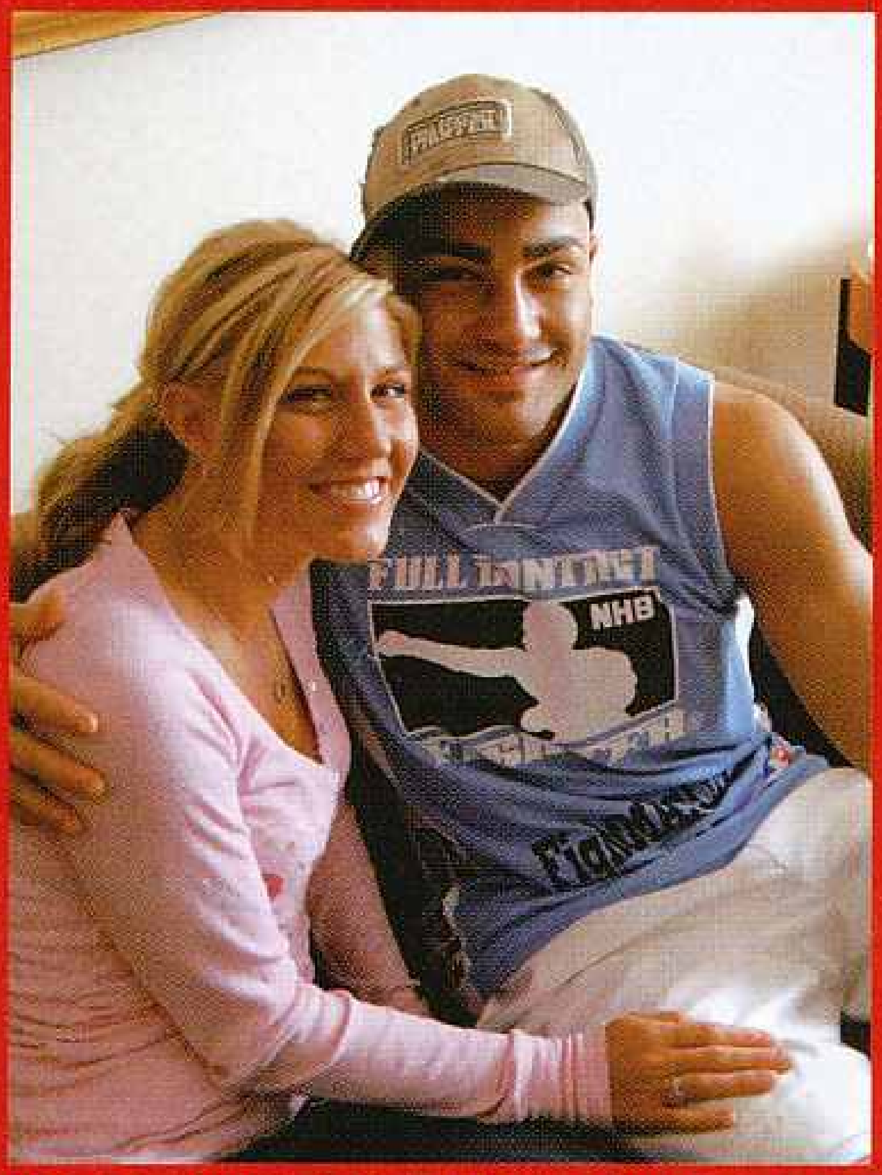
無敗で3団体のベルトを強奪したアルバレスは、アメリカMMA業界人がUFC以外のウェルター級のベストファイターについて語るとき、真っ先にその名前が挙がるようになっていた。UFCのダナ・ホワイトでさえ「ボードッグはジョーク団体だ。ただし、アルバレスはいい選手だ」という異例の発言をするなど、アルバレスは業界でも一目置かれる存在となっていた。

そして迎えた07年4月14日のボードッグのロシア大会。この大会でアルバレスは、現在『戦極』で活躍中のニック・トンプソンを相手にウェルター級防衛戦を行なっているが、この試合がアルバレスに転機をもたらす。試合は77キロ契約だったが、各メディアに「これが同階級の選手かと思うほど体格差があった」と評されるほど、トンプソンとの体格差は歴然としていた。

試合ではスピードで相手を撹乱しようとするアルバレスが積極的にパンチを放っていくが、懐の深いトンプソンにはなかなか当たらない。やがてパンチの打ち疲れで体力を消耗したアルバレスにトンプソンのカウンターの左フックが命中。そのままトンプソンがパウンドを浴びせかけ、TKO勝利を奪った。アルバレスにとってこれが初めての敗北だった。

試合後、多くのメディアは「アルバレスは階級を落として闘うべきだ」と書きたてた。だが、彼は頑なに階級を下げることを拒んだ。それはトンプソンに対して特別な感情があったからだ。

「ニックは試合後、酔っぱらって俺たちに言うべきではないことを言ったんだ。とくに俺の息子について言ったことは許せない。俺は必ずあいつをブチのめしてタイトルを奪い返す」



EDDIE ALVAREZ■1984年1月11日、米国ペンシルバニア州出身。DREAMライト級GPのアンドレ・ジダ、ヨアキム・ハンセン戦で名勝負を展開した台風の目。婚約者のジェイミーさんとは9月に挙式予定。177cm、70kg。

両者の再戦は07年12月に行なわれる予定だった。しかしMMAビジネスに失敗しつつあったボードッグに彼らの再戦を実現させる力は残されていなかった。

目の前のトンプソンとの再戦が消滅したことで、アルバレスは逆に冷静になれた。トンプソン戦での敗戦を顧みて、彼はどの階級で闘えば自分が最も強くあれるかを模索していくようになる。ボードッグとの契約から自由になったアルバレスは、今年の1月にエリートXCで75キロでの試合に勝利したあと、新たな道を選択する。

「年初めに俺は新しいエージェント、モンテ・コックスに『08年にしたいことが二つある』と言った。最初の希望は、俺はまだ24歳だから、もっと闘ってリングですごす時間と経験を積みたいということ。そしてもう一つの願いは、一流のファイターたちと闘いたいということだった。そして、モンテは俺にDREAMの契約を持ってきた。彼は最高の仕事をしてくれたよ」

遺恨や体格差のある闘いから自分を解放し、ようやく適正体重で闘うことを決心したアルバレスは、自分の本当の強さを爆発させる場にDREAMを選んだ。

3・15『DREAM・1』でのアンドレ・ジダ戦は、アルバレスの底知れぬ強さを知らしめるのに充分な内容だった。『HERO'S』ミドル級GP07の準優勝者であるジダを圧倒したアルバレスは、日本のファンに大きな衝撃を与えた。

だが、この衝撃はまだ序章にすぎなかった。5・11『DREAM・3』でのヨアキム・ハンセン戦は、前評判にたがわぬMMA史に残る名勝負となり、試合後、会場のファンはスタンディングオベーションで両者の激闘を讃えた。アルバレスはヨアキム戦のことをこう振り返る。

「ヨアキムはとてつもなくタフな相手だった。こっちが殴り続けているのに、ずっと俺に向かい続けてきた。そんなヤツはめったにいないよ。試合の翌日、俺たちは外に出かけて一緒に夕食をしたんだ。俺たちは笑って、自分たちの試合について冗談を言い合った。ヨアキムはいいヤツだ。俺はヨアキムが大好きなんだ。彼がまたすぐにDREAMに戻ってきてくれると信じているよ」

闘いを通じて男たちはより多くの言葉を交わす。アルバレスの言葉を聞けば〝戦友〟たちが闘いの中で、日常生活における友人たちよりも、はるかに深い絆を結ぶということが、なんとなく理解できる気がする。

いよいよ間近に迫った7・21『DREAM・5ライト級GP決勝ラウンド』に向けても、アルバレスは集中力を高めている。

「一番重要なことは川尻との試合に焦点を合わせることだ。いろんなところで川尻が俺と同じぐらいの強さだと紹介されているのを見た。だから俺は川尻を徹底的に研究した。でも、結局ここまで来たら互いの持つ技術や能力よりも、精神面とコンディションを整えることのほうがもっと大事だという考えに行きついたよ。選手全員を研究するのもいいが、最初の相手に勝てなければ、ゴールにはたどり着けない。いまはコンディションをしっかり仕上げること、そして誰が試合のペースを握るのかが重要だと考えている。二試合目については、自分のハートと魂に頼るしかないだろう。結局、最後はそこしかないのさ」

幼少期の生活環境、そして自己の成長とともに闘うリングをグレードアップさせながら常に危険な〝闘い〟の中にその身を置いてきた男、エディ・アルバレス。彼の置かれる環境は、厳しさを増すばかりである。だが、そんな中でもこの男は、磨き上げた技術と、困難な状況の中でも決して揺るがない闘争本能を手に、自らをさらなる高みにステップアップさせようとしている。極貧の町で生まれた男が、最底辺からいったいどこまでの高みに登っていくのか、きっちり見届けようではないか。

アバレス有利に余裕の笑み!!

なんだ!?



川尻達也

with 山田武士トレーナー

エディ・アルバレスとの超大一番!! 決戦を控える川尻達也と、その川尻に打撃を指導する『チーム黒船』の山田トレーナーを直撃!! 山田トレーナーといえば、多くの総合格闘家に打撃を指導している名物男。巷では"アルバレス有利"が伝えられているが、まあ、フォレスト・グリフィンに言わせれば「おまえらは何もわかっちゃいない」というか、素人の浅はかな考えなのかもしれない。そのため難しいことを考えずにインタビューを試みたところ、とんでもない方向へ話が広がってしまった!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／山口比佐夫

——今日はライト級GPを控えた川尻さんと、それをサポートしている『チーム黒船』の山田さんにお話をうかがいにきました。いきなりですけど、ライト級GPの優勝賞金は何に使うご予定ですか？

山田　おっ、景気のいい話だねぇ。

川尻　なんですかねぇ……。車を買おうかな（笑）。

山田　賞金っていくらもらえるの？

——確か一本じゃないですかね。

山田　一本って1000万？　税金で2割くらい引かれるから800万かあ。

——山田さんは川尻さんに何を買ってもらいたいんですか？

川尻　あ、買ってもらう前提ですか（笑）。……メシでいいんじゃないんですか？

山田　800万でメシ食うつったら大変じゃん。そうだねぇ……。原チャリでも買ってもらおうかな。

川尻　あ、原チャリぐらいだったら（苦笑）。

山田　800万もらえるのに、原チャリですよ？　これでオレの好感度アップだよ！

——でも、やけに現実的だから、かえっていやらしい感じもしますけど（笑）。

山田　アハハハハ！

——そんなお二人はもう長い付き合いになるんですよね。

川尻　はい。もう3年目ですね。五味くんに負けたあと、ボクのなかで本格的に打撃をやるしかないなって思いがあって、それで紹介してもらったんです。

山田　ビックリしたのは、人を通して電話番号を交換し合って、「いつぐらいから来んの？」ってオレが電話したら、凄くテンション低いんだよね（笑）。

川尻　いや、そういうわけじゃないです。よく言われるんですよ。電話かけてきた相手から「ごめん、寝てた？」って。普通に起きてたのに。

夢の潰し合い！ 下馬評アル…

この自信…



山田　まるでオレがスカウトで「いやあ、そんなこと言わないで一緒にやりましょうよ」って一生懸命勧誘している雰囲気で（笑）。

川尻　そんなことないですよ（テンション低めに）。

山田　だから「ちょっと変わった人かなあ」って最初は思ってたの。っていうか、トップでやってる人はみんな変わってるじゃないですか。だから変わっててもそんなにビックリはしないですよ。かといって、川尻を奇人変人って言ってるわけじゃないけど。

――逆に山田さんの印象はどうでした？

川尻　凄く怖い人だって聞いてたんで、おそるおそる行ったら変わった髪型で。

山田　え？　そのときどんな髪型だったっけ？　……あ、ちょんまげか（笑）。

――ズバリ、タクシーは絶対に停まりませんね（笑）。

川尻　ちょんまげで顔も怖かったから、ちょっとおどおどしながら「お願いします」って。怒らせたらヤバいなと思って。

――川尻さんにとって山田さんはどういう存在なんですか？

川尻　最初はホント、トレーナーとして教えてもらいたいと思ってて、いざ一緒に練習していくうちに一人の仲間っていうか、山田さんも一緒にやってくれるんですよ。いや、ボクらよりやるんですよ。そこで選手であるボクたちがここであきらめるわけにはいかないっていう手本っていうか、まあそういう感じっすよね。ホント、一緒に強くなっていくっていう。

山田　要はさ、総合格闘技のトレーナーって、あんまりいないじゃないですか。選手を辞めて先生になってる方もいるんでしょうけど、総合格闘技がアスリート然としたスポーツになってから、それに対して先生になってる人はいないわけでしょ。で、オレもやったことないから、それを理解するには

選手と一緒にやるしかないと思ってる。

――山田さんは身をもって総合の勉強しているわけですね。

山田　一緒にスパーとかやってれば、選手はこういう感じで考えてるんだろうな、とか。こうなってるから逆にチャンスだろう、とか。本人も思ってる以上に冷静に見られるっていうか。

川尻　ボクシングを習ってるというよりは、試合で活かせることを、お互いに理解し合いながら練習をしてるって感じですね。

――心は通じ合ってる、と。

川尻　そうですね。みんながそういう感じだと思いますよ。

――じゃあ、川尻さんが宇野さんに突っかかってるときも、「気持ちはわかるぞ！」と。

山田　フハハハ！　それは川尻の問題だからさ（笑）。

――この3年間で川尻さんってだいぶ変わりました？

山田　変わったでしょう。だって、五味戦が終わってウチに来たときに、あまりのできなさにビックリしたんだから！

川尻　ヒーヒー言ってました。

――川尻さんって、ヒーヒー言いながら「早く試合させてください！」っていうイメージがあるんですけど。

山田　いや、そういうレベルのヒーヒーじゃなかった（笑）。

――あ、もっと上のヒーヒー。

山田　ちょっとほかの人に見せらんないぐらい簡単にヒーヒーなってたから。

川尻　ヒーヒー言ってましたねぇ。ヘコみました。ボディ打ちが一番、ヘコみました。

山田　そう。腹打ちはねぇ、よかったすよ、弱くて。来たときに「川尻達也はこれぐらい強いんだろうな」ってボクの基準があったんですけど、ボディ打ちですぐに倒れちゃうんですよ。

――へえ～、川尻さんにそういうイメージはなかったですけどね。

山田　でも、逆に言えばそれぐらいであそこまで闘えてたんですよ。だから鍛えればもっと強くなる。

――で、今回は抽選の結果、準決勝はアルバレス戦が決定しました。

山田　オレはアルバレスでよかった。

――あ、そうですか。

山田　それは優勝したいから。一日2試合でしょ。もう決勝戦は勝負じゃないんだよ。勢いだから。どうやって決勝に行ったのかってことが大事なんですよ。アルバレスは凄く評価が高いじゃないですか。だからアルバレスをぶっ飛ばしていけば、パターンとしては優勝が凄く見えてくる。日本人対決でもいいんだけど、それだとよけいな力が入って、ちょっと燃え尽きるんじゃないかなって。勝つと当然、充実感があるんだろうけど、勢いというよりもちょっと疲れちゃうというか。



1回戦のブラックマンバには、やや手こずったものの、2回戦ではルイス・ブスカペを力で完封!! あの曲者に封じ込むかたちで勝ち抜ける日本人は数少ないだろう。

ya awajiri
kesYamada

ハンセンのほうがやりづらい 優勝するなら先にアルバレス

――つまり、準決勝で達成感が出ちゃうのが嫌なんですよね。

山田　嫌なんですよ。アルバレスだったら、勝てば優勝への勢いに乗れると思うんですよね。宇野選手に勝ったら、そういうつもりはなくてもどっかでそういうふうになるような気がして。

――川尻さんはどうですか？

川尻　………はい？

――すいません、寝てました？（笑）。

川尻　いや、聞いてましたよ。ボクはどうせやるなら宇野さんがいいかなあと思ってました。ただ、ボクもやりやすいのはアルバレスかなって。

山田　そう！　まず、アルバレスは右じゃないですか。宇野くんはサウスポーだし。で、なんだかんだ言っても、ヨアキム・ハンセンのほうがやりづらいでしょ。アルバレスvsハンセンを観て、ハンセンのほうが嫌だなって思ったよ。アルバレスが弱いっていう意味じゃなくて、わかることをやってくるというか。マニュアルどおりっていうか、ビックリした攻撃があんまりないから。

――下馬評ではアルバレス有利という声が挙がってますけど……。

山田　マジッすか！　へえ～。そうなんだ。やっぱアルバレスは評価高いんだね。

川尻　逆にそのほうがいいっすね。

山田　うん、そのほうがいいね。

川尻　「強い」って言われてる相手に勝つのが気持ちいいじゃないですか。ここで結果を出さなきゃ、ボクはもう終わりだと思ってるんで。

山田　とにかく優勝したい。かといって宇野選手と当たってないから難しいってわけじゃないんだけど、一番やりやすいのがアルバレスだと思うんですよ。

川尻　曲者じゃないですか、宇野さんも青木くんも。

山田　どっちも「暖簾に腕押し」じゃないけど、そういう闘いじゃないですか。川尻くんの力を利用してということを考えてくるけど、アルバレスは真っ向勝負でしょ。だから気持ちいいじゃないですか。それを粉砕したら、決勝で「暖簾に腕押し」みたいな闘い方をされても粉砕できるんですよ。

――宇野さんのそういうところを青木さんが「格闘家として性格が悪い」と言われてたんですけど。川尻さんはどうですか？

山田　格闘家としてでしょ？　まあ、良くはないですよ（笑）。彼らは自分のムーブにもってくじゃないですか。川尻の場合はゴリ押しして箱に入れちゃう。自分の箱を持っていって、力で相手をポコンと入れる感じだよね。格闘家って性格が悪くなきゃダメでしょ。

川尻　強くなんないですね。いい人は大事なところで譲っちゃうんですよ。

――格闘家としての性格の良し悪しって本性だったりするんですかね？

山田　本性だよ！　だって、世の中で生きていくのに格闘家以外の仕事をやってる人が大半じゃないですか。格闘家として生きていくには、その人たちが持ってる優しさとかを持ってないほうがいいんですよ。

――なるほど。何か川尻さんの性格の悪いエピソードってありますか？（笑）

山田　それは試合じゃないの、やっぱり。相手のいいとこを出させないもん。自分のペースを絶対に譲らない。

――性格、悪いですねぇ。

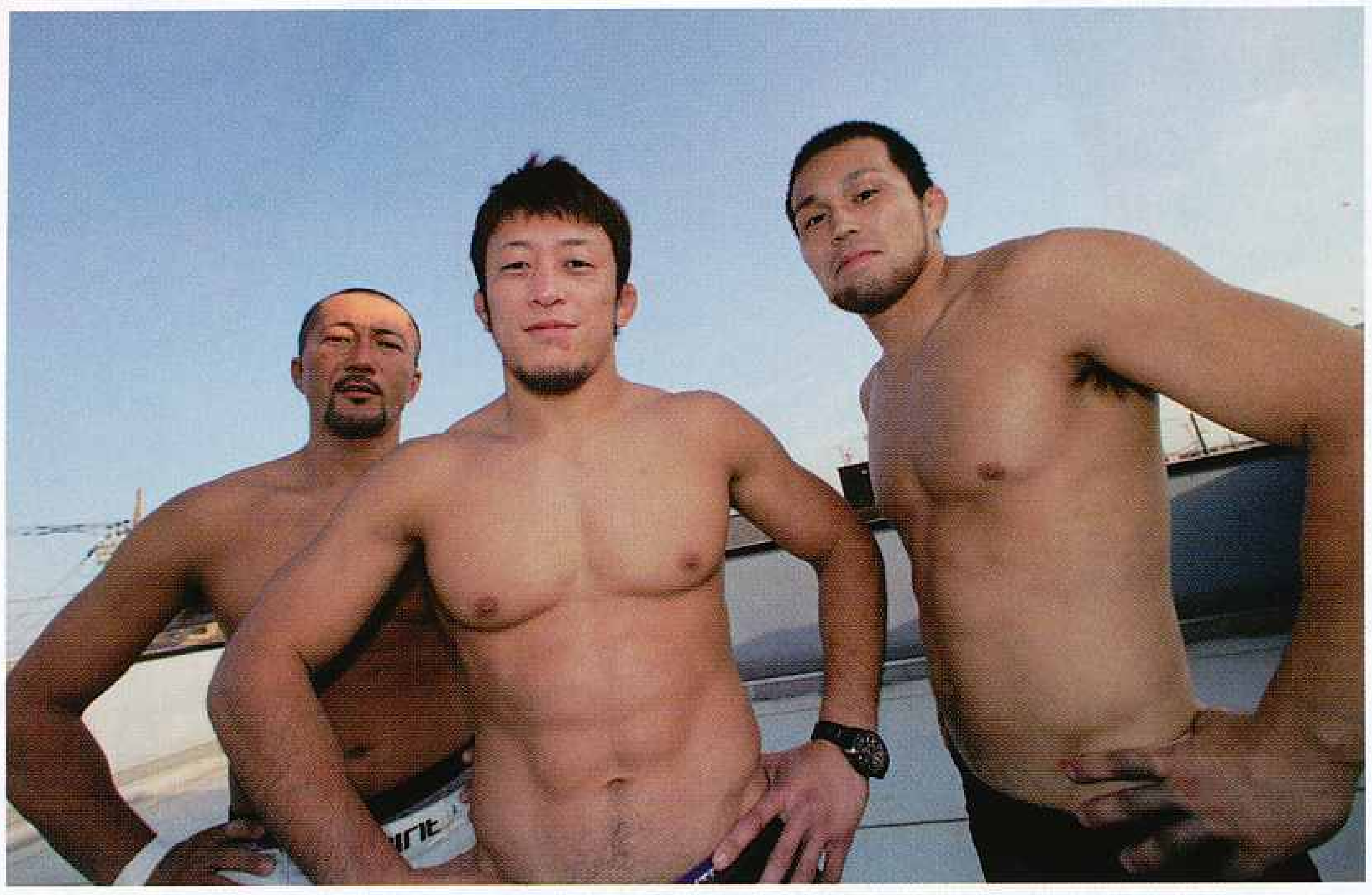
山田　性格悪いよ！

川尻　打ち合いたくないんです。ボクだけ殴りたい（笑）。相手だけボコボコにしたい。

山田　みんなで話してて、試合のとき打ち合いの瞬間はこうだとか、効いたときはこうだとか。まあ、ウチも高谷とかを筆頭に打

ち合う選手が多いじゃないですか。でも、川尻は打ち合ったことがないんですよ。
——一方的に殴りたい、と。
山田 そう。そこにギブ・アンド・テイクの心はないから。
——やっぱり性格の悪さは重要ですね。川尻さんのことをもっと知りたいなあ。家に取材とか行っていいですか？
川尻 嫌です（テンション低めに）。
——じゃあ、山田さんの家に行きますよ。
山田 嫁が怒るよ〜。ウチの嫁はハンパないからね。相当、強いよ。
——川尻さんは会われたことはありますか？
川尻 あります。いや、凄くきれいで優しい人ですし……フッフッフッフッ。
——何がおかしいんですか（笑）。
川尻 いや、ボクらの前ではホントにそうでしたよ。
山田 なんだよ、「ボクらの前では」って（笑）。よけいなこと言うなよ！
——山田さんには亭主関白で「ついてこい！」っていうイメージがあるんですけど、そうでもないんですね。
山田 ………。
——なんでいま、固まったんですか（笑）。
山田 どっちかつったら、外でそういう感じでしょ？ だから家に帰ったら、嫁がやりたいようにやってんのを「うん、うん」ってやってるほうがなごむ。……いいの、こんな取材でさ（笑）。
川尻 まあ、ライト級GPの煽りはどこでもやってますから、『ｋａｍｉｐｒｏ』は違うことやったほうがいいですよ。児山（佳宏）のことを取り上げてくださいよ！
——へ？ コヤマ？ すいません、ボク、格闘技界のことあまり知らないんです。
川尻 そんなんでいいんですか、編集長なのに（笑）。さっき一緒に写真を撮ってもらった選手ですよ。
——あ〜……って、まったく知りません。
川尻 児山は『黒船』で一緒に練習してるんですけど、7連勝して修斗の新人王にもなったんです。でも、どこからもオファーが来ないんですよ。
——それは強すぎるからですか？
川尻・山田 試合がつまらないから!!
——ダハハハハ！ なんでそんな選手をウチが取り上げないといけないんですか！
川尻 いや、そのつまらなさがおもしろいんですよ。相手を倒すじゃないですか。で、パスガードできないで、ずっともたついてるんですよ。
山田 で、止まると飛び込んでハーフでかぶるみたいな。
川尻 そのまま判定です。通称・児山ロックは見る人が見ればおもしろいんですけど、普通の人が見ると止まって見える。
山田 児山本人もそれをなんとかしようと思ってるんだけど、まあ、性格が優しいからね。しっかりロックしてると、時はすぎていくし、自分は勝てるから、相手にも優しいじゃないですか。
川尻 二人ともケガしないように、明日から練習できるように勝つ、と。相手は無傷なんですよ。7連勝しても、7無傷ですよ（笑）。
——はあ（笑）。競技としては全然それで正しいんでしょうけどね。
山田 競技としてはね。だから、テレビの意向も入らず、マッチメイクもよけいなものをはぶいていくと児山ができあがるわけですよ。
——なるほど、ある意味で究極の総合格闘家なんですね（笑）。
川尻 そうですよ。相手を傷つけないんですよ？ 究極の護身術です（笑）。
——しかし川尻さん、急にしゃべりだしましたね（笑）。
川尻 だって実力主義の修斗からオファーが来なくなったんだから。それは相当なもんですよ！
——それはちょっと興味あるなあ。
川尻 興味あるでしょ？
山田 あそこまで相手を傷つけない選手も珍しいよね。児山以上につまんない選手っている？ いないよなあ。
——パウロ・フィリオとかって……。
山田 いやいやいや！ あれは一本取りにくいじゃないですか。
——ボクが知るかぎり、一番つまらないのは○○選手ですけど。
山田 あ〜。……いや、○○選手よりつまんないですよ。だって、時が止まっちゃうんだから！
——時を止めるって、ディオのスタンド『ザ・ワールド』じゃないんですから！（笑）。
山田 ○○選手は一応相手を殴ってやっつけにいくけど、小山はもう寄り添う感じだから（笑）。
川尻 あれは添い寝ですよねぇ。
——どんな試合ですか！（笑）。でも、磨き方によってはブレイクの可能性があるかもしれませんね。
川尻 だから『ｋａｍｉｐｒｏ』の力でブレイクさせてほしいんですよ。『格通』や『ゴン格』ではありえないから。ホント、試合を観てほしいっす。お願いします！
——ライト級GP直前に何を力説してるんですか（笑）。じゃあ、「児山選手にオファーを！」っていう告知をつけときますので。
山田 「児山はあなたを傷つけない」。とにかく誰も傷つけないから（笑）。
川尻 あ〜、なんか楽しくなってきましたねぇ（この日、一番の笑顔で）。
——川尻さん、ついでにアルバレス戦、頑張ってください（笑）。

【08年7月3日／都内・『JBスポーツ』にて収録】



やまだ・たけし■ボクシングジム「JBスポーツクラブ」のチーフトレーナー。ボクシングだけではなく、キックボクサーや総合格闘技家も指導する『チーム黒船』を主宰する。石田光洋、高谷裕之らも指導している。

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。元・修斗世界ウェルター級チャンピオン。『PRIDE武士道』を経てDREAMに参戦。クラッシャーの異名どおり、圧倒的なパワーで相手を破壊する。171cm、70kg。

こやま・よしひろ■1981年7月21日、福島県出身。本文中で触れられているが、この男がウワサの児山“ザ・ワールド”佳宏だ! 彼が気に入ったプロモーターはぜひオファーをよろしく! 170cm、70kg。

オファー募集中!
「児山佳宏は相手を傷つけません」

06年修斗ウェルター級新人王。10勝2敗1分、現在7連勝中。児山佳宏は相手を傷つけずに勝ちます。相手に優しい格闘家。そんな奇跡を目撃したい読者の皆さん、いますぐ各主催者に出場希望の手紙をしたためましょう。そんな奇跡を演出したい主催者のあなた、ぜひ出場オファーを、思い立ったら吉日です。繰り返します。児山佳宏は相手を傷つけずに勝ちます！ これぞ世界八番目の不思議なのです。



所英男×日村勇紀
[バナナマン]

異色の超ビッグ対談がついに実現!!　ご存知、格闘家・所英男とお笑い芸人・バナナマンの日村勇紀は、じつは大の仲良しなのである！ その交友関係はバナナマンのラジオ番組『バナナムーン』でもたびたび語られており、今回は『kamipro』が満を持して対談を実現させたというわけである。おもしろくも、くだらない二人のトークはまさに“小学2年生”。少年&少女に戻ったつもりでお読みくださーい。

聞き手／松下ミワ　撮影／タイコウクニヨシ　写真協力／ホリプロコム



知る人ぞ知る夢の“友情タッグ”対談がついに実現!

30歳・格闘家と
36歳・芸人の
“小学2年生”トーク!

——今日は、所英男選手と、そのビッグなお友だちであるお笑いコンビ、バナナマンの日村勇紀さんの対談が実現しました！

所・日村　よろしくお願いします！

——ホントに知る人ぞ知る！　という感じだと思いますが、お二人は大のお友だちというか、飲み仲間なんですよね？

日村　そうですね。飲み仲間です。だって、実際、所さんの試合は生で観たこと一回もないですから（キッパリ）。

——そうなんですか（笑）。

所　「行く、行く」って言って、一回も来てくれたことないです。

日村　いや、行こうとしてるんですよ！　でも、どうしても仕事の都合が合わなくて、っていうのが続いてるんですよ。行きたいんだけど、行けないっていう。ねっ！

——本当ですか？

日村　本当ですよ！　で、大きい格闘技の大会って、また年末にあるじゃないですか。でも、年末はオレらも絶対生放送があるんですよね。夏は夏でライブがあるし。

——では試合はＤＶＤとかテレビとかでご覧になってる感じなんですね？

日村　そうです、そうです。なるべく所さんの試合がある日は、結果とかを聞かないようにはしてるんですけど、ま、途中で「もういいや、所さんに聞こう」みたいな（笑）。

——直接聞いちゃいますか！

所　日村さん、凄いんですよ。試合前日に「今日、何してますか？」とかメールが来るし。

日村　クックックック。

——なるほど（笑）。そもそもお二人が出会ったきっかけというのは？

日村　これはですね、ウチの事務所の後輩でダブルブッキングというコンビがいまして、そいつらと所さんが一緒に仕事をしたんですよね。で、所さんとダブルブッキングが仲がいいっていうから、その片割れの黒田（俊幸）って男に、「オレも会いたい」って言ったんです。そこからですね。

所さんが試合の日は「結果は本人に聞けばいいや」みたいな（日村）



試合前日に「今日、何してますか？」とかメールが来るんです（所）

——会いたいと思われたのは、またどうしてですか？

日村　やっぱりもともと格闘技とかプロレスとか好きなんですよ、オレ。初めて親父に後楽園ホールに連れていってもらったのが、タイガーマスクvsミル・マスカラスで、気がついたらプロレスを観てるような人間になったんです。20代の頃は本当に全日が好きで、武道館の興行には絶対に行ってたし。

所　へえ～、凄いっすね。

日村　で、当時は彼女もいたんで毎回連れていってたんですけど、全然プロレスに興味なかったその子が川田（利明）選手を次第に尊敬するようになって、気がついたら「川田さん」って呼ぶようになりましたからね。

——ワハハハハ！　敬意を表わして「さん」づけに。

日村　そのくらい観てたんです。でも、その黒田という男はそんなに格闘技を好きではないんですけど、なぜか所さんと仲がいいっていうのが許せなかったんです。で、「呼んでくれ」って。

所　最初に会ったのは、たぶん三宿（東京・世田谷区）ですよね？

日村　あ、そうそう。「所さんって、たとえばこの時間って来れないかな」とか言ってて、「ムリかもしれないですけど、ちょっと呼んでみましょうか」って呼んだら、けっこうあっという間に来ちゃいましたから（笑）。

所　ヒマだったし、会ってみたかったんで。だって、日村さん、芸能人なんで……。（ボソボソと）。

日村　（テレコを所のほうに近づけて）ほら、デカい声でしゃべんないと、これに入らないからね（笑）。

所　あ、すみません。（デカい声で）芸能人なんで！

——よくわかりました（笑）。

日村　でも、しゃべってみると、とにかく純粋な人だなって。所さん、頭の中は小2か小3ぐらいで止まってますよ、絶対。

——じゃあ、話の内容も小2レベルのお話なんでしょうか？

日村　（所のほうを向いて）正直言うと、あんまりお笑いとか格闘技の話はしないよね。

所　うーん……。

——じゃあ、どういう？

日村　あのー、基本的には女の子の話です。どこぞの店員がかわいかったとか。で、2時間ぐらい経ってお酒が回ってくると、話の内容が高校生ぐらいに成長するというね。

——それでもまだ高校生（笑）。それで、聞くところによると、お二人は今年のお正月に一緒に海外旅行に行かれたんですよね？

日村　そうそう。これもまた、どホモ旅行みたいな感じだったんですけどね！

——えっ!?　もしかして、二人っきりで行かれたんですか！

日村　いやいや、後輩含めて男ばっかり5人で行ったんですけど。夜中、後輩連中が部屋で酒飲んでるときに、オレと所さんだけプールサイドでビール持って「海がきれいだね」とか言いながら黄昏れてましたね。

―ワハハハハ！　絵になるような、ならないような。
所　そこで結婚の話とか、けっこういろいろ話しましたよね（笑）。
日村　「こういう家庭を持ちたいな」とかね。なんかロマンティックな感じになっちゃって（笑）。で、二人ともお酒飲んでたから、途中で「トイレ行きましょうか」つって、プールサイドのトイレに行ったんですよ。そしたら、そこに監視員の人がいたんですけど、夜中なんで全然見えなくて二人で「わあーー!!」とかビックリしちゃって。
―ロマンティックも台なしだ、と（笑）。
日村　でも、バリ島での所英男はすべてにおいて弱かったですよ。バリに着いて即行菌にあたりましたからね。すぐ寝込んじゃったもんだから、みんなの旅行がグズグズですよ！
所　いやー、逆に日村さん強かったですよねえ（しみじみと）。でも、帰国してからあたったんですよね？
日村　オレは大人なんで、みんなには迷惑かけないの。
―日村さんも年末年始はお忙しいと思いますが、所さんも『Dynamite!!』で試合なんで、けっこう際どいスケジュールだったんじゃないですか？
日村　ホント、「所さん、忙しいかなあ」と思ってたんですよ。しかも、その試合で「もしも」のことがあったらチケットとか予約してても、どうすんのかなあって思うじゃないですか。でも、本人は「大丈夫です」ってアッサリしてて。
―あ、そんなに軽く。
日村　そう。心配だからオレも何回も聞いたんですよ。「大丈夫ですか⁉」って。でも、「大丈夫です」の一言ですからね。ホントかよ！　って。
所　もう、なんも考えてなかったです。「行きたい！」っていう一心で。逆に、ボクは「本当に連れていってもらえるのかなあ」と思ってたんですよ。日村さん、芸能人の方なんで、やっぱこう、ボクが「行きたいです」って言ったから、会話の流れで上手に合わせてくれたのかなあって。
日村　何、言ってるんですか、いったい（笑）。
所　……（唐突に）あっ!!　そういえば、日村さん、このあいだ、家にZSTのグッズ届けに行ったんですよ！　そしたら引っ越して、誰もいなかったです。
―ええーっ！　なんなんですか、そのエピソードは。
日村　あ、言ってませんでした？
所　もう、ビックリして。もぬけの殻で。
日村　ククククク。ごめん、ごめん。でも、なんでいまのタイミングで言うんですか（笑）。ここじゃなくても、いくらでも言うチャンスあったでしょうよ！
所　今日会ったら絶対に言ってやろうと思ってたんです。
―あの―……、お二人は本当に仲良しなんでしょうか？
日村　（ごまかしつつ）いやいやいや、なんでかっつーと、芸人って格闘技好きな人が多いんですよ。で、くりぃむしちゅーの有田さんがまた好きで、「オレ、今度ZST観に行くんですよ。お土産でZSTのグッズとかいろいろ買ってきますから」って有田さんと約束をしてたんですけど、結局その日観に行けなくて。で、所さんに「キープしてもらっといていいですか？」って頼んでたんです。
―そのグッズを日村さんに届けに行ったけど、もぬけの殻だった、と。ちなみに、それはまだお渡しできてないんですか？
所　いや、今日やっと渡しました。
日村　ほら、いま着てるヤツとかもらったTシャツですよ。
―あ、ホントだ。だからリバーサルのTシャツを着てるんですね。
所　ようやく肩の荷が下りた感じです。でも……日村さんって、やっぱりしゃべるの上手ですねえ（まじまじと見て）。
日村　なんだよ！　いきなり（笑）。
所　いや、いままでプライベートでしか会ったことないですけど、仕事で会うと、やっぱ上手だなあって。尊敬しました。
日村　なんなのよ（笑）。そんな部分で尊敬しても、いらないでしょ、所さんには。
所　やっぱ、あったほうが生き残れるんじゃないかなって思いますし。
―でも、やっぱり意外だと思いました？　格闘家の方で、こんなタイプの方がいらっしゃるというのは。
日村　それは本当に思いますね。だから、心配なんですよ。この人が殴られたり技かけられたりするのかなあって思うと。「本当に練習してんのかなあ」とか、そこから疑ってますからね（笑）。でも、リングに上がると見たことない感じになってるんで、それは凄いなあと思いますけど。
所　ありがとうございます。
日村　あ、リングで思い出しましたけど、バリ島に行ったときに初めて所さんの身体を見たんですよね。
―いつも暗がりの居酒屋で飲まれてるわけですからね。
日村　暗がりの居酒屋でね（笑）。だから、「この人なんなの？　ただのボーッとした人」ってことしかイメージがないんですよ。でも、バリで裸を見たときは、「あ、やっぱ格闘家だなあ」と思いましたね。並の筋肉じゃないんだなって。で、そんときに笑ったのは、ね、バリのビーチで……。
所　（さえぎって）あった、あった！（笑）。
日村　そこには現地のスキューバダイビングのスタッフがいたんですよ。で、所さんの身体を見て「おまえ、すげーな」ってパンパ





こちらがバリ旅行を超エンジョイしている写真。ヘルメットを被っているほうの写真は、所が現地の菌にあたった直後のものであるが、それでもこの笑顔。小学生の夏休みに見えるのは気のせいか。

ン叩いてくるんです。

——日村さんのお腹じゃなくて、所さんの身体をですよね。

日村 （聞かずに）で、オレが「この人、ホイス倒した人だからね」って言うんですよ（正確には、3ラウンド判定ドロー）。でも、向こうは「そんなわけねえ！」と。

——ハナから否定ですか（笑）。

日村 ハナから否定です。「おまえの身体は凄いし、ホイスも知ってる」と。「でも、おまえがホイスを倒しているわけねえ！」って感じで。でも、それってね、よく考えたら、海外行って、ちょっといい身体したヤツが仲間にいたら、冗談で「おまえ、ちょっとホイス倒したって言ってみな」って、そんなことやりそうなことじゃないですか。

——それこそ小学生並みですけどね（笑）。

日村 でも、この人、本当に倒してるからさ！ それを伝えられない歯がゆさがあったんですよ。「ホントなんだ！」と。「おれの話を聞いてくれ」と。でも、外国の方だからうまくそのニュアンスも伝えられないし。

所 「おまえ、そんなわけない」みたいな感じでニヤニヤ笑われましたよね。

日村 へんな日本人扱いされて終わりましたから（笑）。

所 最終的には〝加トちゃんぺ〟みたいなのをされて逃げられましたからね。

日村 そうそうそうそう！

——なんなんですか、〝加トちゃんぺ〟って？

所 〝加トちゃんぺ〟って言葉がバリの言葉で……なんでしたっけ？

日村 なんか「チ●コ出せ」みたいな意味らしいんですよ。それで、ずっと「カトチャンペ、カトチャンペ」って言われて、「なんなんだ、コイツら」と思ってたんですけど、あとあとになったら、「カトチャンペ」は「チ●コ出せ」って意味じゃなかったんです。

——本当はどういう意味だったんですか？

日村 いや、わかんない。

——ワハハハハハハ！ なんじゃ、そりゃ！

日村 だから、単に日本人だから知ってるだろうってことで、〝加トちゃんぺ〟をやられただけかもしれないんですけど。だから、オレはもう「技、かけちゃえ！」と思ったんですよ。

所 でも、そのバリ人がちょっと強そうだったんです。

日村 確かに強そうだったんだよな！ 「返されたらどうしよう」とかなっちゃって（笑）。

——ワハハハハ！ いい話ですねえ。

所 あのー、ボクも今日、日村さんとの対談ってことなんで、いろいろおもしろいことを思い出してきたんですよ。

——お！ ぜひ聞かせてください！

日村 いや、この人、いつもすぐ酔っぱらうから、あんまりエピソードとか覚えてないはずですよ。

所 覚えてますよ！ ほら、一回みんなでダーツしに行ったことがあったじゃないですか。



05年12月31日『Dynamite!!』でホイス・グレイシーととてつもない名勝負を繰り広げた所。しかし、バリのスキューバーダイビングのお兄さま方には、その功績をハナから否定されてしまうのだから、さすがである。

日村 ああ、行ったねえ。

所 で、そのときに……（なぜか沈黙して）。

日村 何？ やっぱ薄いんでしょ？ 思い出が。

所 いや……そうじゃないんです。ボク、土屋さんのことを、ずっと「中尾さん、中尾さん」って言ってて……（お腹を抱えて）。

日村 なんなんですか、そのエピソードは。わからないでしょ、いきなり「土屋さん」とか「中尾さん」とか言われても（笑）。

所 それで……、それで……。あの……クックックック。

日村 どうしたのよ？

所 いや……ツボにはまって、もうしゃべれません……。

日村 ガハハハハハ！ なんなんだよ、その自作自演な感じは（笑）。もうちょっとまとめてからしゃべりなさいよ。

——困りましたねえ。

日村 いつもこんな感じなんで、世間の人が知ったらどうなるんだろうなと思いますよ。男前で、スマートで、完全にそんなイメージでしたから（所を見ながらあきれて）。

所 クックック……………………………で、でも……。

日村 あ、復活した。

所 ボク、けっこう長いあいだ「中尾さん」って呼んでたんですけど、土屋さん、ずっと黙ってて。

日村 もう、長い格闘生活で頭打たれすぎてるからしょうがないと思ってたんじゃない？ 「土屋も中尾もわかんねえんだ、この人」って（笑）。

所 （笑い涙を拭きながら）………それだといいんですけど。

日村 いや、よくないでしょうが！

所 でも、全然関係ない話ですけど、日村さんってこんな感じでおもしろいじゃないですか。で、飲み会のときも女の子とかがいると、たまに本気を出すんですよ。本気ですよね？ あれ。

日村 なんすか、「本気を出す」って！（恥ずかしそうに）。どういうことですか、いったい。

所 凄い、おもしろいこと言うんですよ。ほら、おもしろいとき、あるじゃないですか。

日村 なんだよ、話が唐突すぎるよ！

所 とにかくおもしろいんです。ちょっと、それが言いたくて。

——それが言いたかったですか（笑）。で、話を先に進めさせてもらいますが、先日の『DREAM・4』で見事勝利した所さんは、

首をながーくして待ってました! “神の子”KIDがついにDREAM参戦!



ついに、DREAMの舞台に“神の子”が降臨する！

『DREAM.4』登場予告がなされていたKIDだが、その後の発表で『DREAM.5』への出陣が決定。待望のリング登場の日がいよいよ迫ってきた！

KIDのDREAM初戦の相手は、すでに報道されているレスリングのスペシャリスト、ジョセフ・ベナビデス。ベナビデスと同じジムに所属し、“軽量級最強”の呼び声も高い現WECユライア・フェイバーがイチオシする未知なる強豪である。

6月30日の赤阪サカスでのイベント『akasaka FIGHT FESTIVAL』でKIDは、「テイクダウンを警戒して、打撃が中途半端になるよりも、倒されてもいいからガンガン行きます！」と、いつものKID節で絶好調ぶり&ノーフィアーぶりをアピール。

『DREAM.5』の目玉の一つであり、所英男、今成正和、前田吉朗ら、今後のフェザー級戦線のキーになるKIDのDREAM初戦。本来の階級で進化した“神の子”がDREAMでどう大暴れするのか、要注目である！

今後はフェザー級に絞って闘われるということなんですよね。
日村 うわ、これは誘えなくなりますね。
——そっちが心配（笑）。
日村 いや、こう見えても、やっぱりちょっとは気を使ってたんですよ。格闘家の方は身体が資本なんで、こうやってオレらと同じペースでメシ食ったりお酒飲んだりしていいもんなんかなあって。まあ、試合の1ヵ月前ぐらいになると完全に断ってくるんですけど、その前までは「大丈夫です」って平気な感じで言うんでね。
所 大丈夫です。
日村 でも、体重落とすんですよね？
——それで、フェザー級ではみんな打倒・山本KID選手というところを目指してるんですけど、所さんもそこを狙う一人なんで、心強いエールか何かを送っていただけたらな、と。
日村 そうねえ、まあ…………。
——とくに何もありませんか（笑）。
所 日村さん、ホントは試合観てないからわかんないんですよ。
日村 観てるって！ ただ、正直なところ、所さんの試合は若干ちゃんと観れない部分はあるんですよ。こうやって知り合っちゃったから、その人が殴られたりするのが観れないところがありますね。だって、格闘技って絶対に知らない人が闘ってるから「殴れー！」とか言えるんであって、身内の人がやってると、そりゃ心配ですよ。
所 だから、観たことないんですか？
——ワハハハハ！
日村 なんすか（笑）。いま、凄くいい話してたのに。ボソッとそんなこと言わないでよ。
——逆に、所さんは日村さんのライブだったりは行かれてるんですか？
所 行きたいんですけど、誘われないんです（寂しそうに）。

ボソッとそんなこと言わないでよ！ いま、凄くいい話してたのに（日村）


なぜか腹自慢をする二人。ズバリ、どっちも勝者である。

日村さん、ホントは試合観てないからわからないんですよ（所）


ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県。本拠地である『ZST』には旗揚げ戦から参戦し、7・6『HERO'S』ミドル級トーナメント1回戦で地上波デビュー。ここで現修斗ライト王者ペケーニョから劇的な勝利をおさめ、一躍、時の人に。DREAMでは本来の体重である63キロで登場し、見事白星を飾る。目指すはKID戦！ 170cm、62.9kg。

ひむら・ゆうき■1972年5月14日、神奈川県出身。94年、相方の設楽統とともにお笑いコンビ「バナナマン」を結成。コンビとしては、舞台コントを原点とし、夏に行なう単独ライブは毎年の恒例となっている。また、日村個人は奇怪なモノマネも得意とし、本誌23ページの表情で幼稚的にしゃべる「子どもの頃の貴乃花」のモノマネはあまりに有名。

日村 誘ってるでしょうが！
所 「あるよ」ってチラシを渡してもらっただけで、それだけなんです（冗談で）。
——なんか、聞いてるとお互いさまな感じがしてしょうがないんですけど……。
所 じゃあ、ボク、今度はちゃんと並んで行きますよ。
日村 いやいやいやいや。今度は8月にライブがあるんで、そんときは……並んでください（笑）。
所 ククククク。
日村 いや、だから、フェザー級の話だったでしょ？ でも、ボクは所英男という選手のファンでもありますけども、ケガをしないでもらわないとね、飲みにも行けなきゃ、来年の正月のバリ旅行にも行けなくなる、と。そう思ってますよ。
——あ、バリは毎年恒例なんですね。
日村 これはもう絶対に行きますから。だから、オレは所さんの私生活担当なんで、ホントにリングでは頑張ってくださいって感じです！
所 でも、試合は観ない、と。
——えー、こんな感じで、仲良しなお二人でした！

【08年7月2日／都内・ホリプロコム事務所にて収録】



7・21『DREAM・5』秋山成勲戦決定！

噛ませ犬か狂犬か柴田勝頼おまえはどっちだ！

問う！ 柴田勝頼の魅力とはなんだ!?

“負けても期待感の落ちない男” 座談会

7・21大阪城ホールで行なわれる、“魔王”秋山成勲のDREAMデビューの相手が、柴田勝頼に決定した！ しかし、このカードについてファンの反応は賛否両論。やはり、総合で結果を残していない柴田に対して、キツい声も少なくない。そこで今回は、柴田の魅力を知るべく“柴田勝頼弁護士会”の二人を招き、おおいに語ってもらった。これを読めば、秋山vs柴田戦にあなたも燃えられる！

聞き手／堀江ガンツ

柴田勝頼弁護士会

井上崇宏 弁護士
かつて『HERO'S』ケータイサイトで、船木誠勝と柴田勝頼の連載を担当し、メールのやりとりなどもしていた、柴田をよく知る男。ビッグマウス・ラウド時代の闘いぶりなどを高く評価する。

阿修羅チョロ 弁護士
ビッグマウス・ラウド＆上井駅担当として、『kamipro』編集部でもっとも柴田の試合を観ている男。浜中和宏戦をはじめとした柴田の名勝負を観ては、毎回、記者なのに涙を流している。

——え〜、これを収録してる7月6日現在ですね、7・21『DREAM・5』での秋山成勲の対戦相手に柴田勝頼が浮上しているんですが、ファンの反応があまりよくないみたいなんですよ。

井上 よくないみたいだね。

——でも、柴田の試合があるたびに、負けたとしても「柴田よかったね」という声が『kamipro』周辺でもけっこうあるんですよね。

チョロ 柴田は最高ですよ！

——というわけで今日は、かつて“猪木弁護士会会長”と呼ばれた故・I編集長よろしく、柴田勝頼弁護士会と呼ばれている、井上弁護士とチョロ弁護士に、柴田勝頼の魅力をうかがいたいと思うんですよ。

井上 逆に柴田にノレない人っていうのは、なんでノレないの？（笑）。こっちはそれを知りたいよ。

——「純粋に強さを求めるプロレスラー」というか、目指してるところはいい線いってると思うんですよね。でも、実際にやってることとのギャップがあるというか。

井上 やってることっていうか姿勢は間違ってないんじゃない？ ただ結果がついてきてないだけで。

チョロ そこが一番大きいんでしょうけどね。ただ、志という意味では、自分たちが憧れていたプロレスラー像、強さを求めて総合に出ていくというのはシンプルだし、自然なことだと思うし。みんな小利口になって「プロレスはプロレス」という言葉に閉じこもりがちな中、「新闘魂三銃士」と呼ばれて新日本プロレスの中で将来を嘱望されながら、その地位を投げうって総合に挑んでいるというのが、ある意味でバカというか、「その心意気やよし」という部分ではありますよ。まあ、残念ながら結果は出てないんですけど。

——結果が出ないのは、勝負事だからしょうがないと思うんですよね。ただ、少し違和感があるのは、地位を投げうって他流試合に挑んでるわりには、敗北の重みがあまり感じられないというか。切羽詰まった感じがないのが、優遇されてるように見えちゃうんじゃないですか？ かつては高田延彦はもちろん、ケンドー・カシンが敗れたときでも喪失感があったわけじゃないですか。それが、柴田の場合は負けてるのに、「魂を見せた」とか「目は死んでなかった」とか、そういう理由で「よかった」と言われたりするので、ホントにそれでいいの？ というか。

チョロ これは都合のいい解釈かもしれないけど、逆にいまとなってはプロレスラーが総合やっても通用しない、負けてあたりまえみたいな見られ方もあるわけでしょ。

——でも、柴田の負けを通して「あ、いまの新日本道場って、グラウンドの練習なんてやってないんだな」ってことがわかっちゃうというか、ある種、“闘う暴露本”みたいな感じになってるのはどうかと思うんだけど。

井上 それは厳然たる事実として受け止めないと。もう「プロレスは弱い」って思われてひさしい時代だし、プロレス界からもそういう声に対する回答をする人が誰もいないんだから。そんな時代に、一人総合に出ていくってのが凄くレアだしおかしなヤツだな、と思うけど。

——それはそうですけど、プロレスラーが「総合に出てきただけで凄い」っていう時代は、もうとっくに終わったような気がするんですけどね。

井上 そりゃ俺だって出てきただけで偉いとは思いませんよ（笑）。だけど、そんな時代はとっくに終わってんのに出てくるってのは、やっぱ逆にちょっと凄いじゃん（笑）。本来なら一番光れる土壌は新日本プロレスのリングなんだろうし、普通にしてりゃトップの一角にいられたんだし。

チョロ 柴田はまだ20代後半なんだけど、昭和プロレス好きなんだよね。

井上 でも、昭和プロレス好きっていったらさ、たとえば天山、小島、西村、大谷とか、あのへんも世代的にみんな昭和のプロレスが好きで、プロレスラーになったわけじゃん（笑）。それでも長州や馳政権の下、いわゆる平成プロレスに矯正されていく中、なんで柴田だけは矯正されなかったのか、周りに染まらなかったのかっていうのは興味ない？

——まあ、柴田が若手の頃は、藤田和之がIWGPチャンピオンの時代だった、というのもあるかもしれないですけどね。

井上 それでね、俺は柴田のプロレスの試合、とくにビッグマウス・ラウドやUWAI STATIONでの試合を観てたとき、ぼんやりと「ああ、この人はストロングスタイルだなあ」って思ってたんだよね。 でも……、ストロングスタイルって何？

——僕に聞かないでください（笑）。井上さ

柴田はその生き方と精神でストロングスタイルを体現しているんだと思う

んはどう思うんですか？

井上　わかんない（笑）。でもさ、前に船木vs田村戦のとき、ガンツくんが「UWFっていうのはスタイルじゃなくて精神だ」って言ってたじゃん。それと同じで、ストロングスタイルっていうのもスタイルじゃなくて、精神なんだろうなあとは思うけど。

――なるほど。柴田の生き方がストロングスタイルを体現している、と。

チョロ　生き方だけじゃなくて、試合もビッグマウス・ラウドでの闘いを観ると「ストロングなスタイル！」って感じがしましたから。浜中和宏戦とか、ホント素晴らしい！って。

井上　ねえ？　だから、なんでみんなの柴田への評価が低いのかがいまいちわかんない。

――やっぱり、ビッグマウス・ラウドやUWAI STATIONを観てないからじゃないですかね。

井上　あのね、やっぱりUWAI　STATIONを観てる観てないはけっこうデカいと思う（笑）。

――あとは新日本プロレスを辞めたところからのドラマを通して見れば、いろんな表情や、思いという部分に目がいくと思うんですけど、それをDREAMや『HERO'S』だけを観てる人に求めるのは難しいんじゃないですかね。

井上　確かに、それは難しいかもしれない。ヤマヨシ戦一つとっても、感じ方が違うだろうしね。でもさ、船木に師事するってところなんて超純粋でいいじゃん。

――それも船木をずっと見てる人じゃないとわからないおもしろさがあると思いますけど（笑）。

井上　そうそう。だから俺、わかってもらおうと思ってないんだよね。今回もチョロくんと二人で「柴田を語れ」って言われても「イヤだな」っていう部分があるんだよ。弁護する気もないし。

――企画の根本から否定しますね（笑）。

井上　だってそうなんだもん。プロレス文脈に興味なきゃわかんないだろうなっていうのがあるし。それこそ時代が違うわけだからさ。でも、俺個人的には、プロレスで「これぞストロングスタイル！」っていう試合ができる男が、20代で新日本を飛び出したのち、前田日明と出会ったり船木に師事したりしながら本当のストロングを求めて練習してるのって、凄く純粋だし、ある意味じゃ間抜けだし、けっこう俺にとってはツボなんだけどね。

――せっかく、リスク覚悟で飛び出してるのに、『HERO'S』やDREAMで一足飛びに上のほうで使われてるから、そういうイメージがなかなかないのがマイナスかもしれないですね。

井上　結果が伴ってないのに、ちょっといいポジション与えられすぎ？

――格闘技だけ観てるファンからしたら、「純粋に強さを求めるなら、下から這い上がってきてください」って思うでしょうね。

井上　ちなみにあのヤマヨシをキッチリ秒殺したけど、あれはノーカンなの？（笑）。

――ヤマヨシが壁になれなかったのが悪かったかもしれない（笑）。

井上　それに、負けても上のほうで使われてるってことが許せないんなら、それは柴田にじゃなくて主催者に文句を言うべきだよね。別の見方をすれば、主催者側からのオファーに対して、選り好みしないから出場の機会も多いんだろうし。それって現実が見えてるし、そこはけっこう大事な部分だと思う。

噛ませ犬か　狂犬か　柴田勝頼おまえはどっちだ！

――今回、柴田が秋山に噛みついたことについて「顔じゃない」とか「なんで柴田が秋山と闘えるんだ」みたいな否定的な意見がファンからも上がってますけど、これはプロレス頭を働かせば、対戦を指名したのは、柴田じゃなくて〝逆〟だっていうことがわかりますしね。

チョロ　だから、柴田も自分から対戦アピールっていうかたちをとったら、ファンから「おまえが秋山とやるのは100年早い」とか言われて、バッシングされるのは百も承知なんですよ。それでも秋山とやる心意気というか、これが最後通告で、ここでヘタな闘いをしたら、もう声がかからなくなるっていうことも自覚してると思うし。

――ホントにそうなんですかね？

チョロ　いや、ホントに本人はそれぐらいの気持ちはあると思う。

――だから、今回のポイントは柴田が秋山の復帰戦の相手に〝指名〟されたっていうことだと思うんですよ。

井上　じゃあ優遇じゃなくて冷遇されてんじゃん（笑）。顔見せの噛ませ犬に選ばれたってことね。

――おそらくそういう構図だと思うんですよね。要はナメられてるんですよ。そこを柴田が屈辱と感じるか、そしてファンもその気持ちを共有できるかが、秋山vs柴田戦のポイントなんじゃないか、と。

チョロ　噛ませ犬的な感じで登場するのは、屈辱ではあるんだけど、柴田なら秋山戦でも「何かやってくれる」って期待感はあるよ。これまでヤマヨシ戦だけじゃなく、負けた

勝っても負けても爪痕を残す！ 柴田勝頼MMA PLAY BACK



[2007.3.12 HERO'S]

○vs山本宜久

（1R 0分09秒 TKO）

柴田のMMAデビュー戦は、ヤマヨシの蹴りに右フックを合わせて、なんとわずか9秒で秒殺勝利!! 興奮のあまり試合後、吠えまくる柴田は、ここから"狂犬レスラー"というディック・マードックチックな異名で呼ばれるようになった。



[2007.7.16 HERO'S]

×vsハレック・グレイシー

（1R 6分20秒 腕ひしぎ十字固め）

MMA2戦目で早くもグレイシーと対戦。柴田はホリオンの三男ハレックをスタンドのパンチでぐらつかせるも、テイクダウンされると、マウントを奪われ、そこから腕十字という、かつてのプロレスラーvsグレイシーを再現するようなかたちで敗れた。



[2007.9.17 HERO'S]

×vs桜庭和志

（1R 6分20秒 腕ひしぎ十字固め）

ハレックに敗れてしまった柴田だが、桜庭戦というビッグチャンスが到来。柴田はテイクダウンを奪われると、下から闇雲にパンチを出して桜庭を怒らせる。おかげで強烈なパウンドを浴びて十字を取られたが、桜庭の感情を引き出したのはさすがだ。



[2007.10.28 HERO'S KOREA]

×vsホ・ミンソク

（2R 1分31秒 KO）

"敵地"韓国に乗り込み、ホ・ミンソクと対戦。柴田は、美濃輪をパンチで追い込んだミンソクに殴り合いを挑むが、ミンソクのタフネスぶりに、苦戦。根性のド突き合いとなったが、スタミナとパンチ力に勝るミンソクにKO負けを喫してしまった。

柴田は勝っても負けても必ず「凄い」と思わせる一瞬を見せてくれる

桜庭戦もハレック・グレイシー戦も、ジェイソン・ミラー戦も、何かしらの"痕跡"は残してるし、完敗といわれる試合でも、心に引っかかる試合はしてくれてるんで。秋山戦も、もの凄く力が入ると思う。

——これだけ下馬評が低いと、逆に何をしでかすかわからないところってありますからね。

井上　でも、また俺個人の気持ちで申し訳ないけど、俺は勝敗がどうのこうのって心底気にならないんだよね（笑）。勝とうが負けようが、その人の凄い部分が一瞬でも垣間見えたらそれでいいやって感じだから。

チョロ　柴田の試合では、勝った試合も負けた試合も、全部そういう一瞬が垣間見えてるんですよ。だから、どの試合もハズレがない！　俺にとってはだけど。

——一般の格闘技ファンにはそれほど届いてなくても、柴田ファンには、その一瞬が見えてるわけですね。

井上　逆にさ、主催者側はどういう判断で柴田を使ってるんですか？　ああして負けがこんでる人間に対して、いいマッチメイクをするっていうのは、何かしらの意味があるわけじゃん。

——やっぱり"色気"はありますよね。秋山成勲vs柴田勝頼っていう試合も、実力や実績では釣り合わなくても、リングに上がった"画"は凄くハマるだろうなって僕も思いますから。

井上　ハマっちゃうんだよね。俺、K—1ルールでやった天田ヒロミ戦とかも凄い好きだけどな。K—1ルールでほとんど勝ち目があるわけないんだけど、いきなり最初にダウン奪ったりして、燃える"一瞬"を見せてくれたから。

——だから柴田って、負けても「まだ何かを秘めている」っていう幻想を持った選手ですよね。だから「何かをやってくれる」という期待感も出てくる。ただ、これだけ負けが続くと、それもキツくなってくるというか、その幻想が小さくなってきてるのが気になりますけどね。いまの柴田が「やる前に負けること考えるバカいるかよ！」っていうセリフを使っても、単なるパロディになっちゃうから。



チョロ　本人も、秋山とやるんだったら、もちろん本音では負けることも考えてるんだろうけど、今回はホントに後がないっていう気持ちでいると思うから、そこに期待したいけどね。

井上　これでさ、柴田も総合で結果が出ないなら、いつでもプロレスに戻ろうとしてるっていうんだったらアレだけど、そういう姿勢は見えないし。ホントいまどき変わったヤツだと思うし、俺の思う本来の正しい新日本プロレスのレスラーの姿勢だと思うけど。

チョロ　カッコつけの部分もあるんでしょうけど、本人はやっぱり、負けっぱなしでプロレスに戻れないと思ってますよ。

——その覚悟が、柴田ファンには届いてるけど、一般の格闘技ファンにはそこまで届いてないという、そのズレがあるのかもしれないですね。

井上　だから、柴田はせっかく、新日本プロレスを辞めて総合の世界に行くっていうバカなことやってるんだから、もうとことんバカやってほしいよね。ひょっとしたら遠回りのはずが近道なのかもしんないし。

チョロ　実際、格闘技に関しては、バカといっていいぐらい純粋に取り組んでますからね。最近も練習しすぎて、ミドル級は84キロ以下の契約なのに、練習後は80キロぐらいしかないらしいし。

井上　もう、そこまで絞ったんなら、ウェルター級まで落としちゃったら？

——ウェルター級に落としてマッハと闘うとか、それはなんか観たいですね（笑）。

井上　観たいでしょ？　そういうふうに思わせる男なんだよね。

——じゃあ今回、秋山に負けたらウェルター級転向を勧めてみますか！

チョロ　いや、でも秋山相手にもなんかやってくれそうな気がする。周りがバカ負けするぐらいバカになって何かしらの方法で勝つんじゃないかな。プロレス時代からの得意技のPK……は反則か（笑）。

——なんだかわからないけど、何かはやってくれそうだ、と。では、『DREAM・5』で柴田が何かをしでかすことに期待しましょう！

【08年7月6日／『kamipro』編集部にて収録】



[2008.5.11 DREAM.3]
×vsジェイソン・"メイヘム"・ミラー
(1R 6分57秒 TKO)
DREAMミドル級GPの最後の一枠として、メイヘムと対戦。柴田は実力者メイヘムにグラウンドで押さえ込まれ、パウンドの雨を長時間浴びるが、根性で耐え抜く。最後はレフェリーが試合を止めたが、最後まで勝負をあきらめないという魂は見せた。

魔王・秋山よ
柴田を〝殺せ〟

7.21DREAMデビュー戦
「ただ勝つだけじゃダメ」を魔王は理解できるか?

文／田中太陽　撮影／平工幸雄

夢のリングへ忍び寄る〝黒き影〟に、思わぬ男が待ったをかけた！　すべてのMMAファンが注目せざるをえない、〝魔王〟秋山成勲のDREAMデビュー戦。その対戦相手という重き任を、なんとあの〝狂犬レスラー〟柴田勝頼が務めることとなったのである！

もともとはミノワマンやジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーといった個性派がリストアップされていたというが、今回は情熱的な対戦アピールによって、柴田が秋山戦を勝ち取った図式になる。トークショー中の対戦要求から実現の運びというこの旧時代的段取り、現代のMMAファンがどのように受け止めるかという点でいささかの懸念は残るが、とにもかくにも闘いの列車は動き出した。問題はこのカードの意味を、当事者である秋山自身がどう捉えているかだ。

さる7月5日、『DREAM・5』のプロモーション番組『花よりDREAM』に出演するため赤坂サカスに降り立った〝魔王〟は「(柴田戦は) 全然予想外でしたね。でも、おもしろいんじゃないか」と、白々しいながらも肯定的な発言をしてみせた。が、もしも秋山が「勝ってDREAMに華々しくデビューだ！」程度の認識でいるのならば、これは大甘と言わざるをえないのである。

確かに現在MMA4連敗中であり、いずれの試合も一方的な敗北を喫している柴田は、秋山にとって強敵とは言いがたい。だが逆に言えば柴田は、そのような戦績にもかかわらずまだまだ〝商品〟として成立する選手なのであり、いわば〝強さ〟に依らない商品価値をもつ、秋山とは真逆に位置するタイプのプロなのだ。

かつて「負けて人気が出る」ということが理解できないと語り、結果のみを追い求めて〝魔王〟となった秋山と、連敗を重ねてなお存在感を保つことで、秋山戦というビッグチャンスをつかむに至った柴田。彼らは現代MMA界において、それぞれ別のかたちで〝例外〟としてプロたりえている稀有な存在なのである。しかし、だからといって両者の邂逅がドリームマッチになるとは限らない。

言うまでもなく秋山は、いまだ日本においては大ヒールとしてまかり通っている選手だ。その需要はもちろん「負けるところが見たい」というファンの願いと、秋山自身の悪魔的な強さによって成り立っている。つまり秋山には、常に勝つか負けるかわからない、ギリギリの試合が求められているということだ。

ならば今回のカードはどうか。デニス・カーンや三崎和雄のような輝かしい実績を持たない柴田に〝打倒・秋山〟を託そうとする熱気は、ファンのあいだからあまり感じることはできない。ましてや現在「秋山が勝ってくれればそれでいい」というようなファンがほぼ皆無である以上、実績に応じた勝敗予想どおりに秋山が勝利を収めたところで、それによって大きく支持されるとは到底思えない。「ただ勝つだけではダメ」という概念が、はたして秋山に理解できるかどうかだ。

過去に何度もDREAMを救ってきた〝かけ算のマジック〟というものがある。青木真也とJZカルバン。エディ・アルバレスとヨアキム・ハンセン。宇野薫と石田光洋。「ただ勝つだけではダメ」ということを充分に理解していた彼らは、互いの力をかけ合わせることで名勝負を創り出し、通常の〝足し算〟とは一桁も二桁も違う巨大な対価を手に入れた。

しかしながら秋山が秋山のまま、柴田が柴田のままぶつかり合うとするならば、そこに成立するのは数式ではない。互いの持ち点を奪い合い、どちらかがゼロになった時点で勝敗が決するゼロサム・ゲームである。勝者は相手から奪った点数をそのまま対価として得ることになるが、秋山の持ち点はあまりにも多く、柴田の持ち点はあまりにも少ない。ここにドラマを介入させるのは、どう考えても困難である。

秋山がこの一戦からプラスを得るためには、もう柴田を殺すしかない。

もちろん言葉どおりの意味ではなく、プロ格闘家としての柴田にとどめを刺すということである。いままで以上の悪魔性をもって凄惨に柴田をぶちのめし、巨大なマイナスを背負わせるしかないのだ。そこから得られる〝負の財産〟は、まちがいなく〝魔王〟を〝魔王〟たらしめてくれるだろう。

赤坂サカスの収録にて秋山は「マイク・タイソンか朝青龍と闘いたい。悪いのを懲らしめようかな」という、にわかには信じがたい発言を残している。すべてを自覚したうえでの自虐にせよ、完全なる天然にせよ、パブリックイメージを一切わきまえないこのセンスはやはり怪物的である。これほど特異な存在が「格下を倒してめでたしめでたし」などという平凡なシナリオに収まることは、はたして正しいのか？　やはり怪物は怪物らしくあるべきだ。

あくまで〝黒き闘い〟を見せ続けることこそが、秋山に残された唯一の道なのではないだろうか。



7月5日、赤坂サカスのイベントで、柴田が挑戦表明したことを知らされると「マジっすか? いま初めて聞きましたよ。アチャー」と、白々しく (?) 驚いた秋山。終始ゴキゲンで余裕の笑みをたたえる魔王は、柴田戦でどんな闘いを見せるか?



関係者、識者、読者が一斉予想!!　さぁ、みんなで考えよう〜!!

DREAMライト級GP決勝ラウンド
夢の大予想!

ついに出揃ったDREAMライト級GPの4強たち。
7.21『DREAM.5』の決勝ラウンドでは壮絶な潰し合いが展開されること間違いなし!
そこで『kamipro』では選手、関係者、読者がこぞって、この大混戦の行方を徹底予想!!
GPを制し、DREAMをつかむのはいったい誰だ?　さぁ、みんなで考えよう〜!

構成／真下義之　青木真也、川尻達也、エディ・アルバレス撮影／菊池茂夫　宇野薫撮影／吉場正和

読者アンケート第1位は ぶっちぎり!!

青木真也!

読者の選ぶ優勝候補はズバリ、ワオ木さん!! 『kamipro Hand』で行なった緊急アンケートは短い投票期間にもかかわらず凄まじい投票数でライト級決勝ラウンドへの期待値の高さを証明。中でも、ぶっちぎりの一番人気を獲得したワオ木さんは、この民意に応えられるか。いまこそやれんのか!?



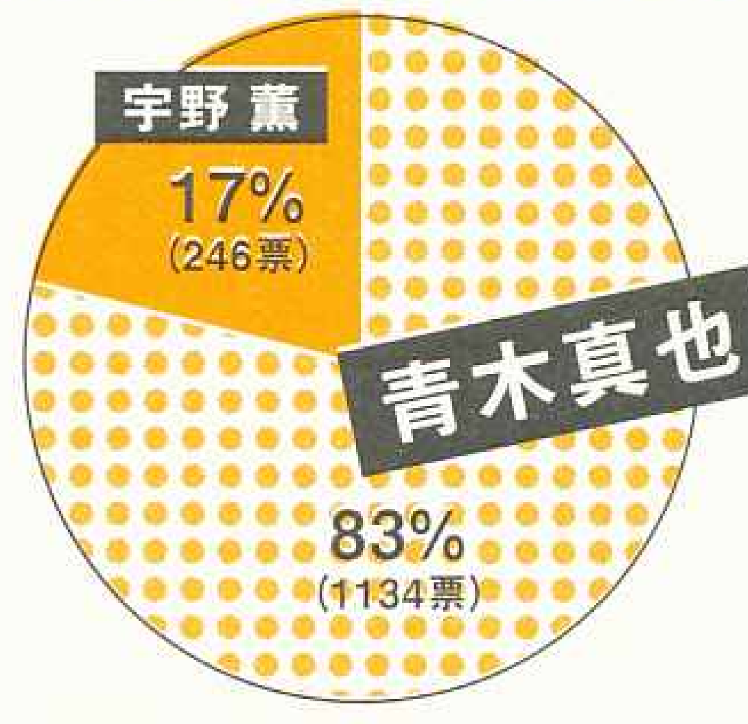
あなたが予想するライト級GP優勝者は?

優勝予想ではカルバン、永田に連勝したワオ木さんに「日本のバカから世界のバカに」「青木の実力が証明される日」と最強願望が炸裂し、ほかの3人を引き離した。だが底知れぬアルバレス、川尻の爆発力、進化するベテラン・宇野を評価する声も。いったいサバイブするのは、誰だ?

青木真也vs宇野薫戦の勝者は?



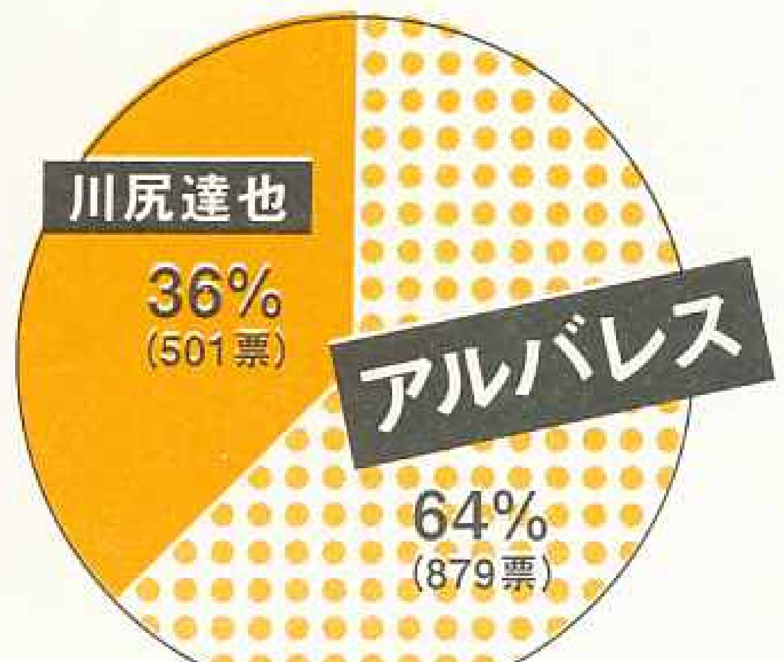
新旧ライト級対決の予想は青木票に集中!! 「ありえない関節技を期待」「衝撃的な一本勝ちを希望!」と1、2回戦で爆発した天才グラップラーの妙技への期待は大きいが、一方で「宇野の経験はこのメンバーではズバ抜けている」「いまの宇野は危険。判定ならヤバイ」とベテランながら、上昇気流に乗る宇野の評価も高いが……どうなる?



川尻達也vsエディ・アルバレス戦の勝者は?



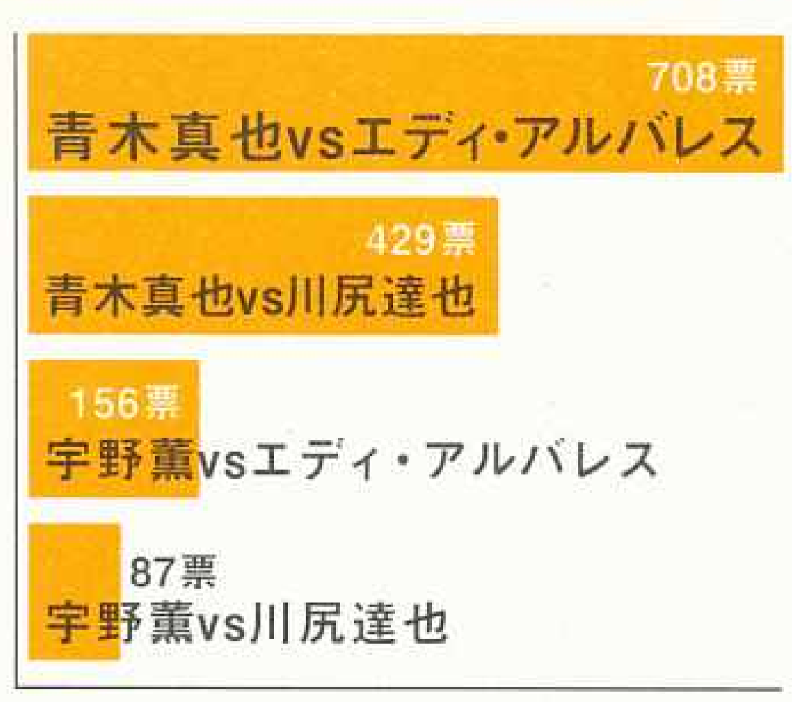
2回戦で大激戦の末、ハンセンを下したアルバレスが票ではやや上回ったが、川尻の日本人離れしたスタミナ&瞬発力を推す声も多数。さらにアグレッシブなファイトスタイルが身上の両者の激突には、「15分間ノンストップの激しい試合」「超ハイレベルな打撃戦に期待」と、とにかく真正面からド突き合う名勝負への予感が満載!



あなたが予想する決勝のカードは?



決勝のカードは青木vsアルバレスの24歳同士、日米若手対決に票が集中。「どちらが勝ってもおかしくない」好カードだ。また青木vs川尻のPRIDE対決は「どちらを応援していいか複雑」といった声も。そして得票数自体は少ないものの宇野vs川尻の因縁の一戦は「一番見たい」という声が多かった。いったい決勝で向かい合うのは誰と誰だ?



●青木、宇野、川尻、アルバレスのベスト4は贅沢すぎる! まさにうに、イクラ、カニ、大トロの豪華海鮮丼やぁ!

●川尻vs宇野がやっぱり観たかった……。けど最近、消化不良気味な試合が続いた川尻もアルバレスならば噛み合いそう。

●決勝の予想は青木が疲れたアルバレスにサクッと跳びつき腕十字。でもって大晦日に五味戦。来年はUFC!

●日本人二人をなぎ倒してエディが優勝すると思う。決勝入れて4試合。一番厳しい相手と闘ったのはエディでしょ。

●感情むき出しの闘いが見たい。勝った者は喜びを爆発させ、負けた者は周りを気にせず、悔しがる、そんなGPが見たい

●宇野の意地を見たいけど、青木のほうが上でしょ。川尻がアルバレスに勝ち、そのまま優勝したら、黙って頭下げます。

●判定での勝敗が決まるのはやめてほしいですね。白黒はっきりした決着でベルトをものにしてほしい。

●青木優勝でワォワォ。

●良くも悪くも期待通りにはいかないはず。そこがまた楽しみ。

●日本総合格闘技界の復権。

●儚くてもいい! いい夢見せてくれ! 去年、苦労した青木と川尻で最強を決めてほしい。

●このトーナメントに、期するものを一番持っているのは宇野薫だと思う。

●ワオ木が優勝しないとおもしろくない。

●五味にヤキモチ焼かせるくらいの熱い戦いを!

●勝った人が、なんらかのドリームポーズをしてほしいです。

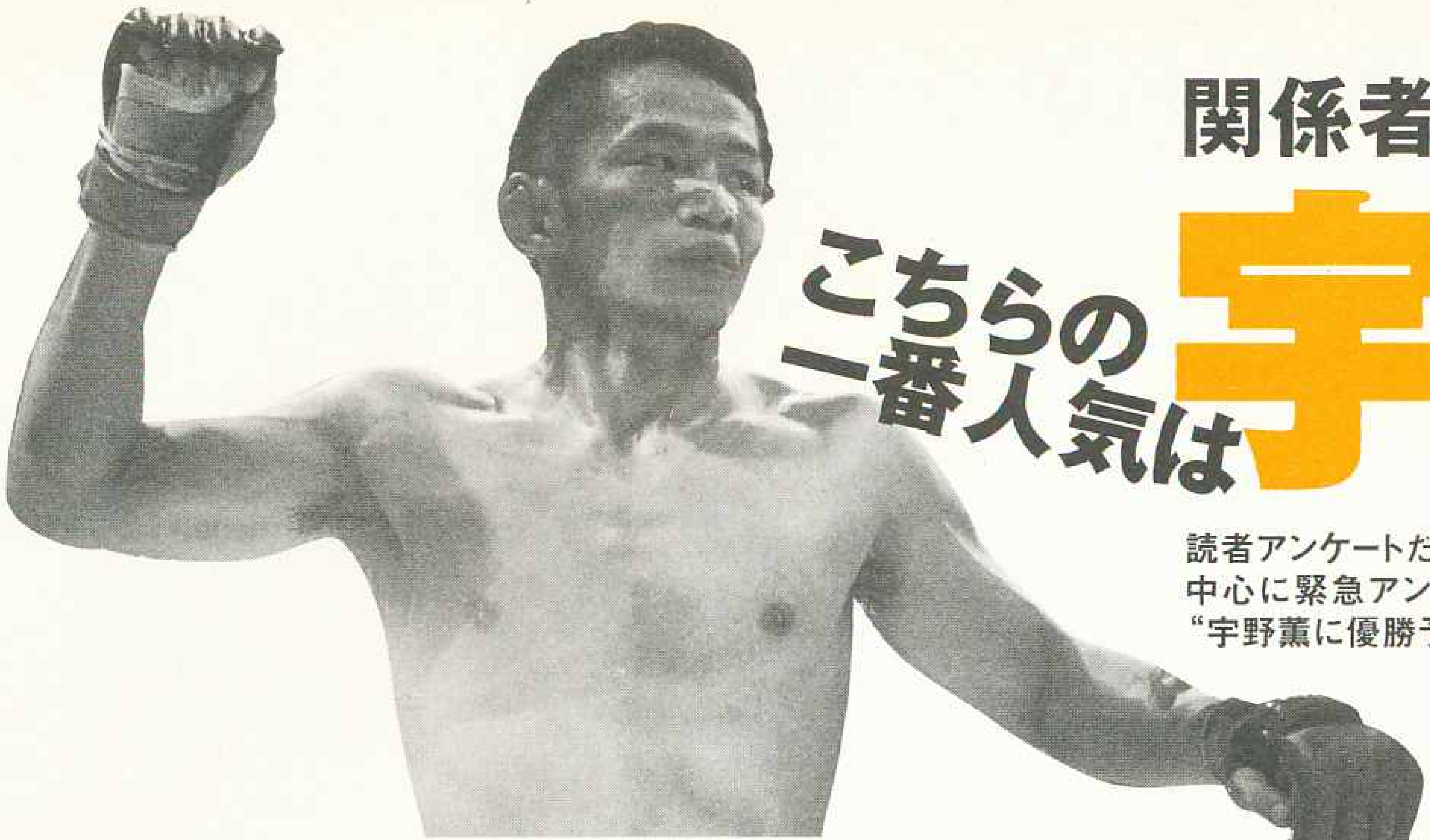
●ワオ木さんが前に「一揆だ!」とおっしゃっていましたが、もうそんなんではすまない……レボリューションじゃ!

●ここで川尻が飛び出すことで、ライト級に波が起こりそう。超青木ファンながら、川尻優勝に期待!

●会場の熱、このカードならたまアリでやってほしかった。

●蝶野が優勝した第一回G1のような意外性のある結末。青木=武藤、川尻=橋本で、優勝は宇野=蝶野以外にない。

●青木の最強伝説がこの大会から始まる。



関係者、識者アンケート

こちらの一番人気は宇野薫！

読者アンケートだけでなく、今回は『kamipro』の執筆陣や関係者、識者を中心に緊急アンケートを実施!! こちらも同じく……と思いきや、こちらは“宇野薫に優勝予想が集中!! その人気の秘密を読み解け!!

❶青木真也vs宇野薫の勝者、決まり手は?
❷川尻達也vsエディ・アルバレス戦の勝者、決まり手は?
❸ライト級GP優勝者、決勝の決まり手は?

曙

1966年5月8日、米国ハワイ州出身。第64代横綱。K－1には03年12月31日『Dynamite!!』から参戦。FEG主催のイベントでは、なかなか白星を挙げられずにいたが、唯一、角田信朗から判定勝ちを収める実績を持つ。また、プロレスでも大活躍中の横綱は、全日本、新日本、『ハッスル』など幅広く活躍。203センチ、200キロ（自称）。

❶宇野薫 決まり手 無回答
❷わかんないッス
❸宇野薫 決まり手 無回答



【総括】
個人的には宇野さんに勝ってほしいッスね。宇野さんは総合格闘技のパイオニア的な存在なんで。一回ね、花持たせたいじゃないですか。ここまでやってきたらチャンピオンにならなきゃいけないですよ！ だから頑張ってほしいッス。

川尻vsアルバレス戦？ いや、そこはわかんないです。ボクは個人的に宇野さんと練習とかをやったからね。ホント練習するからね！ 宇野さん、おかしいよ！

岡見さんはUFCで、宇野さんがDREAMで挑戦するんで、ボクは『ハッスルGP』で頑張ります（笑）。そのときは3人ベルト姿で表紙でお願いします。

阿部タケシ

職業＝ライター。東京都葛飾区在住。好きな食べ物……『与作』のかつお。よく出没する場所……奥戸橋付近にあるモスバーガー、葛飾区役所前にあるステーキハウス『ビリー・ザ・キッド』。好きなフロム・ヘル……アイアン・フィンガー・フロム・ヘル。

❶宇野薫 ウノプラッタ（初披露）から掟破りのフットチョーク
❷エディ・アルバレス アイアン・フィンガー・アルバレス
（どんな技かは不明）
❸宇野薫 左フック一閃、TKO



【総括】
そうですねぇ。やっぱり優勝予想は宇野薫選手ですね。『HERO'S』のときから応援してます。以前、永田克彦に勝ったときは、ちょっと複雑でしたが……。無尽蔵のスタミナ、軽快なフットワークから繰り出されるパンチ、安定感抜群のグラウンド。すべてを使ってぜひ頂点に！ 川尻選手とは決勝で当たってほしいという願望はありますが、そこはうまくいかないトーナメントの厳しさがありそうな気がするので。宇野vs川尻はぜひ五体ピンピンの状態でぶつかり合ってほしい！

あ、7・21は北海道・月寒アルファコートドームでIWGPヘビー級選手権試合、武藤敬司vs中西学も行なわれます。こちらも注目ですよ、奥さん！

井上崇宏

編集プロダクション、ペールワンズ代表。前身は『グレート・アントニオ』の営業本部長で、ダナ・ホワイトの「Tシャツ屋に何ができる！」発言がもっとも胸に突き刺さる日本人。

❶宇野薫 判定
❷エディ・アルバレス KO
❸宇野薫 判定



【総括】
❶ズバリ言って、青木真也が優勝して泣きながらマイクで絶叫しているシーンなら、目に浮かびすぎるので、それならここは宇野に勝っていただいたほうがおもしろいというか。❷川尻vsアルバレスは、アルバレスの順当勝ち。ちなみにアルバレスには俺のタートルズのフィギュアコレクションを見せてあげたい。❸そして決勝。アルバレスが優勝して、歓喜のバック転&ナオンとの熱い抱擁シーンなら、目に浮かびすぎるのでそれなら宇野優勝のほうがおもしろいというか。よって、優勝は宇野薫に決定です。

上井文彦

新日本プロレスでは敏腕営業マンとして貢献し、その後、プロレス事務所『ビッグマウス』を設立。現在は西口プロレスのプロデューサー的存在であるかたわら、本誌・読者ページの人生相談も引き受けている。

❶宇野薫 決まり手 無回答
❷無回答
❸宇野薫 決まり手 無回答



【総括】
やっぱり、宇野選手に優勝してほしいですよ！ そりゃ青木選手が強いのは高瀬（大樹）選手からさんざん聞いてるし、川尻選手も修斗で負けてないしね。あのヨアキム・ハンセンに勝ったエディ・アルバレス選手も素晴らしい試合をしたんでしょ？

それは充分わかっているけど、ボクにとって宇野選手は“憧れの君”みたいな存在で本当にリスペクトしている選手ですからね。新日本プロレス時代からオファーしているぐらいだから！

でも、長年のダメージの蓄積でいうと、ちょっと心配なんですけど、宇野選手は会場とかで会っても、いつも挨拶してくれるしね、本当にぶっちぎって優勝してほしいです！

岡見勇信

パンクラス、PRIDE武士道、『HERO'S』等で活躍し、06年からはUFCに参戦。現在までの戦績は6勝1敗。いま日本人で一番UFC王者に近い男と言われている。和術慧舟會東京本部所属。188センチ、84キロ。

❶宇野薫 決まり手 無回答
❷無回答
❸宇野薫 決まり手 無回答



【総括】
宇野さんとは、これまで何度も練習をさせてもらってますけど、ホントに強い選手ですし、鉄人だなって思うぐらい凄い練習をされているので、僕は優勝できると思っています。宇野さんにチャンピオンになってもらって、僕もそれに続きたいですね。

カン・ナムジョン（『MFIGHT』記者）

韓国最大手MMAニュースサイト『MFIGHT』記者。英語が堪能で、日本、アメリカを飛び回りながら韓国に格闘技ニュースを配信している。自身も柔術を学び（青帯）、日本滞在時にはGRABAKAで練習をしている実践派記者。

❶宇野薫 決まり手 無回答
❷エディ・アルバレス 判定
❸宇野薫 判定



【総括】
❶試合のポイントはレスリングとグラップリング力。青木は永田戦で素晴らしいテイクダウンの技術を見せたが、宇野をテイクダウンするのは難しいだろう。関節技なら青木が上だが、青木のパウンド防御力は未知数。宇野がトップをキープし、関節技のディフェンスに力を注ぐ試合をするなら、青木には苦しい試合となる。❷互いに似たタイプの選手。勝負所は最初のテイクダウン争い。

相手の上を取ったものが勝つ可能性を高めるだろう。この点、身体能力に優れ、レスリング力で上回るアルバレスが有利。❸スタミナに自信のある宇野に対し、アルバレスは川尻との死闘で体力を消耗しているだろう。宇野が足を使って闘って、アルバレスに判定勝ちすると予想。

金沢克彦

1961年12月13日生まれ。モーリス・スミスと生年月日が同じという、生まれながらのファイター（笑）。仕事＝プロレス観戦、趣味＝格闘技観戦。元『週刊ゴング』編集長でもある。

❶宇野薫 判定
❷エディ・アルバレス 1R TKO
❸宇野薫 チョークスリーパー

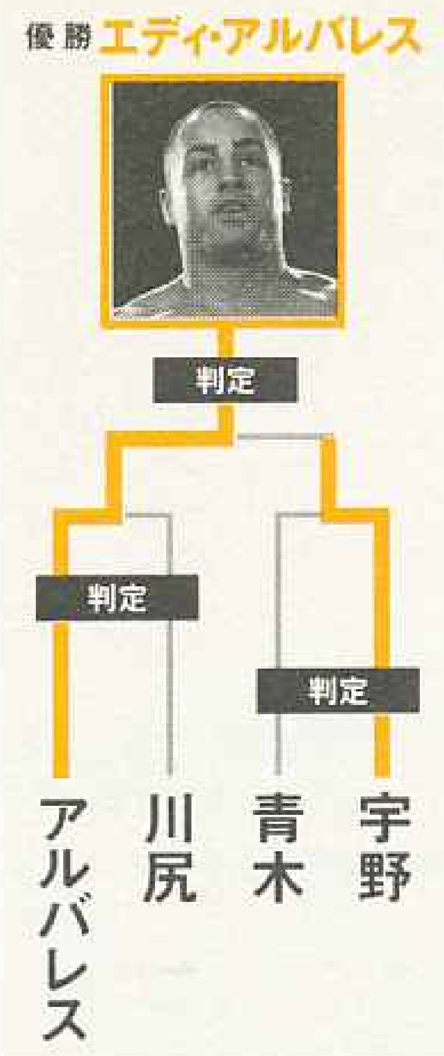


【総括】
❶飛ぶ鳥を落としちゃう勢いの青木は強いし、みんな青木優勢と書くのだろうけど、宇野を極めるのは至難の業だと思う。結局のところ、フルラウンド闘って、宇野のスピードとアグレッシブな動きのほうに有利なポイントがつく。❷ヨアキムを破ったエディは沈着冷静で穴がない選手。川尻は入れ込みすぎると、思わぬ一発を食らいそうな予感。❸宇野薫が優勝！　なんとなく今回のライト級GPに懸けてるものがほかの選手とは違うような気がする。宇野薫の集大成というか、総合格闘技を背負っているというか、時代の節目に名を刻み込むというか……。最近、格闘技を観ても、プロレスを観ても、キャリアの大切さを見せつけられる試合が多い。宇野がそれを体現して有終の美！

金原弘光

1970年10月5日、愛知県尾張旭市出身。U・K・R・所属。UWFインターナショナル、キングダムを経て、リングスに移籍後は破竹の13連勝を記録。PRIDEではシウバ、ミルコと死闘を展開。現在はパンクラスに参戦。178センチ、93キロ。

❶宇野薫 判定
❷エディ・アルバレス 判定
❸エディ・アルバレス 判定

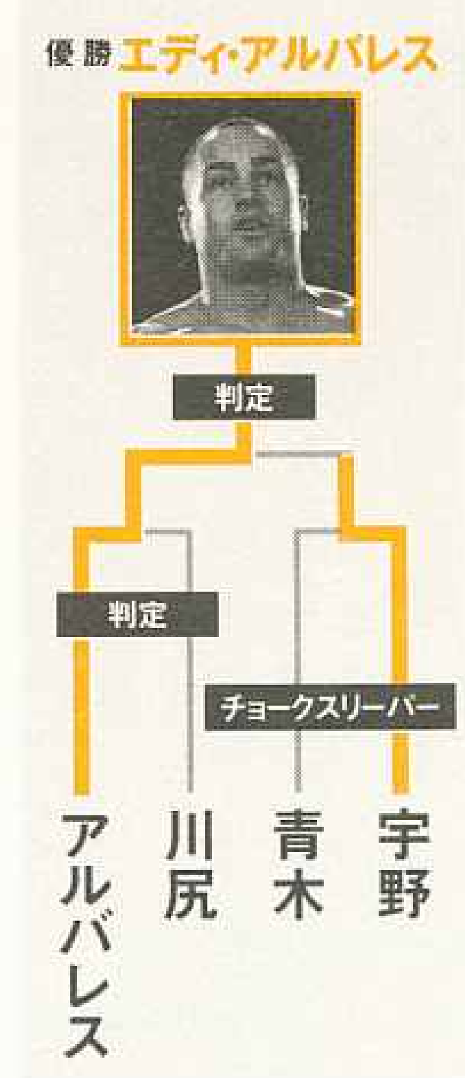


【総括】
この中で、一番実力があるのは青木くんだと思うんだよね。総合が寝技だけだったら、青木くんはほかの3人の誰とやっても勝つと思う。でも、みんな青木くんには判定勝ちを狙ってくると思うんだよね。とくに宇野くんは傾向と対策をしっかり練ってくるタイプだから、所くんとやったときのように、相手の寝技に付き合わずに、わずかにポイントで上回りそうな気がするね。
でも、総合力という点では、アルバレスのほうが宇野くんや川尻くんより上だと思うから、最終的にはアルバレスが判定で勝って優勝するんじゃないかな。

菊地成孔

音楽家、文筆家、慶応大学文学部講師。『紙のプロレス』愛読者を経て『kamipro』準レギュラー。格闘技評論書『サイコロジカルボディブルース解凍』（白夜出版）がこのたび文庫化。

❶宇野薫 チョークスリーパー
❷エディ・アルバレス 判定
❸エディ・アルバレス 判定

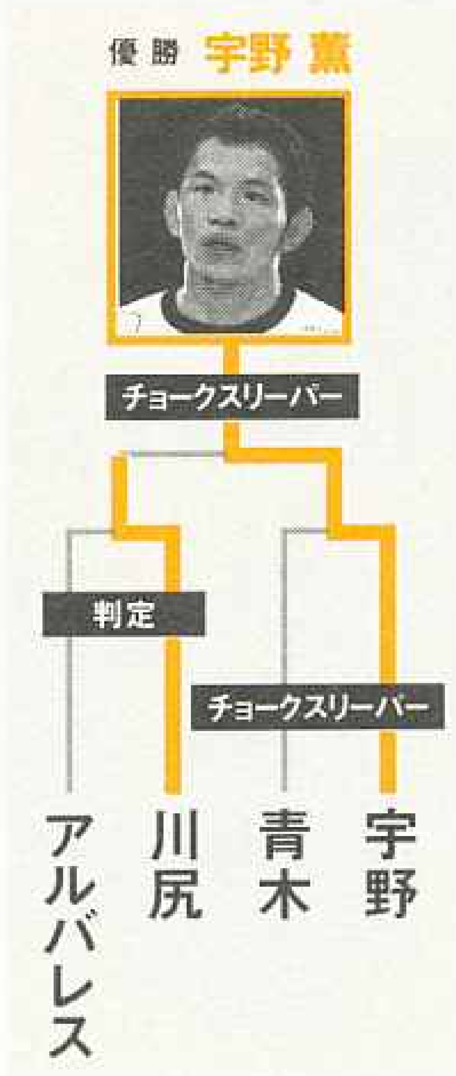


【総括】
予想は苦手です。「こうなってほしいなあ」というのと「こうなるだろうなあ」というのがうまく統合できないからですが、ワタシのその両者をなんとかマッシュして落とし込んだら、だいたいこういう感じになりました。ゆえに「こうなってほしいなあ」は宇野の優勝で、「こうなるだろうなあ」は青木の優勝です。

郷野聡寛

ご存知、GRABAKA所属の実力派ファイター。修斗、パンクラス、PRIDEを経てUFCに参戦。おなじみの入場パフォーマンスでオクタゴンにある意味、戦慄を走らせた。現在は右手負傷で欠場中。176センチ、77キロ。

❶宇野薫 チョークスリーパー
❷川尻達也 判定
❸宇野薫 チョークスリーパー

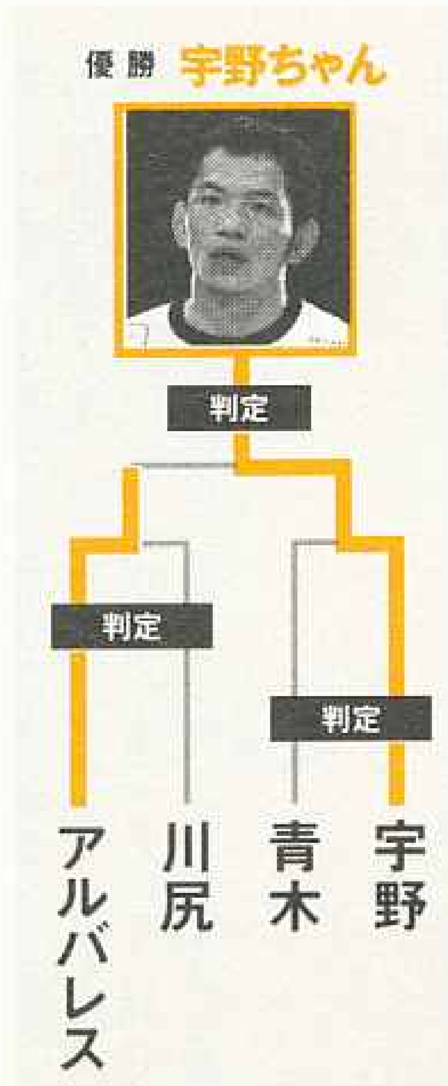


【総括】
俺としては宇野くんに優勝してもらいたい。デビューの年が一緒だったり、アゴの骨折を経験してたりと親近感があるし、俺より年下だけど選手としてだけでなく、人としても尊敬できる数少ない選手だからね。現実的な、格闘能力や勢いでの下馬評は高くはないかもしれないけど、それをカバーできる誰にも負けない経験と懐の深さで活路を切り開いてほしい。
ということで、準決は宇野くんが青木くんの寝技を高いディフェンス力でしのいでしのいでしのいでしのぎきって、最後の最後にパンチ効かせて→崩れた青木くんの背後を奪い、チョークで一本勝ち。
そしてその試合が柔として、おもいっきり剛の試合になりそうな川尻vsアルバレス戦は、お互いバチバチにやり合って削り合った結果、ファンは決勝で宇野vs川尻戦が観たいと思うので、僅差で川尻くん。
決勝は、石田くんとの試合でも見せた数少ないチャンスをものにする宇野くんの勝負強さが発揮されて、最後も必殺チョークでビシッと極まったら、イベントとしてきれいな終わり方、ハッピーエンディングでしょうね。そんな人情予想でお願いします。

ザ・グレート・サスケ

UFO研究家やトレジャーハンター、予言家、元県会議員などなど、さまざまな顔を持つプロレスラー＆みちのくプロレス会長。ちなみに宇野薫とは、かつて『猪木祭り』で対戦経験もあったりする。178センチ、88キロ。

❶宇野ちゃん 判定
❷エディ・アルバレス 判定
❸宇野ちゃん 判定

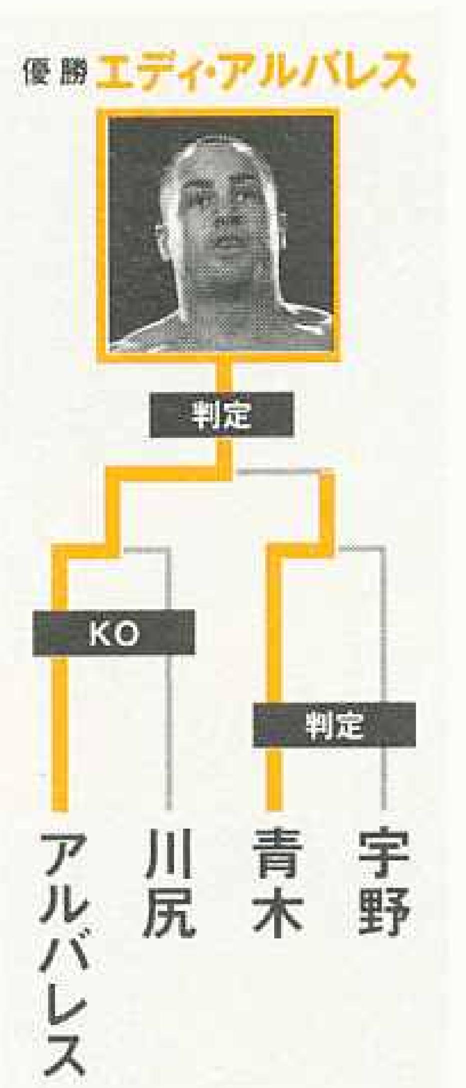


【総括】
青木戦はキャリアとスタミナで宇野ちゃんの勝利かな。宇野ちゃんのフットチョーク返しが見たい！　でも判定に持ち込まれる、と。決勝戦は宇野ちゃんがエディに判定勝ち。しかし、エディの高速パンチのダメージは大きく、試合後エディが「宇野、おまえはもう死んでいる」と、つぶやいた直後、宇野ちゃんが倒れてしまい優勝セレモニーは行なわれず。宇野ちゃんは一晩検査入院のあと、異常なく退院。ライト級GPは激戦に次ぐ激戦なり！

高崎計三

去年はボードッグ・ライター、今年はターザン・ライター（notタイラー）と、「長期ビジョンがない」のがバレバレの40歳目前。去年は海外が多かったが今年はなぜか国内地方出張が増えて、この原稿も沖縄で書いてます。

❶青木真也 判定
❷エディ・アルバレス KO
❸エディ・アルバレス 判定



【総括】
んー、やっぱり俺の立場としては「アルバレス優勝！」と最後まで言い続けるのが礼儀かと思い、それを大前提に予想したので個人的な願望やガチ予想とはちょっと違う部分もあるんだが……。で、戦極ライト級はホドリゴ・ダムが制して、〝MARS最強〟が証明される、と（もういい）。
青木vs宇野はさすがに宇野がサブミッションは極めさせないものの、勢いで青木に軍配。ただ、青木のトーナメントというとDEEPウェルター級での中尾受太郎戦も頭をよぎるが……。川尻vsエディはまさに前述の前提によるもの。個人的には川尻vs青木、川尻vs宇野も観たいのは確か。
つーか、もうこのメンツだったら、総当たりリーグ戦やればいいんですよ。そうすりゃ1年ぐらい楽しめるでしょ？

ダナ・ホワイト（UFC代表）

❶❷❸回答なし
UFC広報より「ダナ・ホワイトに対してDREAMの質問をするのは、お控えください」

ダニエル・ハーバートソン（MMAジャーナリスト）

日本在住のMMAジャーナリスト兼フォトグラファー。おもにsherdog.com、ESPNに寄稿している。自身もブラジリアン柔術、ボクシング、レスリング、アマチュアMMAの試合も経験しており、いまも総合格闘技の練習を続けている。

❶青木真也 判定
❷川尻達也 判定
❸青木真也 三角絞め



【総括】
❶青木でも過去8年間、関節技で極められていない宇野を極めるのは難しいだろう。宇野は打撃力に優れているが、接戦の末、青木が判定で勝利すると予想。❷両者とも優れたトータルファイターだが、パンチではアルバレスに分がある。しかし、川尻がテイクダウン狙いに専念すれば、グラウンドでアルバレスをコントロールでき、スタンドでの打撃戦も回避できる。作戦がハマれば川尻がラクに判定勝ちできる。❸川尻はグラウンドで上から攻撃しているときは非常に強いが、青木に対してトップポジションは危険な場所である。川尻が勝つとすれば判定だが、青木相手にそれは難しい。青木が1ラウンドでラバーガードからの三角絞めで川尻を極めると予想。

橋本宗洋

ライター＆DEEPメガトンGP実行委員。『SRS－DX』編集部を経てフリーに。7月26日、渋谷アップリンク・ファクトリーでトークイベント『格闘秘宝館vol・2』やります！　今回も豪華ゲストを予定。来てね。

❶青木真也 判定
❷エディ・アルバレス 判定
❸エディ・アルバレス KO

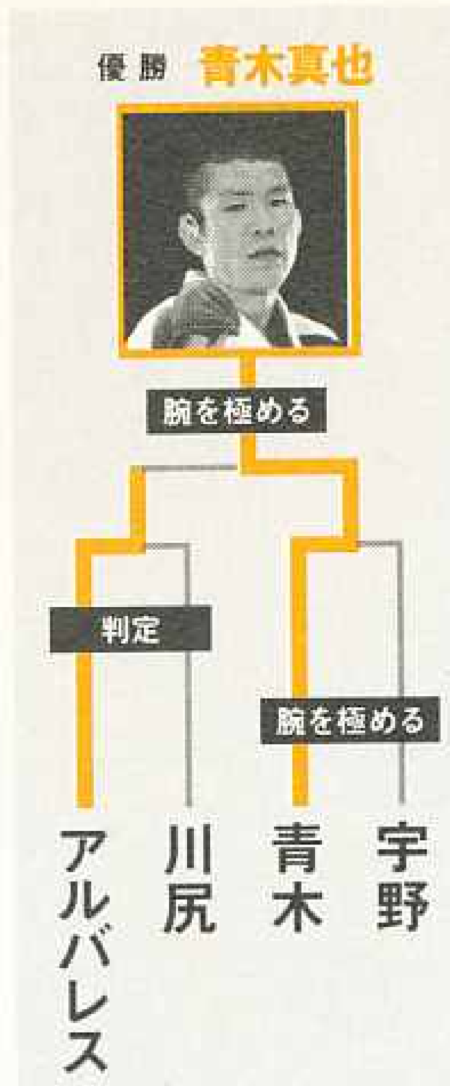


【総括】
青木vs宇野は目まぐるしいペース争いになるも、青木が新技を連発させて判定をもぎ取る。アルバレスvs川尻は真正面からの打ち合い。微妙な判定ながらアルバレスが勝利する。決勝は下からのサブミッションを狙う青木を、アルバレスがパウンドアウト。
正直言っちゃえば、誰が勝つかなんてまったくわからないんだが、DREAMという新しい舞台にはフレッシュなチャンピオンが似合う、ということで。そして大事なのは、この決勝でDREAMにおける序列が決まったところから、本当の闘いが始まるってことだと思う。

花くまゆうさく

今年、厄年の自由業。

❶青木真也 腕を極める
❷エディ・アルバレス 判定
❸青木真也 腕を極める

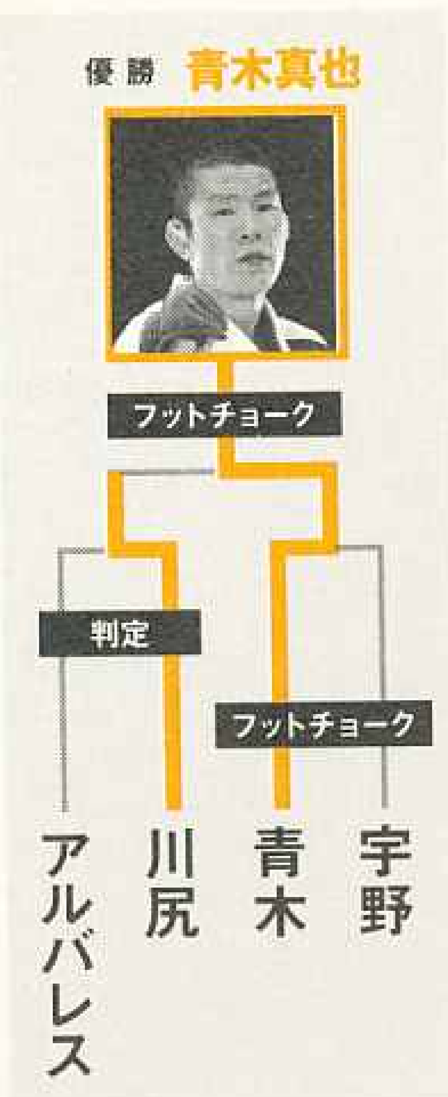


【総括】
青木vs宇野は、池本（誠知）戦のように、あっさり非情に青木が腕を極めそうな気がする。それとも宇野が底力を見せるか興味深い。決勝はアルバレスが堅くいって、判定勝ちしそうな気もする。だけど、せっかくのGPだし、青木に勝ってもらいたいので。

マッスル坂井

DDTの中堅ファイターにして、『マッスル』主宰者。DDTの映像やグッズ制作を行なうDDTテック社長の顔も持ち、最近は映画監督にも挑戦し高評価を得る。186センチ、120キロ。

❶青木真也 フットチョーク
❷川尻達也 判定
❸青木真也 フットチョーク

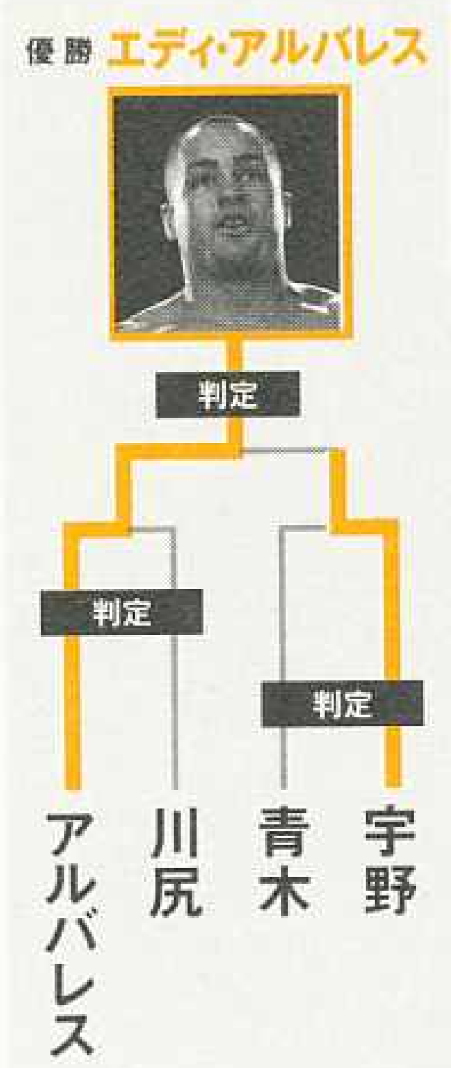


【総括】
❶青木vs宇野戦は8対2で青木選手だと思います。前回の永田戦での青木選手のフットチョークは、我々プロレスラーが初めて柔術と出会ったときのようなショックを受けましたから。だって、脚でチョークスリーパーを極めるなんて、プロレスラー頭では全然考えられないですよ！ まあ、僕なんかは、あのフットチョークをいち早くプロレスの試合で導入しようかと狙ってますけどね（得意げに）。エッ!? アンダーテイカーがもうやってるんだ。じゃあ、僕は雪崩式か飛びつきフットチョークをぁ（苦笑）。ちょっと脱線しましたが、最後は青木選手が……って、どう考えても、僕の運動能力ではムリだよな我々がまだ見たことのないような新たなフットチョークで宇野選手に勝利する気がします。❷準決勝のもう一試合は川尻選手が僅差の判定で勝ち上がると思います。決め手ですか？ やっぱり、アルバレス選手は移動が大変だと思うんで。今回みたいなトーナメントで、しかも連戦となるとコンディション的にも茨城がホームの川尻選手のほうが有利だと思います。❸決勝戦は、打撃が得意なアルバレス選手に勝った川尻選手のほうがダメージは残ってると思うんですけど、川尻選手も意地を見せて青木選手とフットチョークの取り合いになると思うんですよ。でも、最後はやはり、本家のフットチョークがズバッと極まって、青木選手がDREAMの大黒柱になると思います！

松林 貴

日本のMMA停滞状況に気分がブルーな本誌編集次長。MMA最先端のUFCを常に気にしつつ、メジャー格闘技観戦の〝原点に立ち返る〟ため、今年はK—1会場にもアグレッシブに足を運ぶが……!? 自身の幕引きを迫られる今日この頃。

❶宇野薫 判定
❷エディ・アルバレス 判定
❸エディ・アルバレス 判定



【総括】
イベントの爆発、圧倒的大スターの誕生……、こういうことが起こらないと〝いろんな意味で〟追い込まれる立場であるため、『DREAM・5』には多大なる期待を寄せる人生のたそがれ時（すでに崖っぷち）。
「それなのにこの予想か？」と各方面からツッコミが入りそうだけど、過去の例から小生の予想が当たるとそのあとにとんでもないことが起こるので……（『PRIDE・33』のスポーツブックで大儲けした数ヵ月後にPRIDEが消滅するとか）。
つまり、右は「こうなってほしくない予想」ということで、全試合一本かKO決着でバカサバイバーの優勝を願う次第。ライト級GP制覇後のワオ木さんには、vs五味隆典、vsBJペンといった次なる道へ突き進んでいってもらうことを熱望。

三田佐代子

仔猫を拾って先住猫との関係にてんやわんやの今日この頃。サムライTV『Sアリーナ』のキャスターとして蛇人間とか宇宙人とかバラモン兄弟とかそんな方々を日々ゲストにお迎えしながら、インディー、メジャー、格闘技と〝便利屋〟として頑張っております。

❶宇野薫 パンチでKO
❷川尻達也 判定
❸宇野薫 判定

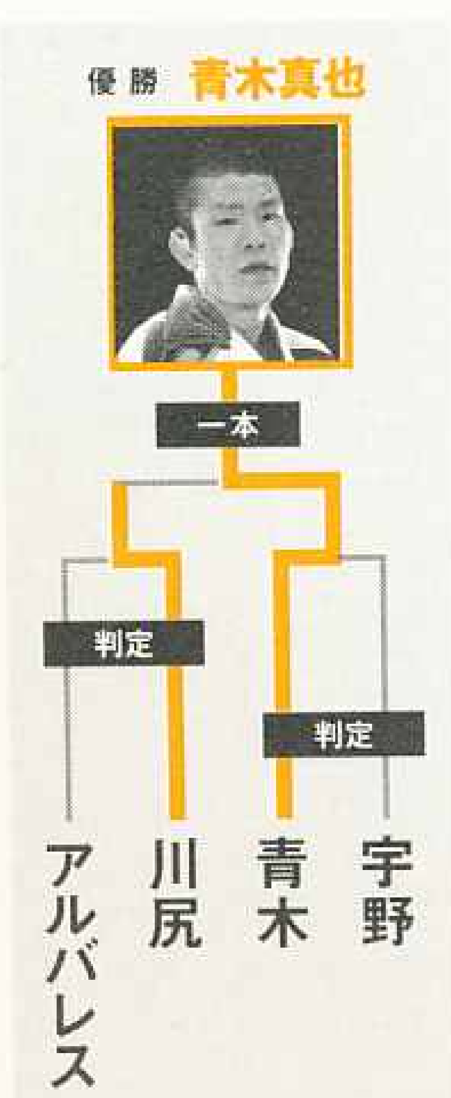


【総括】
今回のトーナメントは宇野薫のストーリーだと思う。これまで圧倒的ベビーフェイスとしてこの階級ではもうベテランの域に達している宇野が、2回戦からの出場によって、おそらく人生初のヒールキャラにされてしまい、あえて文句も不満も言うこともなく、リングに上がり己の腕で石田選手から勝利をもぎ取った。あの試合後の咆哮には鳥肌立った。
川尻vsアルバレスは間違いなく名勝負になるだろうけど、お互いゴング鳴るまで休むことなく動き回って判定。で、決勝は宇野vs川尻で、ずっと川尻押ししてきた私ではありますが、今回の宇野選手の背負っているものの大きさは誰にもかなわないと思うので、宇野選手の優勝。こうやって書いているだけで泣けそうです。

ジャン斎藤

『kamipro』編集長。『DREAM・2』のJZカルバン戦まで青木真也がこんなに強いとは知らなかった、本誌・青木真也の担当。何も知らなくてすいません。

❶青木真也 判定
❷川尻達也 判定
❸青木真也 一本

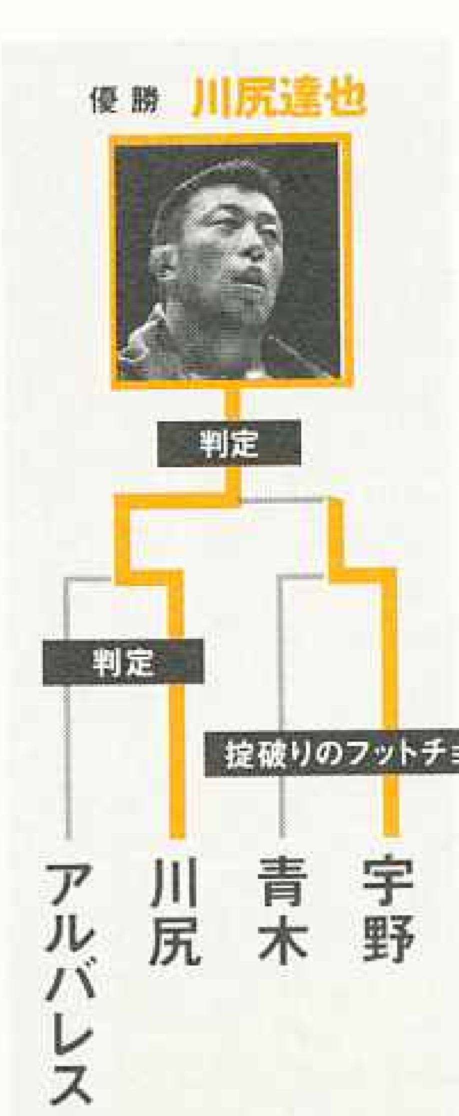


【総括】
ワオ木さんの担当ですから!!……という政治的な理由も、ほんのちょっとだけあるのですが、青木真也って、ここ最近の〝プロレス・格闘技感〟をぶち壊しかねない、得体の知れない怖さを持っているんだと思います。わかりやすく言うと、とくに関係者や選手からすれば、「アイツは何様なんだ？」と（笑）。取り扱い不明、生態系を激変させる〝新種〟の日本人ですよ。簡単に語れないんです。ほかの3人の優勝後の世界はだいたい想像がつくけど、青木真也の場合はあらゆる方面に波紋が広がりそうで、いまから胸がざわついてしょうがないです。ボクの脳内の大晦日決戦は、大変なことになってるよ!!

阿修羅チョロ

『kamipro』編集者。戦極ポーズやTHE OUTSIDERポーズなど、誰からも頼まれてもいないのにキメポーズのことばかり考え、仕事に支障をきたしまくっているダメな36歳。

❶宇野薫 掟破りのフットチョーク
❷川尻達也 判定
❸川尻達也 判定



【総括】
これまで人間的には、さほど興味のなかった川尻だが、前号で初めてインタビューをしたところ、なかなかおもしろい人物ということが判明。試合へ向けての意気込みを聞くと「（平仮名で）3文字だけッスよ」と謎かけしたあげく、「誰が相手でも問題ないッス」と堂々の優勝宣言。
平仮名3文字の意味はわからんが、とにかく凄い自信だったので川尻に賭けてみます。で、優勝したら3文字の意味をこっそり教えてくださいね。エッ、3文字って○○○なの!? それじゃあ載せられないって!!（妄想）。

■アンケート総括
読者アンケートとは真逆と言ってもいい、宇野薫推しの回答が目立った関係者&識者アンケート。『kamipro』の予想だから、あえて青木を外す方も多かったかもしれないが、青木と対峙することで、過去の宇野の闘いぶりが喚起されたのか、とにかく宇野を選んだ方たちの安心度、信頼度、移入させる力は宇野にはバツグンのものがある。
一方、ウチの編集長も書いているが、青木にはいままでの日本人ファイターにない突然変異的な〝異物〟として、底知れない存在感を放っている。青木と宇野、この二人が向かい合うことでこうした一面が浮き彫りになったのは興味深いし、やはりライト級GPはさまざまなドラマや混沌を内包する、未曾有の大会なのだ。

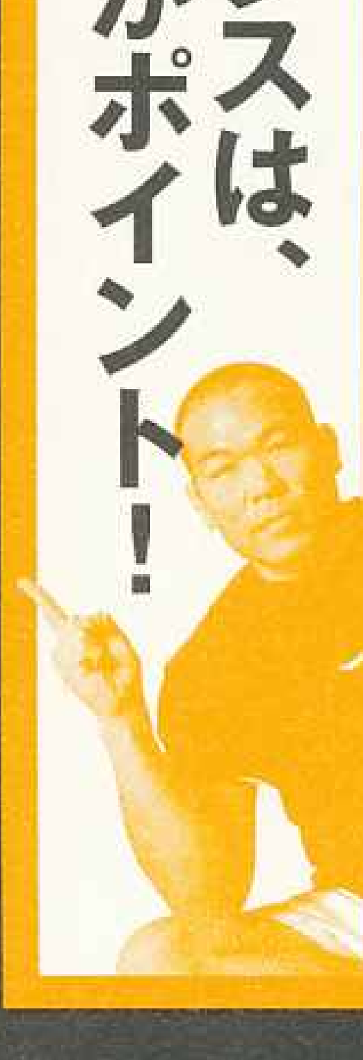
髙阪剛の DREAMライト級GP 決勝ラウンド直前 夏期集中講座!!



ライト級GPサイコー! でも技術的なことはさっぱりわからん……。
そんな“観る側”オンリーのド素人たちに、
世界のTK先生がやさしく教える偏差値40からの技術論インタビュー。
青木、宇野、川尻、アルバレスの“凄さ”をわかりやすく解読する夏期集中講座、開校～!!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　大会写真／乾晋也

川尻vsアルバレスは、想定外の攻撃がポイント!



――今日は、DREAMライト級グランプリ決勝ラウンドの見どころを読み解いていただきたいと思います。高阪さんのプロフェッショナルな視点から……。

TK　プロフェッショナル？　ちょっと、何ハードル上げとんねん（笑）。

――いやいや、今回残った4人は1回戦＆2回戦で素人目にも「凄いッ！」ってわかる試合をしてるんですけど、「どのように凄いか」を具体的にうかがいたいな、と思いまして。

TK　まあ、そうやね。

――では、まず川尻とアルバレス選手の試合からお願いします。

TK　エディって確かに強いし、優勝候補と言われるのもわかるんだけど。ガンツなんかは現地までUFCを観に行ってるからわかると思うけど、アメリカのライト級とかウェルター級でこういう試合をするヤツってけっこういるよね。

――じつはゴロゴロいますよね。技術的になんでもできて、フィジカル的にも強く、スタミナもとんでもない選手が。

TK　そこは大事で、いまやそこが世界水準のクリアすべきラインなんだよね。エディもそこをクリアしてる選手の一人なんだけど、その中で、「エディだからこそできる」って動きもできるから、そこから一歩抜けてるんやけどね。



アルバレスの反射的な打撃攻撃は、本人も「身体に染み込んでる」「ビデオを観返すまでわからない」くらい本能主義なんだから驚くしかない。

――すべてができる上でスペシャリティがある、と。

TK　その「エディだからこそできる」っていうのは、相手の攻撃と攻撃の“際”（きわ）の部分なんだよね。自分で攻撃を仕掛けつつ、相手がディフェンスしてるスキに技を差し込む。相手の弱点に攻め込むことにかけて、天才的なひらめきがある。

――それこそ紙一重で相手を上回る力というか。

TK　相手の動きを利用して逆にカウンターで返していくっていうのは、格闘技の原点なんだけど。エディの勝つポイントになってるのは、全部そこで。ヨアキム（・ハンセン）戦なんか、カウンターで打撃を出して、また離れてっていう激しい攻防だけど、じつは見慣

れた光景でもあるんだよね。エディがヨアキム相手にやったのは確かに凄いんだけど。大事なのは、倒れたヨアキムが立ち上がるときにパンチを入れたりとか、相手が起動する前段階で潰して、そこに自分の技を乗っけることが皮膚感覚的にできてるとこ。そこを評価すべきだよね。

——だから素人目で見ると、エディは強いんだけど、どこが特別に強いか少しわかりづらいですよね。全部強いぐらいしかわからない（笑）。

TK　普通は、「エディがずっと攻めてるから、相手は攻め込めないんじゃないか」としか見えないけど、エディは反射的に相手の出鼻をくじいたり、ラクに試合を進めるヤリ方を本能的に知ってる。それを勝ちに結びつけられる感覚は、頭一つ抜けてるよね。

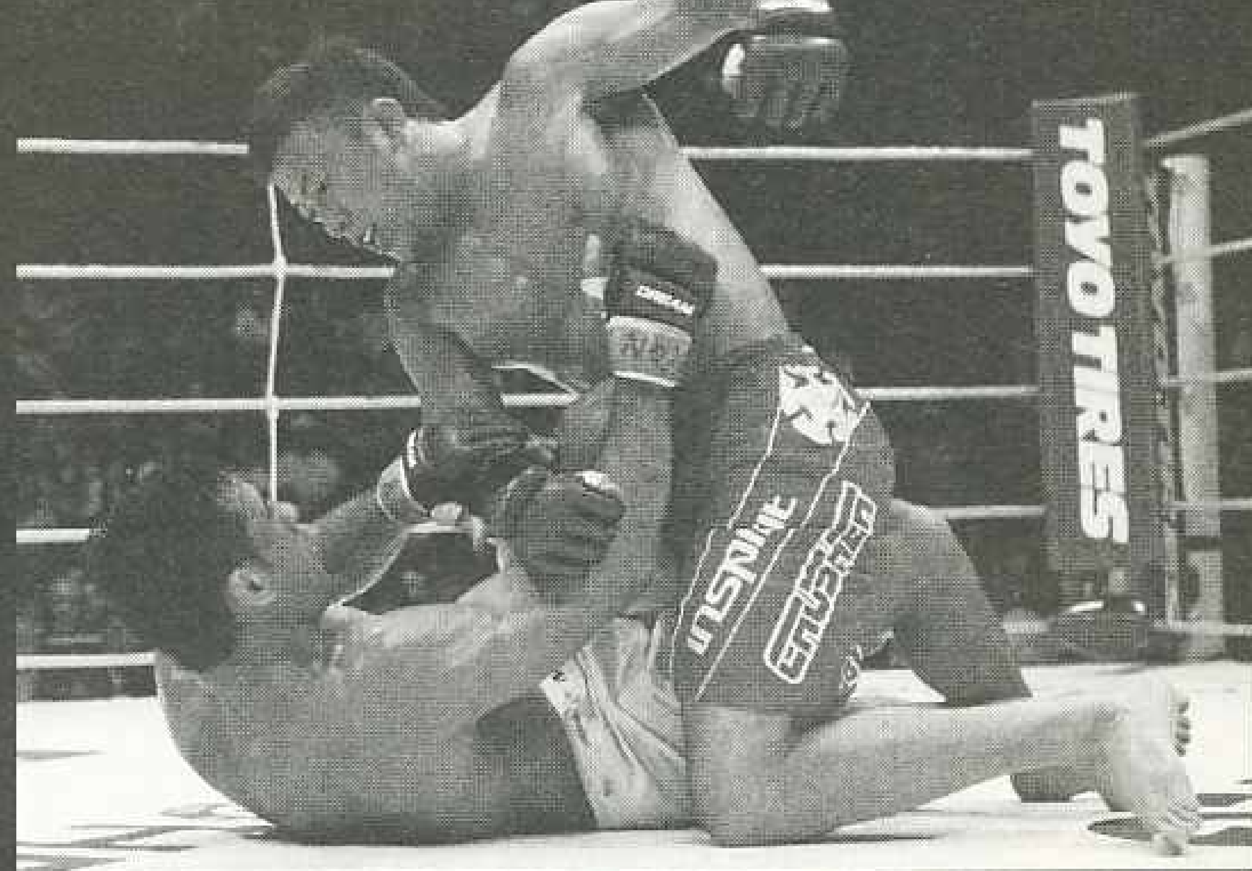
——対する川尻選手は、日本人としてはフィジカル面では怪物的だし、外国人にもパワー負けしないと思うんですけど、エディとの対戦はどこに注目したらいいですか？

TK　ただねぇ……。この試合は、見たまんまでいいと思うよ。だって、絶対ド突き合うじゃない？（笑）。

——まあ、そうですよね。言葉はいらない（笑）。

TK　技うんぬんはさておき、二人とも前に出る気持ちが全面的に出せる選手だし、川尻も逃げるためのタックルとか打たないと思うから。

——あえて技術的な部分を言うとどうですか？　プロフェッショナルとしては？（笑）。



“クラッシャー”川尻の代名詞といえば上からのパウンド&打撃、ブスカペ戦後は「殺気を込めて打てるようになった」とさらに自信を深めた模様。

TK　見たまんまでいい言うてるのに、あえて聞きたい、と（笑）。

——お願いします（笑）。

TK　川尻は最近パウンドをメインで試合を組み立てて、チャンスがあったら関節を取りにいく、という自分のスタイルを築きあげて自信もついてきてるよね。パスしながら打撃を打ちにいく、ちょっと前から流行ってる動きなんだけど。脚を払って、打ち下ろすパンチを出しつつ、同時にパスする動きをよく使ってて。それがこの前のルイス（・ブスカペ）戦では、脚を払って、一回相手の様子を見つつ、時間をおいてパンチを打ちにいったり、相手を見る余裕があった。相手が手を挙げてガードしてるなら、下から打つパンチにスイッチするとか。打撃をより的確にするために動きが細分化されてきている。

——精度がどんどん増してる、と。

TK　そう。精度を増すための技術が高くなってる。自分の柱である上からのパウンド&打撃をいかに有効に使うか？って戦略ができ始めてる。そこで、さらに身体が勝手に反応して、的確な打撃ができるようになれば、こういうスタイルの中では頭一つ抜けるだろうね。……と言っても殴り合うだろうけど（笑）。

——なるほど。で、難しいとは思いますが、予想するとどうでしょうね？

TK　……ん？　何が？（とトボけて）。

——もちろん勝敗予想です（笑）。

TK　いや〜。俺は、試合前に予想はしないようにしてるんです。次もテレビの解説をやらせてもらうなら、予想ありきの先入観ある状態で見ちゃうから。

——じゃあ、最大のポイントはどこになりますか？

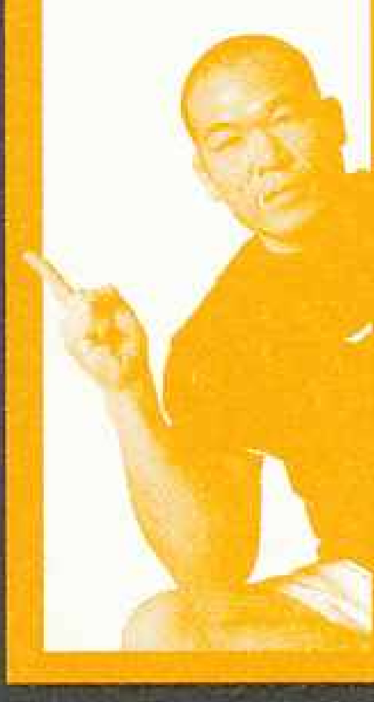
TK　やっぱり川尻はタックルにいくと思うんだよね。で、エディもそれは想定内だろうけど、川尻が想定外の強いタックルや強いプレッシャーをかけられるか。そこが試合を動かすだろうね。エディの想定内なら、エディがうまく試合を回すだろうし、その目論みが外れるくらいのプレッシャーをかけられれば、川尻リードで試合が組み立てられるんじゃないかな。

——じゃあ、最初にどっちが主導権を握るかに注目すべきだ、と。

TK　そこで主導権を取ったほうが最後までいくと思うよね。途中で主導権がガラッと変わることはないと思うから。

——大変よくわかりました。では続いて宇野vs青木です。

宇野vs青木は、主観vs客観の闘い!!



TK　この試合は凄く単純な話で言えば、ライト級の新旧対決ですよね。だけど、じつは〝主観vs客観〟というキーワードで考えると理屈が通るんですよ。

——〝主観vs客観〟!?　ぜひ、詳しくお願いします！

TK　宇野は大きく分けて、修斗からUFC、『HERO'S』って団体で闘ってきてるけど、その中で勝ち負けを繰り返して、試合の中で試行錯誤しながらやってきたわけだよね。いろんなとこに出稽古に行ったり、モーリス（・スミス）のシアトルのジムにも来たし。ボクシングに力を入れたりで。で、それをいちいち実らせるのが宇野のよさだし、キック一つにしても蹴りをスイッチして蹴るってことを知らない頃に覚えたら、それを試合で使えるとこまでやったり。寝技も、ただ「腕が入った」じゃなく、腕を入れるためのポイントを発見しながらやる寝技。実践しつつ、ダメなら別の角度からやったりして、自分のものにしていく。

——自らのトライ・アンド・エラーで血肉化していく。つまり、〝主観〟の世代なんですね。

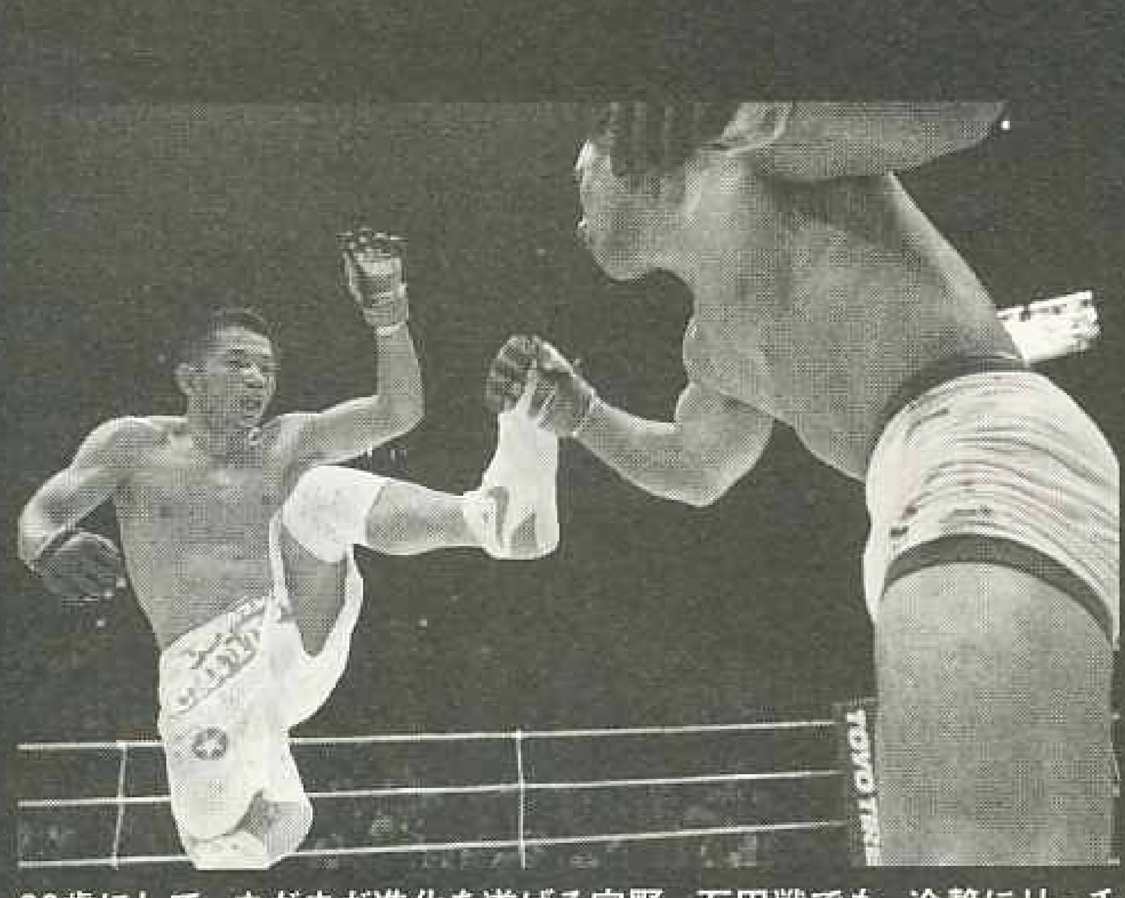
TK　そういう試合で成長する姿が、軽量級の選手の励みになったり。「こんなやり方があるのか！」って、教科書代わりになったり。表立って言わないだろうけど、宇野から技を盗んだりしてる選手は多いと思うんですよ。みんな「あれは俺が考えた」とか言うだろうけど。

——宇野という先駆者を参考にしているというか。

TK　青木だって、宇野のやってきたことを参考にした選手と練習したりして間接的に学んでるだろうし。青木も宇野が作ってきた流れを外から見て、「俺だったらこうするな」と客観的に分析したり。自分自身のことも、「寝技メインだから、この部分は必要ない」とか「でもディフェンスはできなきゃダメだ」とか、外から見て発見したり。そこが青木の一つのベースになっていると思う。

——それが主観vs客観世代ってことなんですね。

TK　だから青木がもし宇野を超え



32歳にして、まだまだ進化を遂げる宇野。石田戦でも、冷静にリーチを活かして相手を翻弄。青木戦ではさらなる真価が発揮されんのか!?



天才グラップラーながら、伸びのあるしなやかなキックを併せ持つのがワオ木さんの強み。vs宇野戦でも変幻自在のグラウンドに至るリードとして大活躍は必至!!

ることができたら、言ってみれば、宇野が作ってきたものに対して、大きな意味で恩返しになるんだよね。でも宇野にはさらに上に進もうというドン欲さもある。青木も信念を持って練習してるハズだけど、そのせめぎ合いの局面でもう一歩、さらに上に宇野が乗っかれるかどうか。

——こういう局面では、ベテランとしての引き出しも大事ですし。

TK　だから凄く興味がある試合だよねぇ。あと単純に技の話だと、お互いに構えがサウスポーなんだよね。いわゆる右利きのサウスポー同士だから。右のサウスポー同士って、石田と宇野の試合もそうだけど、前になってる右から刺すジャブが、展開のリードになるし、同時に決め手のパンチにもなる。

——ええ。右サウスポーの人にとっては、右は利き手のパンチなので、リードジャブにもフィニッシュブローにもなる、と。

TK　そこをお互いがいかに使うか？　ただ、青木は最近はミドルキックがいいでしょ。最終的にテイクダウンを取るためや、相手にタックルや打撃に入らせないためのミドルなんだけど。右サウスポーの選手同士で闘ったときには、たとえば青木が左脚でミドルを蹴ると、宇野の右半身のボディに入るんですよ。それがレバー（肝臓）あたりにモロに当たっちゃうと、宇野の利き脚である右脚に力が入らなくなる。右サウスポーのよさが殺されちゃうんだよね。

——宇野は決して、青木の左ミドルはもらっちゃいけないわけですね。

TK　ただし、この前の永田（克彦）戦みたいに、いまの青木は前脚でもミドルが蹴れるようになってきてる。つまり青木は前脚（右脚）のミドルで散らしておいて、左脚のミドルも打てるハズなんだよね。

——宇野に一番効く左のミドルが自在に出せる、と。

TK　しかも青木は手足も凄く長いでしょ。でも宇野のほうも、いままで自分のリーチの長さを活かして、相手に入らさせないような試合をしてきたんだよね。

——確かに石田選手との試合を観て、あらためて「宇野って手が長いな～」と思いましたから。でも青木はさらにリーチが長い、と。

TK　今度は逆に青木にそういう戦法をやられる可能性がある。タックルに入っても、青木はフロントチョーク、アナコンダチョーク、ワールドと言われてる引き込み技もできるから、ヘタに中に入れないし。

——そこも危険が伴なうわけですからね。

TK　それに打撃でも、宇野はいままでと同じ展開は作れないと思うんだよね。いままでのパンチより、あと一歩、10センチよけいに踏み込みが必要だし。その10センチ差は試合全体では、凄く大きい。だから、この試合は序盤のスタンド状態での駆け引きが大事になるだろうね。

——「立ったら宇野、寝たら青木」とかそんな単純な話じゃない、と。

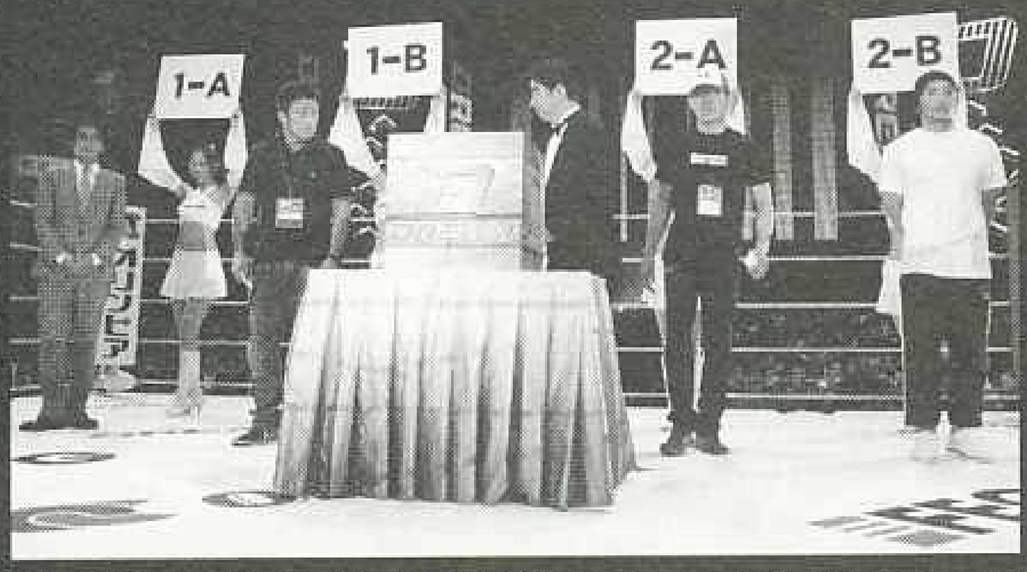
TK　凄く複雑なものが絡み合った試合になるし、さっき言った体系的な話も含めつつ、技術的な部分も絡み合うんだから。こりゃあ、"濃いい"試合になるよね。……でも大変だよ。こんな試合をやるのは。俺だったら絶対やりたくない！（キッパリ）。

——ダハハハハ！　自分がやるのは勘弁願いたい、と。

TK　どっちの立場でもやりたくない（笑）。あえて言えば、青木のほうがやりやすいかもしれないけど、（JZ）カルバンに勝ち、永田にも勝っての準決勝だから、優勝のプレッシャーは凄いだろうし。ファンの期待も裏切りたくないだろうし。

——しかも、そんな大変な試合をしたあと、決勝戦が待ってるんですよねぇ。

TK　だから7月の大阪大会……。大変だよ、コリャ（しみじみと）。



6.15『DREAM.4』では公開抽選会というフェアなかたちで、4強のマッチメイクが決定されたものの、強豪が潰し合う準決勝、決勝はまさに死のロード。そこからDREAMの向こう側は見えるか?

読者の勝敗予想は、幻想に近い？



——ウチの読者からアンケートを集めた結果、ド素人なりの勝敗予想だと、宇野vs青木は断然、青木が多くて。川尻vsアルバレスは、微妙ながらアルバレスが多い。決勝は、青木vsアルバレスで青木優勝が有力な説なんですよ。

TK　なるほどねぇ～。たださ、たぶんそれは予想というより、幻想に近いと思う。

——幻想!?　つまり1、2回戦を観た中でのイメージに縛られている、と。

TK　イメージであり幻想に近いんじゃないかな。でも、逆に言うと総合格闘技を観る熱が復活してる証拠だよね。谷川（貞治）さんじゃないけど、プロって名前がつくファイトスポーツには、幻想がないとダメだよね。しかも今回はしっかりした中身のある幻想が起こってるし、「どうなるんだろう？」って本気で考えさせられる。なおかつ準決勝にこういう試合があるんだから、今回は観る側にもターニングポイントになるかもしれない。

——しかも、今回は誰もが「どこまで強いかわからない」状態ですから。

TK　そうそう。なんでかというと、じつは各選手が今回の試合までにみんな強くなってるんだよ（笑）。試合ごとに成長してて、大会が選手を育てている最中というか。

——宇野選手なんて大ベテランなのに、この前の試合では、「いまが全盛期ですか？」って輝きがありました し。しかしお話を聞いて、ますます大会が楽しみになりましたねぇ。

TK　正直、最初にライト級のメンバーが出揃ったとき、「熱気を取り戻すのは、ちょっと時間がかかるかな？」と思ったんだけど、フタを開けたら、全員が全員何かをやろうとしてる……、"やろうとしてる野郎ども"ばかりだったんだよねぇ。

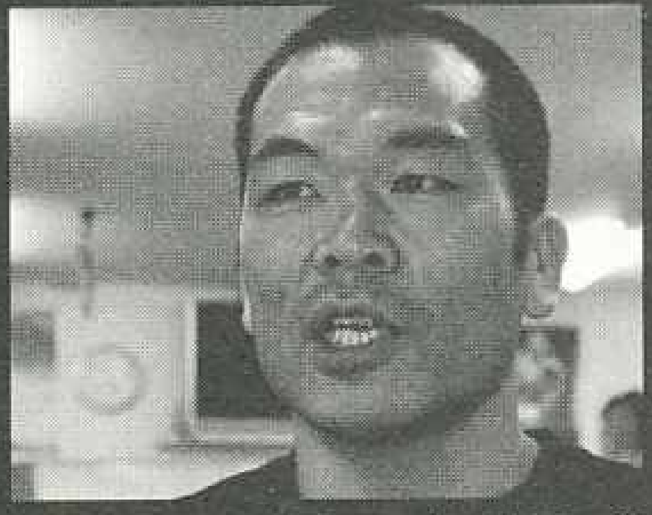
——ダハハハハ！　うまい！

TK　ホントはダメなんだけど、たまに解説の仕事を忘れて応援してるときもあるんだから（笑）。そのくらい、いいトーナメントだけど、やるのはホントに大変だと思うなぁ～。

——わかりました。素晴らしいプロフェッショナルな意見、ありがとうございました！　試合後はさらに精度を増した解説をお願いします（笑）。

TK　何、さらにハードル上げとんねん！（笑）。

【08年6月26日／都内・『ALLIANCE SQUARE』ジムにて収録】



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。93年にリングス入門。UFCには初の日本人レギュラー参戦者として通算5回の出場を誇り、"世界のTK"と呼ばれる屈指の実力者。パンクラスやPRIDEでも活躍後、06年に引退。現在は後進の指導にあたる。理路整然とした技術解説には定評あり。

いまこそ**深く強く**思考せよ!!



職業・桜庭和志とは何か?

桜庭和志をどう見るか!? 6.15『DREAM.5』メルヴィン・マヌーフ戦敗北という現実を直視できなかった読者も多いと思われるが、いまこそ観る側の覚悟が問われている。いわば桜庭は、MMAファイターの"春夏秋冬"を体現している。最終章を迎えるにあたり、いまこそそんな桜庭和志を思考せねばならない。それは観る側の宿命だ!

武士（もののふ）という人生を生きるのは美しくもあり悲しくもある





日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

6.15『DREAM.4』でのメルヴィン・マヌーフ戦に敗れた桜庭和志。この一戦をサクが表舞台に出た当時から見続け、その才能を高く評価してきた堀辺師範はどう見たのか？総合格闘技の歴史上、初めてトップ選手として現役生活をまっとうしようとしている桜庭和志を、侍の視点から解説してもらった。

聞き手／堀江ガンツ

——先生！　先日、横浜アリーナで行なわれたDREAMミドル級GP準々決勝で、桜庭選手の試合が残念な結果になってしまったんですよ。

堀辺　私もテレビで観ました。いやあ、さすがにショックでしたね。

——あ、先生もショックを受けましたか。

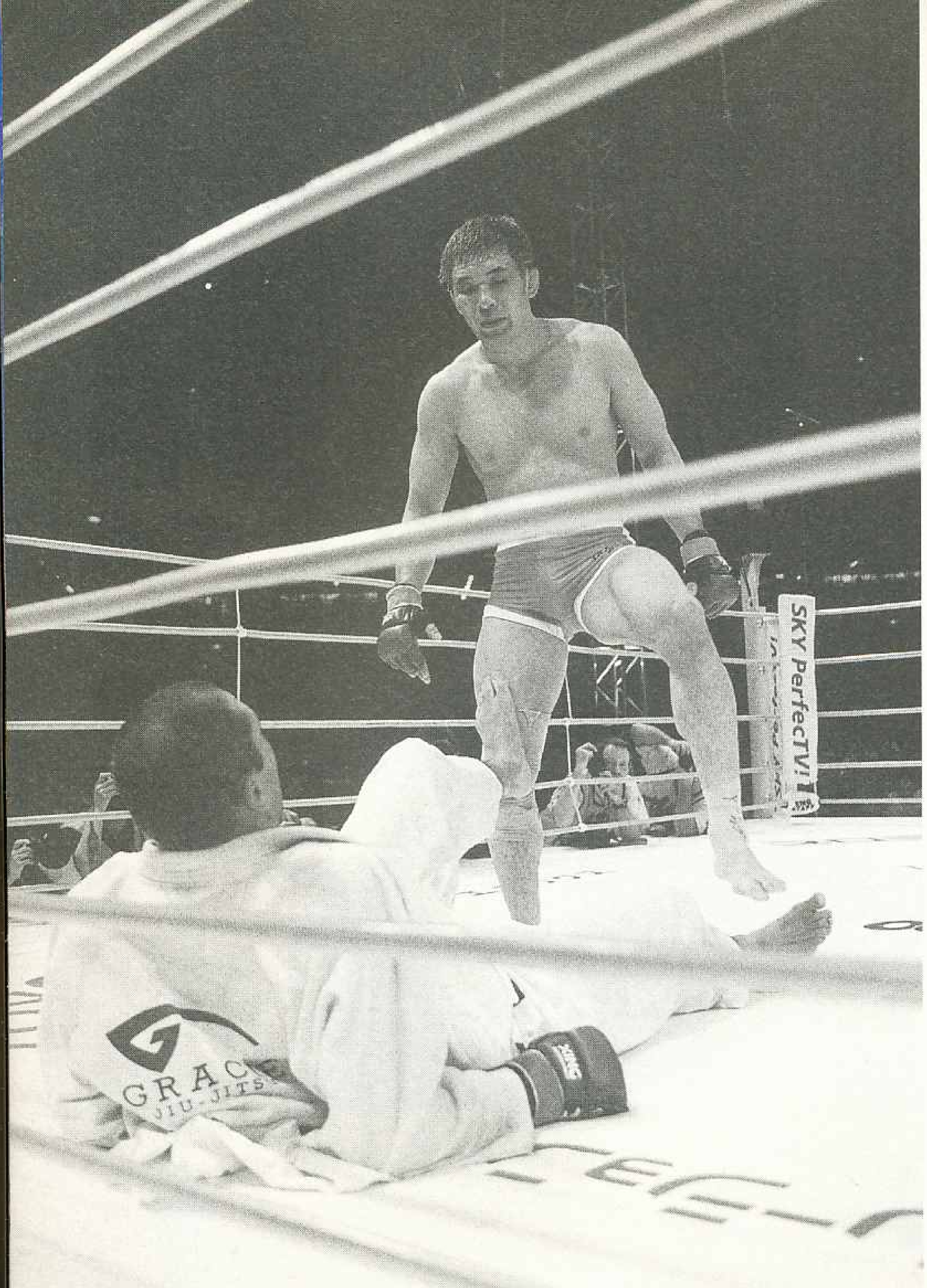
堀辺　私も桜庭選手については、彼が表舞台に出てきた当時から注目していましたから、ああいった姿を見るのはやはりつらいですね。それは桜庭選手のファンも一緒なんじゃないかな。

——では、今日は長年、桜庭選手の素晴らしさを本誌でも語っていただいてきた堀辺先生に、桜庭vsマヌーフ戦の総括と現在の総合格闘技界についてうかがっていきたいと思います。まず、桜庭vsマヌーフ戦はどのようにご覧になられましたか？

堀辺　やっぱり以前の桜庭選手とは質が違っていると言っていいんじゃないでしょうか。しかし、これは格闘技というものが持っている特性でもあるんですけど、格闘技がほかのスポーツとあきらかに違うことは、試合でも練習でも直接的にお互いの肉体を破壊し合うということなんですよ。

——相手を殴って倒すことで勝利を得るスポーツですからね。

堀辺　だから当然、現役を続ければ続けるほど、肉体は破壊され、ダメージが蓄積されていくんです。これはほかのスポーツでも同じことが言えますけど、格闘技はそれがとくに顕著。どんなに強い選手で、どんなに鍛錬していても、長年闘い続けれ



躍動感にあふれていた、“グレイシー・ハンター”と呼ばれていた時代の桜庭の闘いぶり。これらを可能にしたのは、技術はもちろん、桜庭の研ぎ澄まされた感性、そして反応の良さがなせる業だ。

マヌーフ戦では、桜庭選手にとって大事なレーダーの反応が悪くなっていたことが敗因

ければ、その蓄積によって心身の不調というものが起こらざるをえないんです。

——それが格闘家の宿命である、と。

堀辺　そう言っていいと思います。その格闘家の宿命というものが、まさに今回、桜庭選手の中で集約されて、象徴的に出ていたと言える。これが、桜庭vsマフーフ戦を冷静客観的に評価するということなんじゃないかと思うんですよね。

——総合格闘技はジャンルが形成されて、事実上、まだ10数年じゃないですか。ですから、桜庭選手みたいに長年トップとして闘い続けて、本当に現役をまっとうする姿って、我々はまだ見たことがないんですよね。

堀辺　ありませんね。総合格闘技で引退した人はたくさんいますけど、本当の意味で現役をまっとうしたトップ選手というのは、まだいないと言っていいと思います。

——だからファンも、ベテラン選手をどう見ていいのか、どう評価していいのか、わからない部分があると思うんですよ。

堀辺　まさにそのとおりです。いま言ったことは非常に重要で、試合を「点」で見ただけでは、その選手の本当の姿というのは、見えてこないんです。総合格闘技というのは、ほんの10数年前まで、選手がその闘い方すら、あまりわかっていない状況だったんですよ。

——確かに、ここ10年ぐらいで日々、闘い方が進化してきたのが総合格闘技というジャンルですよね。

堀辺　だから、初期は防御もレフェリングも未熟だったこともあり、危険なシーンもけっこうありましたよね。それが年月を積み重ねることで、選手が闘い方を知り、技術も進歩してきていますけど、やはり危険さという点では、格闘技の中でも総合格闘技は一段上なわけです。桜庭選手はそういう中を、しかも常に最前線で闘ってきたし、桜庭選手が総合格闘技の闘い方を〝発明〟しながら勝っていったことで、絶大なる人気を博したわけですよね。

——格闘技の技術革新を次々と成し遂げていきましたよね。

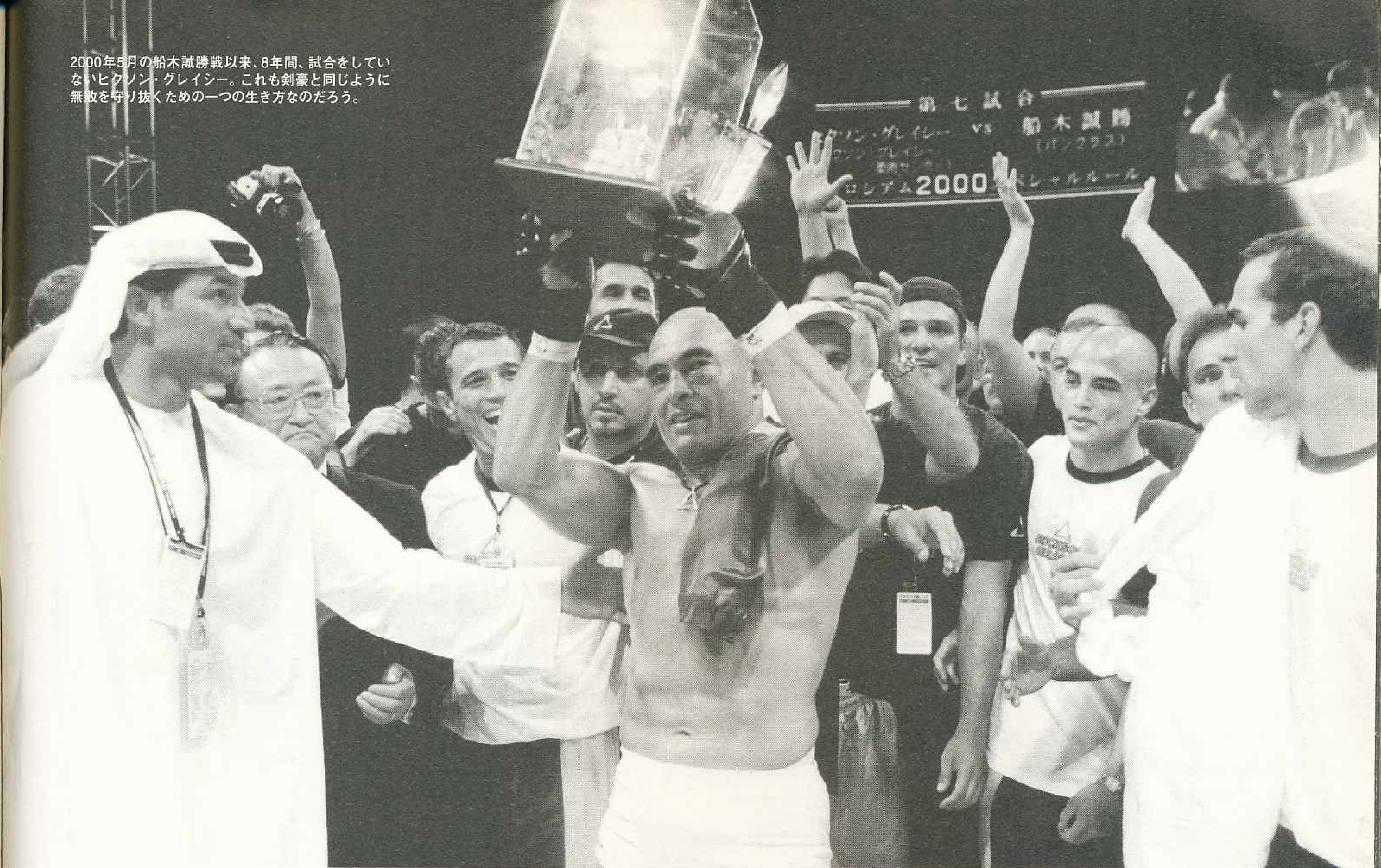
堀辺　だから、桜庭選手は整備された安全な道を歩いてきたわけじゃないんですよ。身体を傷つけながら、原野を開拓してきたわけですよね。だからシウバ選手との一連の対決を見ても、かなりダメージを食いながら闘ってきた。トップランナーであるがゆえに、極限を闘ってきたということですね。だから、ほかの選手と比べても、なお一層、心身に対するダメージが大きかった。それが今回の試合では、完璧なかたちで出てしまったと思います。

——桜庭選手は以前から満身創痍でしたし、今回はとくにヒザの調子も悪かったようですからね。

堀辺　そういった身体的な不調もそうなんですけど、一番大きいのはそこじゃないと思うんですよ。

——身体的なダメージではない、と。

堀辺　ここ数年、その予兆はあったと思



2000年5月の船木誠勝戦以来、8年間、試合をしていないヒクソン・グレイシー。これも剣豪と同じように無敗を守り抜くための一つの生き方なのだろう。

剣豪・伊藤一刀斎は、無敗を守るために名前を変えて別人として老後をすごした

は、美しくもあり、悲しくもある

いますけど、直感力というか、インスピレーション。相手の動きに合わせて動くという、闘いにおいて最も大事な反応が鈍くなってきたのは否めない。

――なるほど。逆に言えば、以前の桜庭選手はその直感や反応の鋭さが大きな武器でもありましたよね。

堀辺　そうなんです。これが鈍くなるというのは、レーダーを持たずに戦争するようなもんなんですね。たとえば、ミッドウェー海戦で連合艦隊とアメリカの艦隊が戦争したとき、日本はレーダーを持っていなかったわけです。当初は日本のほうが軍艦も多くて、飛行機も多かったにもかかわらず、4隻もの軍艦が撃沈された。それはなぜかといえば、相手はレーダーを持っていて、遠くから日本艦隊の状況がわかっていたからなんです。

――日本側はレーダーを持っていなかったのが大きな敗因だった、と。

堀辺　桜庭選手の闘い方というのは、相手の打撃をかいくぐって、グラウンドに持ち込んで関節技で仕留めるという闘い方ですよね。そして、いまでも寝技になったら、桜庭選手はトップクラスの技術を持っていると思うんですよ。ただ、その前段階で、打撃戦におけるレーダーが、とくに今回は反応しなかったことで、紙一重で相手の攻撃をかいくぐるという、桜庭選手の特性を発揮できなかったんです。

――桜庭選手もトレーニングを続けて、グレイシーを倒した当時より、確実に打撃も寝技も上達していると思うんですけど、そういった反応はトレーニングで上達させられるもんじゃないんでしょうね。

堀辺　もちろん経験を積むことによって、反応を高め勘を身につけることもできるんですけど。やはり、脳のダメージによって、反応というのは鈍くなってしまうものなんですよ。これまで桜庭選手は寝技に自信があることで、寝技に行くために、かなり無理をしてスタンドで打撃をもらってきたと思うんですね。その無理をするところが桜庭選手らしくて、多くの観客を魅了したと思うんですけど。

――肉を切らせて骨を断つ、という闘い方ですよね。

堀辺　そういう魅力があったわけですよね。しかし、ファンを魅了する闘いを続けたことで、桜庭選手の肉体にダメージはどんどん蓄積されていった。だから、今回はマヌーフだから桜庭選手に勝てたわけじゃないと思うんですね。総合格闘技が持っている構造的な問題が、あの試合で起きたと考えたほうがいいと思う。

――桜庭選手が表舞台に躍り出てから、丸10年ぐらい経つんですよね。しかも、10年間ほとんど、メインイベントクラスの試合を休みなく続けて、DREAMという新しいリングになっても、まだメインでの試合が期待される。それは酷でもありますよね。

堀辺　確かに酷です。ただ、かといって主催者を責めることもできない。なぜなら会場に来る人、テレビで観る人も含めて、桜庭選手の試合を観る人は、彼が素晴ら

実績あるベテランが敗れるということは、過酷な闘いを続けてきた裏返しでもある

武士という人生を生きるのは、美

しい動きをしていた頃の姿というものが頭の中を占めているわけだから。それを観たくて会場に来るわけですよね。そういうファンがいる限り、それにふさわしい立場を与えざるをえない。

――では、これから桜庭選手をどう見ていったらいいんですかね？

堀辺　これは選手側に立った見方、観客側に立った見方、主催者側に立った見方、すべて違うと思うんですよ。しかし、桜庭選手は長年格闘技界を支え続けた功労者ですから、一番大事なのは、桜庭選手本人の立場になって考えることだと思います。そして、そして彼自身が結論を出す、大事な時期に来ていると思うんですよ。

――大きな岐路に立たされているのは間違いないですよね。

堀辺　闘う男には、いろんな生き方というものがあると思うんですよね。一つの例を出すと、昔、伊藤一刀斎という一刀流の祖である、もの凄く腕の立つ剣豪がいたんですよ。彼は無敗の剣豪だったわけですけど、そんな伊藤一刀斎でもやはり歳を取るわけです。そして現実問題、歳を取るとどんな剣豪でも剣の冴えというのは、落ちるんですよ。

――剣の世界というのは一瞬の勝負ですもんね。

堀辺　そうすると、歳を取り衰えた伊藤一刀斎を狙うヤツが出てくる。

――なるほど、なるほど。

堀辺　そして、衰えた一刀斎を斬って、「俺は伊藤一刀斎を倒したんだ」と誇ろうとする。一番強いときは、そんなに勝負を挑まれなかったのが、弱ってきたことで伊藤一刀斎を狙う剣客が増えてきたんですね。

――総合格闘技の世界でもよくある話ですね（笑）。

堀辺　そこで伊藤一刀斎は、このままだと自分がいずれ敗北すると悟って、名前も変えて、職業も変えて、どこへ行ったかもわからない老後をすごしたんですよ。

――へぇ～、そうなんですか。

堀辺　そういう剣豪って多いんですよ。ある時期になったら、負けないために隠れちゃうんです。闘わなきゃ負けないわけだから（笑）。

――確かに不敗は続きますね（笑）。

堀辺　負けないために、自らが別人になって、まったく別の土地で農民になったりして、まさかあの人が剣豪だなんてわからない世界に行くことによって、「不敗」というものを保ったということなんですね。ただ、そういう選択をするというのは、本人からするとキツいと思うんですよ。「伊藤一刀斎」という名前を守るために、自分を捨てなければならないわけだから。

――そこまでして、剣豪にとって、自分の名誉というのは、守らなければいけないことだったわけですか。

堀辺　これは自分だけの問題じゃないんですね。なぜ剣豪がそうしたかというと、当時の剣豪に「ファン」というものはいませんけど、彼を尊敬し、支持していた人はたくさんいたわけですね。そういった人たちの期待を裏切らないためには、斬られる前に姿を消す、そして自分の不滅の姿というものを人々の心に残すのが一番いいという判断だったんです。そして、それは現在のプロ格闘技にも当てはまる部分はあると思う。

――総合格闘技もある種、ファンに夢を売る商売ですもんね。

堀辺　だから、桜庭選手にもいろんな選択肢があると思いますから、一度、自分を見つめ直して、これからの格闘家人生を歩んでいってもらいたい。桜庭選手は本当に頑張ってると思う。しかし、その頑張りがプラスにだけ働くとは限らないのが勝負の世界なんですよ。頑張って試合に出て敗れてしまったとき、その頑張りがマイナスに働いて、ファンを悲しませてしまうこともあるわけです。

――それが格闘技の世界ですからね。非常に難しい問題だと思いますけど。

堀辺　そして、ファンの人には、闘い続ける男には、そういったことが誰にでも起こるんだということを知ってほしい。伊藤一刀斎にも起こるし、桜庭選手にも起こる。誰にでも起こることなんです。それを理解することが、良質な格闘技ファンの心得だと思います。

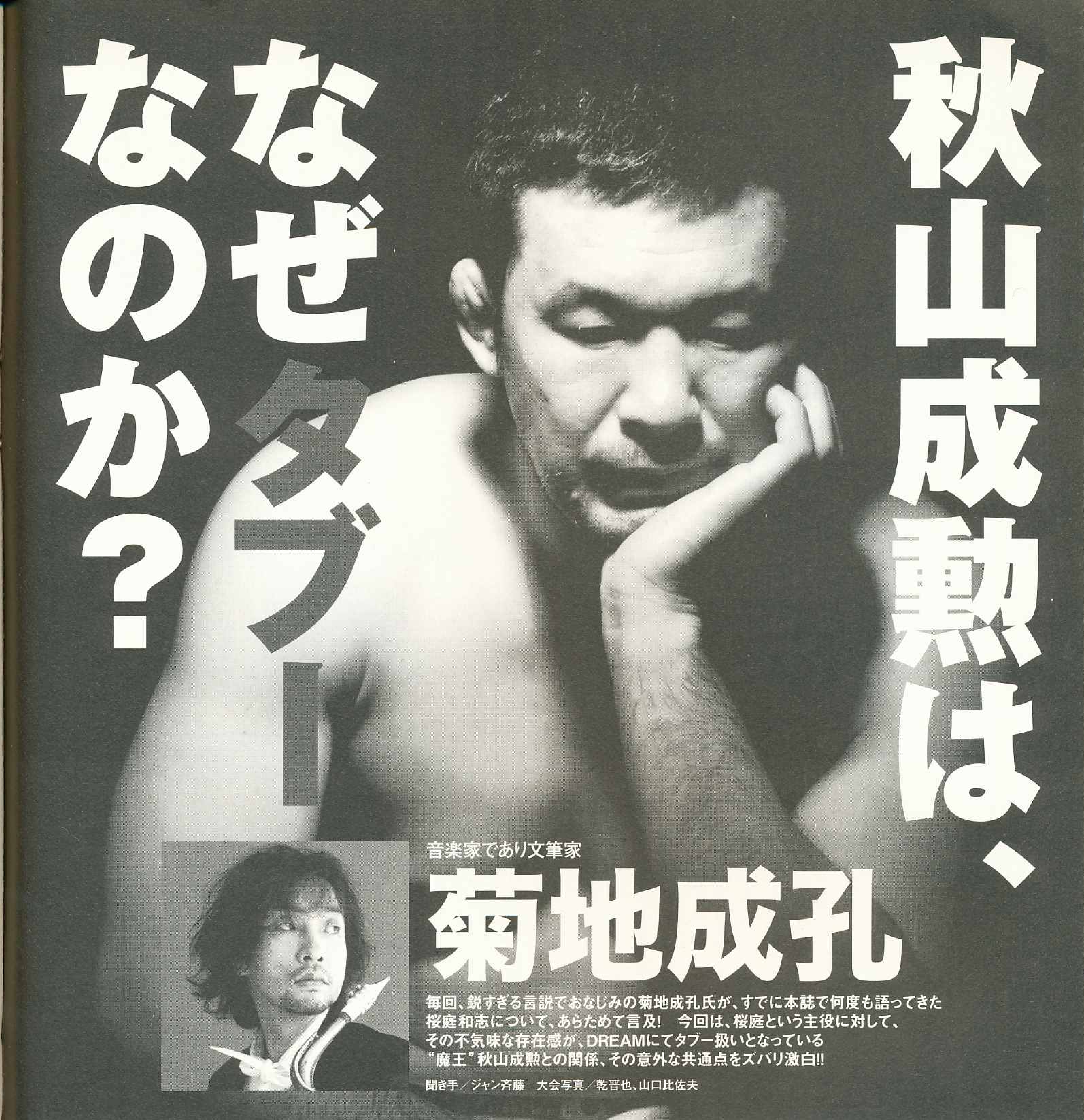
――有名選手が敗れていく姿というのは、これから目にする機会が増えていくと思いますけど、それは選手がサボっているわけではまったくないということですよね。

堀辺　それはまったく違います。実績のあるベテラン選手が敗れる姿をさらすというのは、それは、かつてあまりに過酷な闘いを続けてきたことの裏返しでもあるんですよ。だから、マッカーサーは「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」という言葉を残しましたよね。これは「兵（つはもの）」、つまり闘う人間にとっての象徴的な言葉だし、闘う人間誰しもが持っている宿命なんですよ。消える以外に、自分の姿を保つことはできない。武士（もののふ）、侍という人生を生きるというのは、そういうことなんですよね。だから武士の生き方というのは、過酷であり、美しくもあり、悲しくもある。我々はそういった業を背負い、引き受けて闘っている人間を見ているんですよ。そういう理解を持つことが、格闘技の理解を深めるだろうし、ひいては自分自身の人生の価値観というものを高められるんじゃないかと思いますね。

――わかりました。今日はありがとうございました！

【08年6月29日／都内・骨法武術館にて収録】

秋山成勲は、なぜタブーなのか？



音楽家であり文筆家

菊地成孔

毎回、鋭すぎる言説でおなじみの菊地成孔氏が、すでに本誌で何度も語ってきた桜庭和志について、あらためて言及！　今回は、桜庭という主役に対して、その不気味な存在感が、DREAMにてタブー扱いとなっている"魔王"秋山成勲との関係、その意外な共通点をズバリ激白!!

聞き手／ジャン斉藤　大会写真／乾晋也、山口比佐夫

――菊地さん！　今回も『DREAM・4』をPPVでご覧いただきまして、桜庭和志の試合の感想を中心にお話をうかがいたいと思います。

菊地　わかりました。ただ、ワタシが桜庭について発言してきたことは、広大な闇に向かって球を投げて、まったくはね返ってこないような（笑）。

――へ？　そんなことありませんよ！　大丈夫です（笑）。

菊地　皆さんが聞きたい正論とは大きくズレているような気がするんですが（笑）。まず今回、けっこう重要な点は桜庭は（メルヴィン・）マヌーフに殴られて敗れはしたけど、出血しなかったことじゃないかな、と。

――あ、それは確かにそうですね。最近の桜庭のKO負けには、常に血塗られたイメージがありましたけど。

菊地　とくにPRIDE末期は必ず大出血し、新生児室の赤ん坊みたいな感じを彷彿させていましたが、今回はそういう凄惨さはなかった。それから、やっぱり感じたのは桜庭は秋山（成勲）と触れなければ、機嫌は悪くならないということです。秋山が出てこない限り、あんな負け方をしても全然大丈夫って感じで。

――そこに桜庭の救いがあると感じたわけですか。

菊地　ただ、それは巨大な急所を持っているとも言えますし、今回、桜庭は入場時にマスク脱いだときの表情がわりと暗かったですよね。その暗さが「もうやめたい」というような暗さなのか、桜庭の虚実入り混じった演出なのか？　そこはわかりかねましたけど。でも、今回も佐藤大輔さんの煽りVに出てくる桜庭は一貫してのびのびしてたし、以前も言いましたけ

ど、前田（日明）も髙田（延彦）もいないDREAMでの桜庭は凄くのびのびしていて、煽りVや入場時のスキットもホントに笑えるようなおもしろさがある。ああいう悪ノリを観客も一緒に楽しめるというのは、本人の内面から湧き上がってくる力ですよね。

――『HERO'S』のときの桜庭の、どこか寒い感じは払拭されてますよね。

菊地　全盛期とはいかないまでも、かなり〝力〟が戻っています。それから、これは誰も指摘しないだろうけど、最後に桜庭はマヌーフに脚を引きずられたでしょう。あのムーブは言ってみれば、〝炎のコマ〟と言えるでしょう（笑）。

――あ！　まったく思いもしませんでしたけど（笑）。

菊地　若いファンの方はご存知ないかもしれませんが、絶頂期の桜庭はホイス（・グレイシー）に「下でガードされたら、炎のコマで引きずり回す」とか「摩擦熱で焼く」と言っていたわけです（笑）。素晴らしい時代でした。

――確かにマヌーフは「俺は桜庭の試合を観続けてきた」って発言もしてましたけど……まさか（笑）。

菊地　なぜか桜庭リスペクトを強くアピールしていたマヌーフでしたが、炎のコマによって「ちゃんと観てきたじゃないか」と（笑）。そういう意味でも、桜庭の完敗ではあるけど、こうして一貫して桜庭ワールドでしたから、観ててイヤな気はしませんでした。ただ、今回の試合を観ても、桜庭は「止めるのが遅い」っていうのが定着してる印象もあるんだけど。

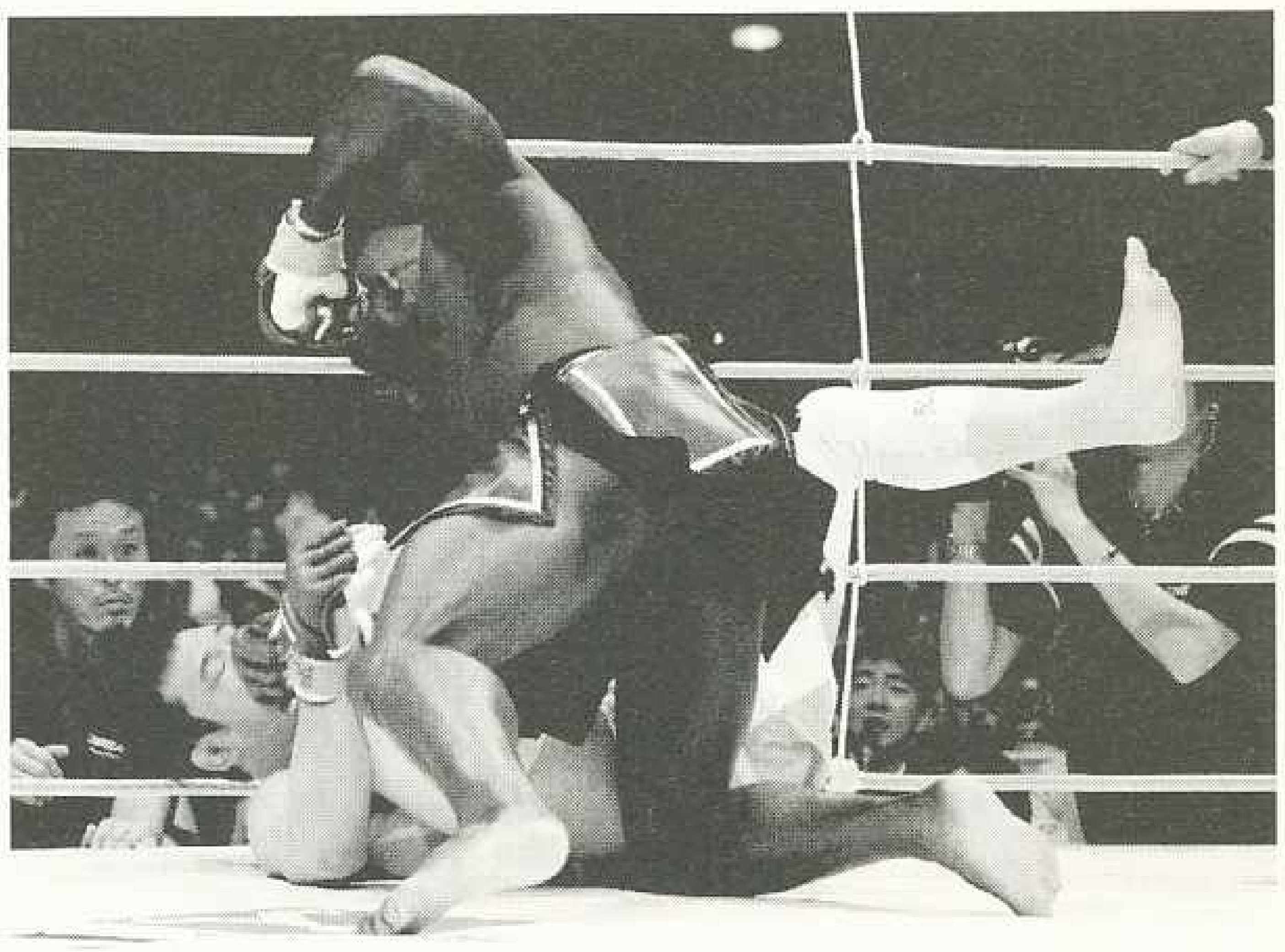
――う～ん。個人的にはそんなに遅く感じませんでしたけど。でも、桜庭だから「遅く見える」という印象はあるかもしれません。

菊地　なんだろう。やっぱり（ケスタティス・）スミルノヴァス戦のときの「遅いよ！」って思ったのがトラウマみたいに残ってるのかもしれない。

――桜庭が殴られると、そういう記憶がフラッシュバックされますよね。桜庭以外では、あまり思わないですけど。

菊地　総合初期の『UFC2』でホイスにやられた市原海樹とか、骨法の大原学とか、「もう死んじゃう」「早くタオル投げろ」っていう試合がトラウマで残ってたりするんで。桜庭のストップが遅いとちょっとかわいそうっていうか。何かはわからないけど、何かの犠牲になってるイメージを彷彿させる。体感時間としては遅く感じました。計測すべきでしょうけどね。

――ああ、それはやるべきかもしれないですね。グラフ化したりして。



6.15『DREAM』のメイン、煽りVで『わが人生に悔いなし』のカラオケを熱唱、白装束を思わせる白マスクでマヌーフ戦に出陣した桜庭。結果的に壮絶な敗戦を喫したものの、英雄がありのままリアルな現実に挑んでいく様は、ファンから大きな共感を呼んだ。

菊地　まぁ、桜庭はこれからも試合するたびに「引退か?」って言われちゃうと思うけど、まだまだ元気な感じがするんですよ。ちょっと前のホントにデスな、やり場のない苛立ちみたいなものは見えないし。今回はやられたけど次回も楽しみで、「また自転車に乗るんじゃないかな」っていう気にさせるというか。

――ただ、やっぱり先ほども言われましたけど、桜庭の脳裏には常に秋山の存在がひっかかってる気がして。

菊地　桜庭の中の秋山という存在へのストレスは、危険と言っていいくらいのゾーンにあると思うんです。だから周囲も相当に気を使ってるんでしょう。これまでの桜庭みたいに、ちょっと皮肉やって意地悪してイヤがらせしてスッキリってレベルを完全に超越してますから。

――そういえば、秋山に関してのおちょくりは見られないですね。

菊地　いまみたいに、秋山を見えないように誰かがガードしている時間の中では、桜庭はのびのびしているんだけど、いつか秋山が出てきたら桜庭のメンタリティは一気に潰れてしまい、憂鬱以下の状態になる。そういう危険な予感はありますね。まぁ、今回は秋山は画面にさえ映らないわけだけど……。会場に来てもいないんですか?

――それすらわからないくらい、主催者は不気味なぐらい存在をシャットアウトしてますよね。桜庭と秋山の関係も、そこまでタブー化するか⁉　っていうくらいの怖さがあって。

菊地　まあ、秋山はいま「魔王」って言われてますけど、ダークサイド・桜庭っていうか、言わば〝悪のIQレスリング〟ですからねえ。

――悪のIQレスリング‼

菊地　いまだに桜庭には登録商標みたいに〝IQ〟がついて回るじゃないですか。グレイシー一族っていうのが前近代かつ一子相伝であり、そこに対峙した桜庭が科学主義でありIQ主義だったというのがベースだとは思いますが。

――ホイス戦は、象徴的なIQレスリングの試合でしたよね。

菊地　なおかつ桜庭は正義の味方っていう立ち位置ですから。よく逆説的に「悪人じゃなければ、ベビーフェイスはできない」とか言うけど、桜庭は実際に意地も悪いし、イヤがらせの天才ですよね。

――そういう表裏一体な部分はありますね。桜庭が〝善〟ならば、秋山は〝悪〟というか。

菊地　でも、ズル賢い部分もありつつもモラル的な部分や、ある一線はキッチリと守ってる。そういう聖域にズカズカ踏み込んでいく超日本人級な存在として秋山が登場したわけです。

――人の視線を気にせずに、土足でズカズカ入ってきてますね、魔王は。

菊地　まあ、クリーム塗るのを〝IQ〟と言うのもヒドい話ですが（笑）。倫理もルールも平気で破るという境地の中でのIQと言えるでしょう。桜庭は自分で絶対にやれないことをされて危ない目に遭っ

桜庭は壮絶にKO負けしても、秋山が出てこない限り、機嫌は悪くならない

たんだから、まあ怒るは落ちるは、大変でしょう。でも、基本的なスタート地点で腹のくくり方が違うんだからどうしようもない。善悪を超えた部分で心が折れちゃったというか。

——マッチメイクの駆け引きにしても、秋山はバカ負けするくらいズルイというか、なんというか……。それが悪のＩＱレスリングなんだと思います。なんだか『スター・ウォーズ』の〝フォース〟みたいな話になってきましたけど。

菊地　秋山には桜庭的な〝ＩＱ〟の使い方をダークサイドに転換し、濃縮したようなヤバさを感じますね。だから、桜庭が歳をとってマヌーフに腕を折られたり、ブラジルのファイターに血だるまにされても、本人的には心が折れるほどショックじゃないと思うんですよ。

——格闘家にすれば、試合の勝ち負けって宿命みたいなもんですし。

菊地　年齢も体力も自然と衰えるから「仕方ないじゃん」で済む部分はあるけど、秋山へ感じる脅威は種類がまったく違う。

——違いますね。精神的にくる感じですね。

菊地　そこは前にも言った、韓国や、日本に対しての日本に対しての中国っていう構図とまったく同じです。つまり「同じような顔だけど、あいつらには図々しさではかなわないし、こっちは泣き寝入りするしかない……のか」という。秋山問題は、民族性の問題に置き換えやすいという厄介さと、桜庭の陰画に見えやすいという二重の厄介さがあります。読者からの猛抗議を覚悟で言いますが、ワタシは秋山と桜庭は鏡映しに似ている部分があると思います。それがじつにイヤ～な感じで滲み出してくるんですよね。

——同じような人種なのに、マインドが全然違う。そこに恐怖が生まれるわけですね。

菊地　そういう意味で、むしろ三崎（和雄）なんかは秋山と闘っても決して心は折れないわけです。

——あ～（笑）。

菊地　よしんば、あのとき秋山に負けたとしても心は折れないでしょう。三崎はズルく勝とうとか頭使って勝とうとか、ＩＱ的な要素はまったくないし、秋山に勝っても負けてもノーサイドで、その場で説教しちゃうようなネイチャーＫＹですからね。

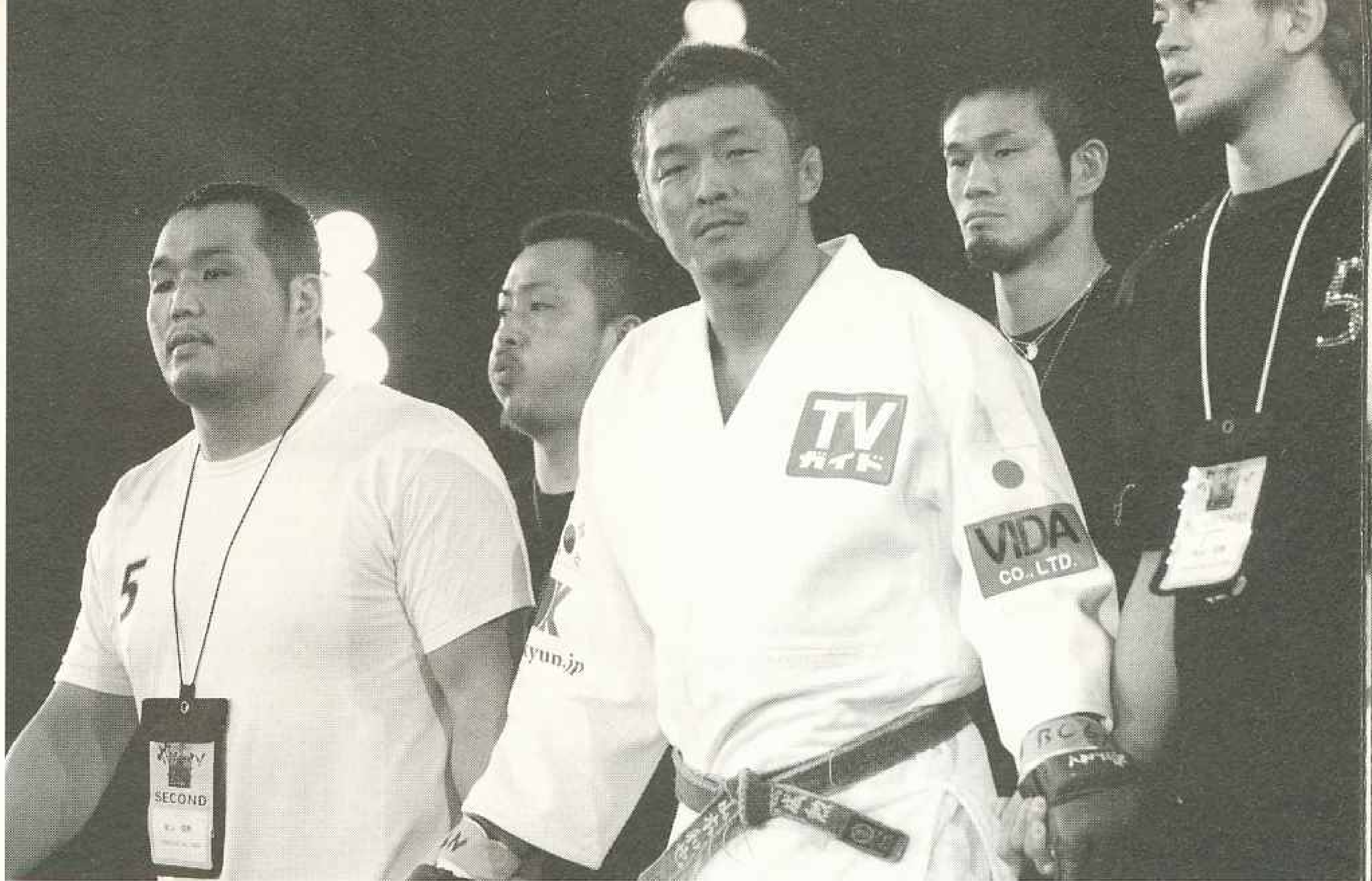
——桜庭は秋山という存在を恐れていて、秋山は三崎にバカ負けしてしまう。なんかジャンケンみたいな関係ですね（笑）。ただ、いまは秋山の不在で一時的に問題がフタをされてる感じがあります。

菊地　でも、桜庭と秋山が交錯すれば、必ず表面化するでしょうし、日韓問題やナショナリズムがＤＲＥＡＭのメインテーマになる可能性はおおいにある。そのとき、ファンやマスコミがどうやって秋山や日韓問題を咀嚼するかが重要な問題になるわけです。そうは言っても、今回も出ていたユン・ドンシクなんかはとくに問題ないんだけど。

——ユン・ドンシクは日本人好きするキャラですよね。

菊地　日本向けにソフィスティケートされた韓国人って感じで、いっそ韓国の良心みたいに見えるわけです。ところが秋山は国籍は日本人なのに、もっとも日本人向けじゃない強烈な韓国人そのものですから。ただ、秋山はけっこう咀嚼するチャンスがあったんだけど、いまや秋山のことを誰も食えなくなってる。

——いまやマスコミで秋山と桜庭を結び

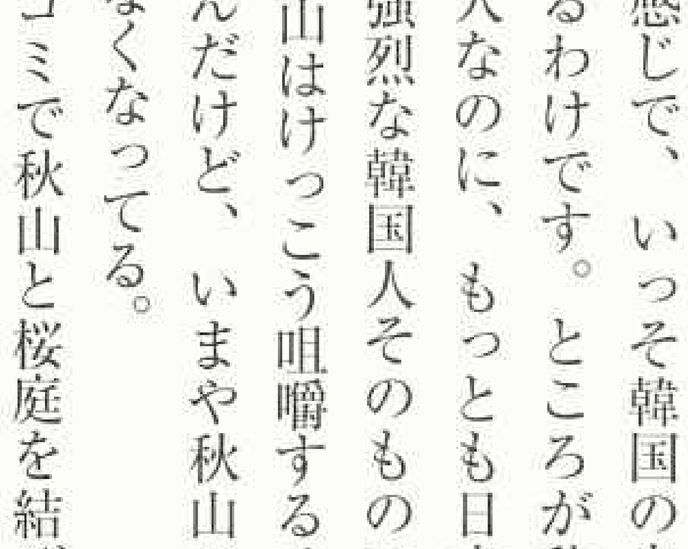


あの"谷川黒魔術"に続いて、またまた菊地氏の名フレーズ誕生! 秋山="黒のIQレスリング"だった!? 人間として"善"を体現する桜庭と"悪"を体現する秋山は表裏一体、というこの説。つまりタイガーマスクとブラック・タイガー的な宿命の組み合わせだったのか?

秋山と桜庭は鏡映しに似ている部分がある それがイヤ～な感じで滲み出てくるんです

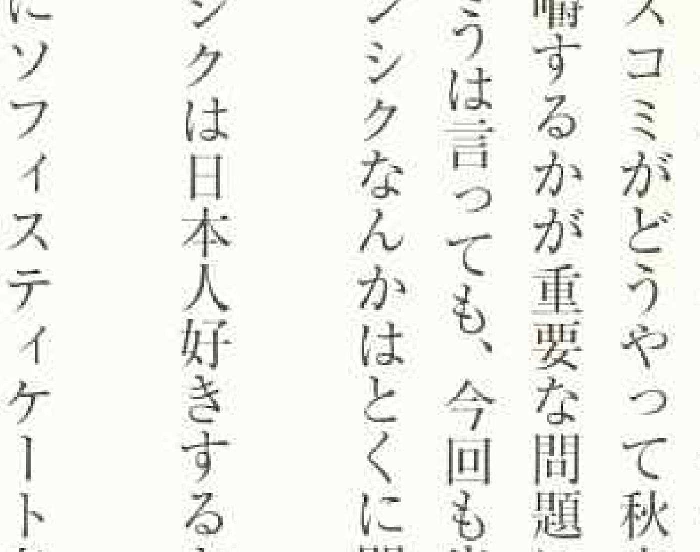
桜庭和志 壮絶劇場

なぜ桜庭の試合のストップは遅いのか? 打撃ラッシュから試合ストップまで、デンジャラスすぎる試合の数々を再検証!!



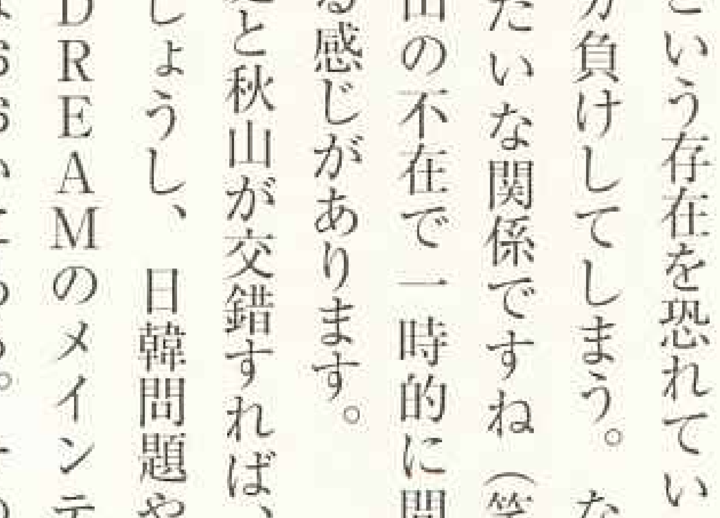
[2008.6.15 DREAM.4]
横浜アリーナ
×vsメルヴィン・マヌーフ
(1R 1分30秒 KO)

サク、DREAMの最新試合では、マヌーフが右ハイを決めたあと、パウンド! ロープ際から中央に引きずり出してさらに猛ラッシュ。動きの止まったサクに島田裕二レフェリーがストップを宣言した。



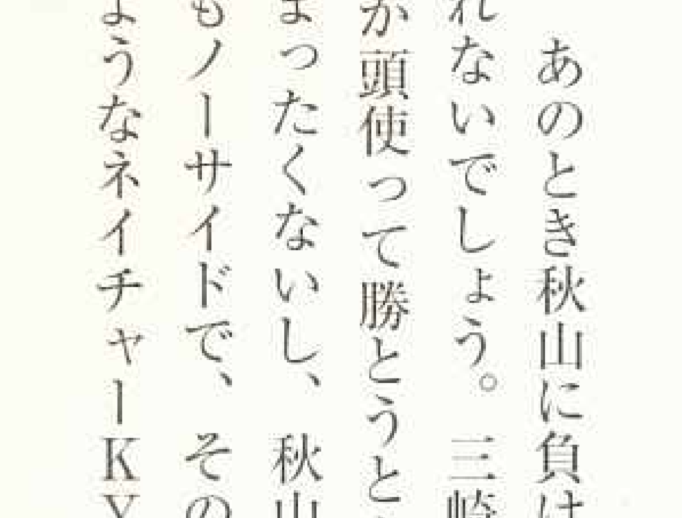
[2006.12.31 Dynamite!!]
京セラドーム大阪
ーvs秋山成勲
(ノーコンテスト)

狂気の秋山戦、サクはパウンドを浴びながら、「すべるよ!」と懸命のアピールも聞き入れられず。絶え間なく殴られ続けた結果、審判長によるゴング、TKOが宣告された(最終的に秋山の反則でノーコンテスト)。



[2006.8.26 HERO'S]
有明コロシアム
●vsケスタティス・スミルノヴァス
(1R 6分41秒 腕ひしぎ十字固め)

サク、『HERO'S』初登場試合だが、試合はダウンしたサクを連打、ロープ際からリング内に戻され、いつストップでもおかしくない2分以上のラッシュ。最後は逆転勝利も、不可解なレフェリングが大問題に。



[2005.6.26 PRIDE GP 2nd ROUND]
さいたまスーパーアリーナ
×vsヒカルド・アローナ
(2R終了時 TKO)

顔面ボコボコのサクが衝撃的なこの試合、すでに右目周辺が腫れ上がっていたサクに、アローナは非情の4点ヒザ蹴り連打! サクはガードしながら耐えていたが、2R終了時のタオル投入で、ようやくストップ!

DREAMには、帝国崩壊後の世界、占領下の日本みたいな感じがします

秋山成勲は、なぜタブーなのか？

つけようとするのは、マスコミではタブーなんですよ。ただ、FEGは韓国に地盤があって、10月に行なわれる予定のDREAMのコリア大会ではおそらく秋山を主軸にするはずなんですけど。

菊地　そこは凄く興味ありますね。DREAMや谷川（貞治）さんが日韓問題をどういう手さばきでデザインしてくのか。

――いま、韓国で秋山は自動車、ビール、バナナ牛乳のCMやモデルもやる超売れっ子で、さっきの話と呼応するみたいですけど、日本では〝魔王〟で大ヒールなのに、韓国では超ベビーフェイスで。この前は韓国の5万人集まった音楽イベントで歌まで熱唱してますから（笑）。

菊地　歌ってるんだ（笑）。韓国人は、歌がうまいことが英雄の基本要素ですからね。日本でCDデビューとかしないんですかね。

――日本ではそういう動きはないですね。ただ、TBSやFEGのプロデュースにはその色気をほんのり感じるんですよね（笑）。「秋山はベビーフェイスだ」と。そこにファンと再び溝が生まれてきそうな雰囲気なんですが……。まあ、普段は日韓バラバラでもいいんですけど、DREAMのコリア大会は日本市場にも発信しなきゃいけないから、いまのアンビバレンツな状況の秋山をどうプロモーションするんだろうって。

菊地　日本と韓国というのは、こんなにインターネットの時代になっても情報がまったく分離したままになっちゃってる状況があって、いまだに変わらないですから。というかネットの中の日韓こそ、現在一番憎悪し合っているわけです。DREAMがナショナリズムの問題に対して振るう手さばきは見ものですね。

――なんと言っても、オリンピックイヤーですから。DREAM全体で気になったところはありますか？

菊地　これはいい意味でなんですけど、全体的にはなんだか占領下の日本みたいな感じがするのね。

――DREAMは占領下の日本⁉

菊地　帝国崩壊後の世界ですよ。PRIDEに残っていた80年代の異常なバブル感やUWF的な匂いとか、ゾワゾワするくらいの高揚感がなくなって、しかもそれが全然イヤじゃない。逆に凄く落ち着いて観られるというか。ヒョードルもノゲイラもいないヘビー級を見てると、なんか占領下で一番重要なものをアメリカに取り上げられちゃったような感じなんだけど、残った選手たちは小粒ながら、もの凄く頑張ってるという。帝国の残党でやっているんだけど、本尊が違うようなイメージがありますね。

――実質的にアメリカの統治下にあるわけではないですけど、「世界最高峰」をうたっていたPRIDEのイメージとは対照的ですね。

菊地　あの頃はこんなに上がっちゃっていいの？　いつか誰かが発狂するんじゃないの？　っていうくらい異常なムードでしたから。でもPRIDEはあっという間に傾斜し、崩壊して。その焼け跡にDREAMっていう仮設イベントができた。いま日本は統治下じゃないけど、「昔はGHQがいた」とかって聞いた、ああいう記憶が喚起される。世界中にはイラクとか統治下の国がいっぱいあり、おもにそれは不幸にフォーカスが当たりますが、統治下のよさというものがある。DREAMにはそれを感じます。佐藤Vがあいかわらずの勢いだし、あの上げる力はホントに凄いですけど、帝国の中のゲッペルスから統治下のテレビ局みたいになった。庶民に夢と生きる力を、という。

――そこを見ていると、あまりパワーダウンしたようには感じないんですけどね。

菊地　だから属国感はあるんだけど、PRIDE初期やIGFとかにあるインチキな不全感とは違って、属国だからこそ誇り高くちゃんとやってんだ、という新鮮さもある。もちろんいつの時代でもオッサンの繰言として「昔はPRIDE帝国っていうのがあってさ」「ヒョードルとミルコが闘ってさ」とか言うわけじゃないですか。

――「昔はよかった」的な感じで。

菊地　「草刈正雄っていうのは、キムタクどこの騒ぎじゃなかったんだ」みたいな。でも、DREAMは焼け跡の夢がありますよ。まさにDREAM（笑）。

――背伸びせず、日本にフィットしている感じはあるかもしれないですね。

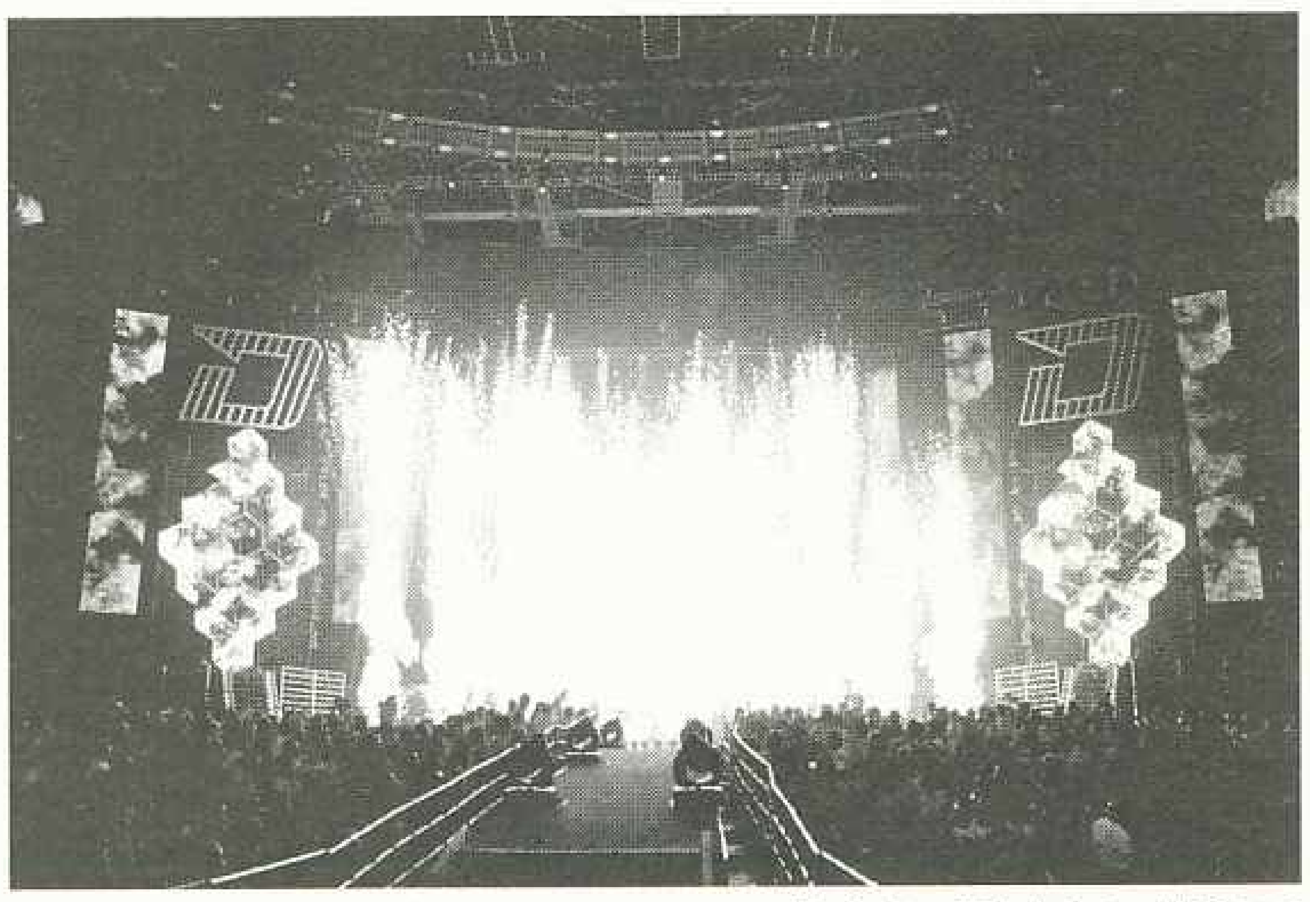
菊地　高阪（剛）と須藤元気の解説も素晴らしい。ただ画面上にフリーハンドで円を描いたときはけっこうハラハラしたけど（笑）。

――ダハハハハ！　野村克也さんが野球解説をするときの〝野村スコープ〟ばりに。あれはかなり斬新ですよね（笑）。

菊地　あれがどうなるのかも含め（笑）。下半期も期待したいですね。

――よくわかりました。今回もありがとうございました！

【08年6月18日／都内・菊地成孔氏の事務所にて収録】



PRIDE帝国崩壊後に誕生したDREAM。ライト級&ミドル級を中心に、仕事ができるファイターが集結する、細部まで気の利いたクオリティの高いイベントは、まさに等身大かつリアル。そしてじつに日本的な世界と言えるのかもしれない。



桜庭和志は“友だち”か？ それとも“商品”か？

FEG代表

谷川貞治



桜庭和志を語る最後の人物は、我らがサダハルンバである！ 桜庭の友人であり、プロモーターでもあるサダハルンバは桜庭をどう見ているのか。また、地上波ゴールデンタイム放送が決定している『DREAM.5』から話から派生して、テレビにおける選手育成の解説までしてくれた。前号では“お休み”だったサダハルンバが今号で大爆発だーい!!

聞き手／ジャン斉藤　大会写真／乾晋也、山口比佐夫

——先月号は、ウチとしては珍しく谷川さんのインタビューが載ってなかったんですよね。

谷川 苦情殺到でしょ？

——…………まあ、そうですね……うん（無表情で）。

谷川 やっぱりさぁ、ボクがいないと読者ももの足りない感じだよねぇ。うふふふふ〜。

——これが黒魔術か、なんだか眠たくなってきた（笑）。もの足りないというか、ある読者から「『kamipro』は政治的に谷川とK−1ワールドユースを取り上げている」というハガキが届いたんですよ。こういう苦情ならどんどん受けたいなって（笑）。

谷川 んあ〜！ ボクのことを政治的に取り上げてると思ってる人がいるんだ。だったらワールドGPを扱ってよぉ！

——（無視して）で、今日はたとえ政治的だと指差されようが、桜庭さんのことを取り上げないといけません。

谷川 今日、そのサクちゃんから電話がありました。「無事退院しました」って。なんか全身麻酔の手術をして、腰の骨を腕に移植したみたいなんですよ。

——けっこうな大手術じゃないですか！

谷川 うん。全身麻酔って大変なんだよぉ！ ボクも3年ぐらい前に盲腸の手術をしたんですよ。そのときも全身麻酔をしてさ……話が長くなるけどいい？（かわいらしく）。

——（再び無視して）桜庭さん、そもそもケガを押してのマヌーフ戦だったんですよね？

谷川 そうなんだよねぇ……。指のねんざとヒザ。グローブが入らないくらい手が腫れてたんですよ。それでも欠場がで

きなかった。やっぱりメインイベンターとして発表されて、お客さんも期待してるし、ミドル級のトーナメントに関してはサクちゃんがいなかったら成り立たないことがわかっていたというか。

——柱の一つとなるべき田村さんや魔王が欠場しちゃってますし。

谷川　でも、サクちゃんは試合前に「たとえもし負けても、メルヴィンに真っ向勝負して負けるんだったらなんにも思わないけど、この状態で負けたら悔しい」って言ってたんですよ。

——そんなことをコボしてましたか……。

谷川　こないだのK-1の武蔵も、ケガをしてて出られるような状況じゃなかった。サクちゃんにしろ、イベントの主催者として見た場合、自分以上になんとかしなきゃいけないという意識が凄く高いんだよね。DREAM愛とかK-1愛がちゃんとあるんだよ。

——でも、主催者として出場を止めることは考えなかったんですか？

谷川　だから、そこまでさせちゃったことに関しては、主催者の一人として無念というか、申し訳ないなっていう。「出場を止めればよかった」っていう後悔とはちょっと違うんですけど。

——ボクが気になったのは、たとえあのケガがなかったとしても、いまの桜庭さんには不安や悲しさを感じてしまうというか……。

谷川　そうなんだよねえ、なんかね。

——それはやっぱり桜庭さんの〝今後〟が、ファンからすると見えづらいからなのかなっていう気もするんですよ。いまのDREAMって、新しい選手や流れが次々と生まれているじゃないですか。その中で桜庭選手はどこに焦点を絞っていくのかな、と。

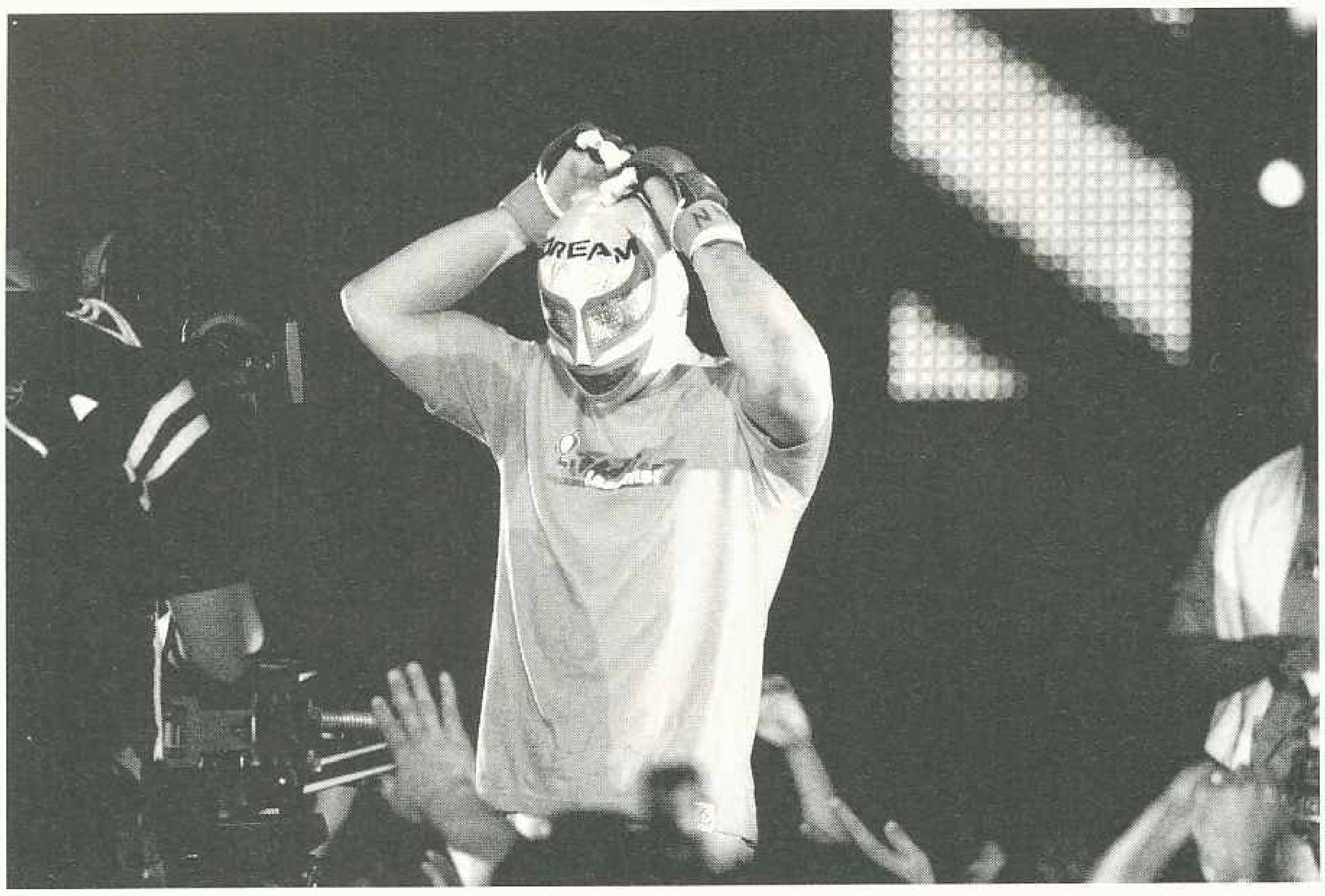
谷川　個人的にはメルヴィンともう一回やってほしいなあ。

——再戦ですか！　……谷川さん、ずいぶんとタフですね。

谷川　絶対に勝てると思うんだけどなあ。

——そうかもしれないですけど、多くのファンはそう意気込めるほど、立ち直れてないですよ！

谷川　ボクはサクちゃんの体調のいいときにメルヴィンと闘ったらどうなるのか？　っていう興味は凄くありますけどね。もちろん田村選手との試合でもいい。いま見えているのは、この二つぐらいかな。サクちゃんは体調がよければ、まだまだ強いと思うけどねえ～。



6.15『DREAM.4』マヌーフ戦では白覆面で入場してきたサク。「我が人生に悔いなし」と映し出された佐藤大輔氏作の煽りVと併わせて考えても、演出にはどこかいつもと違う雰囲気があった。

完全に商品として見ることができる選手？ それは魔裟斗くんとかＫＩＤくんかな

——じゃあ、観る側のイメージの問題なんですかね？

谷川　そうかもしれない。違うかなあ？

——ただ、最近の桜庭さんには、とにかく勝っても負けてもいいから、安心したいところがありますね。

谷川　サクちゃんって、ハッピーエンドを常に期待されるタイプだもんね。

——やっぱりそれは今回に限らず、いままで興行を無理やりにでも背負ってきた姿勢がそう感じさせるのかもしれません。ジャンルのために犠牲になってきた……っていう言い方はストレートかもしれないですけど、だからこそハッピーエンドになってほしいというか。

谷川　でも、ボクは船木選手にもそういう気持ちがあるよ。船木選手にもハッピーエンドになってもらいたいなって。

——あ、船木さんにも。もしかして、友だちとしての感覚が強いんじゃないんでしょうか？

谷川　うん、それはあるかもしれないね。

——生々しいかもしれませんが、興行である以上、選手って〝商品〟という言い方ができると思うんです。谷川さんの中の桜庭和志というファイターというのは、商品と友だち、どっちの度合いが高いんですか？

谷川　商品と友だち？　……う～ん、半々ぐらいかなあ。そこは不思議な感覚があるよね、サクちゃんには。

——たとえば、完全に商品として見ることができる選手って誰ですか？

谷川　それは魔裟斗くんとかＫＩＤくんかな。たぶんね、サクちゃんに〝友だち〟っていう意識があるのは、いろいろケガもしていてさ、年齢的なこともあって思うように力が発揮できてないからかもしれない。いまの魔裟斗くんやＫＩＤくんはそうじゃないでしょ。

——だから、魔裟斗をプロデュースにする際にあまりよけいな感情が入らないと？

谷川　そうそうそう、入らない。魔裟斗くんはわりと気心が知れてるっていうか、信頼関係はあるんだけど、やっぱり商品ですよね。安心できる商品というか、信頼できる商品だよ。サクちゃんに友だちという感情が凄くあるのは、やっぱりサクちゃん自身のピークから考えると、いまはちょっと衰えてるっていう意識があるのかもしれないですけどね。

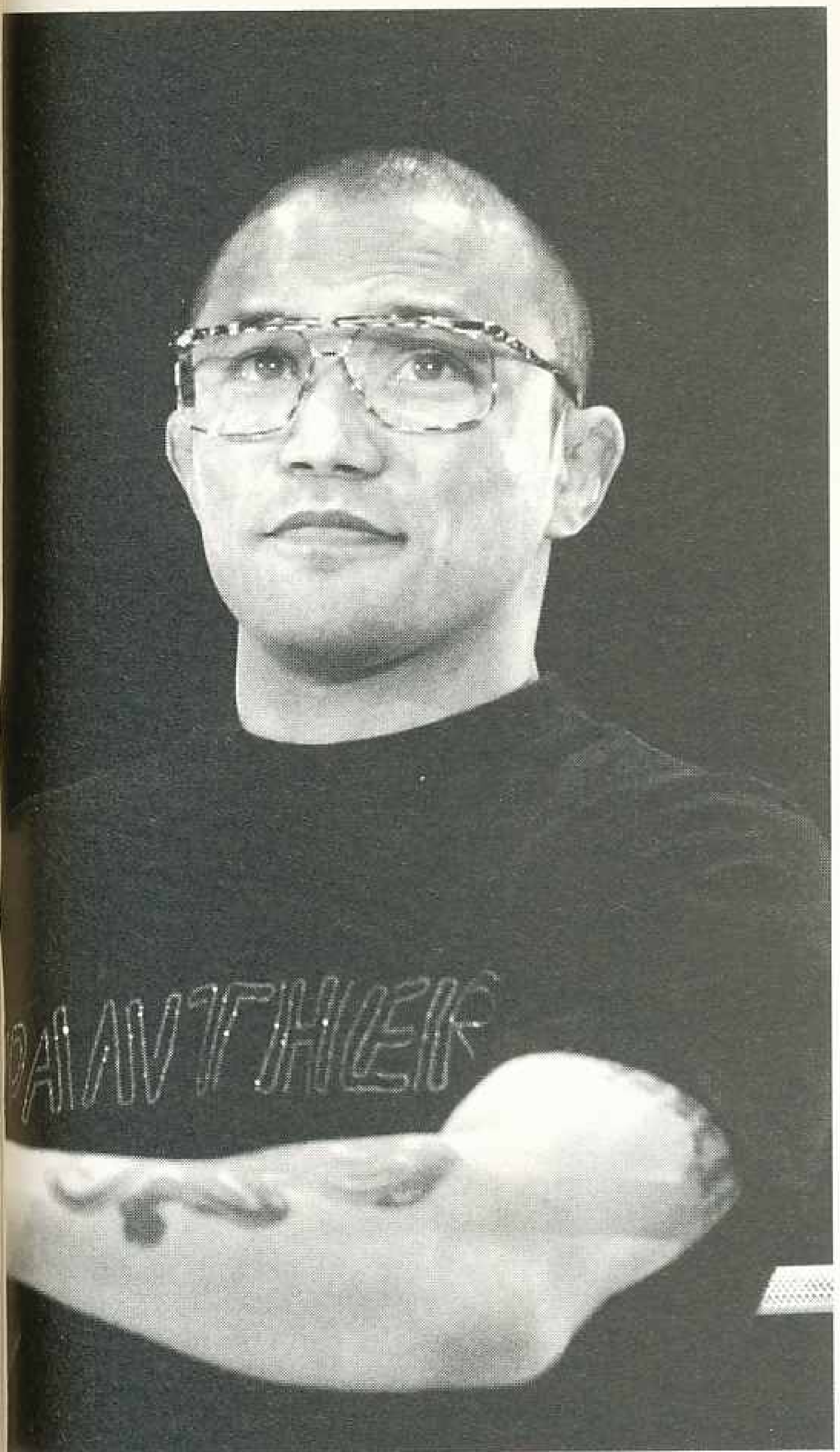
——〝友だち〟としての感覚が、いいほうに作用する場合もあれば、悪いほうに作用する場合もあると思うんですけど。

谷川　決して悪いほうには作用しないと思うけどね。なんていうか……、ほら、ボクって根が冷たいじゃない。

——はい（笑）。じゃあ、桜庭和志を見る目というのは、わりと冷静であるっていうか。

谷川　逆にいうと、友だちだからこそ、商品としての桜庭和志に対してキツいこと

をさせちゃうんだなって思いますね。
—もの凄くシンプルに言うと、友だちだからもっと頑張ってほしいって感じですか？（笑）。
谷川　そう言われると底が浅く聞こえるんだけどさぁ。友だちだからこそ、まだまだ商品として伸ばしていきたい気持ちは凄くあるよね。サクちゃんだって現役であり続ける以上は、そういう気持ちは持っているだろうし、友だちだからこそ、その気持ちに応えたい。ホントにその人のことを友だちだと思ったら、キツい仕事をさせたほうがいいもんね。それにボク、好きな人間としか仕事しないから。
—じゃあ、○○○に対して、わりと無関心なのはじつは嫌いだってことなんですね（笑）。
谷川　……なんで知ってるのさあ。
—ダハハハハ！
谷川　冗談はともかく、サクちゃんのことを思うからこそ、ギリギリまで頑張ってほしいなっていうか、今回みたいに本人が「それでもやる」という意向を尊重しちゃますよね……。
—そのケガをしていたっていう話、あまり美談にならない最近の風潮って、どう思われます？
谷川　ああ、全然美談にならないよね！（ひときわ大声で）。
—また力を込めますね（笑）。
谷川　でも、誤解しないでほしいのは、ボクはサクちゃんの負けた言い訳をするつもりはなくて、ケガの事実だけを伝えたかっただけなんですよ。べつに美談にならなくてもいいんだけどさ……、こんなにならないのも問題だよねぇ。なんでなんだろう？
—そんなの谷川黒魔術のせいに決まってるじゃないですか。
谷川　んなことないよぉ！
—でもまあ結果的に、よけいに桜庭さんを見る目を惑わすことになってますよ。やっぱり黒魔術だ！（笑）。
谷川　いや、それは選手からは絶対に言えないことだからさ。言ったら言ったで

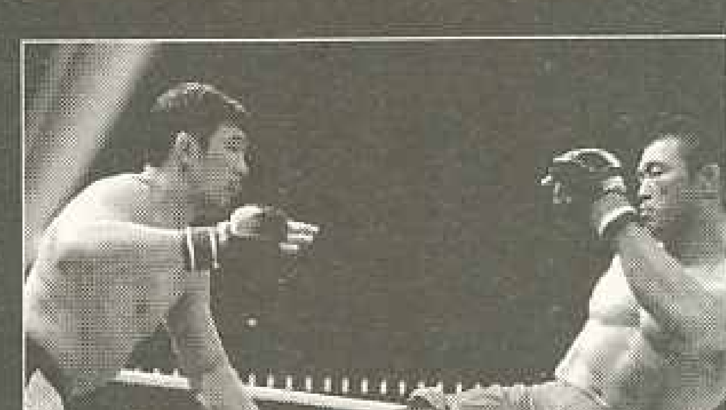

いよいよDREAMのリングに登場する秋山とKID。『DREAM.5』が地上波ゴールデンタイムで放送されるということを考えると、この二人は大きな武器となるが、イベントにおいてどのように打ち出されるのかは非常に見どころである。

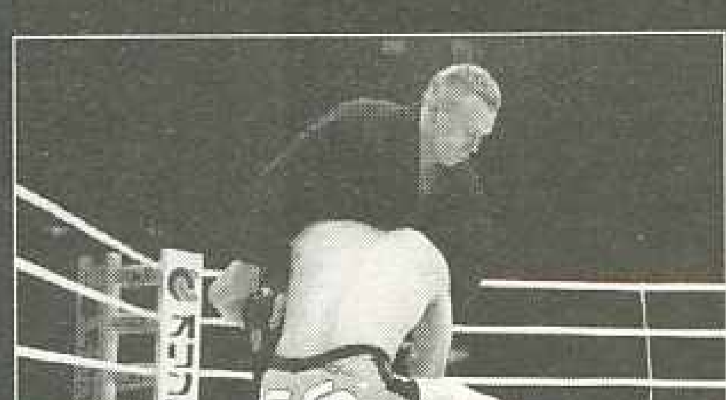
ほら、最近の選手って、ホントに自分の都合しか考えないヤツが多いじゃない

格好が悪くなるでしょ。ほら、最近の選手って、ホントに自分の都合しか考えないヤツが多いじゃない。
—ムチャなこと要求してくる選手は多いですよね。
谷川　業界が大変なときに信じられないよ。だからサクちゃんとか武蔵みたいな選手のことは、なんとかしてフォローしてあげようと思ってさ。武蔵なんかメチャクチャ偉いんだよ！　ボーッとしてるように見えるかもしれないけど。
—んあ〜！（笑）。やっぱりテレビ的に武蔵さんは必要不可欠だったということですか？
谷川　必要でしたね。
—最近、テレビの視聴率に手応えは感じます？
谷川　なんか普通だよねぇ……。ほかの番組と変わらない。昔は格闘技番組って特別だったけど、いまは普通の番組になっちゃいましたね。
—どうして“普通の番組”になっちゃったんですかね。
谷川　そこは日本では格闘技に目新しさを感じなくなったっていうのがあると思います。視聴者が格闘技に慣れてきた。いったん慣れちゃうと、よっぽどの刺激を与えないとなかなか熱は戻らないんですよね。その対処療法というのは、いろいろやってきたんだけど……それさえも麻痺しちゃってる。
—そういう中で、『DREAM・5』のゴールデンタイム放送が行なわれるわけで

谷川黒魔術と桜庭和志の変遷


vs ケスタティス・スミルノヴァス
『HERO'S』初戦、スミルノヴァスとの試合では、ロープ際で桜庭が殴られ続けるという危険な状況も。のちにサダハルンバは本誌のインタビューで「スミルノヴァスもあんなつもりじゃなかったんだけどなあ」とポツリ。


vs 秋山成勲
秋山を“魔王”と呼ばしめるに至った“事件”が勃発したのがこの日。ここでも“不思議”な試合に関わることとなってしまった桜庭……。スミルノヴァス戦に続き、ファンはとてつもないストレスを抱えることとなった。


vs ユーリー・“プレイボーイ”・キセリオ
スミルノヴァス戦、秋山戦と、ことごとく“相性の悪さ”が浮き上がってしまった桜庭だが、プレイボーイ戦ではひざびさの快勝。プレイボーイのセコンド陣営までが桜庭と包容し、勝利をたたえていた姿はまだ記憶に新しい。


vs ホイス・グレイシー
伝説の『PRIDE GP2000』から6年。10万人規模の『Dynamite!! USA』の舞台で再戦をはたした二人。好勝負ではあったが、ホリオンが無念の表情でタオルを投入するというような名シーン&名勝負には至らず。当然なのだが。



すね。
谷川　あれ、キムタクの『CHANGE』と同時間帯になるのかな？
——いや、織田裕二の新ドラマですね。
谷川　どっちにしろ強敵だなあ。ボク、視聴率みたいな結果が出るものは大好きなんだけど、ホントに次は大勝負だと思いますよ！
——ここ最近のDREAMはライブショーとしての評価はグンと高まってきてますけど、今回はそれとはまた別次元の闘いを強いられるわけですよね。
谷川　ゴールデンタイム用のファイターが必要になってくるしね。それに格闘技を支えるためにも、そういう選手って必要なんですよ。へんな話、いまのDREAMは青木くんみたいな選手をそういう感じで育てていきたいんですよね。でも、それって凄く時間がかかる。たとえば武蔵選手にしても、ここまでくるのに、もの凄〜〜〜く時間かかりました。
——それこそ10年近くテレビに出まくってますし。
谷川　その武蔵に勝った前田慶次郎選手なんかに至っては、ああいうカウンターを狙うスタイルだから、もっと時間がかかると思うんですよね。
——だいたい一人の選手を〝テレビタレント〟として育て上げるのに、時間はどれぐらいかかるもんですか？
谷川　やっぱり最低1年かな。早くて1年ですね。よっぽどの試合をやれば、1年でなんとかなるんだけど、それでもやっと芽が出たくらいかなあ。たとえば澤屋敷選手がバンナみたいな誰もが知ってる選手に勝った。日本人で初めてバンナに勝っても、やっぱりまだまだ知られてないですもんね。青木くんだってさ、カルバンに勝つなんてメチャクチャ凄いことをやってるんだけど、世間の人はカルバンのことを知らないから。そこは歯がゆいですよねぇ〜。

あのKIDくんでさえ魔裟斗くんと試合して初めて世の中の人にわかってもらったし

桜庭和志は〝友だち〟か？ それとも〝商品〟か？

——どれくらい凄いことかっていう価値が伝わってないんですよね
谷川　うん。バダ・ハリだって相当にいい試合してるけど、テレビ的にはまだまだこれからだもんね。
——「これは驚きだ！」な〝CMスター〟谷川さんのほうが知名度はあるかもしれない（笑）。
谷川　そ、そんなことないよぉ〜（鼻をピクピク膨らませながら）。
——まあ、青木真也にしてもバダ・ハリにしても格闘技界のトップファイターだけど、世間への売り出しはこれからだ、と。
谷川　そうそうそう。そのためには、どこかで世間に認知されるきっかけが必ず必要だよね。だって、あのKIDくんでさえ、大晦日に魔裟斗くんと試合をやって初めて世の中の人にわかってもらったしさ。
——それまでは谷川さんのほうが有名だったと？（笑）。
谷川　うふふふふ。もう、そんなにほめるから「政治的に取り上げてる」って言われるんだよぉ。
——はっはー、これをほめてると捉えてらっしゃいますか。
谷川　え？　違うの？
——（無視して）そう考えると、所選手の一般的なブレイクって、じつは奇跡的なことだったんですね。
谷川　うん、所くんは奇跡的なパターン。世の中に憶えてもらうにはホントは時間がかかるし、逆に忘れられるのは早いからねぇ……。あっという間だよ！　あの手この手でやらなくちゃダメなんだから。
——理想を言えば、2〜3年のあいだ3カ月にいっぺんくらいは試合をして、テ



vs メルヴィン・マヌーフ

DREAMミドル級GP2回戦では猛獣マヌーフとの対戦となり、厳しい試合が予想されたこの一戦。コンディションがよくなかったこともあるが、桜庭自身、そしてファン、関係者は、夢ではなく厳しい現実を目の当たりにすることに。



vs アンドリュース・ナカハラ

DREAM初試合では極真の実力者アンドリュース・ナカハラと対戦。「トーナメントには出ない」と頑として言いはった桜庭だが、この一戦を制し、ジャカレイやメイヘムがいる強豪ぞろいの2回戦へとコマを進めた。



vs 船木誠勝

船木の現役復帰を迎え撃つこととなった桜庭。『Dynamite!!』のメインに大抜擢されたこの試合でもやはり一本勝利。同時開催された『やれんのか!』にはヘリで駆けつけるという噂もあったとか（?）。



vs 柴田勝頼

柴田との対戦発表記者会見で、なぜか柴田の兄貴分である船木が「桜庭さんと闘いたい」と対戦表明するという異例の事態となったこの一戦。試合は桜庭の一本勝ちで幕を閉じ、船木戦へと気運を高めたのだった。



〈ジャンル開拓型〉

MMA、K-1中量級を牽引してきた二人。彼ら以外に名前を挙げるのが難しいと感じるほど、格闘技界にとって偉大な功労者なのである。二人の場合、自身の活躍とともにジャンルが成長し、ジャンルの成長によって名を広めた、まさに相乗効果で大きくなった選手だ。

レビで流れて。

谷川　そうやって選手が育ってこのジャンルを支えることになる。そういう意味で、いまの青木くんやバダ・ハリにはバンバン試合をして活躍してほしいよね。

——ただ、やっぱりコアなファンからするとテレビに寄りかかるのは嫌うじゃないですか。

谷川　でも、テレビがないと成立しないですよ。っていうか、早稲田大学のスポーツマーケットに詳しい教授がいるんですけど、その人が「テレビで放送してないプロスポーツはプロじゃない」って。要するにプロスポーツは興行収入だけで成立するわけがないというんです。だからサッカーでも野球でもなんでもそうだけど、テレビがあってスポンサーがあってゲート収入がある。マスターベーションではなく、"世間"と勝負しているのが、プロスポーツだって言うんだけど、そのとおりだと思うもん。UFCなんかも急に人気が上がったのは、リアリティショーが始まってからでしょ。

——そこは競技性うんぬんじゃないですよね。

谷川　UFCだってテレビですよ。メディアのバックアップなくして盛り上がるんなら、誰も苦労しないよ。だからテレビへの戦略をしっかりと立てないと、プロスポーツは維持できないと思う。

——谷川さん、バレーボール中継とかご覧になってます？

谷川　ちょっと観ましたよ。

——試合前に松田聖子やジャニーズが歌うんですよ、コートの中で（笑）。

谷川　そうなんだよね〜。なんで松田聖子を使ったのかわかんないんですけど。やっぱりそういうタレントを持ってきたりして、いろいろ努力してるんだけども。それでバレーの視聴率がいいかっていうと、そうでもないんですよね。どこも苦労してますよ、プロスポーツは。

——いまのテレビって、バラエティとクイズ番組ばかりになってますもんね。

谷川　いまの日本はそうだよね。だから、たとえばこないだK−1福岡大会も12パーセントぐらいで。じゃあ、その時間帯の1位は高いかといえば、14パーセント。高くないんだよ。ボクがK−1プロデューサーになった頃の20パーセントがあたりまえの時代と、テレビの状況が全然違うもんね。かといって影響力がないわけじゃないし。

——難しい時代なんですね。

谷川　まあ、単純に格闘技に慣れちゃってきてる部分に関しては、早急になんとかしないといけないけど。ワールドGPも、シュルトvsジェロム・レ・バンナとか、バダ・ハリvsグラウベとかいいカードが揃ってるんだけど、ずっとこういうカードが普通に続いてくんだなっていう感覚がファンの中にきっとある。それだと意識として「いま観なきゃ！」とはならないでしょ？

——要は谷があるから山があるわけで、ずっと平地だと景色は変わりませんね。

谷川　だから新しい可能性を見せないとダメだろうなっていう感じはありますね。それで新しいことをやる意味では、たとえばMAXの60キロとか、ワールドユースとかでもいいし、DREAMなんかにも可能性を感じるんですよね。

——新しい格闘技文化として。谷川さんはライト級GPについてはどうご覧になってます？

谷川　注目はやっぱりエディ・アルバレスだと思うんです。エディにどこまで通用するのか、どこまで凄いのか。だから川尻くんがエディをやっつけたらそれは素晴らしいと思うし。ただ、エディが一番新しい世代の新しいタイプの、これからの鍵を握ってる人だなって感じがするから。青木くんはもちろん若いけど、青木くんって最近にしては珍しい、昔のタイプだもんね。柔術家っていうかさ、ある意味、"究極のグレイシー"じゃない。

——ヒクソンとかホイスにやってほしかった試合を平気でこなしてますよね。

谷川　そうそう。"究極のグレイシー"が青木くんで、"究極のMMAファイター"でいえばエディ。そこに川尻くんとか宇野くんがどう立ち向かっていくか。パワーで川尻くんがどこまで対抗できるか興味があるし、逆に言うと宇野くんは経験値でかなり頑張れると思う。だけど、寝技になったら青木くんのほうが強いだろうね。

——宇野選手は寝技に付き合いたくないでしょうね。

谷川　付き合わないと思うんですけどね。でも、青木くんって、付き合わないようなことさえもさせないじゃない。結局、青木くんの世界に持ってかれちゃうじゃん。



〈長期成長型〉

95年9月K-1デビュー以降、サダハルンバが耐えに耐えて育ててきた武蔵。はじめは認知度もそれほどではなかったが、いまとなっては澤屋敷や前田慶次郎という名前が上がっても、武蔵の貫禄には勝てない。やはり黒魔術でリザーブマッチに出し続けるのも重要なのか（?）。



〈シンデレラボーイ型〉

ペケーニョ戦でのバックブロー命中で一躍スター街道をひた走ることとなった所英男。武蔵とは対照的に、一瞬にしてこれほど名を上げることは珍しいパターンである。"シンデレラ"ボーイだけに、サダハルンバも永遠と魔法が解けないことを祈らねばならない?

早稲田大学の教授は「テレビで放送しないプロスポーツはプロじゃない」って

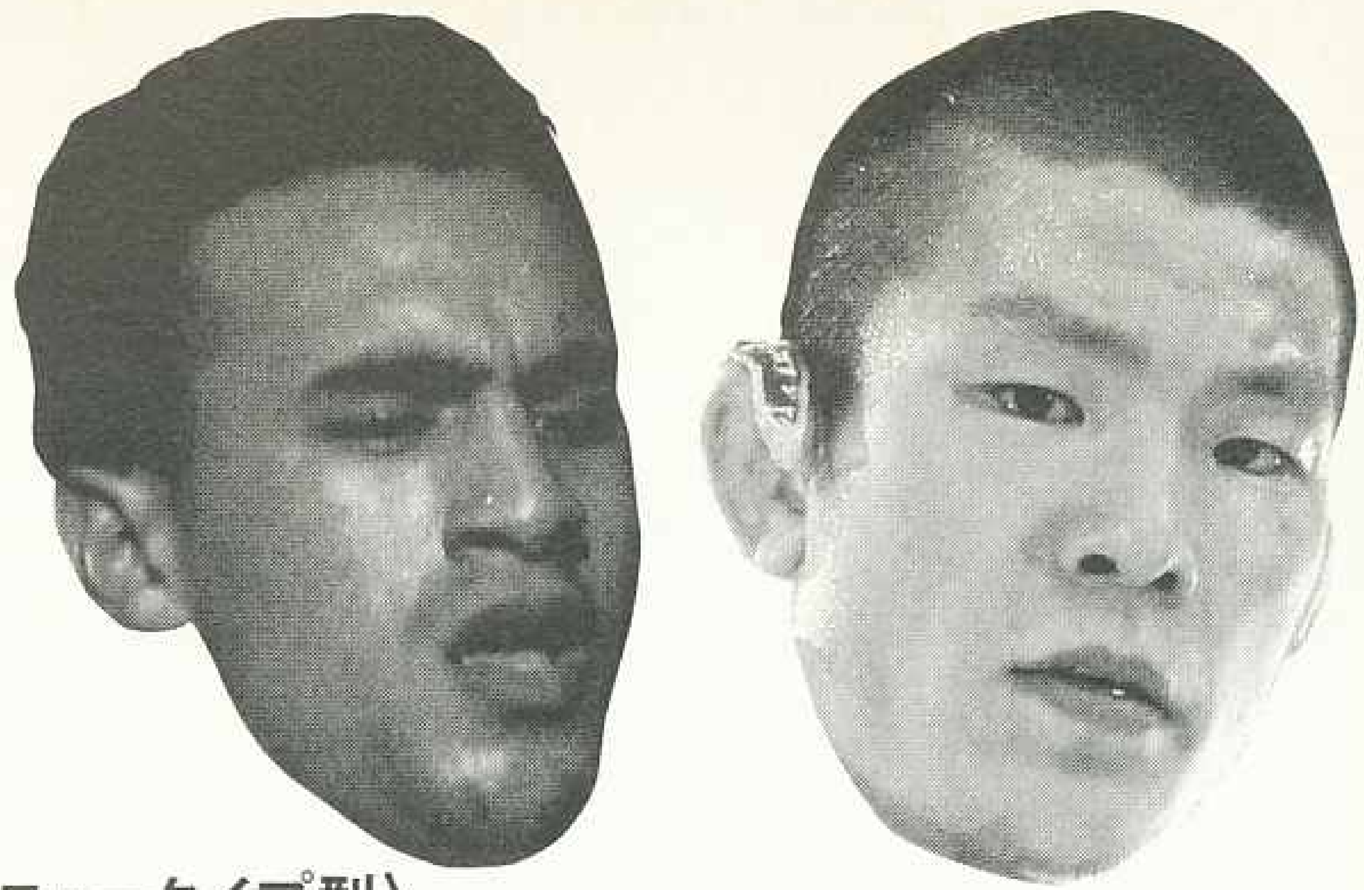
なんか、いまどき珍しいですよね。懐かしいけど、観たことない。ある意味エディのほうは凄くわかりやすい、強さとして。

——青木真也の強さって、テレビ的にはわかりづらいもんですか？

谷川　わかりづらいと思いますね。でも、それは技が難解で複雑だとか、そういうわかりづらさだから。あの極めがあるかぎり、全然通用しますけどね。そういう意味ではジャカレイのほうがわかりにくいと思う。

——ワニポーズは凄くわかりやすいですけど（笑）。

谷川　ジャカレイは、どこまでノゲイラみたいな〝極め〟を見せられるかとだと思いますよ。



〈ニュータイプ型〉
青木もバダ・ハリも、すでに業界では名実ともにトップクラスの選手であることは間違いない。しかし、世間的(テレビ的)な知名度を考えると、まだまだ"知らない人"なのだ。今後、こういったニュータイプがどうやって爆発していくかが、格闘技再熱のキーになりそうだ。

プロモーターとかファンとかに「あの選手をまた観たい」って思わせたら勝ち

桜庭和志は"友だち"か？ それとも"商品"か？

——たとえば川尻さんって、わかりづらいですか？

谷川　強さとしてはわかりづらい。でも、あの無骨さはわかりやすい。

——わかりやすさって重要ですか？

谷川　重要です。

——それは実力よりも？

谷川　うん、凄く重要。っていうか、その「わかりやすさ」も実力のうちでしょう。プロモーターとかファンとかに「あの選手をまた観たい」って思わせたら勝ちなんだから。

——ブラックマンバって、「わかりやすい」から使っているうちに成長しちゃった感じですか？

谷川　そうなんだよね。こんなことを言ってると、選手を色モノとしての評価しかしてないんじゃないかって勘違いされるかもしれないけれど、どこのジャンルだって「わかりやすさ」は求められますよ。ほら、ボクがイケメンを使うのだって……確かに美男子好きなんだけどさあ。

——よっ、ジャニー谷川！（笑）。

谷川　でも、じつはただイケメンを選んでるわけじゃなくて、そこはわかりやすいか、わかりにくいかでしょ。

——まあ、人は見た目が9割と言いますし（笑）。

谷川　わかりやすいっていうか、人にいかに伝えるかが問われるわけだよぉ。ポイントは伝わりやすいかどうか、ですね。

——そこはファイトスタイルの問題でもないんですね。

谷川　やっぱり性格ですね、一番は。KIDくんなんか凄く伝わりやすいし、所くんも凄い伝わりやすい。でも、（永田）克彦くんだと伝わりにくいんですよね。

——克彦選手はお兄さんを引っぱってきて、ようやくわかりやすくなりました（笑）。魔王はどうですか？

谷川　わかりやすいし、伝わりやすい。韓国での人気も凄いからね〜。

——モデルとキスするファッションショーの映像、見ました？

谷川　見たっ‼　凄いよねえ〜。スターの振る舞いだよねえ！（うっとり）。

——ちょっと落ち着いてください（笑）。でも、日本のファンは魔王に関して醒めてるところはあるんですよ。逆にテレビ局や魔王本人にはベビーでいきたい色気がちらほら見受けられる。まったくどう見られているのか気にしてなさが凄く怖いし、逆に感心するんですけど（笑）。

谷川　いや、ボク個人の感想はヒールとしての秋山選手は飽きてるね。たぶん世間的にも。

——じゃあ、どうしましょうか（笑）。

谷川　でも、素材としては抜群だし、もっと上がるタマだと思うね。韓国での活躍を見てたら、ボブ・サップになると思うもん。

——ああ、バンデージを巻いたまま周囲の制止を振り切って逃走しそうってことですか？

谷川　違〜う！　どういうキャラが合ってるかはわからないけど、なんだかんだいって秋山くんはボブ・サップ以上の素材というか。環状線の理論じゃないけどさ、世間に届きやすいと思うんだよ。

——猪木さんがよく口にしていた理論ですね。

谷川　猪木さんが全盛期の頃って、コアなファンはもの凄い熱狂的だけど、外のファンも凄くいた。あのときって、PRIDEのファンより変態が多かったと思うよ。

——だって暴動がちょくちょく起きるんですから（笑）。

谷川　ボクが新入社員でベースボール・マガジン社に入った頃は、プロレスファンの電話とか異常だったもんね。なんでこんなことをいちいち長々と答えなきゃいけないんだっていう（笑）。

——みんな気が狂ってますよね。

谷川　でも、あれだけコアなファンがいるから『週刊プロレス』って売れるんだなと思ってたけど、ただ一般にも「タイガーマスクが好きだ」とか「ダイナマイト・キッドが好きだ」という人がいっぱいいた。あれが猪木さんの言う環状線の理論で、そうしてかないとこの業界はどんどん縮小の一途をたどるだけですよね。

——いかに世間にボールを投げるかってことですね。

谷川　うん。ボクの話、たまに聞くと〝ため〟になるでしょ？

——ええ、これくらいのペースがちょうどいいのかもしれません。それでは、よいお年を！

【08年7月1日／都内・FEG赤阪分室にて収録】

kamipro SHOPPING

Back Number

[RADICAL特選劇場]

不思議系マイクといえばこの人! 元祖"マイクの鬼"を振り返れ!!



No.32 ラッシャー木村

昨今、マイクで妙な魅力を持つ選手といえば三崎和雄。だが、"不思議系マイクの鬼"の元祖は間違いなくラッシャー木村。アントンと抗争する大悪役なのに、マイクでは「こんばんは」と礼儀正しく挨拶してしまうあたり、三崎に通ずるものアリ? 貴重なインタビューを心して読め!

バックナンバーは電話で注文できます!

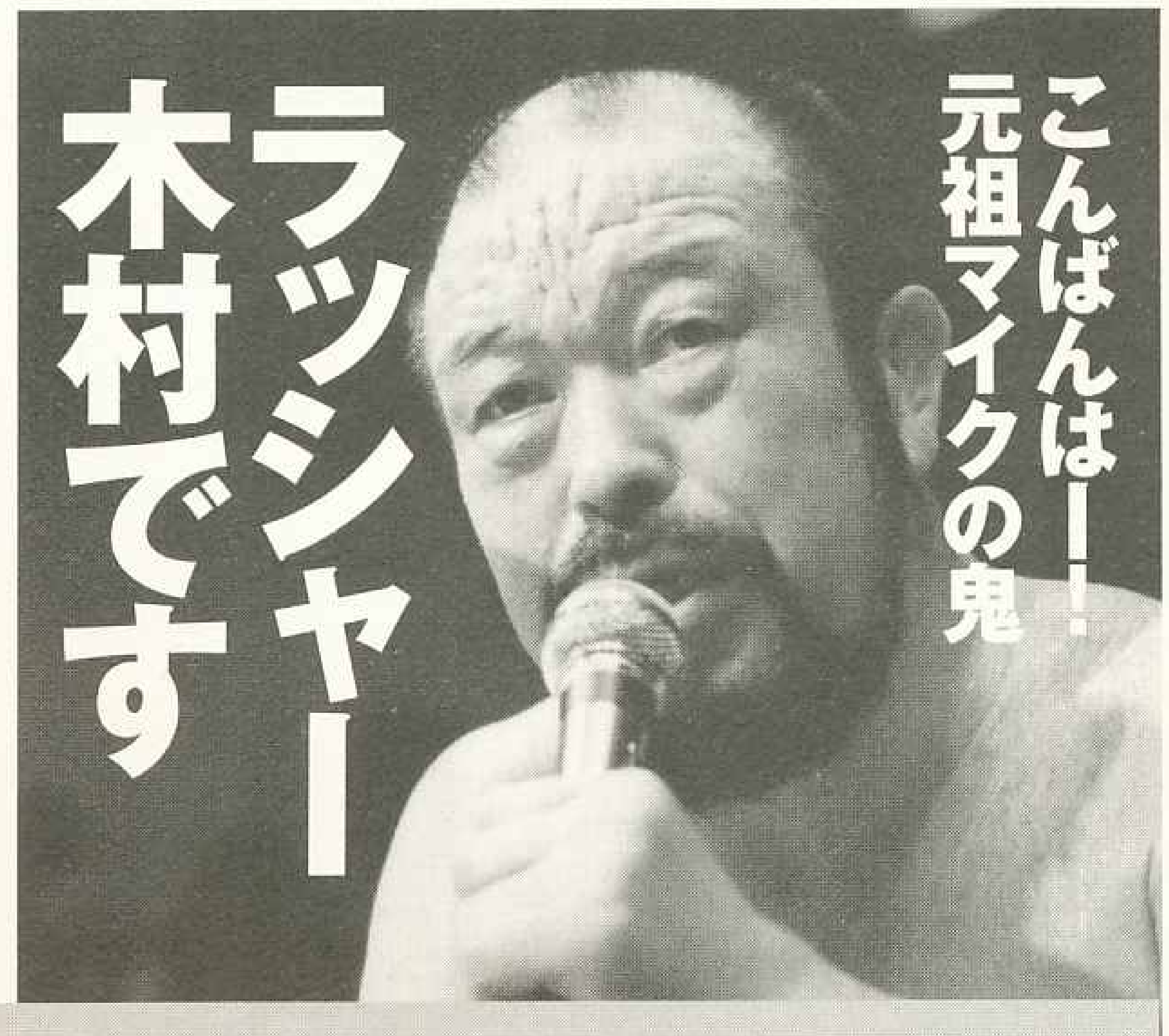
03-5368-1797

[販売元]㈱ダブルクロス(平日13:00〜19:00)

注 **No.92** 以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

三崎もタジタジ!! 名マイクの源流は RADICAL でひも解け!!





元祖! 紙のプロレス Back Number すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.15 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.17 ~~780yen~~⇨390yen
特集 実況パワフル北朝鮮
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

~~1260yen~~⇨630yen
パンクラス公式読本「矛」「盾」
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16➡No.87

No.16 1999.03 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 840yen
"新"プロレスとは何か?
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

No.34 2001.01 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

No.36 2001.02 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)]ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:高田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は。高田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木]蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 880yen
"最後の黒船"WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.46 2002.01 880yen 完売
田村潔司、……討ち入り!
[表紙:田村潔……ス! 金原×和田、浅草キッド……EPで勝利! エル・カネック／キ……

No.47 2002.02 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志]奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也]両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子／武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.54 2002.08 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!／金原が『PRIDE』参戦!／メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場! 佐々木健介／現役復帰? 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志]"異次元格闘技戦戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上! ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場!／『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

No.69 2003.12 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川]出てこい! 泣き虫! 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場!／田村潔司／美濃輪育久

No.70 2004.01 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告!／健介&北斗WJの真実を語る!／紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場!／猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

No.73 2004.04 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

No.75 2004.06 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也／奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志]小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

No.79 2004.09 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統]キャプテンに休息無し! 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功! 小川直也／草野仁

No.83 2005.01 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ]04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表! 小川直也／橋本×船木対談

No.84 2005.02 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ]"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり!! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶「kamipro Hand」で注文 ❷電話注文⇨03-5368-1797 ❸メール注文⇨kapra@kamipro.com

※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

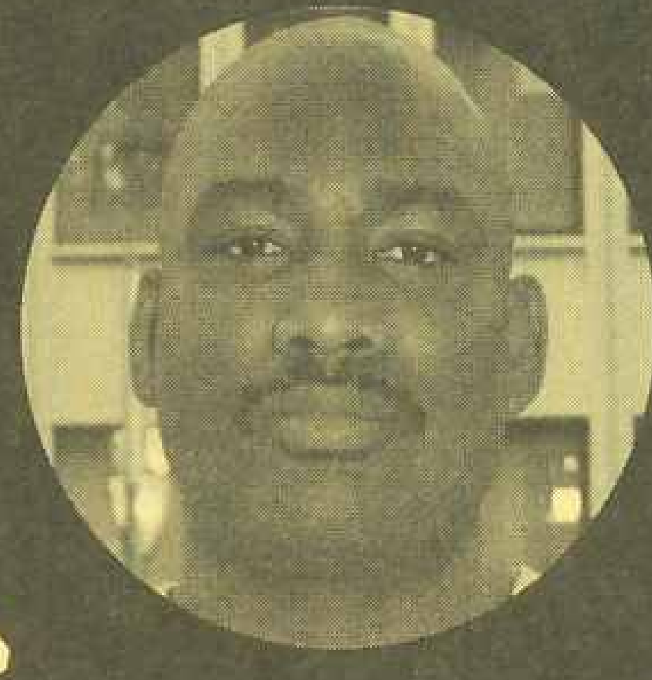
新日本プロレスが

第二次UWF、K−1、パンクラス、リングス、UFC、PRIDE……
MMAの歴史を誰よりも体感した男
それがモーリス・スミスだ！



UFC殿堂入りなんてクソ食らえ!
現在進行形のレジェンド登場!!

Maurice Smith



モーリス・スミス

6.8『戦極〜第三陣〜』と6.17『鈴木みのるデビュー20周年記念興行』で、ひさびさに日本のリングに上がったモーリス。『戦極』の吉田戦では、アッサリ敗れてしまったが、全盛期のモーリスはそりゃあ強かったのだ! 80年代後半から90年代前半は、キックボクシング世界王者として8年間無敗を誇り、89年にUWFのドーム大会に出場後、グレイシー登場前までU系プロレスラーにとって最大の外敵として君臨。その後もストライカーとして初めてUFC王座に就くなど、MMA、キックの両方でトップを走り続けた偉大なるレジェンドの足跡をいまこそ振り返ろう!

聞き手／堀江ガンツ　試合写真／／平工幸雄

―モーリスさん、ひさびさの日本だと思いますが、しばらく見ないあいだに、ずいぶん身体が"大きくなった"ような感じがするんですが……（笑）。

モーリス　う〜ん……まあ、アメリカ人というのは日本人と違って、歳を取るとみんな体重が増える。これはべつに特別なことではなく、普通なことさ。

―ズバリ言って中年太りだ、ということですか（笑）。

モーリス　ただ、私はアスリートだから、いつでも闘えるようにトレーニングは欠かしていないし、心肺機能やスタミナをいつも保っているんだ。見てくれはそれほどよくないかもしれないけどね（笑）。

―いや、大きくてたくましいと思います（笑）。実際、今回の吉田秀彦戦の前に、アメリカでは6年のブランクを乗り越えて、マルコ・ファス戦、リック・ルーファス戦と連勝してるんですよね。

モーリス　ああ。マルコ・ファスにはTKO勝ち、ルーファスにはアームロックで一本勝ちしているよ。

―6年のブランクがありながら、MMAの現役に復帰しようと思ったのはなぜですか?

モーリス　私はべつに引退してたわけじゃないんだ。K-1やUFC、PRIDEなどからオファーが来なかったから、試合をしていなかっただけさ。

―あ、単純にオファーがなかっただけでしたか（笑）。

モーリス　いったんトップスターでなくなると、そういう扱いを受けることが多いのがこの業界だからな。ただ、IFLやストライクフォースからのオファーは素晴らしいものだったよ。私にとっても自分の評判を取り戻すのにいいチャンスだったしね。

―モーリスさんは、アメリカMMAのレジェンドですし、本来ならUFCの殿堂入りをしてもおかしくない実績の持ち主ですもんね。

モーリス　UFCの殿堂には、ホイス・グレイシー、ケン・シャムロック、マーク・コールマンなんかが入っているようだが、私はあまり興味がないよ。UFCもSEGからズッファに経営が変わったし、連中が誰を表彰しようが関係ない。それでたくさんお金でもくれるというならともかくね（笑）。

―でも、このスポーツの土台を作り上げてきたという自負はあるんじゃないですか?

モーリス　MMAの土台を作り上げてきたのは私一人じゃないよ。何人ものファイターの努力で、少しずつかたちができていったんだ。それを殿堂入りとして、UFCが誰を表彰しようが関係ない。だいたい、UFCの殿堂入りというのは、オールドタイマーを再び使うための宣伝でしかない部分もある。実際、ホイスもそうだし、ケン・シャムロックもそう。ランディ・クートゥアーも現役復帰前に殿堂入りさせた。逆にUFCに上げるつもりはないフランク・シャムロックは、あれほど実績があるにもかかわらず、まったく殿堂入りの話など出てこない。

―確かにそうですね（笑）。

モーリス　だから、私にとって重要なのは、UFCの連中が自分たちのビジネスのために用意した殿堂に入ることじゃなく、いつまでもファンが自分のことを覚えていて、応援してくれることなんだ。

―確かに、そっちのほうがずっと重要かもしれませんね。日本ではモーリスさんと鈴木みのる選手の最初の試合が、MMAの起源だと評価するファンもいますよ。

モーリス　そう言ってもらえるのは嬉しいね。だけど、それは私が決めることじゃない。私は日本におけるMMAのヒストリーを知らないからね。あの試合以前にも、プロレスやミックストファイト（異種格闘技戦）が長いあいだ行なわれていたわけだろう?　でも、そんなふうに考えてくれる人がいるなら、感謝したいね。

―あのときは、どういう経緯でUWFに出ることになったんですか?

モーリス　私にもよくわからないんだ。UWFと全日本キックボクシング、それ以外にも、いろんな会社や人間があいだに入って、私のところにオファーしてきたと記憶しているね。

―キックボクシングの現役世界王者として、ああいった異種格闘技戦に出ることに、恐れや躊躇はありませんでしたか?

モーリス　躊躇がなかったと言えば嘘になる。ただ、あの頃の私は、もうキック界に敵がいなかったんだ。ピーター・アーツが台頭する前の話だからね。だから、UWFからのオファーが来たとき「俺はキックボクシングでは確かに強い。だが、キック以外の別のルールの闘いでも勝つことができるんだろうか?」と思った。自分の力を試してみたくなったんだ。

―キックというルールを超えた、強さへの欲があったわけですね。

モーリス　そして、あのUWFに出たことが、その後のパンクラスやリングスにつながり、いま振り返ると、私にとってキックボクシングからMMAへの移行をスムーズにさせるための、いい準備期間になったと思っているよ。

―でも、最初はナンセンスだと思いませんでした?　UWFはアメリカンプロレスのようなショーマンシップにのっとったプロレスでもないし、キックボクシングとも違うし。

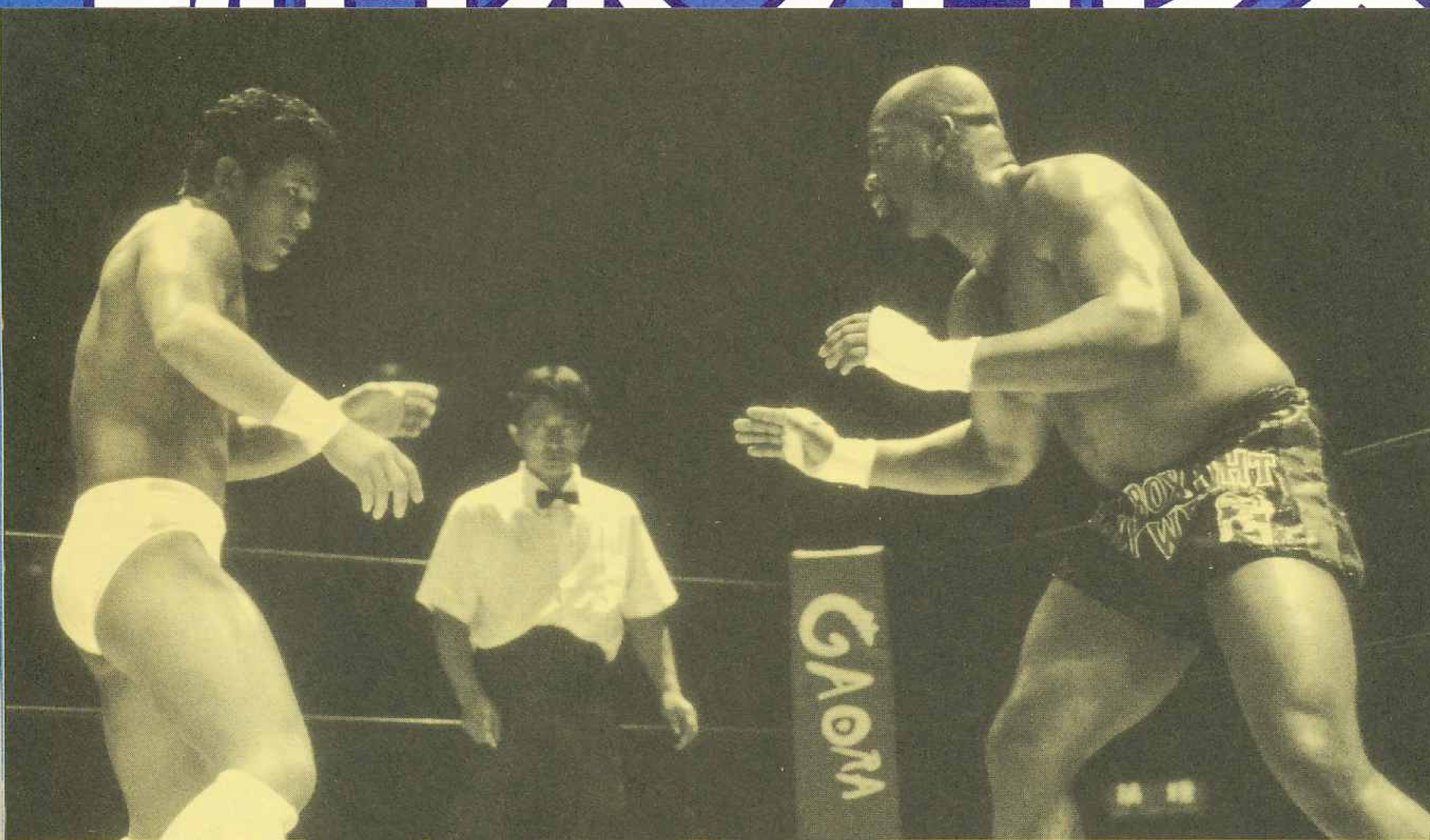
モーリス　確かにちょっと違和感はあったけど、それがビジネスとして成立していれば、問題ないと思ったよ。キックボクサーとレスラーが闘うということで、お客さんが興味を持ってくれて興行が成り立つな

アメリカ人にとって、歳を取ったら体重が増えるのは普通なことさ（笑）



6.8『戦極』での吉田秀彦戦では、ローキックを少し放っただけで、寝技に持ち込まれると袈裟固めであっさり負けてしまったモーリス。モチベーションが低かったのか?　とも思われたが、じつは作戦を実行する前に"未知の技"である道衣での絞めにやられてしまったのだという。

新日本プロレスが



UWFに出場したことで、自分が一面的なファイターだとわかったんだ

らね。そして、打撃しか知らない自分が、レスラーと闘ったとき、どこまでできるのか知りたかった。そして、チャレンジしてみた結果、自分がキックボクシングのルールに守られた、一面的なファイターだということもよくわかった。そして、UWFに出たことがきっかけで、優れたコーチやトレーナーと出会って、打撃だけでなくテイクダウンやサブミッションもできる多面的なファイターになることができた。それに日本でも人気選手になることができたしね。

——その数年後、UFCがスタートするわけですが、初めてUFCを観たときはどう思いましたか？

モーリス　じつはUFCがスタートする前に、私はブラジルのバーリ・トゥードの試合をビデオで観ていたんだ。

——へぇ、そうだったんですか。

モーリス　でも、初期UFCもそうだけど、当時のバーリ・トゥードというのは、ベアナックルだし、頭突きもグラウンドでのヒジもヒザもある、本当の〝なんでもあり〟だったから、「クレイジーだな」「コイツら、よくこんなことをやってるな」と思ったね。初期UFCの大半は、スポーツじゃなくて、まさにケンカだったしね。

——最初は否定的だったわけですね。それが自分もやってみようと思ったきっかけは何かあったんですか？

モーリス　パンクラスに出始めて、ケン・シャムロックに会ったとき、彼に「モーリス、君たちキックボクサーは本当のファイターじゃない」と言われたんだ。「君たちは限られた技術の中で強いだけで、寝かされたら何もできない。しかし、俺はコンプリート・ファイターだ」とね。

——シャムロックもキックボクシングの世界王者によくそんなこと言いますね（笑）。

モーリス　私も最初はかなりムッとしたが、その言葉がずっと頭の隅に残っていた。そして、パンクラスやリングスで経験を積み、グラウンドにも自信がついてきた頃、「俺もやってみるか」と思い、96年10月にエクストリーム・ファイティングという大会に出場してみたんだ。

——そして、いきなりマーカス・〝コナン〟・シウヴェイラにTKO勝ちしたんですよね。

モーリス　そのあと、カズナリ・ムラカミ（村上和成）ともエクストリーム・ファイティングで闘って、これも1ラウンドでKO勝ちすることができた。この2試合で「よし、自分にもできるぞ！」と思ったんだ。また、それまで私はキックボクシングの世界王者であるにもかかわらず、アメリカではそれほど名前が知られていなかったんだが、MMAに出ることによって知名度がグンと上がったんだ。それにも驚いたよ。

——その頃は、おもに誰と一緒に練習していたんですか？

モーリス　ライオンズ・デンでシャムロック兄弟たちと一緒に練習していたよ。

——モーリスさんに「本当のファイターじゃない」と言った張本人と一緒に練習してましたか（笑）。

モーリス　彼らはカリフォルニアで、私は（ワシントン州の）シアトルだから、すぐそばというわけじゃないが、お互いに行き来して練習していたんだ。私が彼らに打撃を教え、彼らからレスリングやサブミッションを教わるというエクスチェンジだね。ただ、ケンは途中からWWEでプロレスをやるようになって、そっちが忙しくなったので、私はほとんどフランクと一緒に練習していた。コナンと闘う前も、フランクと一カ月間、集中トレーニングをしたしね。そうこうするうちに、フランクと私の絆は強くなっていったんだ。

——当時はまだ、MMAの技術というものが固まっていなかったから、毎回研究に研究を重ねて、自分たち



これまで3度にわたり対戦している鈴木みのるとモーリス・スミス。一度目は89年11月、第二次UWFの東京ドーム大会でモーリスがTKO勝ち。二度目は93年11月にキックルールで対戦し、もちろんモーリスが返り討ち。そして3度目、94年5月に今度はグローブ着用と素手の総合をラウンドごとに交互に行なう特別ルールで対戦し、ついに鈴木が腕十字で一本勝ち。そして先日の6・17後楽園ホール。鈴木は自分の20周年に欠かせない存在としてモーリスを招聘。5分間のエキシビションマッチを行なったのだ。

で技術を開拓していったわけですか?

モーリス　当時も基本的な技術というのはあったよ。コナンと試合する前も、その基本的なことに集中して練習したんだ。フランクは私に、なぜマウントを取られると危険なのかとか、たとえマウントを取られても、どういう状態なら大丈夫かを教えてくれた。当時はマウントを取られたりすると、それだけでパニックになって、すぐにやられてしまう選手が多かったが、私たちは、どこまでの状態なら返せるか、どこまでやられるとヤバイかということを研究し、一番危険な状態にされないことに集中して特訓した。そのおかげで、グラウンドを恐れずに闘うことができたんだ。

——なるほど。そこがモーリスさんと、ほかのストライカーとの大きな違いだったわけですね。

モーリス　チョーク、アームバー、ヒールホールドなど気をつけなくてはいけない技はあるが、そういう体勢に入られたからといって、パニックになる必要はない。どこからどこまでが大丈夫で、どういう状態になったら逃げられないかを、徹底して身体に覚え込ませたんだ。

——それはとてもスマートですよね。多くのストライカーはそれがわからなかったからこそ、モーリスさん以降は、ミルコ登場ぐらいまで待たないと、なかなかMMAで成功するストライカーが現われなかったんでしょうね。

モーリス　言わせてもらえば、私自身はミルコより完成されたコンプリート・ファイターだと思っているがね（笑）。

——あ、それは失礼しました（笑）。

モーリス　ミルコは確かにテイクダウンを防御するのは、私よりうまいが、寝技は私の方が上だと思っている。彼は自分の得意ジャンルをうまく活かしてMMAで結果を出してきたけどね。それに彼はPRIDEの世界王者になることはできたが、キックボクシングでは世界王者になっていない。キックボクシングで世界王者になり、MMAでも世界王者になったのは私だけだよ。

——そういったプライドはやはり持っているんですね。モーリスさんがUFC王者になった97年当時は、まだ「MMAでハイキックを出したらテイクダウンされて負ける」と言われていたような時期だったので、ハイキックでコールマンを倒したのは衝撃的でしたよ。

モーリス　試合の最初からハイキックを狙っていくのは難しいが、後半になって相手が疲れてきたら、集中力も途切れてくるし、ガードも下がってきたりするから、入りやすいんだよ。ただ、当時のストライカーは相手が疲れる前に負けていただけさ。

——なるほど。

モーリス　いま、MMAで普通にハイキックが出ているのがその証拠さ。ただ、我々キックボクシング出身のファイターが、グラップラーに打撃で負けることはあってはならないことだ。恥ずかしいことだよ。まあ今回、私がヨシダにアッサリ負けてしまったことも恥ずかしいけどね（苦笑）。

——袈裟固めでやられちゃいましたからね（笑）。

モーリス　でも、言い訳させてもらうなら、あのとき私はチョークを警戒していたんだ。それはうまくディフェンスしたと思ったんだが、あのヘッドロックの体勢から、身体を前に折り曲げられて、ボディチョークになり、息ができなくなってタップしてしまったんだ。道衣を着た相手にあの技を仕掛けられたら、あんなにも苦しく逃れられないものだとは思ってなかったよ。でも、見た目は単なるヘッドロックでタップしたように見えるから、ちょっと恥ずかしいけどね（苦笑）。

——その吉田選手の友人でもあるTK（髙阪剛）とは、シアトルで何度も一緒に練習していましたが、彼と一緒に練習するようになったきっかけはなんだったんですか?

モーリス　シアトルには、まずTKより前にサカタ（坂田亘）が来たんだよ。それでサカタが私と練習して、その後、サカタに勧められてTKも来たんだろう。TKとの試合に関しては、私はまだグラップラーとの闘いに慣れていなくて、逆に彼はストライカーと闘うことに、ある程度慣れていた。それで私が負けてしまったんだけどね。

——モーリスさんは、リングスやパンクラスで多くの日本人選手と対戦していますが、一番印象に残っているのはどの試合ですか?

モーリス　タムラとの試合だね（即答）。

パンクラスに出たとき、シャムロックに「君たちキックボクサーは本当のファイターじゃない」と言われたんだ

——へぇ、田村潔司選手ですか。それはちょっと意外ですね。

モーリス　私はタムラとの試合で、ようやく本物のMMAファイターになれたと思っている。それまでTKやスズキ、フナキらに負けたときは、自分にまったく寝技のスキルがなかった。だから極められても当然だったけど、タムラとは立ち技vs寝技のミックストマッチではなく、私も寝技で闘い、タムラも立ち技で闘う試合が10分間にわたりできたことが嬉しかったんだ。

——なるほど。田村戦から「異種格闘技戦」ではなく、MMAの試合ができるようになった、と。

モーリス　そして、私が闘った日本人の中で、タムラは最もバランスの取れた素晴らしい選手だったからね。彼は寝技だけでなく、打撃もいい。とくにキックの技術は本当に優れているから、彼はキックボクサーにもなれると思ったよ。

——そこまで評価が高いですか!

モーリス　タムラの打撃技術は、一つ一つが、まるでアートのように美しい。その技術が必ずしも試合で勝ちに結びつくとは限らないが、とにかく美しく完璧な技術だ。日本人の中ではフナキも打撃が得意なほうだったが、　彼の打撃は私と似ていて、伝統的なボクシングのパンチというより、本能的な打撃で勝負するタイプ。それに対しタムラは、天性のものではなく、一生懸命練習して、正確な技術をしっかり学び、打撃をアートと呼べるものまで高めた選手だ。だから、タムラのキックはキックボクサーである私から見ても惚れ惚れするぐらいだよ。

——ベタぼめですねぇ。

モーリス　私は日本人でナンバーワンのMMAファイターはサクラバで、ナンバー2はTKだと思っている。だが、本当にナンバーワンになるべきだった選手はタムラだったと思う。しかし、彼はその後、オールドスタイルにこだわっていたのか、MMAのトレーニングをあまりやらなかった。もっとTKや私たちと一緒に練習していたら、もっと凄い選手になっていたと思うのに、残念だよ。

——確かに、田村選手は数年前までバーリ・トゥード反対論者でしたからね。モーリスさんと因縁深い、鈴木みのる選手はどうですか?

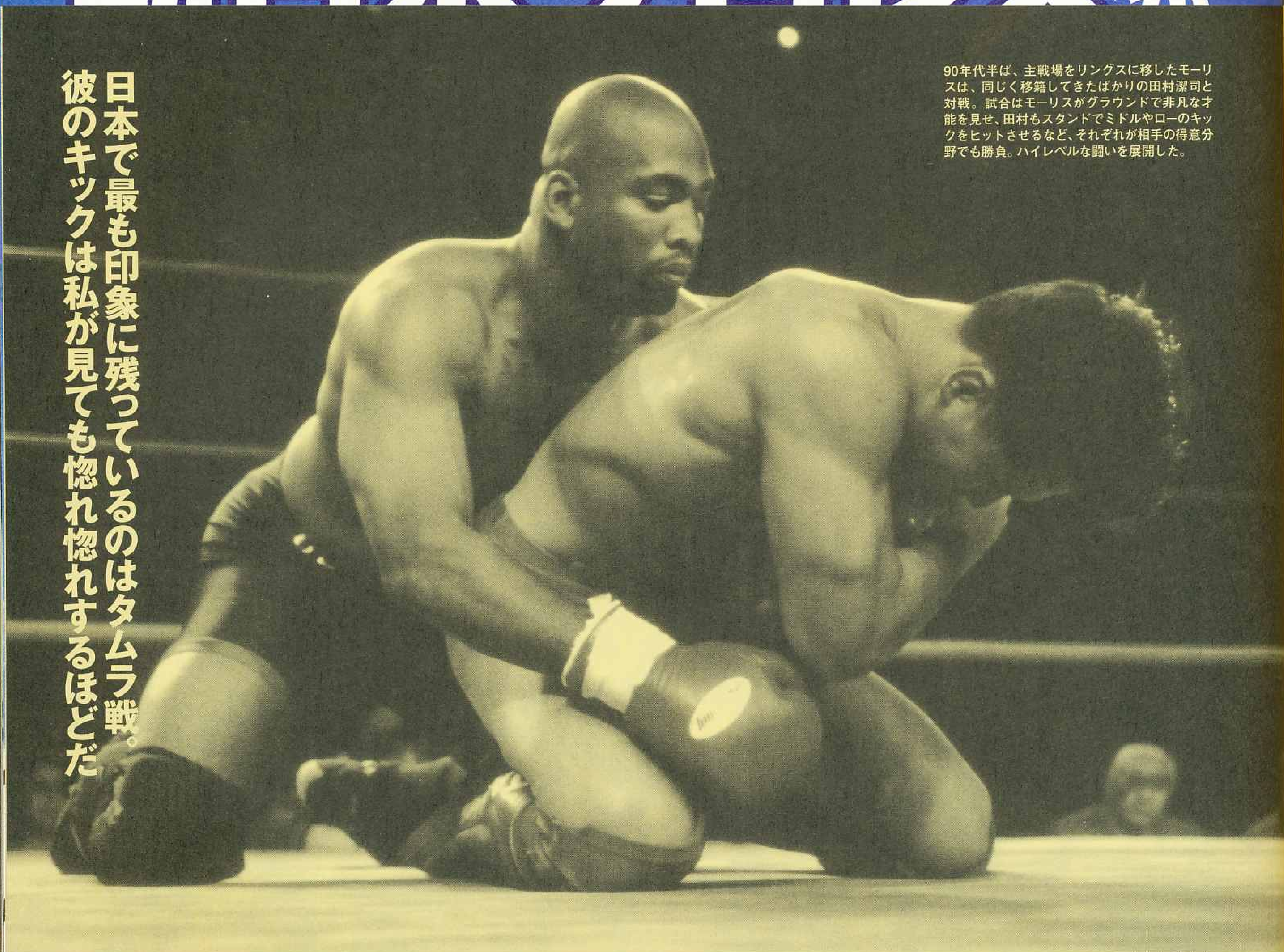
モーリス　UWF時代に私と闘ったときのスズキは、単なるグリーンボーイだったが、パンクラスで彼は真の戦士に生まれ変わり、サブミッションの技術もフナキと並ぶくらいのものがあったと思う。ただ、パンクラスで私がスズキに負けたときは、私が寝技のグリーンボーイだったから、本当に決着をつけるためには、もう一度やったほうがいいだろうね。

——モーリスさんは、日本でUFC王者としてランディ・クートゥアーとも試合をしているんですよね。

モーリス　あの試合は判定負けだ

新日本プロレスが

日本で最も印象に残っているのはタムラ戦。彼のキックは私が見ても惚れ惚れするほどだ



90年代半ば、主戦場をリングスに移したモーリスは、同じく移籍してきたばかりの田村潔司と対戦。試合はモーリスがグラウンドで非凡な才能を見せ、田村もスタンドでミドルやローのキックをヒットさせるなど、それぞれが相手の得意分野でも勝負。ハイレベルな闘いを展開した。

ったんだけど、私に言わせればドローだったと思う。彼は寝技でずっと上になって押さえ込んではいたが、べつにダメージを与えられたわけじゃないからね。

──その後のランディはMMAの象徴のようになっていますが、彼のことはどう評価していますか？

モーリス　ランディはMMAを一般世間に広めるために貢献してきたし、人間的にもいいヤツだ。それなのに、いま彼とUFCのあいだに問題が起こっているが、あれはフェアじゃないと思うね。UFCは選手を奴隷にするような契約を迫っているんだ。だいたい普通の会社なら、会社側だけが一方的に社員をクビにする権利があって、社員には会社を辞める権利がないなんていう契約はおかしいだろう？　UFCがランディに対してしているのはそういうことだ。ランディはもっと自由にいろんな活動ができてしかるべきだね。

──UFCはつい最近までMMAの独占企業みたいなところがあったので、選手にとってはかなりキツい契約を強いられていたんでしょうね。

モーリス　まったくそのとおりだね。私はいま、MMAのプロモーターたちに腹を立てているんだ。彼らはまるでヒモみたいにファイターから搾取している。だが、本来ならプロモーターたちは、自分の商品であるファイターたちに利益を還元するべきなんだ。大会のプロモーションをするだけでなく、選手たちのプロモーションもしなくてはダメだよ。じつはそういう大会を、私は開きたいと思っているんだ。

──モーリスさんがイベントをプロモートですか？

モーリス　そう。自分にはアイデアがある。アメリカではなく、別の国でやりたいと思っている。どこでやるかはシークレットだ。アイデアを盗まれないようにね（笑）。そういう大会を開くために、いまスポンサーを探しているところなんだ。私はこれまで選手とトレーナーを兼ねてきたが、これからはプロモーターもやっていきたい。選手とトレーナーはやるだけやったからね（笑）。

──モーリスさんは、フランク・シャムロック、ジョシュ・バーネット、ボブ・サップなどと練習していましたが、いまも彼らと交流はあるんですか？

モーリス　AMCパンクレイションと私のジムは交流があったから、ジョシュの練習も見てあげたことがあるが、ジョシュについてはノーコメントだ。

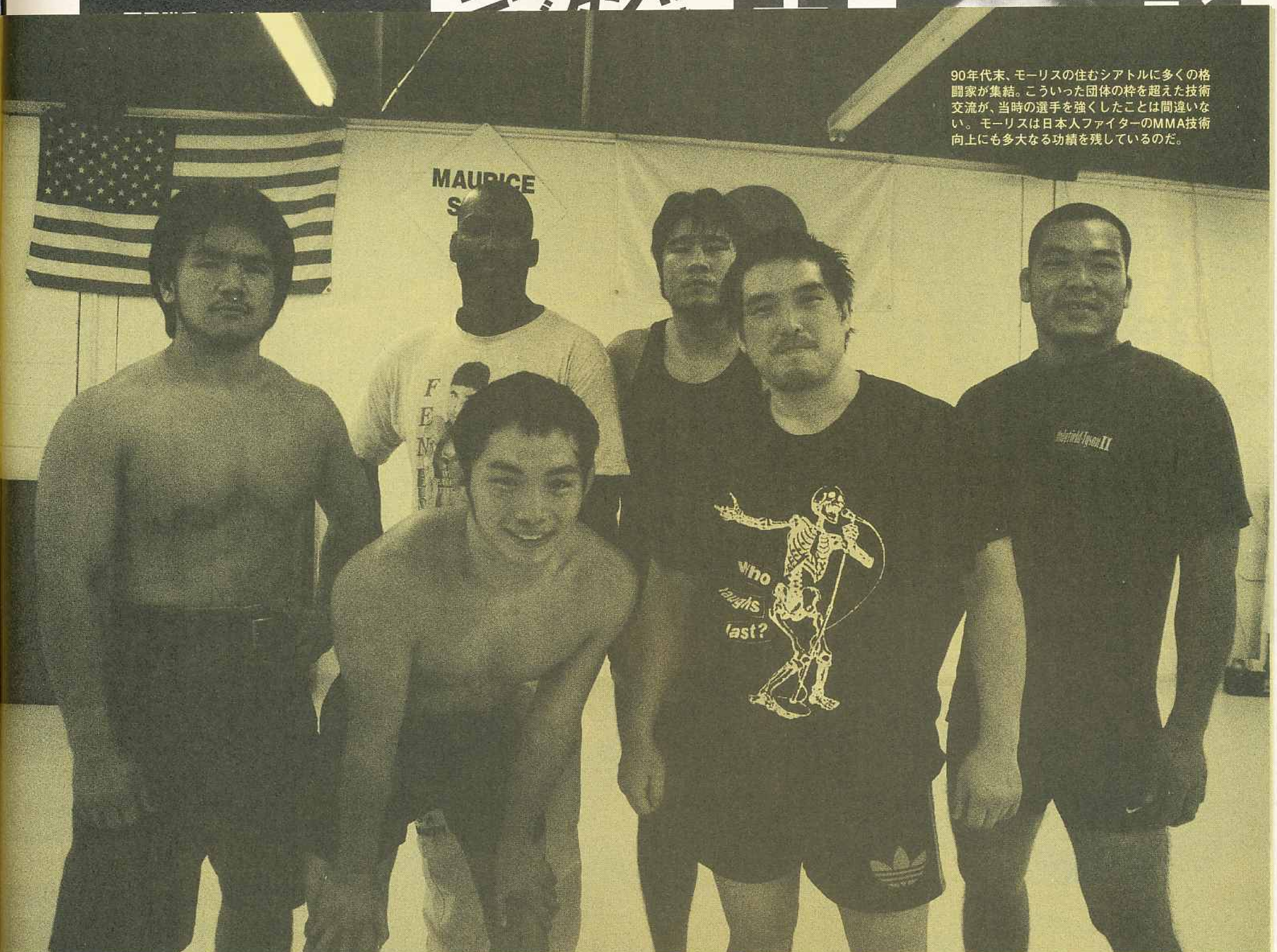
──いろいろあったんですかね（笑）。

モーリス　でも、フランクとは、いまでもとても仲がいいし、彼が試合をするときには練習に付き合って



97年12月、モーリスは日本でUFCヘビー級王座防衛戦を敢行。ランディ・クートゥアーに押さえ込まれ判定負けで王座陥落したが、世界レベルのレスラーであるランディ相手にグラウンドで渡り合うなど、非凡な才能を見せつけた。

［RADICAL特選劇場］



90年代末、モーリスの住むシアトルに多くの格闘家が集結。こういった団体の枠を超えた技術交流が、当時の選手を強くしたことは間違いない。モーリスは日本人ファイターのMMA技術向上にも多大なる功績を残しているのだ。

いるよ。このあいだフランクが、ストライクフォースでカン・リーと闘ったときも一緒に練習して、セコンドにもついたしね。あと、ボブとも仲は悪くないが、彼はまたちょっと別のシチュエーションだな。ボブはボブだから（苦笑）。

――「ボブはボブ」ですか。なんとなくわかる気はします（笑）。

モーリス　彼がノゲイラと闘ったときは、私のもとで練習し、素晴らしい試合をした。その後、彼は日本でビッグスターになったが、ボブがスターになったのは、言ってみればアクシデントみたいなものだ。ボブは次々と試合に出るだけでなく、バラエティ番組やCM、そして映画にも出たり、あらゆる仕事をこなしていた。しかし、あまりに忙しすぎたよ。結局、そんな状況で試合にも勝てなくなり、いろんなものを失なってしまったんだ。

――サップがオランダで試合をドタキャンしたとき、モーリスさんも一緒に行ってたんですよね？

モーリス　ああ。でも、あの欠場に関しては、ボブが下した決断に賛成だよ。詳しく言うつもりはないが、あんな状況ではリングに上がれないのは、プロとしては当然だ。彼が非難されるのはおかしいよ。

――今後、またサップの練習を見ることはありえますか？

モーリス　彼が頼んできたら、もちろん練習は見てあげるよ。ただ、彼はいろんな人間に教わりすぎている。それが彼にとって大きな問題の一つだ。私に教わったり、ニコラス（・ペタス）のところに行ったり、あとは日本人のミヤモト、南アフリカのスティーブ。いったい何人に教わってるんだ!?　ちゃんと一人のトレーナーについて、じっくり練習しなければ、何も身につかないよ。

――確かにそうですね（笑）。いまアメリカでは、キンボ・スライスが〝アメリカ版サップ現象〟みたいなことを起こしていますが、どう思いますか？

モーリス　キンボねえ……（苦笑）。

――いきなり苦笑いですね（笑）。

モーリス　まあ、キンボにとってはいいことだろう。自分をうまくプロモートしてマーケットに乗せ、ビッグスターになることに成功したんだから。だがエリートXCとCBSのやり方は賢くないと思う。キンボはたいした選手ではないのに、彼を売り出すために、あまりに金をかけすぎた。大会のCMにしてもすべてキンボ、キンボ、キンボだ。すぐにボロが出るのがわかりきっている選手をトップに据えるのは、このスポーツがまったくわかってないとしか言いようがないね。

――CBSがエリートXCの大会を生放送したことについては？

モーリス　高視聴率を獲得したのはいいことだが、そのメインがキンボの試合だったことは、時代に逆行しているね。彼はまだ技術も実力もない選手だ。そういう選手をメインに据えるのはよくない。アンダーカードならともかくね。

――あぁいうケンカ屋がMMAの代表だと思われるのは困る、と？

モーリス　いや、そういうことじゃなく、単純に技術がないからさ。あのジェームス・トンプソンとの試合では、キンボは2ラウンドにヒジ打

新日本プロレスが

ちをさんざんもらった。UFCなら、とっくにレフェリーストップになっていたはずさ。だがCBSもエリートXCもキンボの宣伝に膨大なカネをかけてきたから、キンボのTKO負けを宣言することができなかったんだ。弱い選手に金を投入しすぎると、そういうおかしなことが起こる。

——なんだか数年前に日本で起きていたようなことが、アメリカで起こっているわけですね（笑）。

モーリス　あの試合を観て、大半の視聴者が「バカバカしいファイトだ」と思ったはずさ。逆効果なのがわかってないんだよ。

——では、そろそろインタビューも終了の時間なんですが、モーリスさんの長いキャリアの中で、キックボクシング、MMAをひっくるめて一番印象に残っている試合はどれですか？

モーリス　一つだけというのは難しいなあ（苦笑）。まず、キックボクシングではスタン・ザ・マンとの試合だね。これはたしか91年に彼の地元オーストラリアで挑戦を受けたんだけど、12ラウンド闘い、勝つことができた。私も彼も絶頂期であり、最高のファイトができたと思っているよ。MMAではコナンに勝った試合だ。キックボクサーの私がMMAでもチャンピオンになれたわけだからね。それから01年に再びK－1に復帰して、K－1 USAに優勝できたのも嬉しかったな。

——大ベテランのビッグカムバックには驚かされましたよ。

モーリス　それから、負けた試合もよく覚えている。オランダでピーター・アーツにKOされ（93年3月7日）、その1ヵ月後すぐにアーネスト・ホーストにKO負けしたときのことはね（同年4月30日の第1回K－1GP。後川俊之に勝った後、準決勝でホーストにハイキックでKOされた）。

——あのモーリス・スミスがKOされたのは、当時のファンとしては信じられませんでしたね。

モーリス　ピーターにやられたときは、試合が終わってからロッカールームのドアを開けるまでの記憶がまったくないんだ。その後も、ところどころで記憶が途切れていて、試合が終わってしばらく経ってからも、仲間に「ところで今日の俺の試合はどうなったんだ？」って尋ねて結果を聞き、それからまたすぐ聞いたことを忘れて「ところで今日の俺の試合は……」って5回くらい聞き直したり、シャワーを浴びて身体を洗って、お湯を止めてから、シャワーを浴びたことを忘れてまた身体を洗ってね（苦笑）。

——うわぁ～、それは怖いですねえ。

モーリス　あれはひどかったな（苦笑）。だが、そういう悔しいこともあったが、これまで自分の意思で闘ってきたし、負けて腹が立つこともあったが、いいときもあった。日本のファンにも凄く応援してもらったし、おもしろい人間たちにもいろいろ会えた。だから、後悔は一つもしていないよ。楽しみながらやってきたんだ。それにキックボクシングの試合では、いつも殴られたり蹴られたりするが、MMAはそれに比べると痛みが少ない。サブミッションで極められるのは試合で1回しかないしな。だからキックボクシングに比べると、MMAの試合はバケーションみたいなものさ。だから46歳になったいまでもまだ続けられるんだよ（笑）。

キックに比べたらMMAはバーケーション。50歳ぐらいまで現役を続けられそうだ（笑）

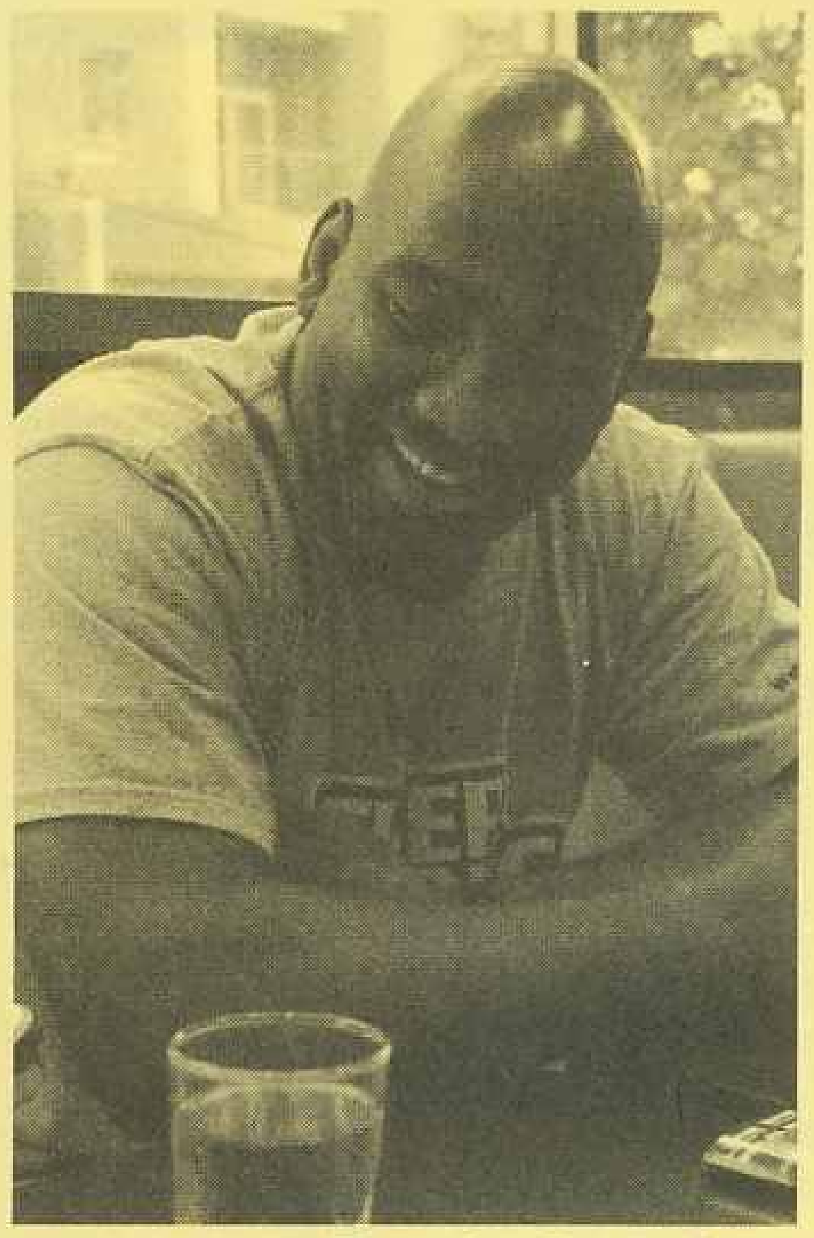
——MMAをバケーションと言えるのは、モーリスさんぐらいでしょうね（笑）。今後もリングには上がり続けるつもりですか？

モーリス　50歳ぐらいまではできると思う。ヨシダとはリマッチがしたいな。あんな恥ずかしい負け方をしたままじゃ、悔しいからね。

——では、今日は長時間ありがとうございました！　またお会いできることを願ってます。

モーリス　こちらこそ、ありがとう。これからも応援してください！

【08年6月13日／都内某所にて収録】



MAURICE SMITH■1961年12月13日、米国ワシントン州シアトル出身。80年代にキックボクシング、WKA世界ヘビー級王座に君臨。92年にピーター・アーツに敗れるまで8年間無敗を誇った。89年11月にUWF東京ドーム大会で鈴木みのるを相手に初の異種格闘技戦でTKO勝ち。その後、K-1、パンクラス、リングスで活躍。97年7月にはマーク・コールマンを破り、UFCヘビー級王者にも輝いた。188cm、112kg。

盟友·高阪剛が語るモーリスの天才ぶり!
「あいつは生まれるのが20年早かった」

『戦極』で（吉田）秀彦に負けたあと、モーリスはけっこう落ち込んでたんだよね。試合後、話を聞いたんけど、（吉田戦では）構えがサウスポーだったでしょ？　あれは作戦だったらしくて、最初にサウスポーで軽く当てておいて、一回寝技になったあとスタンドに戻して、今度はオーソドックスにスイッチ。そこで勝負をかけるっていうのが、モーリスの作戦だったみたいなんです。

だから、寝技からスタンドに戻す練習はかなり積んできたみたいなんですよね。じつは『戦極』の二日前に、モーリスはここ（TKのジム）にスパーリングパートナーを連れて練習に来たんですよ。だけど最初に「俺はおまえも友だちだけど、秀彦も友だちだから、俺は何もやらないからな」って言っておいて。

それで黙って練習を見てたんですけど、袖車から逃げる練習とか繰り返しやってて、確かに逃げ方は合ってるんですよ。だから、寝技になっても袖車を防いで、十字に来たときに、その瞬間立ち上がるという作戦だったみたいなんですね。だけど、そういうことをなんにもやらないうちに終わっちゃったから、凄く悔しがってたんですよ。「あれじゃあ、俺はただの弱いヤツにしか見えなかっただろうな……」って。「もう一度やらせてほしい」って言ってましたけどね。

やっぱりね、モーリスはなんでも先取りしすぎなんだよな～。今回も袈裟固めっていう基本をすっとばして、袖車の防御にいっちゃったから（笑）。まあ、モーリスらしいというか。UFCでチャンピオンになったときも、関節技とかほとんど知らないで、スタンドの状態で勝つための方法とか、テイクダウンされても不利にならない方法を覚えただけで、チャンピオンになっちゃいましたからね。それで、チャンピオンになってから関節技の怖さとかも知って、本格的に寝技の練習をし始めたという、凄く順番が逆なんだよね（笑）。

だからモーリスは天才肌だから、勘がよくて、難しい技がすぐにできちゃうんだけど、天才だからいかんせん基本に弱いというか。全部、基本をすっとばしちゃうんですよ。

キックボクシングの技術だって完全に自己流ですからね。試合前にスパーリングやったことなかったんだから。サンドバッグとミットだけで、頭で試合をイメージして、その練習だけで8年間無敗の世界チャンピオンだったからね。要は試合がスパーリングの代わりという（笑）。

だから、モーリスがいま若かったら、とんでもない人材だったやろうね。総合の最先端の技術をバンバン身につけて。いやあ、モーリスは生まれるのが20年早かったな～（談）。

kamipro SHOPPING

[RADICAL特選劇場]

三崎も

Back Number

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!



吉田豪インタビュー11連発!! インタビュー本の最濃傑作!

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

日本最強のプロレス本・芸能本収集家であり、徹底的な調査と鋭い切り込みのインタビューで、各界から高い評価を得る最強プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたコク深いあまたのロングインタビュー——本書では数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! アントニオ猪木と死闘を繰り広げたストロング金剛をはじめ、“プロレス”という4文字に魅せられた人々の、心の深淵を探る珠玉の名インタビューの数々。これは“プロレス者”にとってはマストアイテムだ! 取材相手以上に相手のことを知っているとされる“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチを堪能せよ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）



プロレス狂がシビれる 凄玉たちのインタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武士★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史 ※「紙プロ・スーパースター列伝」からスペシャルセレクト!

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! メインストリームからはみ出さずにはいられなかった豪傑プロレスラーたちや格闘家、至近距離からリング内外の裏表を凝視してきた関係者達へのインタビューにより、プロレスに携わったことに対する「誇り」や「哀しみ」が交錯する、濃厚な内容テンコ盛りの一冊! 圧倒的な現実をタフに生き抜き、圧倒的な幻想をまとった凄玉たちの金言の数々をとことん読み込め!!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）



最新刊
絶賛発売中

ターザンが死んだ!? その生き様から90年代プロレスを振り返る!

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ★椎名基樹★井上崇宏★堀江ガンツ★古関夢香

『週刊プロレス』の編集長として辣腕を振るい、90年代のプロレスブームの火付け人となったターザン山本!さん。この“追悼本”には、山本さんをよく知る関係者、知人、ライバル、恋人らが登場。山本さんの人生を通して、90年代のプロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る!

B6変型判　304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）



破壊王の三回忌追善本!! 泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★木村政一（『中華 紅蘭』のマスター）★AYAMI★藤波辰爾★神奈月★田中秀和（リングアナウンサー）★スティーブ・コリノ★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★田山正雄（新日本プロレスレフェリー）★折鶴兄弟★佐藤正行（元『週刊プロレス』編集長）★金沢克彦（元『週刊ゴング』編集長）

2007年7月11日に三回忌を迎えた“破壊王”橋本真也の泣けて笑える追悼本! 橋本真也の原点である新日本プロレスの選手や関係者が故人を偲んで語った豪胆な“破壊王”らしいエピソードがテンコ盛り! 橋本真也の破壊王的な爆勝伝説をこれでもかと満載した一冊!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

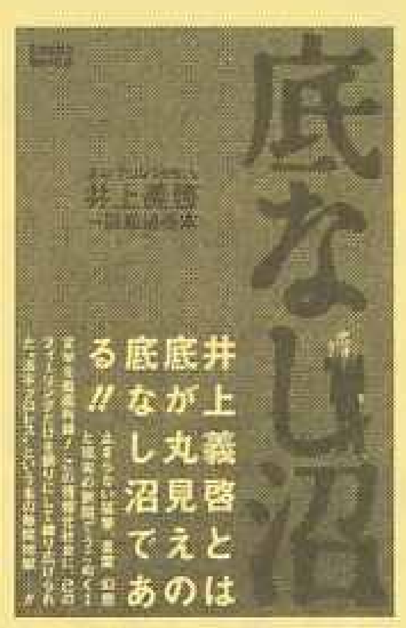


惜しまれつつ急逝した “愛すべき馬鹿”のすべて!

★小川直也★哀川翔★アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ★船木誠勝★ドン荒川★ミスター・ヒト★小笠原和彦★武藤敬司★佐々木健介★安田忠夫★勝俣州和★内山信二★橋本かずみ★ハッスルキング肖像画★破壊王おもちゃコレクション★破壊王生誕の地、岐阜を歩く★検証 破壊王劇場とは何か?★破壊王爆笑名言★破壊王人生相談★破壊王エピソードコラム収録

2005年7月11日忒急逝した“破壊王”橋本真也。誰からも愛された“最後のトンパチレスラー”の魅力満載の追悼本。「紙のプロレスRADICAL」収録の各著名人との対談や橋本本人のインタビューの再録、さらに故人と関係の深い方々への破壊王を偲ぶインタビューなど、読めばますます破壊王が好きになる!

B6変型判　304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）



井上義啓とは底が丸見えの 底なし沼である——!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★佐藤正行★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★涙の嵐山〜I編集長を偲ぶ“Iチルドレン”喫茶店トーク〜★『kamipro』ラスト喫茶店トーク★底なしのIエピソード

“活字プロレスの父”井上義啓氏の一周忌追悼本!! 『kamipro』や『週刊ファイト』に連載された井上氏の名物連載コーナーから、ともに激動のマット界を生き抜いた“過激な仕掛人”新間寿や深く影響された小説家の夢枕獏氏をはじめ、ゆかりのある方々の氏を偲ぶインタビュー、さらにはフランスでの人生最後の旅の模様を振り返るエピソードも収録! “底なし沼的”な井上ワールドに浸れ!

B6変型判　312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）



“殺し”文句が心を打つ! 井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選/“殺し”とは何か?/嵐山哀歌トーク ほか★井上小説傑作選/昭和のプロレスとは何か?/『紙プロ』という名の公園 ほか★殺しのI語録★井上義啓とは何か?/アントニオ猪木/水道橋博士（浅草キッド）/金沢克彦/松島弥生（井上義啓・姪）/ジョン・コロシ/モンターニャ・シウバ ほか★『kamipro』未公開の“幻の喫茶店トーク”も収録!!

多くの“プロレス者”に影響を与えた“I編集長”こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという“底が丸見えの底なし沼”に浸かり続けた男の凄みを感じろ!! 言うちゃ悪いけど、“井上プロレス”は不滅ですよ!! (ドンッ)。

B6変型判　304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)[通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

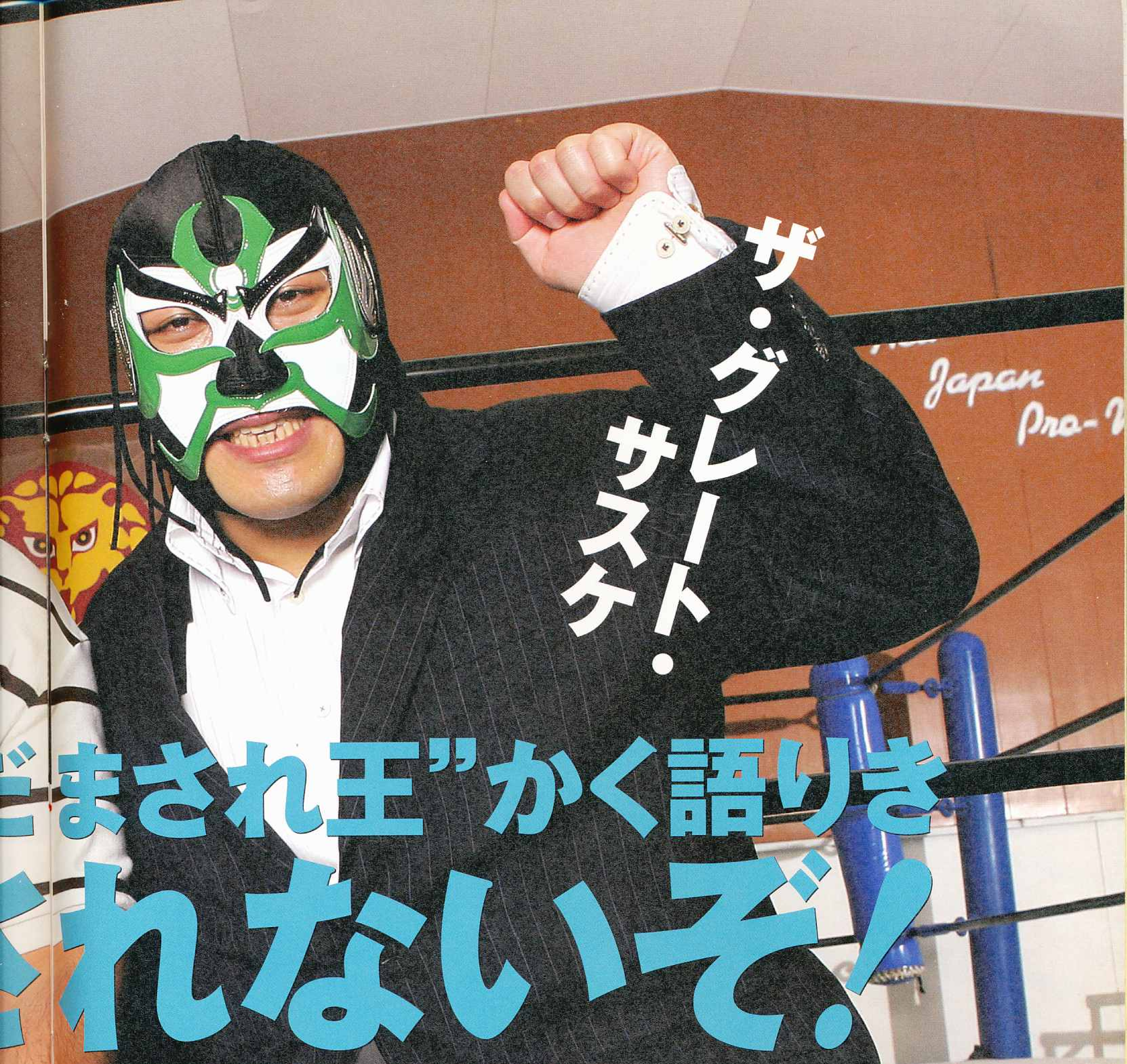
新日本プロレスがさわやかだなんてけしからん!!

見てみぃ!　このさわやかな笑顔!!　ツンツンヘアの「エー、オラ!」キャラから一転、ふんわりヘアで「いい人」キャラにイメチェンした天山に象徴されるように、開き直ったおもしろさが爆発している新日本プロレス。そんな新日本にまたまた肉迫した16ページ特集、スタート!!

撮影／乾晋也



夏到来!!
〝気分爽快〟な老舗団体を
またまた大特集!!



ザ・グレート・サスケ

だまされ王”かく語りき

れないぞ!

今回の取材後に行なわれた6.27 PREMIUM後楽園大会では、大谷晋二郎とのタッグでワンナイト・トーナメントを制し、ひさびさにハッピーを味わった天山。しかし、ここ数ヵ月は“友情タッグ”を結成するも、すぐさま飯塚高史に裏切られたりとさんざんな目に遭っていた天山を心配し、激励に駆けつけたのは、かつて新日本プロレス道場で苦楽をともにし、プロレス界のもう一人の“だまされ王”として知られる我らがグレート・サスケだ!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也　試合写真／平工幸雄

——今回は『kamipro』の好評企画、「よみがえれ！　新日本プロレス学校伝説」第4弾としてサスケさんと天山さんのお二人に集まってもらいました。よろしくお願いします！

サスケ　よろしくお願いします！

天山　こちらこそ、よろしくお願いします。

サスケ　でも、ひさしぶりですねぇ。ここ会話するのも何年ぶりかだし、ここ（新日本プロレス道場）で話すのなんて20年ぶりぐらいじゃない？

天山　そうですよねぇ……（しみじみと）。サスケさんってプロレス学校はどれくらいからいました？

サスケ　私はもう初めからいましたよ。で、3期目の夏ぐらいまでかな。

——サスケさんのほうが先輩になるんですよね。

天山　ええ。自分が新日本に入門してから、そんなに長くは続かなかったんで、プロレス学校の歴史は実質2年半ぐらいですからね。

サスケ　じつは当時、私がユニバーサル（プロレス）でデビューしてからも、こっそり道場に来てたんですよ。

天山　あれ、そうでしたっけ？

サスケ　ちょくちょくね。で、リングの上であぐらをかいて天山と話をしたんだけど、そのとき飛び出したのが「ところで、どっから来はったんですか？」っていう伝説のセリフ！

——ガハハハハ！　天山さんが、道場にいた新弟子に「どっから来はったんですか？」と聞いたという〝いい人伝説〟がありますけど、それは事実でしたか（笑）。

サスケ　で、そのとき「じつは盛岡な

復活！ 我が青春の

同窓生対談



天山広吉

プロレス界の二大“だま

もう、だまさ

んですよ」って言って、私も逆に「どっから来はったんですか？」って聞いちゃったっていうね。“いい人伝説”として有名なエピソードですけど、最初に聞かれたのは私ですから！（得意げに）。

天山 え〜、そんなこと言いましたっけ？（笑）。

サスケ 言った言った。ユニバーサルで私のほうが一足先にデビューしちゃったんで「デビューできてよかったねぇ」って言ってくれたんだけど、それも覚えてない？

天山 ちょっと……。でもサスケさんって、いつの間にかいなかったですよね。なんか入門テストは一緒に受けた記憶があるんですけど。

サスケ そうそう、一緒に受けてる。

天山 そのときサスケさんはバク宙してましたから。「得意なことをやれ」って言われて、いきなりトップロープからバク宙したんで、凄い人だなあって（笑）。

サスケ 自己アピールタイムがあったんで、私がアピールできるのは、どうしてもそういうことになるんでね。

――グラウンド中心のスパーリング中に、いきなりロープワークを披露したっていう有名な話もありますからね（笑）。

サスケ そうそうそう。私は残念ながら新日本のプロテストは二度ほど落ちていて、その後、ユニバーサルでデビューしたのが90年の3月。

天山 自分が入門したのが91年かな？

サスケ いや、入門したのは90年じゃないですか。第2回のプロテスト

が90年1月で、そのときのプロテストは一緒に受けてるんで。

天山 あ〜、そうでしたね。1回目のプロテストって誰が受けたんですか？

サスケ 金ちゃん（金原弘光）も受けたし、あとは三澤（威。現・トレーナー）さんとかね。

天山 大利（博史）さんもですよね。

サスケ そうそう。あの二人は1回目ですぐに受かって、で、（西村）修ちゃんはまだ学生だったんで、1回目のテストは受けないで2回目で受かったんだよね。ところで、修ちゃんといえば、天山って入門直後にだまされてるでしょ。

天山 えっ、だまされたっけ？（しばらく考え込む）。

——一回、天山さんが新日本を辞めて、戻ったら西村さんの態度が豹変してたって話を聞いたことがあります（笑）。

天山 あったなぁ。まあでも、最近いろんな人にだまされてるんで（苦笑）。

サスケ ガハハハハ！

——そもそもこの対談は、プロレス学校というテーマとともに、プロレス界で〝だまされ王〟として名高い……。

サスケ いやいやいや、俺はだまされてないですよ！（キッパリ）。

——ハタから見ていると、藤田ミノル選手に何度もだまされているように見えるんですが、サスケさんは一貫して「私はだまされてない！」と言い張ってますよね。

サスケ 言い張るも何も俺はだまされてないし、藤田のことを信じてるから！（キッパリ）。

——な、なるほど。で、一方の天山さんは、だまされたり裏切られたりと大変なことになってますけども。

天山 （サスケに向かって）もうホント助けてくださいよ〜（苦笑）。

サスケ いやいや、そこは一緒にしないで。俺はだまされてないんだから。

天山 あ、関わりたくないんだ（笑）。

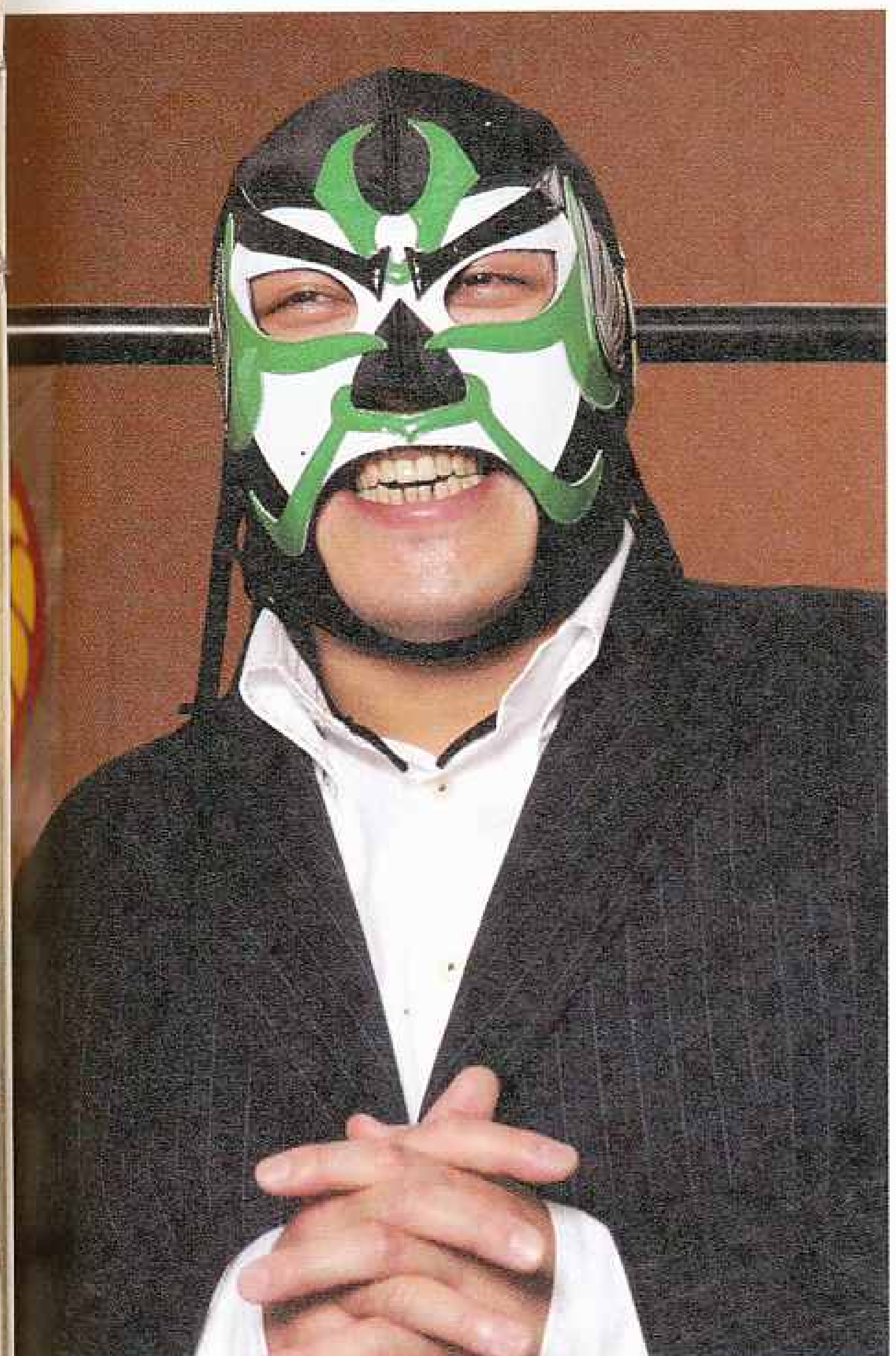
サスケ 私は私生活でも「サスケ、それはだまされてるよ」ってよく言われるんですよ。そのたびに「いやいや、そんなことはない」って言ってるんだけどね。

——リング上に限らず、リング外でもだまされやすいと？

サスケ そうそう、だまされやすいんですよ。

天山 だまされてるんじゃないですか！（笑）。

サスケ いやいや、違う違う。何をおっしゃいますやら。私は、だまされやすいんじゃなくて、人を信じたいんですよ！



何年後かに天山って名前を変えて、角をつけて大暴れしているのを見て「無理してるな」って思ってた（サスケ）

AN × THE GREAT SASUKE

——あくまでもピュアハートだと。天山さんはだまされているという自覚はあるんでしょうか？

天山 いや、どうなんでしょうねぇ。最近は最初から人を疑いの目で見るようにしてるんですけど（苦笑）。

サスケ それはどれぐらい前から？

天山 つい最近ですね。それまでは信じやすいタイプだったんですけど、最近はもう痛い目に遭いすぎてるんで（苦笑）。

サスケ そうなんだ。俺なんか逆に疑っちゃいけないって思うんだよね。

——でも、サスケさんもいろいろだまされてるじゃないですか。昔、後楽園大会でチケットの売上金を持ち逃げされたこともありましたし。

サスケ あったねぇ。もう、あれなんかも絵に描いたようなだまされ方なんだけども、最後までだまされたってわからないんだよね。1、2年経ってから「やっぱりだまされた！」って思うんだけど。

天山 ちょっと遅くないですか（笑）。

サスケ （無視して）やっぱり、その瞬間瞬間は信じていたいっていうのと、たとえ、うさん臭い人でも、この人にもいい思いしてほしいって気持ちがあるんですよ。逆に「俺を使っていい思いをしてよ」って、常に思ってるぐらいだから。

天山 人がいいんでしょうね。それこそ知事選にも出馬されてましたし、人脈があるっていうか、人望が厚いというか。

サスケ いやいや。ところで、最近なんで髪を下ろしてんの？ 天山らしくないじゃん。

——ガハハハハ！ 突然何を言い出すんですか（笑）。

天山 どうしたらいいですかね？

サスケ 遠目で見たらいまのヘアスタイルは天山ってイメージじゃないよね。

天山 あの髪型は長かったですから。いまは普通な感じにしてるんですけど、逆にこれじゃ目立たないなぁとは思ってて。

——天山カットはプロレスファンのあいだでも浸透してるぐらいメジャーなヘアスタイルですからね。

天山 そろそろ、また戻そうかな、と。……ぶっちゃけ、理由は違うところにあるんですけど（笑）。

——それは表にできない理由ですか？

天山 ちょっと○○絡みで（笑）。

サスケ ああ〜。そういうところで人のよさが出ちゃうんだろうな。

——素顔が覆面のサスケさん的には、そういうときはどうしてたんですか？

サスケ いやいや、もちろん私はこのままで行ってましたよ！ 天山もね、髪型なんか気にせず、むしろ、あの角をつけて○○に行くぐらいじゃないと。それが我々プロレスラーですよ。

天山 そうですよねぇ。

サスケ でも、そういう裏事情があったんだ。なんか最近、天山はだまされたり裏切られたりして悩んでるって聞いて、気が気じゃなかったんで今日はわざわざ岩手から飛んできましたよ！

天山 えっ、このためにわざわざ⁉

サスケ いやいや、試合で何日か前から東京に来てたんだけどね。

——危うく、だまされるところでしたね（笑）。

新日本プロレス学校対談 PLAYBACK

プロレス学校とは？

80年代末に新日本プロレスが、巡業中に空いた道場を有効利用するために始めた、闘龍門、K-DOJOの先駆けともいうべきプロレス学校。この画期的な試みに全国からプロレスラー志願者、プロレスファンが続々と入学するも、その授業内容は"自習"中心だったことが、卒業生の証言であきらかにされている。されど、サスケ、天山、金原弘光、西村修、池田大輔、中島半蔵（現・HANZO）など、多数のレスラーを輩出した功績は大きい。



初めて『kamipro』で新日本プロレス学校卒業生による対談企画を行なったのが、01年10月発行の、まだ『紙のプロレスRADICAL』時代の43号でのサスケと金原弘光の対談。第一期生のサスケと第二期生の金原によって、プロレス学校は毎日が自習状態だったことや入門条件はコネと身長だったこと、金原がプロ選手をスパーリングで怒らせた話など衝撃の事実が次々とあきらかになり好評を博した。

サスケ ちょっと話は脱線しちゃったけども、修ちゃん（西村修）にだまされてから、プロレス界でのだまされ人生が始まったんだよね？

天山 まあでも、それは自分が悪いからしょうがないなっていうね。いろいろタイミングもあったと思うんで。

サスケ 入る順番でね、先輩、後輩はあるからね。でも、それにしても修ちゃんは「そりゃないんじゃないの？」っていう変貌ぶりだったんだよね。

天山 人ってこんなに変わるんだって思いましたね（苦笑）。

サスケ ガハハハハ！ まあ、出戻りにはキツい業界だよね。でも凄いんですよ、天山は。第2回のプロテストを受けたときはメチャメチャ高評価だったの。そのときは、長州（力）さん絡みの面々が審査官だったんですけど。

――なぜか、浜口ジム出身者の合格率が高かったんですよね（笑）。

サスケ そうそう。そのときは（アニマル）浜口さんはいなかったけど、長州さんと小林邦昭さんとマサ斎藤さんなんかがいて、みんな天山を絶賛してたんですよ。当時から大きかったしね。

天山 そうですね。あの頃すでに100キロ以上ありましたから。

サスケ 当時からナチュラルで力があって、バーベルとかも重いのを持ち上げてたんで、とくに小林邦昭さんが「いいねぇ」って感じで目を細めて評価してましたよ。だから、たぶん合格するなって思ったら本当に合格しましたからね。もうブッチ切り合格って感じで。



さんざんな目に遭って、家では甘えさせてくれるかなって思って帰るんですけど、やっぱり家でも……（天山）

HIROYOSHI TENZAN × TI

天山 いやいや。でも結局、入門して二日目の夜ぐらいにはもう……。

サスケ 逃げちゃったんだよね。その話も修ちゃんから聞いたんだけど（笑）。

天山 西やん、「ざまあみろ！」とか言ってなかった？（笑）。

サスケ いやいや、そんなことは言ってなかったよ。そのときは私は新日本はあきらめてユニバーサルに行ってたんだけど、天山もいつの間にか戻ってきたんだよね？

天山 恥ずかしながら出戻りで（苦笑）。

サスケ それを聞いて、よかったなあって思って。それで、さっきの話に戻るけど、二人でリングの上であぐらかいて「どっから来はったんですか？」っていうところにつながるんですよ（笑）。

天山 ホント、よく覚えてますね。

――いまでこそ、天山さんがいい人だっていうのは浸透してますけど、その頃の天山さんってどんな感じだったんですか？

サスケ いやいや、このままですよ。それこそ何年後かに天山って名前を変えて、角をつけて大暴れしているのを見て、「だいぶ無理してるなあ」って思ってましたから。

天山 ガハハハハハ！

サスケ それか、海外修行を機にホントに性格が変わっちゃったのかなあとも思ったんだけど（笑）。

――そういう意味では最近は素の部分をそのまま出してる感じなんですか？

天山 そうですね。長いことやってきて、そろそろ自分の素でいいかなって。そこを、いろんな人につけ込まれて困ってるんですけど（苦笑）。

サスケ あと天山って、けっこう合間合間に家庭の話を出してるよね？（笑）。

天山 あ～、なんか聞かれると言っちゃうんですよね（笑）。サスケさんはプライベートはNGですか？

サスケ いやいや、そんなことないですよ。このあいだも他誌で申し訳ないんですが、『週プロ』さんで家族写真を公開したりとかしてますから。でも、私はあんまり家に帰らないんですよ。

天山 えっ、なんでですか？

サスケ 結局、わかったんですよ。旦那さんが家に帰らないのが家庭円満の秘訣かもしれない、と。

――亭主元気で留守がいい、と。

サスケ そういうこと！ やっぱり、家を仕切るのは女性なんです。そこに男性が入るとぶつかりますから。だったらもう帰らないほうがいいって思って、最近はなるべく帰らないようにしてますね。

天山 それはわかりますねぇ。やっぱりプロレスラーって巡業に出ると月の半分ぐらい家にいないので、ひさしぶりに家に帰ってくると新鮮な部分はありますからね。

――リング上ではさんざんな目にばっかり遭ってますけど、ご家庭では？

天山 さんざんな目に遭って、家では甘えさせてくれるかなって思って帰るんですけど、やっぱり家でも甘えさせてくれないっていうか……。

サスケ それは居場所がないですね（笑）。

天山 どこに行っても誰も相手にしてくれない……。

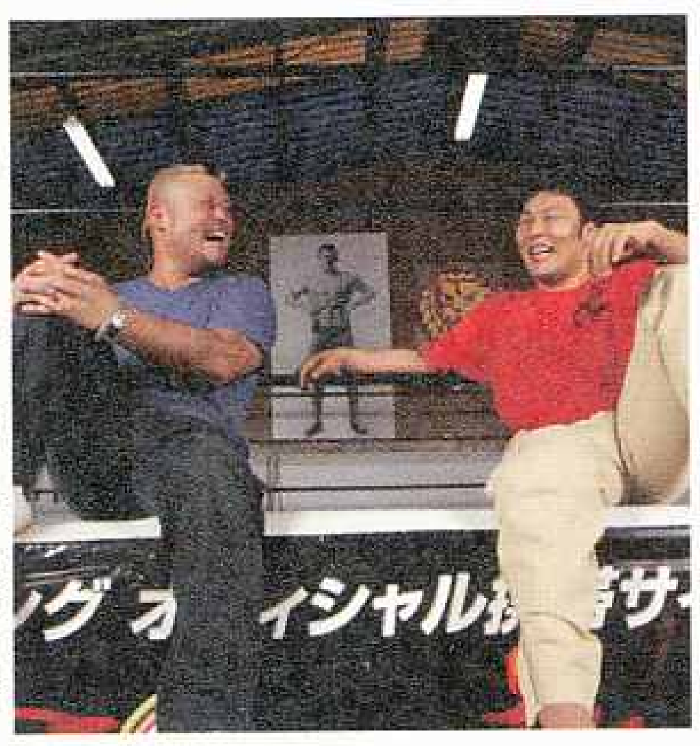
――じゃあ心が安まるときは、天山さんの趣味のパチンコぐらいですかね？

天山 そうですね。それが唯一の自

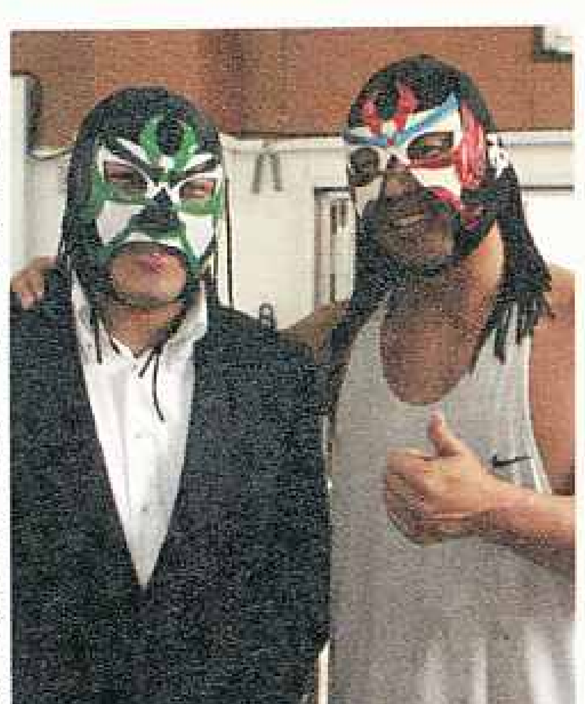
を博した。



新日本プロレス学校卒業生対談の第2弾は、05年5月発行『紙のプロレスRADICAL』87号での金原と現在フーテン・プロモーション代表の池田大輔の対談。この対談では、金原から当時「プロレス学校の首領」と言われていたという池田が練習中にかける音楽の選択権を持っていたなど、プロレス学校にも厳しい上下関係があったことが暴露され、池田は必死に反論。こちらも大好評となった。



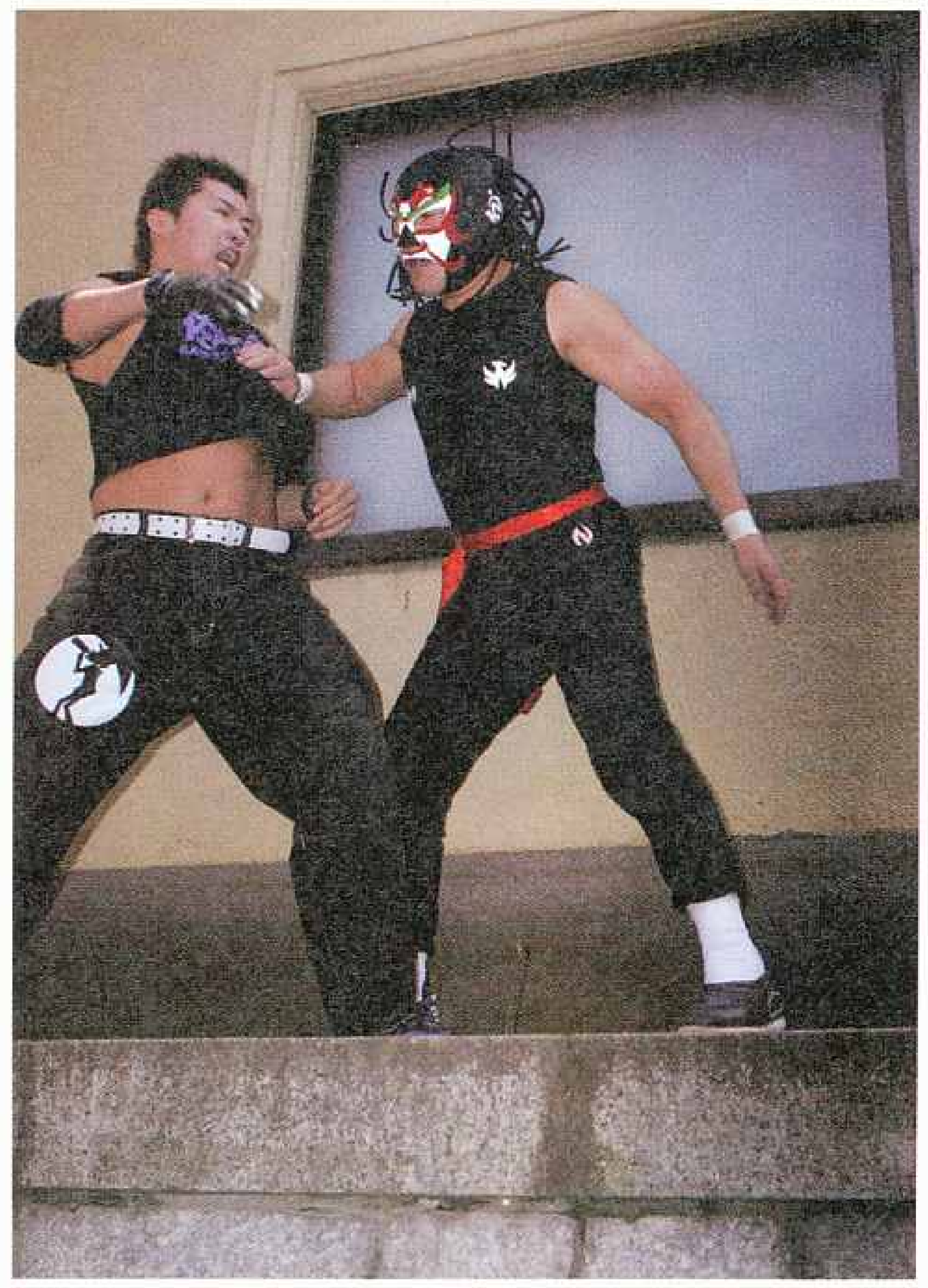
長らく続いていた新日本の取材拒否が解けたの受け、実現したのが天山と金原による新日本プロレス学校卒業生対談（『kamipro』103号）。この対談では、金原から、当時プロレス学校に友だちと一緒に通っていた天山にホモ疑惑がささやかれていたこと、一度、新日本を辞めた天山に電話をかけ呼び戻したのが金原だったという素敵なエピソードがあきらかにされるなど、これまた大反響を呼んだ。

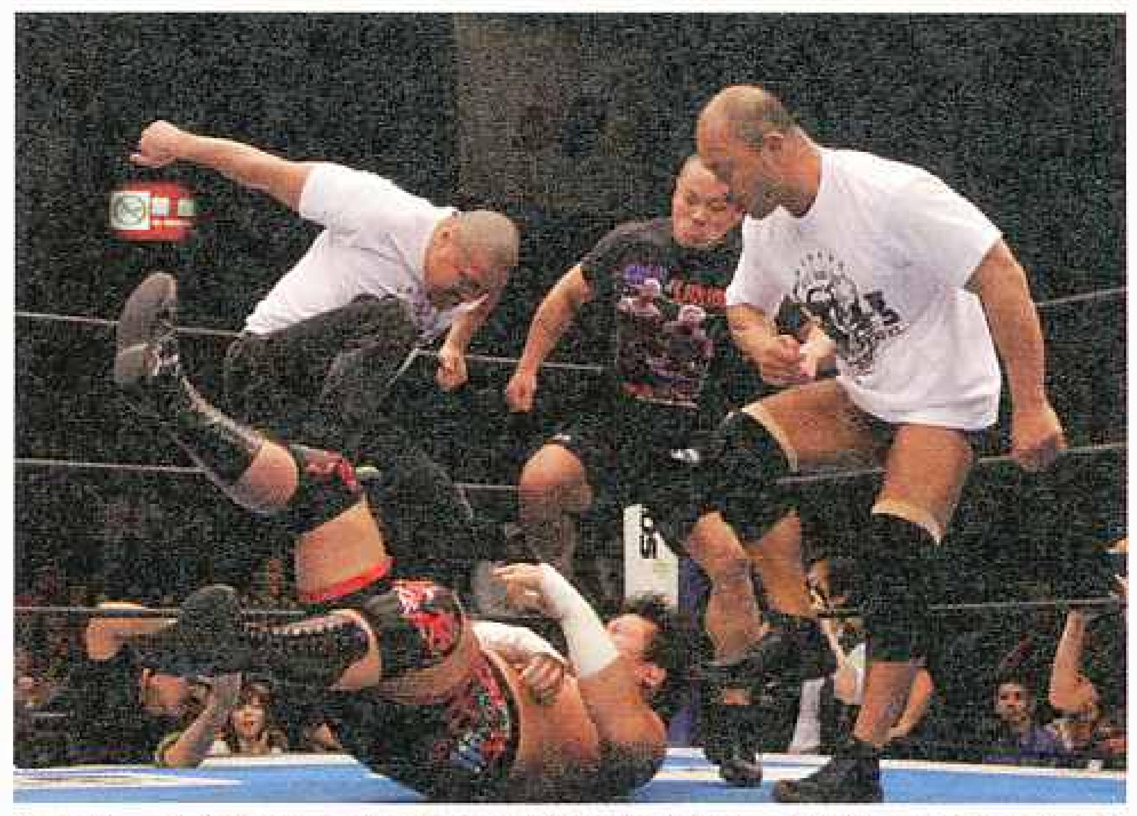


今回の取材でひさびさに新日本道場を訪れたサスケだったが、たまたま道場に居合わせたのが、新日本プロレス学校卒業後にサスケが入門したユニバーサル・プロレス時代の先輩で、現在は新日本で活躍する邪道。恐縮しまくるサスケを前に邪道は「おまえ誰だっけ？」とさんざんからかい続け、あげくには誌面には載せられないような当時のエピソードを大量放出し、サスケをビビってたじろがせていた。

自分も橋本さんにスズメを食べさせられたりしましたけど、「喜んでもらえたら」って感じでやってました（天山）

ここ最近は、かつての後輩で現在はZERO1・MAX所属の藤田ミノルに何度もだまされ続けているように見えるサスケ。毎回毎回、闘い終わってノーサイドと思いきや"サスケだまし"なる技を食らうのが定番となっているも、本人は「俺はだまされていない!」とキッパリ否定。





ここ数ヵ月の天山はGBHから追放処分を受け、救出してくれた飯塚と友情タッグを結成するも、すぐに裏切られ、新日本体やかつてのパートナー蝶野からもダメ出しされるなどさんざんな毎日。しかし最近になって同世代の大谷のヘルプもあり、徐々にハッピーに。今後の天山の動向も温かく見守っちゃうぞ、バカヤロー!?

分の世界みたいな感じで。

サスケ　逆にパチンコは調子よかったりするんじゃない？

天山　いや～、それがパチンコもキツくて。波があるんですけど、ツライですねぇ。いま、人生で一番悪いときかなあ。

サスケ　そうなんだ。最近のパチンコやスロットは射倖性を抑えて、あまり熱くならないように規正をしてるんで、ギャンブル性がドンドン薄れていってるんですよね。ただ、ギャンブルだとFXっていうのがいいですよ。

天山　FX？

サスケ　外国為替証拠金取引っていうんですけど、あれは丁半バクチなんですよ。で、インターネットで気軽にできる！

天山　なんか、ひっかかりそうな気がするなぁ（笑）。

サスケ　いやいや、私も2年ぐらい前から始めたんですけど、究極のギャンブルですよ。だって、株って怖いじゃないですか？　下がったらどうなるかわからないし。でも、外国為替って波打ってるだけなんで、下がることはないんです。おもしろいですよ。しかも、当たれば凄い！

天山　どれぐらい儲かるんですか？

サスケ　私は最高で2・5倍ぐらい儲けましたね。わかりやすく言うと100万円突っ込んで、250万儲かるって感覚で。で、最近発見したんですけど、このFXの絶対に負けないソフトっていうのがあるんですよ。

天山　エ～ッ！　でも、そのソフトって簡単には手に入らないんですよね？

サスケ　ええ。これは私を通さないと。

——なんだか怪しいですねぇ（笑）。

サスケ　簡単に買えるものではないです。それこそコネですよ。興味があったら私に声をかけてください。

天山　ちょっと考えさせてください（笑）。

——しっかり考えたほうがいいと思います（笑）。

サスケ　そういえば『kami:pro』の（獣神サンダー・）ライガーさんと（鈴木）みのるさんの対談で、天山の爪楊枝のエピソードが語られてたよね。

天山　あれはライガーさんに連れられて、当時、藤原組だった鈴木さんたちと六本木で一緒に飲んだんですよ。それで飲み合戦みたいになって、名前なんだったっけなぁ。……うす？

サスケ　臼田（勝美）だよ！　臼田もプロレス学校出身だから。

天山　あ、そうだ！　なんか、そのときも「どうも、おひさしぶり」みたいな感じだったんですが、飲んでる途中で鈴木さんが「あれ、やれよ！」って言い出して額に爪楊枝を刺してるんですよ。で、ライガーさんがそれを見て「おまえもやれよ！」ってなって自分もやったらできたんで、それが始まりですね。

サスケ　じゃあ、元祖・爪楊枝男は臼田だったんだ。

——その飲み会では、最終的に六本木の『アマンド』の前で下半身をスッポンポンにさせられたみたいですけど。

天山　いや、脱がされたっていうのはなかったかな？　『アマンド』の前で冨宅（飛駈）さんと二人で「おまえらナンパしてこい！」って言われて行ったんですが、結局二人でモジモジしながら何もできずに終わったのは覚えてますね（笑）。

——その飲み会では酔った小原（道由）さんが船木（誠勝）さんや鈴木さん、ライガーさんなど、いろんな人に殴られて顔面骨折したらしいですけど。

天山　ありましたねぇ。ぶっちゃけ、自分は小原さんとの仲はイマイチだったんですけど、お酒を飲まされてけっこういい気になっちゃってて。それで殴られたり階段から落とされてゴロゴロって転がって、そのまま死んだかなって思ったんですよ。ピクリとも動かなくなって。

サスケ　それはヤバイじゃん？

天山　でも、そのときは「ヤッター！よっしゃー！」って言って（笑）。で、そのままタクシーに乗っけて道場まで運んだんですけど、なかなか車から出てこなくて無理矢理降ろしたんですよ。このままほっとくのもあれだなと思って道場の中に入れたんですけど、次の日ピンピンになって起きてきて、「あ～、死んでなかったんだ」って、ちょっと思った記憶はあります（笑）。

——ガハハハハ！

サスケ　でも、脱がされるとか、この業界はよくありますから。私もだいぶ、邪道&外道の二人にはいじめられましたし。

——いまは二人とも新日本所属ですからね。

サスケ　そうなんです。歳は1個上なんですけど、先輩は先輩ですから。

——天山さんばりのひどい目に遭ってるわけですか？

サスケ　もう、日常茶飯事ですよ。当時、ユニバーサルの事務所は青山のド真ん中にあったんですけど、人通りの多いところでズボンを脱がされたりね。ただ、ズボンを脱がされただけなら穿けるからいいですけど、普通に破られたりもしましたからね。

天山　そのときはどうしたんですか？

サスケ　ボロボロのズボンを手で押さえて電車に乗って帰りましたよ。そんなのしょっちゅうでしたから。まあでも、この業界、通らなきゃいけない道ですよね。

天山　そうですよね。自分も橋本（真也）さんにスズメを食べさせられたりいろいろ経験しましたけど、「喜んでもらえたら」って感じでやってましたからね。

サスケ　たぶんね、天山は断れないタイプなんですよ。それは俺も一緒！

——サスケさんも頼まれたら断れない？

サスケ　そうそう。絶対に断れない

もんね。自分も周りが喜んでくれればいいかなって思ってやっちゃう。そこはよくわかる

天山　あとはプロレス学校出身って誰がいましたっけ？

――池田大輔選手もそうですよね。

サスケ　あ、そうだ。大ちゃんだ！

天山　前にどっかの控室で一緒になって、そのときに電話番号をもらったんだけど、なくしちゃって。いまノアでしたっけ？

サスケ　ノアはもう辞めて、フーテン・プロモーションを自分でやってますね。

――天山さんって、なにげに忘れたり、なくしたりが多いですよね。

天山　そうなんですよ。人の話もあまり聞かないんです。

――ダメじゃないですか!?

天山　うちのヤツによく言われるのは、「アンタは人の話聞かないし、忘れ物激しいし、頭打ってるからよ」って言われるんですよ。だからある意味、しょうがないのかなって（苦笑）。

サスケ　それは俺もわかる！

――サスケさんも相当、頭を打ってますからね（笑）。

サスケ　そうそうそう。だから、俺もけっこう物忘れが激しいのよ。

天山　ジュニアの8冠戦のときとか凄い落ち方してましたよね。あの後遺症じゃないんですか？

サスケ　自分ではそうは思ってないんだけど、よく言われますね。そういう天山も何度かヤバイ落ち方してるよね？

天山　何回か脳天から落ちてますね。死んでもおかしくないこともありましたし。

サスケ　三途の川は見た？

天山　それは見てないですね。

サスケ　私は見てますから！

天山　でも一回、脳天から落ちたときに医務室に運ばれて、意識があるのかないのかわからない夢のような状態で、凄い幻覚みたいなのが見えたんですよ。そのときは「チッチッチッ……」っていう時限爆弾のような音が聞こえて、もうちょっとで爆発するっていうところで目が覚めて暴れちゃうみたいな感じになって。

サスケ　へぇ～。そういえば、脱水症状事件もあったよね？

天山　事件って（苦笑）。

サスケ　いやいや、けっこう有名な事件だよ。レフェリーは和田京平さんでね。業界内でもかなり重要な事件でしたから。

――確かに当時は話題騒然でしたね。

サスケ　「いったい何があったんだ!?」って思ったよ。あのときも、意識は遠のいてた？

天山　そうですねぇ。でも、怖いですよね。あのときぐらいから悪いのがまとめて来てる感じで。サスケさんは身体の調子はいいんですか？

サスケ　いまはいいほうですね。もうこれ以上悪くならないところまできちゃったんで。要は慣れですよね。

――いつの日かプロレス学校卒業生タッグというか、サスケさんは認めないとは思いますが、"だまされ王"タッグの実現を期待してます！

サスケ　いやいや、一緒にしないでください。私はだまされてはいませんから。そこだけは強調しておきたい！

――失礼しました。最後にサスケさんから天山さんに何かアドバイスはありますでしょうか？

天山　どうしたらいいですかね？

サスケ　そうですねぇ、でも結局、ハッピーならええんちゃう？

天山　ガハハハハハ！　なんでそのセリフ、知ってるんですか？

サスケ　そりゃあ知ってますよ。一応、知らない読者のために説明すると「ハッピーならええんちゃう？」っていうのは、飯塚（高史）さんとの友情タッグ結成前に飛び出した天山の名言ですから。

――丁寧な説明ありがとうございます（笑）。早くハッピーな天山さんの姿が見たいものです。

天山　ねえ。ハッピーになりたいとは思ってるけど。

サスケ　でも、「いつかハッピーになってやるぞ！」っていう確信はお互い持ってると思うんですよ。いまはなってないんですけど、ハッピーになってる自分の姿は見えてるでしょ？

天山　そ、そうですね（笑）。

サスケ　それは私も一緒ですよ。我々二人はあきらめず希望を持ってこれからも頑張りますよ！

天山　いいことありますよね？

サスケ　大丈夫、きっとある！　何度だまされても裏切られてもあきらめずにやっていけばね。

――サスケさんも裏切りやだまし討ちには気をつけてください！

サスケ　いやいやいや、俺はだまされてないって！　で、さっきのFXで絶対に勝つという話だけど……。

【08年6月18日／都内・新日本道場にて収録】

天山と一緒にしないでください！私はだまされてませんから!!（サスケ）

HIROYOSHI TENZAN × THE GREAT SASUKE



【写真左】てんざん・ひろよし■1971年3月23日、京都府京都市出身。新日本プロレス学校を経て、90年に新日本に入門。海外遠征から帰国するとnWoに加入し、ヒールとして大暴れ。その後はG1クライマックス3度制覇、IWGPヘビー級王者にも輝くなどトップヒールとして活躍するも、ここ最近は裏切り三昧で、ちょっとした人間不信に。183cm、115kg。

【写真右】ざ・ぐれーと・さすけ■1969年7月18日、岩手県盛岡市出身。新日本プロレス学校を経て、89年にユニバーサル・プロレスに入団。その後は日本初のローカル団体、みちのくプロレスを旗揚げ。現在はみちプロの会長としてメジャーから、どインディーまで幅広く活躍中。178cm、88kg。写真中央は、たまたま道場にいたプロレス学校時代の恩師・山本小鉄氏。

新日本プロレスTV中継番組
『ワールドプロレスリング』
ゴールデンコンビ対談



あの奇跡の実況・解説の真実がいま明かされる!?

マサ斎藤×辻よしなり

♪チャ～チャチャチャチャチャチャチャチャ～♪（『ワールドプロレスリング』OPテーマ調）。
90年代に全国ドームツアーや両国7連戦など、まさに我が世の春を謳歌していた新日本プロレス。
その時期の『ワールドプロレスリング』の実況&解説として、
コク深いやりとりでファンを楽しませてくれたマサさんと辻アナがひさびさの再会!
当時の思い出を「GO FOR BROKE!」の精神で赤裸々に語ってくれました!　ヒャッホー!（←はしゃぎすぎ）。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

──今日は90年代に『ワールドプロレスリング』の実況席で、黄金コンビを組んでいたお二人に集まっていただきました！

辻 いや〜、ほんとマサさんごぶさたしてます！

マサ 辻さんも元気そうだね（笑）。

──やはり90年代の新日本を語るうえで、お二人は外せませんからね。

辻 いえいえ、何をおっしゃいますやら（笑）。マサさんなくしてボクはありえませんから！

──やはりマサさんは解説者としては異色の存在というか、個性が突出されていましたよね？（笑）。

辻 マサさんは、解説席に座っていても、安易に周りに迎合しないというか、自分の意見を貫いていましたからね。おそらくマサさんは、ボクの話なんて半分も聞いてなかったんじゃないですか？（笑）。

マサ そんなことないよ。そりゃ聞いてたさ……たぶん（笑）。

──たぶん、ですか（笑）。

辻 でも、逆にそれがよかったんだと思います。試合の流れというのはレスラーが作るものですけど、いまはアナウンサーがうるさくて、その流れを作ろうとするんですよ。その流れの中で、言いたいことがなかなか言えない解説者の方も多いと思うんですけど、マサさんはこちらに迎合せずに、ご自分の意見をお話しされていましたから。

──なるほど。

辻 アントニオ猪木さんもそうでしたよね。たまに特別ゲスト解説で実況席にいらしても、こっちの話は全然聞いてないんですよね（笑）。

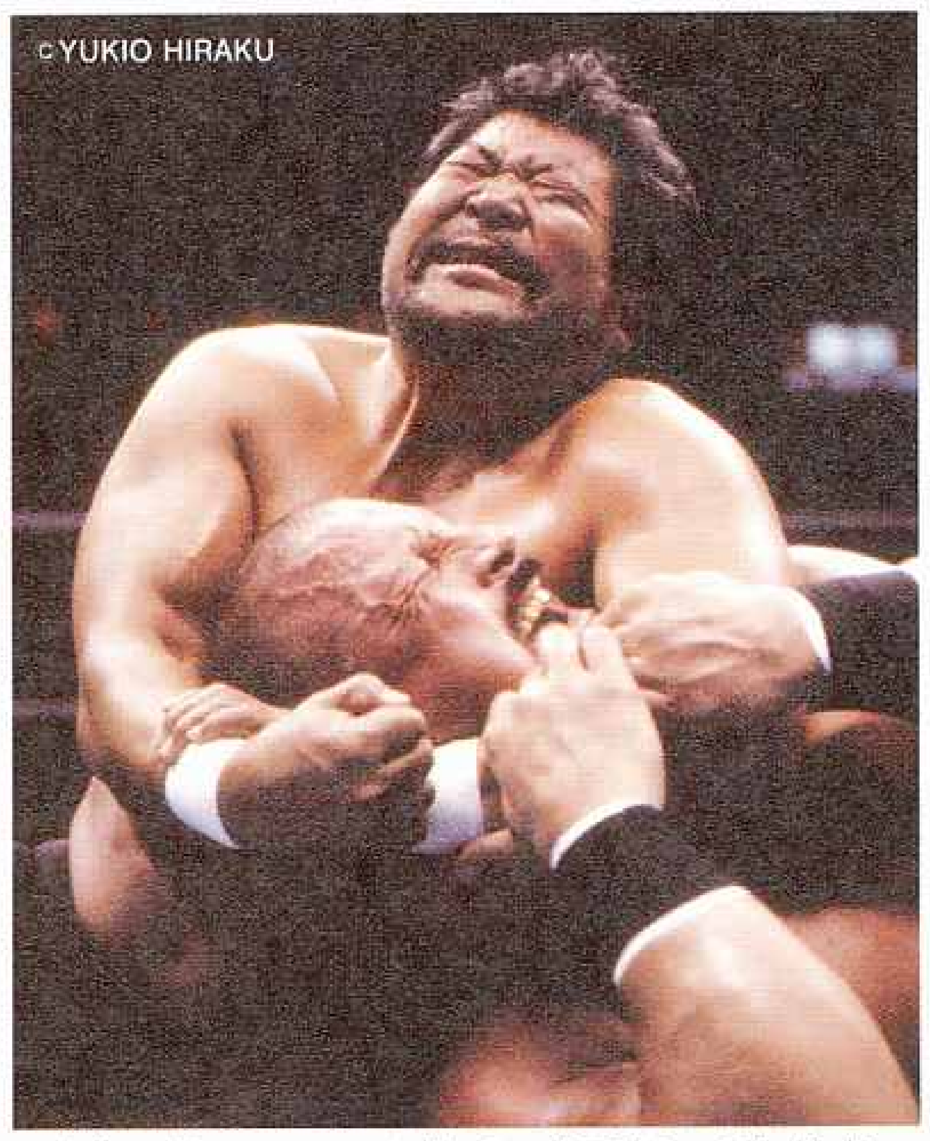
──その光景はなんとなく想像できますね（笑）。

辻 だからやっぱり我々と少し違うところを見てるんでしょうね。マサさんもレスラーとしてリングで闘ってて、実際に痛みを感じてるからか、ボクなんかとは全然違う視点を持っていて……だから話が噛み合わない！（キッパリ）。

──ダハハハ！

マサ （嬉しそうに満面の笑みで）そうかもね。

俺はブッカー業が忙しかったから、解説は頭がカラッポだったよ（笑）（マサ）



90年代の新日マットではブッカーと同時に、ビッグバン・ベイダーをはじめとする外国人レスラーの"世話役"としても辣腕を振るったマサ。1999年2月14日の引退試合では、自身が発掘したスコット・ノートンと対戦。敗北を喫するものの、ノートンの巨体をバックドロップで投げきるなど、衰え知らずなパワーを見せつけた。マサ、サイコー！

辻 で、一生懸命にこっちが話を軌道修正しようとすればするほど全然話が違う方向にいっちゃう。一度、実況中にもかかわらず「辛辣」っていう言葉を、まるで広辞苑を読むかのようにマサさんに解説したことがありましたけど（笑）。

──試合をよそに日本語教室が始まっちゃいましたか（笑）。

辻 目の前じゃ試合をしてる最中なんですよ。で、ボクが「マサさんの先ほどの発言はかなり辛辣でしたよね」って振ったばかりに、マサさんは目の前の試合よりも「辛辣」という言葉が気になってしまって『シンラツ』ってどういう意味なの？」って繰り返し尋ねてくるっていう（笑）。

──解説すべき試合よりもそっちのほうが重要だと（笑）。

辻 普段はこっちの話あんまり聞いてくれてないのに、こういうときに限って聞き返すっていう（笑）。目の前の激しい試合そっちのけで、「辛辣」という言葉について1分から2分ほど説明しましたね。

マサ わかんない言葉は、聞かなきゃわかんないからさ（笑）。

辻 こういう、視聴者も予期せぬ中継だったから、ボクらがウケたところもあるんじゃないか、と。

──そんな番組はなかなかないですからね（笑）。そもそもマサさんが『ワールドプロレスリング』の解説を始められたきっかけはなんだったんですか？

マサ う〜ん……（熟考）、知らない、忘れちゃった（笑）。

──忘れちゃいましたか（笑）。やっぱりマサさんが海外事情に詳しいからというのもあったんですかね。

辻 それもあるんじゃないですかね、あの頃はマサさんが見つけた選手がたくさん来ていましたし。

マサ だからブッカー業が忙しくて、解説のほうは頭がカラッポだったんだよ（笑）。

──ダハハハ！ カラッポでやってましたか！

辻 外国人対応のほうで解説まで気が回らなかったんですね（笑）。

──そのブッカーをやっていた関係からか、マサさんは解説中にリングネームじゃなくて本名を言ってしまうところが多々見受けられましたが（笑）。

辻 ねぇ！ わざわざ「ペガサス・キッド」っていうリングネームにしてるんですよ。それを「クリスが、クリスが」って言われても困りますよね。ファンになったばかりの人は「クリスって誰だよ？」って思いますよ（笑）。

マサ ふふふふ（照れ笑い）。

辻 マサさんはクリスをはじめとする外国人選手とリングを降りても付き合いがあって、信頼関係で結ばれてるから本名が出ちゃうんでしょうね。

──まぁ、ブラック・タイガーもエディ（・ゲレロ）ですもんね（笑）。

マサ そんなこと言ってたっけ、俺？（とぼけたように）。

辻 言ってましたよ！（笑）。やっぱりマサさんて、ポリスマンっていうか自分がブッキングした外国人選手と最初にぶつかる役も買って出てた部分があると思うんですよね。マサさんがやらなきゃ誰がやるの？ っていう。

マサ スコット・ノートンが最初に来たときは、みんなやるのをイヤがったんだよな。とにかくデカいし、力があって、殴られれば本当に気絶寸前までいっちゃうし。じゃあ、しょうがないから俺がやってやるよって。

──俺がやるしかない、と。

マサ 本当ひどい目に遭ったよ。だから、いま舌が回んなくなっちゃってるのよ（笑）。

──ノートンのせいでしたか（笑）。

辻 でも、ノートンを売り出すためにはその強さを打ち出さないといけないわけですもんね。ラリアットもパワースラムも受けきって。ショルダータックルなんか交通事故モンですよね。

──リング上では自分の身体でも、実況席では口で強さを証明しないといけないわけですもんね。

辻 やっぱり外国人の気持ちを代弁するのはマサさんが一番だったと思いますよ。

──テレビ放送の収録前に、辻さんとマサさんは、打ち合わせとかしてたんですか？

辻 な〜んにも（キッパリ）。

──ダハハハ！

辻 するわけないじゃないですか（笑）。

マサ 「はい、よろしくお願いします」だけだよ（笑）。

──そういうレギュラー番組も凄いですよね。

辻 でも、何が起こるかわかんないわけだし。マサさんの場合は自分が闘ってるような状況になっちゃってるから、ボクが質問してもそんなことはどうでもいいっていう感じにな



ったり（笑）それが普通の実況、解説では出そうと思っても出せないアジになったんでしょうね。

マサ　……打ち合わせはあったほうがよかったよね。

——いまさら言いますか！（笑）。

辻　だって「打ち合わせやりますか？」って聞いたら、「わかった」って言いながらこっちをほったらかしてベンチプレスやってたじゃないですか！

——マサさんにとっては打ち合わせよりベンチが大切だ、と（笑）。

辻　「今日は180キロ挙げられるかな」「ダメだ、160キロしか挙がらない」とかいって（笑）。まぁ、会議はなくてよかったんですよ。

マサ　いや、いま思うと、ちゃんと事前に会議やってたほうが視聴率アップしたかなって。

いま思い返すと、ちゃんと番組の前に打ち合わせをやっておいたほうがよかったね（マサ）



JI × MASA SAITO

まさ・さいとう■本名・斎藤正典。1942年東京都出身。高校時代にレスリングを始め、64年東京オリンピック代表にも選ばれる。大学卒業後、日本プロレスに入団。68年に渡米し「ミスター・サイトー」として全米で大活躍。87年から新日本プロレスに定着、アントニオ猪木との「巌流島の決闘」はプロレス史上に残る死闘となる。90年、ラリー・ズビスコを破りAWA世界ヘビー級王座を奪取。99年に現役引退。第一戦を退いてからは『ワールドプロレスリング』の解説者としても人気を博した。現在は健介オフィスの選手アドバイザーとして指導にあたる。180cm、120kg（現役当時）。

辻　いや〜、そこはボクらの力では難しかったと思いますよ（笑）。

——それに、辻さんの思いもよらないところでマサさんが解説をするっていう部分がやっぱりおもしろかったですからね。

辻　だからやってる側としては、正直、常に緊張感がありましたよね。どこから話がくるかわからないから（笑）。たとえば『東スポ』の柴田（惣一）さんとか山ちゃん（山崎一夫）とかはこう振ればこうくるだろうっていうのがある程度予想できたんですけど、マサさんの場合は一切見えないですから（笑）。

——そんなマサさんの〝変化球〟にも、ちゃんと話を返さないといけないわけですしね（笑）。

辻　ボクがマサさんの振りに返せずにいると視聴者からは「おい、辻は何も聞いてないじゃないか？」っていうふうになってしまいますしね。だからボクはマサさんの言うことを聞きながら、先に進まなきゃいけないっていう役目を負っていたわけです。ところがなかなか進ませてもらえない（笑）。そういう点では緊張感ありましたよね。

マサ　……いま思うとなんで打ち合わせやらなかったのかな（ボソっと）。

——まださっきのことを気にしてましたか！（笑）。一度、気になるとずっと気になるタイプですよね。

辻　あぁ、マサさんって前からそういうところありましたね！　ボクがマサさんのことを「獄門鬼」って視聴者に紹介したときも、放送の途中で突然、「獄門鬼って何？」って聞いてきますからね（笑）。

——なんで「獄門鬼」なの、と（笑）。

辻　目の前では獣神サンダー・ライガーとエル・サムライの試合をやってるのに、「なんで俺が獄門鬼なの？」って（笑）。脈絡ないからボクも「なんですか？　あ、さっきの話ですね、いまはちょっとその話は」って制そうとしても「獄門鬼」ってどういう意味なんだなと。そういうことがたまにありましたね。

——「獄門鬼」と紹介したばっかりにずっと気になっちゃったという（笑）。

マサ　だから、やっぱり打ち合せはしといたほうがよかったんじゃない？

辻　いや、マサさんはフリースタイルだからいいんですよ！

マサ　そうか。俺はレスリングもグレコローマンじゃなくて、フリースタイルだったからね（笑）。

辻　アメリカンジョークが飛び出ましたね（笑）。

——それにしても『ワールドプロレスリング』は、かなり実験的な番組だったんですね。



マサさん&辻アナは、いままでのプロレス実況には見られないやりとりで視聴者の目をクギづけ！　不協和音とも思えるほどの二人の微妙な距離感が、絶妙なハーモニーを生み出して、リング上の闘いをおおいに盛り上げた!

ブレイバック ゴールデンコンビ！
おもしろさの秘訣は二人の温度差にあり！

辻アナは実況担当の際に、何度かレスラーとの確執・抗争を勃発させている。97年、蝶野正洋率いるnWoから辻アナは、Tシャツを渡され軍団入りの勧誘を受ける。しかし、翌週の大会で辻アナがTシャツを着ていないのを確認すると、黒のカリスマは大激怒！　あわれ、スコット・ノートンに羽交い絞めにされた辻アナは、蝶野から黒スプレーで白のYシャツに「nWo」と落書きされるハメに。次のシリーズ、辻アナは何食わぬ顔でnWoTシャツ着込んで「nWoの辻よしなりです。素の自分に戻った気がします」と、すっかり寝返ってご機嫌モード。しかし、今度はそれに怒った正規軍の佐々木健介が辻アナを急襲！　力任せにヴァーッとnWoTシャツをビリビリに引き裂かれてしまうのであった。

辻アナは00年5月にも「吉江（豊）って根性あるんですよ。酒の席ですぐ全裸になってしまうんですから」（辻）、「それは根性とは違うでしょう」（マサ）なるプライバシー無視なやりとりを繰り広げ、当時のG・EGGS（永田裕志、中西学、吉江豊）を激怒させている。ハシャぎすぎた辻アナは中西学に実況席でアイアンクローをお見舞いされ、あえなく撃沈（のちに和解）。

自業自得の側面があるとはいえ、蝶野、健介、中西など軍団問わずレスラーに襲われ続けた不憫な辻アナ。しかし、観る側はその〝やられ芸〟を目にするたびに溜飲を下げたものである。そして、隣で辻アナがヒドい目に遭っているにもかかわらず、まるで他人事のように「僕は関係ありませんから」と、ノンキに語っていたマサさん。この二人の温度差、絶妙なコントラストこそが、実況席に奇跡的なおもしろさを生み出したのであった。

だってマサさん、こっちをほったらかして ベンチプレスばっかりやってたじゃないですか（笑）（辻）

辻　昔、『ワールドプロレスリング』の番組ディレクターに、「放送コードに触れちゃいけないけどギリギリのことを言え、記憶に残るコメントを残せ」と、言われたんですよ。自分ではそれができたかどうかわかりませんが、いまこうして『ｋａｍｉｐｒｏ』さんでマサさんと対談の場を設けてもらえるということは、それだけ印象に残ってるってことだと思うんですね。プロレスの実況・解説は野球や水泳や柔道とか、ほかのスポーツとは違うところにあるんだっていうことが、少し証明できてよかったのかなって。

——それだけ視聴者の印象に残ってるってことですからね。

辻　やっぱりプロレスをしゃべるっていうのは一番難しいと思うんですよ。競技によって難しさの度合いは違うと思うんですけど、とくにプロレスはただ実況してればいいってもんじゃないっていうか。真面目にやってるんだけど、なんかパフォーマーとして実況席に座っていたところは意識としてありましたね。

——実況席が盛り上がってないと番組もおもしろくなりませんしね。

辻　で、ボクが興奮しすぎるとマサさんから「辻さん、あんまり興奮しないで」ってたしなめられたり。なんでそんなときだけ冷静なんだっていう（笑）。

——せっかく盛り上がるところなのに（笑）。

辻　「そんなに冷めた目で俺のこと見てるのかよ、マサさん」っていう（笑）。

——いまは辻さんもプロレスと少し距離がありますけど、思い返すとあの時代が懐かしかったりします？

辻　懐かしいですね。あの頃は、言葉はふさわしいかわからないですけど、週に一回、〝脳のトレーニング〟をしている感じでしたね。

——常に頭をフル回転させながらしゃべっていた、と。

辻　目の前の試合展開だったり、言いたいことの優先順位を決めることだったり、いろいろ言葉選びも含めてブラッシュアップをするのにうってつけというか、もの凄い威力を発揮する実況中継でしたね。だからやっぱり鍛えられてたと思います。これから自分がどういう道をたどるかわかりませんが、20代から30代の若い頃にプロレス中継に携われたことは、普通のアナウンサーよりもブラッシュアップされる度合いが多かったんじゃないですかね。

マサ　いまも辻さんはプロレスの仕事やってるの？

辻　去年、猪木さんのＩＧＦの旗揚げ戦をやらせてもらいました。

マサ　いまはあまりプロレスはやってないの？

辻　いまは特別なときだけですね。年に一～二回とか。

——マサさんは解説やってたときは懐かしいですか？

マサ　懐かしいね……、辻さんが懐かしいよ（笑）。

辻　ボクのことが？　ありがとうございます（笑）。

マサ　いまの新日本はどうなの？

——一時期は選手の離脱や会社の身売りで元気ありませんでしたけど、最近はようやく上り調子でいい雰囲気ですよ。

マサ　へぇ、そうなの？　どういうところが？

辻　マサさん、いま新日本のＩＷＧＰヘビー級のベルトを全日本プロレスの社長である武藤敬司が保持してるんですって！

マサ　へぇ～、なるほどね～！　おもしろいね、プロレスの世界もいろいろ動いてきたんだね。

辻　垣根がなくなってきましたね。

マサ　武藤だからできるんだろうね。

辻　ボクらにもなじみのある武藤敬司が保持してるっていうのがいいですね。ということは、そろそろマサさんとボクの実況・解説コンビの出番なんじゃないですかね？　武藤がＩＷＧＰのベルトを獲ったっていうことはね（笑）。

——いいですねえ！　やっぱり武藤敬司のＩＷＧＰ王座戦の実況は、辻さんとマサさんのゴールデンコンビがぴったりですよ！

マサ　そうかなあ（照れ笑い）。武藤もあのヒザでよくやってると思うよ。ブラッド（・レイガンズ）の紹介でアメリカへヒザを診察しに二回行ってるんだよな。ヒザが変形して色が変わっても一生懸命やってるんだからたいしたもんだよ。武藤を見てると俺もまだできるかなって思うよ（笑）。

——解説復帰を通り越して、現役復帰ですか！（笑）。

辻　これだけ身体パンパンなんですから、まだまだやったほうがいいんじゃないですか？

マサ　そうかなあ（嬉しそうに）。

辻　じゃあベンチからまずガンガンやらないと（笑）。

——では、とりあえずは一度でいいですから、マサさんと辻さんのゴールデンコンビ復活を願ってますよ。

辻　武藤敬司がベルトを巻いたからには、なんらかのかたちでボクたちもやりたいですね。

マサ　そうなったら、辻さんに頑張ってもらわないと、俺はもう66歳だからさ。

辻　66歳にはとても見えないですよ。ホントは解説じゃなくて、武藤敬司のベルトに挑戦したいぐらいなんじゃないですか？

マサ　ぐふふふ。まあね（笑）。

辻　そのときはボクが実況やらせてもらいますよ！（笑）。

【08年5月2日／『kamipro』編集部にて収録】



YOSHINARI TSUJI × MA

つじ・よしなり■1983年にテレビ朝日入社。『ワールドプロレスリング』で数々の名実況を行なった90年代を代表する実況アナウンサー。放送中に蝶野正洋に実況席を襲撃されるも逃げずに口で応戦し立ち向かうなど、身体を張って番組を盛り上げたことも。2000年10月にテレビ朝日（全国朝日放送）を円満退社し、名前も本名「義就」から「よしなり」に改め、現在はフリーアナウンサーとしてテレビやラジオ番組で活躍している。07年6月29日のイノキ・ゲノム・フェデレーション旗揚げ戦では約2年ぶりにプロレス実況を担当した。

衰えぬ自己顕示欲！ 負のターザンイズム炸裂!?



業界大微震!!

あの伝説の元『週刊プロレス』大編集長

“佐藤ちゃん”が

いまさらノコノコ『kamipro』初登場!

新日本プロレスをおおいに語る!!

元『週プロ』新日担当記者　現『週刊ベースボール』編集長
佐藤正行×武田有弘
元・新日本プロレス 広報部　現・ライセンス事業部

本誌No.123の新日本プロレス特集はアノ男のプロレスLOVEを再燃させてしまった?
元『週プロ』四代目編集長の“佐藤ちゃん”こと佐藤氏が、
「新日といえば俺と武田ちゃんの対談しかないですよぉおお!」と、
旧知の新日フロントの武田氏を巻き込んで今回の企画を猛烈プッシュ!
はたして伝説の“新日バンキシャ”は、いまさらいったい何を語るのか?

聞き手／堀江ガンツ

佐藤　いやあ、武田ちゃん。ひさしぶりだねぇ！

武田　何、いまさらノコノコとプロレス雑誌に出てきてるんですか（笑）。今日の企画は佐藤さんが自分で売り込んだらしいじゃないですか？

佐藤　最近、『kamipro』が新日本を取り上げてるでしょ？　しかも、武田ちゃんまで誌面に出てきてさ。それなら、ここは新日本プロレスを15年間追い続けた俺の出番かなって思ったのよ。で、ガンツに一声かけたらこうして実現した、と。

——このあいだ、偶然佐藤さんに会ったら「いい企画がある！　俺と武田ちゃんの対談ですよぉぉぉ！」って突然言ってきたんですけど、元『週プロ』編集長がなぜか『kamipro』に登場するのも、くだらなくていいかな、と（笑）。しかし、『週刊ベースボール』の大編集長がウチに出るなんて社内的に問題ないんですか？

佐藤　会社の許可は取ったから。今日は元『週プロ』編集長の俺が作ってる『週刊ベースボール』も宣伝してもらおうと思ってさ。

武田　それ、『kamipro』の読者層と合わないでしょ（笑）。

佐藤　いやいや、野球をプロレス的に語るっていうのがいまおもしろいわけですよぉぉぉ！

武田　でも、『週刊ベースボール』の編集長になるなんて凄いじゃないですか。野球選手とも普通にしゃべったりするんですか？

佐藤　しゃべりますよぉ！　星野仙一日本代表監督とも話すからね。えっへん（胸を張って）。

新日担当の頃は長州力の金沢、nWoの佐藤で張り合ってたんだよ（佐藤）

武田　マジですか？　凄いですね。

佐藤　今年の正月号でインタビューしたのよ。俺が『週プロ』編集長時代、○○○○に怒られた思い出のホテルオークラで。

——ダハハハハ！

佐藤　そういうものが全部、つながってるんだよ！

武田　でも、『週プロ』から『週ベー』に異動になったとき、ずいぶん落ち込んでましたよね？

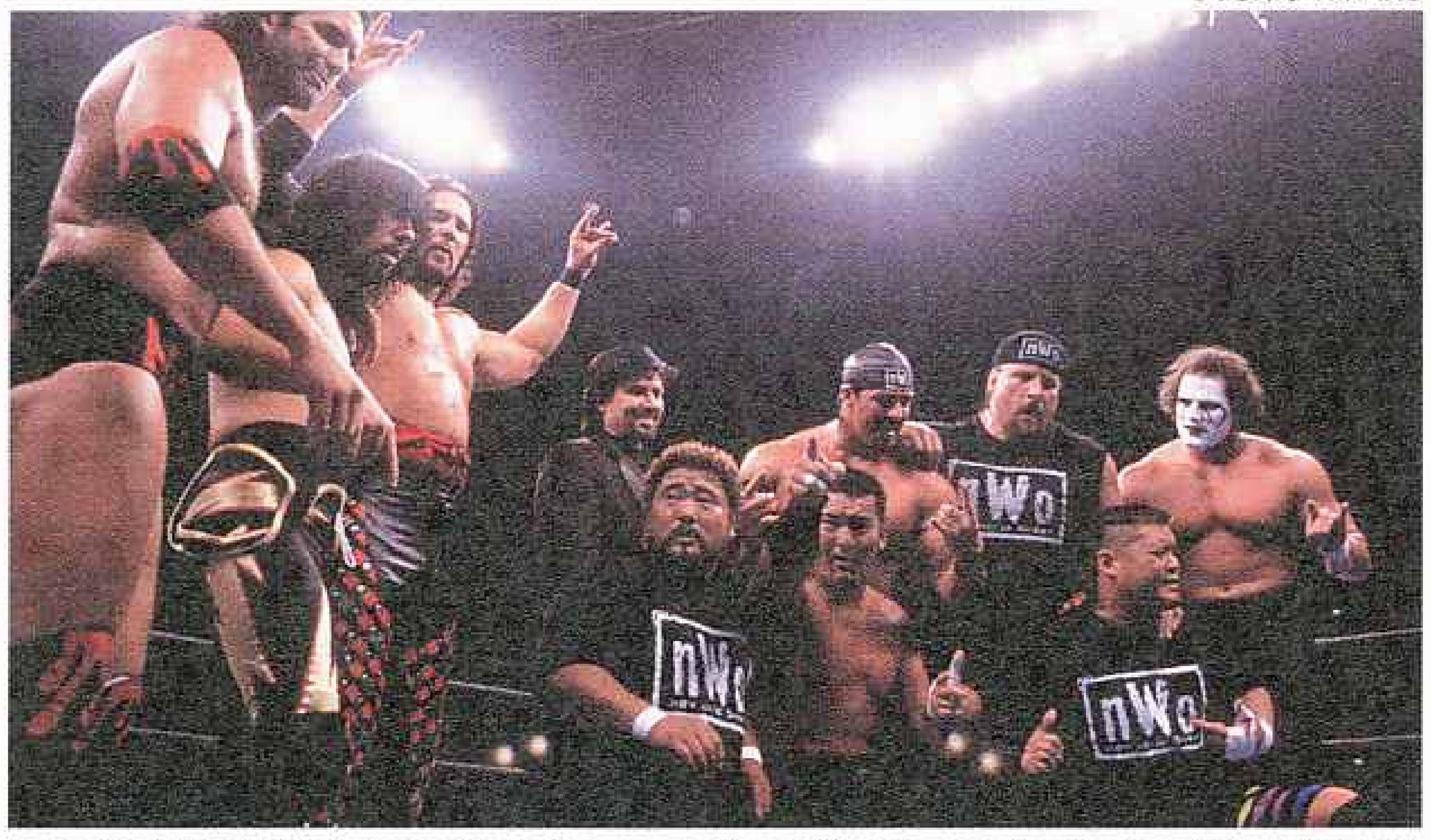
佐藤　そりゃ落ち込みますよ！　これまで培ってきたものをすべて捨てて、一から出直したわけだから。ヒクソンに負けたあとの高田延彦状態ですよぉぉぉ！

——『週プロ』時代の佐藤さん＝Uインター時代の高田延彦ですか。またずいぶん大きく出ましたね（笑）。

武田　いくらなんでも髙田さんに失礼ですよ（笑）。

佐藤　また呼び出されて怒られるのかなぁ……。

——ダハハハハ！　まあ、そんなことはいいとして、そもそも二人のご関係というのは？



©YUKIO HIRAKU

90年代後半に蝶野を中心に結成され、一大ブームを巻き起こしたnWoジャパン。武藤や天山広吉にヒロ斉藤、そしてさまざまな外国人メンバーとともに新日マットを席巻！　佐藤ちゃんもお気に入りの黒をイメージカラーとし、いままでにないカッコいいヒール像を確立した。

佐藤　武田ちゃんは俺が新日番だったときの団体広報だったんだよね、90年代後半～00年代初頭に。新日の歴代広報って倉掛（欽也）氏をはじめ、〝天下の新日本〟という意識が強いというか、ちょっと上から目線だったんだよ。ドMの俺にとっては、それもある種、心地よかったんだけど、やっぱりちょっとコミュニケーションを取りづらい部分も正直あって。

——当時、ウチもキンキン（倉掛欽也氏）にはずいぶん冷ややかな対応をされた記憶がございます（笑）。

佐藤　それが武田ちゃんあたりから新日のマスコミ対応が変わってきて。それと自分よりも業界的には後輩ってこともあってか、武田ちゃんとはなんでも言えるような関係を築けたんだよね。

武田　でも倉掛さんもわざとやってたんですよ。「俺は佐藤さんに厳しくするから、武田は優しくしてやってくれ」って陰で言ってたんだから。俺だって佐藤さんになんか優しくしたくないですよ！

——ダハハハハ！　上司命令で仕方なくだった、と（笑）

佐藤　（無視して）武田ちゃんは「なんとかこの選手を売り出したい！」っていう熱意のある広報だったね。二人で「こういう取材にしよう」っていう話もよくしたし。

——武田さんから見た当時の佐藤さんの印象は？

武田　その頃、『ゴング』がGK金沢さん、『週プロ』は佐藤さんが新日本担当だったんですけど……。

佐藤　（さえぎるように）要するに俺と金沢さんが張り合ってた頃ですよ！　長州力の金沢、nWoの佐藤みたいな感じで。

——nWoの佐藤でしたか！（笑）。ではお二人でnWoを一緒に盛り上げようという感じだったんですか？

武田　佐藤さんは誌面でいろいろやってはくれましたね。蝶野さんはビジュアル面に関してこだわりのある人だから、そういうところを気にしてくれて。

佐藤　まぁ、俺と蝶野さんのファッションセンスが合致したわけだよ。

——えぇ～～!?　オリジナルのファッションブランドも展開する〝黒のカリスマ〟と、佐藤さんが同じセンスでしたか！（笑）。

佐藤　ほら、今日だって黒いジャケット着てるし。

——それだけじゃないですか（笑）。

武田　知りませんよ、蝶野さんがこれ読んで怒っても（笑）。

——では、ファッションセンスの合致から、伝説のオシャレプロレス雑誌『kampfer（ケンファー）』が生まれたわけですね（笑）。

佐藤　そうですよぉぉぉ！

武田　あのタイトルは蝶野さんの案なんですよね。

佐藤　そうそう、蝶野さんに相談したら「ドイツ語で『kampfer』はどう？　英語でいえばファイター、日本語でいえば戦士」って言われて。でも、あのタイトルだとなんの本かサッパリわからないんだよ。

——ダハハハハ！　言葉自体になじ

佐藤ちゃんとは誰だ?



佐藤ちゃんは大学在学中からアルバイトとして『週プロ』に携わり、正社員になると新日担当として活動。『週プロ』特有の主観的な文章に業を煮やした蝶野に「おまえらの書く記事は作文だ！」と糾弾されたり、WAR取材中に記者席で居眠りしたことで故・冬木弘道になじられたり、高田延彦インタビューでは毎度のように怒られたり、馳浩に酒で酔い潰されて逆モヒカン&両まゆ毛を剃り落とされたりと、エピソードにはことかかない名物記者として活躍。現在は『週刊ベースボール』で編集長を務めている。ちなみにベースボール・マガジン社の二枚看板である『週プロ』『週ベー』の両誌で編集長となったのは佐藤ちゃん一人！　仕事がデキてオシャレにもうるさいナイスミドルなのだ！　たぶん。

みがないですもんね（笑）。

佐藤　プロレス雑誌はちゃんとプロレスって文字が入ってないとダメだね。せっかくだからこの場を借りて言うけど、『kamipro』っていう『kampfer』のでき損ないみたいな誌名はなんなんだと！

――『kampfer』のでき損ないとは失礼な！　まあ、実際、誌名を決める会議でも「これは『kampfer』に似てるから、縁起悪いからやめたほがいい」っていう意見は出ました（笑）。

武田　でも、『kamipro』は雑誌名変えても売れてるじゃないですか。『kampfer』はどうだったんですか？

佐藤　バカにしちゃいけないよ。第1号では2万5000部売ったんだから（自慢げに）。でも、やっぱり、雑誌名『週刊ベースボール』みたいな、わかりやすいほうがいいんですよぉぉ！

――そんなことはどうでもいいんで、新日本の話をしてください。

佐藤　ああ、今日のテーマだよね、忘れてた（ケロリ）。

武田　あいかわらずだな～。まぁ、あの頃はよく佐藤さんと蝶野さんと3人で飯食いに行っていろいろ話をしてましたね。

佐藤　うん、そうそう。当時はやっぱり『ゴング』のほうが新日を大きく扱ってたんだよね。そこに俺としてははなんとか一太刀浴びせたかった意識が強かったね。だから俺は『ゴング』の表紙が新日じゃないときに、『週プロ』の表紙が新日だと蝶野さんとかに見てもらうのが誇らしかったよ。



DA　MASAYUKI SATO

さとう・まさゆき■1965年3月21日、新潟県出身。89年、ベースボール・マガジン社に入社。01年3月に「週刊プロレス」編集長に就任。04年4月に「週刊ベースボール」（第一編集部）に次長として異動。07年10月から同誌編集長を務める。

『kamipro』も新日をどんどん取り上げてかなきゃ！……いまの王者って中邑真輔？（佐藤）

高田延彦がヒクソン・グレイシーに負けて、多くのファンから「プロレス界はどうなるんだ？」って言われたときに、俺は新日本プロレスのnWoの集合写真を表紙にして「nWoパラダイス」って名コピーを打ったわけですよ！（自慢げに）。あの頃の新日はよかったな～……。ね、武田ちゃん？

武田　ん？　あ、すいません、話が長いんでちょっとメールしてました。

――ダハハハハ！　武田さんも長い付き合いだけに佐藤さんの扱い方を心得てますね（笑）。

武田　でも専門誌も佐藤さんとかの世代が台頭しだして、誌面もオシャレっていうか、若返りましたよね。

佐藤　俺は『週プロ』をオシャレマガジンにしようと思ってたもの（キッパリ）。でも（ターザン）山本さんのポリシーである「雑誌はハレンチに」ということと相反する考え方だったんだよね。そのモチベーションが『kampfer』となって世に出た、と。

武田　蝶野さんは掲載される写真とかにはけっこうこだわったんじゃないですか？

佐藤　もの凄くこだわりがあったね。カラーのインタビュー記事なのに「モノクロの写真使ってくれ」って頼まれたり。あと武藤さんがnWoに入ったときには、蝶野さんがファッションコーディネートまでやってたから。

武田　武藤さんは何着てもカッコいいからなのか、オシャレには無頓着でしたね。

佐藤　蝶野さんが強制的に着させてね。武藤さんからしたらうっとうしかったみたいだけど。

武田　「nWoって面倒くせえんだな」って言ってましたね（笑）。

――武藤さんらしいですね（笑）。

武田　そういう誌面や映像みたいに後々残るものを、蝶野さんはもの凄く意識してましたね。それに対して佐藤さんは真剣に向き合ってくれて。

佐藤　うん。でも、プロレスは姿かたちがカッコいいだけじゃダメで、蝶野さんはレスラーとして発言もおもしろかったから活字にしたときに威力があったね。とくにフロント批判をしてたときとか。

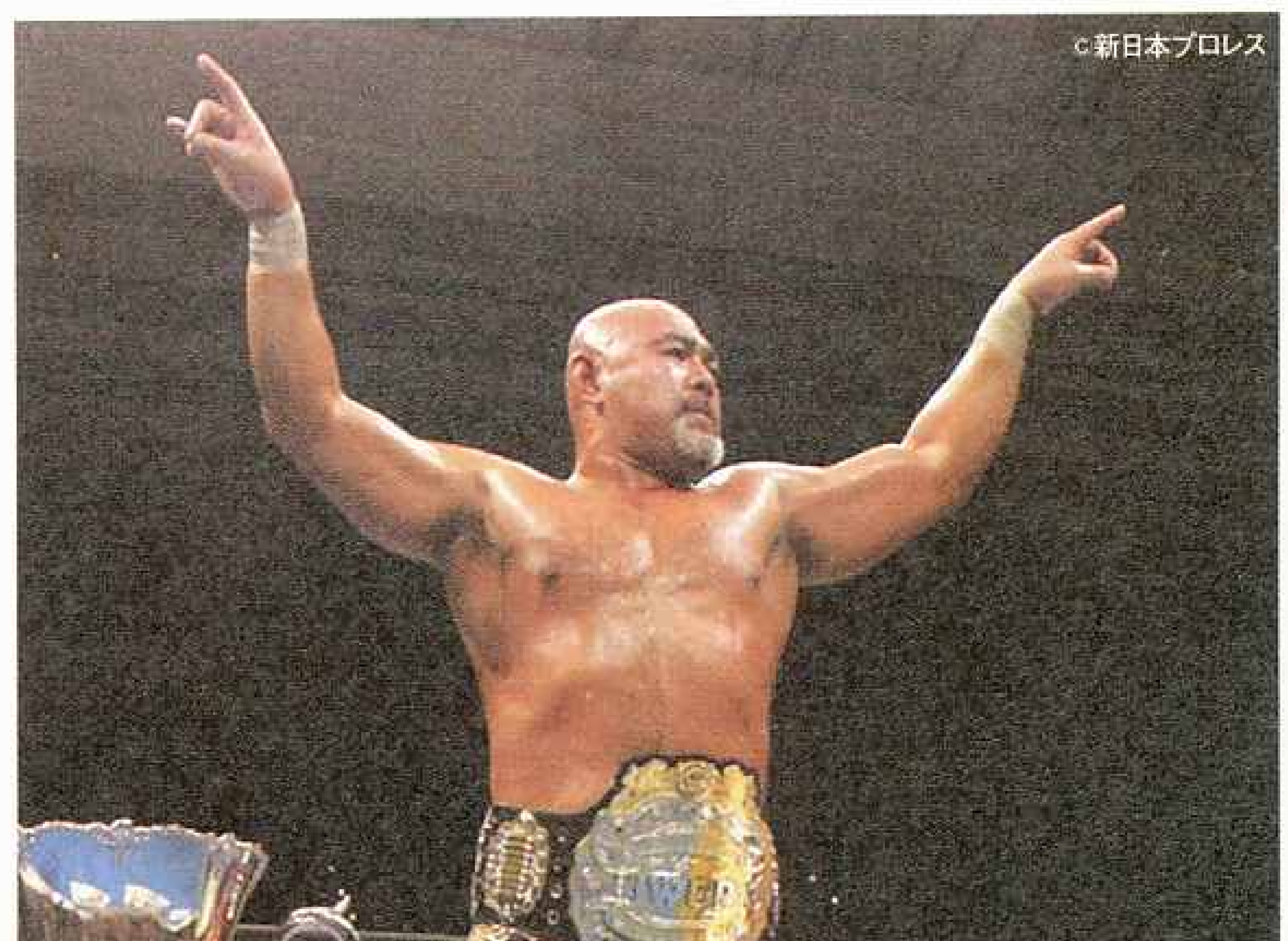
――本気で言ってるのかどうかわからない部分がスリリングでしたね。

佐藤　ある会場で蝶野さんに話を聞いたら、当時の新日の企画宣伝部長だった永島（勝司）さんのことをメチャクチャ糾弾したんだよ。で、こっちも覚悟を持ってその発言を掲載して。そうしたら翌週のテレビマッチの会場でリング上から蝶野さんが、nWoの黒バットを俺のほうに向けて「佐藤、よく書いた」ってシグナルを送ってくれたわけよ！（自慢げに）。

武田　……ホントにそんなシグナルなんですか、それ？

――「よけいなこと書きやがって！」っていうシグナルだったかもしれませんね（笑）。

佐藤　まぁ、蝶野さんの本音がどこにあったかはわからないけど、そういうのが雑誌になって世に出ること



©新日本プロレス

「プロレスはゴールのないマラソン」をはじめ、数々の名文句を残している現IWGPヘビー級王者・武藤敬司。90年代新日黄金時代の立役者が、いままた新日本を盛り上げようと、さしあたってバク進中！　プロレスLOVEポーズのキマリ具合も扉ページの佐藤ちゃんのそれとは大違いなのだ。

で、nWoのヒールとしての存在感が出てくるというかね。

——"nWo佐藤"として面目躍如だった、と。

佐藤　それと、当時の新日ってリング内外で波紋を巻き起こすような起爆剤が常にあったんだよね。その最たるものは、やっぱり小川直也だったと思う。それで蝶野さんは蝶野さんで猪木さんが推し進める格闘技路線に対抗して。

武田　98年の1・4東京ドームの橋本vs小川戦を蝶野さんと一緒に観てたんですけど、その試合内容に蝶野さんが凄い怒って。で、その日のメインで蝶野さんが怒りモードのままテレビ解説をやったんですよね。

佐藤　そうそう、「この会社、腐ってるよ！」って言ったんだよ（笑）。

——ダハハハハ！　全国中継でシュートな発言を（笑）。

武田　そういう会社内部のゴタゴタがリング上にまで及ぶっていうことが、蝶野さん的には許せない部分があったんでしょうね。



佐藤ちゃんといえば『週プロ』別冊の『Kampfer』！　蛍光色を多分に使ったターザンイズムあふれるハレンチな『週プロ』とはうって変わって、オシャレマガジンを標榜した佐藤ちゃんらしく、シックな誌面構成となっていた。と、言いつつ、蝶野と女流作家の内館牧子のツーショットが表紙を飾ったときにはド肝を抜かれたものだ。

武藤さんですよ！（怒）なんにもわかってないですよ、ほんとあいかわらずだな〜（武田）



NARIHIRO TAKEDA × MA

たけだ・なりひろ■1971年11月13日、大分県出身。95年、新日本プロレス入社。02年に武藤敬司らとともに新日本を退社し、その後、レッグロックの立ち上げに携わり、06年4月に外部ブレーンとして新日本に復帰した。

——普通に考えるとよくないですけど、新日ってそのギリギリ感が妙なエネルギーを生み出してましたね。

武田　それが"新日本らしさ"っていう声もありますしね

佐藤　あんまりお行儀がよすぎてもプロレスというジャンルはおもしろくならないからね。

武田　新しいものを作り出そうとすると、その昔ながらの"新日本らしさ"とバランスを保つのが難しいんですよね。

佐藤　いま新日は好調なんだから、この路線を推し進めていけばいいと思うよ。でも、ここまで分裂した新日本がフロントの人たちも含めて覆水盆に返ったら、とてつもないエネルギーを生み出すと思うなぁ。

武田　それもそうかもしれないけど、盛り上がるには若い世代が頑張るのが重要ですよ。僕、DREAMに行って田村潔司vs船木誠勝の煽りVで初めてUWFの歴史を知ったんですけど、「こんな若いスタッフがやってたんだな、そりゃおもしろいはずだ」と思いましたよ。

佐藤　90年代の新日もフロントはみんな若かったもんね。そのエネルギーがうまく働いたから、あそこまで盛り上がったんだろうな。

——そうすると若い人がのびのびやれる土壌も大切になってきそうですね。

佐藤　そこは武田ちゃんとか菅林社長の指導力が問われるわけ、それが管理職というものですよ！

——さすが大編集長ともなると言うことが違いますね（笑）。

武田　佐藤さんが『週プロ』に関わることってないんですか？　また一緒にマット界を盛り上げてくださいよ。

佐藤　盛り上げるためには、もう少し業界の人たちは"売る"ということに対して敏感になったほうがいいと思うよ。プロレスが好きだから、じゃなくて。これはターザン山本の悪い影響ですよ、SWSのときに「お金は悪だ」って決めつけちゃったから。

——いまその本人が周囲からのお布施頼みになってるのも皮肉ですけどね（笑）。

佐藤　『kamipro』もさ、いつまでも『週プロ』の足を引っぱろうみたいな感じじゃなくてさ。

——何をおっしゃいますやら、全然そんなことないですよ！（笑）。

佐藤　いい意味で切磋琢磨して業界を盛り上げてほしいよ。もう長く続いてる専門誌は『週プロ』と『kamipro』の2誌しかないんだよ？　だからこの2誌にかかる責任は非常に重いんだよ！　……いいこと言うなあ（ウットリと）。

——ダハハハハ！　やっぱり自画自賛が多いなぁ。

武田　佐藤さんも評論家みたいなこと言ってないで、またプロレスに戻ってきて一緒に盛り上げましょうよ。

佐藤　でも、俺みたいなのがしゃしゃり出ちゃダメなんですよ。いまの俺が『週プロ』に戻ったら、いまの新日本に猪木さんが戻ってくるようなもんだから。

——今度は佐藤正行＝アントニオ猪木ですか！　とんでもなく自己評価が高い人ですね（笑）。

佐藤　（無視して）いま、いいかたちで蝶野さんとかレジェンドがリング上では一歩引いてる感じじゃない？　ああいうスタンスがいいわけよ。やっぱりエネルギーあふれる若い世代に任せていけばいいんだよね。だから『kamipro』もいまの新日本をどんどん取り上げなきゃダメだよ！　いまのIWGPチャンピオンって中邑真輔でしょ？

武田　武藤さんですよ！（怒）。なんにもわかってないですね、この人。

佐藤　あ、ごめんごめん。いま武藤さんがチャンピオンで新日本がいい雰囲気なんだから、『kamipro』も新日本プロレスを表紙にしろ、と。青木真也はもういいから！　青木真也なんて誰も知らねえよ！　真也といえば、橋本真也ですよぉぉぉ！

——でも佐藤さん、「若い選手をどんどん取り上げなきゃダメ」なんじゃないんですか？

佐藤　あっ……そうだね（笑）。とにかく新日本プロレスが盛り上がらないと、マット界はダメなんですよぉぉぉ！

——それが結論ですか（笑）。

佐藤　そうですよぉぉぉ！　やっぱり新日本プロレスですよ！

武田　じゃ、そろそろ終わりでいいですか？

——はい。お疲れさまでした。

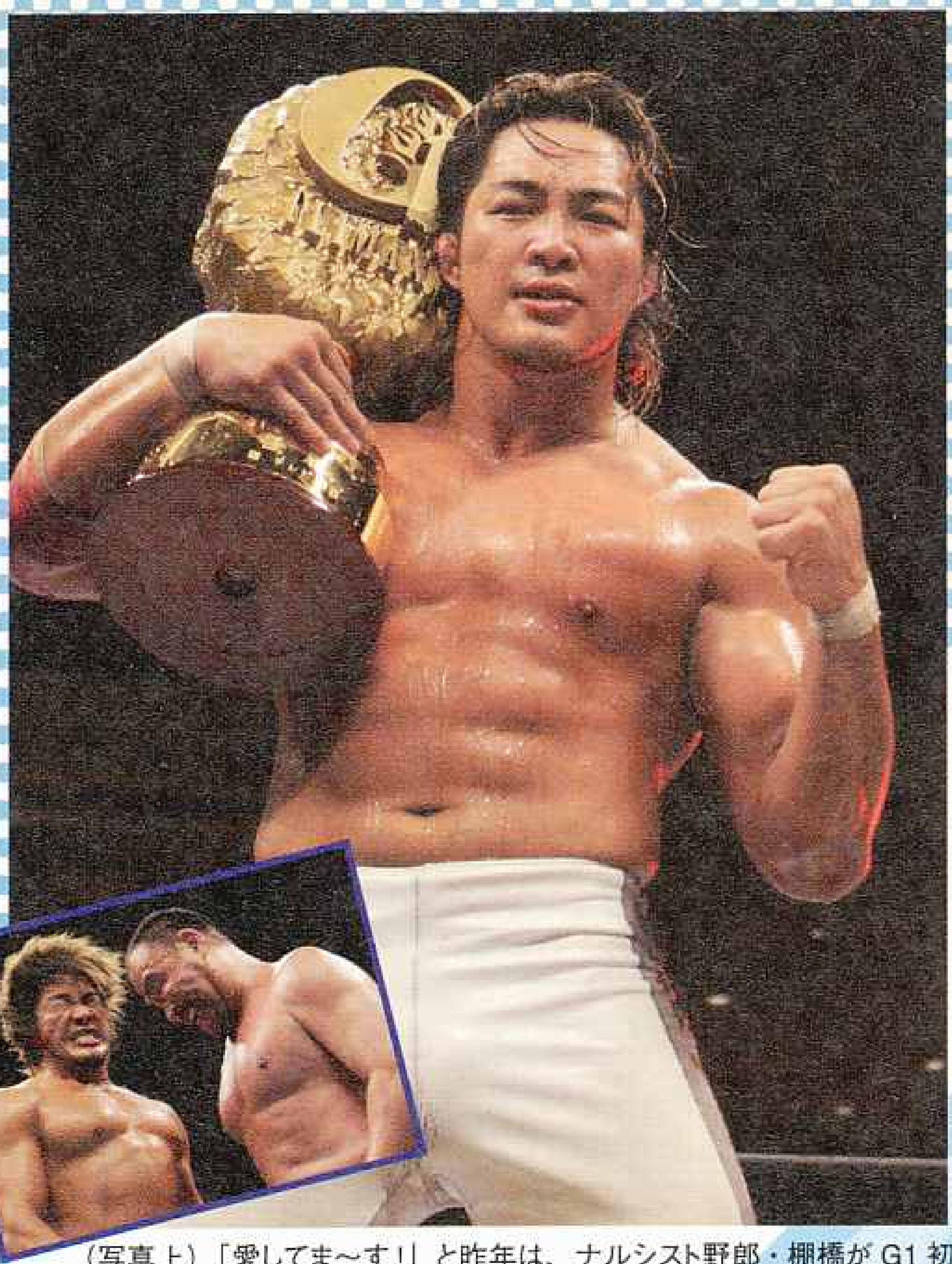
【08年7月1日／都内・新日本プロレス本社にて収録】

夏だ！ 新日本だ！ “真夏の祭典”にズームイン!!

KING OF SPORTS 月刊 新日本プロレスNOW通信!! 2 NEW JAPAN PRO-WRESTLING

いまさらですが……おっとり刀で語るG1クライマックス!!

聞き手／真下義之　撮影／平工幸雄



（写真上）「愛してま〜す！」と昨年は、ナルシスト野郎・棚橋がG1初制覇。今年は最終戦までリーグ戦あり、決勝トーナメントなしの『チャンピオンカーニバル』方式導入で大混戦確実だって！（写真下）去年、大フィーバーの越中は無念の欠場。なんで俺を出さないんだって！

――さて、阿部さん。今回で連載2回目ですが。いかがですか社内の反響は？

阿部　いや〜。某選手から言われましたよ。「なんか昔の上井（文彦）さんみたいだね」って。よくわからないんですけど、どう解釈したらいいんですかね？

――ダハハハ！　そのへんはポジティブに捉えておきましょう！　で、今月のお題は、G1クライマックスです。

阿部　『kamipro』はそんなにG1には興味ないでしょ!?

――いやいや、メチャクチャ興味ありますって！　だから、こっそりとマル秘話を教えてくださいよ〜。

阿部　はぁ。面倒くさい人だなぁ。ま、そこは「オレは一切触ってねぇですから」ってことで。

猪木さんネタでかわしますか。でも、G1はファンも流れが読めないから、「一寸先はハプニング」って感じで。

阿部　それも猪木さんでしょ！　確かに去年は、中邑が準決勝でまさかの大ケガして、かなりビックリしましたけどね。

――でも、ウチの編集部は去年、「越中（詩郎）は決勝トーナメントに残る！」と誰もが固く信じてたんですよォ！

阿部　ま、誌面で盛り立てていただいたのは嬉しかったんですが、結果的には惨敗でしたね（クールに）。

――越中ブームの“追い風”もG1には届かなかった、と。

阿部　でもね、G1らしいという点で見ればじつに深い大会だったんじゃないか、と。一筋縄ではいかない“魔物の働き”が作用したというか。

――逆に破壊王が亡くなった年に蝶野さんが藤田（和之）さんに勝って優勝したときはかなり大きな“神風”が吹きました。

阿部　あのとき蝶野さんは試合後に「見えない力が後押しした」と言ってましたね。自分の入場で破壊王のテーマが流れたのは複雑だったみたいですけど（笑）。

――ケロちゃん（田中秀和リングアナ）の思いつきらしいですね（笑）。でもG1には、謎のジンクスがあるんですよ！

阿部　面倒くさいけど聞きましょうか。

――越中さんを分析したら、初日の勝率が80パーセントだったり、蝶野さんにやたら弱かったり。あと初出場の相手に必ず負けるから、去年も「気をつけてください！」って言ったのにミラノ（・コレクションA・T）にあっさり負けたり。

阿部　ああ、確かに負けてますね（笑）。

――それに、G1前に絞め技を編み出した選手が優勝する法則もあるんですよ！

阿部　ああ、蝶野さんのSTFとか、天山のアナコンダバイスとか……って、そのくらいじゃないですか!!

――どうもスミマセン（笑）。あと、G1は興行的にはドル箱って感じですが、プロモーターからの引き合いは凄いんですか？

阿部　まぁ、そうですね。最近は愛知と横浜が定番になってます。自主興行として今年は3年ぶりに大阪（府立体育会館）で2連戦やります！

――大阪2連戦！　でも動員を考えると冒険的な感じもしますけど……。

阿部　フフフ。そこは“秘策”を用意してますから。ま、詳しくはまだ教えられないんですけどね！（後日、スペシャルマッチでカート・アングルとAJスタイルズが参戦決定！）。

――でも90年代には両国7連戦（93年）という狂った時代もありましたね。

阿部　く、狂ってるとは！　あの頃はあの頃で「新日本プロレスイケイケ！」だったんですよ！　でもG1の優勝が決まった翌日の最終日にIWGP戦をやったりしてるから、「G1じゃないじゃん！」って言われたそうですが（笑）。

――ええ。まったく関係ないですねぇ。

阿部　たぶん、先に会場を押さえてから、「さぁ、何やろうか」って考えたんでしょう。でも、通算で7万6700人も動員してるのは凄い！　イケイケ！

――7万6700人も！！

阿部　そのあと3年連続で両国5連戦やったりしてますから。いまでは考えられないですねぇ（と遠い目で）。

――いい時代でしたねぇ。ただ、今年は蝶野さんも越中さんもいないけど、レジェンドをないがしろにしていいんですか！

阿部　今年は次世代の台頭も注目ですよ（クールに）。

――ドラゴンには、出てほしかったなぁ〜。

阿部　（聞かずに）棚橋（弘至）以下の世代と永田（裕志）世代のせめぎ合い。他団体の川田（利明）さん、吉江（豊）さん、大谷（晋二郎）さんも言わば“永田世代”だし。

――ただ、大谷さんって、ZERO1・MAXのリーグ戦『火祭り』もあるから、過酷な日程のような気もするんですが。

阿部　いや、それを言ったら中西、真壁も『火祭り』に参戦しますし、過酷です。大谷選手はプロレスの神様が枕元で「G1に出なさい」と言ったらしいですから、これは従うべき！（と真剣な表情で）。

――ま、天山も大谷さんのG1出場を無邪気に喜んでたからいいんですけど。

阿部　ん？　やっぱり『kamipro』的に乗れるのは天山ですか？

――完全に去年の越中さんの位置ですね（笑）。すでに「夏はG1＝天山広吉！」とか名言を連発してますし。

阿部　天山は3回も優勝してますから。スリー・タイムス・チャンプですよ！

――ほう。じゃあ、やっぱり天山が今年も話題をさらいそうですね！

阿部　天山も注目ですが、それだけじゃない！　今年は豪華なメンバーで最高の男を決めますよ！　って、『kamipro』はG1に興味があるって言っても昔話ばっかりじゃないですか！

――そんなことないですって！　でも去年の越中のリーグ戦は……（ブツブツ）。

【08年6月30日／新日本プロレス事務所にて収録】



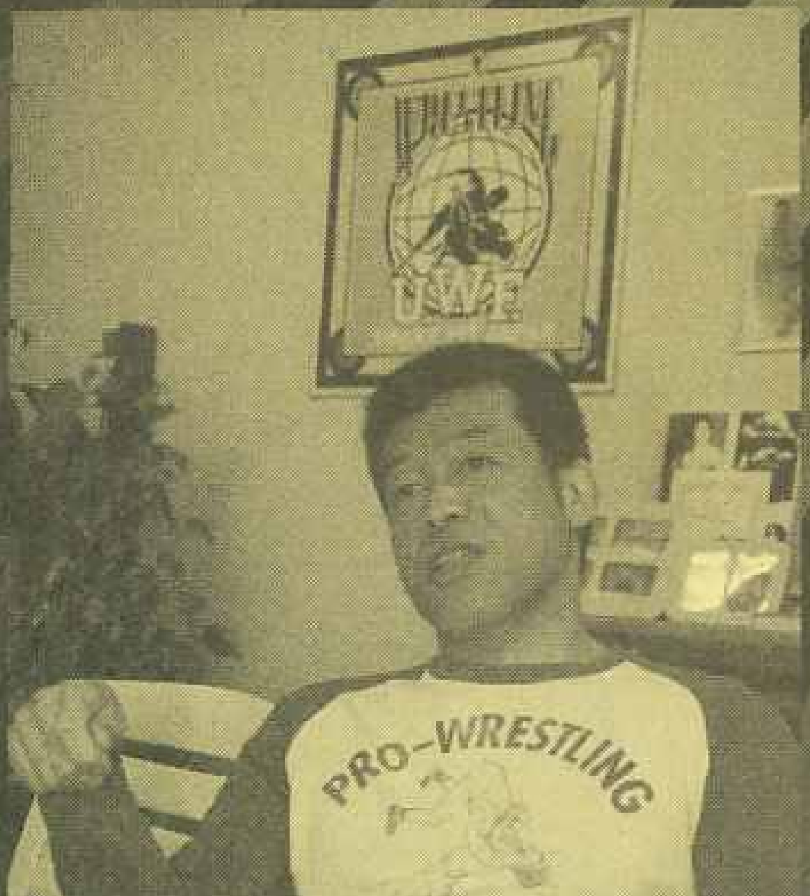
あべ・たけし■1972年7月16日、東京都出身。99年よりWWE関連書物に携わるフリーライターとして活動。05年より株式会社ユークスのグループ会社、株式会社ファインに所属、新日本携帯サイト、ポスター制作や会場演出の進行等に関わる。



リック・フレアーが最高のプロレスラー？
冗談じゃない！
プロレスがワークの世界だけだと思ったら
大間違いだ!!

超 バック・トゥ・レスリング

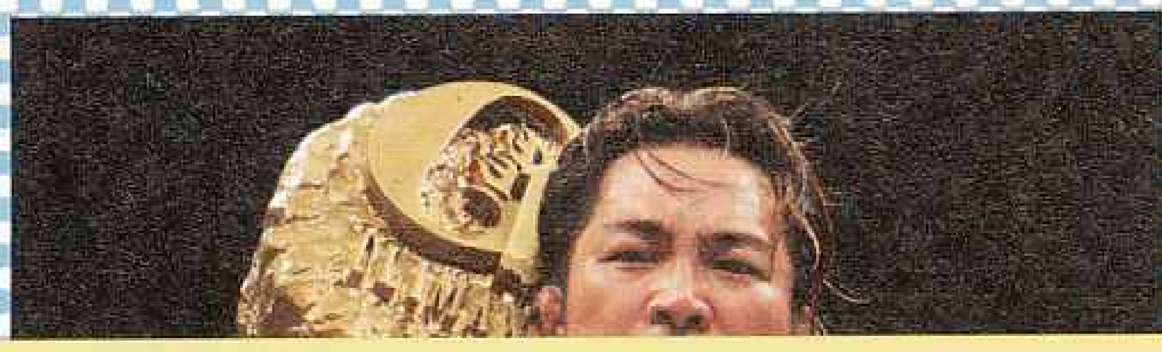
～君はまだ本物の“プロレスリング”を知らない～



真のプロレスを追求する男
宮戸優光
（U.W.F.スネークピットジャパン代表）

本誌の好評企画『バック・トゥ・レスリング』では、おもにアメリカンプロレスを経験したレスラーに、エンターテインメントのレスリング技術を語ってもらったが、今回はそんなプロレス論とは真逆のプロレス論を語る男が登場！ 本物のプロレスを追求する宮戸優光によるプロレスの本質に迫る歴史学講座。シュート、ワークとは、そして強さとはなんなのか？ 君はまだ本物のプロレスを知らない！

聞き手／堀江ガンツ



いまさらですが……

いまはみんなプロレスの歴史を知らなすぎる！ プロレスには何千年単位の歴史があるんだから!!

――宮戸さん！ 前回インタビューさせていただいた、プロレスの真剣勝負論が非常に評判がよかったので、今回はさらに深く、「本来のプロレス」というものを語っていただきたいんですよ。

宮戸 わかりました。じゃあ、今日は深い話をしましょうか！

――よろしくお願いします（笑）。いま、WWE的なプロレスと、演劇論が混じったようなプロレス論が主流なんですよ。たとえば「最高のプロレスラーは、リック・フレアーである」というような。宮戸さんの考える、本来のプロレスというのは、そういったプロレス論というのとは、まったく違うわけですよね？

宮戸 まったく違いますね（キッパリ）。まず、いま堀江さんが言ったようなことをプロレス論と言うならね、いまの人たちは、ファンもレスラーも含めて、プロレスというものが、どういう歴史を持っているか知らないんでしょうね。

――プロレスの歴史を知らない。

宮戸 だから、そういうプロレス演劇論みたいなものが出てくる。僕は、Uインター時代から数えるとビル・ロビンソンにもう15年以上、いろんなことを教わったり、ルー・テーズさんとお話をしたりして、わかってきましたけど、みんなそういったプロレスの真の歴史を知らないんですよ！ 日本人はプロレスが力道山から始まったと思ってる人がほとんどでしょ？

――「プロレスの父」っていわれてますからね。

宮戸 でも、あれは1950年代の、ある意味、すでに変質したアメリカのプロレスを輸入したんですよ。それを日本人は、ヘタすりゃプロレスのルーツぐらいに思ってるわけです。だけど、本当のプロレス



“蛇の穴”出身のキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの生き字引、ビル・ロビンソンをヘッドコーチに招き、地球上で唯一本物のプロレスリングを教えているという、宮戸主宰のジム『UWFスネークピットジャパン』。あの高山善廣もPRIDE出場前は必ずここで集中特訓を積んだのだ。

の歴史というのは、それこそ何百年、あるいは何千年単位の長いものですからね。

――な、何千年!? プロレスにはそんなに長い歴史があるんですか？

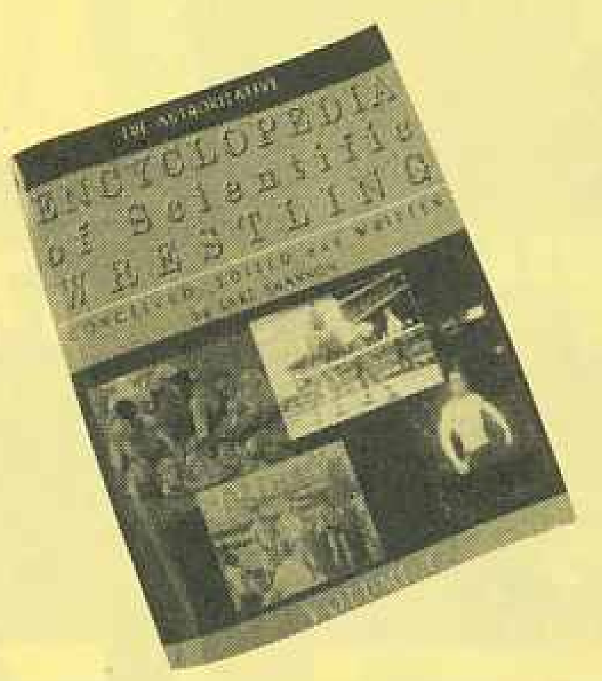
宮戸 だってパンクラチオンなんていつですか？ だから、実際にその歴史をたどれば、もう調べようがないぐらい古いんですよ。

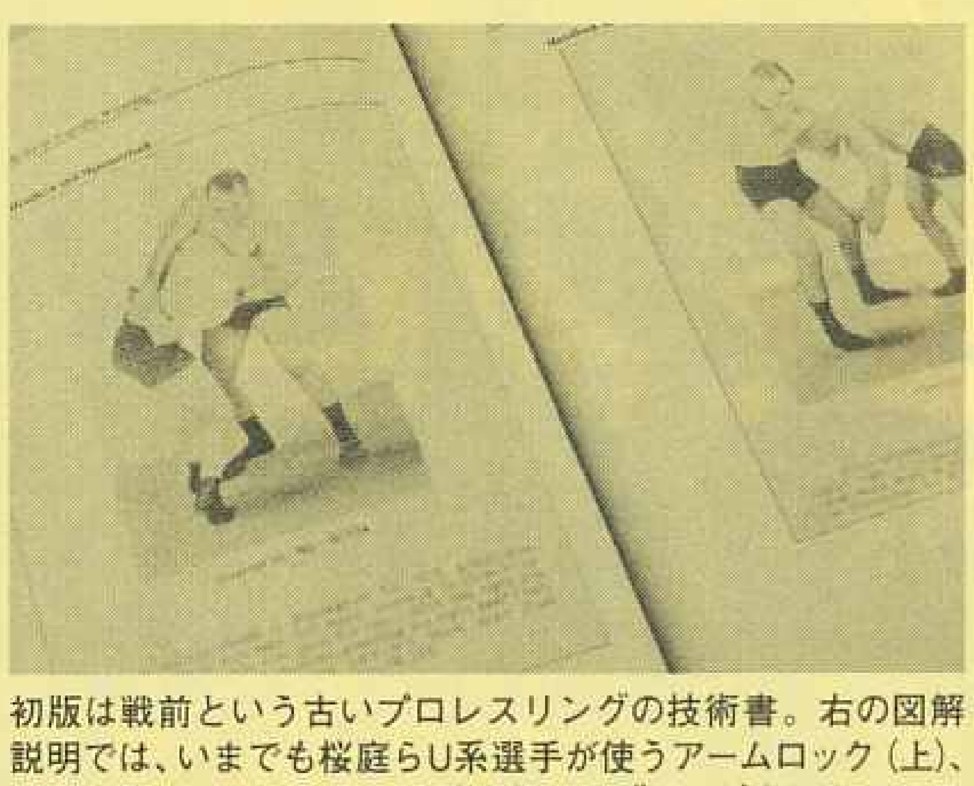
――プロのレスリングという意味では、それぐらいの歴史がある、と。

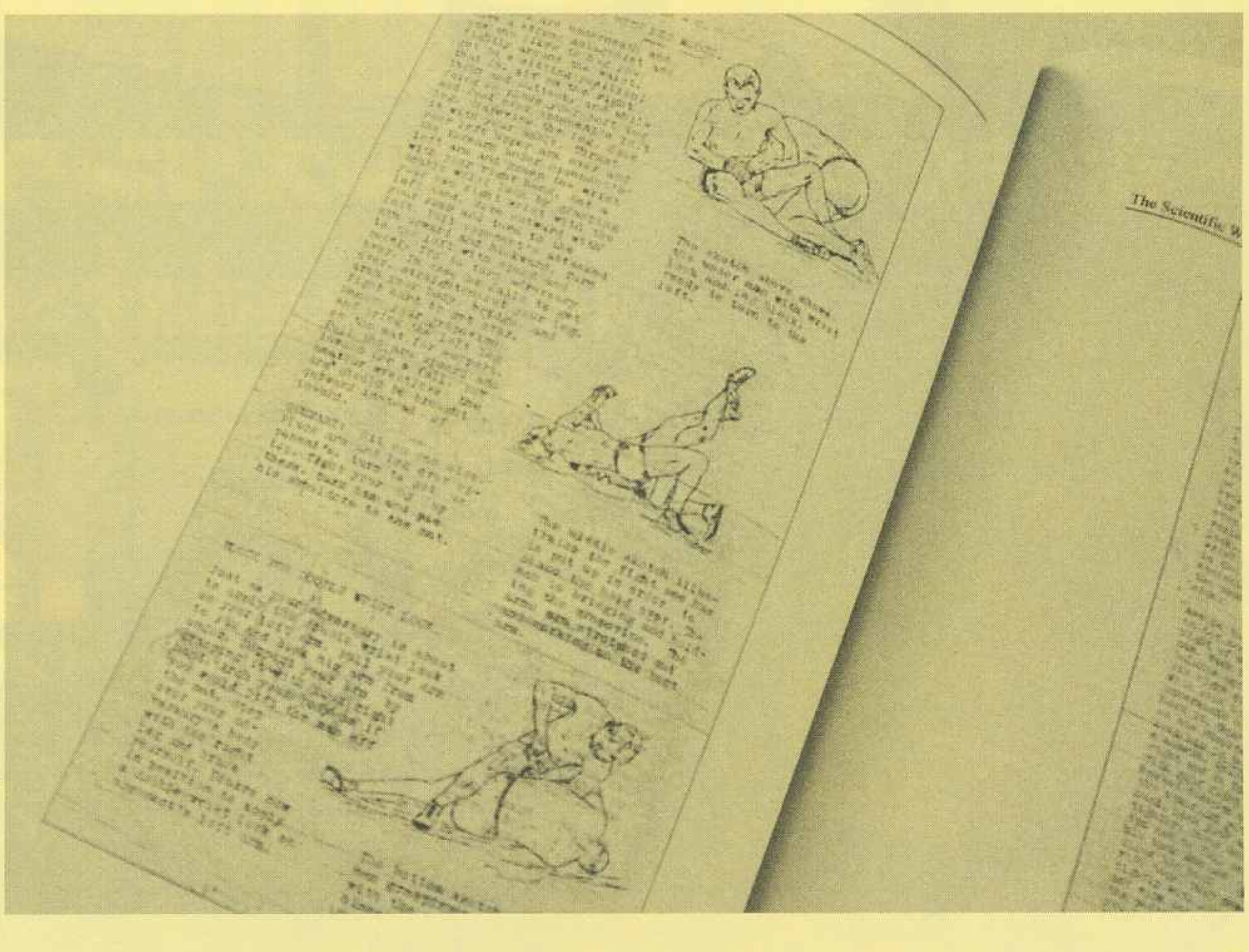
宮戸 そう。それがプロレスですからね。闘いを見せることでお金を取る、または勝つことによってお金を得る。そういった歴史は、もの凄く古いわけですよ。ただ、アメリカにおける大きなショービジネスとして、現在に近いかたちになってきたのはいつかというと、1800年代後半という説が有力ですよね。で、またその当時のアメリカのプロレスがどういうものであったかというと、これも皆さんわかってないんですよ！

――もともとのアメリカンプロレスがどういうものだったかをわかってない、と。

宮戸 そうなんです。19世紀後半のアメリカっていうのは、ヨーロッパから、たとえばグレコローマン・スタイルや、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンとか、いろんなスタイルが入ってきて、それぞれのプロっていうのがいたわけです。そこからだんだんキャッチ・アズ・キャッチ・キャンという、いわばレスリングのなんでもありですよね。そういうスタイルが主流になってきて、当時一番有名な人では、世界チャンピオンのフランク・ゴッチも







初版は戦前という古いプロレスリングの技術書。右の図解説明では、いまでも桜庭らU系選手が使うアームロック（上）、さらに猪木がベールワンの腕を折ったブリッジをしながらのアームロックが描かれていた！ さらにエド・ストラングラー・ルイスが写真で解説するページには、ヴォルク・ハンの秘技・首極め腕卍固めが！ プロレスの技術は奥が深すぎる！

超バック・トゥ・レスリング

いたわけです。ただ、その時代にリングで行なわれていたものと、いまプロレスと称して行なわれているものは、まったく違うんですよ！

──当時は真剣勝負……というか、「競技」だったわけですか？

宮戸　そう。コンテストだったんです！　だからアメリカンプロレスが最初からワーキングだったと、知ったかぶりで思ってる人がいっぱいいますけど、そうじゃないんですよ！　で、いまみたいなスタイルがどこで確立されたかというと、だいたい1920年代後半から、1930年代。その頃に、いわゆるワーキングというものが生まれたんじゃないか、と考えられますね。実際、残っている映像を観ても、1930年ぐらいを境に、いきなりガラリとレスリングのスタイルが変わってるんですよ。

──それ以前は、どんなレスリングだったんですか？

宮戸　いまフィルムに残ってる最古の世界タイトルマッチは、1920年代前半のアール・キャドックvsジヨー・ステッカー戦。この試合は、インターネットで観ることができるようですから、『kami-pro』の読者も観てもらったらいいと思う。この試合は、MSG（マジソン・スクエア・ガーデン）で行なわれていて超満員ですよ。で、映像では15分ぐらいにカットされてますけど、実際には2時間以上やってる試合なんです。

──2時間以上！

宮戸　そしてスタイルはアメリカン・キャッチ・アズ・キャッチ・キャンです。ただ、残ってる映像は2時間のうちの15分ぐらいのもんなんで、はっきり技術的にどうこう言えるほどではないんですが。動きとしてはピュアなキャッチ・アズ・キャッチ・キャンで。ただ、ビル・ロビンソンなんかに言わせると、ヨーロッパのキャッチ・アズ・キャッチ・キャンじゃない。ランカシャー・スタイルとは違う、と。というのは、えげつない技はたぶん反則になってるんです。

──もともとのキャッチ・アズ・キャッチ・キャンというのは、どういうルールだったんですか？

宮戸　サブミッションでのギブアップかピンフォールで決着がつくレスリング。だからルール的には、基本的にはいまのプロレスルールですよ。ただ、5カウントまでの反則はOKだとか、そういうものはないです。

──打撃はアリだったんですか？

宮戸　ヨーロッパで古くに行なわれてたのは、ヒジや掌底のような当て身は許されてたようですけど、1900年代初頭では、ヨーロッパでもアメリカでも打撃は許されてなかったようですね。

──じゃあ古い柔道と同じような感じですかね。柔道も突いたりする当て身ぐらいはあったと聞きますから。

宮戸　ただ、柔道とかっていうのは、いわゆる人前でお金を取って見せるとか、あるいは勝ったほうが賞金を取ってという、そういう歴史ってあんまりないでしょ？

──ないですね。

宮戸　西洋はそのへん、ボクシングにしてもレスリングにしても、人前で見せることによってお金を生み出す、あるいは勝つことによって勝者がお金を得る、こういう文化が凄く進んでたんですね。そこが日本と違います。だからね、その1900年代初頭っていうのは、ヨーロッパにおいてもアメリカにおいてもね、日本の柔術家や柔道家が武者修行で訪れて、他流試合をやってたりするわけですよ。その中の一人にコンデ・コマ（前田光世）という人もいたわけでしょ。

──グレイシー柔術の基になったコンデ・コマですね。

宮戸　でもね、当時のレスラーは、ヨーロッパでもアメリカでも、そういった柔道家、柔術家と、あたりまえのように他流試合をして、勝ったという例は、数えきれないほどあるんです。

──あ、勝ってるんですか!?　なんかコンデ・コマは他流試合無敗とか言われてるので、ほとんど柔道家が勝ってるのかと思ってました。

宮戸　いや、多くの試合はレスラーが道衣を着たジャケットマッチでやって、レスラーが勝ってるんですから……、ほとんどハンディキャップマッチですよ！　フランク・ゴッチも一試合やって勝ってますしね。

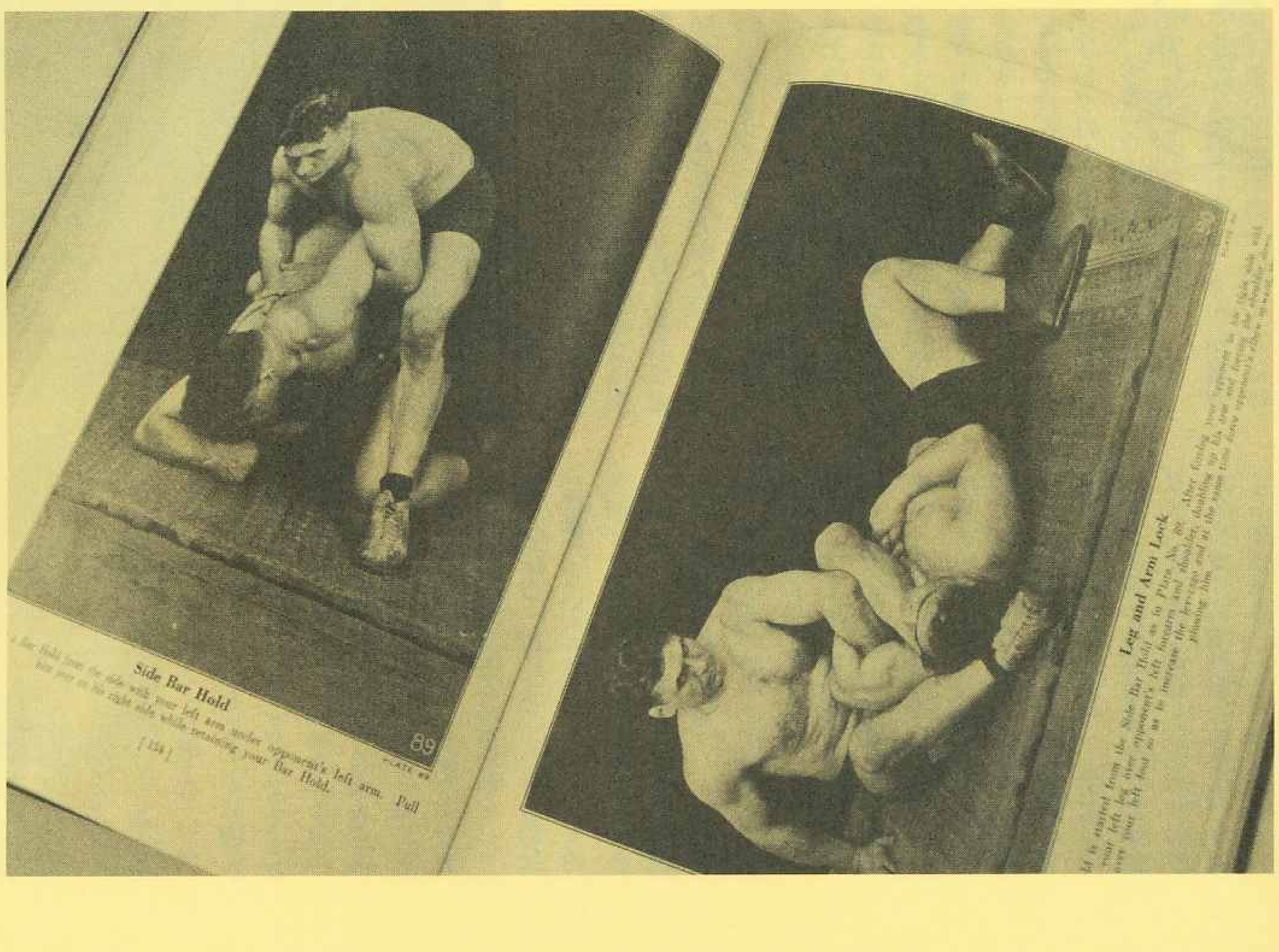
──当時のレスラーはそんなに強かったんですか。

宮戸　当時のレスラーが勝てたのは、プロとしての実戦キャリア、そして実戦テクニックの豊富さはもちろん、体格、体力に大きな差があったんだと思います。それで勝ってたんだと思いますけどね。

──なるほど。当時はもちろん〝無差別級〟だから、体格で勝るレスラーが小さな柔道家と闘うケースが多かったんでしょうね。

宮戸　それに技術的にも、プロとしてコンテストの時代ですからね。経





これは貴重！『ザ・サイエンス・オブ・レスリング・アンド・ザ・アート・オブ・ジュウジュツ』というプロレスと柔術の古い技術書。右の写真はショートアームシザース、いわゆるキーロックだが、いまとはかたちが違い、まるでフットチョークのようではないか！



いまさらですが……

験の差もあった。いまあるサブミッションというのは、基本的にはすでに全部あった時代だしね。レスリングの長い歴史を考えたらあたりまえなんだけど……。だから、いま総合格闘技でやってることが新しいっていうのは、非常に間違った認識ですね。逆にロビンソンなんかに教わってると、初めて見るような技術がいっぱいあったりしますから。

——それがいわゆる近代のプロレスの中で、あまり必要とされなくなっちゃった、と。

宮戸　そういうことなんですよ。ただ、それはプロレスだけじゃなくアマレスもね、話は違うけど、それこそいまはアマがあってプロがあると思ってる人が多いけど、プロレスとアマレスでは、歴史的にプロレスのほうが断然古いからね。それこそ近代オリンピックでレスリングが正式種目になった時代は、もうプロレスには世界チャンピオンがいましたからね。

——なるほど。

宮戸　だいたい、アマチュア競技にするって面倒なんですよ。プロは、お互いお金を賭けて「やるか？」で話がつくけど、アマはルールを整備して、安全に誰でもできるようにするわけでしょ？　だから、たとえば麻雀やパチンコのプロ、セミプロはいくらでも自然発生するけど、アマチュア競技会をやるとしたら面倒でしょ？　それと同じですよ。

プロレスにおける〝ワーク〟はショー的なものとは限らない

——では、どうして1930年ぐらいから、レスリングがガラリと変わってしまったんですか？

宮戸　1920年代後半にプロモーター同士の組合ができてるんですよ。ルー・テーズの師匠にあたるエド・ストラングラー・ルイスたちが作ったものなんですけどね。その組織ができてから、おそらく変わってるんだと思われますね。

——ビジネスが大きくなることで、試合内容もショーアップされていったということですか？

宮戸　いや、コンテスト時代といっても、MSGが超満員ですからね。すでにビジネスとしては大きかった。だから逆にコンテスト時代のレスリング人気に、おそらく翳りが見えだしたんじゃないですかね。ビデオを観ればわかりますけど、1920年ぐらいの試合は、もの凄く地味ですよ。それはまだワーキング前の時代ですからね。

——プロレスがグラップリングを中心にした競技だった頃ですか。いまの『アブダビ』みたいな感じですかね。

宮戸　当時もときとして、「八百長」というものはあったと思いますよ。プロだから賞金も動くし、さまざまなお金が動くから、ときとして八百長があったことは僕も否定しない。でも、ワークという世界はなかった。コンテストの八百長と、ワーキングの世界というのは、まったく違いますからね。

——競技において、お金のためにわざと負けるのと、ワークは違う、と。

宮戸　では、どうしてワーキングというものが生まれたかというと、興行というものを考えたときの、プロモーター側からの要請でしょうね。それまで試合はレスラーだけのものだったのが、それじゃ試合も地味だし、ときとしては非常に退屈になってしまう。そのときに個性、キャラクターの強い選手を上げられないものか、と。そうなったとき、レスリングの力が足りない選手もいる。そういうところで出されたアイデアじゃないか、と。

——ワークはレスリングの技量が足りない選手を売り出すために作られたものだ、と。

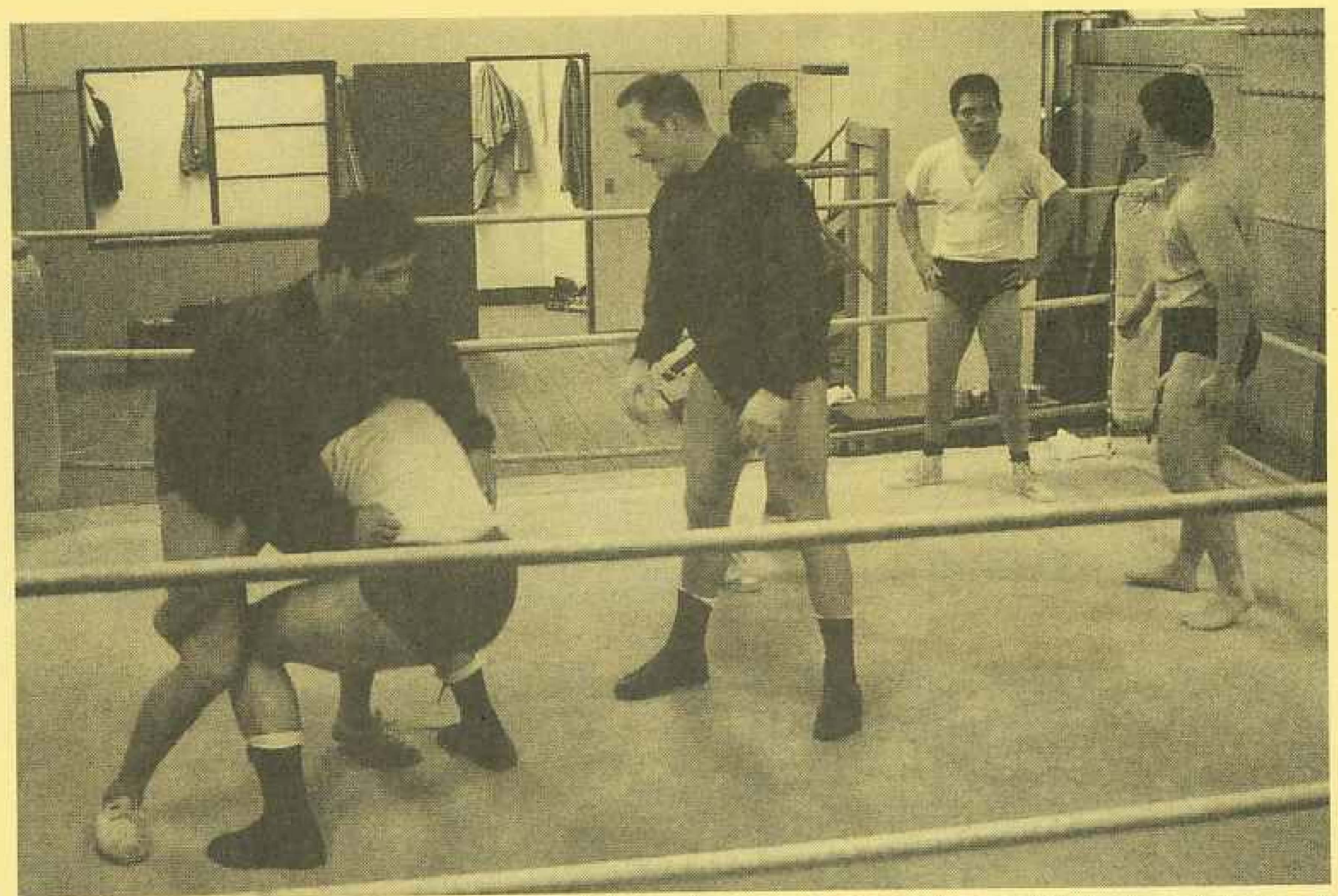
宮戸　そうです。要するに、こう組んだらこう返すとか、一つの基本形を作ってしまうことによって、レスリングが未熟な人間もそれなりに見える世界にしたんじゃないかというのがロビンソンの見解であり、僕もそう思う。だって優れたレスラー同士に、そんなの必要ないですよね。

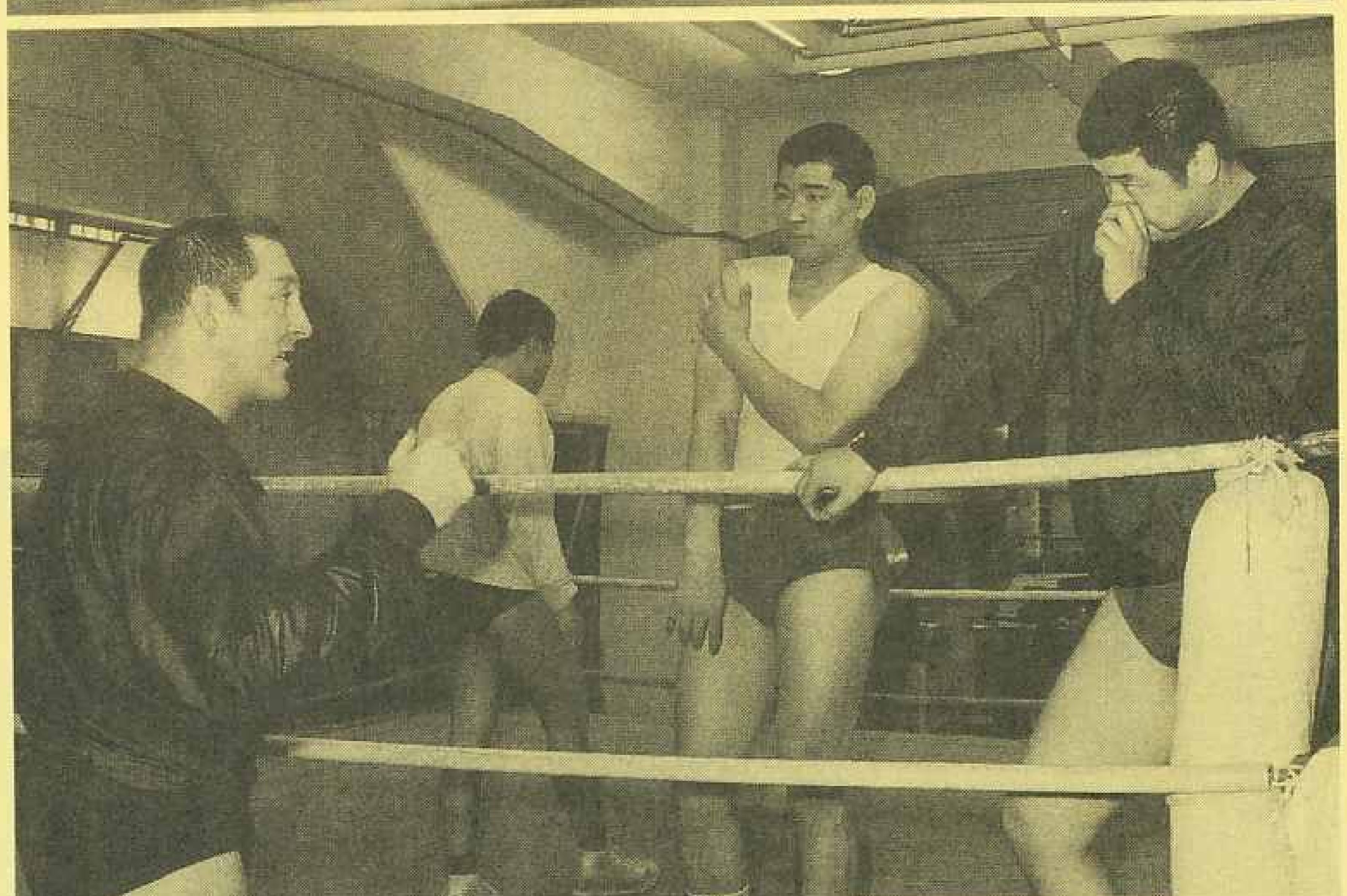
——なるほど。

宮戸　だから、まず結論から言っちゃうと、プロレスにおけるワークとは何かっていうと、それは「プロモーターが要求するもの」ですよ。それは必ずしも、皆さんが考えている、いわゆるショー的なものとは限らない。たとえばUインターでも、レスラーに対して、いわゆる「シュート」という試合を提示する場合もあった。あったけど、レスラーはそれを要求されたからにはやらなければ、その仕事は成立しないわけじゃないですか。「ワーク」というのは「仕事」ということですから。その仕事がときとして、コンテスト、あるいは「シュート」だという可能性だってあるわけですよ。

——競技を要求されたとしても、それはワークだ、と。

宮戸　プロモーターが求めるならね。その「仕事」の中身がどうだっていうのは、いろんなケースがあるから、一概にはいえないんですね。同じ「ワーク」と言ってもUインターと新日本では違ったし、全日本だって違うはずでしょう。ただ今度、レスラー側から言うと、まず演劇とはまったく違うのは、レスラーはプロモーターの要請はどうあれ、シュートであろうとワークであろうと、





カール・ゴッチが日本プロレスの道場で若手レスラーを指導する貴重なショット。上の写真はレッグダイブ（いわゆる両足タックル）の反復練習の風景。タイガー戸口（キム・ドク）、サムソン・クツワダ、柴田勝久、百田光雄らの顔が見える。かつてのプロレスラーは、皆こうしてシュートを身につけていたのだ。

ルー・テーズとカール・ゴッチ、どちらが好き放題ガチガチの試合をしていたかといえばテーズですよ!

超バック・トゥ・レスリング

お互いに「勝ちたい」「負けたくない」と思っているということです。たとえ相手がどんなに強いレスラーであっても、なんとか一泡吹かせたい、そんな気持ちをみんな持っているということ。その上で、「ワーク」とは何かというと、リングで起こっていることを伝えること。自分のレスラーとしての能力を伝えることでしょうね。

――要は自分が受けた技の痛みを観客に伝わるようにする技術。

宮戸　それだけじゃなく、感情も含まれますね。昔、誰か外国人レスラーが「もし観客にわからなければ、その技は何もしてないのと同じだ」なんて言ってたのを覚えているけど、そういうことですよ。だからよくテーズとゴッチでは、「テーズはお客さんに見せるのが上手だったから、レスラーとして成功した」なんて言われますけどね、じつは試合で好き放題やってガチガチだったのは、ルー・テーズのほうだと思いますよ。

――ほう、テーズのほうがわがままな試合をしていましたか。

宮戸　59歳のルー・テーズと猪木さんの試合とか、57歳のときのテーズさんがゴッチさんと組んで、猪木&坂口組と闘った試合がビデオになってますけど、それを観てみてくださいよ。猪木さんにしても坂口さんにしても、ルー・テーズにはレスリング的に、かなり手こずらされていますよ。ルー・テーズが一方的に攻めて、猪木さんや坂口さんがやろうとしたことは、みんなブロックしたり、技を外したりして、我々が思っている、いわゆるアメリカンスタイルの技の掛け合いみたいになってないんですよ。

――へえ、60歳近い年齢で、そんな試合をしてるんですか。

宮戸　してましたね。では、ルー・テーズは何ができていたかというと、結局、自分がやりたい放題やっても、それがお客の目に、もしくはプロモーターの目に「ルー・テーズの魅力」として映させちゃってるんです。だから、成立したんですよ。

――すべて自分が主導権を握れた、と。

宮戸　だから、ぜひ『kamipro』読者の人も、猪木vsゴッチ戦を見比べてほしい。あのへんの試合を観てもらえば、これまでマスコミで書かれていたようなテーズのイメージは変わってくると思う。自分のペースで試合をしながら、プロモーターもファンも納得させられたのがルー・テーズだったんです。ただ、ゴッチとテーズどちらが強いかというのは、別の話だけどね。

――では、好き放題やるための実力すら「ワーク」の一種である、と。

宮戸　そう。だから単なる一元論や、ましてや演劇論みたいな、そんな薄っぺらい話でカタがつく内容ではないんです。やっぱりレスラーが100人いれば100人違うワーキングの世界というものがあるんですよ。だから初めて試合をする相手というのは、終わってみるまでやっぱり怖いし。実際、初来日の外国人選手が来た場合、昔の新日本プロレスだって、必ずそれなりの実力があり、その団体としての仕事ができる人が1回目、2回目は相手するでしょ?

――いわゆる〝ポリスマン〟と呼ばれる選手が相手しますね。

宮戸　さらには同じレスラーでも、その日の対戦相手、体調、さらには感情によってね、出方が当然違ってくるわけだから。同じレスラーであっても、それこそ100試合あったら、100通りの試合があるわけですよ。演劇論でカタがつけば、そんなもん必要ないわけじゃないですか。だいたい、もしプロレスがそんなもんだけで成立してるんだったら、我々はなんのために痛い思い、苦しい思いをしてレスリングの練習をやらなきゃいけなかったんですか!　演技の練習なんて教わったことないですよ!

――では、なぜ近代のプロレスっていうのは、いわゆるワークの世界一辺倒になってしまったんでしょうかね?

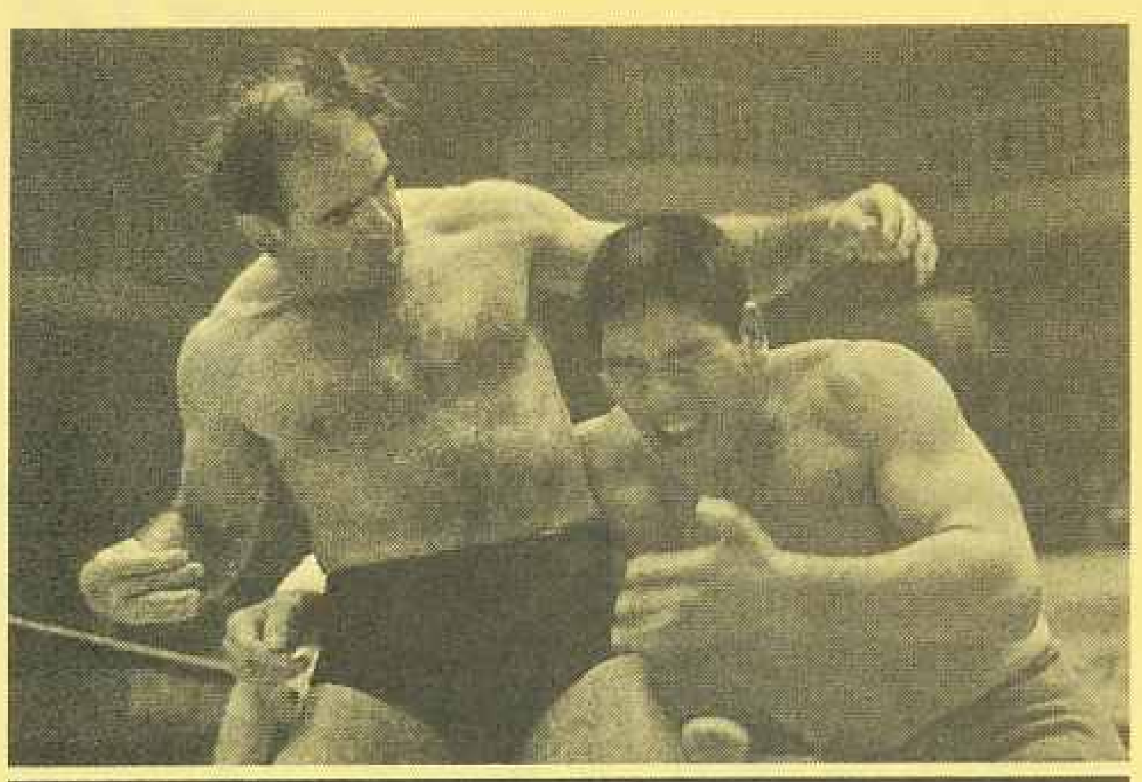
宮戸　やっぱりね、ワーキングが生まれた30年代、40年代というのは、まだプロレスがコンテストだった時代のレスラーたちが、いっぱい残っていたわけじゃないですか。30年代以降もルー・テーズぐらいまでの世代っていうのは、その古い人たちに教わったレスラーなんですよ。だから、ワーキングの世界の中にいても、レスリングの基礎、本質的な部分をビシッと身につけている人が多かったんです。それと、「ワーク」を持ち込んだプロモーターたちも、みんな元レスラーだった人間で、やはりレスラーに対する尊敬と、基本的には強いヤツがトップになるべきだという考えもあった。それが、どんどん時が経つにつれて、コンテスト時代を知っているレスラーも減っていって、それプラス、プロモーターにとっては、ときとしてそういうシューターといわれるような選手が邪魔になってきたんですよ。

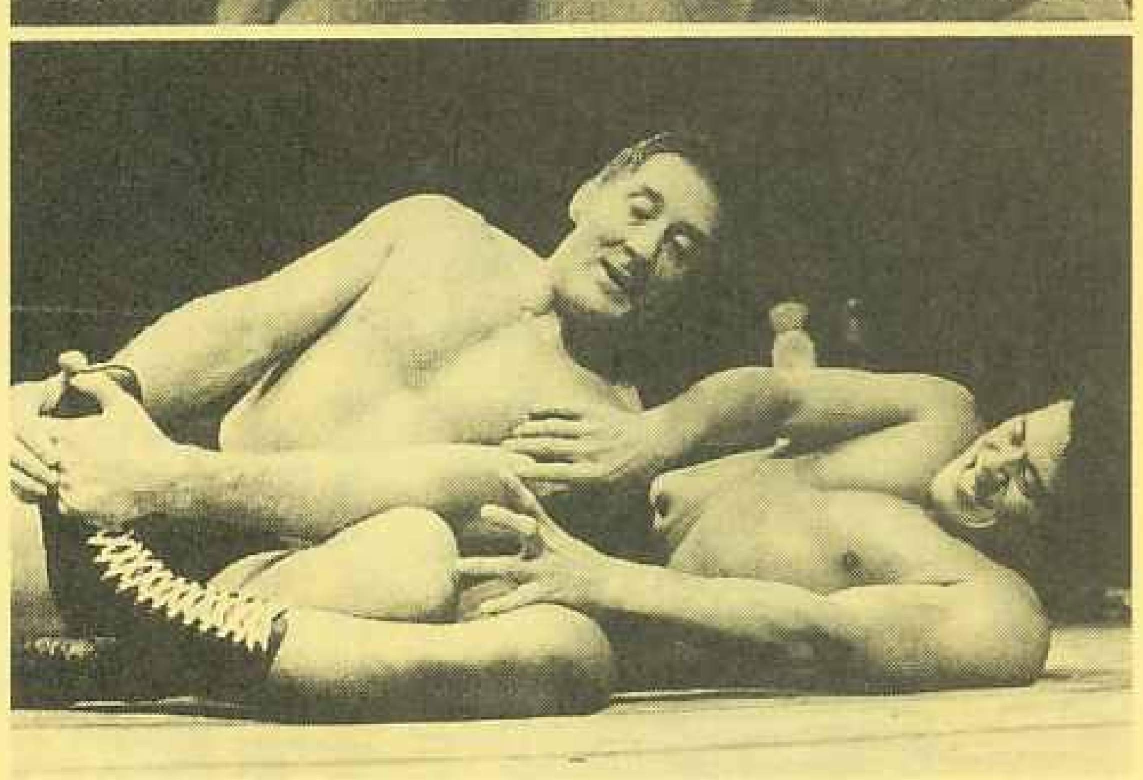
――それは、腕に覚えがあるシューターは、プロモーターの言うことを聞かないことがあるからですか?

宮戸　そうそうそう。プロモーターサイドがプッシュしたい選手がいたとしても、シューターに気を使ってプッシュができない。あるいは、リングでちょっかいを出して、やらせないようにするシューターがいたりして、そういうことが、プロモーターとしては邪魔だったと思うんです。

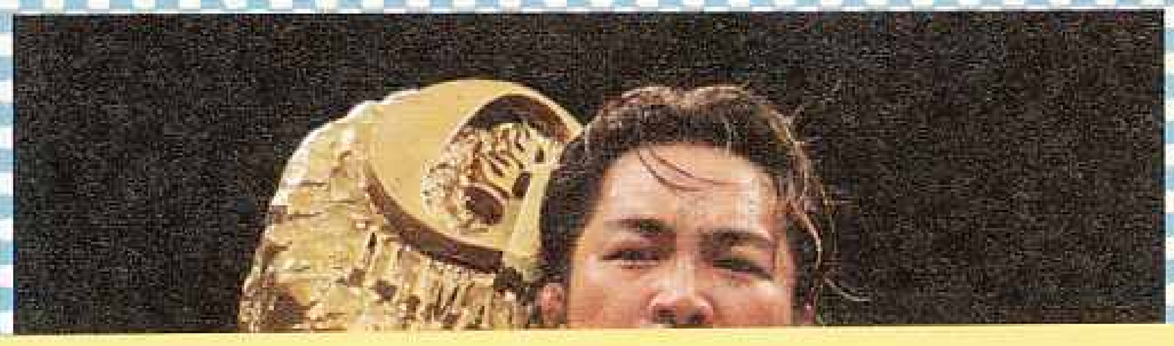
――要はビジネスとして考えると、言うこと聞かないシューターという存在が疎ましくなってきた、と。

宮戸　そうですね。それで、だんだんと隅に追いやられるようになってきて、しまいには、いわゆるシュートというものは「ジャマだ」「必要ないんだ」、というところまでき

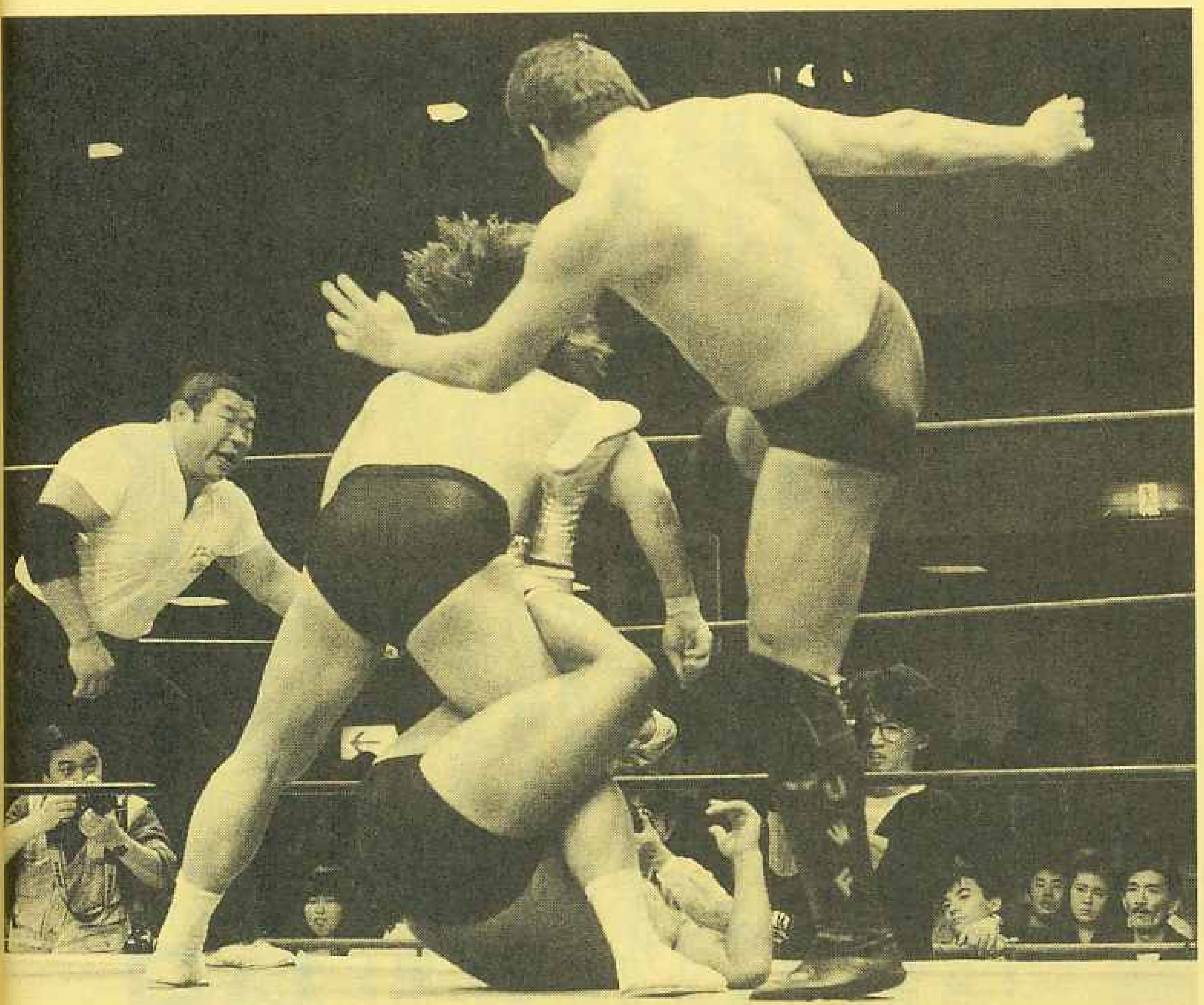




プロレス界の二大巨頭にして、二大実力者であるテーズとゴッチ。彼ら本物の実力者の影響により、日本のプロレスがここまで発展したのは間違いない。そして、その遺伝子は現在の総合格闘技まで続いているのだ。



新日本道場は本物のプロレスラーの養成所だったのに UWFを排除してサーカスの調教場になってしまった!



87年11月、いわゆる「長州顔面襲撃事件」を起こし、新日本プロレスを半ば追放された前田日明。これが引き金となって第二次UWFはスタートしたが、それは同時に、新日本プロレスにとってシューターの閉め出しという、転換期でもあったのだろう。

てしまったんでしょう。

——なるほど、なるほど。

宮戸　たとえば、わかりやすく日本の例で言うと、新日本プロレスはカール・ゴッチというキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの流れをもって誕生しましたよね。そしてエースである猪木さんも強かったし、その下にも、たとえば藤原さん、佐山さん、前田さん、高田さん、いろんな強い選手が生まれました。でも、会社がゴタゴタしたとき、UWFができて、新日本道場で育ったキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの遺伝子を継ぐ強い選手たちが、カール・ゴッチも含めて、UWFというかたちで外に出てしまった。あのとき、新日本は選手を失なうだけでなく、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンというルーツ、いわば本質を失なっちゃったんですよ。

——単なる選手離脱というだけじゃなかったわけですね。

宮戸　しかも、そのルーツを失ったことの重大さを、新日本はそのとき気づかなかったと思うんですよ。で、気づかないまま、またUWFがゴタゴタして戻ってきたでしょ?

——第一次UWF崩壊後、業務提携というかたちで戻ってきましたね。

宮戸　そのとき新日本は、そのキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの遺伝子を持った人間たちが戻ってきて、手に負えなかったんですよ。

——確かにUWFの選手は出戻りのくせに、やりたい放題でしたもんね（笑）。

宮戸　そうでしょ?　いわゆるシューターのコントロールに手こずったんです。そこで新日本は本当であれば「あ、これはいかん。やはり俺たちの失なったものは大きかったんだ」と本質に戻るべきだったのに、猪木さんの力が落ちてきていたこともあったと思いますけど、逆に「シュートとか、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンとか、そんなものはそもそもプロレスにはなかったんだ」としちゃったんですよ。そう思う。

——シュートはなかった?

宮戸　そう。道場でシュートなんか教えるから、UWFみたいな連中が生まれてしまう。だったら、もう教えないほうがいい、なかったことにしてしまおう、という感じかな?　結果的にそういうことですよ。

——それはまた大胆な方向転換ですね（笑）。

宮戸　だからUWFができる前、新日本がまだキャッチ・アズ・キャッチ・キャンからの正統な流れを持ってる頃は、道場というのは選手を強くする場所だったと思う。たとえばアマチュアで実績がある人が入ってきたら、さらにプロとしての技術を身につけさせて、アマレスラーを本当のプロレスラーにする場所、それが昔の新日本道場。でも、その後は僕が想像するにアマレスからせっかく有望な選手をスカウトしても、そういう選手たちをまずワークというジャンルに引っぱり込んじゃうんですよ。たとえて言うなら、野生の熊から爪や牙を抜いて、曲芸を身につけさせる、サーカスの調教場。要はレスリングではなく、プロモーター側の発想で、道場が変わってしまったんだと思う。それがあの時代でしょう。

——そして「プロレスを身につける」＝「ワークを身につける」になってしまった、と。

宮戸　だからUWFができて以降の選手って、いま堀江さんが言ったように、よく「プロレスの練習」って言い方したりするわけ。

——いわゆるワークの練習を「プロレスの練習」と呼んでるわけですよね。

宮戸　まず、その言葉の使い方が間違ってる!「プロレスの練習」ってなんだよ。いまウチで教えてる、ロビンソンと一緒にやっているキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの練習こそ「プロレスの練習」ですよ!

——なるほど。でも、プロレスをビジネスとして考えたら、いわゆるワーク＝プロレスというふうにしたほうが、正しいとなったんでしょうね。

宮戸　正しい?　……というより、プロモーター側としたら面倒がないということでしょう。でも、どんなものでもそうですけど、本質を失なってしまったものっていうのは落ちるの早いですよ。それが、いまのプロレス界全体の現状じゃないですか。だから、最初に堀江さんが言った「リック・フレアー的なレスラーがいいレスラー」って話は、ルー・テーズやカール・ゴッチがいた時代だからこそ、言えたことですよ。要するに彼ら本物たちの存在、その信用の上に成り立って、ショーマンというのは認められていたと思う。そこを忘れちゃいけないよね。

WWEもPRIDEも“売っているもの”は同じ

——確かに、いま練習量が多くて、しっかり節制してるレスラーもたくさんいますけど、それは強くなるためじゃなくて、いい身体を作るためだったり、運動能力を上げるためだったりしますよね。なかなか「強さ」というものが必要とされなくなってきて。

宮戸　意識的にそこをみんな捨ててますよね。だから「プロレスはプロレス」って言い方をする意味の中に、強さを捨ててる意味が含まれているんですよ。強さみたいなものは、総合と呼ばれているものに任せて、俺らがやることは見せることだ、とね。だけどね、プロレスは、やっぱり「強さ」というものを売れない限り、ダメなんですよね。

——でも、いま世界一のプロレス団体はWWEですよね。そのことにつ

超バック・トゥ・レスリング

プロレスラーにとって大事なのは強さのイメージとレスリング技術から醸し出される「美」なんですよ！

いてはどうお考えですか？

宮戸　WWEっていうのはね、確かにいま、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの練習なんかしてないだろうし、それを目指してはいないですよね。ただね、僕は数年前に『レッスルマニア』を観に行ったんですけど、WWEでもPRIDEでも「売っているもの」は一緒だと思いましたよ。

――WWEとPRIDEが一緒ですか!?

宮戸　うん。当時のWWEでいまはわからないけど、たとえばどちらも最強のシンボルであるチャンピオンは、強さとそこから醸し出される美しさを売っている。もちろん、やっているレスリングの中身は違うものですけど、WWEのチャンピオンは身体も凄いし、動けるし、「強いな」「凄いな」と思わせるものを持ってるんですよ。

――「強い」「凄い」と思わせるということは重要ですよね。

宮戸　重要ですよ。ファンっていうのは実際リングでそのレスラーたちと闘うわけじゃないから。結局、そこで売るものはPRIDEであろうが、WWEであろうが、その強い人間が醸し出す、「強さのイメージ」と「美しさ」、あるいは「あんな人間になりたい」と思わせる魅力しかないんですよね。それを売れなかったら、いくら強いっていったところでファンはお金を払って観に来てくれないですよ。

――なるほど。あらゆるプロの格闘というのは、強い人間の最強の「イメージ」を売ってるっていう。

宮戸　なんぼ強いヤツを連れてきたとしても、そこが伝わらなかったらダメでしょうね。

――たとえば、猪木さんなんかは、強さのイメージと、美しさがあったから、人気が出たというか。

宮戸　そうだと思いますよ。もし猪木さんがブタみたいに太っていたら、たとえ強くても猪木さんじゃないわけですよ！　やっぱりあのスタイル、体型、表情、声、そしてレスリングの技術。そういったものが一つになって、それプラス強さが売り物になって、チャンピオンという座に就いたときにみんなが「最強」として納得したんです。そして、あんな人間になりたいと憧れた。だって当時、猪木さんが最強だと思ってるファンの人って、いっぱいいたと思うけど、おそらく猪木さんより強いプロレスラーは現実には世界中に何人もいたと思いますよ。ただ、そういう人がいたとしても、「猪木が一番強いんじゃないか」と思わせる力を持っていたんでしょう。

――強さに説得力があった、と。

宮戸　それが大事なことですよ。そして、それを作るのが選手の技量であり、会社の見せ方でもあるわけですから。いまのプロレス界というのは、その本質である強さのイメージを失なっちゃってるわけだから、それはやっぱり商品として弱いですよね。

――では、プロレスラーが取り戻さなきゃいけないのは、単なる強さだけでなく、強いイメージと、そこから醸し出す美しさということですね。

宮戸　だけどね、その強さを目指すのに、レスリングの練習をしないで、柔術の練習をしたり、ボクシングの練習をしたりするっていうのは、違うと思うんです。やっぱりプロレスにはプロレスリングの技術が生み出す「美」、美しさっていうものがあるんですよ。だから猪木さんやルー・テーズとかの試合から見える独特の美しさは、やっぱりプロレスリングの技術を持っていないと出せないんだと思うんですよね。

――プロレスリングだからこそ見せられる美しさですか。

宮戸　そう。柔術には柔術の美しさがあって、相撲にも相撲の美しさがあるわけですよ。それをね、たとえばフットボーラーが、パワーと勢いで相撲で勝ったからといって、それでは相撲の美しさは出ないわけです。だから、プロレスが本来持つ美というのかな、その基本を忘れちゃったらできないですよね。

――確かにプロレス本来の「美しさ」というものが、最近は見られない気がしますね。

宮戸　でしょ？　昔観たプロレスにある美しさがいまはないんです。

――昔のプロレスは写真を見てもカッコいいですもんね。

宮戸　そうそうそう。

――先ほど見せていただいた技術書でも、プロレスリングのサブミッションって、本当に美しいし。

宮戸　そうなんですよ！　かつてのプロレスには、プロレスリングの美しさがあったんです！　だからね、昔のプロレスをビデオで観て、いまと同じに見える人がいたら、その人の目はおかしいよ！　たとえば、ここ20～30年でも新日本の一番よかった頃の試合を観たらね、いまのプロレスにはない凄さがある！

――テレビ画面や写真から、それが伝わってくるんですよね。

宮戸　だからね、ミスター高橋本だとか、最近になって出てきた、そういう本を丸飲みして書かれたような本を読んでね「プロレスってそうだったんだ……」ってガッカリした人がいたとしたらね、「あんたら、もっと自分自身の目を信じなよ！」って言いたいね。その信じた目っていうのは意外と間違ってませんよ。僕は小学6年生の頃に、猪木 vs ロビンソン戦を蔵前国技館で生で観て、いまビデオであらためて観ても凄いと思うもん。これだけプロレス界の中にいて、それこそ皆さんよりいろんなことをわかってると思いますよ。それでも、やっぱり凄い。

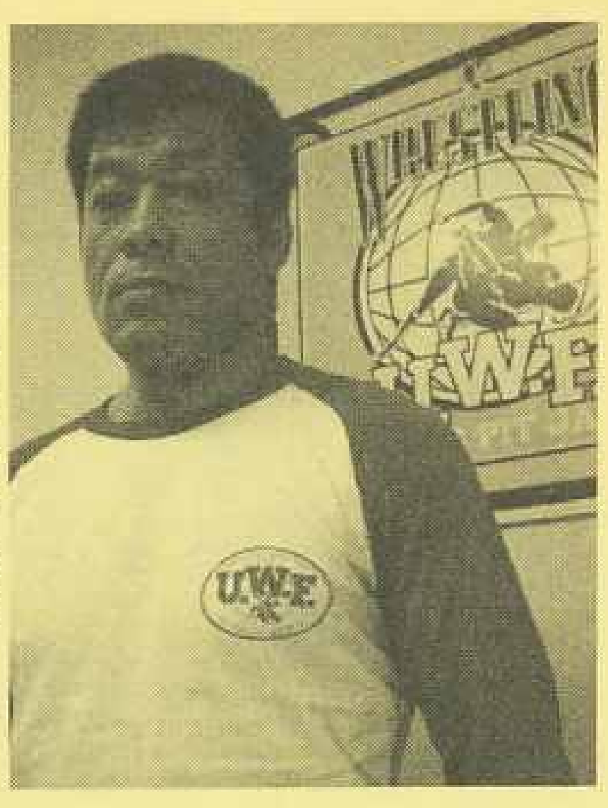
――それは前回、アントニオ猪木 vs ストロング小林戦のお話に出てきたように、たとえワークであったとしても凄い、と。

宮戸　だからね、小学生のときに「凄い」と思った、あの自分の感性と目は間違ってなかったんだって。逆に子どもの頃の俺ってたいしたもんだって思いますよ（笑）。

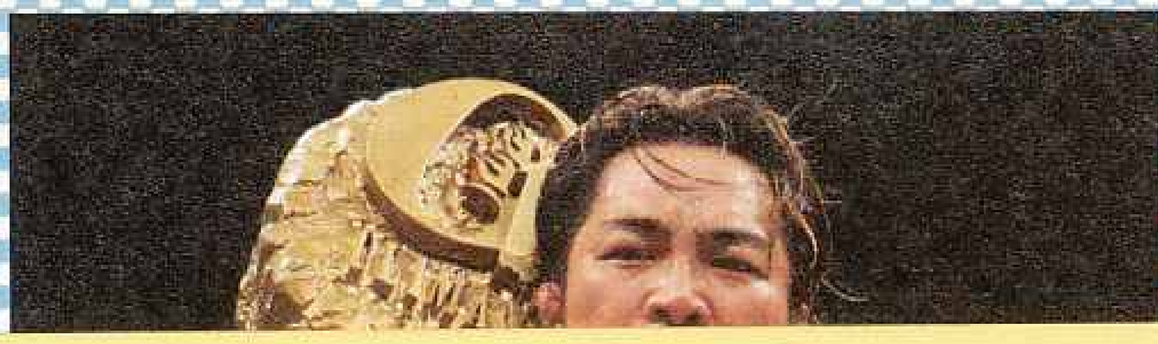
――子どもの頃から、感性でキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの凄さがわかっていた、と（笑）。

宮戸　だからね。皆さんも自分が凄いと思ったその感性と目を信じてほしい。いわゆる暴露本に書かれているようなことで、実際あるだろうなということはね、確かにありますよ。ただ、あれを全部丸飲みしていいのか、と。それがプロレスのすべてだと思ったら大間違いです！　これは本当に嘘偽りなく。プロレスって、そんな単純なもので成立してないですよ！

【08年5月30日／高円寺・UWFスネークピットジャパンにて収録】



みやと・ゆうこう■本名・宮戸成夫。1963年6月4日、神奈川県出身。85年に第一次UWFに入門。第二次UWFを経て、UWFインターでは取締役に就任。"Uインターの頭脳"と呼ばれる。95年にUインターを退社。99年に『UWFスネークピットジャパン』を設立。真のプロレスリングを指導している



“Uインターの頭脳”がUWF変態座談会に怒った！

宮戸の呼び出し



インタビューを収録した数日後、宮戸から「付け足して話したいことがあるので、ジムまで来ていただけませんか？」という電話がかかってきた。気楽な気持ちでジムに向かうと、待っていたのは厳しい表情をした宮戸代表。「ちょっと堀江さん、あの座談会なんですか!?（怒）」。ゲッ！ U系の噂話を勝手にしゃべるUWF変態座談会を一番読まれたくない人に読まれてしまったのだ！ TBS『格闘王』の「前田の呼び出し」ならぬ「宮戸の呼び出し」だったのです。

あの座談会はミスター高橋本を丸飲みした素人さんとまったく同じ発想じゃない！

――宮戸さん今日はどんなお話ですか？

宮戸　このあいだ、前に出た『kamipro』（No・123）を読ませてもらったんですけど、あの桜庭の座談会みたいな記事、あれはなんなんですか!?（怒）。

――あっ……、『桜庭和志変態座談会』を読んでしまったんですか……？

宮戸　読みましたよ！ あのUインターの話や、僕の話、どこに根拠があって話してるの!? あれは結局、ミスター高橋本を丸飲みしてる素人さんと、まったく同じ発想じゃない！

――まあ、僕らが知ってるお話をおもしろおかしく語らせてもらったんですが……（笑）。

宮戸　それは飲み屋でやってください！

――ヒャッ！

宮戸　あれが真実のように一人歩きしたら、たまったもんじゃないですよ！ だいたい、桜庭が若手時代、声を出して試合をしていたから僕に気に入られてたとか、そんなわけないでしょ！

――気に入ってなかったんですか？

宮戸　確かに桜庭について「こいつはいいな」と思いましたよ。だけどそれは、僕と安生さんでUインターのあの時期に、金原、高山、桜庭の3人と一通り試合したんですよ。その体感を元に、桜庭は少し上で使ってみようって判断になったんです。べつに声を出してるとか、サソリ固めを得意にしてたとか、そんなくだらないことじゃないんですよ！ だいたい、当時のUインターの練習とか見たことないでしょ？

――僕はありませんねえ。

宮戸　Uインターの寝技の練習が、先輩が上になって始まったなんて記事もありましたけど、あれも大嘘ですよ！ ちゃんとスタンドから始まってましたよ。

――そうなんですか!?

宮戸　ただ、先輩が一回上になって極めちゃうと、簡単には離してはくれなかったね。とにかく参ったしようが、先輩が納得するまで、技を解いても次の技、次の技って極め続ける。だから、いまみたいに極めたから、スタンドでまたイチからということではなかった。それから、もう一つ。

――まだありますか？

宮戸　まだまだ突っ込みどころ満載ですよ！ たとえば、桜庭が強くなったのは、エンセン井上と練習したからとか、アマレスの技術があったからとか、そういうのも僕からしたら外れてるわけですよ！ こう言ったら申し訳ないけど、桜庭はアマレス時代には、高校でもチャンピオンになってないんですよ。じゃあ、なぜ大学の学生チャンピオンだった選手や、オリンピックのメダリストが桜庭以上の活躍をできないんですか!? ついでに言わせてもらえば、田村のことは「高校時代に相撲をやっていたから」とでも言うんですか？ だったら、それこそ曙や大刀光が勝てないのはおかしいでしょ！

――そうですね……。

宮戸　それから、エンセンと練習したからだって言いますけど、じゃあ、彼の道場からもっと強い選手が出てくるはずでしょ？ なぜ出てこないんですか？ Uインターは桜庭だけじゃなく、田村、金原、高山、山本喧一、松井、上山など、現在でもプロで活躍している選手をこれだけ輩出してるんですよ。これは偶然じゃない！ たとえば柔道界だって小川直也が出てきた、吉田秀彦から出てきたというのは、これはもう偶然じゃないじゃないですか。

――そういった環境があったから強い選手が生まれたんでしょうね。

宮戸　Uインターも同じですよ！ それをアマレスだ、エンセンだ、というのは的外れもいいとこ！ それからUインター以降から練習環境が良くなったというなら、髙田道場から、U—FILE CAMPから、そしてスネークピットジャパンから、Uインターを超える選手が出てきても良さそうじゃないですか。

――そうですね。

宮戸　でも、出てこない。それは結局、理屈で言う練習の環境なんていうのは関係ないんだよ。じゃあ、なぜUインターからあれだけの人材が出てきたのかということは、僕自身、分析しきれないけど、あの道場には特別な何かがあったってことですよ！

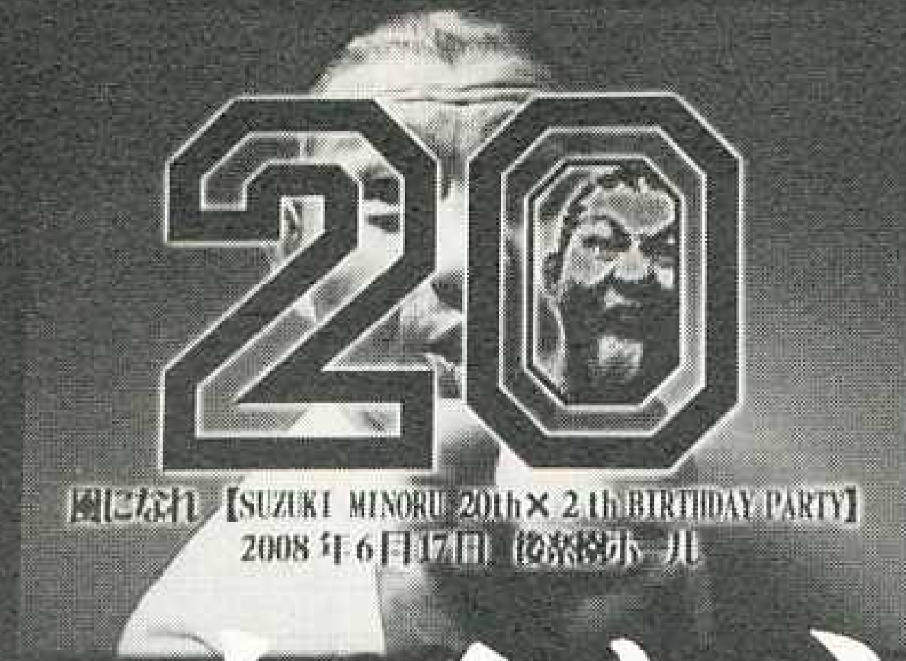
――あの時代ならではの厳しさも影響してるんでしょうね。

宮戸　だからね、髙田さんの強さに関してもね、僕はこれまで語ったことがない凄い話がいくつもあるの。今日は言わないけどね。また、そういった噂話に使われちゃうから（笑）。

――では、別の機会に（笑）。

宮戸　だからね、そういった聞きかじったことを話すのは飲み屋でやってください！ そうじゃなきゃ、プロフェッショナルの堀江さんたちが、高橋本を丸飲みしてる素人さんと一緒になっちゃいますよ！

6.17「20周年記念興行」大爆発！

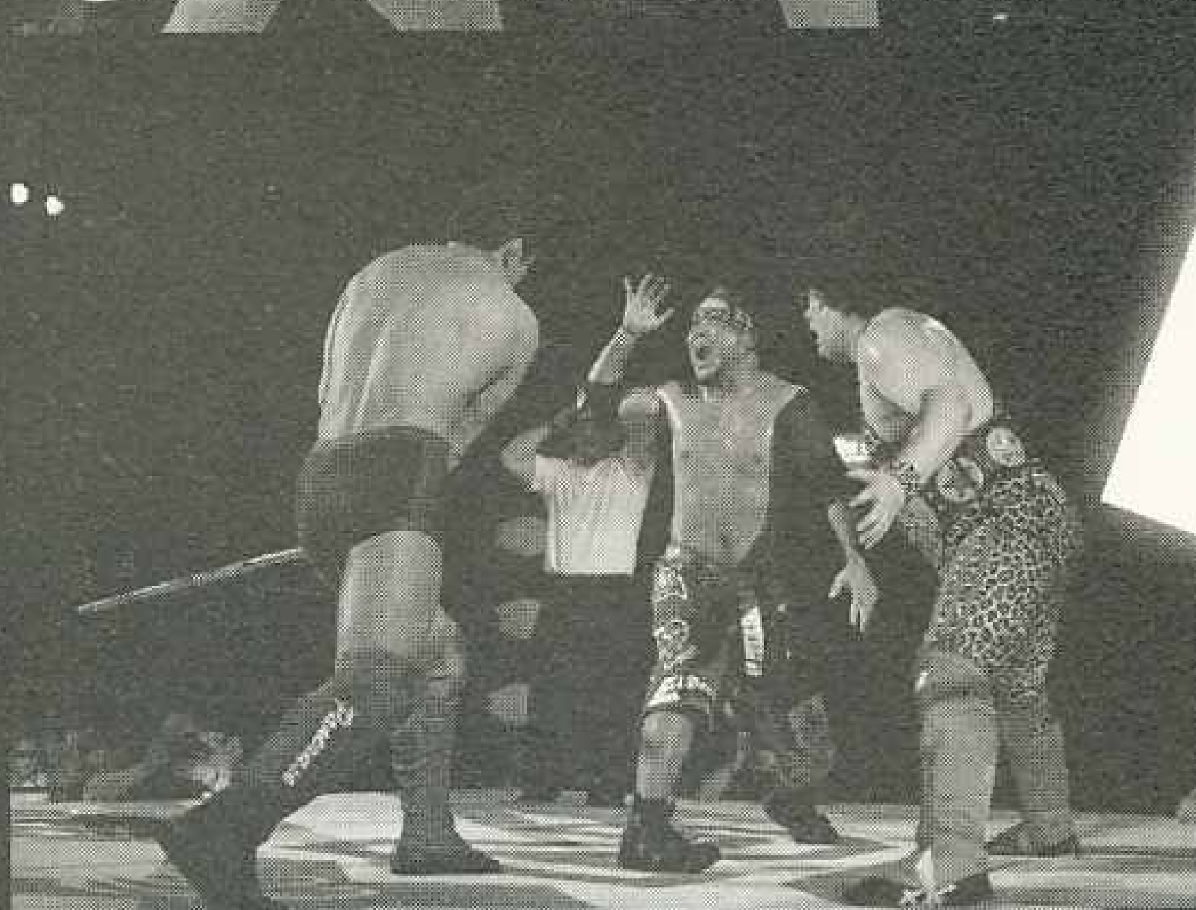


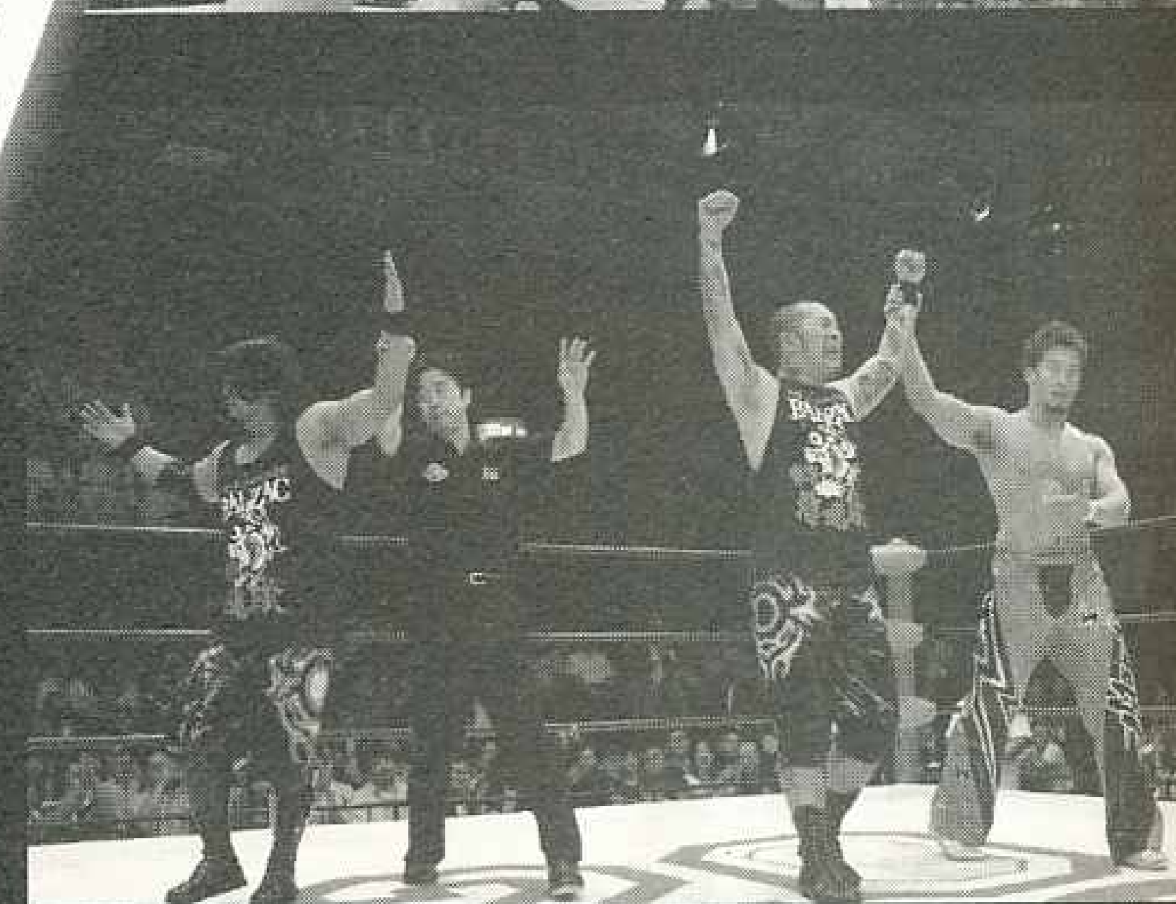
“呪い”を打ち消した男 鈴木みのるがたどり着いた“プロレス”とは？





いま発動する呪いなきプロレス特集





絶賛発売中の『kamipro Special 2008 JULY』で“呪いなきプロレス”として特集した『マッスル』に続き、またもや“呪いなき”プロレスイベントを発見！　その大会とは6月17日に後楽園で開催された鈴木みのるデビュー20周年記念興行である。メジャー、インディー、女子選手、さらには『マッスル』名物のスローモーションまで取り入れ、大会を大成功させた、みのるの呪いなきプロレス頭を徹底解剖！

撮影／平工幸雄



天敵（？）和田京平も認める“プロレス頭”を徹底解剖！

「プロレス界のトップで居続けるには、それなりの理由があるんだよ」

鈴木みのる

自身のプロデビュー20周年と40歳の誕生日のダブル記念として6.17後楽園ホールで鈴木みのるがプロデュースした『SUZUKI MINORU 20×2th BIRTHDAY PARTY』。大会当日は、モーリス・スミスとのエキシビション、メインでの高山善廣との一戦はもちろん、プロデューサーとしてもフル稼働し、大会を大成功させたみのる。純プロレス復帰以来、不況と言われるプロレス界の第一線で活躍し続けるみのるのプロレス頭とは？

いま発動する
呪いなき
プロレス
特集

聞き手／阿修羅チョロ　大会撮影／平工幸雄

――鈴木さんの40回目の誕生日に行なわれたデビュー20周年記念興行の評判が凄くいいですよね。

鈴木　観た人も「おもしろかった」って言ってくれて、出た選手もみんな「楽しかった」って言ってくれたんで、その部分では凄くよかったなと思いますね。

――マッチメイクは、どの試合も色合いの違うものがズラリと並んだ感じでしたけど、ここ数年、いろんな大会を渡り歩いてきた鈴木さんが、現在のプロレス界で自信を持って見せられる選手やカードを組んだっていう感じなんですかね？

鈴木　まあ、そうですね。初めて観た人も楽しめて、ずっと観続けている人も楽しめる。最近目をそむけてた人が観ても楽しい、どんな角度から観てもおもしろいっていうものが自分のプロレスのスタイルとして求めてるものなんで。で、今回大会をやった後楽園ホールって月に何十試合も大会があるわけですよ。

――そうですね。

鈴木　プロレスがあって、キックがあって、ボクシングがあって、総合格闘技もあって。そういう目の肥えた客が集まる場所もあれば、こないだも全日本の巡業で地方に行って来たんですけど、田舎で年に一回とか何十年ぶりとかいう会場もあるわけです。そうするとへんな話、プロレスは力道山以来っておばあちゃんも来るわけですよ。

――中にはいるでしょうね。

鈴木　そういう人たち相手に「プロレスっておもしろいね」って言って

『マッスル』のスローモーション？あ〜、そのへんに関してはパスですね

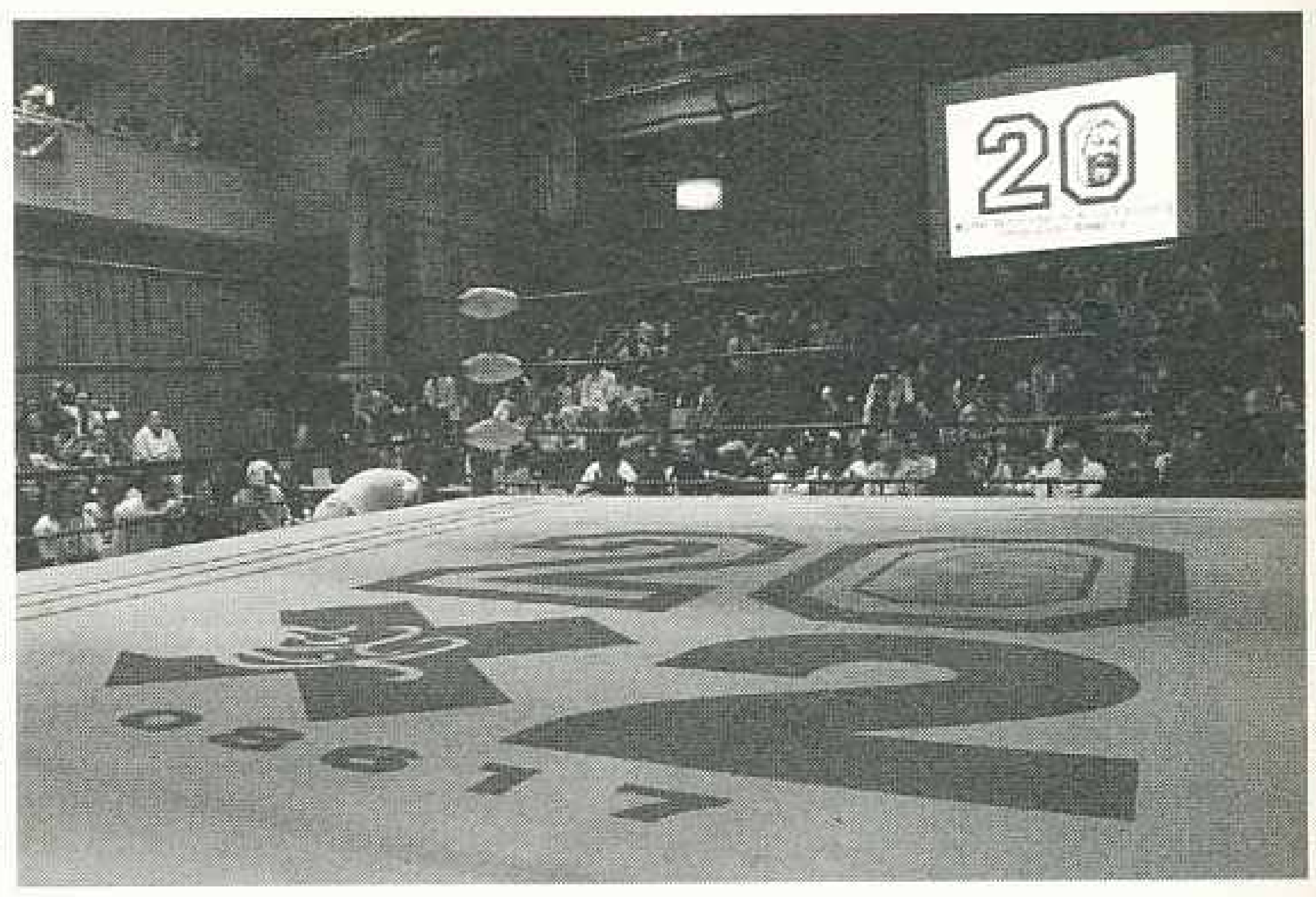
帰ってもらうのが自分の仕事だと思ってるんで。だから、今回の大会は、全国を回ってやってることを一カ所でやったって感じですね。

——大会ではいろんなサプライズもありましたが、バトルロイヤルでメジャーと言われる団体の選手が勢揃いする中、スローモーションという『マッスル』の世界を導入したのは、ある意味凄いなと思ったんですけど。

鈴木 あ〜、そのへんに関してはパスですね。

——ん？ と言いますと？

鈴木 まあ、『kamipro』的には書きたい部分なんでしょうけど、どっちでもいいんですよね、俺の中では。よく手品にたとえて話すんですけど、何かに手をかざしてパッとその手を離したら、それが消えました。それが仕掛けであろうと、仕掛けはなくてホントに超能力で消えそうと、消えたことが凄いんであって、その裏のことはどうでもいいんじゃねえかなっていうのが俺の中ではあって。だから『マッスル』の世界があそこで起きたのは、マッスル坂井が勝手に起こしたんだと思いますよ。それでいいんじゃないですかね。



プロデューサーとしてマッチメイク、煽り映像をはじめ、大会の細部まで目を光らせていたというみのる。今大会だけのために発注したリングマットは云十万もしたらしく、これはちょっと誤算だった!?

——わかりました。そのバトルロイヤルではマッスル坂井さんが優勝したわけですけど、これまで『マッスル』には鈴木さんも二度ほど参戦されていますし、マッスル坂井や『マッスル』という世界観を多少なりとも評価されてるってことですよね？

鈴木 どうなんだろう？ レスラーとしては全然ダメですけどね（笑）。

——全然ダメですか（笑）。

鈴木 運動神経のないデブっていうか、デカい文化系って感じで。……なんかウチのアニキみてえだな（笑）。

——エッ、そうなんですか？

鈴木 ウチのアニキもデカくて、オタクに近いんですよ（笑）。まあでも、プロレスって、何か一個ではくくれないっていうか、競技能力だけじゃないですからね。見た目が凄くカッコよくて凄い運動神経がよくても、いまいちパッとしないレスラーっていくらでもいるじゃないですか。だから結局『マッスル』なんかも、ああいう世界観を作り上げたのは坂井だと思うんで、そこは評価もされてるわけだしいいんじゃないですかね。いいも悪いも、そこにあるんだもん。

——まあ、そうですよね。

鈴木 今回の大会はマッスルだけじゃなく、それこそ風香も出たし、男色ディーノや菊タローとか、メカマミーも出たわけだし。俺がいい悪いを言う前に存在してるんでね。その存在してるものを、じゃあ俺だったらこんなおもしろいことができるのにって思ってやったのが、このあいだの大会ですから。

——それこそ、いろんなこだわりがあったUWF時代やパンクラス設立当初の鈴木さんでは絶対ありえない空間だったと思うんですよ（笑）。

鈴木 まあ、そうですね。「自分はこうでなければいけない」っていうのが正直言ってパンクラスに出てたときはあったんですよ。それがなくなっちゃいましたからね。ある意味、解放されたというか。

——解放されたっていうのは、いつぐらいからになるんですかね？

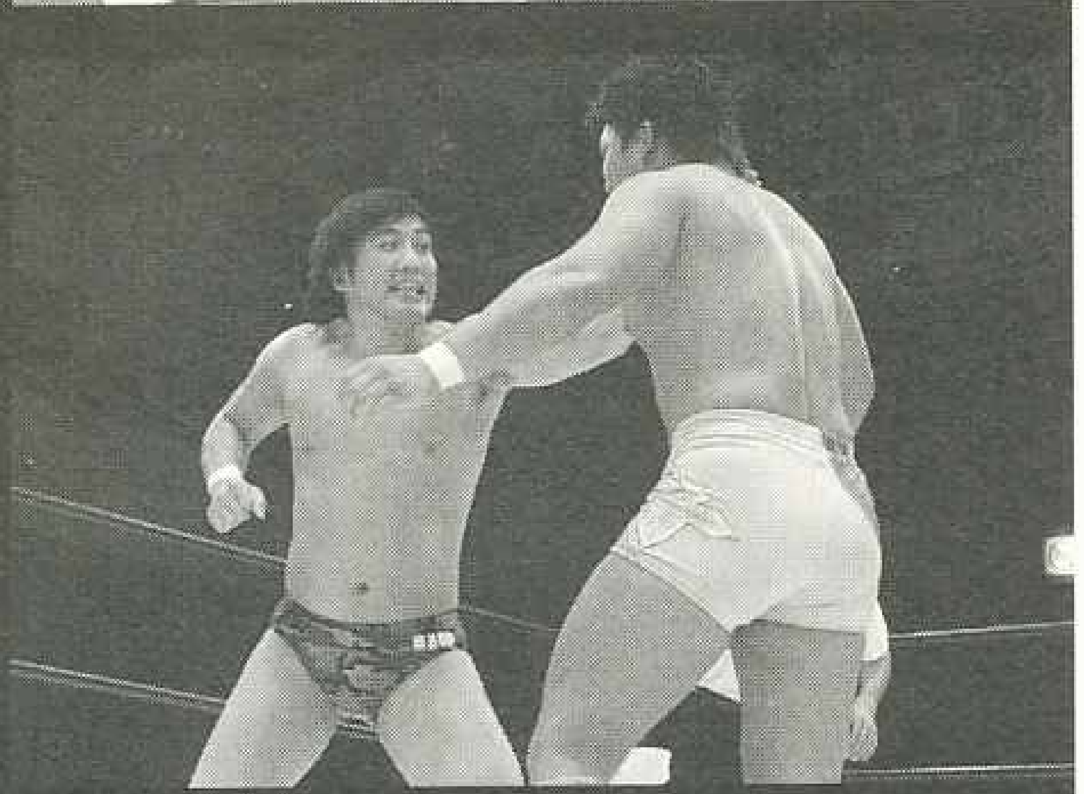
鈴木 具体的に、いつっていうのはないですけど、やっぱり純プロレスに戻って来てからですね。それもここ2〜3年かな。

——戻ってきた当初は「総合で通用しなくなったから」っていう批判的な声もありましたし、鈴木さん自身、

大盛況！みのる20周年記念興行ダイジェスト



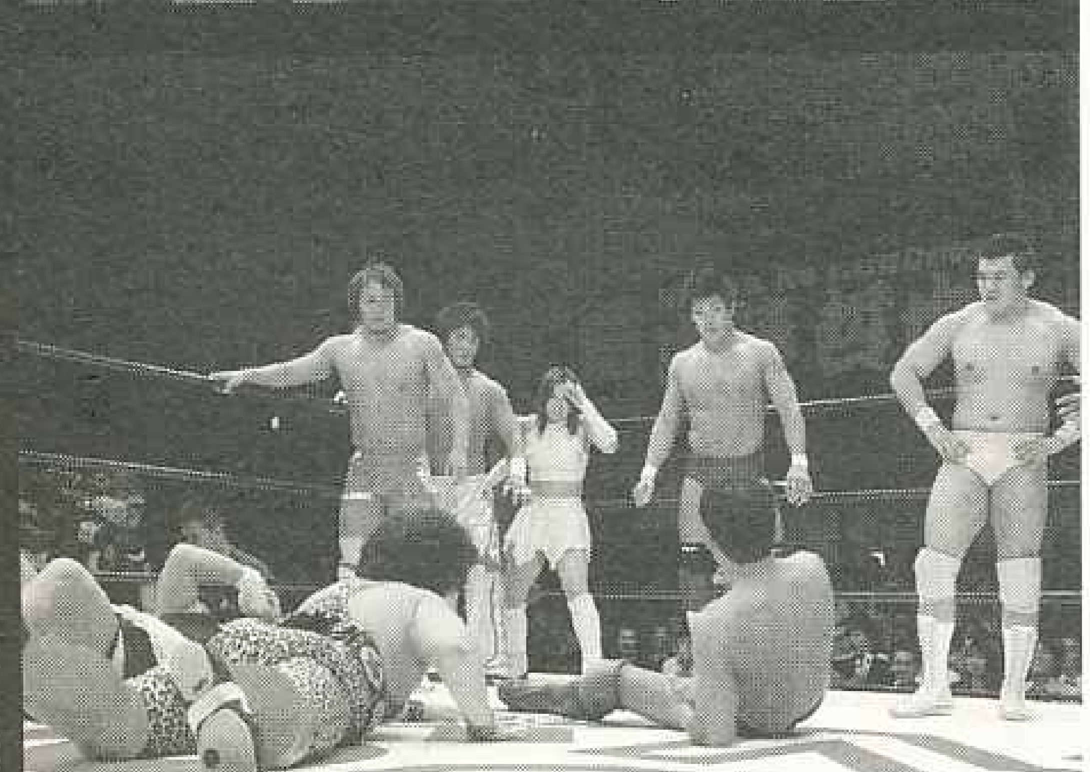
オープニングマッチはみのると関係の深いライガーと、ライガーコスプレの菊タロー、冨宅飛駈、メカマミーによるタッグマッチ。レフェリーもライガーマスクを着用の和田良覚が務め、第一試合から場内は大盛り上がり！



みのるが「期待以上だった」と評価したのが中嶋勝彦と、みのると同じMISSIONに移籍した佐藤光留の一戦。正装のメイド服を脱ぎ捨て全日本の前ジュニア王者相手に健闘した光留だったが最後はジャーマンで敗戦。



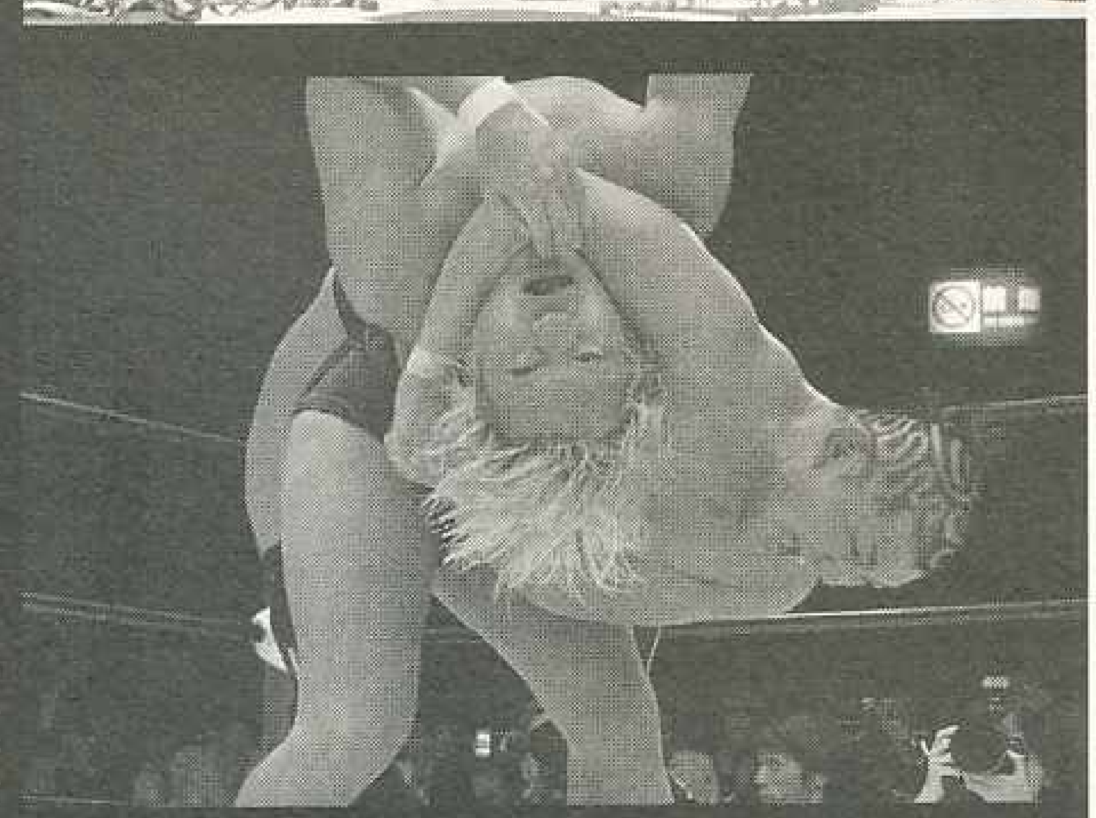
5分1ラウンドのエキシビションとしてひさびさに再会したモーリス・スミスとみのる。ここぞというときの白コスチュームで登場したみのるは試合後、モーリスと熱い抱擁。モーリスのセコンドには高阪剛がついた。



新日、ノア、全日、『ハッスル』から、荒谷望誉扮する荒谷日明（ひ・あきら）、菊タロー扮するジャンボ菊などなど、バラエティに富んだメンバーが集結したバトルロイヤルはスローモーションでの攻防の末、マッスル坂井が優勝！



レスラーとしてみのるが高評価する丸藤と、舎弟分のNOSAWA、MAZADAの愚連隊がタッグを結成し、サスケ&TAKA&カズの元みちプロ勢とタッグで激突。最後はみのるの愛弟子NOSAWAがTAKAに勝利！



メインは盟友・高山善廣とみのるの一騎討ち。序盤からゴツゴツと殴り、蹴りまくった両者だったが最後はみのるのスリーパーで高山がタップ。試合後、2300人超満員札止めとなった場内は両者に大歓声&拍手の嵐！

プロレス界で何が起きているか 頭に入ってるのはフリーとして当然



これまでも何度か企画されたというが、スケジュールの都合もあり、今回が初となった中村あゆみの生歌での入場はもちろん場内は大爆発！　メイン後、試合を観て興奮した中村あゆみは段取りを忘れ（？）思わずリングインし、みのるを祝福！

どういうプロレスをやっていくかっていう部分では少なからず手探り状態の時期もあったと思うんですよ。

鈴木　ありましたね。成功したいけど、成功するために一個ずつ答えを探しながらやってたわけじゃないんですよ。成功しなきゃいけないって追い詰められた気持ちはあったけど、正直言ってどうしていいかわかんなかった。

——UWFや藤原組、そしてパンクラスでは〝強さ〟という部分にこだわりを持ってやってきたと思うんですけど、ある意味、それとは違う部分でも勝負していかなければならなくなったというか。

鈴木　そうですね。だから賭けですね。プロレスの世界に戻ってきたとき、1年って自分で区切りを決めて、この1年で一回も自分の名前でメインイベントに出られなかったらキッパリとあきらめようと思っていて。俺には才能もなければ運もないんだって思うしかないな、と。

——結果的にはどれぐらいでメインに組まれたんですか？

鈴木　3ヵ月（笑）。

——意外と早かったですね（笑）。

鈴木　新日本で高山（善廣）とNWFの選手権をやったのが初めてのメインでしたね。「あれ？　意外にサラっとかなっちゃった」みたいな（笑）。それまでは月イチしか試合がなかったんですよ。

——プロレスに戻ってきた当初は、ほとんど新日本だけでしたよね。

鈴木　ほかの団体からのオファーはまったくなかったですから。いまになって考えると、やっぱり人との出会いが大きいですよね。初のメインが高山（善廣）だったっていうのもそうだし、そのマッチメイクをしたのは上井（文彦）駅長ですからね。いまは駅長じゃないけど（笑）。

——UWAI STATIONも廃駅になっちゃいましたし（笑）。03年の6月にプロレスに復帰してから約5年になりますけど、その間、新日本、ノア、『ハッスル』、全日本といったメジャー団体をはじめ、さまざまな団体から声がかかる売れっ子レスラーになっていくわけですけど。

鈴木　どインディーとかもたくさん出ましたからねぇ（笑）。

——出てますよね（笑）。もちろん、鈴木さんなりに、上がる上がらないっていうのは何かしらの基準はあるわけですよね？

鈴木　ないですね（即答）。しいて挙げれば、タダでは試合しないっていうのと、客が一人もいないところではやらないっていうぐらいで。

——たとえば、北斗（晶）さんなんかは、保険とかがしっかりしていない団体には出さないっていう基準があるみたいですけど。

鈴木　そんなのどうでもいいです。「おもしろそうだな」って感じられるかどうか、一番はそこですね。あとは、試合を終えて俺らがリングからはけたあと、お客さんがこんな感情してるってところまでパッと絵が見えたときは決めるのは早いですね。

——試合後のお客さんの絵が見えたりするもんなんですか。

鈴木　見えますよ。あとはひらめきですね。オファーがあって、対戦相手を聞いたときにブワ〜ッて頭が凄い速く回転するんですけど、それで答えが見えたときは「あ、出ます」って即答しますね。その絵が見えないと返事は待ってもらいますけど。

——凄い話ですねぇ。まったく聞いたことがない団体からのオファーもあったんじゃないですか？

鈴木　中にはありましたよ。まあでも、よっぽどのどインディーだったら知らないところもあるでしょうけど、いまとなっちゃ、ほとんど頭に入ってると思いますよ。

——それも凄いですね（笑）。

鈴木　それで、オファーを受けてオッケーを出したら、その日のうちに、対戦相手と、その団体の流れとかがどうなっているのかはできる範囲で調べますね。

——それって、あたりまえのことなんですかね？　鈴木さんぐらいのキャリアや実績があると、そこまでしない選手のほうが多いんじゃないかなって思うんですけど。

鈴木　ほかの選手のことはわからないですけど自分にとってはあたりまえですね。自分は誰かに飼われている所属選手じゃないんで、そういうのは最低限のエチケットというかマナーですね。へんな話、プロレス界で何が起きてるか頭に入ってるのはあたりまえで、世の中で何が起きてるかっていうのも毎日頭に入れておかないとフリーではやっていけないですよ。

——対戦相手を聞いたら、試合の展開とかをシミュレーションするって感じなんですか？

鈴木　もちろん、そういうこともしますよ。あとは大きい団体、小さい団体、いろんなのがたくさんある中で「コイツはおもしろそう」とか「俺ならこうするのにな」っていう、オファーも何もない状態のときにシミュレーションをしたりすることもよくありますね。

——そこまでしてますか！

鈴木　そういう意味では、ここ2〜3年かな。NOSAWA（論外）たちと付き合うようになってから、いろいろと学びましたね。アイツらこそ仕事選ばないですから（笑）。

——NOSAWAさんや東京愚連隊の皆さんは、鈴木さん以上にさまざまなリングに上がってますからね。

鈴木　結果も載らないような団体に出たり、ほぼ毎日試合やってますから。だって、アイツら上半期で90試合超えてるんですよ。

——上半期だけで90試合！　ほぼ二日に一回のペースですね。

鈴木　アイツら、最近は海外はほとんど出てないですけど、半年で90試合って凄いことですよ。

——交渉術もあるのかもしれませんけど、実力がなければ、それだけの試合数はこなせませんよね。ホント、腕次第というか。

鈴木　アイツらは、どんな状態でも生き残っていくドブネズミですよ（笑）。まあでも、そういうプロレス

メジャーから、どインディーまで みのるのプロレス探しの旅 全団体リスト

（08年6月末現在、順不同）

新日本プロレス、パンクラス、ノア、ウルティモ・ドラゴン主催興行、RoE バッド（オーストリア）、Fronteir Wrestling Alliance（イギリス）、WXW（ドイツ）、『WRESTLE-1』、健介オフィス、ビッグマウス・ラウド、全日本プロレス、K-DOJO、DRAGON GATE、リアルジャパン・プロレスリング、NOSAWA論外自主興行、リングソウル主催興行、GPWA、『ハッスル』、『UWAI STATION』、RIKIマニア、SUWA引退興行、ソウル・コネクション、『マッスル』、CMLL、闘龍門、全日本キック、MAキック、OZアカデミー、MAKEHEN、SKULL MANIA、ケロプロデュース興行、sportiva主催興行、風香祭り、ZERO-SUN、プロレスサミット、プロレス・ターミナル、西口プロレス、ZERO1・MAX、DEP、みちのくプロレス

常にプロレスのことを考えてないと人の先頭を走りきれないです

界での生き方みたいなのは彼らと一緒にいて学んだ部分じゃないかなと思うんですけどね。

――ドブネズミからも学ぶことはある、と（笑）。

鈴木　そうそう（笑）。それまでは、大きな団体に所属して、試合のない日は練習をして月にいくらもらってっていうのがあたりまえだと思ってましたから。新日本、ＵＷＦでもあたりまえ。そのあともずっとあたりまえだと思っていて。で、パンクラスの後半になってから選手の契約形態を変えて、キックボクシングやボクシングと同じように、一試合いくらって感じに自分も変えたんですよ。

――それまでの月給制からワンマッチ契約に変わったわけですね。

鈴木　そうです。「俺だけ毎月もらって、ほかの選手がそういう契約じゃ誰も納得しないから、俺もそれでいいです」って言って。自分の会社なのに自分の契約をしたっていう、わけわかんない状態ですけど（笑）。

――確かに（笑）。

鈴木　いまはまた違うんですけどね。まあまあ、そんなこんなで俺にとってはメジャーもインディーもない、と。鈴木を呼びたいという人がいて、鈴木を観たいというお客さんがいて、鈴木とやりたいという対戦相手がいて、そういうものが整えば、どんなところでも行って楽しんで、なおかつ楽しませるっていう自信がありますから。

――実際に小さい大会とかに出てみて、レベルの低い選手と同じリングに上がったり、対戦したこともあったでしょうけど、「コイツらと一緒にされたくない」とか「おまえはプロレスラーじゃない」とか憤慨することもあったんじゃないですか？

鈴木　ないですよ。だって、一緒じゃないもん。

――それはどういう意味ですか？

鈴木　偉そうな言い方をすると、一緒にされたくないんじゃなくて、俺はもっと凄いって自分のことを思ってるし、一緒じゃないから呼ばれてると思ってるんで。

――なるほど。

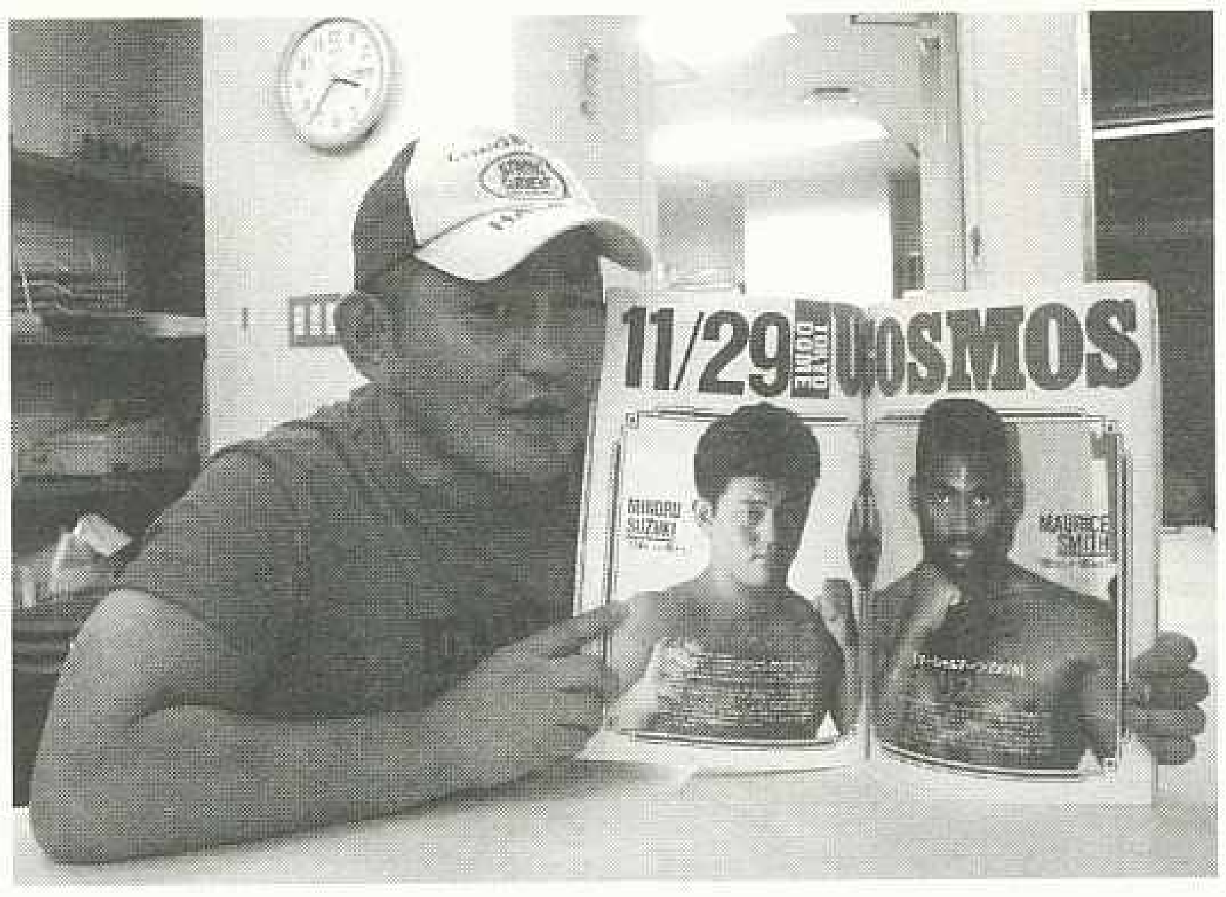
鈴木　レベルが低かろうが高かろうが、やってることはプロレスというカテゴリーで一緒なんですよ。だから俺が否定しようが何しようが、どっちでもいいんですよ。それこそ、レベル云々でいったら、新日本でも全日本でも、そういうことを言いたくなる選手はいますから（笑）。

――そうでしたか（笑）。

鈴木　そこは「違う」って拒否するものじゃなく、違うものを見せることが俺の仕事なんで。観てるお客さんが「やっぱ鈴木は違うよな」って思って初めてそこで評価が出るんであって。そういう意味では自分で自分の評価を決めないようになりましたね。「なんだよ、鈴木。金払って損した」と思われたら自分の負けだし。

――フリー選手は、それこそ声がかからなくなったら終わりですし、当然、危機感っていうのは所属選手よりも高いでしょうね。

鈴木　そういう危機感はいつでも持ってますよ。



すずき・みのる■１９６８年６月17日、神奈川県横浜市出身。レスリング国体２位の実績を残し、新日本プロレスに入門。アントニオ猪木と一騎討ちを行なうなど期待をかけられるも、89年３月にＵＷＦに移籍。その後、藤原組を経てパンクラスを船木誠勝とともに旗揚げ。95年には第２代キング・オブ・パンクラシストに輝く。現在は全日本を主戦場にさまざまなプロレス団体で活躍中。１７８センチ、１００キロ。

――20周年大会の当日に発売された『週プロ』の鈴木さんの特集本で印象的だったのが和田京平さんのインタビューで。リング上ではいろいろやり合ったりもしてますけど、鈴木さんのことを凄く評価されていて、移動中のバスの中でも寝ずにプロレスのことばっかり考えている、と。

鈴木　寝ないですね。一回、京平さんに聞かれたことあるんですよ、「おまえはなんで寝ないんだ？」って。「今度闘う選手のことを携帯でチェックしたり、最終戦にタイトルマッチがあるんで、その試合に向けて今日の試合はどういう流れにしようかとか考えてる」って言ったんですよ。そしたら「おまえ、天龍さんと同じことやってるな」って言われましたね。

――天龍さんも同じようなことをやっていた、と。

鈴木　そうみたいですよ。それを聞いて「へぇ～、天龍のオヤジも俺と同じことを考えてたのか」って思って。そんなこと言ったら天龍さんに怒られるな（笑）。

――天龍さんも鈴木さんも常にプロレスのことを考えている、と。

鈴木　べつに誰かに教わったわけでも、誰かのマネをしようと思ったわけでもなくて、そういうことをしてないと必要なくなっちゃうんで。１年２年って契約してるわけじゃないんで「いらない」って言われたら、それまでですからね。

――それこそ京平さんが言うように、移動のバスでは寝てる人がほとんどみたいですし、プロレスラーとしての技術以外の部分でも、そうやってプロレス頭を稼働させ続けている鈴木さんとほかの選手の差は開く一方なんじゃないですか。

鈴木　よそのレスラーが何してるとか、どうでもいいんですから。そういうことをやってるから自分が優れてるとか言うつもりはないし、そうじゃなくて、自分がいまリングに上がってするべきことっていうのを常に考えていないと、人の先頭を走りきれないですよ。

――トップで居続けるためには、あたりまえのことをしてるまでだ、と？

鈴木　そうですね。いまは全日本が主戦場になってますけど、三冠のタイトルを落としたりしてから、集団の中に入れられちゃったなっていう気もちょっとするけど、でも先頭集団の中にいるという自負はありますから。もちろん、全日本ってだけじゃなくて、プロレス界全体の中でっていう意味でも。

――自信を持って「俺はプロレス界の先頭集団にいるんだ」と言えるわけですね。

鈴木　だって俺、おもしろいもん！

――じゃあ、しょうがないです（笑）。

鈴木　自分がファンだったら、俺の試合はおもしろいと思いますからね。馬場さんの言葉だっけ？「みんなが格闘技に走るのでプロレスを独占します」って。

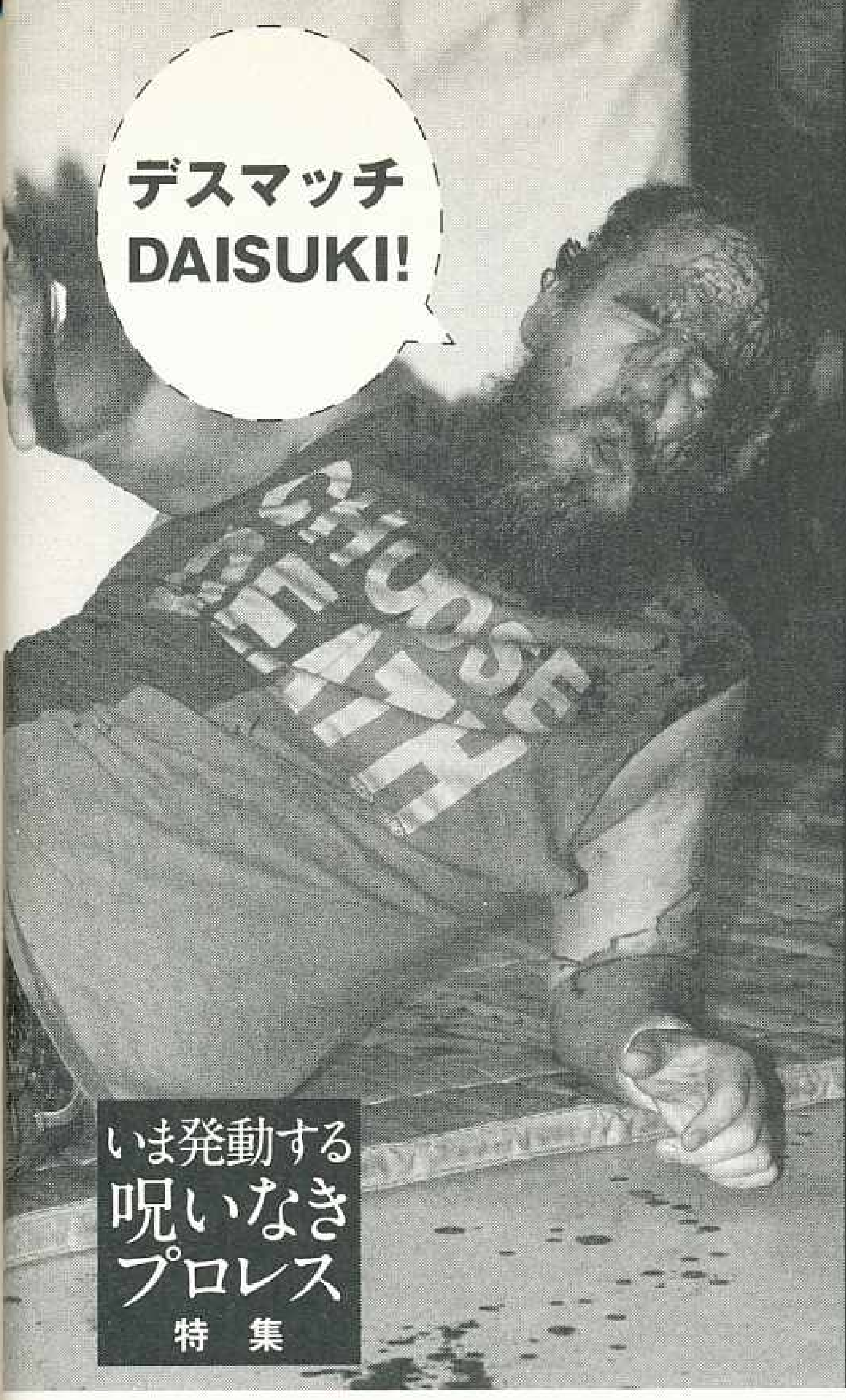
――厳密に言うとターザン山本！さんが考えたらしいですけど（笑）。

鈴木　でも、それって馬場さんの発想ですよね。それを俺流に言うなら、みんなが技に走るので、プロレスラーとしての身にまとうものとか、雰囲気は独占させてもらいますって感じですね。……ちょっと語呂は悪いけど（笑）。

――確かに（笑）。今後もその姿勢でプロレス界をガンガン盛り上げていってください！

鈴木　まあ、食っていくために頑張っていきますよ（笑）。

【08年7月1日／神奈川・パンクラス横浜道場にて収録】



デスマッチ
DAISUKI!

いま発動する
呪いなき
プロレス
特集

仰天！ IGFに“ケレン味”たっぷりの
デスマッチ・ジーザスが怪しく降臨！



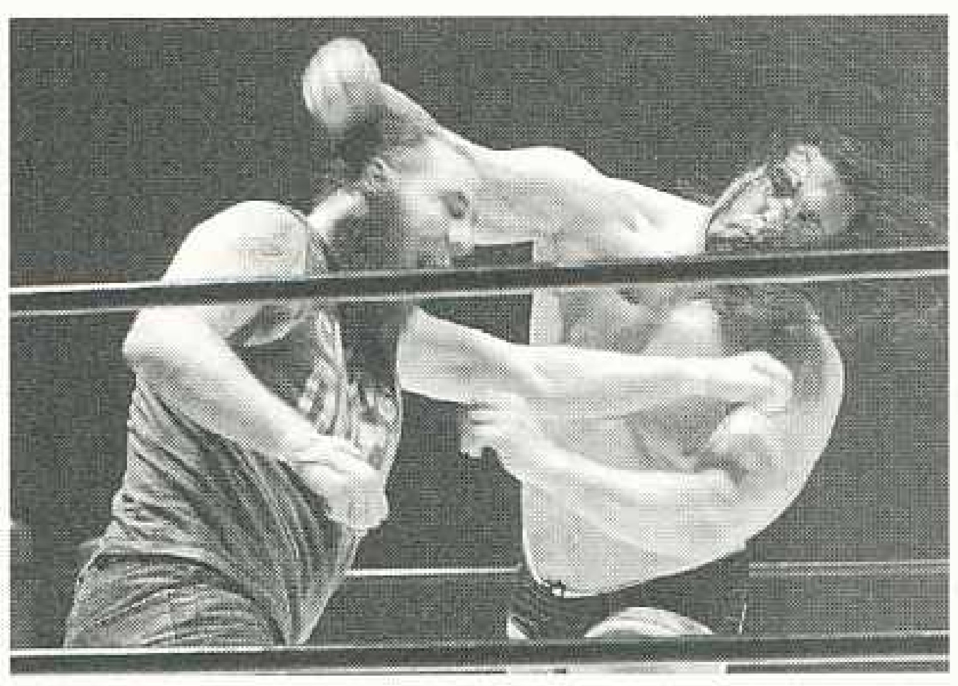
掟ポルシェが語る
ネクロ・ブッチャー論

本誌No.123において「萌え萌え女々苑」と「ハード・コアドージョー」のダブルコンボで取り上げた、ただいまカルト人気沸騰中のネクロ・ブッチャーがIGFの6月シリーズに唐突に参戦！ その驚愕のトンデモファイトで、PPV観戦した本誌編集部も思わず手に汗握ってしまうほどの活躍を見せた。そこで「ネクロには現代のプロレスに失なわれたものがある！」と一家言を持つ掟ポルシェ氏に、その不思議な魅力をあらためて語ってもらいました！ やっぱりネクロが好き！

構成／鈴木佑　写真協力／IGF

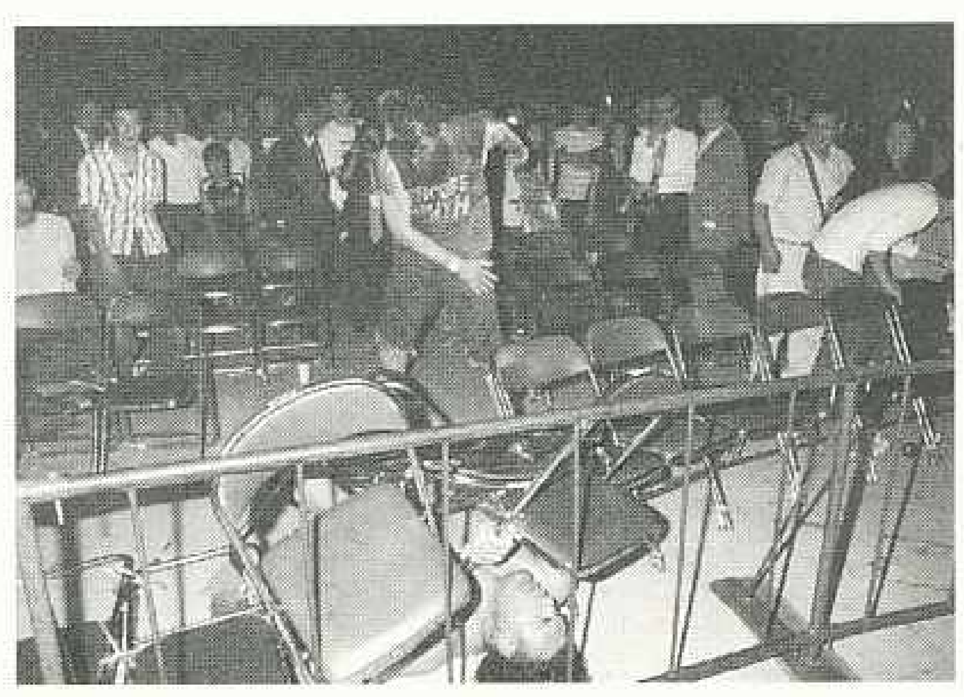
〝トラウマ系レスラー〟のネクロはIGFにピッタリ！

いやぁ～、ネクロがＩＧＦに上がるとは思いもよらなかった！ ブッキング担当のサイモン猪木はネクロがすでに大日本プロレスとかで評価を受けていることを知らずに、初来日だと思ってたんでしょ（笑）。アメリカでのカルト人気を聞きつけてブッキングしたらしいけど、サイモンはなにげに見る目あると思うよ。ネクロは猪木さんが好きなタイプのレスラーではないだろうけど、昔の新日だって猪木さんがこころよく思ってないレスラーが上がってたから軋轢が生まれておもしろかったわけだし。そういう意味でネクロは、リアルなゴタゴタを歓迎するＩＧＦのカオティックな世界観にばっちりハマったと思います！



ネクロの見せ場の一つであるノーガードでの殴り合い。痛みがビンビン伝わってくる攻防だが、ネクロの場合は攻めるよりもその受けっぷりが見もの！ フラフラになりながらも後ろに下がらないアイネバーギブアップな精神に敬礼！

00年代以降のプロレスって、技を中心とした試合の完成度に重きを置くほうにばかり針を振って、いい意味でのプロレス特有のケレン味を切り捨ててきたでしょ。ちゃんとしすぎでつまんないものになってからプロレス人気は凋落したし、俺も興味をなくした。昔はウサン臭さと怖さを同時に感じさせる、嫌でも記憶に残る怪しいガイジンが山ほど来日してましたよね。『世界のプロレス』でしか観られなかったような、怪人とガイジンの中間の薄暗いトラウマ系レスラーが、20年のときを経てタイムスリップしてきたのがネクロなんだと思う。



場外乱闘となればネクロの領域！ 血みどろになりながらノープランで相手の上に、何かに憑かれたかのように一心不乱にイスを投げつけて山を築いていく姿には、周りのお客さんもただボーゼンとするばかりだ。んあ～。

団体の経営が成り立たなくなってくると真っ先に経費のかかるガイジンが切られる。それこそ呼ぶならちゃんとした技の応酬のできる奴だけって感じで、結果的に昔ＦＭＷに来日したリー・ガクスーみたいな、奇跡的に怪しい魅力を持った選手は呼ばれないし、もっと怪しいリーの親父は当然セコンドには来れない（笑）。でも、俺たちがプロレスに狂ってたあの頃、何を欲していたかっていったらそういうケレン味の部分なんですよね。当然、ケレン味が服着て歩いてるようなネクロ・ブッチャーは最高って話ですよ！

ルックスとは裏腹に人の心を熱く打つファイト！

まずルックス！ 見た目がほぼホームレス！ 後楽園ホール出場というよりも、ホール近くの場外馬券売り場の横に寝てる顔！ しかも１９５センチと昔のレスラー並みにマジ巨大！ で、脱ぐと身体がダルダル！ ナチュラル過剰な喧嘩屋の身体！ 総合系のストイックな身体に飽き飽きしてんですよ、こっちは！ そして、意外と若くて33歳！ 見た目からすると50歳でも全然おかしくない！ それどころじゃねぇ、ファイトスタイルはもっとスゴイ！ 基本凶器も技も受けまくってありえないぐらいボロクソにやられる！ だけど、ネクロの場合いくら流血しても悲惨にならない不思議な才能があるんですよね。むしろここまでやられてんのに死んでないのがスゴイ！ と、そのタフさに感動するんですよ。

フラフラになりながらたまに繰り出す反撃が「素手で殴る」とか「持ち上げて叩きつける」とかプリミティブなものが主体で、しかも動きが雑！（笑）。そこが妙な説得力にもなってて、見てるだけで痛そうな攻撃をするんですよね。ネクロは凶器なんでもありのハードコアマッチでこそ最高に輝くんだけど、ＩＧＦじゃイスしか使えな



くてやりづらかったろうなぁ。
　プロレス博士みたいに古今東西のプロレスのことをよく知っていて、普通ガイジンはやらないような技を、あえてやってるところもある。去年来日したときなんか、ゴングと同時に維新力ばりにツッパリで電車道ですよ！　そんなこっちが思いもよらない技を繰り出したのも、直前に相撲取りと飲む機会があって、そのときに『次の試合はツッパリ出すから』って約束したからなんだって。そんな個人的な理由で（笑）。俺もネクロと飲みに行く機会があってわかったんですけど、リングを降りるとすげぇフレンドリーでいいヤツなんですよ。そりゃ飲んだときの口約束も守るわっていう。
　ネクロの存在って、ここ10年で格闘技文化に浸食されていったプロレスの古きよき部分を呼び起こさせてくれるっていうか。だからこそ、初めて観た人の心も打つことができる。実際にＩＧＦでもネクロコールが起こったしね！

まさにプレミアム！ ネクロはいまや超売れっ子！

　いまのプロレスって技が精密になりすぎて、相手との完全な信頼とイコールになってる部分があると思うんですけど、ネクロの試合はそうじゃなくて常に少し壊れてるから引き込まれる。プロレスって学ラン文化なんかと一緒で、形式が瓦解することがあらかじめ望まれてるジャンルだと思うんですよ。そういう意味ではじつは古典的というか、俺たちが知ってるプロレスラーのあるべき姿がネクロなのかもしれない。俺の周りでもプロレスファンを卒業して格闘技にハマってた人が、次々にこっち側に戻ってきてネクロのファンになってますよ！
　そもそも、各方面から「ネクロはヤバいらしいぞ」っていう声は聞いてて。で、実際に去年の４月に初めて試合を観に行って一発でトリコに（笑）。もともと２００４～５年くらいからアメリカのインディー界では引っぱりダコの選手で、いまじゃ、まとまったスケジュールを押さえるのが難しいくらいの超売れっ子。大日本も毎年ＧＷぐらいしか予定押さえられないみたいだし、１年に一回しか来ないというプレミア感もいいんですよ！　ＩＧＦがもっと早めに発表してたら、俺も北海道まで行ったのに！　大会の二日前に正式発表っていうのがＩＧＦらしいけど（笑）。さすが猪木ゲノムが入ってるだけありますよね（笑）。

何回生まれ変わっても ネクロにはなれない！

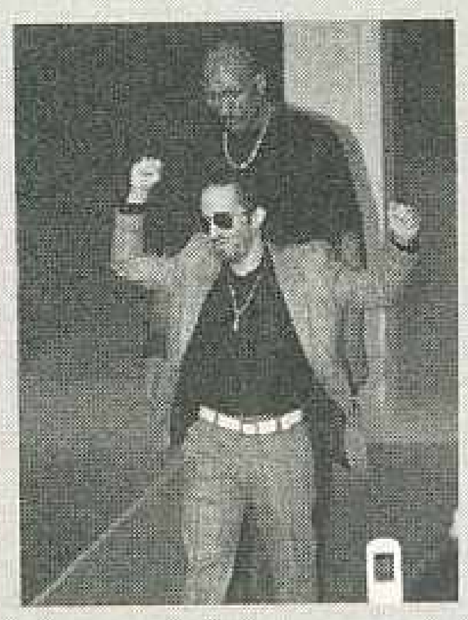
　まぁ、とにかく今回ネクロはＩＧＦに上がって正解でしたね。いい意味でのケレン味同士の融合っていうか（笑）。今回のＩＧＦは統一感のあるいい大会でしたね！　要所要所で「アレレ？」って部分があって、そこがプロレス特有の魅力にあふれてるというか（笑）。モンターニャ・シウバがコーナーからのスーパー・ダイビング・エルボーで小川直也からピンなんて、ありえないことが起きたり、古くからのプロレスファンをビンビンこさせる展開だらけで、もうたまりませんよ！　ガイジンレスラーも怪物系が揃ってね。馬場さんじゃないけど、レスラーって「俺でもできるんじゃないか？」って安易に観客に思わせたらダメだと思うんですよ。そういう意味でネクロは「俺は何回死んで生まれ変わってもネクロにはなれないな」って思わせるものがあるんですよね。才能が違うから憧れるんです。

ネクロは格闘技に浸食されたプロレスの古きよき部分を呼び起こしてくれる存在

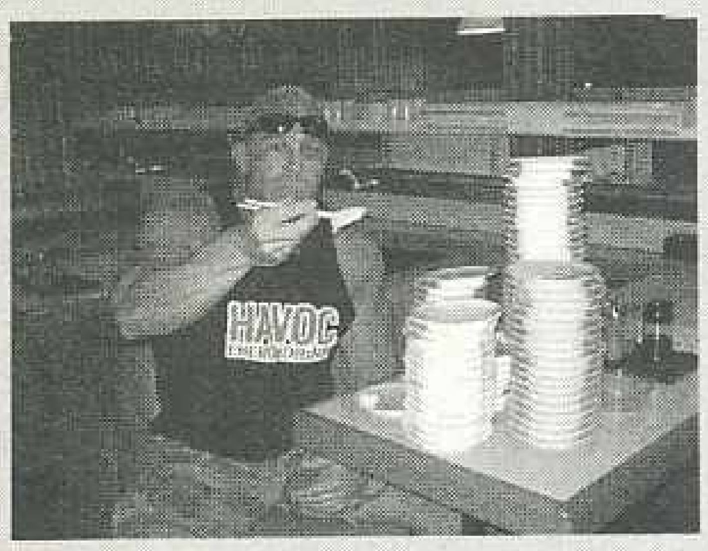
　ネクロ自身は「俺が望むハードコアな試合ができるなら、世界中どのリングにでも上がるぜ」っていう男前なスタンスなんですよ。だから凶器攻撃なしのメジャー団体とかはそんな興味ないんじゃないかなぁ。そうしなくても売れて金に困ってないし。いまネクロは自分で興行を打ったり、私生活も新しい奥さんができて、娘さんも生まれたばかりだし、いわば人生の絶頂期ですよね。
　まあ、惜しむらくは自慢のロングヘアを切って見た目の魅力が減ったことかな。レスラーにありがちですけど、娘のお受験のための親子面接用とかね。ちょっと早すぎか（笑）。でも、このジェスロ・タル（１９６８年デビューのイギリスのロックバンド）みたいな、薄汚いプログレバンド系のビジュアルは保っててほしいなぁ。俺はネクロより年上だけど、こんな大人になりたいと思います！　ネクロ、サイコー！

夏本番、ゲノム真っ盛り！ IGFのココがおもしろい！

その1
コク深いガイジンレスラーが大挙参戦！

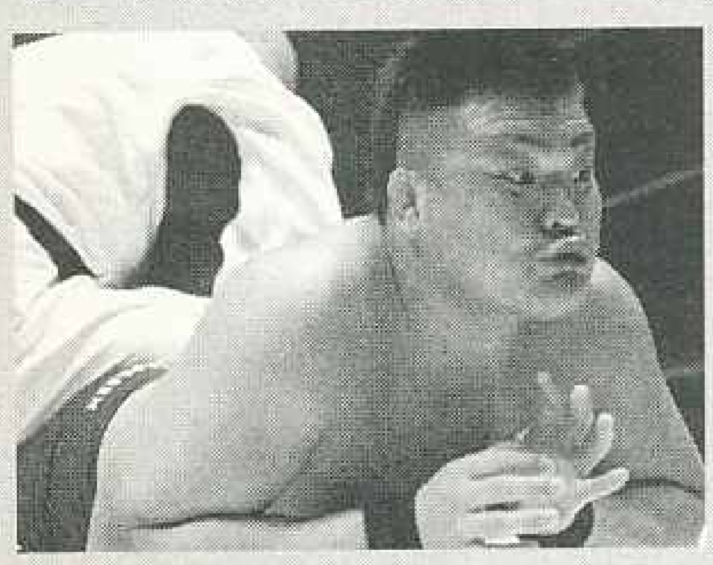


モンターニャ・シウバ（225cm）、アマゾン・ブレード（205cm）、ダニー・イグアス（215cm）という“異形レスラー”で構成されたご存知イノキ・ブラジル・モンスター軍団ことIBM！ マネージャーを務めるのは、ビクター・キニョネスを彷彿とさせるアヤしさ満点の風貌がバツグンなマグネットマン。なんと6.23月寒大会ではモンターニャが小川からフォール勝ち！ 地球の裏側からやってきたIBMがIGFを席巻する!?



今回の北海道シリーズにＩＧＦ初参戦をはたしたアメフト出身の“マッスルフリーク”ジョン・アンダーセン！ サイモン猪木氏によれば、なんと学生のころはプロテクターを装着せずにアメフトの試合に出たほどの、規格外の肉体を誇る新手のゲノムファイターだ。北海道巡業で立ち寄った回転寿司では驚異的な胃袋を披露！ 古きよきガイジンレスラーを思い起こさせる逸材だ。

その2
オーちゃんの愛弟子・澤田にも首ったけ！



見てみぃ、このツラ！ 昨年9月にデビューした澤田の表情&仕草がいちいちキュートでたまらない！ 煽りVでの小五のような怒りの表現技法から、試合中に全女ばりに悲鳴をあげて相手の技を耐える姿まで完璧！ ちなみに6.25函館大会では、メインで師匠の小川と初タッグを結成、なんと伝説の合体殺法「俺ごと刈れ」を初公開。昨年、IGF参戦中のタカ・クノウがデビューして数戦しかこなしていないにも関わらずプロレス大賞新人賞・次点となる快挙を達成したが、今年はこの澤田を新人賞・次点最有力候補として本誌は勝手に推薦！ IGFは日本人も人材の宝庫なのだ。

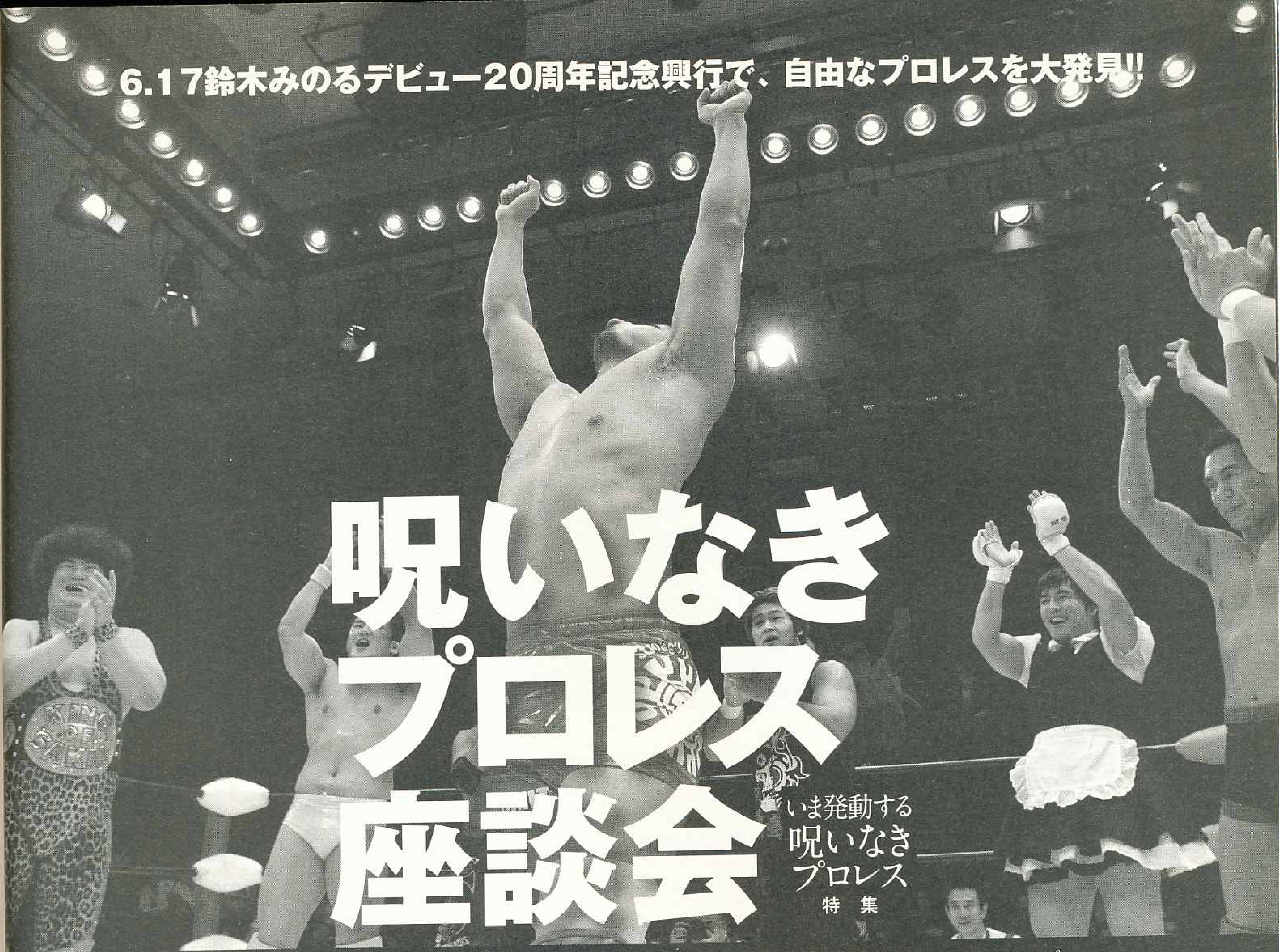
その3
IGFの“裏エース”TRIPLE−P！



毎回オープニングで、例の詩をモチーフにしたゴキゲンなナンバー『道』を歌って盛り上げる沖縄出身の姉弟ユニット・TRIPLE−P！ しかし彼らの本領は、特別ゲストとして陣取る実況席で発揮される！ SHUNはひたすら「(リングが)」近いッスねー！」と、壊れたレコードのように連呼。姉ALICEは箸が転がってもおかしい年頃なのか、ケタケタ笑いながら実況席なのもお構いなしで写メを撮りまくるという天真爛漫ぶり！ ちなみにALICEのブログでは、SHUNの帽子とサングラスをつけてオドけるアントンなど、沈没船の財宝ばりに貴重な画像が見られます！

売れっ子ネクロの参戦決定!
IGF
『GENOME6～闘魂BOM−BA−YE～』
東京・両国国技館
8月15日（金）　開場17:00／開始18:00

チケット料金
SRS席20,000円／S席15,000円／A席10,000円／B席5,000円
お問い合わせ
IGF　TEL.03-5159-3380



6.17鈴木みのるデビュー20周年記念興行で、自由なプロレスを大発見!!

呪いなきプロレス座談会

いま発動する呪いなきプロレス特集

風になれ〜! と大爆発した6.17鈴木みのるデビュー20周年記念興行。そこにはこれまでのプロレスにはない、自由かつ新しい風が吹きまくっていた。そこで本誌はおっとり刀ながら、この呪いなきプロレスに関して、大会に加わったマッスル坂井も招いて徹底座談会を緊急敢行!!

司会/真下義之　試合写真/平工幸雄　イラスト/北出裕貴

――今日は、鈴木みのるデビュー20周年記念興行を中心について、お話をうかがいたいと思います。

一同 よろしくお願いします!

坂井 でも、鈴木みのるさんの興行で座談会っていうのも『kamipro』らしくない気もがしますけど。

ガンツ いや〜。ちょっと前に鈴木さんと(獣神サンダー・)ライガーさんの爆笑対談を取材させてもらったこともあって、後楽園ホールに足を運ばせてもらったんですよ。正直、プロレスをちゃんと観るのはひさしぶりだったんですけど、新鮮な驚きの連続だったんですね。その興奮を編集部に帰って話してたら、企画になってしまったという(笑)。

――で、その大会のバトルロイヤルでスローモーションも披露したマッスル坂井さんと、存分にプロレスのおもしろさを……。

坂井 (さえぎって)ちょっとちょっと、いまさらプロレスのおもしろさを話す気ですか! 『kamipro』ってプロレス雑誌ですよね?

チョロ 薄々勘づかれていると思うんですが、編集部内は最近のプロレス事情について、うとい人間が多いもので……。

ガンツ その中でもボクはプロレス博士を自称してるんですけど、あの大会を観たときに「俺の知らない世界がいつの間にかできてる!」って強烈なショックがあったんですよ。

坂井 堀江さんは普段、ミルコとかの取材をされてるんですよね?

ガンツ まあ、そうですね(笑)。

坂井 ミルコ番の堀江さんの心をそこまで動かしましたか。で、どれぐらい会場に行ってなかったんですか?

ガンツ まあ、ここ数年は『ハッスル』の会場にたまに行くって感じですかね。

坂井 ああ、お付き合いで?

ガンツ そうそう……って何を言わせるんですか!(笑)。でもぶっ

座談会出席者

マッスル坂井

本名・坂井良宏。早稲田大学第2文学部中退という経歴を持つマット界随一の文系レスラー。DDTプロレス中堅レスラーにして、『マッスル』主宰。またDDTの映像やグッズ制作を行なうDDTテック社長の顔も併わせ持つ。今年は映画監督にも初挑戦し、高い評価を得るなど、鬼才ぶりをいかんなく発揮。幅広いメディアで絶賛活躍中。186cm、120kg。



阿修羅チョロ

本誌編集者兼、煽りポーズ研究家(?)。戦極ポーズのほか、DREAMポーズ、THE OUTSIDERポーズ普及に余念がない。編集部ではもっとも足しげくさまざまなプロレス団体に出没。メカマミー、『マッスル』を早い時点で発掘した目利きでもあるが、「何年選手だ、コラ!」とドヤされる独特の編集スタイルで有名。はてしなく迷走する36歳。



堀江ガンツ

ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ったあともUWF研究家を自称。このたび、単行本化される変態座談会を主宰するカリスマ的な変態として絶賛活躍中。その一方、純プロレスはここのところご無沙汰だったが、鈴木みのるデビュー20周年記念興行での自由かつ呪いなきプロレスに開眼!



「俺の知らない世界がいつの間にかできてる!」と驚かされた（ガンツ）

ちゃけ、後楽園ホールの純プロレスって3年ぐらいちゃんと観てなくて。まともに継続して取材してたのは、闘龍門JAPANまでさかのぼらなきゃならないという。

——自称・プロレス博士の堀江でさえ、そんな感じですから。あとは似たりよったりというか。独自のネットワークを持つチョロさんは別ですけど（笑）。

チョロ　ボクはむしろ小さな団体のほうが守備範囲ですから、編集部の誰も知らないような興行にも人知れず密航したりしてますからね！（と自慢げに）。

ガンツ　（無視して）それでも、ボクはプロレスファンという人種の考え方や思考は熟知してる、と高をくくってたんです。でも、今大会には「あれ、俺の知ってる人種と違うじゃん」って驚きがあって。

——完全に新しい芽が育っていた、と。

ガンツ　『ハッスル』もここ数年、プロレスファン以外の一般層の開拓に力を入れてましたけど、それともまったく違うベクトルなのに、プロレスに偏見のない新しいファンがこんなに生まれてたんだって。もはや〝平成のデルフィン〟ですらないというか（笑）。

坂井　そんなにカルチャーショックがありましたか。

ガンツ　いや、なんでそう感じたかと言うと、この前、カミスペ（『kamipro Special 2008 JULY』）で『マッスル』特集をやったときに「ミスター高橋本以降の呪いなき団体」っていうコピーでしたよね。

坂井　ああ、自分はまさかああいう切り口をされるとは思ってもみませんでした。「こんなこと言ってたっけ?」って。

——すみません……。こちらでかなり好き勝手にやらせていただきました（笑）。

ガンツ　そういう〝呪いなき〟感じとか、「格闘技と比べて」とか、「格がうんぬん」みたいな旧来のプロレス的な価値観から解き放たれて、メチャクチャ自由でコンプレックスのない空気を感じたんですよ。メンバー的には、あんなにたくさんメジャー団体の選手が集まってるのに。

坂井　う〜ん。でも、それはたぶん鈴木さんの興行っていう部分も大きいと思いますね。というのは、いまでも団体とかベルトとか、旧来の価値に重きを置くお客さんって、けっこういますから。

チョロ　ああ、いま業界的には凄く盛り上がってる、と評判のZERO1・MAXと新日本プロレスの抗争なんかはそういう部分がベースですし。「俺の応援するこの団体こそ、キング・オブ・スポーツだ！」っていうファンもまだいることはいますもんね。

坂井　でも、鈴木さんはフリーランスとしてノア、新日本、全日本、『ハッスル』から、細かいインディーまで上がって、独自の価値観を築いたじゃないですか？　勝ち負けやベルトや格とかも関係ない、単純に「この人おもしろい！」って楽しめるようなお客を育てたと思うんですよ。

——メカマミーと闘ったあたりから、とくに顕著でしたけど、ドンドン自分なりの価値観を育んでましたよね。

坂井　だから、今回は鈴木さんが認めたレスラーを集めたら、必然的に自由な空気は出るし、逆に厳選されたレスラーたちの実力勝負みたいな部分もありましたから。

ガンツ　ただ、鈴木さんもプロレスファン出身で、いったん格闘技に振りきったわけですよね。それって、いまプロレスを卒業して格闘技を観ている30代くらいのファンと凄く似てると思うんですよ。

——つまり、いまのヒネクレた『kamipro』読者みたいな人ですね（笑）。

ガンツ　そういう一周回って、もう一度プロレスに戻ってきた人が、いまのプロレス団体をくまなく行脚して、研究発表みたいなかたちで、新しいプロレスを濃縮してプレゼンテーションしてくれたような大会だった。だから、新しいファンだけじゃなく、ボクみたいな変態プロレスファンもすんなり楽しめたじゃないかな、と。

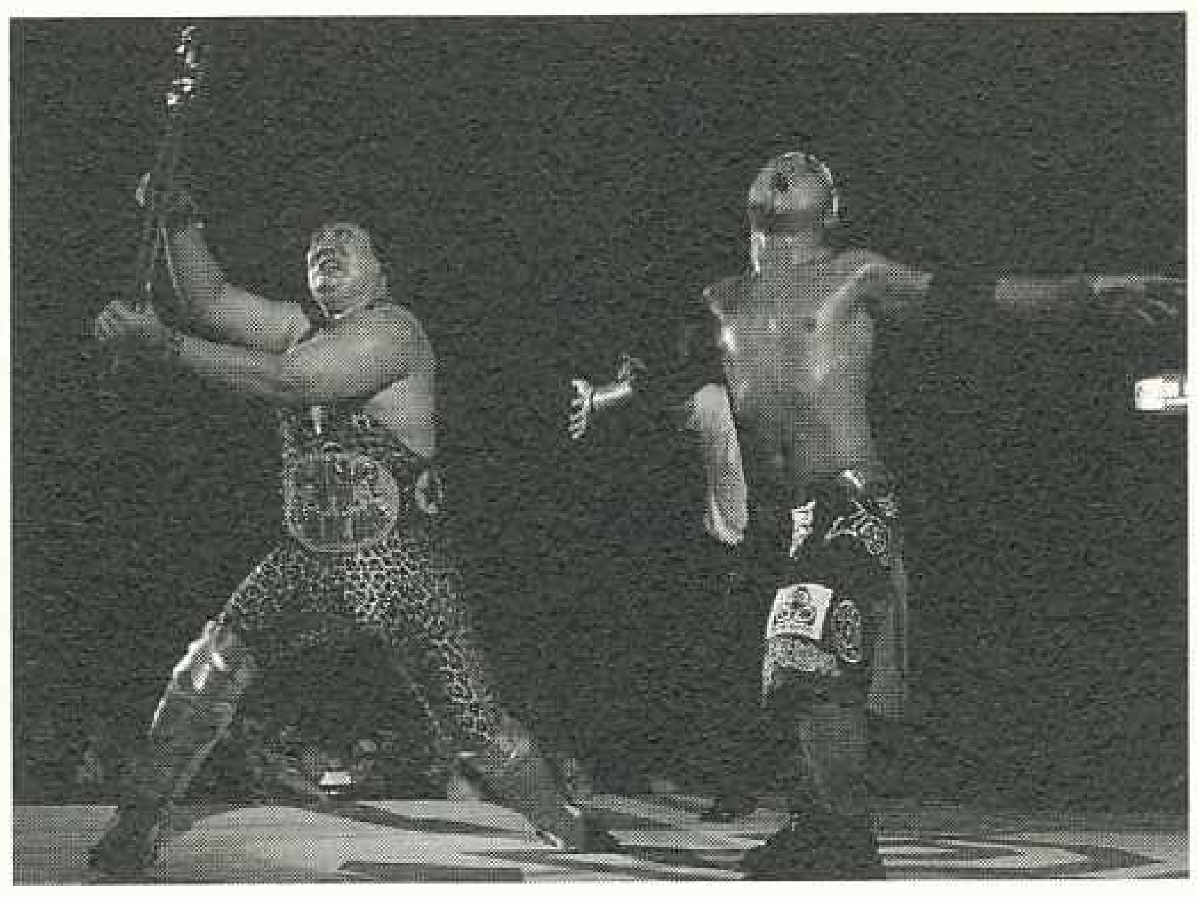
チョロ　ただ、傍から見てると「なんでそんな団体まで行くの?」ってとこにも出たりしてたじゃないですか。西口プロレスから、今年の元旦に行なわれた『モリヤ・ターミナル』まで（笑）。

坂井　ああ、元日の早朝にニセ大仁田こと森谷（俊之）さんの新木場の大会に出たり。そこで〝ミスター・インディー〟こと、佐野直さんと絡んだり。

チョロ　どんな団体やレスラーにも分け隔てずに出ている鈴木さんも、さすがに佐野さんは容赦なくボコボコにしてましたけど（笑）。

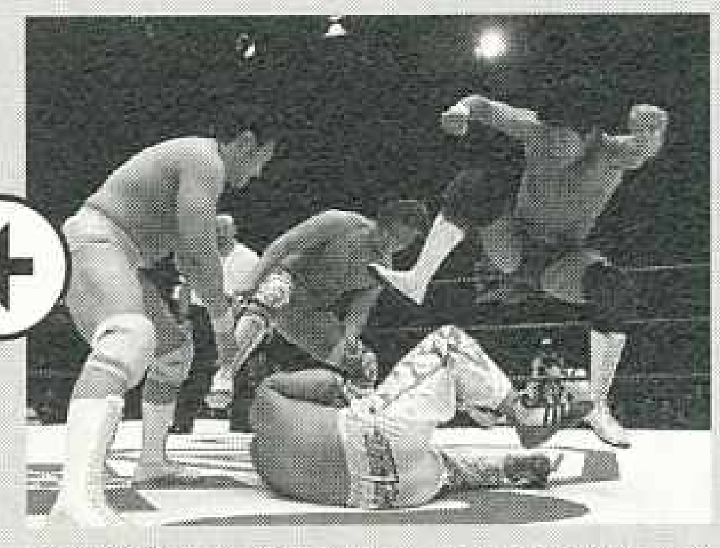
——でも、坂井さんは実際に関わられて、そういう自由な空気は感じました?

坂井　いやいや、ボクは鈴木さんはホンット怖いですもん！



鈴木みのる興行、セミ前のバトルロイヤルでまさかのスローモーションが発動！『マッスル』登場時はスローモーションを拒否していた鈴木みのるだが、あえて自分の興行に組み入れた度量に、大きな衝撃が走った。

ノアから新日本、『マッスル』まで!! 鈴木みのるデビュー20周年記念興行 バトルロイヤルとは?



まず登場したのは、新日本の内藤哲也、全日本の真田聖也、ノアの太田一平、『ハッスル』のKUSHIDAというメジャー団体系の若手4人。新日本＆全日本＆ノアが『ハッスル』を集中攻撃、新日本と全日本がノアを合体攻撃など刺激的な展開が満載！



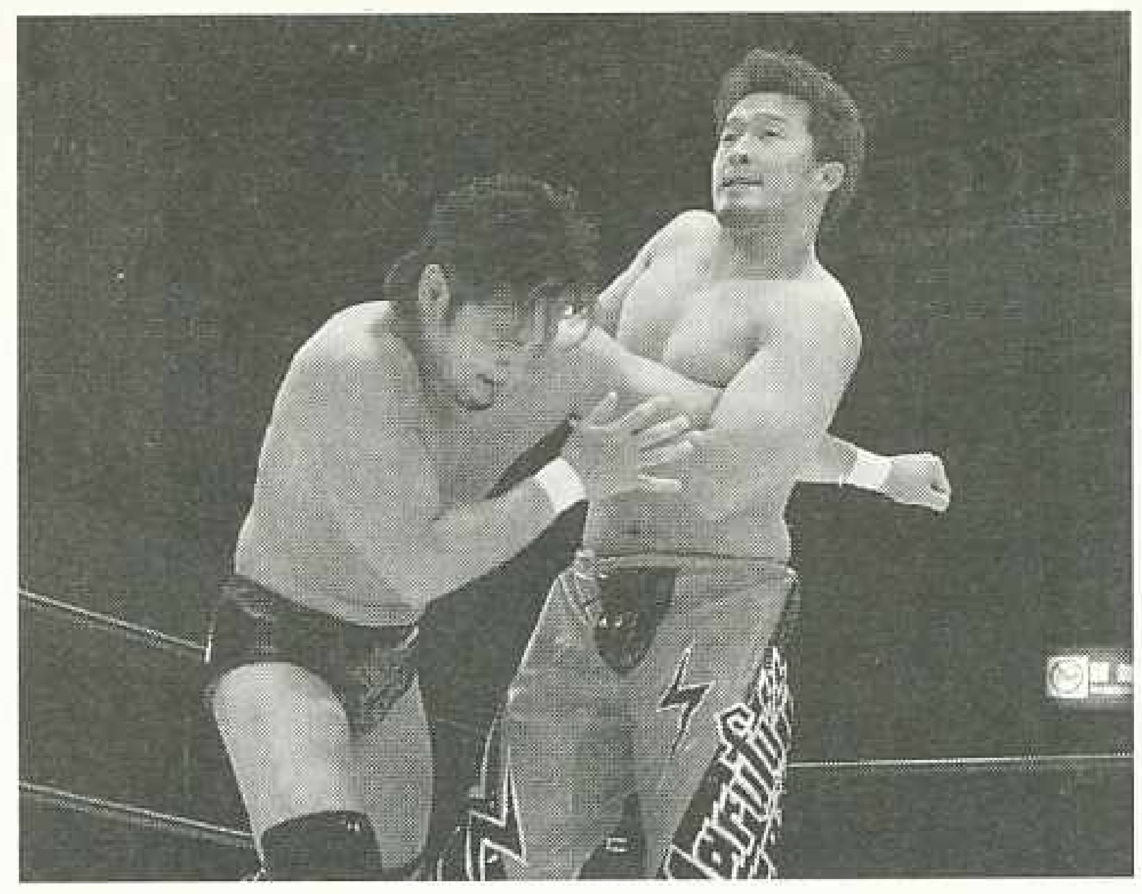
だが風香、マッスル坂井、冨宅飛駆、TAKEMURA、"brother" YASSHI、男色ディーノが登場し、リング上は一気に混迷！　さらに蝶野ルックの蝶野三四郎、ジャンボ鶴田マネのジャンボ菊、前田日明マネの荒谷日明も参戦し収拾不可能な状況に。



ようやく人数が減っていく中、「優勝賞金100万円」を山分けすべくYASSHI＆坂井＆冨宅が結託。だがYASSHIが裏切って坂井にイス攻撃！　ここでなんとスローモーションがスタートし、互いの心の声が場内に鳴り響く。さらにここに冨宅が刀を持って乱入！



YASSHIと坂井を斬り捨てた冨宅だが、自分のしたことにショックを受けて自害!!　結局、YASSHIの上に倒れていた坂井が3カウントを奪取して優勝。しかし、坂井に渡されたのは100万円"相当"の鈴木みのると対戦できる商品券だった！　ヒドいよ！



鈴木みのる興行のセミではノアの丸藤正道が鮮やかな高速ムーブ連発！　全日本プロレスのカズ・ハヤシとの顔合わせでは、互いの必殺技を打ち合うノリノリぶり。団体外の〝自由さ〟を満喫する楽しさがビンビン伝わる好試合に。

一同　ダハハハハハハ！

坂井　「マッスル～、好きにやっていいよ」とか言われても、全然怖いですから。

チョロ　鈴木さんに「マッスル」って呼ばれてるんですか？（笑）。

坂井　ええ。ミーティングしてるときもへんなアイデアを出したら殴られるんじゃないか？　っていういい意味での緊張感はありますから。

——あと今回、試合をやる上で、鈴木さんから、注意とか縛りはあったのかなって。あまりにも自由な感じでしたから。

チョロ　……縛りといえば、本誌（No・123）で「太ももを叩く（『プロレスに効果音は必要か？』）プロレス」っていうテーマの特集をヒヤヒヤしながらやったんですけど、あんまり選手&関係者から文句らしい文句も言われなかったんですよ。やっぱり、そのへんも時代なのかなって。

坂井　いや、僕は超気になりましたよ！　ホント、『kamipro』はあんなことよくやりますねぇ（とあきれて）。

——「『kamipro』だから仕方ない」って思われてるんですかね（笑）。

坂井　ま、個人的には太ももを叩いてても、蹴りが当たってないわけじゃないから、レスラーはそんなに気にする必要はないと思いますけど。

チョロ　どうやら某メジャー団体では一時期、「太ももを叩いたら罰金」っていうルールもあったみたいで。それで○○○○○とかが罰金を取られまくったっていう、まことしやかな都市伝説も耳にしました（笑）。

ガンツ　そんなこと言ってると、今度こそホントに怒られますよ!!

坂井　話を戻すと、鈴木さんの興行は選手個人個人のルールに任せてる感じでしたね。そこは、自分が出たバトルロイヤルでも感じましたけど。

——あの試合は、政治とか絶妙にいろんな事情を回避しつつ、凄くまとまってましたよね。坂井さんたちが、スローモーションやる前に、ノアの太田一平選手は男色ディーノにディープキスでKOされ、『ハッスル』のKUSHIDA選手も丸め込まれて、退場してはいましたけど。

鈴木みのるはプロデューサーとしてのポテンシャルもものの凄く高い（チョロ）

坂井　ええ。スローモーションのあいだは、メジャー系の選手はほとんどリングからいなくなってました。……やっぱりノアさんや『ハッスル』さんには気を使いますね。

チョロ　鈴木さんは全員の持ち味が出るようにプロデュースしたと思うんですよ。そういう場合、普通は気を使いすぎておもしろくなくなるのに、凄くおもしろかったんで、そのへんも鈴木さんの手腕なのかなって。

坂井　それは確実に言えますね。まぁ、スローモーションをやってどうなるかは、やってみるまでわかんないんですよ。でも、やらないでハズすより、やって怒られたほうがいいだろうって。

ガンツ　でも鈴木みのるという看板がついた興行でスローモーションがあったのは、ファンも驚いたと思うんですよ。

——そこは、この大会の肝って言ってもいい、大事なとこですよね。

チョロ　あの鈴木さんが、スローモーションを自分の興行で黙認するっていう懐のデカさにはシビれましたね。『週プロ』の表紙コピーじゃないけど。

——みのるvs高山戦の写真で「シビれたぜ！」っていうコピーですね（笑）。

ガンツ　つまり、鈴木みのるプロデューサーの中で、いまのプロレスのおもしろいものの一つとして『マッスル』のスローモーションがリストアップされてるんでしょうね。やってる内容はまったく違っても、丸藤（正道）の試合、メカマミー、そしてスローモーション、みんなそれぞれおもしろい、という感じで。

坂井　じゃあ、いまのプロレスのよさの一つにマッスル的なものがソムリエートされてるってことですか。それは凄いなぁ！（と興奮して）。

ガンツ　でも、ぶっちゃけ、あれだけメジャー系の選手がいると坂井さんはやりにくかったんじゃないですか？

坂井　よくぞ聞いてくれました。あの～、普段、バトルロイヤルってDDTや『マッスル』でもよくやるんですね。それで、今回一緒に新日本や全日本の選手、『ハッスル』のKUSHIDA選手や、ノアの太田一平選手と絡ませてもらったんですけど……。新日本の若手の方とか、ノアの若手の方とか、メジャー系の選手ってね、すんごい試合がやりやすいんですよ!!

（鼻息荒く）。

——それはプロレスラーとしての能力が高いって意味ですか？

坂井　ムチャクチャ高いです！　メジャーの人は、ちょっとつっかかったり、その間を埋めるようなスキルや、コント的なスキルも全員高い。太田一平選手もKUSHIDAくんも、もちろん〝brother〟YASSHIさんも、とにかく試合がやりやすいったらありゃしない！

ガンツ　へぇ～。あの試合は、一番政治力とかが渦巻いてる、凄く難しい試合なんじゃないかって思ってましたけど。

坂井　それが逆なんです！　みんな試合しやすいし、ウチの若手と比べたら能力が段違いですから。

——そういうメジャー系のプロレスラーのスキルの高さをうかがうと、今回みたいにプロデュースする側の才覚一つで、プロレスはもっともっとおもしろくなる可能性がある気がしますね。

坂井　一概に言えないですけど、皆さんが理想とするプロレスを目指す上で、自分たちが求めるコント的なスキルも自然と身につくのかなって。だから、今回はメジャー団体への幻想が膨らみましたね。

チョロ　全試合、鈴木みのるさんがマッチメイクして、その上、しっかりと監修してると考えると、プロデューサーとしてのポテンシャルもものの凄く高いってことですよね。

坂井　きっと「このカード、イヤだな」って思ってる人はいなかったと思います。しかもレスラーそれぞれの役回りのハードルがちょっと高めに設定されてるんですよ。そういうニンジンのぶら下げ方も凄くうまい。

チョロ　そういう自由な雰囲気っ

てあるわけですか、控室とかも？

坂井　バックステージも、みんな凄いニコニコしてるというか。選手は意外と多くなくて、控室も広々としてて。でも、気を使って自分が廊下でカバン開けてたら、レフェリーの和田京平さんが「中を使えよ」と言ってくれたんですけど、中に入ったらライガーさんと鈴木さんがいて。

――ダハハハハ！　それは入りにくいでしょうね。

ガンツ　まぁ、ノアとか全日本とか単体で観たら、古いプロレスの要素ってたくさん残ってるんだけど、そういう価値観を全部はぶいて、新しいファンにウケている旬を揃えたのが大きいのかなって。たぶんいまのノアだったら、丸藤やKENTAの試合が観たくて会場に来てる新しいファンって、けっこういると思うんですね。

――そういうファンはいるでしょうね。

ガンツ　だけど上のほうで三沢（光晴）や秋山（準）、森嶋（猛）とかがずっと主役を張ってるから、「丸藤が主役の試合が観たい」って思っている新しいファンにはもの足りないだろうし、そういう意味ではこの大会の丸藤は凄くイキイキしてたし、ほかの団体のおいしい部分もまとめて観れたから、おトクな興行なのかなって。

――そういう意味では、最近の新日本プロレスがおもしろいのも、選手のいいところをうまくピックアップしてプロデュースしてる感じがしますよね。

坂井　ホントに、いまの新日本は自由なムードを感じますねぇ。

――数年前は、やたら格闘技にこだわったり、猪木事務所とゴタゴタしたりして、いったい何がやりたいんや！　っていう感じでしたけど、いまは吹っ切れて凄くのびのびしてますから。

ガンツ　いまの新日本って、昔のファンは一切相手にせず、新しいファンだけに向けてる気がするんですよね。

チョロ　ああ、「キング・オブ・スポーツ？　なんですか、それ？」っていうくらいの。

ガンツ　おもに、そういう人たちの感性でプロデュースされてる気がする。パ・リーグだって、昔はロッテとか日本ハムも人気がなくてどうしようもなかったけど、ある時期から、昔のファンのこだわりを一時的に無視してでもイメージを一新したら、意外と人気が出ちゃった。そういう変化の仕方ってプロレス団体もできるんじゃないのかなって。

チョロ　新日本も、ガラッとムードが変わったのは、ユークスが親会社になったあたりからだもんね。目に見える部分から見えない部分まで、相当にテコ入れもあったって聞くし。

ガンツ　オーナーが替わって、強権発動ができるようになったのは大きいだろうね。

いまの新日本は、新しいファンだけに向けている気がする（ガンツ）

――ユークスは、おもいきったリストラを敢行しつつも、棚橋（弘至）＆中邑（真輔）体制を強固に押してましたよね。押してるあいだは疑問もあったけど、強引に押し続けたことで一本の柱ができた。そして、その柱だったハズの中邑のベルトをサクッと武藤（敬司）が奪っちゃうことで、もの凄くダイナミズムのあるドラマが生まれましたよね。

坂井　それをまた今度は中西（学）さんが奪還しに行くくって感性も素晴らしいですよね（笑）。

――やっぱり共同体って、いまの新日本プロレスのようにベクトルが外に向かうと健康的になるけど、内に向かった瞬間、動きがスローになりますよね。

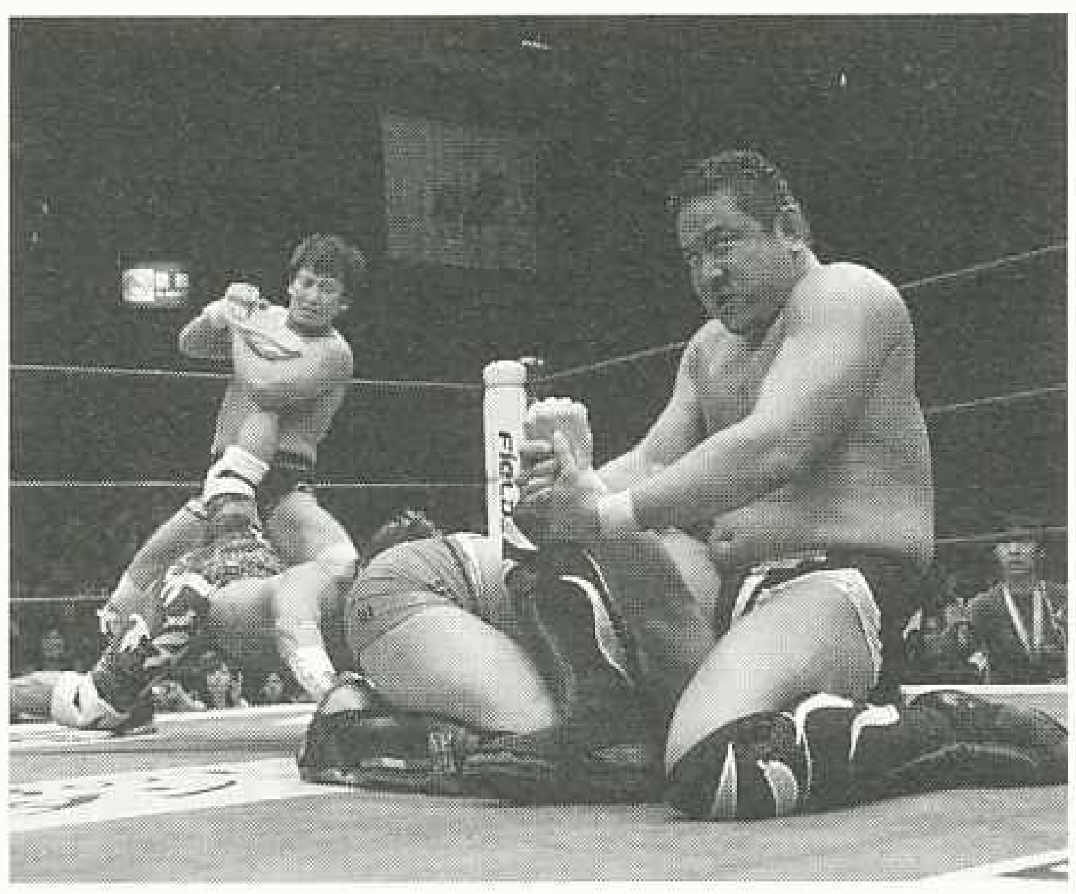
ガンツ　そういう意味では、ここ2～3年のプロレス界を引っぱってきたノアや問題提起してきた『ハッスル』、そして生まれ変わった新日本プロレスが、今後は内に向かうのか？　外に向かうのか？によってプロレス界は大きく変わっていきそうだよね。

――『ハッスル』も2～3年前は従来のプロレスのカウンターとして攻撃的でしたけど、いまは団体的な要素が大きくなってきてますから、そこは問われていくでしょうね。

坂井　僕なんかは、高田総統っていう象徴が、逆に『ハッスル』を縛ってるんじゃないかって。高田さんは、高田総統以外のキャラでも観たいですし、総統じゃなくしたほうがさらに広がりようがある気もしますね。この前、早朝にNHKの番組で子どもたち相手に30人ぶんのカレーを作ってましたけど、メチャクチャおもしろかったですから（笑）。

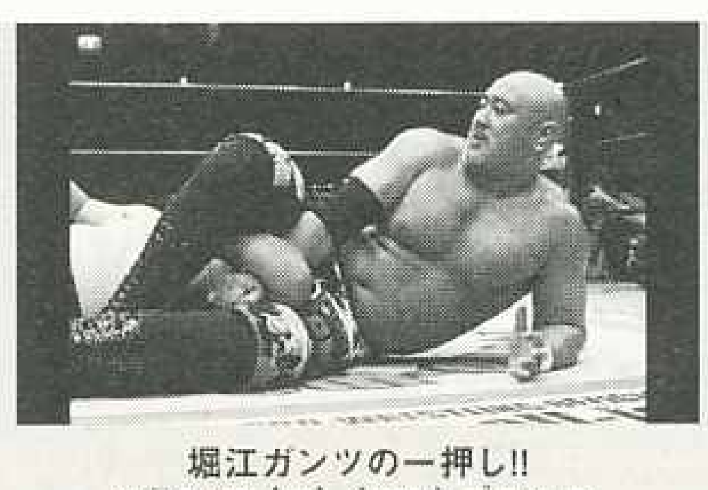
チョロ　高田総統のポテンシャルの高さは誰しも認めるところですけど、キャラを変えるってことは、もしかして……高田総統が一度死ななきゃいけないのかなぁ。

ガンツ　エスペランサーが負けたあたりで、高田総統が死ぬ場面を作ったりして、一回ストーリーのピークを作ったほうがよかったたか



どうだい、この表情!!　永田さんが白目をむくほど好調の新日本プロレスだが、"いい人" 天山をはじめ、選手の"素"を増幅させる近年のプロデューススタイルにマット界随一の豊富な人材が噛み合って急上昇!!

座談会出席者が一押し!!
この夏のオススメプロレスはこれだ!!



堀江ガンツの一押し!!
8月31日（日）全日本プロレス
『2008 プロレスLOVE in 両国 Vol.5』
東京・両国国技館

感動の馳浩引退試合からスタートした『プロレスLOVE in 両国』の第5弾。パッケージプロレスの本領発揮、毎回高いクオリティをキープしているビッグイベント。今回は武藤がベルトを保持していれば、全日本でIWGP戦の可能性も？



阿修羅チョロの一押し!!
7月27日（日）DDT
『本屋プロレス』
石川県金沢市内の『TSUTAYA』

前回は都内の本屋さんの店内～路上で激闘を展開し、200人以上の観客が熱狂！　飯伏幸太が高木三四郎に路上ジャーマンも炸裂させた『本屋プロレス』第2弾！　今度は金沢市内にある『TSUTAYA』のどこかの店内らしいが……、詳細は各自調査!!



マッスル坂井の一押し!!
8月4日（月）～10日（日）DDT
『ビアガーデンプロレス』
東京・新木場1stRING

DDTの夏の風物詩的なこの大会。とくに選手のプロデュース大会が好評で、昨年は飯伏がプロレスごっこルールで試合をしたり、マッスル坂井は試合中に怪談を朗読するデスマッチを披露など、ムチャクチャな企画満載だったが、今年はどうなる？



『kamipro』編集部の一押し!!
7月8日（火）新日本プロレス
『NEW JAPAN TRILL』
東京・後楽園ホール　※終了

編集部の一押しは、今号の発売時点ではすでに終了してしまっているが、いま編集部内で話題集中！　抗争が超激化する天山広吉と飯塚高史がついにランバージャックデスマッチで因縁清算!?　悲運の男・天山はハッピーになれたのか？

もしれないですね。ただ、誰が殺すんだっていう問題もありますけど（笑）。

坂井　高田総統なら、「ハッ……なんだ、夢か?」っていう夢オチだとしても、ファンはドッカーンだと思いますし（笑）。

――そのくらいおもいきった展開もアリかもしれないですね。これから〝呪いなきプロレス〟がさらに盛り上がってくるなら、『ハッスル』やノアももっとガツガツしてもいいと思うし。

ガンツ　でも、ホントに今回はプロレス人気が再び盛り上がる可能性が見えましたよ。いまのプロレスのおいしいところが凄くクリアにわかりましたから。

坂井　でもね。べつにひがむわけじゃないですけど、今回は鈴木さんの興行だから堀江さんもそう思われたと思うんですよ。だって言ってみれば、これもメジャーの自主興行なわけじゃないですか。

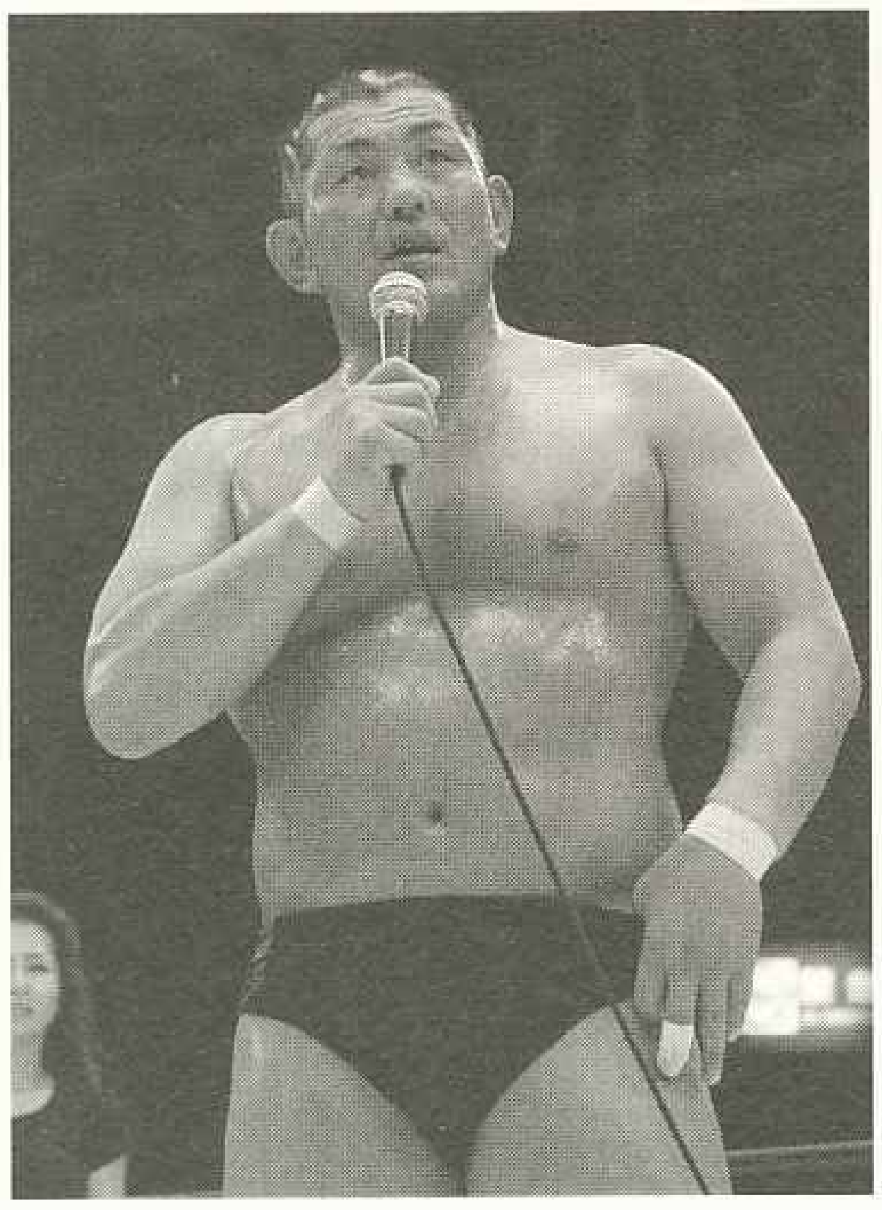
ガンツ　ああ、そういう打ち出しだからこそ、目に入ったっていうのは確かにあるでしょうね。

坂井　DDTや『マッスル』や666とか、新しいことをプロレスで表現しようとしてる団体はけっこうあるけど、単体では観ない人って多いと思うんですよ。

ガンツ　そういう品評会としてのチャンス的な部分はあったかもしれない。新日本が多団体のジュニア戦士を一同に集めた『スーパーJカップ』（94年）みたいな。ハヤブサもあそこから大ブレイクしましたから。

坂井　ああ、そういう企画、またやってほしいですねぇ〜。だって、新日本のリングで男色ディーノとか、アントーニオ本多とか、飯伏（幸太）の試合とか、メチャクチャ観たいですもん!

チョロ　いまの新日本の後楽園大会のムードを見てると全然アリって感じがしますけどね。さすがにスローモーションは難しいでしょうけど（笑）。



中村あゆみからメカマミーまで。興行のデザインそのものが評価される時代で、選手でありながら、いかんなくそのプロデュース能力を発揮した鈴木みのるは、いまやプロレス界最恐……いや最強のプロデューサーと言えるのかもしれない。

――そういう意味で、鈴木さんってヘタなプロレス記者より、小さな団体をくまなく回って、誰よりも現場を知ってますよね。

坂井　全団体をまんべんなく観に行く記者っていないですし。しかも鈴木さんは全団体のバックステージも知ってますから。

ガンツ　なるほどねぇ。でも、今回の大会を観ると、プロレスのおもしろさの芽って確実に出てきてる感はありますね。

いまのプロレスラーにとって〝強さ〟は最低限のエチケットかも（坂井）

坂井　ありますか! 僕なんかこの業界に完全に麻痺してるので、あんまりわからないんですけど……。それに最近、悩んでることがあるんですよ。

チョロ　へぇ。今年は映画監督デビューもはたして、順風満帆そうに見える坂井さんにも悩みが?

坂井　あの〜、プロレスラーとして、「強くなきゃいけない」っていうのがなくなっちゃったんですよ（真剣な表情で）。

――ダハハハハハハ! いや、笑ってしまってすみません。

ガンツ　強さやガチンコに対する〝呪い〟から解き放たれた団体の主宰者としては、あまり必要ない気もしますけど、強さのイメージは必要不可欠だと思いますね。

坂井　まあ、最低限のエチケットとして。

――ああ、〝強さ〟はプロレスラーのエチケット! それは言い得て妙ですね。

ガンツ　大きい団体のメインイベンターには強いイメージは必要でしょうね。チャンピオンがベルト巻いてて弱そうに見えるのは論外だけど、ガチンコが強くなくてもべつにいいというか。

――こないだ新日本の道場に行ったら、あたりまえなんだろうけど、合同練習でもないのにトップレスラーたちがガンガン練習やってて凄く感心したんですよね。やっぱり人前に出る以上、エチケットは大事なんだなあって。

坂井　そこはエチケットですよ。プロレスといっても、あくまで勝ち負けを見せるわけですから。

ガンツ　だからWWEにしても弱そうなチャンピオンって絶対にいないですもんね。鈴木さんだって、最近は本人も「総合やったら、ちっちゃい団体でやってる若い選手にいかれちゃう」って自嘲気味に言ってますけど、今回の大会でメインイベントを張ったときは、どう見ても「鈴木強い」って思いましたから。強く見えるって凄く大事だよね。

――そこはトップレスラーのエチケットとして、キッチリ表現したんでしょうね。

ガンツ　やっぱり「プロレスは一本芯がなくちゃダメだ」っていう部分は強烈に持ってる人だよね。興行の中にちゃんと〝強さ〟を表現しないとダメだって信念があるだろうし。だからメインは高山（善廣）とあういうハードな試合をやったんだろうね。

――そういうエチケットの気配りがありつつも、ミスター高橋本の〝呪い〟を受けている世代の鈴木さんが、いま時空を越えて、〝呪いなきプロレス〟と邂逅したってのはドラマチックですねぇ。

ガンツ　エチケットを踏まえつつも、そういう新しい息吹には注目していきたいですね。今後はなるべく会場に行くようにして（笑）。

――この号には間に合わないんですけど、とりあえず、天山（広吉）vs飯塚（孝之）のランバージャックデスマッチなんか編集部一同が期待しまくってますし。

チョロ　僕はどうしても『マッスル』に期待しちゃうんですけど。どうですか、坂井さん?

坂井　いや〜。僕はまだまだエチケット不足だし。最近は相当に不安で、不安になるとトレーニングしてますね。

ガンツ　まぁ、ゴムチューブを引くぐらいしかトレーニングはしなかったジャンボ鶴田って人もいましたけどね（笑）。

坂井　そう! ジャンボさんは不安なんかないんですよ。闘魂三銃士の人たちも人前で悩んでる姿って見たことないし。高木三四郎も悩まない。一流レスラーは基本的に明るいですから。僕はまだまだだなぁ〜。

――そのへんは、個人的に頑張ってください（笑）。ありがとうございました!

【08年6月27日／都内・『kami-pro』編集部にて収録】

アメリカで武者修行中！

長南亮ブログ 大人気連載中!!

kamipro Hand

6月17日のブログ「開始」より

こんばんは。今日よりblogを開始させていただきます長南です。

アメリカの日常や格闘技について毎日更新していくのでヨロシク。

といっても、いまは日本滞在中だからアメリカじゃなくて申し訳ない……でも昨日試合で負けた馬鹿アメリカ人もなぜか一週間延長で滞在中。

メイヘムの試合は終わったから、怪我人な俺は家族との時間を大切にするためメイヘムは放置プレイ。

ホテルをチェックアウトしてから、メイヘムを若手格闘家の共同アパートに放り込んでおいたけど、それでもヤツは動き出し、東京駅やら銀座や渋谷、俺の友だちにまで連絡して遊び回ってる模様。

「トーキョーカッコイイ」と電話で言ってたが「オレハ、ツカレタ」とも言っていた。

6月18日のブログ「メイヘムの愚痴」より

メイヘム（＝ジェイソン・ミラー）と夜遊びに来たけど、ジャージで出てきたために洋服を買ってるところ。

しかし、なかなか合うサイズがなくて苦戦中。ガイジンのメイヘムはまたもや「オレハ、バケモノ、サイズがない」と愚痴をこぼす。

6月25日のブログ「チップ」より

今日は宅配寿司を一人で食った。こっちはレストランなんかに行くと必ずチップを払う。

日本人の俺から言わせれば、たいしたサービスもできていない奴がなにがチップだと思うのだが、今日の寿司屋の若造もかなり態度が悪かったから、ほぼピッタリの札を払って「サンクス」と言ったら、若造は札を見渡した後に睨んで帰っていった。おつりの60円ぐらいはくれてやったのに……。

ちなみに、雷暗暴は癒し系アメリカ人のくせにチップは絶対払わないと豪語する。

日本人と一緒に「ガイジンはパワーがある」と言ってしまう男は流石である。

6月26日のブログ「10th Planet」より

今日はいつものボクシング練習のほかに、ひさびさとなるけどエディ・ブラボーのクラスに参加した。UFCを控えたダン・ハーディーがいて寝技のスパーをしたけど、ストライカーの彼は寝技は勉強中という感じ。

でも真面目な好青年だったから今度一緒にMMAの練習をしようと約束。もっと伸びるに違いないけど同階級、俺もまだまだ！

6月27日のブログ「RADIO FACTION」より

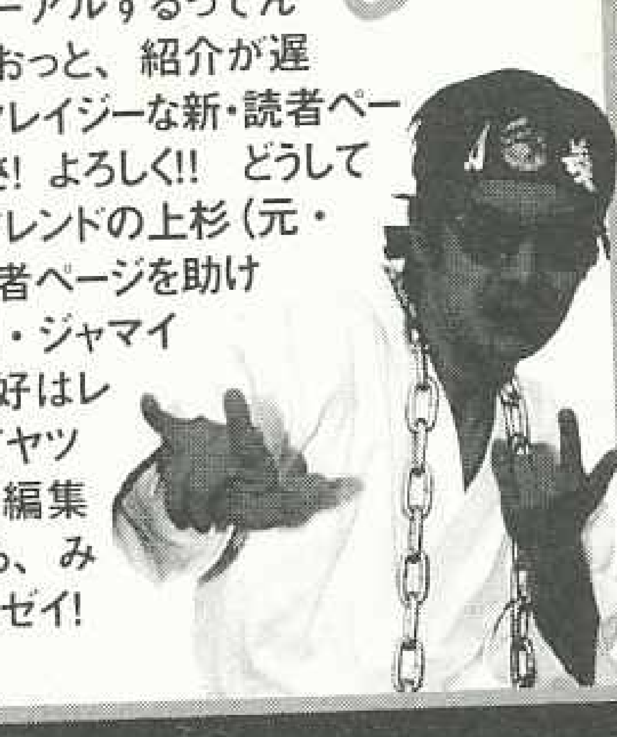
午前中にランニングとボクシング練習を終えた後、ジェイソン・エリスというプロスケーターのラジオ番組に出演。

この番組にはひそかに俺のコーナーが存在して、有名な芸能人や映画のタイトル、曲名などちょっと発音が難しそうなものを俺が読み上げ、何と言ってるかを視聴者が当てるというコーナーがある。

ダウンタウンの番組でジミーちゃんがやってたような記憶があるので屈辱的だが、みんなが喜んでくれれば本望だ。

続きはkamipro Handへアクセス！
ニュース、試合も毎日速報！ そのほかコラムも充実!!

『kamipro』の読者ページがリニューアルするってんで、ダッシュで駆けつけてきたぜ! おっと、紹介が遅れちまったな。オレはファンキーでクレイジーな新・読者ページ担当、その名も“読者ペイジ”・ジャクソンさ! よろしく!! どうしてオレがやってきたかって? それは、ベスト・フレンドの上杉(元・『kamipro』編集部員)に「ちょっと、読者ページを助けてやってくれよ!」って頼まれて、レゲエの国・ジャマイカからやってきたってわけさ! え? そんな格好はレゲエじゃない? 遅れてるなあ。和洋折衷ってヤツさ! ククク。ま、月に一回『kamipro』編集部にやってきて、このページを作っていくから、みんなも応援してくれよ! んじゃ、さっそく始めるゼイ!





JULY号へのお便り紹介

青木真也インタビューがおもしろかった。青木真也、この夏、この男を見逃すな! 大好きで、有言実行で、ヒーローズをぶっつぶしてくれるから。
【神奈川県・馬場みゆきさん・自営業・53歳】

Dおっと、これはしょっぱなからアグレッシブなレディの登場だ! そんなにシンヤ・アオキが好きなのかい? じゃあ、DREAMでのシンヤもいっぱい応援してやってくれよ! 頼んだぜ!

谷川貞治×笹原圭一対談がおもしろかった。よく〝黒魔術〟って言われてますが、谷川さんが一般層をいかに取り込もうと努力してきたか、また反面、『HERO'S』がなぜブレイクしきれなかったのかわかりました。でも、格闘技全般でみれば、最近では一番の功労者ではないでしょうか。
【北海道・打矢鉄山さん・会社員・38歳】

Dサダハルンバに強い味方のお出ましだい! でも、この投稿のとおり、サダハルンバはホントに凄いよな! 今号にもインタビューが載ってるから、ぜひ読んでくれよ!

DEEP佐伯代表とZST上原広報の「格闘技プロモーターはつらいよ対談」がおもしろかった。佐伯さんがうちの課長とかぶって、笑いながら読んでみました。
【宮崎県・長嶋宏哉さん・公務員・42歳】

Dこいつぁ、おもしろい!(笑)。確かにシゲルは「課長」って感じもするかもな! アッハッハッハー! おっと、失礼。でも、いい線ついてるぜ!

インリンのインタビューがよかった。本当にインリンこそが『ハッスル』だと思う。2〜3年後に新しいキャラで戻ってきてほしい。
【宮城県・中川義雅さん・会社員・42歳】

Dホント、インリンに関しては、ミス・ユーって感じだ……。でも、ちょっと待てよ。インリンの子どものニューリンってのは、あれはいったいどこに行ったんだい!? こりゃ、とんだミステリー勃発だぜ!

呪いなきプロレス団体『マッスル』大特集がおもしろかったです。マッスル坂井が制作者の視点で登場人物を紹介しているのが興味深かったですね。7 26が密輸に慣れてるとは!
【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

Dサカイってヤツは、ありゃ、いったい何者なんだい!? オレよりファンキーでモンキーでインテリジェンスな男は初めてだ。アッハッハー! でも、サカイがやってりゃ、『マッスル』もおもしろいはずだ!

W・シウバインタビューでの「桜庭、俺はまだ闘ってるぞ。そしてこれからもな」はひさびさの名言だと思います。PRIDEファンで、このセリフにグッとこない人はいないと思います。
【宮城県・カト↓さん・エセ宗教家・37歳】

D日本人、そしてPRIDEファンだけじゃなく、ヴァンダレイのこの言葉は万国共通ってことさ! ただ、こんなセリフが似合うのは、ヴァンダレイと青島刑事ぐらいだから、注意しろよ!

中村大介インタビューがよかった。『DREAM・3』で初めて試合を観た。「総合で通用するU」を実践するおもしろい選手だと思った。インタビューを読んで愛すべきバカとわかった。これから応援していきたい。
【東京都・並木訓さん・会社員・33歳】

D〝バカ〟ってのは『kamipro』ではほめ言葉なんだって? なんてクレイジーなヤツらなんだ。だた、ダイスケはホントに赤丸急上昇なボーイだからな。見逃すなよ!

「幻想の逆襲 ホジャー・グレイシー」がよかった。グレイシー最強と言われつつも、控えめなホジャーの総合に対する考え方がよく伝わってきておもしろかった。
【山口県・武田英人さん・47歳】

Dホジャーにも『戦極』ポーズってのが届いてるのか、オレとしてはそれが気になるところだ。でも、ポーズとしては、オレはアウトサイダーポーズのほうがイカしてるって思うんだけどな! みんなはどうだい!?

カミスペJULY号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1	ヴァンダレイ・シウバ
NO.2	青木真也
NO.3	谷川貞治×笹原圭一
NO.4	『マッスル』特集
NO.5	佐伯繁×上原譲

賢明な読者のことだから、次々発売されるカミスペも、もちろんゲットしていることだろうな。さすがワイズマンな読者だぜ。もう、このランキングを見ただけで、いかにインタレスティングな特集が勢揃いしていたかがわかるだろ? もし、まだ買ってないボーイズ&ガールズがいるのなら、本屋に即行ダッシュだろ? アッハッハッハ!



東京都・サカモトカズヤさん/Oh! これはDREAMライト級GP優勝予想ぶっちぎり1位のカオル・ウノだね! そっくりだぜ! ……おっと! でも、DREAMのグローブは青ってことだけ覚えといてくれよ! ま、モノクロじゃわかんないか!



東京都・菊池信人さん/なんだかわからないけど、デッサンハガキ、サンキュー! パンチを受けてるのがモンターニャ・シウバに見えるのは、ひょっとしてオレだけかい!?

最終回

さあ、明るい未来への列車に乗ろう!

上井駅長の人生相談

読者ページをリニューアルしても、駅長が相談に乗ってくれるなんて、心強いぜ! ……え!? 今回が最終回だって!? 駅長、そりゃないよ……。でも、列車が発車するのならしかたがないか……。最後の相談も、気合いを入れて答えてくれた駅長の男気を、みんなで読もうぜ!

新規担当ページを任されて不安です

お悩みごと

■仕事に関するお悩み
(東京都・匿名希望・♂)

雑誌の仕事をしています。このたび、先輩の仕事を引き継ぎ、新たにページを任せてもらえるようになりました。そのこと事態は凄く嬉しいのですが、やはり新しいことをするのは不安でなりません。上井駅長はいろんな新しいことを開拓されてこられた方ですよね。非常に厚かましいですが、こんなボクにエールを送ってもらえませんか? 熱いメッセージをよろしくお願いします!

上井駅長

新しい仕事ねえ。ボクも営業で初めて広島県とか島根県とか、あと和歌山県とかもあったかな、そういう地域を任されたときは本当に同じ気持ちだったねえ。だいたい地方で興行があるときは、大会の1ヵ月前ぐらいにアタッシュケース二つ持って各県に入って、2週間後ぐらいに一回東京に戻るようなサイクルになってたんだけど、初めての場所なんか、ホテルの窓の外を見ながら「2週間後ぐらいには、いい気持ちで東京に帰れるといいな」とか考えてましたよねえ……(しみじみと)。

でもね、大切なのはやっぱり自分の個性を大事にすることですよね。人と違うことをしていかないといけませんよ。もちろん、同じことをすることも大事。でも、その中で独自性をいかに出していけるかが勝負どころだからね。あとは、雑誌の仕事だからきっとインタビューとかもあるんだろうけど、やっぱり人との関わりを大切にすることですよ。人とたくさん出会う、本を読む、そうやって見聞を深めることを大切にしたいよね。これは、雑誌の仕事じゃなくても一緒ですよ!

あとは、新しい仕事を任されるというのは、絶対に上の人の期待があってのことだから、それを裏切るようなことをしてはいけないね! どんな先輩だって同じ道を通ってきた人なんだから、「任せるからには、ここまでやってほしいな」ってのがあるはずだから。

でも、まだきっと若いんでしょ? この人は。それならおもいきってやってほしいね! 自分じゃわからないかもしれないけど、きっとあとあと自分に返ってくることだから。そう信じて頑張ってください!

クックック。気がついたかい? これ、オレの悩みだ! 俗にいう〝職権乱用〟だな! アッハッハッハ! でも、安心したぜ! 上井駅長、勇気づけてくれてサンキュー! オレ、頑張るぜ!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!
"読者ペイジ" ジャクソン

124号へのお便り紹介

KEI山宮のインタビューがよかった。KYと言われながらも頑張ってる山宮さんのパンクラス愛に感動しました。船木さんの素晴らしいマッドネスぶりにもビックリしました。読んでて、なんだか人生について考えさせられました。
【大阪府・阪本昌嗣さん・専門学校生・25歳】

Ⓓボーイ、『kamipro』のインタビューで人生を考えてしまったのかい？ でも、確かにヤマミヤの話はグッとくる。あと、フナキのクレイジーさにもグッときたぜ！

「むき出しの桜庭和志」にはグッときました。これからのサクがどうなるのか……。いろいろ考えさせられました。
【埼玉県・勝美恵一さん・高校生・18歳】

Ⓓおっと、こっちも悩めるボーイなのかい？ え？ 18歳？ そりゃ、しかたないな。オレも18の頃には物思いにふけったもんさ。いまじゃ、頭ん中からっぽだけどな！ アッハッハッハッハ！

野村潤一郎先生のインタビューがよかった。先生の迫真すぎる演技が笑えました。それと、ムタがよそで作った子種が成長して『ハッスル』に参戦したらおもしろいと思います。
【北海道・安倍正典さん・フリーター・35歳】

Ⓓ演技ならオレも負けないぜ！ いくぜ！「……べつに（エリカ様調で）」。クックックック。どうだい？ え!? 古すぎるって？ そこは大目に見てくれよぉ……。

宇野薫選手の記事がよかった。理由は、全試合レビューを見て、宇野選手は凄いなあと思ったし、闘ってる姿もの凄くかっこいいなあと思いました。本当に格闘技が大好きで真面目な性格だなあと思ったし凄さが伝わってきてよかったです。
【福井県・大平一さん・無職・31歳】

Ⓓここにもカオルの応援団がいたぜ！ この人気だったら、DREAMでもカオルが優勝しちまうかもしれないな！ イエイ！

宮戸と周富徳の対談を読んでだら、無性にチャーハンが食べたくなりました。周さんはそのへんの若手プロレスラーよりもよっぽどレスラーらしい発言をしてて最高！ やはり「かわいがり」は闘いに不可欠だと思います。熱いおたまは嫌いだけど。
【宮城県・毒柴さん・脳内ジゴロ・37歳】

Ⓓ「かわいがり」なんて、そんなスケアリーなこと言うなよお。でも、Mr・ミヤトのインタビューはいつもヒートアップしてて最高だぜ！

エメリヤーエンコ・ヒョードルがよかった。ヒョードル選手の闘いは、どこで闘おうが気になります。ヒョードル選手から「必ず日本へ行きます」とあったので、楽しみにしたいと思います。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

Ⓓそりゃ、世界最強に興味がないヤツのほうが、オレにとってはクレイジーだぜ！ 日本での試合のときは、オレのぶんもチケットとっておいてくれよな！ クックック。



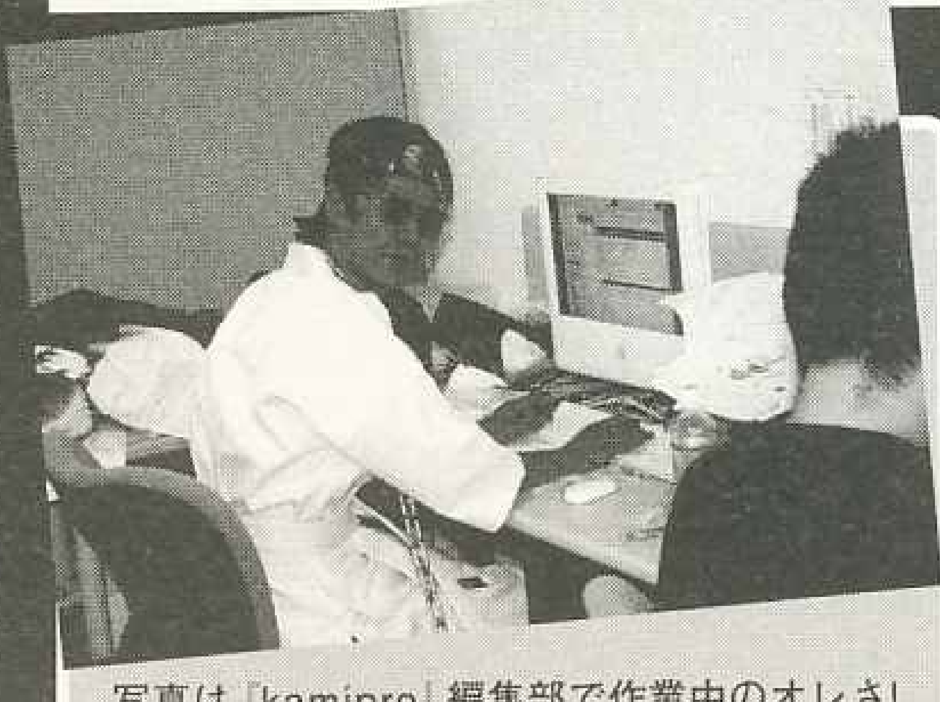
アフリクション番長戦争！ 絵がよかったのと、マンガ雑誌のことが出てきましたが、MMAのことをマンガ雑誌にたとえたのは「あー、なるほど」と感じました。ちなみに、ボードッグはマンガ誌にたとえると、吉本が出した雑誌に思えた自分でした。
【北海道・清水川泰さん・フリーター・28歳】

Ⓓパンチョーってヤツにはオレも憧れたなぁ……（しみじみと）。スケバンの子分だったオレにとっては、パンチョーは一般人から見るアレキサンダーみたいなもんさ！

124号
おもしろかった記事
RANKING

NO.1	KEI山宮
NO.2	特集・親殺しとは何か？
NO.3	青木真也
NO.4	アントニオ猪木
NO.5	宮戸味徳×周富徳

124号も全部読んだかい？ え？ まだ読んでないヤツがいるんだって？ それじゃ、ランキングの説明をしなきゃいけないなあ。でもよお、しっかりしてくれよ。こっちだって意外と忙しいんだぜ。今度からは、ちゃんと読んでから次の号を買うように！ じゃあ、説明に入るとすると……おっと！ もうスペースがないのかよ！ 編集さんよう。ちょっと、しっかりしてくれよな！



写真は『kamipro』編集部で作業中のオレさ！ 恥ずかしいから撮るなって言ったんだけど……なかなか男前に撮れてるじゃないか。もったいないから載せちゃうぜ！



神奈川県・亜衣さん／こおっと、これはサイコーにナイスガイなヨアキムじゃないか！ イレズミのデッサンに自信がないだって？ そんなこと、ドント・マインドだぜ！



大阪府・剣洋人さん／このモンキー顔はシンヤ・アオキだね！ う～ん、なかなかいいセンスしてるよ！ 画家志望なら、オレの友だちにいいアーティストがいるから紹介してやるぜ。ウソだけどな!!



福岡県・江本洋さん／こ、これがケンサクかい!? 確かに、髪型は似てるけど……、知ってるか？ ケンサクにはヒゲはないんだぜ。一瞬、水島新司かと思ったぜ！ 頼むよ！

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ！

こんな情報も24時間どんと来い！
ってヤツだ。
- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「祝！ 読者ペイジ」係まで。

携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできるぜ。

今月のタレコミ
本誌・鈴木祐はクレイジーな『週プロ』投稿者だったなんて！



いきなりショックなネタを披露しちまったんで、ちょっとビビってるのかい？ そこはちょっとビッグハートで迎えてくれよ！ というわけで、ご覧の事態さ！ 1枚ならともかく、こんなにたくさん載ってるってことは、5倍は送ってるな！ 読者ページ担当としては、ジェラシーだぜ。今度からは『kamipro』にも送るように！ って、編集部員なのにそれはないか！ アッハッハッハ！

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

DVD

シャキーン!! 旗揚げ戦は『戦極』戦士が勢揃い!!

地上波未放送!『戦極~第一陣~』の発動するリアルなDVD、いざ!!



ついに『戦極~第一陣~』のDVDが、出るぞ!! 吉田秀彦、ジョシュ・バーネット、五味隆典、三崎和雄、藤田和之、瀧本誠、川村亮といった『戦極』を支えるツワモノたちが一堂に会した旗揚げ戦をDVDに完全収録! 三崎のマイク、五味の激勝、ジョシュと吉田の死闘、そして「おまえら、まだ夢(DREAM)を見ているのか?」という刺激的な煽りVなど、『戦極』の名場面を目撃せよ!!

★『戦極~第一陣~』(よしもとアール・アン)

★定価5,040円(税込) ★8月13日発売 ★収録時間168分

DVD

日本人初の柔術黒帯の中井祐樹が解説!!

総合格闘技を10倍楽しむDVD! 格闘技をやる側も観る側も必見!!



元修斗ウェルター級王者にして、日本人初のブラジリアン柔術黒帯の中井祐樹が、あらゆる関節技からの逃れ方を徹底解説! 自身もかつてはヒクソン・グレイシーとのバーリ・トゥードも経験し、柔術家としても世界の寝技師らとの対戦も豊富。現在は“世界のワオ木さん”こと、青木真也も指導。高阪剛と並ぶ格闘技界の理論派、中井祐樹の技術解説で寝技の極意を学べ!!

★『関節技逃れ方大全Vol.1』出演/中井祐樹、半谷泰佑 監督/若林太郎(クエスト)

★定価 5,880円(税込)★7月19日発売 ★収録時間120分

DVD

熱き闘いをDVDでコンプリートせよ!

08年のK-1MAX2大会がDVD化 HIROYAvs藤鬥嘩裟を堪能せよ!!



08年のK-1 MAXのDVD第一弾が登場!! このDVDには2.2『日本代表決定トーナメント』、4.9『WORLD GP 2008開幕戦』の2大会が収録されているが、本誌のお勧めは、ついに実現したK-1 YOUTH幻のカード、HIROYAvs藤鬥嘩裟の一戦! 両者による感情ムキ出しの試合は、MAX勢とは異質な緊張感を生み出している。特典として収録されている試合前の公式会見での両者の意地の張り合いも含め、すべて堪能すべし!

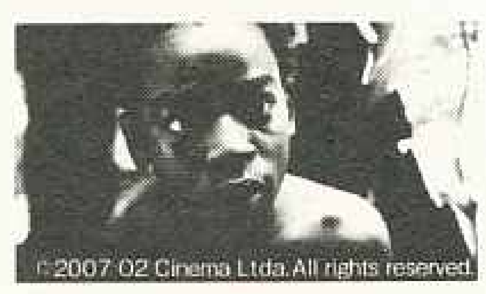
★『K-1 WORLD MAX 2008 Japan Tournament & World Championship Tournament -FINAL16-』

★定価6,090円(税込)★7月23日発売(TCエンタテインメント)

MOVIE

ブラジル映画『シティ・オブ・ゴッド』の衝撃再び!

スラム街に生きる少年たちの現実がプロレスラー&格闘家を圧倒!



©2007 O2 Cinema Ltda.All rights reserved.

今夏、ブラジルのスラム街に生きる少年たちの物語『シティ・オブ・メン』が公開!! 衝撃の内容は格闘家&レスラーをも圧倒し、武蔵「人間同士助け合うことが大切」、船木誠勝「この環境では自分が神になる必要がある」、ミノワマン「『何が大切か?』を親が子どもたちに教えること」、中邑真輔「生きている実感をくれる作品」と唸らせた。地球の裏側の現実を体感せよ!

★『シティ・オブ・メン』(配給/アスミック・エース)

★8月9日(土)より、渋谷シネ・アミューズほか全国ロードショー

EVENT

ユリオカ超特Qのライブに棚橋が参戦!!

プロレスネタ満載のトークバトル! お笑い&プロレスファン爆笑必至!!



芸能界屈指のプロレスファンで、ドラゴンこと藤波辰爾のモノマネ第一人者のユリオカ超特Qが、今度はプライベートで親交のある棚橋弘至とトークバトルを敢行ッ!!(料金:2,500円+ドリンク代500円)。これまでもドラゴン、金本浩二、中西学など、幅広いモノマネレパートリーを披露してきたが、今回のライブではついに棚橋のモノマネも解禁!? プロレス&お笑いファン必見!!

★「棚橋弘至vsユリオカ超特Q スーパートークバトルVol.1」出演/棚橋弘至、ユリオカ超特Q

★開催日/7月26日(土)★場所/池袋3~Tri~ 開演14:00&16:00

COMIC

プロレス界に生きる男たちの熱き真実!!

原作TAJIRIの物語がマンガに! 泥臭い男のロマンに酔いしれろ!!



現在ハッスルで大活躍中のTAJIRIと『江戸川ハートブレイカーズ』など、無闇に熱く不器用な男を描くマンガ家、須田信太郎がタッグを結成! 若手時代には専門誌で厳しく批判されたTAJIRI、一方の須田氏もマンガ家以外に、あらゆる仕事を経験してきた苦労人。そんな両者の魂が結実した作品「ムーンサルトじいさん」は『漫画サンデー』7月15発売号に掲載予定! 見逃すな!!

★「ムーンサルトじいさん」作/TAJIRI 画/須田信太郎

★『漫画サンデー』(7月15日発売号) ★定価290円(税込)

BOOK

選ばれし者の不安と恍惚、二つここにあり!?

新たなUWF本が宝島から登場!! 狂った季節の熱を読み解くべし!!



4.29『DREAM.2 ミドル級GP開幕戦』で実現した船木誠勝vs田村潔司戦。当時、社会的現象にもなった異様なUWF熱を、かつての日本赤軍になぞらえながら表現した佐藤大輔氏入魂の煽りVにより、UWFの再評価の機運が高まりつつある。そんな中、宝島から新たなUWF本が刊行!! UWFの設立者である新間寿、反勢力の武藤敬司など、当時を知る要人のインタビューも収録。プロレスと格闘技のはざまを漂流した“実験団体”の真実に迫る一冊! 必読!

★『U.W.F.伝説』宝島編集部著(宝島SUGOI文庫)

★定価460円(税込)発売中

KAMIPRO COLUMN コラム



イラスト◎師岡とおる

第33回

今回はしめきり早かったなぁ(6月27日)

花くまゆうさく

リングの汁

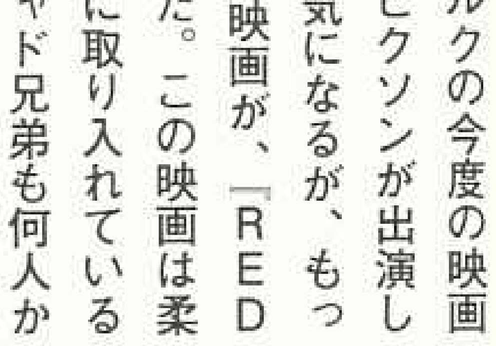
超人ハルクの今度の映画に、ヒクソンが出演しているので気になるが、もっと気になる映画が、『REDBELT』だ。この映画は柔術を大々的に取り入れているので、マチャド兄弟も何人か出演している（私のアイドル、ジャン・ジャック・マチャドも）。ほかにも、ダン・イノサントやランディ・クートゥアーやエンセンの名前が出演者の中にあった（イズマイウの名前は当然なし）。

おそらく日本公開はないだろうから、輸入版DVDで観るしかないかな。それか数年後、テレビ東京でひっそり放送してそう。

そんなことを思いながら、『DREAM・4』をPPVで観る。すっかり〝バカサバイバー＝青木〟となった青木入場を観ていると、どうしても（杉江）アマゾン（大輔）のことが脳裏をかすめる。もともとはアマゾンのネタだったのに、ちとかわいそう。

それにしても、つまらないスタイルの代表的な存在である永田選手を、抱きつき以外に何もさせずに青木選手が極めてくれたので、心底気持ちがいい第1試合だった。この試合だけで、もう今大会は大成功。

そのあとのライト級トーナメント抽選。青木vs宇野、アルバレスvs川尻になってくれと、念を送ってたら、そのとおりになったので、これまた気持ちよかった。あの組み合わせがベストだと思う。青木vsアルバレスだと、どっちかが決勝戦に確実に消えてもったいないし、青木vs宇野戦はとても興味深いので。



ジャカレイvsメイヘム。どちらも桜庭戦が観たかったので、二人に潰し合いさせてもったいないなあと思いながら観てた。

ジャカレイ勝っているんだけど、根負けしそうな感じにまでなり、メイヘムおそるべし、と痛感。プロレスラーがなかなかできない理想な姿（ムチャクチャしながらも強い）をリアルファイトで実現させてしまうメイヘムがやってきて、ミノワマンや柴田選手は危機じゃないだろうか。秋山戦も、メイヘムに持っていかれちゃうかも。

あと、メイヘムは映画『ガキ帝国』のケン（趙方豪）に少し似ているので好感持てる。次は桜庭戦や秋山戦が観たい。ミドル級トーナメントはジャカレイに優勝してほしいね。

ミルコのグラップリングマッチ発表されたとき、そういうのやれんならミルコでなく、昔からここで言ってるけど、桜庭選手でやってくれと思った。

寝技強い人vs桜庭戦なら、興味深いカードはまだまだたくさんある。マヌーフ戦とか打撃戦より、こっち方面のほうが観たいし、全然興味深い。



Hanakuma Yusaku
◎8月渋谷アップリンクで『人間爆発』上映します。

kamipro Handで好評連載中！ **kamipro事件簿“出張版”**

ジョシカク絶体絶命
～7.24スマックはどこに!?～

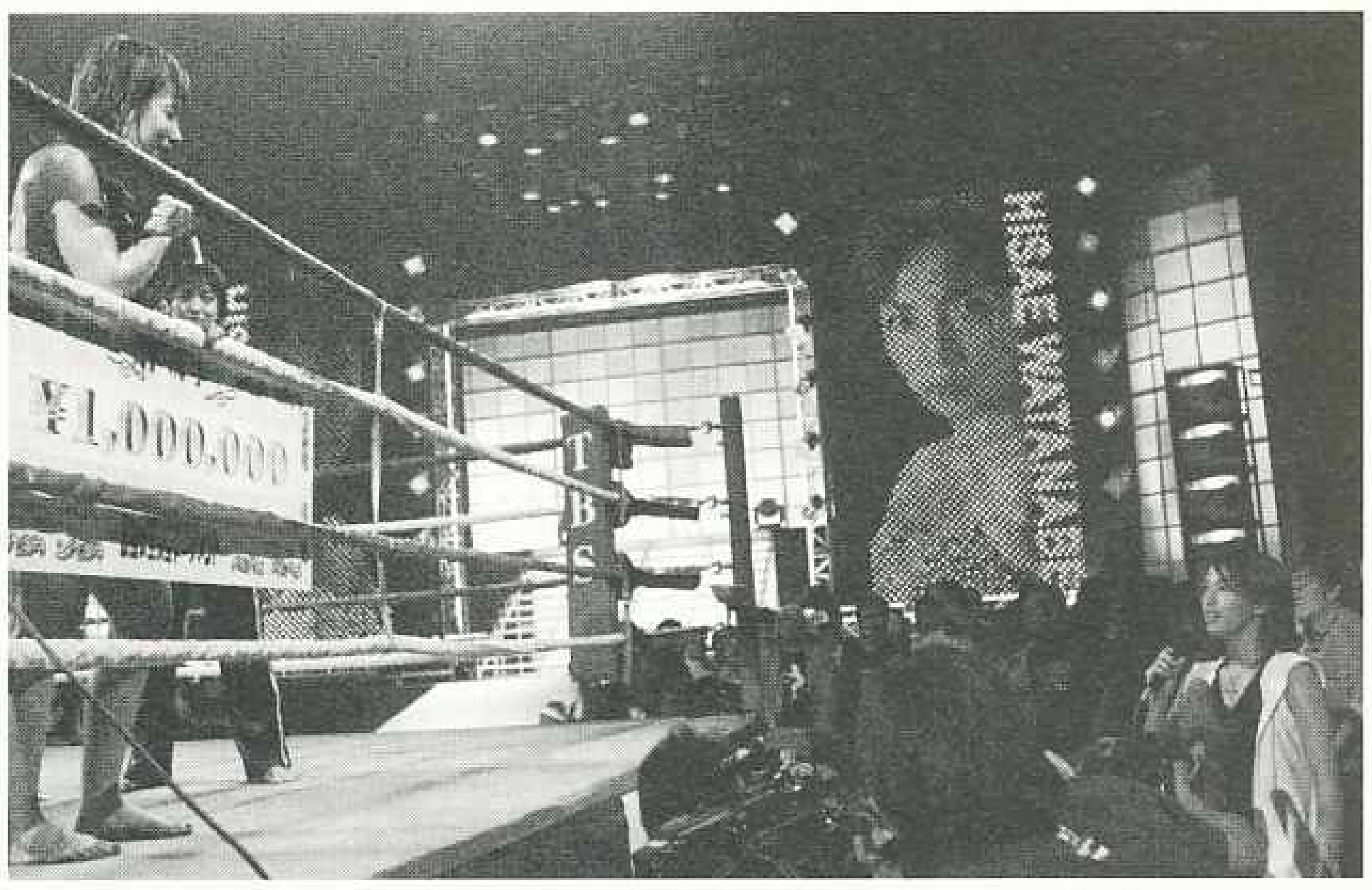


局地的に大注目を浴びた（まあ正しくは、局地的にしか注目されなかった）ターザン山本！編も終了し、ひさびさにシビアな現実に目を向けてみよう。

今年に入って『DREAM』と『戦極』の2大メジャーイベントが発足し、ひさびさに活況を呈している感のある格闘技界だが、その陰で深刻な事態に陥っていそうなプロモーションもある。中でも気になるのは、7月24日に後楽園ホールで『WORLD ReMixトーナメント』ライト級・無差別級の決勝戦が行なわれる予定となっているスマックガールの現状だ。

というのも、この原稿を書いている7月4日時点で、大会に関する詳細がまったく発表されていないのだ。当日まで3週間を切り、決定カードは前述のトーナメント決勝戦2試合（藤井恵vsアンナ・ミッシェル・タバレス、赤野仁美vsジュネル・マルケス）のみ。この2試合は前回、4月25日に同じ後楽園ホールで行なわれた準決勝戦の結果により決まったカードであり、新たに主催者側から発表されたものはない、ということだ。

3大会にまたがって行なわれる、4年に一度のトーナメント決勝。通常なら大会を前にして、なんらかの記者会見なり、日本人選手の公開練習なりが行なわれてしかるべき時期だろう。だが団体側から出される公式リリースも、前回大会の公式記録が掲載された4月26日付のものを最後に途絶えている。もちろん、大会間隔が離れている時期には間が空くこともあるが、今年最大といってもいい大会を前にしては沈黙が続きすぎている。



04年5月に開催されたTBS主催の最強女王決定トーナメントで優勝したのは先日引退を表明した渡辺久江。試合後、渡辺と水野裕子がマイク合戦を展開……なんてこともありました。

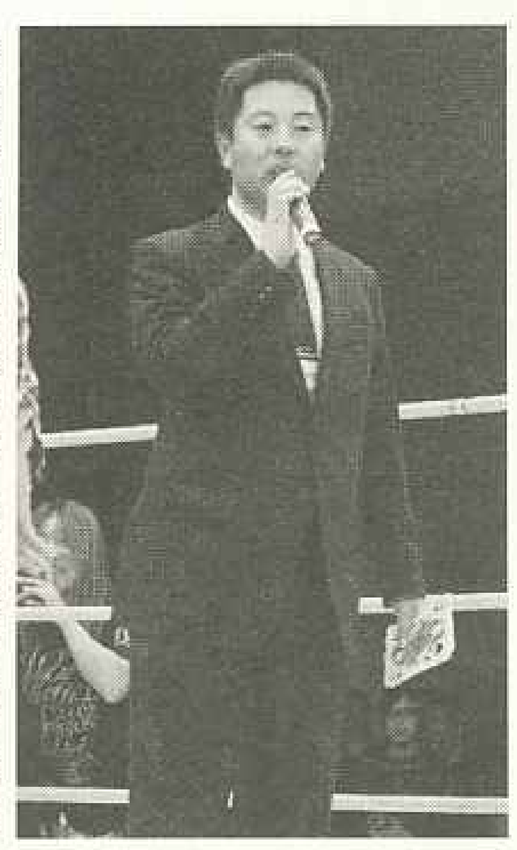
実際、業界では噂が立っていないわけではない。昨年末、大々的に記者会見を開いて開始されたBSフジでの中継が2大会のみで終了していたり、スマックガール代表・篠泰樹氏のブログも5月後半から1ヵ月ほど更新なし、関係者からも連絡が取りづらくなっていたり、という状況を見ても、“業界スズメ”（by狂犬ブラザーズ片割れ）たちの噂の材料には事欠かない。ちなみに、スマックのオフィシャルサイトも「現在、サイトは工事中のため閲覧できません」との表示があるばかりとなっており、過去の大会結果なども含めてコンテンツはまったく公開されていない状態だ。

業界でささやかれているのは、ハッキリいえば「もうスマックガールは終わりなのではないか?」というもの。それを裏づけるような情報（その一つが“篠氏死亡説”だが、これは本人がブログに復帰したことで否定されたかたちとなった）もまことしやかに流れてはいるが、その中身は今後、関係者に取材を重ねた上で真偽とともに明らかにしていきたい。しかしこの業界ではままあることとはいえ、“終了説”が流れるというのはやはり穏やかではない。

だがこの噂の一方で、事態を楽観視する人々もいる。その根拠は、「スマックガールの危機説なんて、いまに始まったことじゃない」というもの。実際、2000年12月に日本武道館での大イベント『ReMix』のあとを受けて始まったスマックは、これまで7年半ほどの歴史のあいだにいくつかの危機的状況を乗り越えていまに至っている。01年には正式に活動休止を発表したこともあるし、創設者の篠氏にしても「行方不明」といわれた時期もある（このときも“死亡説”を唱える関係者がいた）。06年から07年にかけては篠氏に代わり、長尾“メモ8”丈志氏が中心になって運営されていた。まさに紆余曲折、波瀾万丈としか言いようがない歴史を見てきた人にとっては、今回もどうにかなるだろう、というわけだ。

スマック自体はビッグプロモーションとはいえないが、その存在感は大きい。いま現在、日本で唯一の女子総合格闘技イベントだからである。今回の危機説の真偽は別としても、その浮沈は「ジョシカク」そのものの存続に関わってくる問題となるので、影響を受ける関係者も多いのである。過去、多くのジョシカク・イベント、プロモーションが華々しく立ち上がったが、いずれも短時間で消えていった。その中でスマックは、7年半にわたって歴史を刻んでいる希有な存在なのである。

篠氏も5月18日付のブログでは「興行するのって楽じゃない」と認めた上で、「SMACKGIRLがなくなったら女子総合格闘技は事実上消滅すると思います」と書いている。DEEPなどのようにワンマッチで女子の試合を実施しているイベントもあるが、女子専門の大会がなければ試合数も選手層も広がらない。やはりスマックの動向は、そのままジョシカクそのものの動向に直結する問題ということだ。



なんだかんだ言われながら、これまでジョシカクというジャンルが続いてきたのは篠泰樹スマックガール代表の手腕によるところが大きい。これホント！

今回から始まった本稿では、まず懸案の7・24大会の動静を追うとともに、一見、華やかに見えるジョシカクの世界がなぜ、こうした状況になっているのかを考えてみたい。この8年ほどのあいだに、いくつもの動きがあり、さまざまな関係者がうごめいてきた。ジョシカクに関わったために人生を変えられた人もいれば、いきなり押し入ってきて無理矢理好き勝手に関わっていった人間もいる。そうした業界模様も含めて取材をしながら、表も裏も合わせて、「ジョシカクの歴史といま」を明らかにしていこうと思う。

まずは近日にも、7・24大会についてなんらかの発表を望みたいものだが……。

［文／高崎計三］

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの
ぶっかけ!
格闘裏情報

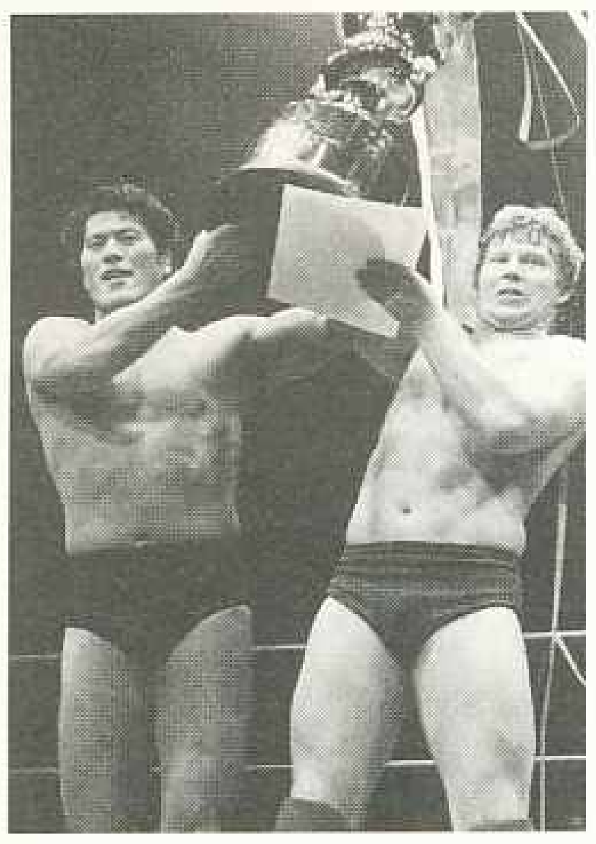
第31回

私だけが知っている ボブ・バックランドの 忘れもの

今回は"ニューヨークの帝王"の異名を持つ、WWF（現WWE）の元チャンピオン、ボブ・バックランドのエピソードです。

新しいファンにはなじみが薄いかもしれませんが、日本のプロレス史上欠かすことのできない人物で、昭和プロレスファンには猪木さんとのシングルマッチ、そしてUWFファンにとっても感慨深い選手でしょう。第二次UWFでの初戦は高田（延彦）さんと。二戦目は船木（誠勝）選手が"禁じ手"であるドロップキックを見舞って、ファンや関係者のあいだで物議を醸しました。その後、UWFインターナショナルやバトラーツにもやってきて、政治家キャラクターでWWEに復帰したことも。バックランドはあらゆる年代に活躍した名レスラーなのです。

いまでいうブロック・レスナーやカート・アングルのように、バックランドはレスリング・アスリートとしての誇りを強く持つファイターでした。エピソードを挙げれば、彼はファンにサインをせがまれると、必ず「Champion」と書きこんでいた。ボブ・バックランドはレスリングのチャンピオンだ、と。当時からアメリカのキッズたちにレスリングの指導をしており、精力的に活動していたものです。



そういうこともあってのことか、UWFの大阪府立体育会館大会のときには、キッズ用のショートパンツを日本に持ち込み、売店での販売を依頼されたこともあります。いまでは外国人ファイターがTシャツを持ち込むことは珍しくありませんが……、それにしたってショートパンツは聞いたことがありません。

遠い昔のことなので、販売価格は忘れてしまいましたが、まったく売れなかったことだけは覚えています。そのショートパンツはバックランドがアメリカに持ち帰ったとばかり思っていました。

ところが、そのUWFも解散のときを迎え、事務所の整理をしたときのことです。大きなダンボールの中から、ショートパンツが大量に発見されました。

「なんだろう、このショートパンツは？」

「何に使ったんだろうね」

居合わせた誰もがバックランドのものだとは気づかなかった。おそるおそる手に取ってみると、そこには「Champion」の刺繍が入っていた。言葉に出さずとも、バックランドの持ち込みグッズだったことを理解しました。

結局、そのショートパンツは都内のプロレスショップに寄付しました。猪木さんのガウンの切れ端が1枚1000円で売れた時代のことです。いくらで売れたかは定かじゃありませんが、もしアナタの家に「Champion」の刺繍入りのショートパンツがあったら、それはボブ・バックランドの誇りです。

6月17日に後楽園ホールで開催された鈴木みのるさんの20周年記念興行に行こうと思ってたんだけど、日にちを勘違いしてて、行くの忘れちゃったんだよね～。

高山（善廣）くんが脳血栓で倒れて復帰してから、初めてのシングルマッチということで「応援に行くよ」って言ってたのに、残念だよ。

でも、観に行った人の話を聞いたら、凄くいい試合だったみたいだし、高山くんがシングルマッチをできるまでに回復したことを嬉しく思うよ。最初に脳血栓で倒れたって聞いたときは、びっくりしたし、ホントに心配したからね。ここまで回復するまで大変だったと思うけど、俺も高山くんに負けずに頑張らないといけないよね。

でも、高山くんは、よく鈴木さんと普通に話してタッグ組んだりしてるな～って思うんだよ。俺らの世代にとっては、鈴木さんって「怖い先輩」っていうイメージがもの凄く強いからさ。俺なんかはUインターだから、直接、関わりはなかったんだけど、当時はイヤでも鈴木さんの"逸話"が耳に入ってきたからね。

俺はUインターに入る前に新日本プロレス学校（新日本プロレスがかつて道場で行なっていたプロレス教室）にいたんだけど、俺たちのあいだでは「新日本プロレスにもし入れたとしても、鈴木さんや船木さんのイジメでみんな辞めていく」っていうふうに言われてたんだよ。

とにかく、鈴木さんと船木さんの新弟子への"かわいがり"は凄いって。嘘かホントか知らないけど、当時の鈴木さんは新弟子を20人辞めさせた記録を持っているとか言われてたからね（笑）。

だからさ、俺は新日本プロレスかUWFに入りたかったんだけど、入ったら入ったで、練習のキツさとは違う恐怖が待ってるんだろうな～、って思って憂鬱になったりもしたんだよ。「セミを食わされる」とか「下の毛を剃られる」とか、そんな噂ばっかり聞いてたからね（笑）。

そのあと、俺はUインターに入ったんだけど、Uインターにも鈴木さんの"悪名"は轟いてたんだよ（笑）。垣原（賢人）さんから、第二次UWF時代の船木さんと鈴木さんのとんでもない話をよく聞いてたからね。

だってさ、道場で若手同士をスパーリングさせるとき、「よし、おまえら流血戦やれ」って言って、カッターで額を切られて、血だらけになりながらスパーリングやらされたこともあるらしいからね（笑）。

だから、Uインター時代に垣原さんが、船木さん、鈴木さんに飲みに誘われたとき、震え上がってたもんね（笑）。それぐらいトラウマになるような先輩だったんだろうな～。

でも、昭和のプロレスラーっていうのは、そういった理不尽な生活を乗り越えて、みんな一人前になるんだから、やっぱり凄いなって思うよね。

最後にあらためて、鈴木さん、デビュー20周年おめでとうございます！



金ちゃんのどこまでやるの？

第25回 鈴木みのるさん伝説の巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

第2回

本屋の次はアウトドア！ キャンプ場で闘います!!

DDT外伝 by高木三四郎社長

リングを捨て町へ出よう!?

まだ、だいぶ先になりますが、9月7日に山梨県の山奥で「キャンプ場プロレス」をやることになりました。お疲れさまです、DDTプロレス社長・高木三四郎です。

いや～、しかし相変わらずデタラメな企画だよなあ(笑)。まあでも、こういうデタラメな企画のほうが、あらゆるスタイルのプロレスに慣れきったマニアな人々にはたまらないようで、同じ日に発表した7・20ハードヒット新木場大会の全対戦カードの話題を完全に食っちゃってたもんなあ……(汗)。

ハードヒットは飯伏幸太vs佐藤光留戦をはじめ、今回もけっこういいカードなんだよ。だから俺様としてはそっちのほうに対する熱い思いをこのコラムで書きたかったのに担当のチョロ氏が「ぜひキャンプ場プロレスで！」なんて言うもんだから困っちゃうよ。ぶっちゃけ、これって売り興行だから、いくら煽ってお客さんが入ってもDDTには決められた料金しか入らないんだよね(爆)。でも、こういうのがきっかけでプロレスにハマる人もいるかもしれないし、この御時世で興行買ってくれるプロモーターもなかなかいないから、頑張って書くとしよう。

で、今回のキャンプ場プロレスのプロモーターなんだけど、双子の太田さんて方なんです。この二人がまたオイシイキャラで打ち合わせしてても会話がいちいち、ハモるから何を言ってるのかさっぱりわからない(笑)。

「僕たち僕たち、本屋プロレスを本屋プロレスを見て、感動して感動して、キャンプ場でキャンプ場を企画したんです、したんです」と万事がこんな調子だからな(笑)。ネタじゃないぞ。

しかも、どう見ても職業不詳だったんで「何やってたの？」って聞いたら少し前までお笑いコンビを結成してたらしい(爆)。どう考えても売れないザ・たっちって感じなんだけど、プロレス界のプロモーターって変わった人が多いからなぁ。とくにインディー系は(笑)。まあ、彼らの手腕に期待するとしよう！

とりあえず俺様と飯伏はリングのないプロレスは免疫あるんで、ここは初参戦のマッスル坂井とアントーニオ本多に期待したいな。最近の坂井はアウトドアに目覚めて毎週末はなんとか山とか、なんとか岳に行って山登りしたり、飯盒炊爨(はんごうすいさん)でごはん炊いたりしてるから侮れないよ。アントンも太ってきたしな(笑)。

まあとりあえず、バスツアーやバーベキュー大会も行なわれるキャンプ場プロレスと、手打ち興行の7・20ハードヒットにご期待ください！(笑)。詳細は俺様のブログ等でチェックするように！



Sanshiro Takagi◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

---

kamipro Handで好評連載中!

ニュース特選! kamiの★1週間

傑作編

黒の衝撃! 6.29K-1福岡大会に超新星、現わる?

(7.1更新分より)

◎『kamipro Hand』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選！ Kamiの一週間」。このコーナーでは、プロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり！ 興味を持った方は『kamipro Hand』にレッツ・加入!!

松 今回はスーパーヘビー級、ヘビー級の両タイトルマッチに、ジャパンGPトーナメント開催と盛りだくさんの6・29『K−1 WORLD GP』福岡大会について語ろうか。

竹内 いや～、バンナは残念だったな～。

松 ジェロム・レ・バンナがセーム・シュルトの持つスーパーヘビー級王座に挑戦したけど、惜しくも判定負けだったよね。

竹内 俺、バンナを応援してたんだぜ。実況席の藤原紀香の次ぐらいに一生懸命応援したよ。

松 実況席で応援したらダメだろ(笑)。

竹内 まさに「♪夢中で～、頑張るキミに～、エールを～」って感じだな。

松 それは紀香が出てるレオパレスのCMだろ！

竹内 シュルトvsバンナの3ラウンドなんて、紀香ちゃん、応援しすぎて喘ぎ声だしてたからな。

松 喘ぎ声じゃなくて、ため息だよ！

竹内 K−1福岡大会はあの紀香ちゃんの声しか覚えてないよ。

松 ちゃんと試合を観ろ！

竹内 紀香の声はいいけど、夢香の喘ぎ声は勘弁。

松 あたりまえだ！ 紀香と夢香じゃ、宇宙規模に違いすぎるだろ!! ターザンネタはやめろ！ そしてジャパンGPは、またしても日本人が優勝できなかった。

竹内 強かったよな～、ソクジュ。

松 優勝したのはソクジュじゃないよ！

竹内 (無視して)やっぱり、あのキリンみたいなシュルトを倒すのは、ジャングル大帝ソクジュしかないだろ。

松 だからソクジュじゃないって言ってんだろ！ ちょっと似てるけど、優勝したのは極真世界王者のエヴェルトン・テイシェイラだよ！

竹内 ああ、なんだ。えべっさんね。

松 誰もそんな呼び方してないよ！ テイシェイラも強かったが、武蔵を倒した前田慶次郎もじつに惜しかった。

竹内 前田慶次郎の後ろ髪を三つ編みした独特なヘアスタイルは、『週プロ』等で活躍する藤本かずまさ記者を意識しているそうです。

松 意識するか！

竹内 違うの？ じゃあ、あの後ろ髪は同じく『週プロ』の鈴木健記者？

松 よけい違うよ！ 『週プロ』から離れろ！

竹内 そして、トランクスのお尻についたあのシッポはアパッチプロレスの葛西純に憧れてるんだろうな。

松 藤本かずまさと葛西純に憧れるK−1ファイターなんているか！ いいかげんにしろ!!



こちらが現在UFCで活躍中のソクジュ……でも、もちろん、えべっさんでもなく、6.29K-1ジャパンGPを制したエヴェルトン・テイシェイラですYO！

椎名基樹のサムライニ一味

第28回

頑張れ金ちゃん！

どのくらいぶりだろうか、体重計に乗ってみると、体脂肪率が30パーセントを超えていた。理想的な体脂肪率の数値はわからぬが、ぼんやりした記憶の中でも覚えがないほどのハイアベレージ。

たしかミルコなどは、数パーセントの一桁だった気がする。そう言われてみると、腹回りの肉などは、シーツでスライムを包んだような、異常なまでの柔らかさ。肌の質も含めてどこか女性的な感じであったりする。

ヤベー！ ヘタ打った〜！（↑最先端ギャグ）。これは病気ではないか？ しかし、ここで思い出したのが、リングス後期の我らが前田日明の身体。

実況の高柳さんいわく、寝技で上に乗ると餅のようにからみつき、相手の口や鼻孔を塞ぐという戦闘ボディだ。

前田ファン歴も20年を越え、ついにオレも前田のような最強ボディを手に入れるに至ったか、ファンの思いつーのも恐ろしいね、などと納得して、この件については、これ以上深く考えるのをやめにした。

そんな前田日明師匠から、引退試合の相手をブッキングしてやると言われてから、なんの音沙汰もなさそうなのが、金ちゃんこと金原弘光選手。

遅ればせながら、そんな金ちゃんのKEI山宮戦をサムライTVで観戦した。金ちゃんは、筆者にとって、ただただ純粋に応援してしまう、そんなタイプの選手である。PRIDE後期から、金ちゃんの残された仕事は、下の世代の日本人と闘うことだと思っていたので、引退撤回後に組まれたパンクラス勢との闘いが気になっていたのだが、なかなかチェックできずにいた（金ちゃん、もーしわけない！）。

そして、やっとチェックできた、山宮戦は勝敗を知っているにもかかわらず、テレビに向かって大声でセコンド状態で応援。自分でもアホだとは思うが、それくらい歯がゆかった。

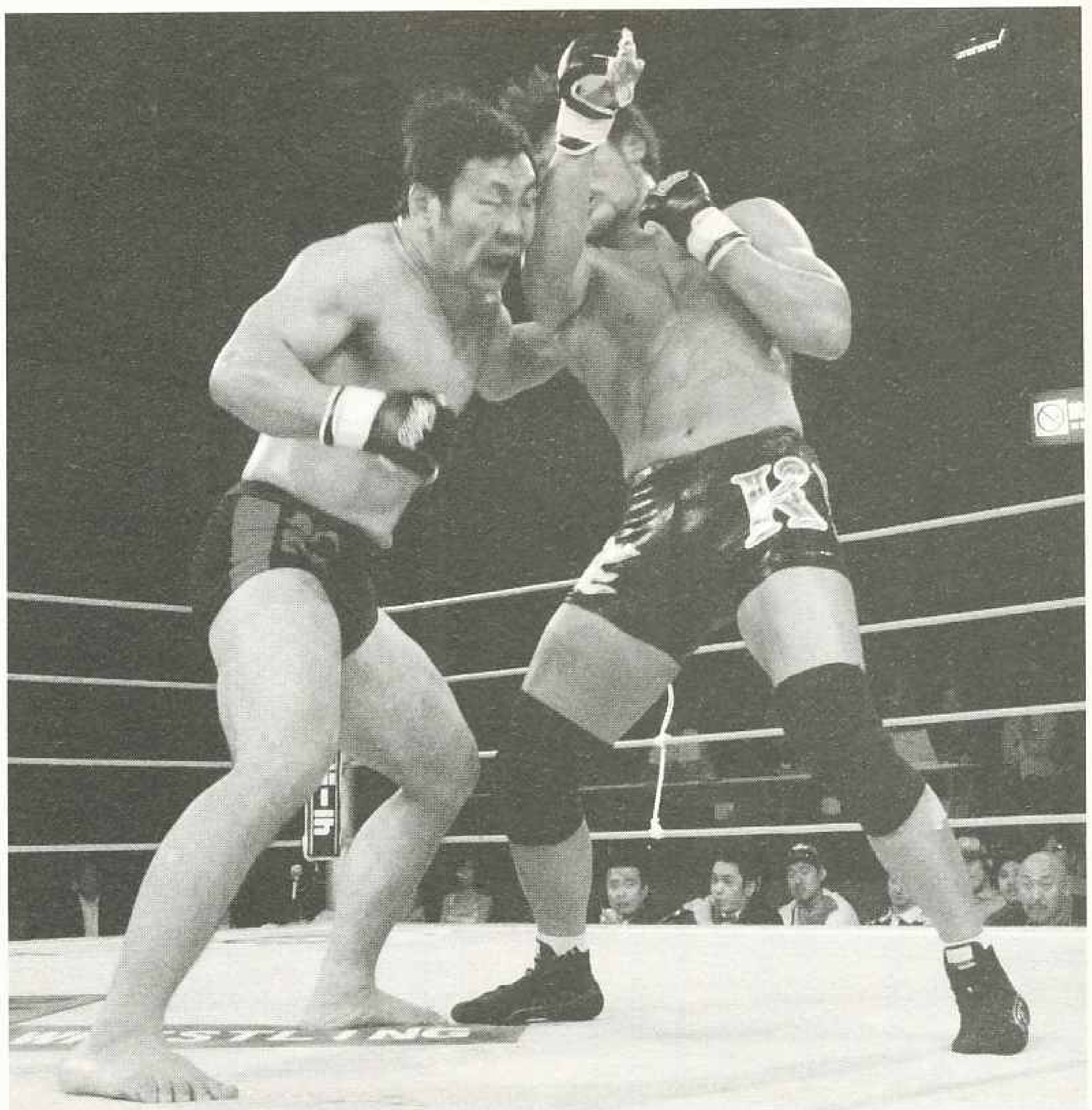
どーしてもっと蹴っていかない？ 試合全般を通して、どっしりとした素晴らしい構えから、解説の近藤選手いわく、丸太で殴られるような、いかにも重そうなミドルやローを繰り出し主導権を取っていた。リングジェネラルシップが評価されるなら、1ラウンド、2ラウンドは金ちゃんが取ったといってもいいと思う。

でも、山宮選手が蹴りをかいくぐって懐に飛び込み、パンチを入れたり、タックルを決めてテイクダウンできる気配が全然なかったので、距離に入ったら必ず蹴っていくぐらいの頻度でもっと蹴りを出してほしかった。

正直、絶対に勝つという気迫が感じられなかった。ド素人のタワゴトだと思って勘弁してほしいのだが、どういうかたちでの勝ちをイメージしていたのだろうかと思った。筆者としては、スタンドで金ちゃんが断然有利に見えたので、蹴って蹴って蹴りまくって、飛び込んできたら左フック、それがスカされて中に入られたら、パンチの打ち合い上等、テイクダウンされたらそのときはそのとき、そんなふうに闘えば勝てたんじゃないかと思えた。

だって、どちらにしても、最後の最後にパンチを当てられて効かされ、一瞬グラウンドで上になられて、判定負けなんて悔やまれないか？ 前記したようにマストシステムでつけるなら、1&2ラウンドは金ちゃんが取って、3ラウンドは山宮選手で金ちゃんの勝ちって判定でもおかしくないと思うが、最後の最後に完全に有利不利が見えてしまった以上、山宮選手の勝ちは誰もが納得の判定だろう。それだけに、悔しかった。勝ちをまとめられただけじゃん！

金ちゃんがあそこで勝ったときの、オレを含め一部ファンの（失礼！）カタルシスは大きいと思うのだが。この日も1ラウンドのゴングが鳴るやいなや、たった一人で金原コールしたヤツがいたもんなあ。おまえの気持ち、痛いほどわかるよ！金ちゃんにはアイツのために激しい試合して勝ってほしかったんだけどなあ。金ちゃんがスゲー勝ち方したら、どんなに気持ちいいだろうってみんな思ってんだよ、絶対。



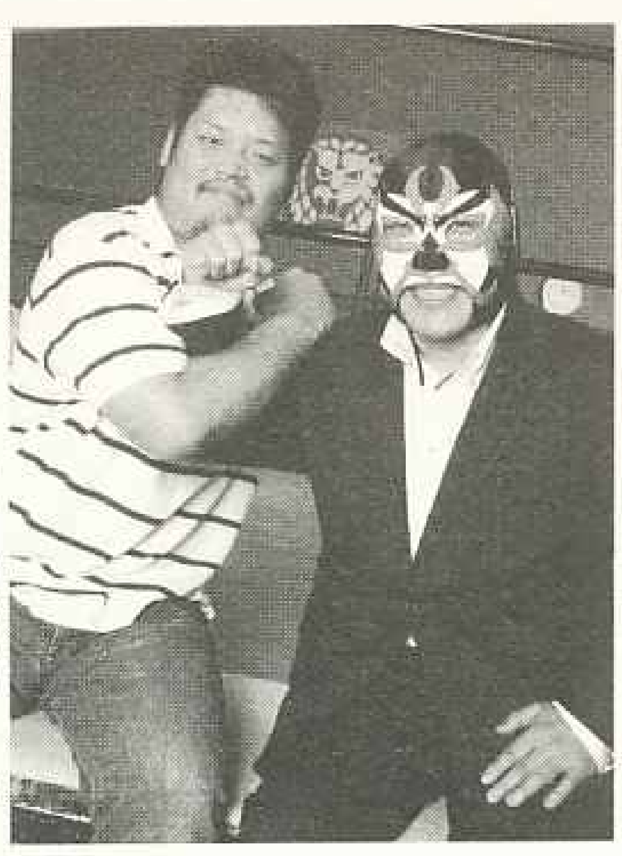
前号でのインタビューも好評だったKEI山宮（おもにマッドネスな船木ネタ）相手に判定負けを喫し、パンクラス5連敗となった我らが金ちゃん。06年8月のエンセン主催興行以来、白星から見放されているが、頑張れ金ちゃん！

そんな金ちゃんと浅からぬ因縁がある、天山がいま新日で孤立しているらしい。飯塚と友情タッグを結成し、中年男性同士のラブラブ状態であったのが、突然の飯塚の裏切りで、裏切られ悶え悲しむという一連のストーリーが、ちょっと前にサムライの番組でまとめられていて、スゲーおもしろかったのだが、7月8日の新日本後楽園大会で、ついに天山と飯塚がランバージャック・デスマッチで激突するという（笑）。

ランバージャック・デスマッチって、リング下に落ちた者を、待機したプロレスラーがよってたかってリングに引き戻すっていう、あの悶絶ルールだよね？ このランバージャック・デスマッチと太鼓の乱れ打ちだけは、何度見ても意味不明で笑ってしまう。観たいわ！ 天山vs飯塚のランバージャック・デスマッチ！

最後に最近まったく観なくなってしまったプロレスであるが、5・18『ロックアップ』新木場大会での本間朋晃vs内藤哲也の試合、いい試合で思わず観入ってしまった。本間も大日本時代、シンプソンズのホーマーのTシャツを着てサムライに出てた、バカすぎる若手のときから観てるけど頑張ってるね。内藤選手の空中殺法もイイ切れ味！

でも、サムライさん、もう少し格闘技枠増やしてくれないかなあ。



椎名さんも気になるという天山vs飯塚のランバージャック・デスマッチ。この号の発売日にはとっくに終わってしまっているが、いつの日かサスケとの新日本プロレス学校・友情タッグも観たいぞ！

イナズマKの ハードコア ドージョー Special

“最高”請負人はしっかり者で常識人!?

波瀾万丈な“This is 哲っちゃん半生”!!

黒田哲広



くろだ・てつひろ■1971年11月23日生まれ。93年、PWCにてデビュー。その後、FMWに移籍。大仁田厚率いる「ZEN」で活躍後、サングラスをかけた「最高」のキャラクターでブレイク。FMW解散後はWEWを経由して現在アパッチ・プロレス軍に所属しつつ、数々のプロレス団体に参戦。ハードコアなファイトスタイルで観客を沸かせつつ、パートナーである金村キンタローの暴若無人ぶりをサポートする常識人な一面も併せ持つ。「最高!」、「もう一丁!」、「どうですか、お客さん!」など定番のセリフを数多く持つ人気レスラー。180cm、100kg。

「黒田最高!」、「This is 哲ちゃんカッター!」、「もう一丁!」のかけ声で観客を興奮の渦に巻き込み、激しいハードコアファイトも正統派レスリングもバッチリこなせる黒田哲広が登場だ! アパッチ・プロレス軍に所属しながら、盟友・金村キンタローが旗揚げするXWFへ「オヤジ(金村)のパートナーは自分しかいないと思うんで」と参戦を発表した黒田が、そのコク深い半生を語る!

ハードコア列伝1 え、元ノーギャラレスラー?

そもそも黒田がプロレスラーを目指したきっかけは、「試合でボコボコにされて『プロレス辞めろ!』と言われたことがあります」と苦笑いで語る、長州力に憧れてのことだった。その黒田が最初に入った団体は、あの高野拳磁率いるPWC。そこではハート兄弟、ダイナマイト・キッドなどを育てたミスター・ヒトこと安達勝治氏に徹底的に指導を受けた。黒田は「受け身とブリッジの練習ばかりで。夜逃げばっかり考えてました」と、相当過酷だったことを告白。だが、レスラーとしての素質を見抜いていた安達氏は、黒田を〝最後の弟子〟と称するくらい認めている。「でも、『おまえがメイン取るのは50年後だ』って言われてましたよ」と、謙遜しながら当時を懐かしそうに思い出す黒田。

PWCに在籍したのはわずか半年だが、その間にも濃厚な出来事が満載だったようだ。「当時の飲み会はツラかったな〜。夜から飲んで朝6時に終わるのは早いほうで、昼の12時までいくのがあたりまえ。強烈に覚えてるのは、酔っぱらった拳磁さんがいきなり、『おう哲、張り手合戦しようぜ』って言い出して。バコバコ10発くらい食らってたまんなかったです(笑)」。

そんなPWCを経て黒田はFMWに移籍。なんと、そのときに初めてプロレスでギャラをもらったとか! 「PWCではもらったことないです。FMWに入って試合するともらえるんだなって思いました(笑)」。PWC、まさに伝説の団体だ……。

ハードコア列伝2 頭皮がクイズの帽子状態!?

そんな彼が自身のプロレススタイルを確立したのは、冬木弘道率いるTNR(チーム・ノー・リスペクト)に加入してからだ。邪道、外道、ミスター雁之助、金村、非道という強烈なメンツ揃いのブリーフブラザーズで「準々構成員だった」頃は、かなりヒドい仕打ちを受けたとか。「コーナーの鉄柱に縛られたり、手足縛られてドブに落とされそうになったり。あの恨みは忘れてないです(笑)」。だが、「あそこまでやったらこれ以上は人として落ちることないなって思って、吹っ切れましたね」

と黒田が語るように、傍若無人な扱われぶりが功を奏したのか、ここからレスラーとして大きく開花することに。

では、彼のキメ文句「黒田最高!」はどのように生まれたのだろうか? 「オヤジがしょっちゅう『カツ丼最高!』とか口癖のように『最高!』って言ってたんで、そのマネで『黒田最高!』って言ってたら、いつの間にか自分のキメ文句になっちゃったんです」と、その誕生秘話を語る。

そのFMW時代には、壮絶な試合も経験している。「オヤジとの試合で頭を33針縫いました。エプロンから下のテーブルに頭から突っ込んで頭皮がベロンってめくれて。ウルトラクイズの帽子みたいになってました(笑)」と、豪快に笑い飛ばす黒田。これぞハードコアファイター!

さて、レスラーとして大きく成長できたFMWだが、やがて崩壊。選手は、雁之助側のWMFと冬木側のWEWに分裂する。だが、黒田だけは両団体に出場。「ケガをしたハヤブサへの思いもあったし、最初はハヤブサも協力を表明したWMFに行くつもりでした。でも、倒産後のFMWの興行で冬木さんが自腹を切ってギャラを払ってくれたときに、『WMFに行きます』とは言えなくて。で、冬木さんにもWMFサイドにも、両方に出たいとお願いして了解してもらったんです」。まさにどっちも裏切れないという、黒田の実直な人間性を物語るエピソードだ。

ハードコア列伝3 名女房があの問題を語る!

その後、黒田はZERO-ONEにも参戦、なぜか橋本真也の〝お気に入り〟となる。「巡業中にいきなり『哲ちゃん』って呼ばれたんです。周りもビックリしてましたね。いまだに呼んだ理由はわからないですけど」。破壊王との印象的なエピソードを聞くと、「水戸で試合があって、橋本さんと一緒に行くことになったんです。

でも、18時半試合開始なのに待ち合わせの横浜にベンツで来たのが17時! 僕は2試合目だったんで間に合わないと思ってたら、橋本さんが「大丈夫や」って言うやいなや、高速で220キロ以上出して(笑)。結果的に開始ギリギリで到着して、即行で着替えたら自分の入場曲が流れてました(笑)」と、その恐怖体験を語ってくれた。さすが破壊王!

さて、黒田を語るうえで、オヤジと呼ぶ金村キンタローの存在は欠かせない。「オヤジとは腐れ縁。別れたいけど別れられない夫婦みたいで(笑)」。だが、さすがに例のセクハラ問題では、温厚な黒田も心を鬼にしたという。「オヤジは私生活もハードコアだから、いつか何かやらかすんじゃないかと思ってたけど(苦笑)。でも、あのときはさすがに説教しましたよ。次に問題起こしたら縁切るって言いましたから」と、名女房らしい発言も飛び出した。

周りに破天荒な人物が多い中、「貯蓄はしてます(笑)」と、かなりしっかり者で常識的な一面も持つ黒田。最後に「ハードコアマッチもじっくりしたレスリングも好きだし、今後もいままでみたいに流れにまかせてやっていきたいですね」と、人懐っこい笑顔で語ってくれた。へんにガツガツせず、でも個性は存分に発揮し、そして周りのサポートも忘れない彼は、文字どおりの「最高!」な男なのであった。



8月6日に旗揚げされるXWFに、黒田は金村、田中将斗と「インディペンデント・ハードコア・ブラザース」を結成して参戦。スーパーレザーフェイス&トレーシー・スマザーズ&ビック・クライムズと対戦する。ハチャメチャなハードコアファイトに注目だ!



イラスト◎ゴローちゃん

SUN族入り浸りで青春をいたずらに浪費した掟ポルシェが今宵も発揮、萌え根性！ 今回のゲストは華名選手！ おお、ひさびさにちゃんとしたゲストだ！ 高橋奈苗&夏樹☆たいようとのユニット〝パッション・レッド〟でも絶好調活動中の華名さんのいろんな部分に勝手に肉薄！

掟 最初にプロレスに興味を持ったきっかけは、お笑いだったとか？

華名 はい。生まれが大阪だったんで、お笑いが大好きで。ジャリズムさんの出待ち入り待ちとかしてました（笑）。

掟 ジャリズムの片割れ・世界のナベアツさんはいまや超売れっ子ですよね。

華名 そうですよね。あとはバッファロー吾郎の「電波プロレス」っていうのをラジオで聞きながら、「プロレスラーになりたいな」って思ったりして（笑）。

掟 選手では武藤敬司さんが好きだったんですよね？

華名 はい！ ジャリズムさんは4年間好きだったんですけど、そのあとで武藤さんのことが好きになって。

掟 それまでプロレスは全然観たことなかったんですか？

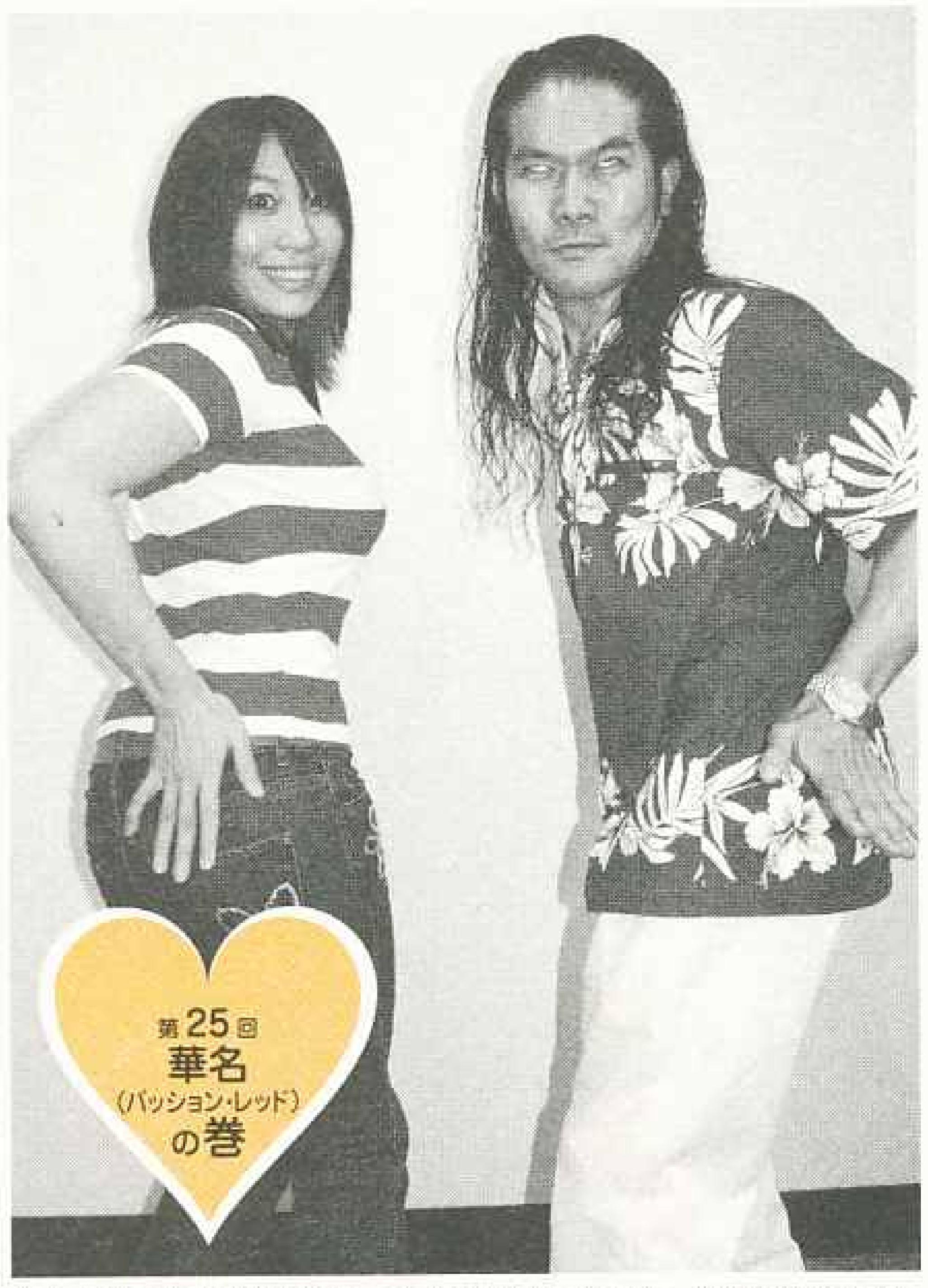
華名 大仁田さんみたいに血だらけになってるのがプロレスやと思ってました。それが武藤さんを観たときに、メッチャメチャ、キレイなプロレスしてたんでビックリしたんですよ！ ……でも、それから3年後ぐらいに柴田恭兵さんのことが好きになるんですけど（笑）。

掟 エッ、和田京平さんじゃなくて？

華名 いやいや（笑）。

掟 レスラーからレフェリーに乗り換えるほどスレてはなかったと（笑）。その後、念願かなってAtoZでプロレスデビューを果たすわけですが、一度病気で引退してるんですよね。

華名 はい。復帰するまでは、プロレス入りする前にやってたデザイン関係の仕事とかしてまして。まあ、いまでもやってるんですけど（笑）。



かな■1981年9月26日、大阪府大阪市出身。04年6月16日、AtoZ後楽園大会での玲央奈戦でデビュー。その後、病気のため一度引退するも、07年9月のプロレスリングSUNでの高橋奈苗戦で現役復帰。現在はプロレス以外にも、デザイナー、ライター、イラストレーターなど幅広く活躍中。160cm、60kg。
ブログやら「デザインオフィス華名」情報やら盛りだくさんの華名公式サイト→ http://kana-kana.jp/

掟 華名さんはプロレスだけじゃなく、『デザインオフィス華名』を立ち上げてホームページの制作や、ライター業までやられているみたいで。ぶっちゃけ、収入的にはプロレスとデザインの仕事の比率はどれぐらいなんですか？

華名 言わなきゃダメですか？（笑）。

掟 なんで、こんなえげつない話をしてるかというと、以前ブログで「試合後、無性に食べたくなって、フグを食べに行った」っていう話がサラッと書いてあって驚いたんですよ。いまの女子プロレスラーでフグ食えるほど儲かってる人、あまりいないんじゃないかって。

華名 そうなんですかね（笑）。

掟 コンビニなんかでバイトしてるレスラーも普通にいる時代ですからね。そういう意味では高収入な職業との二足のわらじは強みですよね。

華名 そうですね。でも、いまはプロレスだけでも食べていけるかも。平均でいうとプロレスで月◯◯万ぐらい、デザインで月◯◯万ぐらいって感じで。Tシャツとかポートレートとかグッズの売り上げとかも含めてですけど。

掟 エ〜〜〜ッ!? その金額って女子に限らず、そのへんの男子レスラーより全然稼いでますよ！

華名 エッ、そうなんですか？

掟 具体的な金額は書かないまでも、「フラッとフグを食べにいけるぐらいの収入」って、しっかり書いときます！ あとですね、これかなり失礼な質問なんですが、2ちゃんねるの華名さんのスレッドを見ると、半数以上の書き込みが立派な胸のことについてのものなんですよね。

華名 アッハハハハ！

掟 胸が大きいって自覚はありますか？

華名 いや〜、ありますよ。イヤですもん。でも、アタシより胸おっきい人、もっといるんじゃないですかねぇ。

掟 いましたけど、バストが110センチとかいうパターンばかりでしたし（笑）。正味な話、女子プロレス史上1〜2を争うと思います！

華名 おっ、ホントですか？

掟 はい！ どうせなら武器にしていったほうがいいんじゃないかと思いますよ。

華名 「ボディアタックみたいに胸でアタックしたらいいのに」とか言われますよ。でもそれは勘弁してくれ、みたいな（笑）。

掟 やるほうが痛いですもんね！ 乳首がヘコんじゃいますよ！

華名 いやいやいや、そういう問題じゃなくて（笑）。

掟 胸で注目を集めても、って感じ？

華名 そう……ですね。よく女性とかにも言われるんですよ。レスラーからも「ちょっと聞いていいかな？」って言われると、絶対それやなってわかるし（笑）。

掟 その枕詞があると、必ずおっぱいの話になる？

華名 「遺伝なの？」と「何を食べてそうなったか？」、あとは「邪魔じゃない？」とか、「走るの大変じゃないの？」とか（笑）。

掟 同業者もみんな興味津々なんですね（笑）。じゃあ、今後、技に活かそうっていうことは……。

華名 ないですねぇ。普通に恥ずかしいですし、最初はヒップアタックでさえも恥ずかしかったんで。

掟 得意技の〝浪漫アタック〟は、通常のヒップアタックとは違うんですか？

華名 はい、違います！ アタシのヒップアタックは、おしりにたっぷり浪漫が詰まってるんで（笑）。

掟 おしりにたっぷり何かが詰まってるっていうと、ちょっとイヤな感じですけどね（笑）。油断すると浪漫が漏れちゃったりとか（笑）。

華名 アハハハハハ！ でも最近は「ヒップアタック、出しすぎちゃうか？」って言われて、ちょっと控えめにしようかなって思ってるんですけど。

掟 いやいや、越中詩郎と同じように、「華名といえばケツ」っていうイメージがつくぐらい連発したほうがいいですよ！

華名 越中さんってヒップとパワーボムしかやってないってホントなんですか？

掟 そうです！ もうケツ20連発とか、おしりを中心に試合構成してますから！

華名 それはそれで凄いですねぇ（笑）。

掟 だから、控えるどころか倍に増やすべきですよ！ そしたらケンコバさんみたいに芸人さんが取り上げてブームになる可能性もありますからね。

華名 そうなんや（笑）。なにげに越中さんの試合って、ほとんど観たことないんで、ビデオかDVD、貸してもらえませんか？ 観て研究したいんで。

掟 じゃあ、『kamipro』編集部にある越中ビデオを全部送るので参考にしてください！ 華名さんが白い袴を穿いて出てくる日も近いかもしれません！



こちらが華名が所属するユニット「パッション・レッド」のメンバー。真ん中がこのコーナーにも登場経験のある高橋奈苗、右が必要以上に元気な夏樹☆たいよう。言葉の意味はよくわからんが、語尾に"パッション"をつけるのが華名流でっす!!

Okite Porsche◎掟ポルシェ■ロマンポルシェ。の次回ライブは8・22(金)京都メトロ。深夜のイベントにチョロッと出てきてなんかやる模様。詳細は、いつもどおりマネージャーが教えてくんねぇからよくわからないので各自調査で。【問】京都メトロ（075−752−4765）。その他情報はブログをチェック！【http://porsche.exblog.jp/】

佐藤譲 入場曲五十三次



イラスト◎エロコエロオ

第5回 所さんと所さんと岡村ちゃん

Yuzuru Sato◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。岡村ちゃん本『純愛カウンセリング』オススメです。

宇野さんが石田さんから勝利し、仇を討つべく川尻さんが喧嘩を売るという萌え燃え三角関係が発生したことで、アルバレスさんvsハンセンさんたちが見せる「MMA最前線」の闘いと、日本人好みの「情念の闘争劇」という両輪が揃い、DREAMが加速しはじめました。

そんな中、花道観察人として興味津々だったのが所英男さんの扱い。

というのも控え目を絵に描いたような所さんは、『HERO'S』にキャラを作られている感がバリバリ。そのためDREAMが異なる演出をしそうだったからです。

そして、実際に『DREAM・4』では予想以上におもしろい展開が所さんを待ち構えていました。

まず煽りVでは、「『HERO'S』が創ったHERO」「新しい自分を創ろう」と、『HERO'S』のイニシエーションから解放せんとばかりに、挑発的なメッセージが次々と発射。その象徴がAV『マジックミラー号』によるエロ解禁です。

さらに音楽では、『HERO'S』からの入場曲である所ジョージ「逆境ファイター」にぶつけるように、煽りVで岡村靖幸の『ターザン・ボーイ』が流れていました。で、この二つの対比がじつにおもしろい。

そのフットワークの軽さと知性で成功。趣味人としても評価され、KIDさんとも交流の深い器用な所ジョージ。

一方、和製プリンスと称されるファンク・サウンドと、「愛人になって交際用にった泣いちゃう様なアルバムの君は記念週4回のデートしちゃっても大事にしますべきメダルの様さ」(『軽蔑のイメージ』)といった、天性の言語感覚で執拗に描かれる歌詞で、恋愛や青春のロマンを爆発させた80年代後半。しかし90年代に入ると、援助交際の台頭などで、理想と現実との差に苦しみスランプに突入。現在は覚せい剤所持で入獄中という、あまりに不器用な人生を送っているラヴの求道者、岡村靖幸。まさに対照的な人生です。

ちなみに『逆境ファイター』で歌われるのは、「食材に恵まれず(いいもん食いてぇー!)」といった現状を「も少しなんとかなんねえのかな」と嘆き成功して自分を変えろという内容。まさに『HERO'S』(英雄=成功)のコンセプトと重なります。

一方の『ターザン・ボーイ』では、「裸でもてなきゃはしゃげない」とファッションや学歴といった飾りを捨て、「君のためにライオンと戦える男でいたい」という男の子の本質的な魅力に回帰しようという内容。煽りVを補完し、「あんた男だ!」というPRIDE(誇り)を体現した歌詞なのです。

そう、つまりあの日、入場する所英男さんの頭上では、彼を巡る『HERO'S』と『PRIDE』の代理戦争がバチバチと行われていたのです(試合前にいい迷惑な気がしないでもない)。

ただ、当の所さんですが、どうもどちらの2曲にもハマりきらない印象があります。実際、試合でもスタンドで優勢なのに、グラップにこだわるあまりシーソーゲームに突入という、いい意味でも悪い意味でも所さんらしい試合を展開。「最先端」「男らしさ」「成功への飢餓」「情念」とも違う独特の吸引力で観客の声援を集めていました。『PRIDE』や『HERO'S』の文脈とも異なる異分子。もしかしたらそれが所さんなのかもしれません。えーと、リングス?(違う)。

というわけで、所さんには一刻も早く新しい入場曲を導入し、「真実の所英男」をぜひ私たちの前で主張してほしいのです。ええ、マジックミラー号とかエロのこだわり以外にも、です。



鉄火場ゴングショー
賭博とは 極上の プロレスである

田中太陽の五本場 / プロレス台LOVE

Taiyou Tanaka
◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「忘れたの? パチンコは指じゃなく、心で打つのよ」

有名コミックとのタイアップマシン『CRコブラ』がヒットしていた頃、パチンコ&原作ファンのあいだでは、そんなフレーズが大流行したという。元ネタはいうまでもなく原作の名セリフ「サイコガンは指じゃなく、心で撃つのよ」であるが、パチンコファンが「そうだったなレディ」と返したかどうかは知らない。

かように最近はマンガやアニメといった、ややマニアックなジャンルとのコラボレーションも珍しくなくなってきたパチンコ・スロット業界だが、この流れ、じつはプロレス界にとっても他人事でなかったりする。4機種からなる〝猪木シリーズ〟の大ヒット以降、プロレス関係のパチンコ&パチスロ機は、意外なほど数多く発表されているのだ。

まずは猪木シリーズの成功を受けるかたちで新日本プロレスが登場。天山広吉がモンゴリアンチョップで牛と闘う〝猛牛演出〟や、いじめっ子役の蝶野正洋がいじめられっ子役の永田裕志を追いかけ回す〝学園演出〟などなど、シュールな液晶演出がファンの脱力を誘ったものの大ヒットにはつながらなかったようだ。

その後も、ファミコン前夜を彷彿とさせるドット絵仕立ての橋本真也が、岩石砕きや綱引きといった異常な行動を繰り返す名物台『破壊王』など、忘れがたい機種が続々とあらわれる。長州力、アニマル浜口、さらには武藤敬司やジャイアント馬場といった〝新旧全日本社長〟までもが歴史に名を連ねたのである。

そして、ついにはWWEやみちのくプロレスといった、国境あるいはメジャーとインディーの境すら越えたタイアップ台までもが登場するに至り、いよいよプロレス機種は隆盛を極める。しかし、レスラーや団体の絶対数、そして衰退しつつあるプロレス人気のことを考えると、このタイアップ率は明らかに異常なのである。いったいなぜ、こんなにも支持されるのか?


考えられるもっとも大きな理由は〝製作側の大いなる愛〟であろう。プロレス台には例外なくマニアックなプロレスエッセンスが散りばめられており、そのすべてがプロレスファンによって企画・製作されていることは明らかだ。そこには「有名人を使って客寄せをしよう」という、タイアップには往々にしてつきまとう嫌らしさがまるで感じられないのである。たとえば桜庭和志のパチスロ機『サクスロ』の開発者は、こんなコメントを残している。

「桜庭さんは他の格闘家の方と違って、たとえ負けてしまったとしてもファンが絶対離れない人だと思うんですよ。当然ファンは、勝ってほしいし、それを望んでいますよね。でも負けたときも、またファンを夢中にさせるような、それくらいカリスマ性がある人なんです」

明らかにサク理解度が高すぎる、素晴らしい発言なのである。プロレスとギャンブルという〝いかがわしいもの〟同士の結びつきが、これほど美しい世界をつくれていることには注目したい。

マンガやアニメとタイアップした機種が出るたび「あの名作を賭け事のダシにするなんて!」などと叩かれてしまうことも多い昨今だが、プロレス台は永遠にそのような批判と無縁だ。そこに愛があるかぎり、プロレスパチンコがプロレスファンに嫌われることはないのである。

しかし、中には『CR力道山』における〝マヤ式ジャーマンスープレックスホールド抽選〟のような、いくらなんでも一言いいたすぎる間違いも存在していたりするのだが。なんでウルティモ・ドラゴンのオリジナル技を力道山が知ってるんだよ!



UFC、ワウワウ〜!!

世界最高峰の舞台、WOWOWで放送再開へ——!!

写真／ Josh Hedges（UFC）



まで待てない!!

本でも見せてくれ!

UFC、ワゥワゥ〜!!(ランペイジの雄叫び調)。

UFCライトヘビー級チャンピオンシップ、クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンvsフォレスト・グリフィンの一戦は、本当に素晴らしい闘いだった。会場となったマンダレイベイイベントセンターはソールドアウト。オクタゴンの中で繰り広げられた世界最高峰の闘い。敗者のランペイジにも拍手が惜しみなく送られる! 何もかもがパーフェクトである。UFC、サイコーッ!!……ネットPPVや動画サイトでしか確認できないこと以外は!

日本向けの中継が〝封印〟されてしまっているUFC。パソコンからでは〝観る〟というより〝確認〟するって趣きである。テレビにパソコンをつないで観戦している人もいるだろうが、それでもなんだか損した感じがするのは気のせいか。なにより最高峰の闘いがクローズドな世界となっている超デメリット。日本のおけるUFCというムーブメント、ひいては日本の格闘技文化の拡がりのためにも、能動的に視聴できる中継体制は絶対に必要だろう。

そんなUFCに朗報!! なんと、かつてタッグを組んでいたWOWOWでの放送再開の可能性が高まっているという。情報筋による と「1年半のあいだ未放送だった過去のUFCの大会も放送される可能性もある」とされている。ヒャッホーッ!!

この本が店頭に並ぶときには、もしかしたら何かしらアナウンスがされているかもしれない。海の向こうとのビジネスだ。逆にご破算となっている可能性もないわけじゃない。いずれにせよ、UFCは日本再進出に本腰を入れて臨んでいることは確実のようなのだ。

あらためて説明するが、WOWOWは91年の開局とともに、前田日明のリングスを中継し、格闘技をキラーコンテンツとしてきた衛星放送局である。

02年にリングスとの契約が終了すると、WOWOWはUFCと契約。同年4月に、後続番



[6.5 UFC86 JACKSON vs GRIFFIN]
米国ネバダ州 マンダレイベイ・イベントセンター
◯フォレスト・グリフィン vs
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン×
(5分5R 判定3-0)

「ファンやマスコミは何もわかっちゃいない」発言でおなじみ、TUF世代のグリフィンがチャンピオンに! ランペイジが本調子じゃなかったが、ショーグンに続きPRIDE黄金時代を支えた強豪を連破! 時代は確実に動いているのだ。日本での放送再開によって早くその流れに乗りたい!

タップアウトまで
スゲェ闘いを日本


組として桜井"マッハ"速人らが出場した『UFC36』大会からUFC中継を開始した。

07年には、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン、ミルコ・クロコップといった日本でも知名度のある選手がUFCに参戦。さらに同年3月、UFCオーナーのロレンゾ・フェティータがPRIDEの買収を発表。今後は、PRIDEのスター選手をUFCに登場させるプランも明かされ、WOWOWのUFC放送に大きな期待がかかった。

だが、WOWOWはその直後の4月、5年間にわたるUFC放送の終了を発表! UFCは地上波放映へのシフトを目論んでいたふしがあったが、ついに実現には至らなかった。その後、現在まで1年3ヵ月にわたりUFCは日本未放送。UFCは元PRIDEファイターを抱えながら日本進出の絶好の機会を逃してきた。スカパー!でのPPVも実現のハードルは決して高くはないはずだが……UFCの戦略ってかなりミステリー。

しかし08年6月、UFCは内部改革を行ない、オーナーのロレンゾ・フェティータがカジノ業から離れ、UFCの経営に専念。海外進出に力を注いでいくことを宣言した。WOWOWでのUFC中継再開の動きは、こうしたロレンゾのUFC海外進出計画と符合する……のか。まあ、そんなことはどっちでもいい。

これまで興味があっても劣悪な視聴環境のため、UFCに目が向かなかった本誌読者も多かったはずだ。文化の発展なくして競技の定着もない。今号のサダハルンバ谷川氏のインタビューではないが、プロスポーツとしてメディアにかかる期待は大きい。現在のUFCはかつて放送していた頃のUFCとは比べものにならないほど怪物化している。世界最高の舞台が放送されるとなれば、テレビとの相乗効果は次々に生まれていくことだろう。DREAMや『戦極』にとってもよい刺激になるはず。これも一種のかけ算なのである!! UFC、ワウワゥ〜!!(ランペイジ調)。



“世界の郷野”がkamipro編集部にて、『UFC86』をネットPPV観戦!!

DJ GOZMA UFC86 PAY PER VIEW LIVE TALK IN JAPAN

DJ.GOZMAが『kamipro』編集部にやってきた、ヤァヤァヤァ!
すっかり恒例となった編集部でのUFCネットPPV観戦だが、
今回はなんと現役UFCファイター、郷野聡寛というゲストを招聘!!
ランペイジvsグリフィンの試合から、英語の重要性までノリノリのGOZMAトークが炸裂だ!

聞き手／堀江ガンツ　大会撮影／Josh Hedges（UFC）

――郷野さん、今日は朝早くから、編集部までご足労いただきまして、すみません！

郷野　とんでもない。おかげさまで44ドル95セントのPPV代が浮きました（笑）。

――というわけで、今回は興奮のラスベガスからの〝中継〟を、この狭苦しい代々木の『kamipro』編集部で一緒にご覧いただきました。

郷野　寝坊が心配だったんですけど、なんとか間に合ってよかったです（笑）。

――で、さっそくお話をうかがいたいんですが、今回のライトヘビー級チャンピオンシップのクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンvsフォレスト・グリフィンはかなりの好試合だったと思うんですが、現役UFCファイターの郷野さんから観ていかがでした？

郷野　やっぱり2ラウンドのグリフィンが放ったローキックにつきるでしょうね。あの攻撃でランペイジが左ヒザに何かが起こってるような、ローが効いてしまったということ以上のダメージが発生したと思いますから。

――ああ、あの二発のローキックはそんなに有効でしたか。

郷野　あれで左ヒザが壊れたんじゃないですかね？　ランペイジは一発目のローをもらった時点で、身体が流れ始めて、蹴りのカットすらできない状況になったじゃないですか？　あれは、しばらく故障者リスト入りですね。

――最後も脚を引きずってましたからね。

郷野　あのローのあとはパンチを打っていても、全部威力も半減していたから、「こりゃあ厳しいな」って。

――凄まじい猛攻を見せていた1ラウンドのランペイジとはまるで別人ですか？

郷野　別人ですね。ランペイジって今回の煽りVで「テクニカル・ストライキング」って紹介されてたけど、誰もが認める打撃テクがあって、カウンターがうまい。しかもパンチ力もあるから、相手はたまったもんじゃない！

――試合はしたくないタイプですか（笑）。

郷野　普通はパンチがうまいヤツってパンチの重さがなかったり、逆にヘタだけどパンチに重さがあったり、どっちかなんですよ。それをランペイジは両方持ってるんだから。

――テクニカルかつパンチが重い、と。1ラウンドにダウンを奪ったランペイジのカウンターのアッパーも相当な技術なんですか？

郷野　打ってくるパンチを見切って避けつつ、タイミングを計って、ドンピシャで当てていくって感じですから。だから俺はランペイジの打撃を「うまいなぁ！」と感心して観てたんです。途中のスラムもヒザが悪くなかったら、もっとガツーン！といってたでしょうし。



マウリシオ・ショーグンを撃破した近代UFCの申し子・グリフィンと、ダンヘンを退けた王者・ランペイジの新旧対決は、王者戦にふさわしい壮絶な打撃戦を展開。観衆を熱狂させる好試合となった。グリフィンの台頭で、新時代は到来するのか？

ランペイジがヒザを壊さなかったら、早い時間で、グリフィンを倒していたと思う

――持ち上げるまで時間かかってましたからね。

郷野　ヒザが悪くなかったら一発で仕留めるぐらい破壊力はあるでしょうし。いままでスラムも勢いあまって、頭突きでKOしちゃうような試合もあったじゃないですか（笑）。

――ええ。自分も血だらけでやってましたよね。「あきらかに頭突き入ってるじゃん！」っていう勢いで（笑）。

郷野　だからケガがなければ、もっとハイレベルな攻防が観られたんじゃないかなと。ただ、グリフィンもランペイジのヒザがおかしくなったのはわかったと思う。でも、そこでローにつながるようなコンビネーションを出したりしないのは不思議でしたね。

――逆にちょっと攻めあぐねているような印象もありましたよね。

郷野　俺から見たら、グリフィンは勝負を決めにいく部分で、まだそれほど強くない気もします。今回はケガに助けられた面が大きかったのかなって。だから、ランペイジがヒザを壊さなかったら、逆に早い時間でグリフィンを倒してたと思うし、そう考えるとグリフィンの王座はそんなに長く続かないんじゃないかと思うんです。ただ……、それより気になったのは、グリフィンの煽りVなんですよ。

――ほう。煽りVのどこがひっかかりました？

郷野　俺がUFCに行ったときはアメリカに着いてから、試合の2、3日前に慌ただしく撮ったんですが、グリフィンの煽りVはあきらかにかなり前に撮ってますよね。「いつ撮ったんだ、コレ！」っていうくらい（笑）。

――ダハハハハ！　ヘアスタイルもヒゲも見事にルックス違いでしたね（笑）。

郷野　あの髪型といい、生え際のラインといい。グリフィンが大きな千原せいじ（千原兄弟）にしか見えなくて（笑）。で、ランペイジはランペイジで、セコンドが異様におもしろかったじゃないですか？

――テンガロンハットを被ったヤツが、ランペイジの汗を拭いてたりしてましたね。

郷野　その帽子のヤツも目立ってるんだけど。ランペイジをはさんでもう片方のセコンドが、ゴブリンみたいに耳がデカくって。その絵ヅラが下級モンスターがボスモンスターをかいがいしく世話してい るようにしか見えなくて、これまた傑作だったなぁ〜。

――そんなところばかり注目してましたか（笑）でも、最後のインタビューでUFCのアナウンサーも「グレート・キャラクター！」ってほめたたえてましたけど、ランペイジはいいキャラですよね。

郷野　ホント、プロですよ！　試合前なんて、コワモテふうに顔をメチャクチャ作ってるけど、終わったら凄くいいヤツだし。

――そういうプロフェッショナルな態度をひっくるめて、「負けて、なお強し」って印象が残りましたね。

郷野　だから、今回はどうしてもランペイジ目線で観ちゃいました。それからあとは、PPVの最初の試合に出た選手のパンツについてた、フォルクスワーゲンのロゴが気になりましたね（笑）。

――ああ、マーカス・アウレリオvsタイソン・グリフィン戦で、タイソン・グリフィンのスパッツについてたロゴですね（笑）。

郷野　俺がUFCで最初に試合をするときに、コスチュームに入れるロゴに関して「UFCのメインスポンサーと同じ業種だとダメ」って制約があったんですよ。UFCってハーレーダビッドソンがスポンサーについてますけど「バイクと車だからギリギリセーフなのかな？」とか、そういうことばかり考えてましたね。まぁ、うらやましいだけなんですけど（笑）。

——それくらいアメリカでMMAがメジャーになっている証拠でしょう。なんでタイソン・グリフィンなのかは謎ですけど（笑）。ちなみに郷野さんはアメリカでそういうお話は？

郷野　まったくないですね（キッパリ）。まぁ、試合で現地に入ると、Tシャツやキャップのウェアのスポンサーって、ほぼ出場選手全員に、自然と話が来るんです。

——ああ、選手がインタビュー前に、慌てTシャツやキャップを被ってたりするヤツですね

郷野　だから俺に今後、ウェア以外のメーカーからオファーが来るかは、そこから先の価値が自分にあるか？　っていうことだし。PPVに映るか、映らないかでも違うでしょう。ま、俺はこのあいだは第1試合だったんですけど（苦笑）。

——日本の第1試合って、けっこう重要な意味を込めてますけど、アメリカでは……。

郷野　PPVが始まる前までは、ホントにひっそりやってますから。

——そんなにひっそりしてましたか（笑）。そんな空気の中、DJ GOZMAスタイルを貫いたのは、素晴らしい勇気というか。

郷野　いや〜。凄く気合い入れてやったのに、ガラガラで……。でもあのフォルクスワーゲンのロゴはUFCでサバイブしていく俺にとって一つの希望というか。俺もいつかメルセデスとかBMWのロゴをつけたいですから。



［UFC86 JACKSON vs GRIFFIN］
米国ネバダ州 マンダレイベイ・イベントセンター
○パトリック・コート vs ヒカルド・アルメイダ×
（3R 判定2-1）
一度は柔術の指導者となった実力者・アルメイダが、今年2月よりUFCに帰還！　その第2戦となったこの試合だが、両者とも攻め込めずに、どちらも決定的な決め手に欠く膠着ムード。大きな山場もなく無念の終了、王者戦の露払いとはいかなかった。

アルメイダの試合が長引いたことで、アンダーカードの放送時間がなくなった!!

——よくわかりました。で、あとお話をうかがいたいのは、セミのパトリック・コートvsヒカルド・アルメイダの試合ですかね。

郷野　ああ、アルメイダ。あれは、かなりの大凡戦ですから、語るところはないですね。

——あ、アルメイダはとくにない（笑）。そこを無理矢理語っていただけないですか？

郷野　まぁ、観るほうの期待が高かっただけに落胆も大きかったし。正直、観客のほうもブーイングを飛ばす元気すらなかったじゃないですか。

——ええ。メインに備えてトイレタイムと化していたようなムードで（笑）。

郷野　相手のパトリック・コートから、アルメイダは簡単に上が取れなかった。パトリックは立って闘いたいけど、アルメイダはテイクダウンをしたいけどできないから、二人ともスタンドの展開になった。でもお互いに立ち技の技術が稚拙で、レベルの低いボクシングみたいな試合が延々と展開されて……。

——アルメイダも「そんなジャブしか打てないの！」ってぐらい元気なかったし。

郷野　ウチの三崎和雄がアルメイダのジムに出稽古に行って、その強さを噂で聞いてたんで期待してたんですけど……。しかも、あの試合が長引いて、アンダーカードが放送される時間がなくなったじゃないですか！

——ええ。ネットPPV観戦は試合が早く終わると、アンダーカードも流してくれますから。

郷野　ホント、大損害ですよ。まぁ、お金は払ってませんけど（笑）。

——それから、この日は郷野さんと同じ、ウェルター級の試合として、ジョシュ・コスチェック vs クリス・ライトル戦がありました。この試合は、ちょっと事件現場を見ているような気になるくらい、血が大量に流れてましたけど。

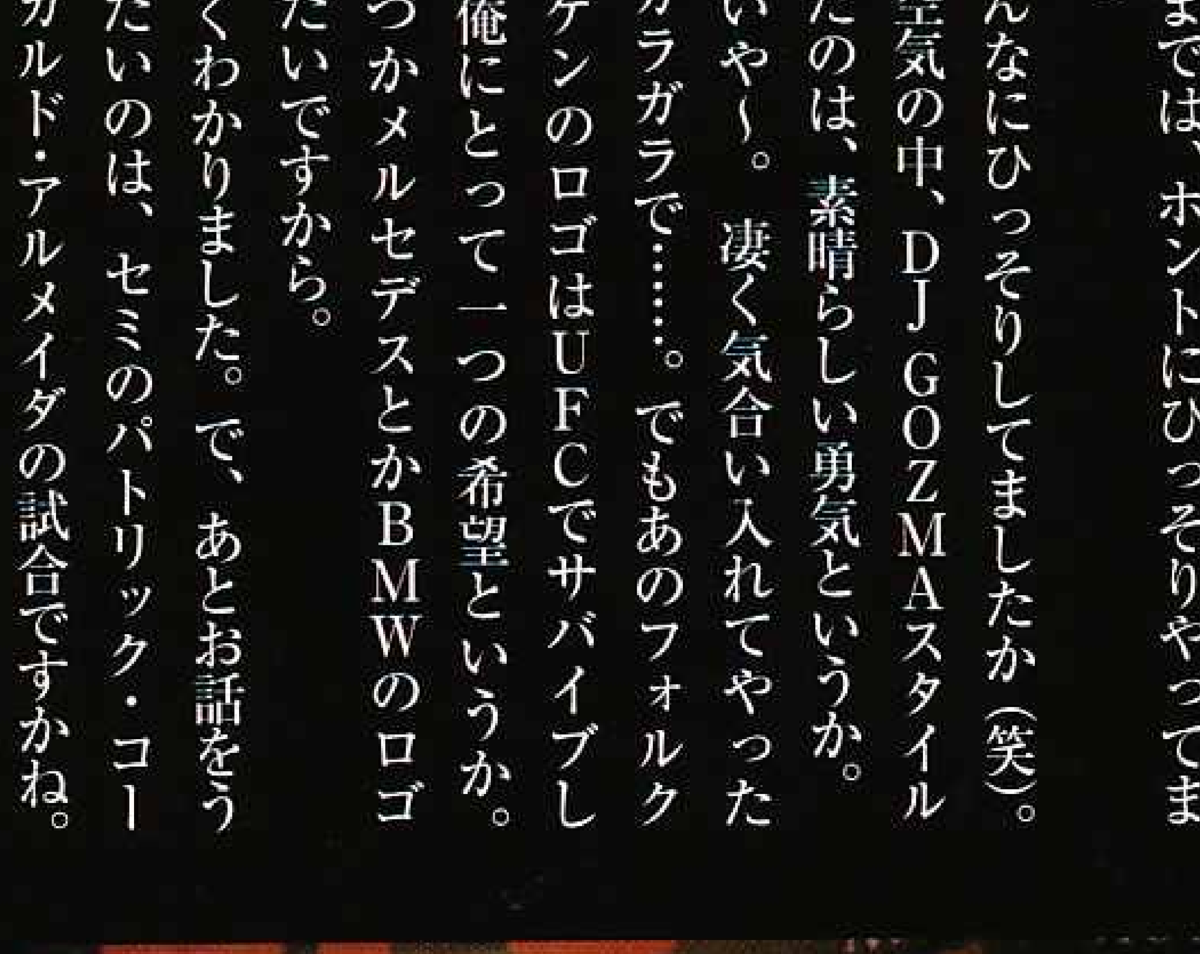
郷野　ただ、あのときも俺が思ってたことがあるんですけど……。

——もしや、またもや関係ないことを考えてたんですか？

郷野　ええ。コスチェックがガンガン殴ってる最中、カメラに血しぶきがついたじゃないですか？

——しばらく血しぶきがついたまま放送されてましたよね。

郷野　あそこで反射的に思ったのは、「『戦



人の話を聞かない、試合後の身勝手なインタビュースタイルで毎度おなじみなのがUFC中継の顔であり、"おしゃべりマシーン"ことジョー・ローガン。日本版"おしゃべりマシーン"郷野との絡みは、もちろん注目度大！



極』で中尾KISS（芳広）がカメラにブチュッってかましたときよりは、全然気になんねえなぁ」って（笑）。

――ダハハハハ！　確かに中尾さんのカメラへのKISSのときは、しばらく唾液で画面が歪みまくった状態で放送されてましたから。視聴者が陵辱されたような感じで（笑）。

郷野　あれは『戦極』の地上波放送が遠のいちゃうかもしれない（笑）。そのあたり、中尾さんには御一考いただきたいな、と。

それと今回、目についたのが青木真也ばりのラバーガードの攻防ですよね。

――ええ。マーカス・アウレリオやアルメイダもやってましたね。

郷野　ただ、アウレリオも一生懸命、下から極めようとしてたけど取れなかったし。同じようにトライしてたアルメイダも取れなかった。そう考えると、「青木真也はすげえんだなあ」って。

――青木の凄さを再認識しましたか。UFCとDREAMの違いといえば、"ヒジあり"ですけどそのあたりも影響があるんですか？

郷野　いや、正直、青木くんの寝技ってまだ底が見えてないじゃないですか。ヒジのありなしが影響するかどうかさえ、わからない。

――そういう幻想はありますよね。

郷野　だから今回はUFCというフィルターを通して、片や青木真也の関節技の凄さを再認識し、こなた中尾KISSの不愉快さを再認識したという大会でした（笑）。

――ダハハハハ！

郷野　まあ、『戦極』さんはウチ（GRABAKA）がお世話になってるんで、盛り上がってほしいんですけど（笑）。

――それから今回は出ていないですが、最近のUFCは、少し日本人がないがしろにされている感もあるような気がして。

郷野　まぁ、そこはないがしろにされますよ。というのは、UFCって勝つだけではダメ、おもしろい試合をして勝たなければいけないし、その上で英語でしっかりコミュニケーションも取らなければいけないから、日本人がピックアップされるのは難しいでしょう。

――このあいだも吉田（善行）選手が凄い一本勝ちをしたあと、インタビューでマイクを向けられたとき、通訳を入れてたんですけどチグハグして、微妙なムードになってて（笑）。

郷野　あれでまた「日本人ってこうなんだ」って刷り込みができちゃったと思うんです。典型的な、あいまいな日本人リアクションっていうか。

――逆に日本のイベントで、外人選手がたどたどしい日本語で「コンニチハ！」って言うと盛り上がりますけど、アメリカは？

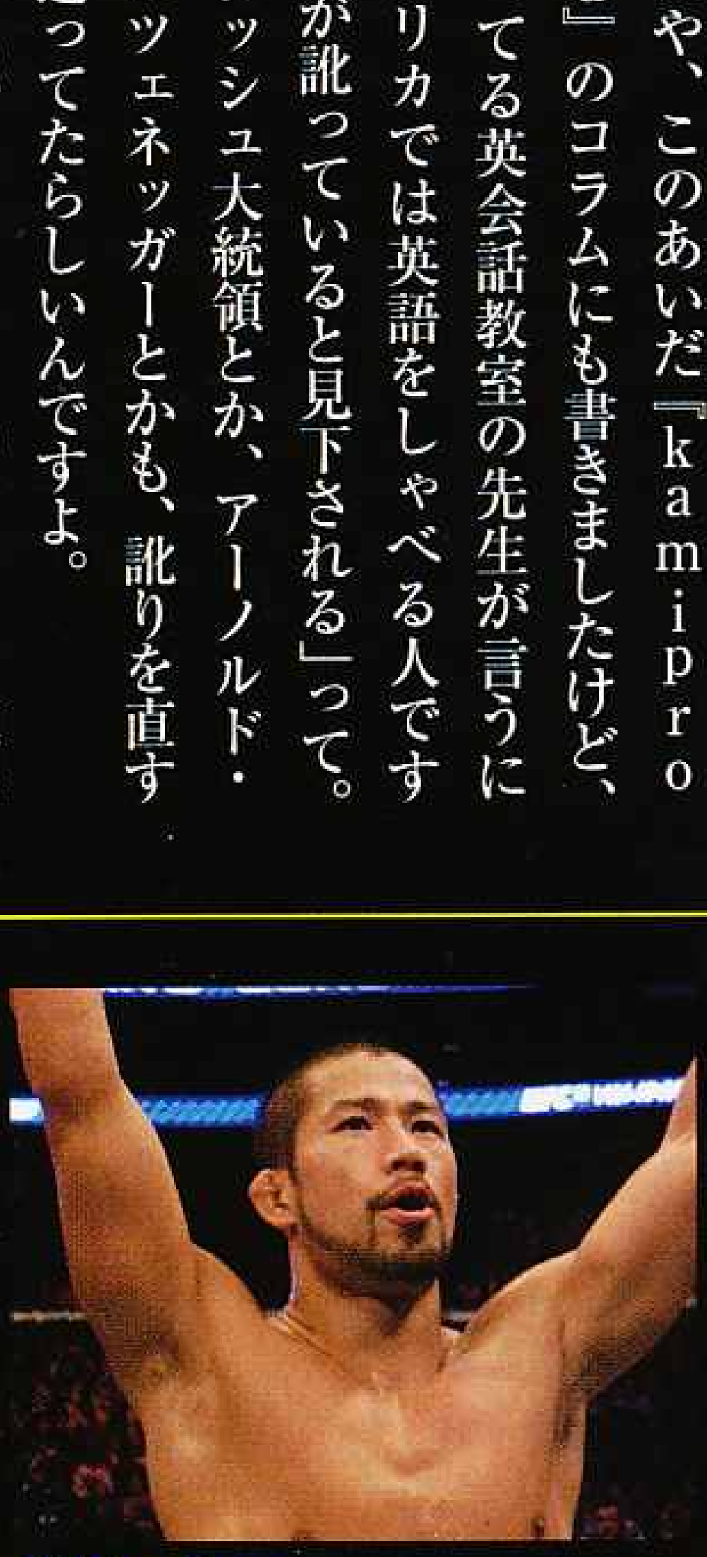
郷野　いや、このあいだ『kamipro Hand』のコラムにも書きましたけど、俺が通ってる英会話教室の先生が言うには「アメリカでは英語をしゃべる人ですら、発音が訛っていると見下される」って。だからブッシュ大統領とか、アーノルド・シュワルツェネッガーとかも、訛りを直す学校に通ってたらしいんですよ。

――じゃあ、PRIDEのアメリカ進出

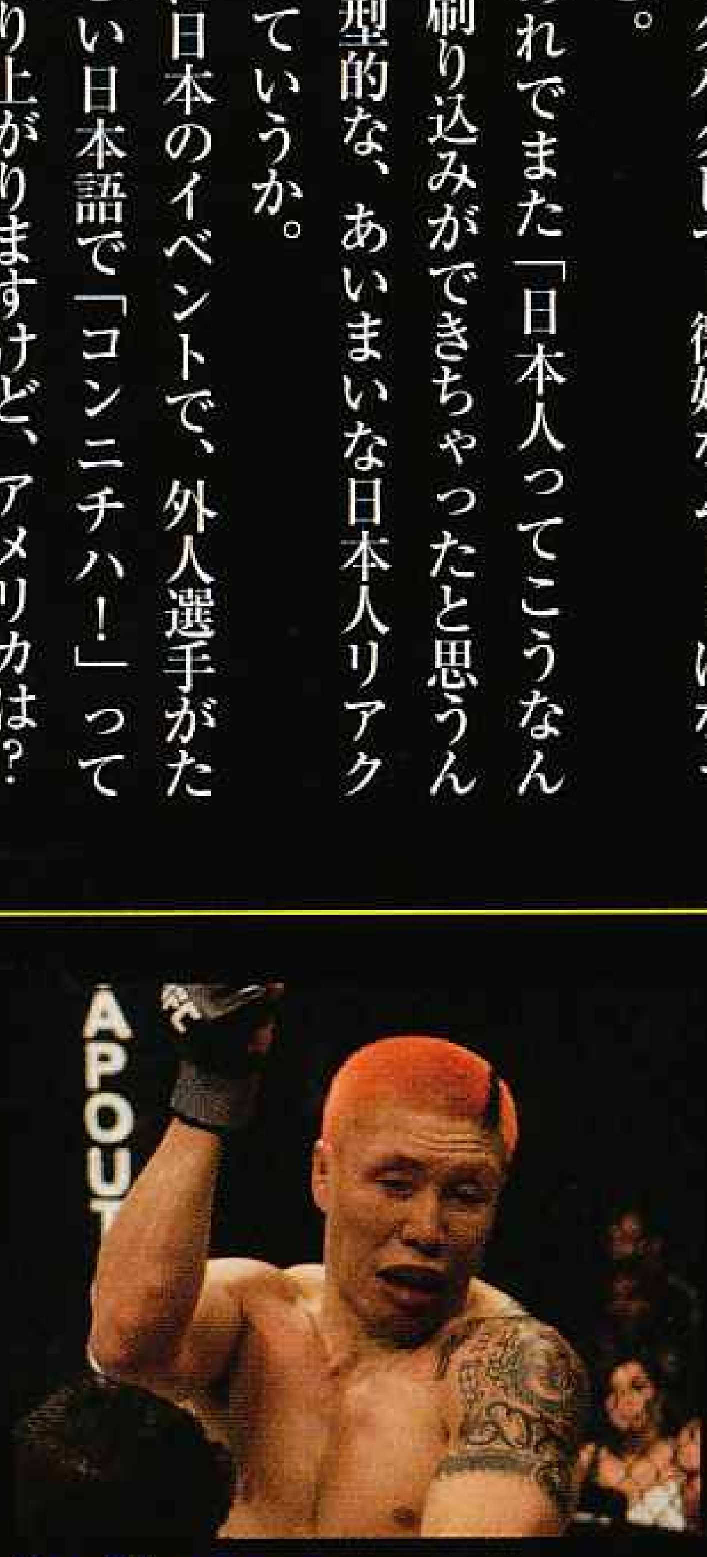
［UFC86 JACKSON vs GRIFFIN］
米国ネバダ州 マンダレイベイ・イベントセンター
○ジョシュ・コスチェック vs クリス・ライトル×
（3R 判定3-0）
血ぃ出すぎだって！　コスチェックはパンチとヒジを容赦なく落とし、ライトルを大流血させる無軌道な暴走っぷり。マットに血が溜まる超凄惨な光景が展開するも、なぜかストップはなし。3ラウンドも続行したものの、ヒヤリとする一幕だった。

UFCではおもしろい試合をして、勝って、英語でコミュニケーションも取れないと

UFC JAPANESE FIGHTERS LIST



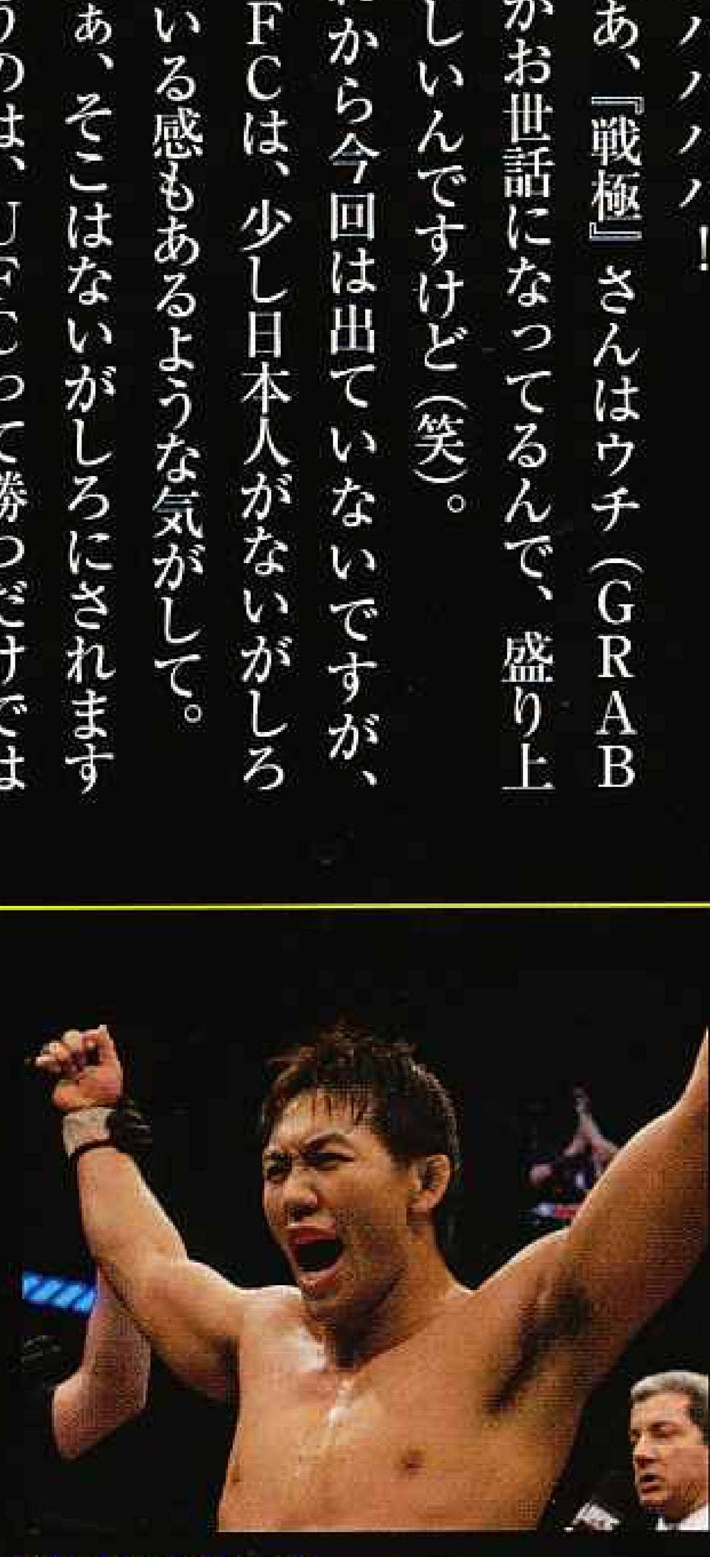
Akihiro Gono（郷野聡寛）
UFCデビュー戦でも独自の入場パフォーマンスを貫き、会場を震撼させた郷野。だが試合は一本勝利。ベストサブミッション賞でボーナスをゲットする強運ぶり！　現在は欠場中もアメリカ本格上陸も視野に!?



Ryo Chonan（長南亮）
チーム・クエスト在籍中の"ピラニア"は、『UFC78』のデビュー戦で判定負け。『UFC85』を肋骨骨折で欠場も、相棒のジェイソン・ミラーが活躍中だけに復活が待たれる。『kamipro Hand』で「USAピラニア日記」も更新中!



Yoshiyuki Yoshida（吉田善行）
金網は友だち、怖くない！　日本でオクタゴン養成ギプスとばかり『CAGE FORCE』で金網の試合ばかり経験した男。デビュー戦の『UFC84』でアナコンダチョークで一本！　課題はグダグダだったインタビュー!?



Yushin Okami（岡見勇信）
曙さんも熱烈応援！　UFC戦績6勝1敗。"日本で一番UFC王者に近い男"岡見は、アンデウソン・シウバとの王者戦目前!?　ニックネーム"サンダー"は獣神サンダー・ライガーと「ユウシン・サンダー」をかけたもの。

での髙田統括本部長（当時）のあまりにも堂々とした日本語英語調の「アッメ〜〜リカ！」もマズかったのかもしれない（笑）。あと、いまアメリカに行ってる長南（亮）さんが、現地のラジオ番組でレギュラーコーナーを持ってて。英語の難しい発音を長南さんが読み上げて、視聴者になんて言っているか当てさせるってコーナーなんですけど。それもやっぱりマイナスイメージなんですかね？

郷野　ただ、そうやって発音や言い間違いで笑わせたり、笑われるスタイルって、日本でいうボビー・オロゴン状態じゃないですか？

——そうですね。あとは曙さんとか（笑）。

郷野　英語がしゃべれないのをウリにするなら、そっち方面に行くしかないけど、逆に日本におけるボビーみたいに、アメリカで愛されるのかはわからないし。「見下されて終わり」って可能性もありますし。

——あのムリーロ・ブスタマンチでさえ、「自分はUFCのチャンピオンになったとき、英語がしゃべれないのが一番ハンデだった。アメリカで成功するなら、とにかく会話をして自分を知ってもらわなければダメだ。これからBTTの若い選手もそこに一番力を入れる！」って力説してましたし。実際、ブスタマンチはいま英語がペラペラなんですよ。

郷野　同じくブラジルのアンデウソン・シウバがいまいち大スターになりきれないのも、きっとそこでしょうね。

——アンデウソンは英語があまりしゃべれないですから。逆に人気急上昇中のヴァンダレイ・シウバなんかは、凄くうまくなってますし。で、その郷野さんも次戦で勝ったら、インタビューがありますけど。

郷野　まぁ、そこは……勝負ですね（真剣な表情で）。

三崎も英語に関して、ライバル意識があるのかも「出し抜いてやるぜ」って思っているかもしれない



ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都東久留米市出身。ご存知、GRABAKA所属の実力派ファイター。その饒舌なマイクアピールや、DJ OZMAもお墨つきのDJ GOZMAとしての入場で知られる。修斗、パンクラス、PRIDEを経たあと、現在はUFCウェルター級に参戦。現在は右腕負傷で欠場中。176cm、77kg。

——日本みたいに「おもしろいことを言わないと」ってプレッシャーもあります？

郷野　いや、アメリカではそんな大それたこと考えないですよ！　とりあえず英語を理解してもらえるのが目標ですから。

——いま慧舟會さんがUFCを見据えて『CAGE FORCE』って金網イベントをやってますけど、並行して英会話の勉強も業界ぐるみでさせるべき、という気もしてきました。

郷野　じゃあ、俺が窓口になって、紹介料を取りますか（笑）。

——GRABAKAも今後は柔術コースと、立ち技コースと、英会話コースで分けるとか（笑）。

郷野　でもね。「みんなで、しゃべれるようになろう」って気持ちもあるけど。それ以上に「一人で抜きん出たいな」って（笑）。

——ダハハハハ！　俺がマスターするまでは勉強してほしくない、と。

郷野　みんながしゃべれたら、突出できないですから。UFCも「郷野は試合は微妙だけど、しゃべれるから契約しておくか」みたいなことも考えられますしね（笑）。

——ちなみに三崎（和雄）さんも、今年はストライク・フォースに上がる予定があるらしいですが、三崎さんの英会話レベルって、どうなんですか？

郷野　英語の先生を見つけて勉強してるって話は聞きますけどね。

——あ、そのへんは固い結束を誇るGRABAKA内でも、秘密事項なんですか？

郷野　アイツもライバル意識があるんじゃないですか。「出し抜いてやるぜ」って思っているかもしれない（笑）。

——三崎さんがアメリカの試合でいきなり英語ペラペラだったら、度肝を抜かれますね。英語で「クソ高いチケット」って言ったり（笑）

郷野　ハハハハ！　言ってほしいなぁ。

——ところで、郷野さんの復帰はどれぐらいになりそうですか？

郷野　順調にいけば、今年中に一試合はできると思うんですけど。UFCは選手がいっぱいいますから、ドンドン試合を決めないと回らないでしょうし。逆にいまは契約を切られる選手も多いから、俺もなんとか引っかからないとね。

——でも、WOWOWでUFCの日本放送が再開する噂もありますから。解説にはすぐ声がかかるんじゃないですか。

郷野　……これはますます契約を切られるわけにはいかないですねぇ。やっぱり今後の人生設計のために、確保できるパイはしっかり確保しておきたいな、と（笑）。

——解説席でもサバイバルである、と（笑）。今日はありがとうございました！

【08年7月6日／都内・『kamipro』編集部にて収録】

『UFC87』

米国ミネソタ州ミネアポリス
ターゲットセンター
8月9日（土）現地時間　開始19:00

主要対戦カード

ジョルジュ・サンピエール vs ジョン・フィッチ
ブロック・レスナー vs ヒース・ヒーリング
ケニー・フロリアン vs ロジャー・フェルタ
マニー・ガンブリアン vs ロブ・エマーソン
ジェイソン・マクドナルド vs デミアン・マイア
ルーク・クモ vs タムデン・マクローリー
チーク・コンゴ vs ダン・エバンソン ほか

『UFC Fight Night』


米国ネバダ州ラスベガス
パームスカジノリゾート
7月19日（土）現地時間　開始18:00

主要対戦カード

アンデウソン・シウバ vs ジェームス・アービン
ブランドン・ベラ vs リース・アンディ
エルメス・フランカ vs フランク・エドガー
アンソニー・ジョンソン vs ケビン・バーンズ
ブロディ・ファーバー vs ロリー・マーカム
ジェームス・ギブー vs ブラッド・ブラックバーン
デイル・ハート vs シャノン・ガガーティ

曙さんがUFC出撃宣言!!

おい、ホントかよ!?



日本再進出前夜祭
UFCワウワウ!!



意外や意外!?　MMA師弟対談

岡見勇信×曙

前のページでの曙さんのUFC出陣宣言に驚いた人もいたかもしれない。正直、スマン！　しかし、曙さんのこの宣言はあながち嘘ではない。その意図は、UFCミドル級王者アンデウソン・シウバとのタイトルマッチも秒読み段階と言われる岡見勇信との対談を読めば丸わかり。意外や意外、岡見先生と曙さんのMMA師弟対談、仲よくM字ポーズでスタート！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／平工幸雄、Josh Hedges（UFC）

横綱のパンチで宙に浮いたんです。あれは初めての経験でした(岡見)

—以前、曙さんを取材させていただいた際に「なんで『kamipro』は岡見さんを表紙にしないの? 彼は凄いんだよ」って言われてましたよね?

曙 そう。だって、そうでしょ?

—は、はい。凄いと思います。

岡見 僕のことを言ってくれてありがとうございます(曙さんに礼)。

曙 ちゃ〜んとやってんだよ、宣伝を。

—ガハハハハ! 熱心なファンは岡見さんの活躍もチェックしてると思うんですけど、最近はネットPPVや動画サイトぐらいでしかUFCの試合は観られないので、岡見さんの凄さを曙さんに語っていただければと思ってまして。

曙 岡見さんが凄いのは技術もそうだけど、それ以前の問題で。格闘技に対する姿勢っていうか。一緒に練習させてもらったときとか、自分らが横綱を目指してた頃と同じようなものを感じましたね。

岡見 ありがとうございます!

曙 あと、感じたのは、やっぱり本人の気持ちですね。気持ちがしっかりしてないと、あんな苦しい練習できないですよ。

—そもそも、最初に一緒に練習したっていうのはいつぐらいになるんですか?

曙 自分が一番最初に総合に出て、『Dynamite!!』でホイス・グレイシーとやったときですよ。2004年の大晦日。

—残念ながら2分ちょっとでリストロックで負けちゃった試合ですね。

曙 そうそう……って、思い出させるなって! だって、試合が決まったのが1ヵ月前ぐらいだよ。そんなんでホイスに勝てるかっちゅうの!

—また、自虐的な(笑)。

岡見 でもホント、あのときは短期間でしたよね。

曙 そうそう。いきなり谷川(貞治)さんから電話がかかってきて、「相手決まったから来て」って言われて、行ったら岡見さんと矢野(倍達)さんがいたんです。

岡見 そうですね。あのときはビックリしましたね。門前仲町の(RJW)道場の入り口付近に、なんだか凄くデカい人がいるなと思ったら横綱で(笑)。

—体格的にも技術的にも仮想ホイスということで岡見さんがトレーニングパートナーに選ばれたんですかね?

岡見 そうだと思います。

—試合まで1カ月しかないなかで、どういった練習をされたんですか?

岡見 あのときは横綱は総合は初めてだったので、基本的な技術というか。

曙 基本的なこともできなかった……。

岡見 いや、そんなことないですよ(笑)。

—実際一緒に練習されてどうでした?

岡見 やっぱ大変でしたね。とにかく、凄いパワーなんで。でも、なかなか横綱みたいな体格というか、パワーの人と練習する機会っていうのはまずないことなので、自分も成長できると思いました。



曙のプロモーターデビューが決定! 曙がプロモートするのは8月9日に開催されるK-1ハワイ大会。同大会にはマイティ・モーやニコラス・ペタスをはじめ強豪選手も多数参戦。曙はプロモーター業に専念するため試合出場の予定はないが、当日はなんらかのサプライズも!?

YUSHIN OKAMI × AKEBONO

—曙さんにとっては岡見さんの存在はMMAの先生的な感じなんですか?

曙 そのとおりですね。ボクの総合の技術というのは、ほとんど全部慧舟會からきてるんで。岡見さんに限らず矢野(倍達)さんとか、みんな練習時間をズラしたりしてマンツーマンでトレーニングに付き合ってくれたんで、ホントありがたかったです。それなのに、ちょっと期待を裏切ったような戦績なんで、そのへんは気にはなってるんですけど。ごめんなさい(ペコリと頭を下げる)。

岡見 いやいや、やめてくださいよ(笑)。

—その当時の印象に残っているエピソードって何かあります?

岡見 凄いなと思ったのが、横綱と打撃のスパーリングをやったとき、一回突っ張りみたいな感じのパンチをもらったんですよ。そしたらホントに宙に浮いたんです。あれは初めての経験でしたね(笑)。

曙 それが試合で出せればよかったんだけど、なかなかそうはいかなくて。

—なんとリアクションすればいいのか(笑)。岡見さん、一緒に練習していてケガとかはされませんでした?

岡見 運良く、それは大丈夫でしたね。

曙 しゃべっていいのかわかんないですけど、危ないからってことで、久保社長が頑丈な人ばっかり連れてきてくれて。

岡見 あ〜、そうでしたね。

曙 サインも書いてましたよね。「死んでもこっちの責任じゃない」って(笑)。

—命懸けの練習をされていた、と。

岡見 怖いですからね、やるほうは。パンチ一発でももらったら、ホントにクラクラして次の日まで残っちゃうんで。スパーリング一つが試合みたいな感覚というか。だから、「デカい人、もうちょっといないかなぁ」って本気で探しましたからね(笑)。

—体格は全然違いますけど、宇野薫選手とかとも一緒に練習されたんですか?

曙 宇野さんともやりましたし、慧舟會にはいろんな人がいるんで、大きさは関係なく練習させてもらいましたね。

—ホイス戦の前にはタイガープレイスで一緒に公開練習もされてましたよね。

岡見 あ〜、懐かしいですね(笑)。

曙 あのときは猪木さんも来てくれてスパーリングしたんですけど、岡見さんはファンとして見てましたよ。「うわっ、猪木vs曙だ!」って興奮して(笑)。

岡見 いや〜、興奮しましたよ。ドリームマッチだなぁと思って観てましたね。

—たしか、あのときは猪木さんに横三角絞めをかけられてタップさせられたり、闘魂ビンタまで食らってましたよね。

曙 そうそうそう。猪木さんはシャレが通じない人だから。スゲー痛かった!

—ダジャレはよく言ってるんですけどね(笑)。聞くところによると、曙さんはUFCはよく観てるみたいですね。

曙 そうそう。毎回観てますよ。

—いま日本ではネットのPPVを買わないとUFCは観られないんですけど、曙さんはどうやって観てるんですか?

曙 ウチの奥さんが米軍の人なんで、家に米軍と同じアンテナがついてるんですよ。

岡見 エッ、そうなんですか!

曙　そうなの。格闘技しかやらないチャンネルがあって、UFCやらプロレスやら、全部やってますから。
—でも、そんなこと誌面で言っちゃったら、UFCがある日は、みんな曙さんの家に集まっちゃうんじゃないですかね。
曙　そうしたら取りますよ、入場料（笑）。
—そうですか（笑）。
曙　UFCなんかがあると、同じハワイ出身の米軍のヤツとか、みんな集まってバーベキューとかやりながら観てますね。
—最近の岡見さんの試合はどうですか。
曙　あの闘い方はやっぱりアメリカで嫌われるタイプ。絶対嫌がられるタイプね。
—ガハハハハ！　まあ、ブーイングも多少起こったりしてますからね。
岡見　そうですね（苦笑）。まあでも、たとえブーイングが出ても冷静に自分の闘いをしようというか、最近はそういう闘い方ができるようになってきましたね。
曙　ボクは悪い意味で言ったんじゃないんですよ。
—どういう意味なんですか？
曙　いやらしい試合をしているというか。それに試合を重ねながら、だんだんオーラも出てきてますよ。堂々と闘ってるし。最初の頃のように必死さとかがなくなって、ヘタしたら横綱相撲みたいに攻めさせて、そこから仕留めるっていうような闘い方になってきてますよね、最近は。
岡見　あ、ありがとうございます！（笑）。
—じゃあ、UFCの中で横綱になるのもそんなに遠くはないというか。
曙　いや、最初から遠くないと思ってたんですよ。練習してみたらわかりますから。まあ、ボクはホイスとかには負けてるんで説得力はないですけど（笑）、たぶん力的には彼のほうが全然上ですよ。



—ほぉ〜、メチャメチャ高評価ですね。
曙　横にいるから言ってるんじゃなくて……まあ、いなかったら言わないけど（笑）。
—ガハハハハ！　岡見さんもUFCのチャンピオンというのは見えてきたような手応えは感じてます？
岡見　そうですね。参戦当初はチャンピオンとかは考えられなくて、一試合一試合、生き延びることで精一杯だったんですけど。いまは、もう7戦してきて、目標だったアンデウソンが見えてきてるかなって。
曙　そういうのはね、やってる人から見ると、ちょっと違うんですよね。彼はチャンピオンになりたいとかはもちろんあると思うんですけど、ただ練習やって成果を出してるだけですから。だからそこまで実感はないんですよ。たぶん、気づいたらチャンピオンになってると思うんで。
岡見　そうだといいんですけど（笑）。
曙　ボクもそうだったですもん。横綱に

いつまでもリングに上がれないんで、ハワイのデイナ・ワイッになろうと思って



「切なかったですねぇ」と岡見もショックを受けていたのがボノちゃんとの一騎討ちを最後に引退を表明したインリン様について。そんな岡見に「大丈夫。今度のGPで優勝したら願いごとがかなうんだから」と意味深な笑顔を浮かべていた曙だったが、はたして？

挑戦してるときは、もちろんなりたいんですけど、必死になってやってやって、気づいたらなってましたから。だから、たぶんどこかで同じだと思うんですよ。
—必死になってやっている結果、気づいたらボノちゃんになってたりとか（笑）。
曙　そうそうそう。生まれ変わったりしてね……って、突っ込むなっちゅうの！　せっかく、いい話してたのに。
—失礼しました（笑）。
曙　偉そうなこと言うわけじゃないけど、ボクは一回頂点取ってるじゃないですか？
岡見　はい。横綱ですからね。
曙　そのよさとかわかってるから、岡見さんにも頂点を取ってほしいですよね。
岡見　はい。頑張ります！
—岡見さんもUFCで活躍していくには、どうしても英語力も必要になってくると思うんですよ。実際、郷野選手とかは英会話教室に通ったりしてますし。
岡見　あ〜、行ってるみたいですね。
—曙さんから英語を習ったりってこともあるんですか？
岡見　いや、ないですね。横綱に教えてもらうなんておこがましいんで。
曙　ボクはあんまり英語は得意じゃないから。
—何を言ってるんですか！（笑）。
岡見　逆に横綱から日本語を教えてもらうことはたまにあるんですよ（笑）。難しいことわざとか知ってて、「え、なんですか、それ？」って教えてもらったことはありますけど、英語はまだないですね。
曙　プロレスもそうだけど、英語はしゃべれないほうがいいんじゃないですか？
—言葉がなくても、闘いだけで全世界に通用するジャンルでもありますからね。
曙　通用するでしょ。逆にね、しゃべれる

と、いらん声まで聞こえちゃうから。
岡見 あ〜、それはあるでしょうね。
曙 なんならスーツ着て行きますよ。一緒にUFCに。
岡見 エッ、通訳としてですか？（笑）。
曙 そうそう。それを待ってたんですよ。「来てくれ」って言われるのを。それが一回もない。ボク、悲しいよ（泣きマネ）。
——でも、曙さんに通訳を頼んだら、お金も凄くかかるじゃないですか。
曙 自腹で行くよ、そんなの！
——ホ、ホントですか？ 誌面に載ったらホントに行かなきゃいけないですよ。
曙 行くよ！ あたりまえだよ！
——近々噂されているタイトルマッチとかで、通訳として岡見さんの横に曙さんが立っていたら凄いことですよ。
岡見 それはヤバいですねぇ。でも、そうなったら、ボクよりも横綱のほうが目立っちゃうじゃないですか（笑）。
曙 いや〜、そんなことないでしょ。
——ちなみに、岡見さんは曙さんの『ハッスル』での活躍はご覧になってます？
曙 （即座に）それ違う人だよ！
岡見 ボノちゃんは別人でしたね。
曙 そうそう。バラすなっちゅうの！
——す、すみません。
岡見 『ハッスル』はテレ東でたまにやってるんで、それで観てますね。ホントにボノちゃんは凄いなぁと思ってて。
曙 どのへんが凄い？
岡見 『ハッスル』は凄いエンターテインメントっていうか、プロレスももちろん大事だと思うんですけど、しゃべりとか表情も凄い重要じゃないですか。そのへんも含めてボノちゃんは凄いと思います。
曙 いっつも緊張してるんだけどね（笑）。でね、おもしろいのは、じつは彼らもプロレスが大好きなんですよ。練習後によくやってましたもん。
岡見 やってましたね。よく横綱からプロレスを教えてもらってましたよ。
曙 一回、全日本プロレスの代々木大会でプロレスの練習もしたことあるよね。
岡見 そうでしたね。横綱が練習したいっていうことで、大会前の全日本のリングで練習させてもらったことがあって。
——そんなことがありましたか。どうですか、将来、岡見さんをボノちゃん部屋にスカウトするとか。
曙 いやいや、彼はチャンピオンですから、滅相もないです。まあボクもいつまでもリングに上がれないんで、ハワイのディナ・ワイィッになろうと思って。
——ダナ・ホワイトのことですか？
曙 （即座に）違う違う、ディナ・ワイッ！
岡見 そういうふうに呼ばなきゃダメですね、向こうに行ったら。



英語というより横綱から日本語を教えてもらうことはたまにあります（笑）



今年3月の『UFC82』でエヴァン・タナーをヒザ蹴りでKOし、UFC戦績を6勝1敗とした岡見。7.19 UFNに参戦する現ミドル級王者アンデウソンが、この試合でケガなく終われば、9月のアトランタ大会で岡見とのタイトルマッチが実現する可能性が高い。

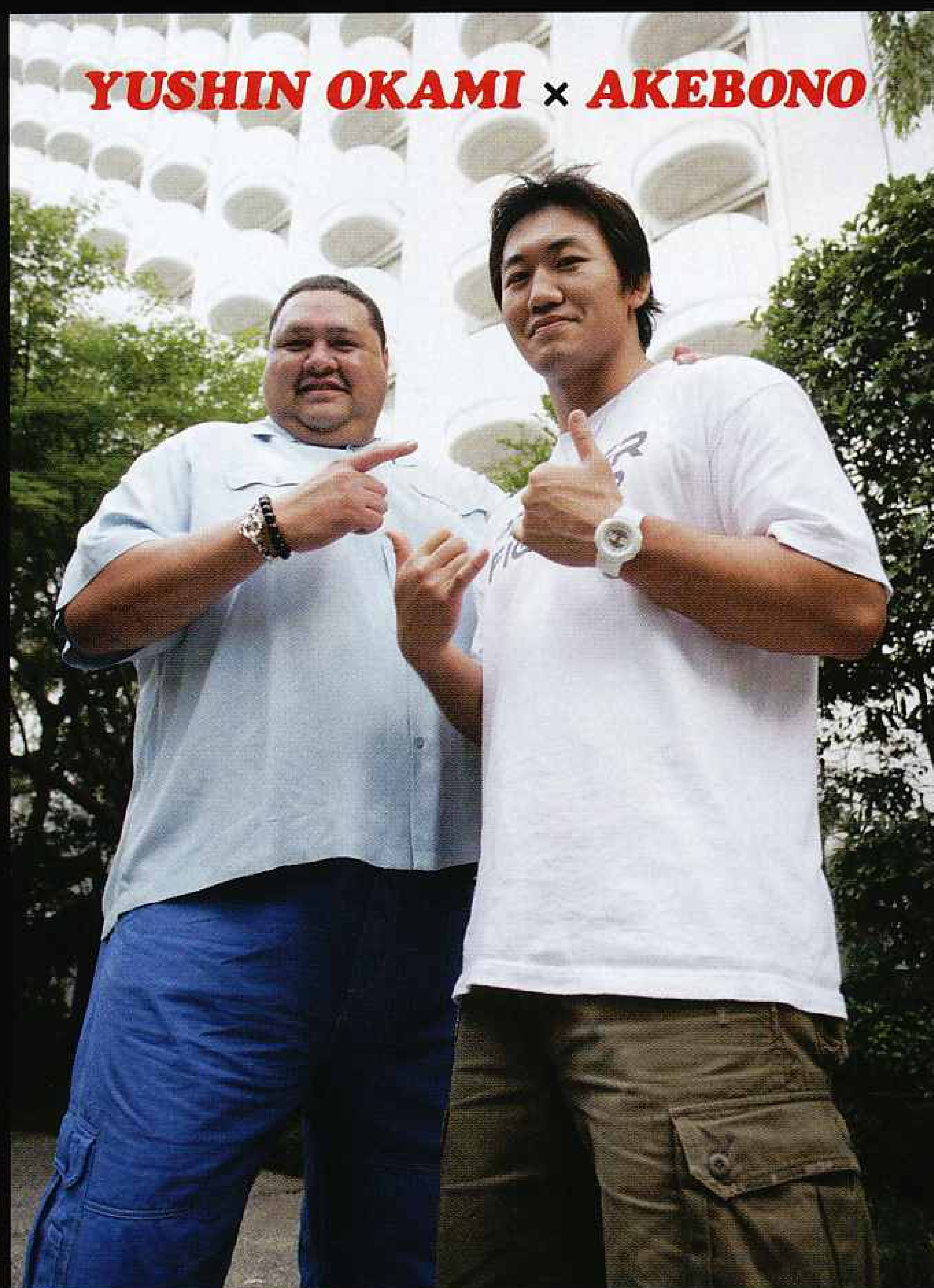
——そうか、曙さんは8月9日に地元のハワイでK-1の大会をプロモートするみたいですけど、そういう意味でハワイのディナ・ワーイになろうと？
曙 だから、「ワーイ」って伸ばさないの！ ディナ・ワイッ！
——以後、気をつけます。プロモーターとして、すでにいろいろと動いているみたいですけど、手応えはどうですか？
曙 まあ、ぶっちゃけ、いろいろと難しいところもありますけど、ハワイ州が州をあげて応援してくれるような大会を作っていきたいと思ってますね。
——曙さんプロモートってことで、独自の企画とかも考えたりしてるんですか。
曙 いろいろ考えてますよ。もともとボクは相撲協会の広報部もやってたんで、そういう仕事に興味があるんですよ。
岡見 あ、そうだったんですか。
曙 だから、いろんなイベントをハワイに持っていって、子どもたちにちゃんと教えるきっかけを作りたいんですよね。
——と言いますと？
曙 いま、アメリカでは学校でケンカしたりとか、いろいろと問題になってて。ハワイでも凄いんですよ。だから、ただ試合をするだけじゃなくて、たとえば週末3日間とかイベントをして、岡見さんみたいな人をスペシャルゲストで呼んで子どもとかと触れ合って「格闘技はこうやってやるんだよ。でも学校ではやっちゃダメ」とか、そういう指導とかもしていきたいなって。
——ハワイ大会はプロモーターに専念するってことで試合はされないみたいですけど、挨拶とかはするんですよね？
曙 もちろん。いろいろサプライズも計画してるし、もう開会宣言の挨拶のセリフも全部考えてるんですよ。

――どんな挨拶を考えてるんですか？
曙　「K―1、ハッスルしてますか〜ッ！」って（笑）。
――ガハハハハ！　おもしろいですけど、ちょっとマズいんじゃないですか？
曙　いや、もうOKもらってるんで。ボクは団体のしがらみとか関係ないもん。それに、いろんなとこに出てるから、いろんなとこを宣伝しないと。
――さすがですね（笑）。
曙　でも、おもしろいよね。ボクはハワイから来て日本で成功して、岡見さんは日本からアメリカに行って成功して。
岡見　ホントそうですよねぇ。でも、僕はまだ横綱のように成功はしてないので、これからもっと頑張らないと。
曙　今度、試合どこでやるの？
岡見　9月か10月ぐらいには、またアメリカで試合がありそうです。
曙　ハワイでやってよ！
岡見　ハワイでもやりたいですねぇ。
曙　そのときは飛んで行くんで。
――地元で通訳デビュー、と（笑）。最後に今後の意気込みを聞かせてください！
岡見　宇野さんがDREAMのライト級GPに勝ち残っていますけど、宇野さんは必ずチャンピオンになれると思ってるんで、僕もそれに続きたいと思ってますね。
曙　慧舟會でベルトを全部獲るつもり？
岡見　もちろんですよ！（笑）。
曙　じゃあ自分もハッスルGP頑張るわ。
岡見　あ、今度あるんですよね？
曙　ハッスルのGPは優勝したら髙田総統が願いごとをかなえてくれるんですよ。
岡見　そうみたいですね。横綱はどんな夢をかなえてもらうつもりなんですか？
曙　ボノちゃんは優勝してパパを魔界から呼び戻してもらうって言ってるんだけど、ボクは優勝したら、宇野さんと岡見さんと3人でベルト持って『kamipro』の表紙をお願いしようかな（笑）。
岡見　いいですねぇ！
曙　（急に小声になり）オレは必ず獲るから（ニヤリ）。
岡見　あ、そうなんですか（笑）。……じゃあ、僕も獲ります！
曙　じゃあ、あとは宇野さんに頑張ってもらうとして、そのときは『kamipro』さん、お願いしますよ！
――了解しました！
曙　でも岡見さん、ホントにタイトルマッチが決まったら早めに言ってよ。こっちも飛行機予約しないといけないから。
岡見　わかりました。そのときはよろしくお願いします！

【08年6月27日／都内・某ホテルにて収録】

宇野さんは必ずチャンピオンになると思うので、僕もそれに続きたいです！

自分もハッスルGPで優勝するので、宇野さんと3人で『kamipro』の表紙を飾ろう！



あけぼの■1969年5月8日、米国ハワイ州オアフ島出身。史上初の外国人横綱。01年に大相撲の世界を引退し、03年の大晦日の『Dynamite!!』でボブ・サップ相手にK-1デビュー。翌年の『Dynamite!!』ではホイス・グレイシー相手に総合格闘技デビュー。現在はボノちゃんとして、『ハッスル』を主戦場にプロレス界で活躍中。203cm、215kg。

おかみ・ゆうしん■1981年7月21日、神奈川県出身。02年2月のプロデビュー後はパンクラス、DOG、PRIDE武士道、『HERO'S』、MARSなど、さまざまな舞台で活躍。現在はUFCに参戦し、6勝1敗の好成績を残しミドル級王者アンデウソンとのタイトルマッチも秒読み段階。188cm、84kg。ブログアドレスは→http://blog.olga.to/okami/

『DEMOLITION』
東京・ディファ有明
7月21日（月・祝）開始14:00（予定）

チケット料金
SRS 8,000円／RS 6,000円／A 5,000円

お問い合わせ
GCMコミュニケーション TEL.03-3556-6201

WECにGCMから2選手が参戦！　三浦広光はタイトルマッチ!!
8月3日（日）現地時間『WEC 35』
米国ネバダ州・ラスベガス ハードロックホテル&カジノ

主要対戦カード
大沢ケンジ（和術慧舟會A-3）vs Scott Jorgensen／高谷裕之（WK高谷軍団）vs Cub Swanson
［ウェルター級タイトルマッチ 5分5ラウンド］
（王者）カーロス・コンディット vs 三浦広光（SAMURAI SWORD）

『K-1 WORLD GP 2008 IN HAWAII』
ハワイ・スタン シェリフセンター
8月9日（土）現地時間 開始18:00

出場予定選手
マイティ・モー／ハリッド・"ディ・ファウスト"／ニコラス・ペタス／マイク・マローン／クリス・ウェスト／スコット・ジャンク／ポール・スロウィンスキー

チケット料金
SRS $200／RS $120／S $80／A $50／B $30

お問い合わせ
FEG TEL.03-3796-5060

『ハッスル・ツアー2008』
〜7.27 in YOKOHAMA〜
神奈川・横浜文化体育館
7月27日（日）開演17:00

主要対戦カード
▽ハッスルGP一回戦
坂田亘 vs TAJIRI／アン・ジョー司令長官 vs 長尾銀牙
ザ・モンスター℃ vs X／X vs X ほか

チケット料金
ハッスルVIP 10,000円／RRS 8,000円／アリーナS 6,000円／スタンドS 6,000円／スタンドA 4,000円
※全席指定・消費税込み

お問い合わせ
ハッスルエンターテインメント TEL.03-3221-2431



サラブレ8月号 絶賛発売中 定価680円

春の2大スター、その強さに迫る

ウオッカ&ディープスカイ 特集

- ●鈴木由希子氏が語る女王復活の軌跡
- ●長谷川仁志氏が語るダービー馬の軌跡
- ●生まれ故郷を訪ねて
- ●厩舎スタッフに訊く2頭の素顔etc

第二特集

この春活躍したホースマンたち

春競馬の舞台裏

- 藤原英昭厩舎急成長の秘密
- アドマイヤジュピタ頂点までの道程
- ジョッキー岩田康誠の戦い
- オークス裁決・JRAの見解
- 調教師、騎手が選ぶ春競馬の重大ニュース

特別企画

- 新潟・小倉・北海道開催の馬券作戦が満載! ▶夏競馬お役立ちデータ集
- 馬産地ライターがとっておきの情報を披露! ▶馬産地をもっともっと楽しみたい!
- 今回もぶっちぎりで最強生産をいよいよ開始! ▶ダービースタリオン祭

競馬月刊誌 サラブレは毎月13日発売!



宇宙一早い!! ダビスタDSの攻略本

大好評増刷

"初心者から最強馬派まで、全ユーザー必携の書"

全種牡馬&繁殖牝馬の血統データを掲載

「面白い配合」「見事な配合」などの系統情報がひと目で分かる見やすい作り。血統マニアは必携

ダビスタ初心者も安心の攻略ガイド

分かりやすく丁寧な解説で『ダビスタ』初心者も安心! お得な攻略テクニックもたっぷり紹介します!!

製作者・薗部博之氏のスペシャルインタビュー!!

『ダビスタ』製作者・薗部氏の生の声をたっぷりお届け! その発言からゲーム攻略の鍵を見つけ出せ!!

サラブレ責任編集

※内容は一部変更になる可能性があります。 ©2008Parity Bit

A5半 288ページ 定価1000円(税込)

絶賛発売中

ケータイサイト
サラブレmobile
月額315円(税込)

すべてのキャリアで3Gに対応していますが、一部非対応機種があります。詳細はサイトにアクセスしてください。

- iモード メニューリスト▶趣味/娯楽▶競馬/競輪/競艇▶サラブレモバイル
- EZweb EZトップメニュー▶カテゴリ検索▶懸賞・くじ・ギャンブル▶競馬▶サラブレモバイル
- Yahoo!ケータイ メニューリスト▶趣味・レジャー▶競馬・公営競技▶サラブレモバイル

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話0570-060-555(代表) http://www.enterbrain.co.jp/

最近おもしろいなと思うのは、アメリカMMA界で起こった〝試合以外の出来事〟だ。

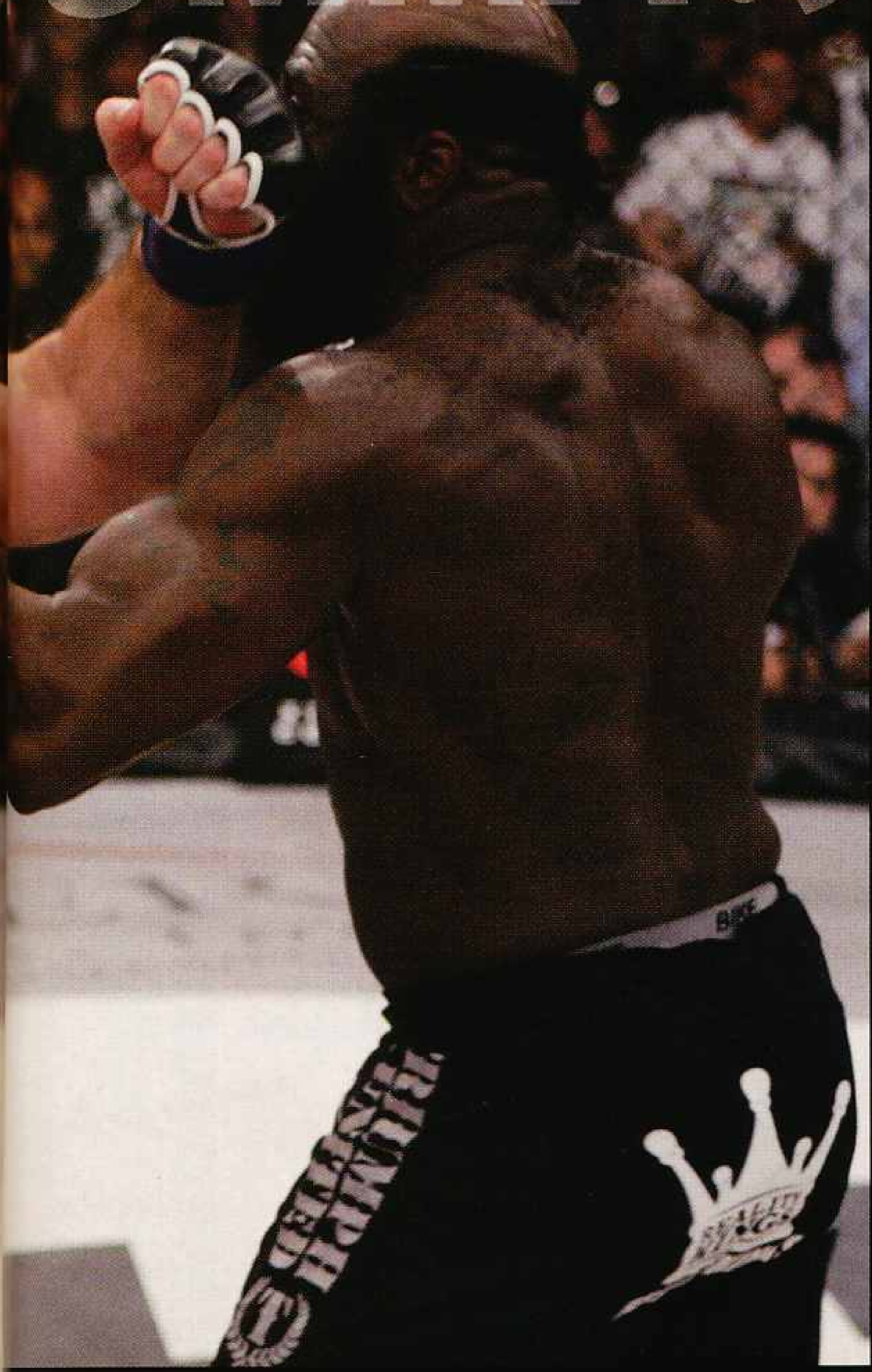
記念すべきCBS生中継第一弾となった、5・31エリートXC終了後の会見でのこと。メインでジェームス・トンプソンに勝利したキンボ・スライスに、ギロチンチョークを仕掛けられた際タップしていたのではないかという疑惑が持ち上がった。それをブレッド・ロジャースに批難されたとキンボが立ち上がり、両陣営による乱闘騒ぎが勃発したのだ。キンボには〝タップ疑惑〟以前に人気先行、キャラ優先という批判もある。

6月15日のエリートXCハワイ大会では、ライト級王者KJ・ヌーンがイーブス・エドワーズに勝利してタイトル防衛を果たした直後、ニック・ディアズがケージに〝乱入〟。リマッチを要求するディアズの挑発にKJの父親がブチキレて、ここでも乱闘騒ぎが起きている。

もう一つ。話題を呼んでいるアフリクション旗揚げ大会と同日に、ズッファはUFNをぶつけてきた。この大会には、ミドル級王者アンデウソン・シウバも出場するという。しかもライトヘビー級マッチで。いまやパウンド・フォー・パウンド（体重差がないと仮定した場合の最強）の呼び声も高いアンデウソンを、急きょ開催が決まったライバル潰し大会の、いわば〝鉄砲玉〟として使っちゃうわけだ。

こういうニュースを聞いて思うのは〝あぁ、これって日本も通ってきた道だよな〟ってことだ。乱闘騒ぎ、キャラ優先の選手が注目されること、選手よりも興行ありきのスケジュール。どれも、似たようなことが日本で、つまりアメリカに先立つ〝格闘大国〟で起きているのだ。

…えるMMAの魅力〜



乱闘だって いいじゃないか にんげんだもの

文／橋本宗洋　構成／鈴木佑
写真／Tom Casino（Elite XC）

一触即発！ MMA事件簿

ヴァンダレイとランペイジが王座戦を前に乱闘騒ぎ！

▼2003年3月16日 PRIDE・25
クイントン〝ランペイジ〟ジャクソンvs
ケビン・ランデルマン 試合後

ときはPRIDEミドル級王者のシウバが〝絶対王者〟として無敵を誇っていた頃。同じくミドル級のトップランナーであるランペイジは、ランデルマンをKOで下すと、リングサイドにいた王者シウバを挑発。これに激高したシウバはリングに上がると、いきなりランペイジの胸を勢いよく突き飛ばし、そこからは選手・セコンド、両軍（シュートボクセとチーム・イハ）入り乱れての大乱闘が勃発！　試合後にランペイジは「シウバに、『今度そのベルトを巻くのは俺だから磨いておいてくれ』と言ったのが気にくわなかったようだ」と、騒動の原因を語った。タイトルマッチが期待される強豪同士の思わぬ前哨戦に、会場は興奮の坩堝と化したのであった。

中村カズが狂犬ハイアンに対戦を要求するもグダグダに

▼2004年12月31日
PRIDE男祭り2004
ハイアン・グレイシーvs安生洋二 試合後

〝グレイシーの問題児〟ハイアンに対して、中村カズが突然対戦要求をしたのは大晦日のリング上。じつは事前に両者の一騎打ちが来年の流れとして予定されており、のちに中村自身もこれを口にしている。ところが、「僕と闘ってくれませんか？」との中村のマイクに、ハイアンは通訳を通じ、「闘いたくないです」と、つれない返答。「やりましょう。OK？」と再度の懇願にも、「ノーノー」。しまいには髙田統括本部長が、「おまえ、（中村と）やんのか？」と誘い水を向けても、「いや、桜庭選手、吉田選手がいいです」。最後は「この遺恨は来年、必ず実現させます！」と髙田が強引に締めたが、場内は冷ややかな反応。結局グダグダのまま尻つぼみに終わり、この一戦が実現することはなかった。

〝火の玉小僧〟五味が着火！暴走でイエローカード処分に

▼2005年5月22日
PRIDE武士道―其の七―
五味隆典vsルイス・アゼレード 試合後

「PRIDE武士道のエース」として、この日のメインに登場したものの、約半年ぶりの試合だった五味は、「モヤモヤを吹き飛ばしたい。KOで勝てなきゃ主役じゃない」と、おなじみの台詞で気を急かせていた。試合は五味がアゼレードにスタンドで追い詰められるも、ワンツーを綺麗に放って見事な逆転勝ち。しかし、勝利に興奮した五味はレフェリーの静止を振り切り、もはや失神状態のアゼレードに殴りかかる大暴走！　この完全な反則行為にアゼレードの所属するシュートボクセ勢が雪崩れ込み、会場は騒然に。試合後、五味はマイクで「6カ月ぶりのリングで、だいぶ殴られたんで、こりゃやっとかないと……」と語ったが、その行為にはイエローカードが出された。

激高した山本KIDがリングドクターに暴力行為！

▼2006年2月17日
プロフェッショナル修斗公式戦
青木真也vs菊地昭 試合後

事件は山本〝KID〟徳郁と同門の菊地が判定負けとなった

日本では、そういった出来事がプロレスと結びつけられてきた。日本の総合格闘技イベントはプロレスをその源流としており、だから真剣勝負の本筋から外れた盛り上げ方がまかり通るんだ、と。でも、プロレス（ショービジネス）と格闘技（スポーツ）がはっきりと区分けされているはずのアメリカでも、やっぱりこういうことが起きるのだ。おもしろいもんだと思う、本当に。

まあもちろん、こういうニュースに対して「けしからん」と思う人だっているんだろう。一部の悪質なファイターがクローズアップされるのはいかがなものか。テレビ主導の現状ではMMA本来の魅力がねじ曲げられる……。だけど僕なんかは、真っ先に「おもしれえなぁ」と思ってしまうのだ。なぜかというと、それが人間のやることだから。

乱闘騒ぎは、べつに仕組まれた茶番ってわけでもないだろう。まあ普通は乱闘なんてしないわけだが、人が見てる前、ましてカメラなんかがあったら誰だって普通の状態じゃないわけだ。萎縮するか、もしくは異様にテンションが上がっちゃうはずだ。人間だから、仕組まれなくたって思わず興奮して、気がついたら手が出ている。そこがおもしろい。テレビの視聴者が派手なキャラクターにまず食いつくのだって、そりゃあたりまえのことだ。"質"の部分に目が行くのは、そこから先の話。どのジャンルだってそうだ。

アンデウソンに関しては"もっと大事に扱ってあげてよ"と思わなくもない。ただ、彼のスクランブル登板にはダナ・ホワイトの「ざけんなよTシャツ屋が！ こっちはアンデウソンぶつけちゃる」っていうイライラが透けて見えるようで、そこはなんか楽しい。

ま、要は特定の状況や人物を批判して正義感を振りかざすのが、どうも性に合わないというか。それよりも人間のやること、その無理や無茶や無駄をじっくりと眺めて楽しみたい。

選手の安全面が確保されて、試合が八百長でなければ、あとはもうつまらない正しさよりもおもしろいトラブルのほうを見たいのである。"心技体"だけで語られるスポーツって、なんか窮屈じゃないか。

"心技体"だけで語られるスポーツは窮屈じゃないだろうか

確かに乱闘騒ぎやキャラ優先の選手を見て、MMAへの印象を悪くする一般視聴者もいるだろうと思う。でも、それよりはるかに多くの人が、実力を持った選手や試合そのものの素晴らしさに魅了されるはずなのだ。ボブ・サップの旬は短かったけど、魔裟斗の人気は長持ちする。それも日本が通ってきた道だ。

〜アメリカから考え



たとえ一時的にMMAに対するバッシングが起こったとしても、このジャンル自体はなくなったりしない。その地盤は揺るがない。僕はノルウェーって国のことをほとんど何も知らないが、一人だけノルウェー人を知っている。彼はMMAファイターだ。

リトアニアでは軍隊の基地でグラップリングの大会を観た。マンダレイベイのプレスセンターでは、初めて会ったアメリカ人記者と「チャックとティト、どっちが勝つと思う？」なんて話をした。世界のあちこちにMMAが好きで好きでしょうがない人、そこから離れられない人がいる。彼らは、きっと何があったってMMAに関わることをやめないだろう。

金儲け主義のプロモーターや競技の本質を理解しないテレビ関係者を排除して（実際そんな単純な悪役がいるとも思えないんだけど）、本当にMMAを愛している人間だけで運営される大会があったら、それが理想なのかもしれない。でも断言してもいいが、そこでも乱闘は起きる。

だって人間のやることだから。

[illegible]後、控室で中山健児リングドクターが菊地のケガの状態をチェックしているときに起こった。KIDは試合の裁定に対する不満をドクターにぶつけ、自分の満足のいく返答が得られなかったことに業を煮やし、暴言を吐いてさらに足先で臀部を小突いてしまう。後日、「（身体は）痛くなかったが、心が痛かった」というドクターに、KIDは、「熱くなって、度がすぎてしまった」と謝罪。両者間では和解が成立したのだが、主催者の修斗は、「本来審判に提訴すべき不満を、ドクターにぶつけるのは言語道断」と判断。格闘界随一の人気者であるKIDに、修斗は無期限ライセンス不許可処分という厳しい裁定を下した。

弟弟子のアクシデントにヴァンダレイが思わず大興奮！

▼2007年2月26日 PRIDE・31
マーク・コールマン vs マウリシオ・ショーグン 試合後

この大会の3カ月後にPRIDEでは「無差別級GP」を予定しており、本来ミドル級のショーグンがヘビー級のコールマンと闘うこの試合は、いわば無差別級査定試合であった。試合はコールマンのタックルで右手をついたショーグンがそのままヒジを脱臼、僅か49秒でのTKO負け裁定が下される。と、その直後もアドレナリン出まくりで戦闘体制だったコールマンに、ショーグンの実兄でセコンドのムリーロ・ニンジャが罵声を浴びせ、コールマンはさらにヒートアップ！ これにジムの沽券を守るとばかりに、セコンドではなく特別ゲストとしてリングサイドに陣取っていたシウバも加わり、両軍入り乱れての大乱闘に発展。最後はPRIDE代表の榊原社長が自らリングに上がり、両軍をいさめるほどの騒ぎになった。

日明兄さんが田村潔司にトロフィーを投げつける！

▼2007年12月31日
K-1 PREMIUM 2007 Dynamite!!
田村潔司 vs 所英男 試合後

もともとリングスファンだった所が自ら望んだ一戦は、田村がアームバーで完勝。だが、試合後に事件は起こる。勝利者賞のトロフィーを渡しに来た前田が、それを田村に投げつけるように不機嫌な態度で授与したのだ。胸にガツンと当たり、トロフィーはそのまま落下。田村は激怒し、関係者が止めに入るが、帰ろうとするエプロン近くの前田と口論になった。あっけにとられる場内。のちに前田は、「田村が所相手にカッコつけた試合をしたから」と、その原因を語った（映像では、「「カッコつけてる」ってなんなんですか!?」と前田に問う田村の言葉が聞きとれる）。挑戦を受けてくれた田村にヒザをつき礼を言う所と、解説していた井上和香の引きつった表情が印象的な事件であった。

クラッシャー川尻が宇野にオラオラモードで対戦を迫る！

▼2008年5月11日 DREAM・3
ライト級GP2008
宇野薫 vs 石田光洋 試合後

今年スタートを切った「DREAM」でも遺恨が早くも勃発。ライト級GP2回戦で宇野が石田に完勝した瞬間、セコンドについていた川尻はリングサイドで叫び声を上げ、タオルを床に叩きつけて激高！ 石田側コーナーに近寄り、健闘をたたえに来る宇野の手を引き強引に握手すると、大会閉会式では「PRIDEとかHERO'Sとかまったく関係ないんですけど、宇野薫選手、俺と闘ってください」と、いまにもつかみかかりそうな勢いで感情のおもむくままに宣戦布告。落ち着き払った宇野は、「試合が終わったばかりなので、家に帰ってから検討します」とかわした。一夜明け会見で川尻はこの非礼を詫びたが、場内は期待をあおるこの展開に大熱狂となったのだった。

三崎和雄

6・27ストライクフォース サンノゼ大会視察 独占密着&インタビュー

世界ケンカ旅に出るぞ!

我らが"マイクの鬼"三崎和雄が、米国MMA界への本格参戦前に、6月27日、カリフォルニア州サンノゼで行なわれた、ストライクフォースのビッグマッチを視察。現地では、メディカルの検査を受け、ライセンスも取得したとのことで、いよいよアメリカマット再上陸まで秒読み段階に入ったと言える。本誌は三崎のアメリカ視察を独占密着取材。三崎の心境をインタビューするとともに、現地のプロモーター、ファイターの三崎評もうかがってきた。

聞き手/堀江ガンツ　現地取材/石井史彦　試合写真/Daisy Rosas



自分は宇宙の視野を持っていたい。でも宇宙にまだ闘う場所がないので世界を目指します！

――アメリカ帰りということで、お疲れさまです！

三崎　どうも、お疲れさまです。

――今回の渡米の目的はなんだったんですか？

三崎　ストライクフォースの試合視察と、あとはカリフォルニア州はメディカルが厳しいんで、メディカルのライセンス取得ですね。

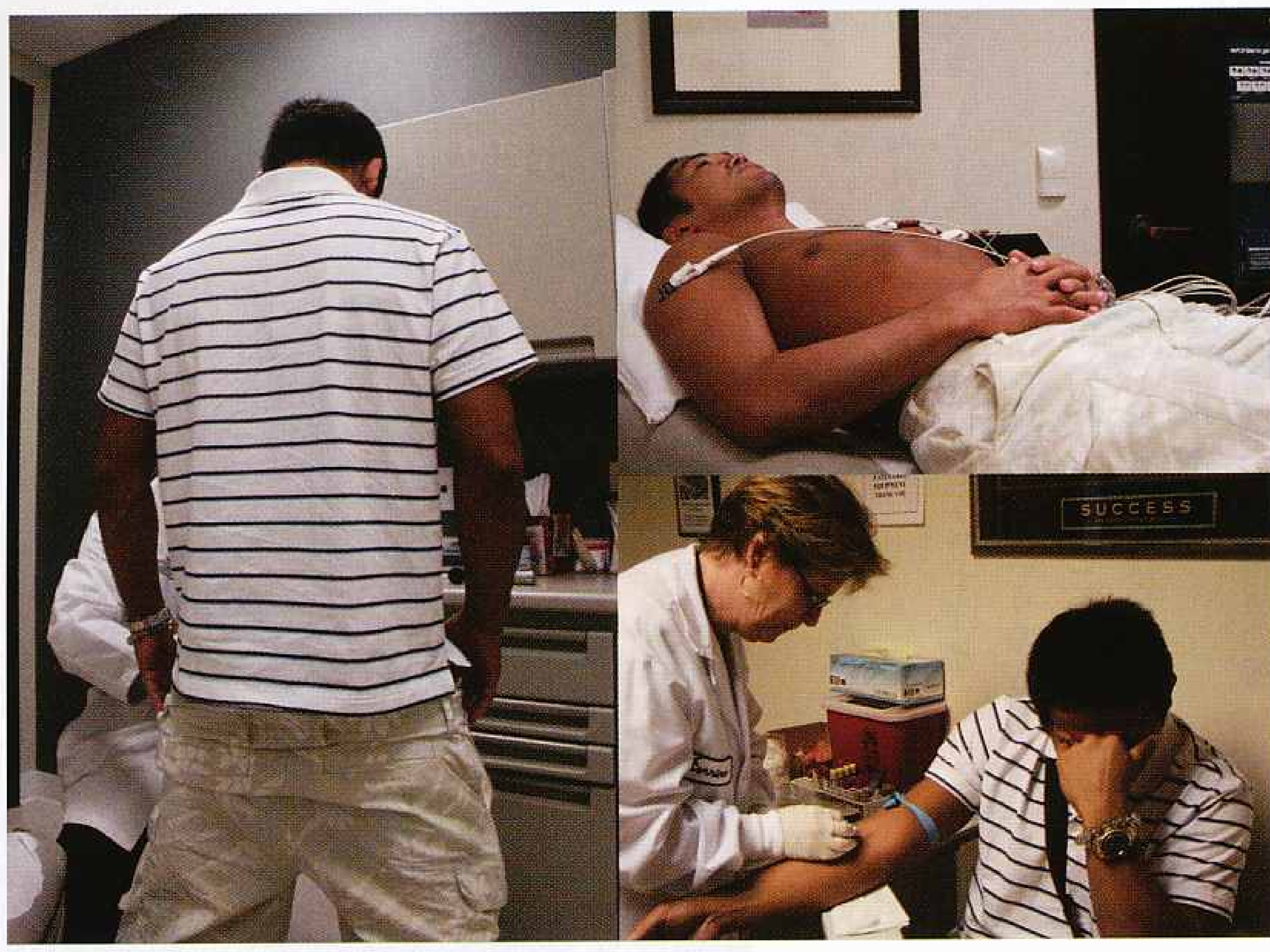
――メディカルのライセンスっていうのは、必ず取らなきゃならないものなんですか？

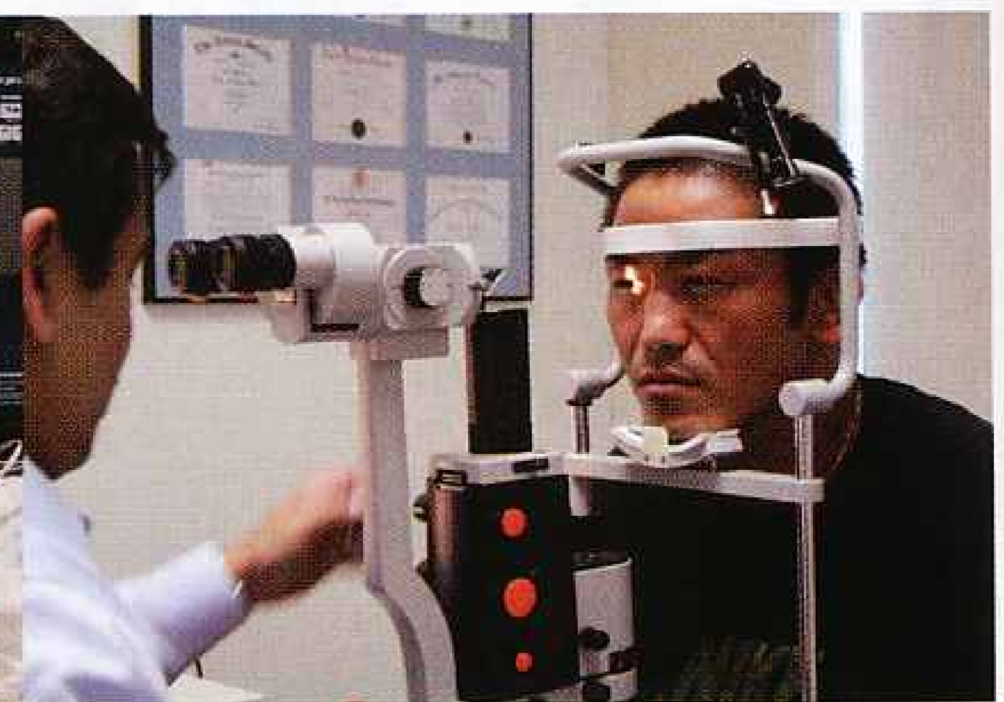
三崎　ライセンスを取らなくても、試合出場前に細かいメディカルの検査をたくさん受けて、それをパスすればいいんですけど、どうせ検査しなきゃならないなら、いまのうちにライセンスを取っておこうということですね。

――その検査はかなり多岐にわたるわけですか。

三崎　そうですね。日本だと頭のCTを撮って、血液検査をして、あとは試合当日にドクターチェックと尿検査をするぐらいなんですけど、アメリカは目の検査から、脳の検査、神経の検査……すべて細かくやるんですよ。さらに暗記力テストみたいなものをやったりとか。それらは一つの病院じゃできないので、各分野の専門ドクターのところに行って、全部、検査してもらわなきゃいけないので、けっこう大変でしたね。

――検査ってそんなに大がかりなものなんですか。





アメリカで血液検査、目の検査、心電図など、多岐にわたってメディカルの検査をパスし、無事、ライセンスを取得した三崎。なぜか睾丸の健康状態まで検査されたという（写真・左）。また、三崎の目はドクターが「殴り合いをしているファイターの目とは思えない」というほどキレイで、視力もなんと2.0あるという。さすがネイチャー！　野生の目を持っているのだ。ちなみにネイチャーは注射が苦手なんだそうだ。

KAZUO MISAKI

三崎　まあ、選手にとったらそれだけ守られてるってことなんで、いいことなんでしょうけど。ただ、そういったメディカルをパスできずに、出場できなくなる選手もけっこう多いみたいですね。

――三崎選手自身は検査の結果は出たんですか？

三崎　出ました。すべてOKということで。あとはオファーがくれば、いつでも試合に出られる状態ですね。しかも、カリフォルニア州はアメリカのすべての州の中でも検査の基準が一番厳しいんですよ。だから、そこが通れば、たぶんアメリカ中どこでも試合ができると思うので。

――では、出撃準備OKということで。

三崎　そうですね。

――今回は6・27ストライクフォースのサンノゼ大会を観戦したわけですけど、もちろん自分が出場することを前提に視察した感じですか？

三崎　はい。ストライクフォースの会場に来るのは二度目なんですけど、前回とは気持ちが違いましたね。率直に言うと、ワクワクしました。

――武者震いというか、「ここで俺はやるんだ」というような。

三崎　そうですね。まったく知らない土地で、観客も自分のことをほとんど知らない中で、おそらくブーイングを浴びながら闘って、そこで自分が受け入れられるかという楽しみ。それから不安感もすべて含めてワクワクしましたね。

――アメリカの会場は、日本とは全然ムードが違いますよね？

三崎　違いますね。アメリカは素直な反応というか、反応がハッキリしてるんですよ。

――殴り合ったらとんでもない大歓声ですけど、退屈な試合をしたら、とたんにブーイングですからね。

三崎　だからアメリカのお客さんの歓声やブーイングって、そのまま自分の姿に置き換えられるんじゃないかと思うんですよ。いくら自分が頑張っていても、ブーイングが起こっていれば、それがお客さんの目に映っている自分の姿なんだと思うし。そういう意味では、やりがいがありますね。ただ、アメリカだろうが日本だろうが、自分の闘い方は変わらないと思いますけど。

――素のままの「三崎和雄」がアメリカという戦場でどこまで通用するか、勝負してみたい、と。

三崎　そうですね。どこに行こうが、自分は自分ですから。

――アメリカで闘ってみたいと思ったそもそもの理由はなんだったんですか？

三崎　やっぱり視野を常に広く持っていたいというのが一番ですね。僕は日本の中だけで生きてるわけじゃないんで。やっぱり地球の中、宇宙の中で僕は生きてるんです。だから宇宙の視野を持っていたいなと思うんですけども、あいにく宇宙にはまだ闘う場所がありませんから。

――確かに、まだ地球外のMMAイベントは発見されてませんね（笑）。

三崎　だから宇宙と言わないまでも、地球という単位で視野を広げたとき、まずアメリカという舞台が目に入ったということですね。

――その地球規模の視点で見た場合、いま世界最高峰のUFCというのは、視野に入ってこなかったんですか？

三崎　もちろんUFCへの思いっていうのは、正直ありますよ。でも、UFCに上がるためには独占契約を結ばなければな



らない。いくらレベルが高いといってもUFCだけになってしまったら、逆にまた視野が狭くなってしまうと思うんですよ。それに僕は日本人なので、日本の皆さんの前でも自分の生きる姿というものを観てもらいたい、という思いがやっぱりありますから。

――日本とアメリカの両方で闘うためのストライクフォースだ、と。

三崎　もちろんそういう理由もありますけど、それだけじゃなくて、ストライクフォースには、僕と同じミドル級の魅力的な選手がたくさんいるんですよね。現チャンピオンのカン・リー選手とか、フランク・シャムロック。ほかにも佐々木（有生）さんに勝ったジョルジ・サンチアゴや、ボードッグで近藤（勇己）さんに勝ったトレバー・プラングレーとか。ほかにもいろいろ魅力的な選手がいるんですよ。だから、舞台へのこだわりというより、人へのこだわりという部分でストライクフォースを選びましたね。

――確かに王者アンデウソン・シウバが飛び抜けているUFCに対して、ストライクフォースはバラエティに富んだ選手が多いですよね。

三崎　バラエティに富んでいるだけじゃなく、みんな強いんですよ、これがまた。みんな身体がデカいですしね。今回も会場でトレバーに会いましたけど、自分より2階級ぐらい上なんじゃないかって思うぐらいデカいんですよ。だから層も厚いんですよね。

岡見選手にはUFC王座を獲ってもらいたい 僕はストライクフォースの頂点を目指します

――そういう厳しい戦場に、これから足を踏み入れるわけですね。

三崎　そうですね。日本もそうですけど、楽な闘いはないし、楽な場所っていうのもないですよね。それに厳しいところに自分から飛び込んでいったほうが、僕自身の人生も充実すると思いますから。

――いまUFCで、三崎選手と同階級の岡見勇信選手が活躍していますけど、岡見選手を意識する部分ってありますか?

三崎　へんなライバル心みたいなものはまったくないですね。ただ、同じ日本人として非常に素晴らしいなと思うし、カッコいいなと思います。岡見選手には、できることならUFCのベルトを獲ってもらいたいし、僕は僕で日本とストライクフォースで、自分の力をすべて出しきって頑張りたい。人生どうなるかわかりませんから、どこかで接点があるかもしれませんけど、まず目の前にある頂点をお互い目指せたらと思いますね。

KAZUO MISAKI

――UFCとストライクフォースという、アメリカのメジャーイベントで、日本人がそれぞれベルトを狙える位置にいるというのは、ファンにとっても夢があると思いますよ。

三崎　まあでも、また僕はアメリカではPRIDEラスベガス大会の一試合だけですから。アメリカで闘うってことに関しては、岡見選手が先輩だし、僕も一人の日本人として、頑張ってほしいと思いますね。

――三崎選手自身のストライクフォースデビューは、いつ頃になりそうですか？　現地の報道によれば、9月のPLAYBOYマンション大会が有力とのことですけど。

三崎　（9月大会で）オファーをいただければ、もちろん考えたいと思います。あとは『戦極』さんのほうとちゃんと話をして、OKであれば。

――PLAYBOYマンション大会は、ストライクフォースの中でもとくに注目度の高い大会ですよね。

三崎　そうみたいですね。日本人からすると、PLAYBOYマンションと言われてもピンとこないと思うんですけど、アメリカでは、あそこで試合をするなんていうのは、凄いことなんですよね。だから、それを聞いて「俺はそんなとんでもないところで試合をするかもしれないのか?」ってちょっと焦りが出たりもしたんですけど

三崎のアメリカでの標的はこの男だ!



ストライクフォース世界ミドル級王者

カン・リー

「PRIDE王者と闘えるのは光栄だ」

これから三崎が挑んでいくストライクフォースミドル級戦線の頂点に立つ男、それがカン・リーだ。K-1USA大会にも出場している生粋のストライカーで、今年3月には、ハイキックでフランク・シャムロックの右腕をヘシ折って、ベルトを奪取している。はたして、この男は三崎の参戦をどう思っているのか？　会場で王者を直撃してみた。

――三崎選手の試合を観たことはありますか？　あれば感想を聞かせてください。

リー　もちろん映像は観たことがあるよ。素晴らしいファイターだね。スタンドアップがよくて、グラウンドもいいテクニックを持っている。すべてに優れたオールラウンドのファイターだと思うよ。

――その三崎選手がストライクフォースに参戦してくることについてどう思いますか？

リー　嬉しいよ。彼のような才能がある選手が参戦してくることは、ストライクフォースにとっていいことだし、このスポーツにとってもいいことだ。ミサキはいいファイターというだけでなく、PRIDEウェルター級GP優勝という実績もあるからね。そういったビッグネームが参戦してくることで、ますます繁栄するだろうからね。

――ストライクフォース世界ミドル級王者であるあなたと三崎選手が闘ったら、どんな試合になると思いますか？

リー　ミサキと試合ができたら光栄だね。もし闘うことになったら、ミサキは自分よりグラウンドが優れているので、できるだけスタンドで勝負したい。もちろんミサキはスタンドもいいけれど、打撃は自分も自信があるからね。彼とスタンドアップで勝負したら、この前のフランク・シャムロック戦のような、ファンをエキサイトさせる試合ができるんじゃないかな。とてもいいエンターテインになるだろうし、ボクたちの闘いが実現すれば、このスポーツにとっていいことだと思うね。

――勝つ自信はありますか？

リー　勝てるかどうかは試合をしてみなければわからないよ（笑）。トップファイター同士の試合になると、勝負は時の運だからね。だから勝敗はともかく、とにかくいい試合がしたいし、ミサキは日本の有名なファイターで、ボクはアメリカの有名なファイター。この対戦が実現して、お互いいいファイトマネーがもらえたらいいね（笑）。

――あなたの次の試合はいつなりそうですか？

リー　年内はベルリンで映画の撮影が入っているんだ。だから、来年になってしまうかな。来年、しっかり準備をしてミサキとは闘いたい。映画撮影の合間に闘えるレベルの相手じゃないからね（笑）。

――三崎選手にメッセージがあればお願いします。

リー　とにかく、ストライクフォースのデビュー戦がいい試合になることを期待しているよ。PRIDE王者と対戦できるのは光栄なので、闘える日を楽しみに待っている。

【08年6月27日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

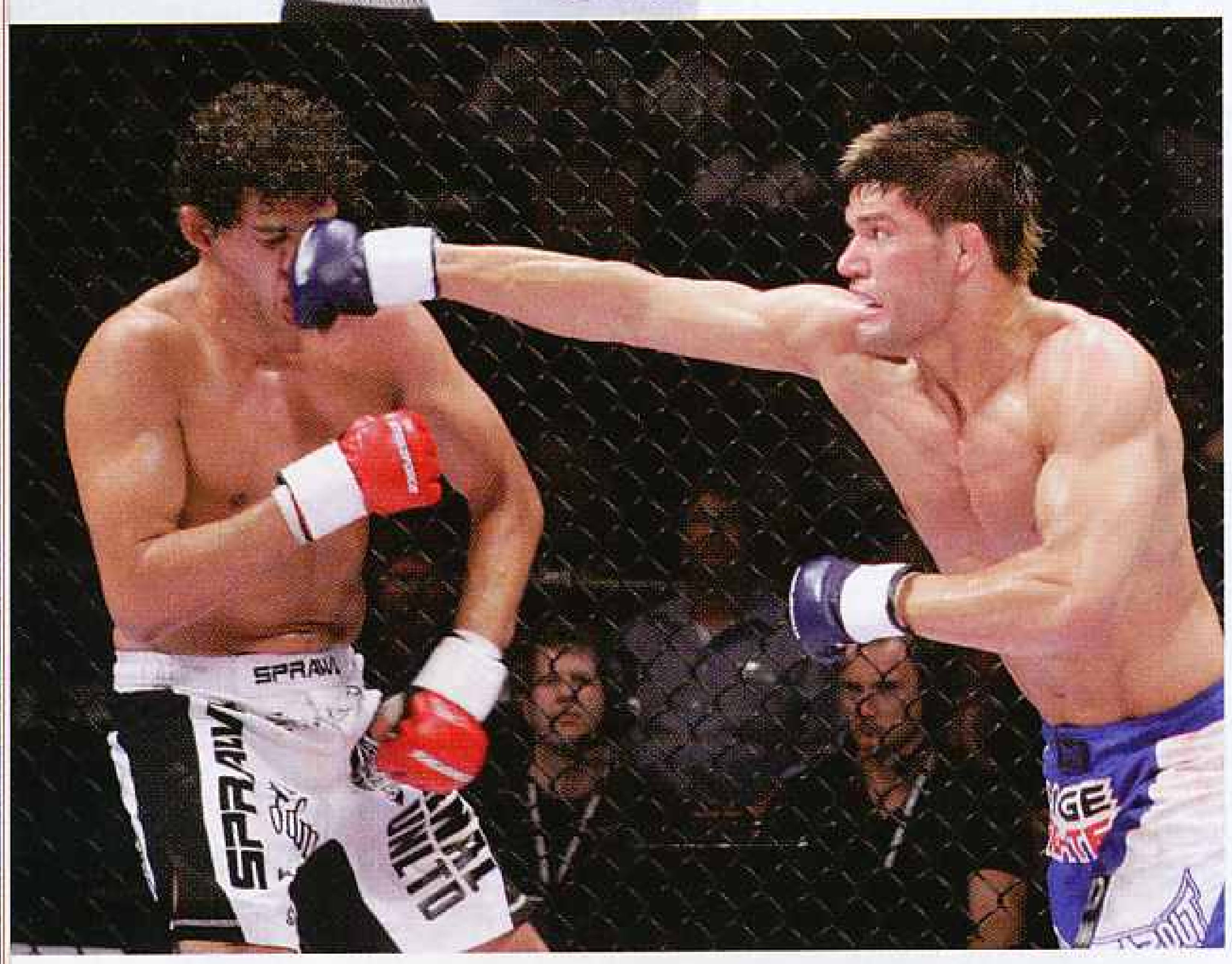


（笑）。そういうプレッシャーもモチベーションに変えたいと思いますね。

——ストライクフォース代表のスコット・コーカーは三崎選手のことをずいぶん高く評価してるみたいですね。

三崎　そうなんですか。もし評価していただいているんであれば、自分の持ってるものをすべて出して、期待に応えたいなと思いますけどね。

——しっかりちゃんとプロモーションして、試合に向けて名前を浸透させて大きな試合を組んでいきたいっていうことを言



［6.27 ストライクフォース］
米国カリフォルニア州サンノゼ HPパビリオン
【ストライクフォース世界ライト級選手権試合】
○ジョシュ・トムソン vs ギルバート・メレンデス×
（5R終了 判定 3-0）

トムソンとメレンデス、ともにカリフォルニア北部ベイエリア地区を代表するトップスター同士による頂上対決。アメリカ版・五味vs川尻のようなこの一戦は、豪腕パンチを振るうメレンデスに対し、トムソンがキックをうまく使い、終始主導権を握る。そして4Rにはチョークも極めかけ、フルマークでトムソンが判定勝ち。新王者が誕生した!

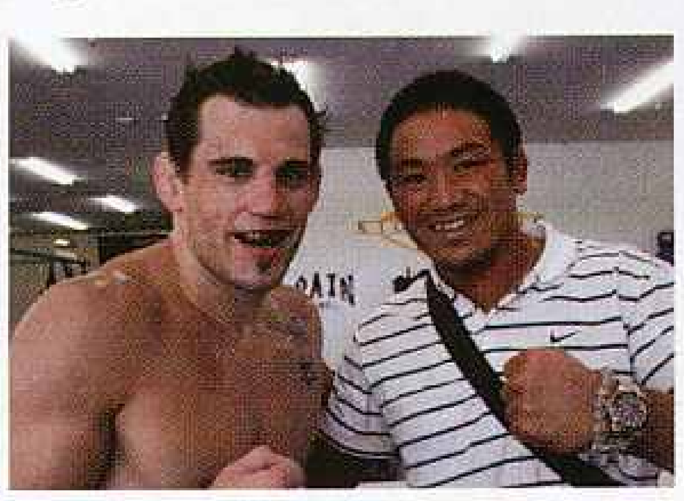
アメリカMMA界のトップファイターたちも三崎を語った!

8.9『UFC87』でGSPのウェルター級王座に挑戦!

ジョン・フィッチ

彼の試合は何試合か観たことあるよ。タフでオールラウンドのファイターだね。攻めるときは攻める、守るときはしっかり守れる、とてもクレバーなファイターだ。

いまのストライクフォースにミサキのようなスターが参戦することは非常にいいことだよ。もっといいショーになるだろうからね。彼の試合が地元で観られることを楽しみにしているよ。



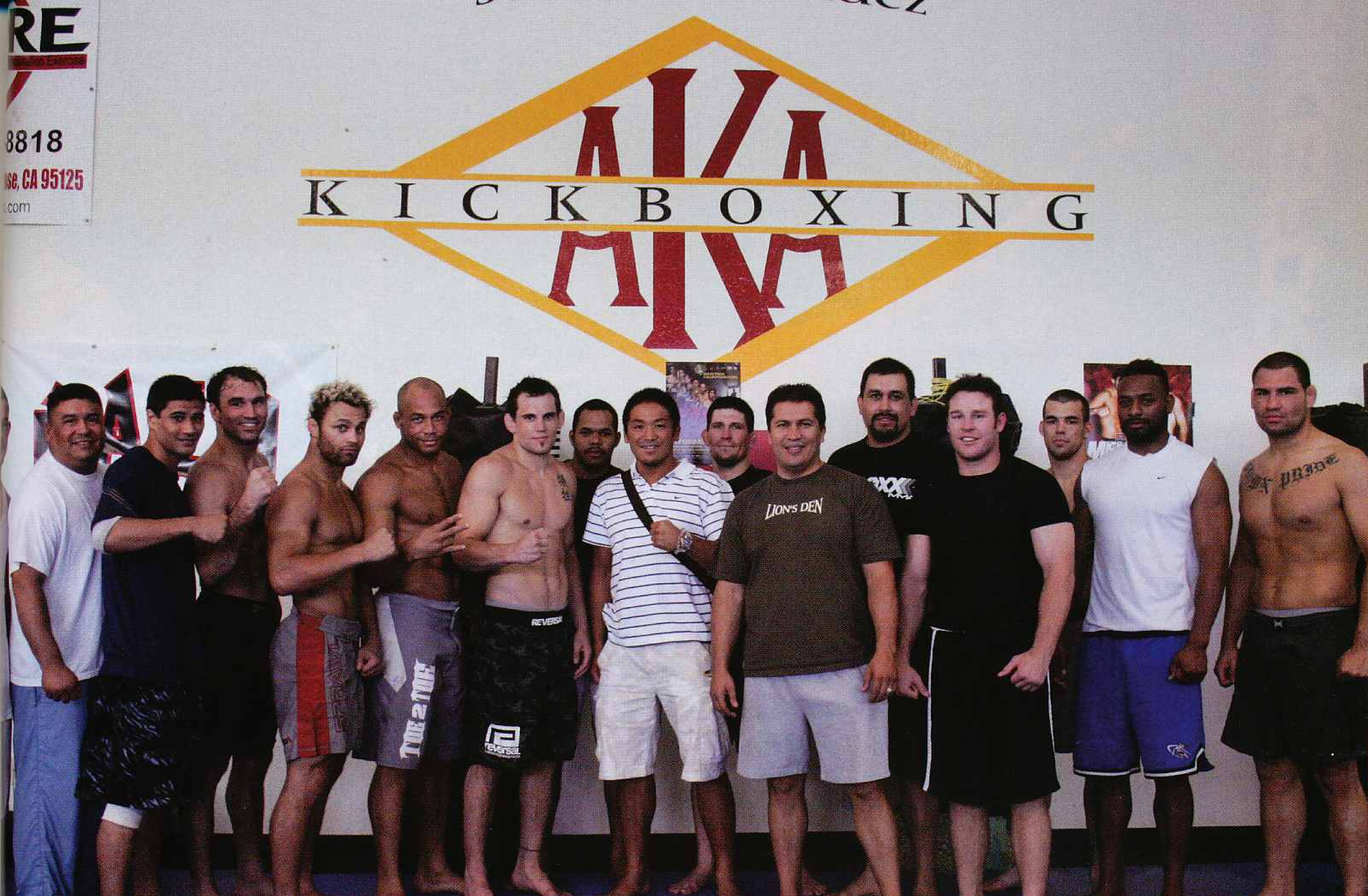
ストライクフォース世界ライト級新王者

ジョシュ・トムソン



自分が『PRIDE武士道』に出たとき、ミサキも試合してたよね。たしか、シュートボクセのダニエル・アカーシオとやって、残念ながら判定負けだったんだよ。でも、あれは判定がおかしいと思ったけどね。あとはフィル・バローニやデニス・カーンとの試合もいい試合だった。ダン・ヘンダーソンとの試合は残念ながら観てないけど、彼はタフな相手とばかり試合してるよね（笑）。とにかくミサキは試合運びがスマート。ストライクして動いて、ストライクして動いての連続。彼をつかまえるのは、かなり苦労するだろうね。

ミサキがPLAYBOYマンションに出るなら素晴らしいこと。あそこはスペシャルな場所だからね。おそらくトレバーが相手になるんじゃないか。いい試合になると思うよ。今日は会えて光栄だよ。



みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年7月にパンクラスでプロデビュー。04年よりPRIDEに出場。06年に『PRIDEウェルター級GP』で優勝。昨年大晦日には“魔王”秋山成勲をKOし、一躍、時の人となるが、その後、ノーコンテストに。現在は『戦極』を主戦場としている。179cm、83kg。

ってたみたいですよ。

三崎　そういうふうに言ってもらえることは非常に光栄だし、それを裏切るような試合はしたくないし、やっぱり自分の持っているものをすべて出すだけですね。

――ストライクフォースは六角形の金網ですけど、ケージ対策というのはすでに始めてるんですか？

三崎　ケージ対策っていうのは特にやってないんですけども、べつに普段、リング対策もやってませんからね（笑）。

――まあ、そうですね（笑）。

三崎　それに練習しているジムの環境は、周りが壁ですから、これがケージみたいなもんなんですよ。壁際に追いつめられたときの立ち上がり方とか、普段からやっているので、それほどケージ対策というのは必要ないんじゃないか、と。あとはケージの中に入ったときの圧迫感だとか、雰囲気に慣れることとぐらいだと思うんですけど。このあいだ大会前にケージの中に入ったら、リングと比べて凄く広かったんですよ。だから、あんまり圧迫感もなさそうだし、逆に広いぶん、動けるんじゃないかと思いましたね。

――スタイル的にはケージのほうが、ステップワークを使う三崎選手に有利かもしれないですよね。

三崎　それはわかりませんけど、大きい相手と闘うときとか、足を使って動けたほうが闘いやすいんで、そういった面ではケージのほうがいいかもしれませんね。

――6・8『戦極～第三陣～』のローガン・クラーク戦で負傷した、足のケガのほうはいかがですか？

三崎　順調に回復してますね。いまはもうリハビリを始めて、足も動かしだしているので。近いうちに練習が再開できるんじゃないかと思います。

――ケガもあって、アメリカではＡＫＡ





サンノゼにあるAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）に訪れた三崎。そこでは、UFCでライトヘビー級に階級を落としたブランドン・ベラや、現地でジムを開いているブライアン・ジョンストンらとの対面も実現した。

（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）なんかに行かれたようですけど、練習はできなかったんですよね？

三崎　そうですね。そんな時間もなかったんで。ホント、検査のためにずっと動き回ってたんで。

——練習もそうですけど、ネイチャー的にはアメリカの自然に触れたかったんじゃないですか？

三崎　そうですね。忙しい日程の合間を縫って、海に連れていってもらったりはしたんですけど。今度、ストライクフォースで試合が終わったら、1カ月ぐらい休みをもらって、向こうに滞在したいなと思いましたね。そのときは格闘技や練習から離れて、アメリカの自然と文化に触れたい。そういう経験がまた試合にもつながるんじゃないかな、と思いますし。

——アメリカでの闘いは、単発というより、長期的プランで考えているんですか？

三崎　というか、どこに上がってどこに上がらないとか、そういうこだわりはないんで。強い選手がいるところなら、どこへでも飛び込んでいきたいと思ってますね。

DREAMミドル級GPを観ると、世界には強いヤツらがいっぱいいるなと思いますね

KAZUO MISAKI

もちろん、契約関係とかで、周りに迷惑をかけないようにやらなきゃいけませんけどね。

——いまDREAMで、三崎さんの階級であるミドル級のトーナメントを開催してますけど、ご覧になってますか？

三崎　そうですね。ちょこちょこ観ています。あれを観ると、世界には強いヤツ、とんでもないヤツらがいっぱいいるなって思いますね。それはDREAMだけじゃなく、ストライクフォースやUFCを観たときも同じように思いますし。ああいったものを観ると「とんでもないところに俺は人生懸けちゃってるな」って思ったりもしますよ（笑）。

——まあ、世界的に層が厚い階級ですからね。

三崎　だけど、だからこそやりがいがあることだし。また、日本でそういうレベルの高いトーナメントが観られるっていうのは、非常にいいことだと思います。これからの僕の格闘家人生、どういう流れになるかわからないし、誰とどこで接点が生まれるかもわからない。だから、もしかしたらこの先、いろんな接点が生まれるかもしれないし。街を歩いていたって、その日、誰に出会うかわからないわけですから。それと同じで、これから誰と闘うことになってもおかしくはないと思います。それこそ、僕は地球という視点でいたいと思ってますから。

——では、これからの三崎和雄の世界ケンカ旅を期待してます！

【08年7月2日／東中野・BRABAKAジムにて収録】

ストライクフォース代表

スコット・コーカー

「ミサキの名前をアメリカに浸透させ来年、タイトルマッチを組みたい」



——三崎選手をストライクフォースに参戦させようと思ったきっかけを教えてください。

コーカー　ストライクフォースは、常にベストなファイターに参戦してもらいたいと思っている。だから全世界からいいファイターを探して、オファーしているんだ。その中でも、ミサキは日本で突出しているファイターだからね。以前から参戦してもらいたいと思ってたんだよ。

——三崎選手のどんなところに魅力を感じてオファーしたんですか？

コーカー　彼の積極的な試合運びだね。スタンドアップを中心に試合を組み立てているのがいい。ストライクフォースは、もともとキックボクシングのイベントだったこともあって、観客も打撃戦を求める傾向が強いんだ。ミサキのファイトはきっと、カリフォルニアのファンにも受け入れられると思うよ。

——コーカー代表自身は三崎選手をどのように評価していますか？

コーカー　打撃がいいとか、寝技がいいとか言う前に、彼はPRIDEのGPチャンピオンだよ。しかも、ダン・ヘンダーソンやフィル・バローニ、アキヤマ（秋山成勲）といったタフなファイターを倒している。その戦績だけでも、彼の価値というものが充分わかるんじゃないか？

——三崎選手は長期的に参戦させたい意向ですか？

コーカー　もちろんそうだね。ファンが喜ぶマッチメイクを組んで、長い契約を結びたいと思っているよ。

——ストライクフォース参戦はいつごろになりそうですか？

コーカー　まあ、焦らなくても近いうちに正式発表するよ（笑）。決定したら、日本のファンに真っ先に伝えるからもう少し待っていてほしい。

——9月のPLAYBOYマンション大会で決定的と言われていますが？

コーカー　それも含めて話している最中だ。今日言えるのはここまでだよ。

——対戦相手はどんな選手を考えていますか？

コーカー　検討中だが、近いうちにアナウンスできると思う。もちろんアメリカで名前の知られたファイターを対戦相手に選びたい。ただ、ハッキリ決まるまでは、アナウンスは控えさせてくれ。

——わかりました。近い将来、三崎選手がカン・リーの持つベルトに挑戦することはありえますか？

コーカー　もちろん将来的にはありうるよ。ただ、まずはミサキをしっかりプロモーションし、アメリカのファンに名前を浸透させなければならない。ミサキは日本では有名だが、アメリカではコアなファン以外にはまだ知られていないからね。彼の名前がしっかり浸透したところで、タイトルショットを組みたいと思っているよ。彼の名前を知らしめる意味でも、PLAYBOYマンションはデビュー戦に最適な場所だとは思うね。

——三崎選手はアメリカでも成功すると思いますか？

コーカー　当然、リングとケージの違い、日本とアメリカの違いはある。でも、彼のレベルならケージになじむのに時間はかからないと思うよ。ただ、しっかり準備はしてほしいね。やはり、リングとケージでは試合の戦略が全然違って来るからね。

——三崎選手以外にもストライクフォースに参戦させたい日本人はいますか？

コーカー　たくさんいるよ。たとえばタカノリ・ゴミがストライクフォースに来て、メレンデスに勝ったジョシュ・トムソンに挑戦してくれたら嬉しいね。あとシンヤ・アオキも素晴らしいし、イシダ（石田光洋）やカワジリ（川尻達也）も私の好きなファイターだ。彼らなら誰でもウェルカムだ。

——岡見勇信選手なんかどうですか？

コーカー　マイク・スウィックと試合したファイターだよね？　知っているよ。彼も世界レベルのいいファイターだと思う。ただ、いまはUFCに上がっているから、ストライクフォースに上がるのは難しいかな。それだから言うわけじゃないが、私はオカミよりミサキのほうが実力は上だと思っている。将来的にミサキvsオカミなんていうマッチアップもおもしろいかもしれないね（笑）。とにかく、いまストライクフォースとしても、日本人選手を出場させるべくいろんな話を進めているから、期待していてほしい。

——わかりました！　では、今後のストライクフォースに期待してます！

【08年6月27日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

発言から
読み解く
本音&変節

語録で振り返る一カ月

なんと文字だらけの当コーナー企画がカラーページに進出！　「1000の語録を持つ企画」目指していきますよ～！　一、十、百、センゴロック！　センゴロックッ！（戦極ポーズTシャツ在庫アリ）。

人を殴って、人を治す
（井上雅文）

▼【6月17日（火）　『THE　OUTSIDER～第弐戦～』エントリー選手コメント】

「不良達ヨ、覚醒セヨ。」をコンセプトに旗揚げした前田日明プロデュースによるTHE　OUTSIDER。HPでは次回7・19ディファ大会の出場選手のプロフィールが掲載されているが、写真や経歴を含めて劇画から飛び出したかのようなボーイズが勢揃い！　その中でも注目は「暴力系穏健派医師（本人談）」が肩書きの井上雅文！　20代はパチンコ店員や清掃に従事し、現在は国立大学医学部を卒業して研修医をしているという変わり種だ。そして見出しのコメント……まさにスティーブ・ウィリアムスばりの殺人医師、というかちょっとした医療ミス？

誰がなんと言おうがかまわない
（チェ・ホンマン）

▼【6月18日（水）　『サイワールド・ミニホームページ』より】

脳腫瘍除去手術を行なったチェ・ホンマンが7月3日の記者会見を前に心境を吐露したのが、見出しの決意表明。ところが会見でホンマンの口から出てきたのはいつも「みんなの悪い声しか聞こえてきません。できれば温かく見守ってください」という嘆願のような言葉。ホンマンはシルムからK－1に転向するときも、こんな感じで苦悩しながら世間の反対を押し切って自分の行動を貫いてきた。どこまでも無人の野を行く〝悲しみの大巨人〟ホンマン。再びリング上で笑顔を見せる日は来るのか？　やたらに陽気なラップだけはもうけっこうですが。

きょうは美しいスマートなリングに上がらせていただき嬉しく思います
（和泉節子）

▼【6月19日（木）『リアルジャパン・プロレスリング』後楽園大会】

我らが皇帝、佐山サトルが主宰するリアルジャパン・プロレスが3周年を迎えた。佐山皇帝の思想を反映し、既存のプロレス団体とはいろんな意味で一線を画すこの団体。3周年を祝うゲストも〝ぶってぶって姫〟こと姫井由美子議員や、セッチーこと和泉節子さんなど、一癖も二癖もある人たちが登場。セッチーは「先日、着物を着てセッチー鬼瓦軍団としてセコンドをやらせていただきましたが、きょうは美しいスマートなリングに上がらせていただき嬉しく思います」と挨拶。スマートって、皇帝ボディに対する皮肉では……。

セコンドには今田耕司さん、菊田さん、三崎さんについてもらう
（山下しげのり）

▼【6月20日（金）　7・5『DEEP　X　03』カード発表会見】

7・5『DEEP　X　03』に〝世界のナベアツ〟こと渡辺鐘……ではなく、その相方の山下しげのりが参戦、女子レスラーの闘牛・空と対戦した。実は山下はGRABAKAに5年も通う格闘技好き。大会当日はコメントのメンバーに加え、渡辺もセコンドに参加。試合は芸人らしからぬマジモードで山下が判定勝ちするも、試合後のマイクまで芸人らしからぬグダグダさを見せてしまい、渡辺に「1、2、3（アホになって）、オモロー！」の持ちネタで締めてもらう始末。お笑いオンチ（by渡辺鐘）である山下には、本業である芸の道も精進していただきたいものである。



ハードコアでジョシュと闘う
（ネクロ・ブッチャー）

▼【6月21日（土）　『東京スポーツ』より】

IGFからの正式参戦発表よりも前にネクロの参戦を報じていたのが、IGF情報はどこよりも早く、そしてデタラメ（いい意味で）な『東スポ』。残念ながらネクロの思いはかなわなかったが、22日の札幌大会でのvsプレデターは当日のベストバウトに！　そのあとに試合を行なったジョシュは「あの試合のあとはやりづらい」とボヤいていたとか。闘わずして相手をギャフンとさせるとはさすがデスマッチ・ジーザス！

もう人が信じられんですわ
（天山広吉）

▼【6月21日（土）　『内外タイムス』より】

ますます孤立化が進行する〝いい人〟天山。飯塚高史の友情タッグ決裂からというもの、本隊の選手にもタッチ拒否されるなど不運ぶりが全開！　しかも、ここに来てビッグサカばりに「人間不信」をアピールしたからたまらない。この号が発売時点では結果は出ているが、飯塚とのランバージャックデスマッチのセコンドに「レスラーで連絡できる人間がおらん」と、高校の同級生の出陣まで示唆する迷走ぶり。でもバツグンにおもしろいから、このまま「ハッピーにならなくてもええんちゃう？」。

俺のテポドンなんて、いつもそっちに向いてるぜって??
（アントニオ猪木）

▼【6月21日（土）　公式ブログ『アントニオ猪木の闘言』より】

あのShow大谷氏が構成をやっていることでもおなじみのアントンの公式ブログ『アントニオ猪木の闘言』。得意の北朝鮮問題に関しても、最終的にはこれまた得意のアントン流の下ネタでぶった斬り！　たとえ現役を引退しても、あっちのほうは生涯現役だと言わんばかりである。きっとアントンテポドンは金正日が抱えている〝喜び組〟に向けていつでも発射体勢なのであろう。元気があれば飛距離も延びる！

（ダナ）ホワイトに手を引きたいと言ったんだ
（ロレンゾ・フェティータ）

▼【6月22日（日）　『Forbes（日本版）』8月号より】

「総合格闘技UFCは究極の〝集金マシーン〟」と経済誌『Forbes（日本版）』の表紙を飾ったフランク&ロレンゾのフェティータ兄弟（誌面の表記ではフェルティッタ兄弟）。44億円もの資金を投下したものの大きな反響を得られなかったため、ロレンゾはダナに手を引くことを相談。だが、ダナが見つけてきた買い手が出したオファーはたったの4億円！　これでフェティータ兄弟はしばらくUFCを継続する決意を固める。このとき手を引いていれば、おそらく日本のMMAもまったく違った世界になっていたはずなのだが……。そして、ロレンゾはステーション・カジノの職を辞してUFCに専念することをわざわざ発表。金を失なえば失なうほどUFCにのめり込んでいるような印象を受けるのだが、大丈夫なのか？　ロレンゾ！



イヤなくらい休んだから体調万全
（金村キンタロー）

▼【6月20日（金）　8・6『XWF』後楽園大会会見】

例のセクハラ騒動以来、目立った動きを見せていなかった自称〝マット界の問題児〟金村キンタローが、8月6日にXWFを旗揚げすることに。見出しのコメントをとともに金村は「エクストリームファイトを復活させてハチャメチャな試合がしたい」と、鼻息荒く宣言。さらに「XWFを墓場にする」と、その決意を語ったが、パイオニア戦志やW★INGをはじめ、金村が関わった団体はその多くが活動停止……何事も起こらないことを祈るばかり！

妊娠ですよ（棚橋弘至）

▼【6月24日(火)『内外タイムス』より】

G1で復活を目指す、棚橋が妊娠宣言!!　……と言っても、すでに二人の子どもがいる棚橋の3人目のおめでたではなく、メタボリック化した自分の腹を自嘲したもの。マッチョボディ&ナルシストキャラ全開で、逆説的な人気が沸騰した棚橋だけに、ダイエットは急務！　ここは、ビリー・ザ・ブートキャンプをパクったものブームが終了したあとひっそり発売され、その存在が誰も知らない知られちゃいけない状態なDVD『佐々木健介の健介ブートキャンプ!!』で絞るしかない。正直、やせる!?

毎日セックスしています（猫ひろし）

▼【6月25日(水)　7・28『西口プロレス』渋谷O−EAST大会会見】

鈴木みのる、高山善廣といった大物プロレスラーと一騎討ちを実現させてきたアントニオ小猪木が、我らが曙さんと対戦することが決定した7・28『西口プロレス』。同じ大会に出場する新婚の猫ひろしは、実況マンなる選手と対戦するが、意気込みを聞かれると「正常位、バック、騎乗位、なんでもありです」と、聞かれてもいないのに、なぜか赤裸々な夜の生活を告白。曙vs小猪木戦とともに、当日の猫ひろしのマットテクニックからも目を離すニャー。



魔裟斗君の裸が見られますよ〜（谷川貞治イベントプロデューサー）

▼【6月26日(木)『akasaka FIGHT FESTIVAL』概要発表会見】

6月30日から7月6日までオシャレスポット赤坂サカスで『akasaka FIGHT FESTIVAL』と題するイベントが開催され、連日選手が公開練習やトークショーなどを行なった。谷川プロデューサーはK−1 MAXの計量がファン公開で行なわれることに絡めて、「魔裟斗君の裸が見られますよ〜（ニヤニヤ）」とにやけ顔でアピール。ちなみに別日にワールドユースの選手が登場したときには「僕は若い子、かわいい子が大好きなんですよぉ」とご満悦。きっとこのボーイズラブな姿勢も黒魔術の一種なのだろう。んあ〜。



飯塚選手は真の姿に近づいたんじゃないの（野上彰）

▼【6月26日(木)『東京スポーツ』より】

全日本キック公認応援サイト「AJ☆JACKS」が静かにその幕を降ろした6月末、元J・JACKSの野上彰が『東スポ』紙上で当時の相方・飯塚高史について言及した。一言も話さず、性格の悪さを発揮して天山をイジメ抜く現在の飯塚を「真の姿に近づいた」と断言する野上。〝J・JACKS〟つまり〝日本の陽気なヤツら〟は、一皮剥くと陰気で無口なヤツだった、と。無理してたんだなぁ、当時は……。

ああ……ん（なやましげに）（藤原紀香）

▼【6月29日(日)『K−1 WORLD GP IN FUKUOKA』実況中継より】

いまやファイター以上に、K−1らしさを全身から醸し出している、我らが女神、紀香姫。今回も番組のメーンキャスターとして、その美しく張りのある声で、すてきなコメントを連発。今回はK−1の番長バンナが、シュルトの持つスーパーヘビー級王座に挑戦したが、紀香姫は初代ビジュアルクイーンとして、K−1のほぼ〝同期〟であるバンナを熱烈応援！　巨神兵シュルトに対して、愚直なまでに前に出るバンナの闘いぶりに、3ラウンドには、「ああ……ん」と色っぽいため息まで飛び出し、男性視聴者を別の意味で燃え上がらせたのだった。

体重を絞ってます（初代タイガーマスク）

▼【6月30日(月)　8・26『新日本プロレス』後楽園大会・初代タイガーマスク参戦会見】

初代タイガーが4代目タイガーとタッグを組んで25年ぶりの新日復活が決定！　意気込みを聞かれた初代タイガーは「いつも試合が終わったら体重が増えるんですけど、今回は体重を絞ってますし（笑）」と発言。ちなみに親交のある日本ダイエットアカデミー協会会長はブログで「ずっと佐山さんのダイエット指導をしてきました。それなのに一向に痩せてくれません」と、その難攻不落なリッチボディにお手上げ状態。プロをも悩ませるコレステローラーの初代タイガーは、当日どんな姿を見せるのか？　それまでスイーツは与えないでください！

『戦極』はイライラしないですね（五味隆典）

▼【6月26日(木)　8・24『戦極〜第四陣〜』五味隆典囲み会見】

PRIDE時代には「五味とやれば勝てる」という選手が多くてイラついたという五味だが、全日本レスリング選手権の会場に現われた五味は「『戦極』はイライラしない」と表現。確かに『戦極』の選手は五味に対しては弱火な対戦アピールをするのが特徴。だが、光岡映二は五味に勝ったヨアキム・ハンセンを倒し、北岡悟は現WECウェルター級王者カーロス・コンディット、現DEEPウェルター級王者長谷川秀彦に勝った実績もある。ファンとしては五味が安穏としているリングはちーっともおもしろくない。もっと五味をイライラさせてよ！　WAKUWAKUさせてよ！　感動させてよ！（シッ○ー調）。

平和主義なんでケンカしたことないッス（川尻達也）

▼【6月30日(月)　akasaka FIGHT FESTIVAL】

宇野薫にオラオラ度満点のヤンキーモードで対戦を迫り、その凄みから茨城で相当ビーバップな修羅場をくぐり抜けてきたんじゃないかと、一部で話題を呼んだ川尻。しかしファンとの交流イベントで「いつからケンカが強かったのか？」という質問が飛ぶと、「自分は平和主義なんでケンカはしたことないっスね」と、川尻は謙虚に受け流した。だが「でも、やったら誰にも負けませんけど」と、物騒な言葉をつけ加えて目をギラつかせ、ケンカ上等な姿勢も忘れなかった川尻。……本当は元ヤンでしょ？



（妻・矢沢心は）嫌がってました（笑）（魔裟斗）

▼【7月1日(火)　akasaka FIGHT FESTIVAL】

反逆のカリスマが反逆のツーブロックに!?　そして反逆のとっつぁんボーヤに!?　魔裟斗が練習漬けのストレスから気分転換でヘアスタイルを中学生以来だというツーブロックにイメチェン！　このとっつぁんボーヤチックな風貌に行きつけのコンビニのおじさんも気づかなかったというから、見事な劇的ビフォーアフターぶりだ。しかし、奥様でタレントの矢沢心には「嫌がってました（笑）」と、不評だったとか。並みいる強豪に打ち勝ってきた猛者も女房にゃ弱いのである。てか、これノロケでしょ？



『kamipro』読者、『kamipro Hand』ユーザーが選ぶ

kamipro大賞

2008上半期発表!!

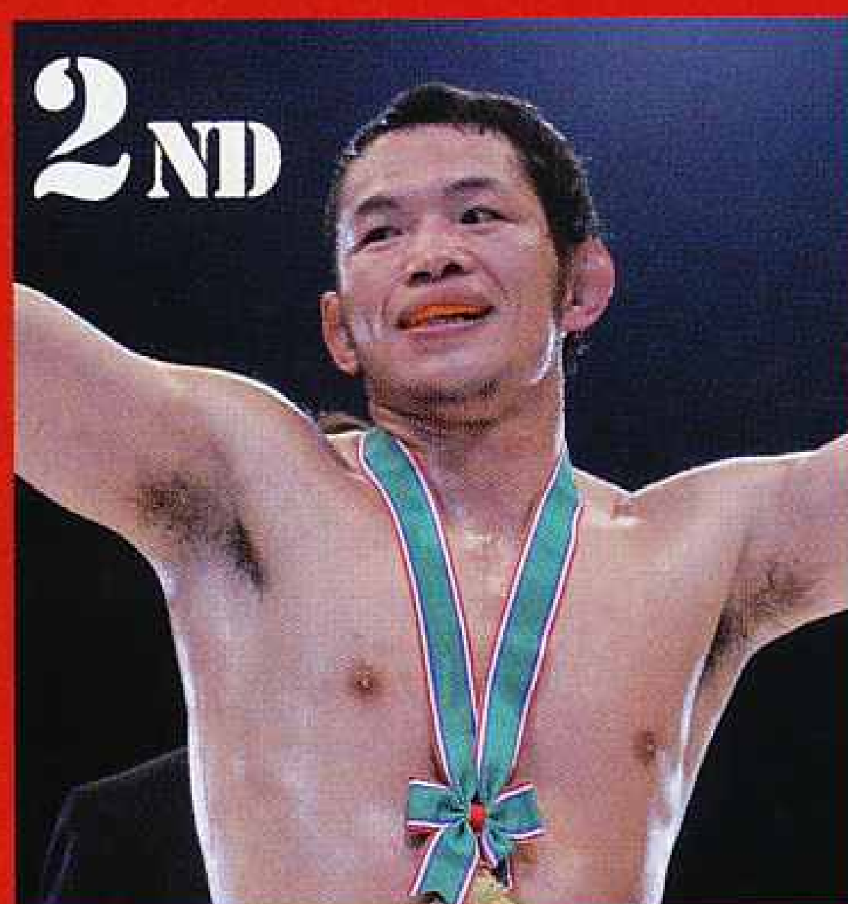
今年も早いもので後半戦に突入！　というわけで、恒例の『kamipro大賞』上半期集計結果を発表します！『kamipro』の読者ハガキと、『kamipro Hand』のアンケート結果を合わせた、今回のランキング。DREAMと『戦極』という格闘技界の2大メジャーイベントが生まれた2008年の上半期。ファンに最も支持された選手、試合、そして興行はなんだったのか？　さっそくいってみよー！

構成／堀江ガンツ

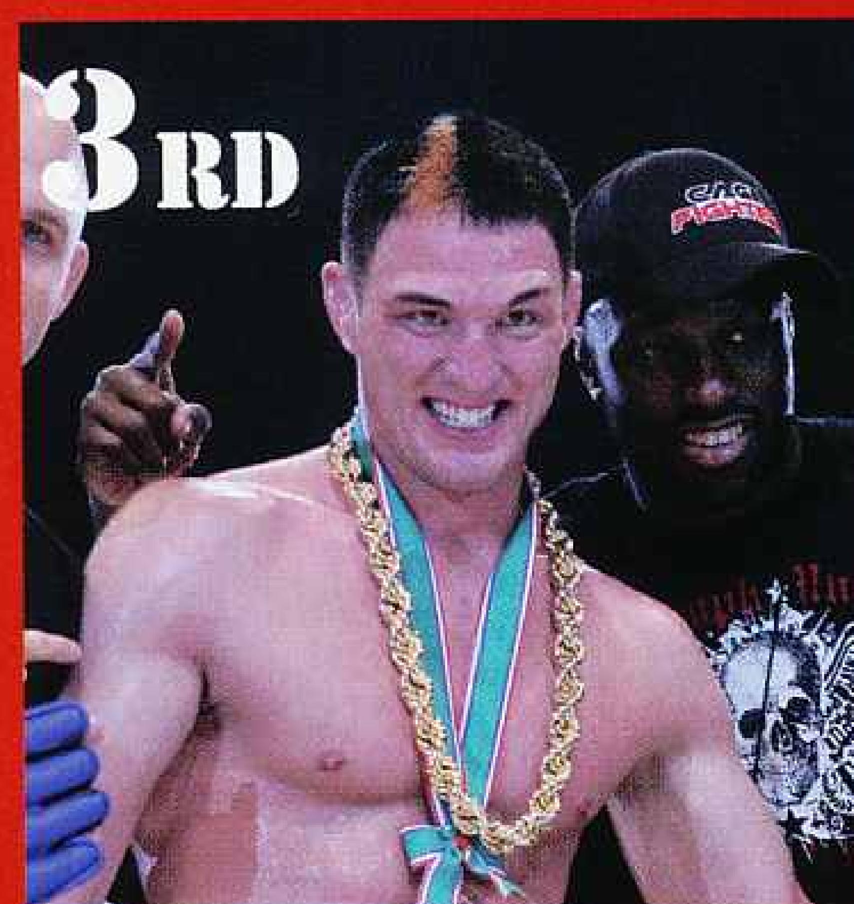


青木真也 291pt

2008年上半期、最もファンの支持を集めたファイターは、ブッチギリで我らがワオ木さん！　三度目の正直で、"KING OF HERO'S" J.Z.カルバンに完全勝利し、まさに新時代のトビラをこじ開けたと言えるだろう。続く2位は『HERO'S』の意地を爆発させた宇野薫！　石田との一戦では、秘めたる感情と魅力が爆発。格闘技界の先駆者、いまが旬です！　3位にはDREAMに突如おバカ旋風を巻き起こしたメイヘム。4位には選手でもないのに、"煽りVアーティスト"佐藤大輔が登場。やはりこの人なしではDREAMは語れません。右肩上がりで盛り上がってきた格闘技界、この流れを下半期にもつなげてほしい！



宇野薫 105pt



ジェイソン・"メイヘム"・ミラー 48pt



佐藤大輔 35pt



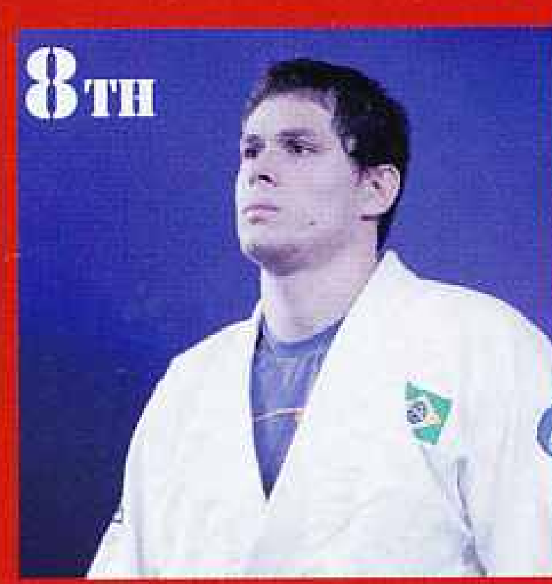
エディ・アルバレス 29pt



ホナウド・ジャカレイ 24pt



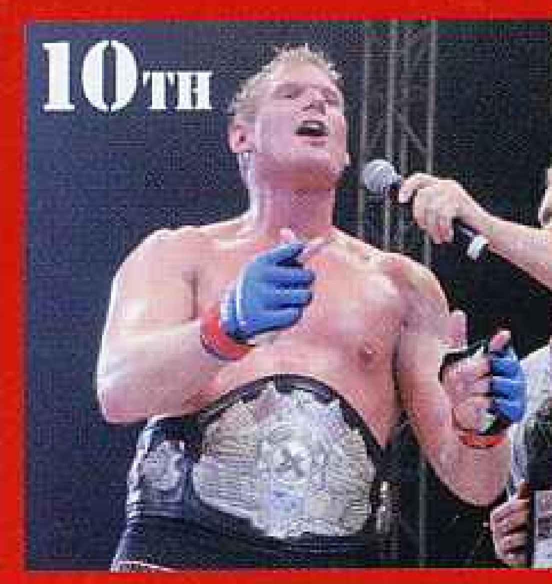
ヴァンダレイ・シウバ 19pt



ホジャー・グレイシー 14pt



インリン様 13pt



ジョシュ・バーネット 10pt

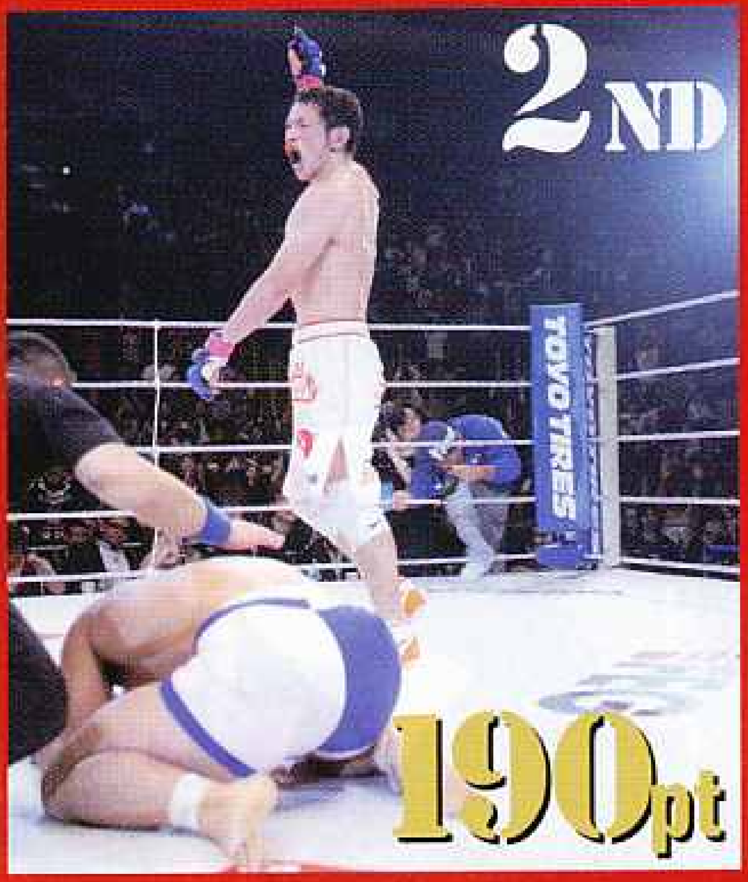


BEST BOUT

エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセン
(5.8『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ)
201pt

これぞDREAM!　PRIDEでも『HERO'S』でもない新しい名勝負、アルバレスvsハンセンが1位を獲得！　今年、初来日したアルバレスがここまで支持されるというのは、ファンが"新しい夢"を待望していた証拠だろう。続く2位は、観たぞ真剣勝負、宇野vs石田。『HERO'S』とPRIDEでそれぞれ培ってきた意地を賭けての闘いは、両者の魂がぶつかり合う刺激的な一戦だった。総合がベスト10のほとんどを占める中、『ハッスル』のインリン様vsボノちゃん、WWEのフレアーvsHBKがランクイン。やはり、"プロレスにしかできない試合"が支持された。これは、今後のプロレスを考える一つの指針となるのではないだろうか。

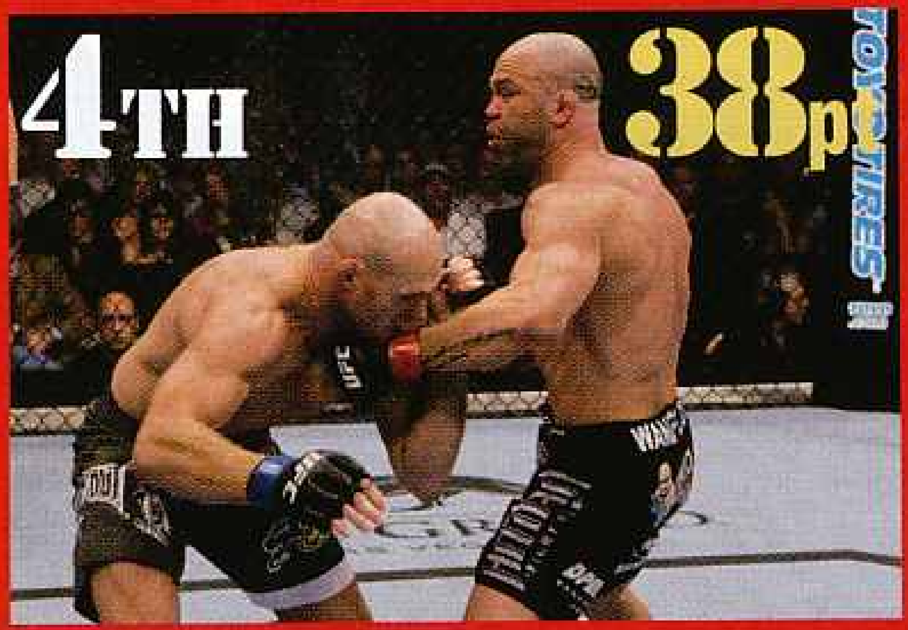
2ND 宇野薫vs石田光洋
(5.8『DREAM.3』さいたまスーパーアリーナ)


190pt

3RD 青木真也vsJ.Z.カルバン
(4.29『DREAM.2』さいたまスーパーアリーナ)


152pt

4TH ヴァンダレイ・シウバvsキース・ジャーディン
(5.24『UFC84』米国ラスベガス・MGMグランドガーデンアリーナ)


38pt

5TH インリン様vsボノちゃん
(5.24『ハッスル・エイド2008』有明コロシアム)


30pt

6TH 田村潔司vs船木誠勝 —— 28pt
(4.29『DREAM.2』さいたまスーパーアリーナ)

7TH 五味隆典vsドゥエイン・ラドウィッグ —— 25pt
(3.5『戦極～第一陣～』国立代々木第一体育館)

8TH ショーン・マイケルズvsリック・フレアー —— 24pt
(3.30『レッスルマニア24』米国フロリダ州・シトラスボウル)

9TH 藤門嘩裟vsHIROYA —— 20pt
(4.9『K-1 WORLD MAX 2008 FINAL16』広島グリーンアリーナ)

10TH エディ・アルバレスvsアンドレ・ジダ —— 12pt
(3.15『DREAM.1』さいたまスーパーアリーナ)

BEST SHOW


325pt

5.8『DREAM.3』
(さいたまスーパーアリーナ)

2ND 6.15『DREAM.4』 67pt
(横浜アリーナ)

3RD 5.24『ハッスル・エイド2008』 55pt
(有明コロシアム)

4TH 4.29『DREAM.2』 38pt
(さいたまスーパーアリーナ)

5TH 3.5『戦極～第一陣～』35pt
(国立代々木第一体育館)

ベスト興行部門はブッチギリで5.8『DREAM.3』が1位！　前人気は決して高くない大会だったが、ハンセンvsアルバレスと宇野vs石田で大爆発！　ファンは燃えられる、エキサイティングな試合に飢えているのだ。DREAMは回を重ねることに内容が向上しているので下半期も楽しみだ。一方、『戦極』は旗揚げ戦が5位にランクイン。大物選手が揃ってるだけに、下半期はファンが望む好カードと好勝負。そして、ファンが望んでいるわけではないが、『戦極』ポーズに期待だ。

WORST FIGHTER



1ST 秋山成勲 102pt

2ND TBS —— 79pt

3RD 川尻達也 —— 50pt

4TH 近藤有己 —— 47pt

5TH 吉田秀彦 —— 32pt

WORST BOUT

1ST 吉田秀彦vsモーリス・スミス —— 135pt
(6.8『戦極～第三陣～』さいたまスーパーアリーナ)

2ND 桜庭和志vsメルヴィン・マヌーフ 112pt
(6.15『DREAM.4』横浜アリーナ)

3RD 川尻達也vsブラックマンバ —— 96pt
(3.15『DREAM.1』さいたまスーパーアリーナ)

4TH 青木真也vsJ.Z.カルバン —— 94pt
(3.15『DREAM.1』さいたまスーパーアリーナ)

5TH 近藤有己vsホジャー・グレイシー 72pt
(5.18『戦極～第二陣～』有明コロシアム)

WORST SHOW

1ST 3.15『DREAM.1』—— 175pt
(さいたまスーパーアリーナ)

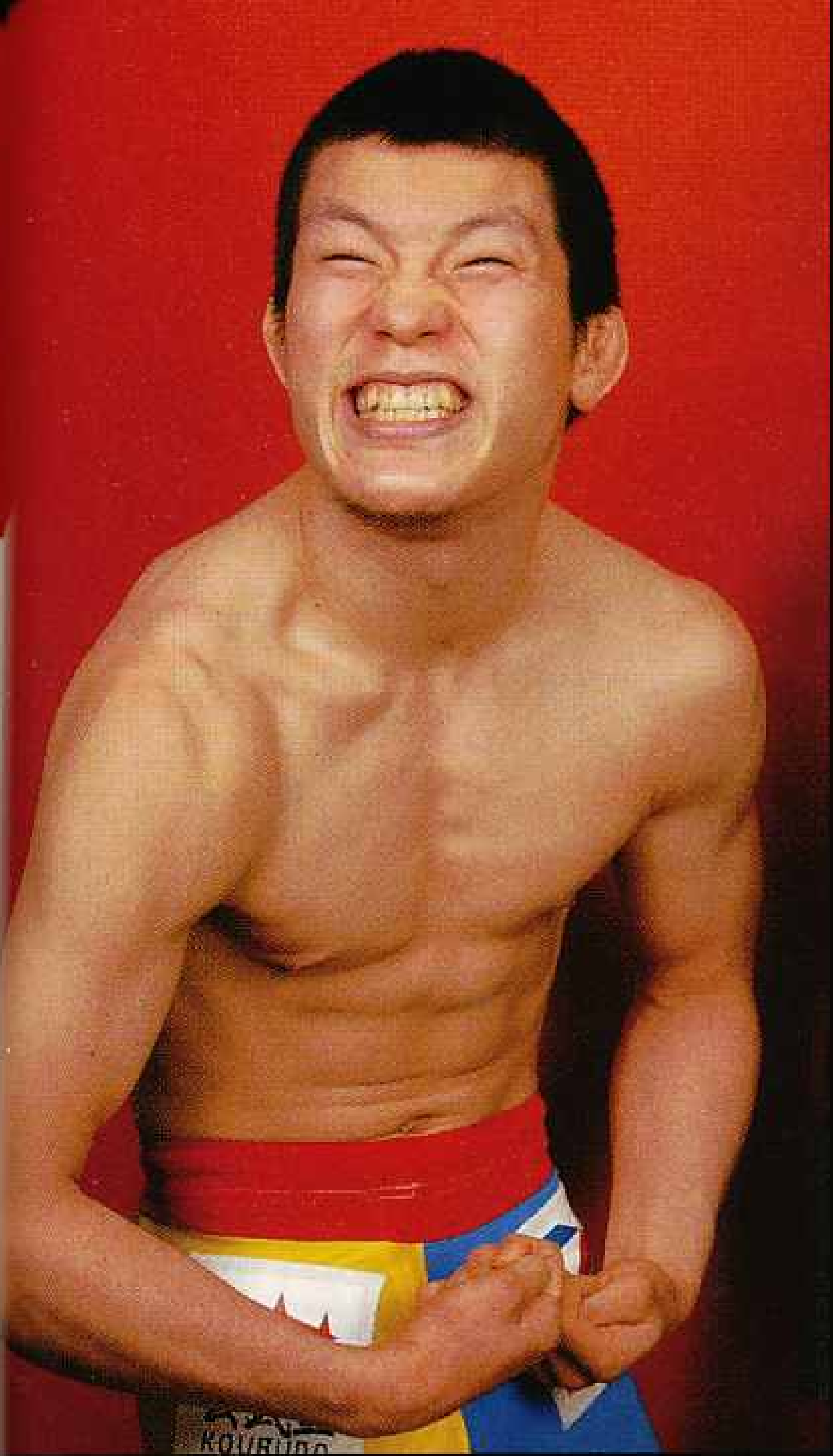
2ND 6.8『戦極～第三陣～』—— 95pt
(さいたまスーパーアリーナ)

3RD 5.18『戦極～第二陣～』—— 91pt
(有明コロシアム)

4TH 6.15『DREAM.4』—— 31pt
(横浜アリーナ)

5TH 5.24『ハッスル・エイド2008』24pt
(有明コロシアム)

このコーナーの常連といえば、我らがビースト、ボブ・サップなのだが、今回はワースト5圏外に。それに代わって登場したのが魔王・秋山。出てきたらブーイングなのに、欠場したらしたでワースト。やはりその存在感はずば抜けている。このワーストは、ファンの期待の裏返し。ここに登場した選手たちは、下半期には一気にMVPになる可能性もおおいに秘めているということなのだ。



問う
ワオ木真也とは誰だ!?
(戦極ナレーション調)

けっこうおもしろいヤツですよ

詳しくは青木真也の新連載 “バカサバイバー”青木真也の 週刊ワオ木真也 でご確認ください!!

本誌読者なら当然、大満足! すべて無料で魅惑のコンテンツが楽しめる!!

ポッドキャスト



“カリスマ司会者”原タコヤキ君presents超人気ポッドキャスト番組『mimipro』。すでにRG、マッスル坂井、笹原DREAM EP、“殺戮ピラニア”長南亮が登場!! ここだけの秘話を大公開!! 必聴です!!

ニュース



毎日の情報もプロレスだけじゃもの足りないし、格闘技だけじゃ満足できないというあなたのために、あらゆる団体の記者会見を取材して最新情報をいち早くお届けしております。こまめにアクセス!!

大会速報



月刊誌である本誌『kamipro』はあまり試合レポートを詳細に掲載することは多くないですが、当サイトでは試合の詳細や試合後のコメントまでガッチリ取材。 試合写真もたっぷり掲載しています!!

最新号情報



「いつ出るんですか?」「誰が表紙ですか?」というお問い合わせが発売日直前になると本誌編集部に殺到します。でも、これからはもう大丈夫。いち早く『kamipro.com』が最新号情報をお伝えします。

レッツ毎日アクセス!!

リアルを証明する本誌オフィシャルサイト

kamipro.com

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

カミプロドットコム

このほかにも思わず見入ってしまう衝撃のフォトニュース、メルマガ配信、Tシャツの新製品情報などkamiproのすべてがここにあります!

kamipro SHOPPING



北岡悟も『戦極！ 戦極!!』世界に広がる戦極ポーズの輪!!



一、十、百、戦極!! 戦極!! Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]
¥3,990(税込)



青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)



KamiproマスクTシャツ[☆]
[S・M・L・XL ホワイト×レッド]¥3,990(税込)



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990(税込)



I編集長"殺し"Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990(税込)



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150(税込)



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M・~~L~~・XL ホワイト]¥3,990(税込)



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990(税込)



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M・~~L~~・XL グレー]¥3,990(税込)



ハッスルGP Tシャツ
[XS・M・L・XL ネイビー／カーキ]¥3,990(税込)



MONSTER°C Tシャツ
[140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)



ボノちゃんTシャツ
[140・XS・M・L・XL ブラック]¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

- 通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
- 全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください)
- 代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

[『kamipro Hand』でご注文の場合]
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

[電話でご注文の場合]
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797
(平日13:00〜19:00)

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

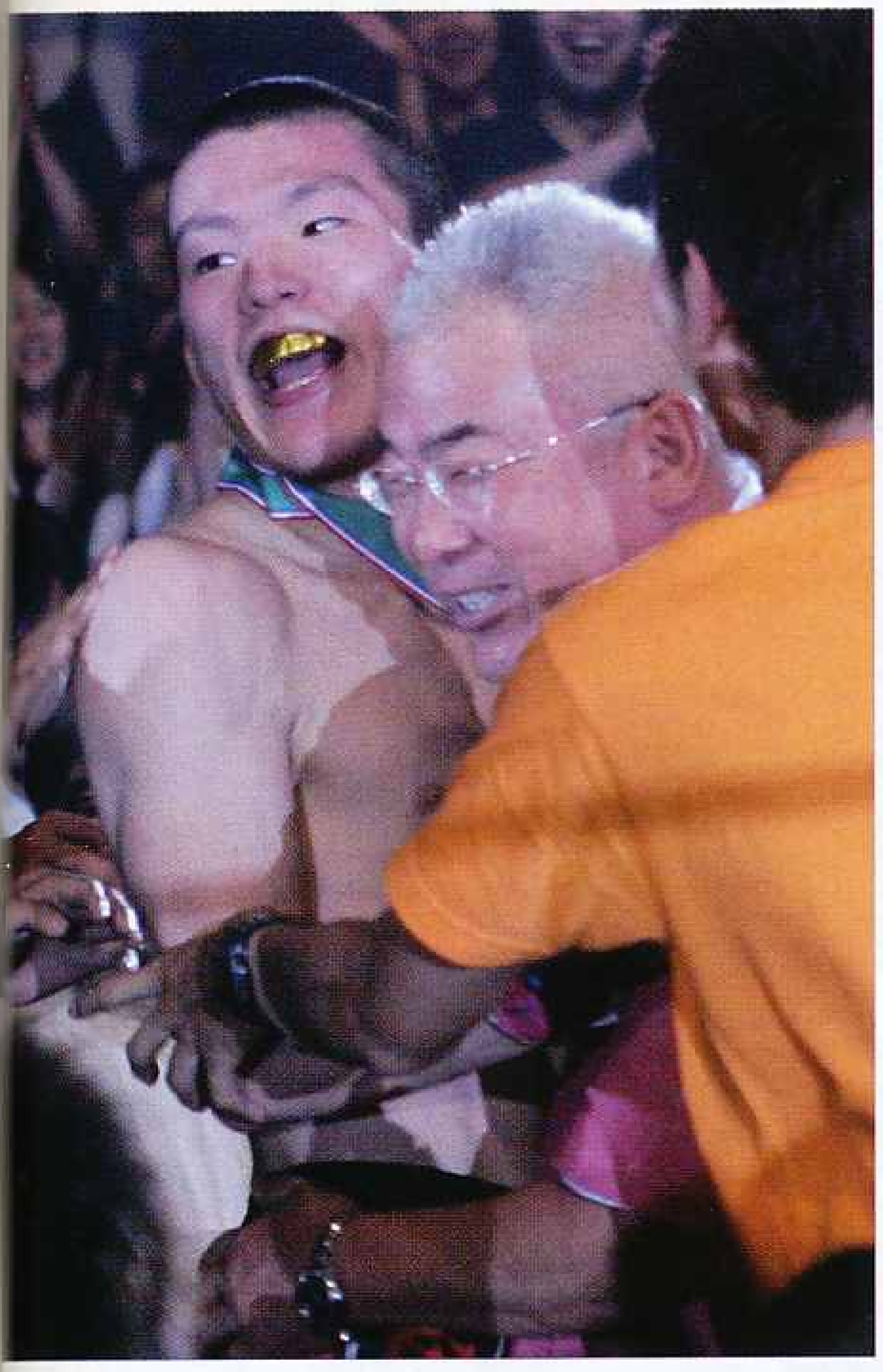
※価格はすべて税込みです

ケータイサイトでセール実施中! いますぐアクセス!!
★非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索
au トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand
[QRコード]



読プレを当てて、オヤジと抱擁しよう!!

夏にピッタリのグッズがズラリ!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2008年8月18日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦08年下半期期待する選手は?⑧08年下半期見たいカードは?

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス『kamipro』編集部「破壊王FOREVER」係まで

※締切は2008年8月15日(金)当日消印有効

kamipro 125 応募券 タノシイハツヨイ!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



2名様

山本"KID"徳郁 KID"bless"Tシャツ

[ホワイト／¥4,725(税込)]

7.21『DREAM.5』のユライアからの刺客、ジェセフ・ベナビデス戦でついに初登場! 初代『HERO'S』ミドル級王者、"神の子"KIDのTシャツをプレゼント。



1名様

青木真也 フェイスタオル

[イエロー／¥2,100(税込)]

7.21『DREAM.5』で行なわれるライト級グランプリ準決勝では"プリンス"宇野薫との対戦が決定している"バカサバイバー"青木真也のアオとキのフェイスタオル。

DREAM



2名様

HAOミニフィギュア ミノワマン

[¥1,680(税込)]

奇抜な入場とファイトスタイルで観客を沸かせ、本誌でも須藤元気との対談や、キン肉マン変態座談会などいろいろな企画で大活躍! ミノワマンのミニフィギュアが到着。



DREAM オフィシャルうちわ

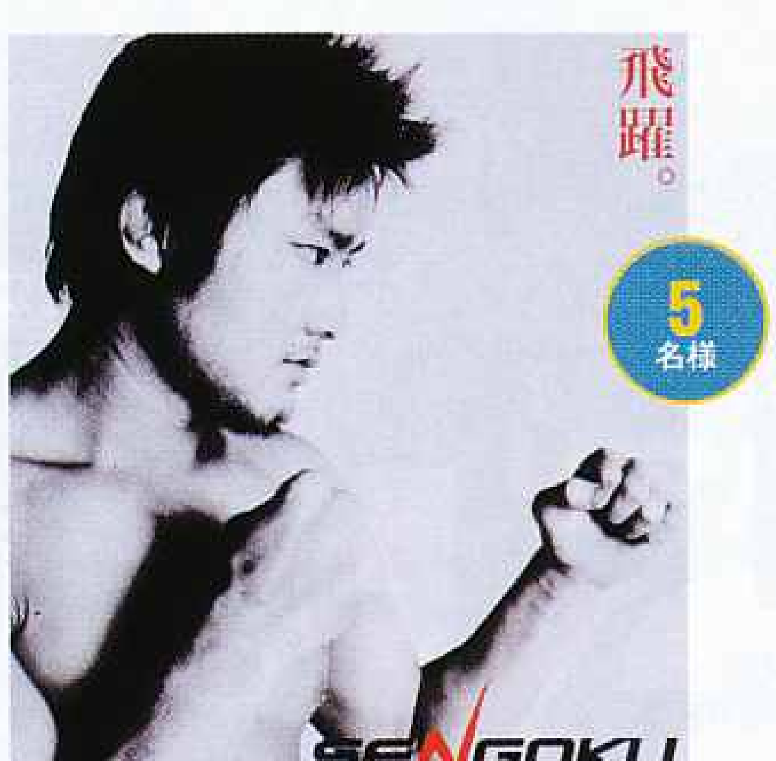
[¥525(税込)]

旗揚げ戦から4ヵ月が経過。名勝負が続出し、新たな強豪も次々と登場! ミドル級＆ライト級両GPも4強が集結し、さらにヒートアップ中のDREAMのうちわを提供。

1名様

DREAM ■ http://www.dreamofficial.com/

SENGOKU



5名様

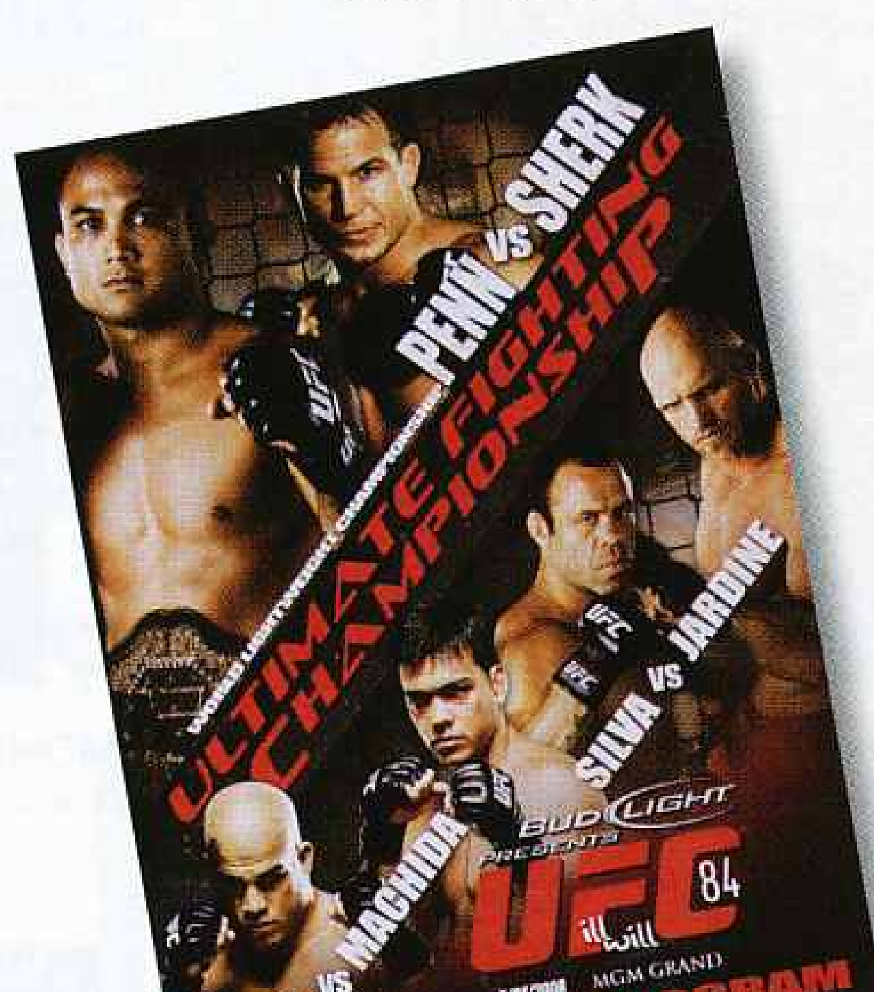
戦極～第四陣～ポスター

[¥525(税込)]

"Road to 五味"をコンセプトにライト級トーナメントの開催も決定! その主役である五味がデカデカと印象的な『戦極～第四陣～』のポスターを5名様に。

戦極 ■ http://www.sengoku-official.com/pc/

UFC



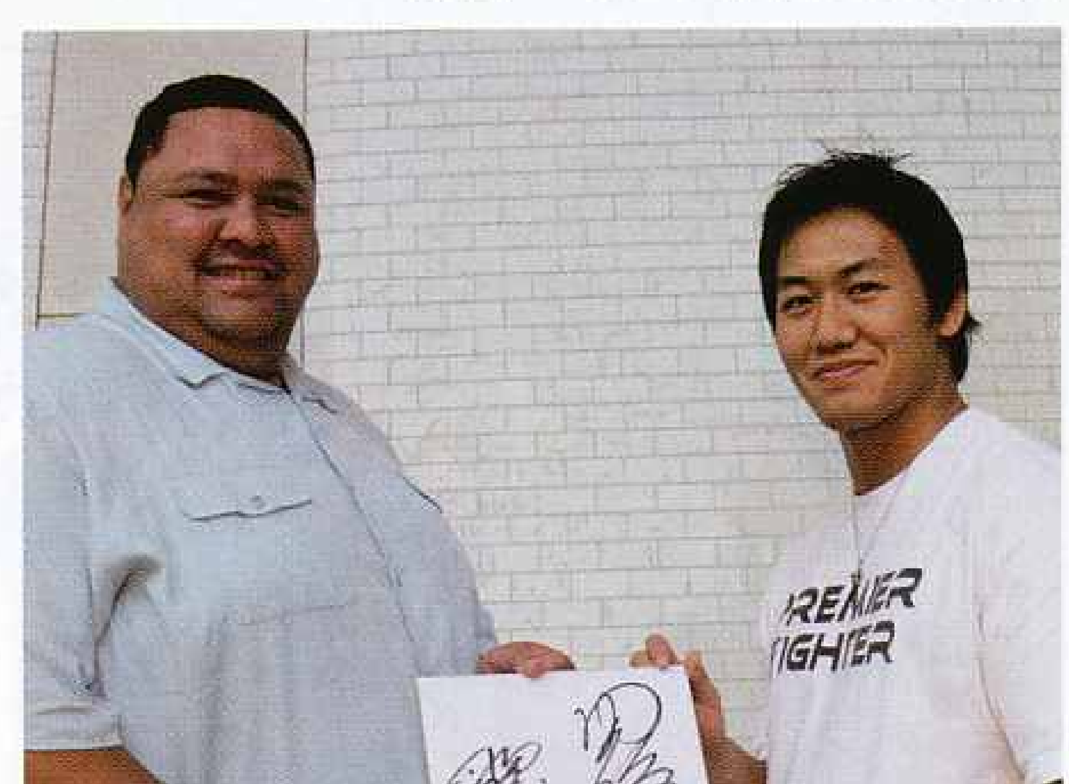
1名様

UFC84パンフレット

ヴァンダレイが復活の劇的勝利!! ソクジュ vs カズにLYOTO vs ティト、B.J.ペン vs シャークと豪華カードが勢揃い! UFC84の大会パンフレット。

UFC ■ http://www.ufc.com/

AKEBONO & OKAMI



2名様

曙＆岡見サイン色紙

今号で実現した、大相撲第64代横綱であり、現在はプロレスで活躍中の曙と、UFCで活躍する"サンダー"岡見勇信との夢の対談を記念して2人のサイン色紙を2名様に。

ONITA



大仁田厚 with KIXX AND CRYミニアルバム
「元気ですか!」

［¥2,415(税込)］

最近何かとプロレス界を騒がせている"邪道"大仁田厚が音楽仲間とパンクバンド結成し、リリースしたDVD付きミニアルバム「元気ですか!」を1名様に提供。

http://ch.players.tv/movie/page/=/kixxandcry/index/

NEW JAPAN



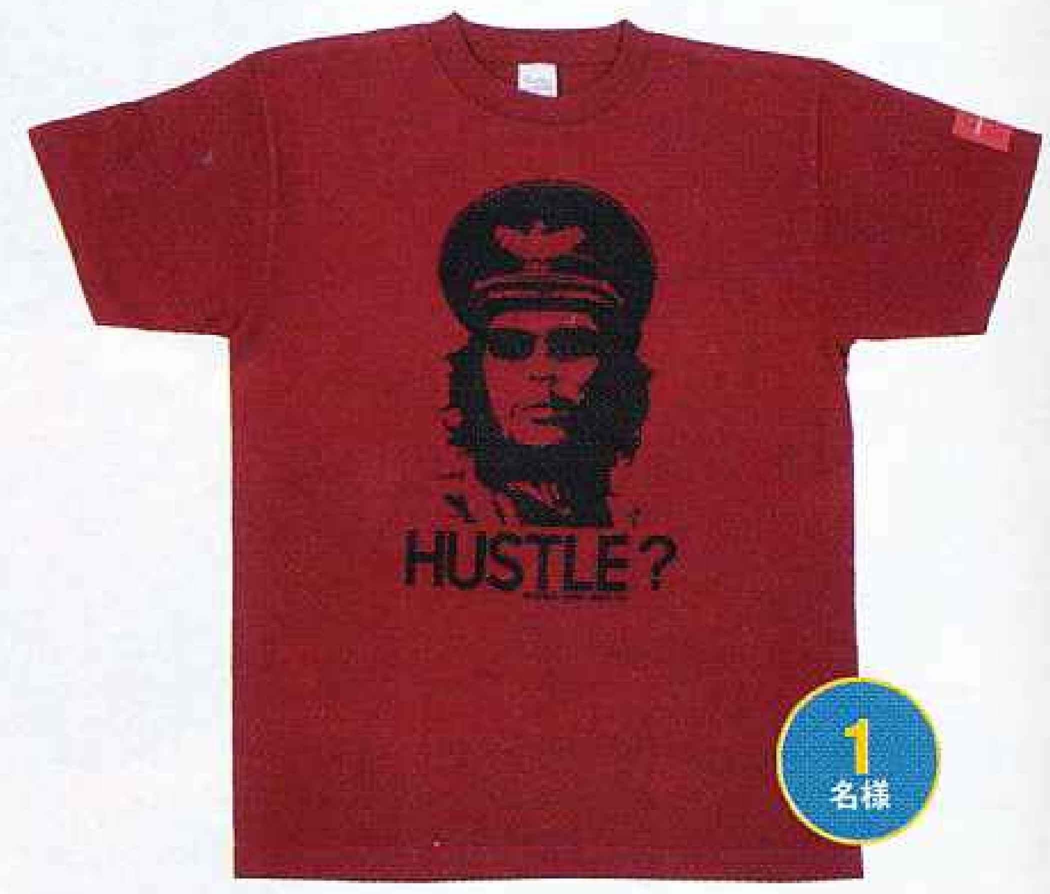
天山「Go To Hell」Tシャツ

［ホワイト／¥3,000(税込)］

今号のサスケとの対談では新日本プロレス学校時代の話で大盛り上がり！「いいことありますよ」の言葉どおり、最近上り調子になってきた天山の新Tシャツ。

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

HUSTLE



髙田総統パロディT-SHIRT
ヴァーガンディ

［ワインレッド／¥3,990(税込)］

革命家でゲリラ指導者でもあるチェ・ゲバラ風の髙田総統パロディTシャツが大人気につき再び登場！　これを着て"ヒマでモテない"生活に革命を起こせ！

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

ART JUNKIE



PERFORM Tシャツ

［ホットピンク／¥3,675(税込)］

痴漢逮捕で"話題の人"となった"女子プロ界のアイドル"風香のグッズがついにアートジャンキーから登場！　風香をイメージするキーワードがふんだんに入ったデザイン！



MEXICO
メッシュキャップ

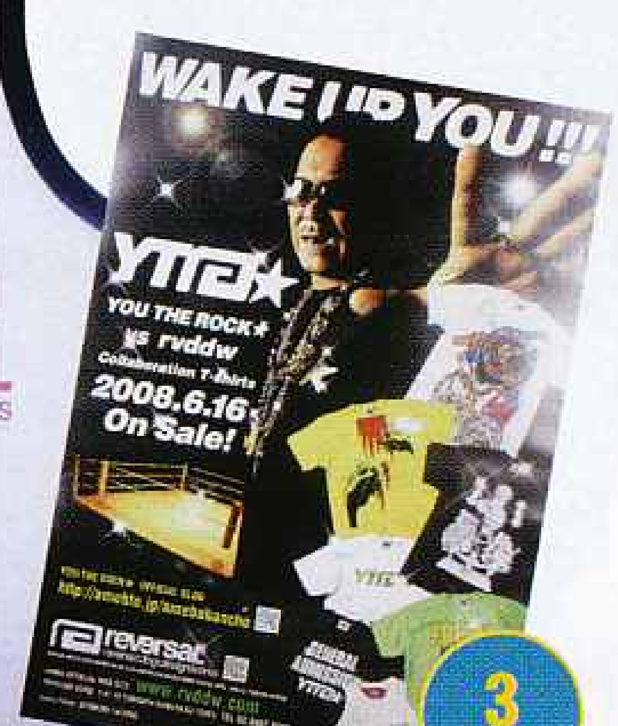
［ブラック／¥2,940(税込)］

同じくART JUNKIEからはルチャリブレとマスクマンの国メキシコの文字がプリントされたメッシュキャップが登場！　街でマスクを被れない人はこの帽子を被るべし!!

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

REVERSAL





BIGMARK
RIB TANK

［ホワイト／¥6,090(税込)］

人気格闘技ウェアブランドreversalからは、これからの季節に最適のロゴ入りタンクトップをプレゼント。そのほか続々と登場する夏の新商品情報はHPをチェック!!

YOU THE ROCK☆
vs reversal
コラボレーション
Tシャツポスター

日本のHIP-HOP界をリードし、CMナレーションなどでも活躍する、YOU THE ROCKとファイトブランドreversalのコラボレーションTシャツのポスターを3名様に提供。

reversal■http://www.rvddw.com/

PANCRASE



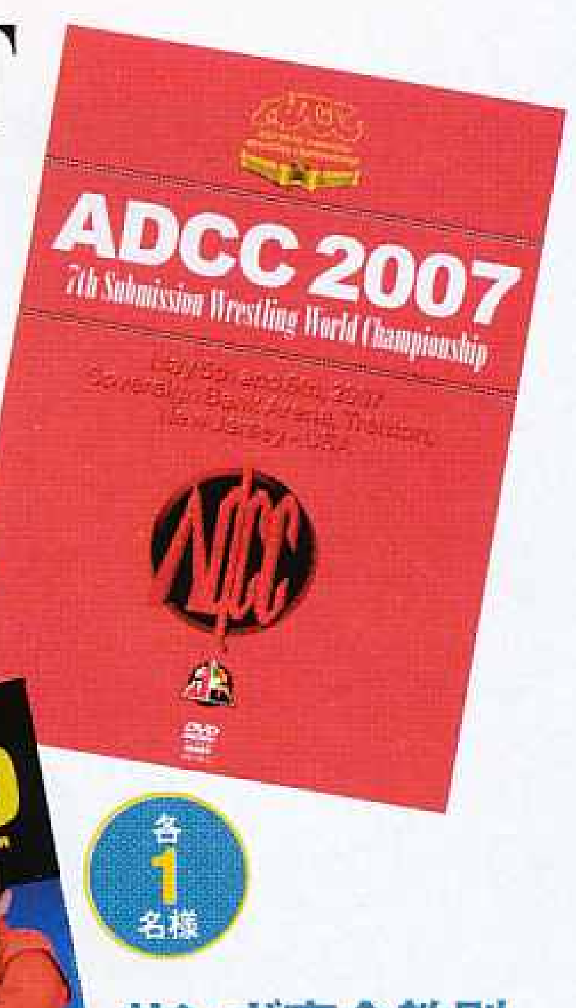
鈴木みのるバスタオル

［ブラック／¥5,250(税込)］

今年でデビュー20周年を迎え、6.17には記念興行も行なった鈴木みのるが入場時に頭に被っているおなじみのタオル。金の刺繍のサインが入った逸品！

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

QUEST



ADCC 2007
The 7th World
Championship

［716分／¥13,440(税込)］

2年に一度開催され、世界中の一流柔術家、レスラー、総合格闘家が参戦し、組技世界一を決めるADCC（アブダビコンバット）の第7回大会を収録したDVD。



サンボ完全教則
DVD-BOX

［346分／¥15,750(税込)］

"皇帝"ヒョードルのバックボーンでもあり、日本の柔術を源流とし、さまざまな民族格闘技のエッセンスを加え、ロシアの国技として発展したサンボの教則DVD。

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOKS



愛のエロテロリズム

［インリン・オブ・ジョイトイ(著)／アメーバブックス新社／¥1,365(税込)］

5.24『ハッスル・エイド』で涙の引退試合を行なったインリン様ことインリン・オブ・ジョイトイのエッセイが到着。インリンの私生活や価値観が丸わかり！

アメーバブックス新社■http://www.amebabooks.co.jp/

IZAKAYA GOTCH



「ごっち」15周年ラグランTシャツ

桜井"マッハ"速人などの格闘家やプロレスラー御用達の高円寺南口にある居酒屋「ごっち」から15周年記念のTシャツが登場！　情報はHPをチェック!!

居酒屋ごっち■http://sky.ap.teacup.com/tokon/

kamipro 紙のプロレス

No.125
2008年7月30日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（楽しい夏合宿準備のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登"読者ページ"ジャクソン
上杉パパ〜ン

編集次長（茫然自失）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

マスコットキャラ
入江もんすけ（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"用紙価格ほぼ確定"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

編集チアマダム
廣橋久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-6690-0647まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

出るか!? ジョシュのアフリクションポーズ!



NEXT ISSUE

7.21『DREAM.5』速報&
8.24『戦極〜第四陣〜』展望!!
kamipro Special 2008 AUGUSTは
7月31日（木）発売予定!!

8.24『戦極〜第四陣〜』直前大特集!
7.21『DREAM.5』徹底詳報!!
No.126は8月20日（水）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れるぞ! シャキーン!!


最高峰へと続く道。「FIGHTING TV サムライ」
PROFESSIONAL SHOOTO JAPAN
DEEP INTERNATIONAL 2001
修斗&DEEPをレギュラー中継！
Sアリーナ 格闘ジャングル2
●ON AIR…毎週(土)21:00～22:00、他
戦極、DREAMの始動により再び活気づく格闘技界の最新情報を毎週60分放送！
K-1
K-1 BATTLE SCRAMBLE!
●ON AIR…毎週(日)12:00～12:30、他
ヘビー級中心のWGP、中量級のMAXなど立ち技最高峰のステージをインサイドレポート！
Line-Up of AUGUST
8月の格闘技ラインナップ！
MMAのW杯! 日本代表×オランダ、アメリカ×フランス!
「DEEP M-1 チャレンジ5 in Tokyo」7.17後楽園ホール
●ON AIR…8/4(月)22:00～24:00、他
「DEEP 36 IMPACT」7.27 Zepp Osaka
●ON AIR…8/15(金)22:00～24:00、他
「CAGE FORCE EX-eastern bound-」7.27ディファ有明
●ON AIR…8/16(土)22:00～24:00、他
ルミナ、マッハ、マモルが"打・投・極"そして"魂(spirit)"を伝承!
プロフェッショナル修斗「修斗伝承1」5.3JCBホール
●ON AIR…8/17(日)22:00～24:00、他
プロフェッショナル修斗「修斗伝承2」7.18後楽園ホール
●ON AIR…8/20(水)22:00～24:00、他
3夜連続! 壱、拾、百…、千! 弐千!! 参戦極!!!
「戦極～第二陣～」5.18有明コロシアム
●ON AIR…8/22(金)22:00～25:00、他
「戦極～第三陣～」6.8 さいたまスーパーアリーナ
●ON AIR…8/23(土)22:00～25:00、他
パーフェクト チョイス162
「戦極～第四陣～」8.24さいたまスーパーアリーナ
●ON AIR…8/24(日)16:00～ PPV完全生中継
視聴料金:2,625円/番組　※再放送あり
9月以降の放送予定
「GLADIATOR」8.16岡山・桃太郎アリーナ
「DEEP 37 IMPACT」8.17後楽園ホール
パンクラス「2008 SHINING TOUR」8.27後楽園ホール
プロフェッショナル修斗 9.28後楽園ホール
※放送内容は予告無く変更する場合がございます。※この他にも、様々な番組を放送しています。
戦極 SENGOKU
やっぱり、スカパー！
プロ格セットなら、4チャンネルで2,990円/月
※商品コード:046
Ch.300 J Sports ESPN(998円/月)
Ch.301 FIGHTING TV サムライ ※右記
Ch.302 GAORA(945円/月)
Ch.309 日テレG+(1,050円/月) ※Ch.745と2chで
お申し込み・お問い合わせは、今すぐ！
スカパー！加入者の方は、TEL.0120-409-340(年中無休9:00～24:00)
スカパー！未加入の方は、TEL.0570-039-888(年中無休10:00～20:00)
※スカパー！及びe2 by スカパー！をお申し込みの際にはお電話の前に有料放送役務契約約款 http://www.skyperfectv.co.jp/top/legal/yakkan/の内容をご確認下さい。
視聴料金：1,890円/月
サムライ FIGHTING TV
www.samurai-tv.co.jp
©FEG Inc. ©SUSTAIN ©WVR